

令和4年度

決算主要施策の成果報告書

和歌山県紀の川市

地方自治法（昭和22年法律第67号）第233条第5項の規定により、令和4年度紀の川市一般会計及び特別会計決算に係る主要施策の成果等について、次のとおり報告します。

令和5年8月30日

紀の川市長 岸 本 健

目 次

1.	令和4年度会計別決算収支の状況	—————	1
2.	令和4年度会計別歳入歳出決算の状況	—————	3
3.	令和4年度普通会計の状況	—————	5
	1) 決算収支の状況	5
	2) 歳入の状況	7
	3) 歳出の状況	9
4.	職員給与費の状況	—————	13
5.	地方債の状況	—————	16
	1) 地方債現在高の状況	16
	2) 地方債年度別償還予定の状況	17
6.	基金の状況	—————	19
7.	一般会計から他会計への繰出金等の状況	—————	20
8.	その他資料	—————	21
	1) 人口推移	21
	2) 学校別児童生徒数	21
	3) 保育施設別児童数	22
	4) 放課後児童クラブ別児童数	22
9.	一般会計主要施策の成果	—————	23
	[歳入] 市税等収納実績に関する科目	23
	[歳出] 1 款 議会費	30
	2 款 総務費	32
	3 款 民生費	121
	4 款 衛生費	179
	5 款 労働費	213
	6 款 農林業費	215
	7 款 商工費	251
	8 款 土木費	268
	9 款 消防費	302
	10 款 教育費	312
10.	特別会計主要施策の成果	—————	364
	国民健康保険事業勘定特別会計	364
	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	369
	後期高齢者医療特別会計	371
	介護保険事業勘定特別会計	375
	財産区特別会計	379

1. 令和4年度会計別決算収支の状況

区 分	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A)－(B) (C)	翌年度繰越 財源 (D)	実質収支 (C)－(D) (E)
一般会計	33,440,872,616	31,900,651,078	1,540,221,538	495,443,000	1,044,778,538
土地取得事業 特別会計	172,011	172,011			
国民健康保険事業 勘定特別会計	7,691,438,863	7,642,496,071	48,942,792		48,942,792
国民健康保険直営診 療施設勘定特別会計	31,535,954	31,535,954			
後期高齢者医療 特別会計	1,794,534,564	1,790,933,064	3,601,500		3,601,500
介護保険事業勘定 特別会計	7,235,193,818	7,040,579,487	194,614,331		194,614,331
財産区特別会計	13,564,638	7,865,977	5,698,661		5,698,661

(単位：円)

前年度実質収支 (F)	単年度収支 (E)-(F) (G)	積立金積立額 (H)	繰上償還金 (I)	積立金取崩額 (J)	実質単年度収支 (G)+(H)+(I)-(J)
1,115,831,707	△ 71,053,169	557,563,000			486,509,831
50,178,446	△ 1,235,654	241,000		210,066,000	△ 211,060,654
2,602,100	999,400				999,400
199,389,783	△ 4,775,452	125,467,000			120,691,548
5,548,447	150,214	2,186,000		416,000	1,920,214

備考：1) 普通会計に属さない特別会計の積立金積立額・取崩額は、全ての基金を考慮しています。

備考：2) 住宅新築資金等貸付事業特別会計の廃止に伴い、令和4年度決算は一般会計に計上しています。

備考：3) 各財産区特別会計(11会計)の廃止に伴い、令和4年度決算は財産区特別会計に計上しています。

2. 令和4年度会計別歳入歳出決算の状況

区 分	令 和 4 年 度				
	予算現額(A)	歳入決算額(B)	収入率(B)÷(A)	歳出決算額(C)	執行率(C)÷(A)
一般会計	34,227,220,000	33,440,872,616	97.7	31,900,651,078	93.2
住宅新築資金等 貸付事業特別会計					
土地取得事業 特別会計	200,000	172,011	86.0	172,011	86.0
国民健康保険事業 勘定特別会計	8,290,059,000	7,691,438,863	92.8	7,642,496,071	92.2
国民健康保険直営診 療施設勘定特別会計	33,319,000	31,535,954	94.6	31,535,954	94.6
後期高齢者医療 特別会計	1,823,375,000	1,794,534,564	98.4	1,790,933,064	98.2
介護保険事業勘定 特別会計	7,220,349,000	7,235,193,818	100.2	7,040,579,487	97.5
財産区特別会計	16,874,000	13,564,638	80.4	7,865,977	46.6
池田財産区特別会計					
田中財産区特別会計					
長田竜門財産区 特別会計					
竜門財産区特別会計					
南北志野財産区 特別会計					
飯盛財産区特別会計					
静川財産区特別会計					
最上、神田、市場、元 財産区特別会計					
調月財産区特別会計					
丸栖財産区特別会計					
平池財産区特別会計					

(単位：円、%)

令和3年度		増減比較			
歳入決算額(D)	歳出決算額(E)	歳入増減額(B)-(D)	歳入増減率	歳出増減額(C)-(E)	歳出増減率
32,983,649,146	31,320,432,439	457,223,470	1.4	580,218,639	1.9
20,994,238	20,994,238	△ 20,994,238	皆減	△ 20,994,238	皆減
277,853	277,853	△ 105,842	△ 38.1	△ 105,842	△ 38.1
7,853,000,796	7,802,822,350	△ 161,561,933	△ 2.1	△ 160,326,279	△ 2.1
24,997,946	24,997,946	6,538,008	26.2	6,538,008	26.2
1,784,497,299	1,781,895,199	10,037,265	0.6	9,037,865	0.5
7,255,831,796	7,056,442,013	△ 20,637,978	△ 0.3	△ 15,862,526	△ 0.2
		13,564,638	皆増	7,865,977	皆増
5,845,884	3,386,464	△ 5,845,884	皆減	△ 3,386,464	皆減
3,550,284	2,665,788	△ 3,550,284	皆減	△ 2,665,788	皆減
797,943	709,756	△ 797,943	皆減	△ 709,756	皆減
83,224	65,216	△ 83,224	皆減	△ 65,216	皆減
288,134	41,333	△ 288,134	皆減	△ 41,333	皆減
196,237	170,014	△ 196,237	皆減	△ 170,014	皆減
369,439	146,191	△ 369,439	皆減	△ 146,191	皆減
915,448	250,272	△ 915,448	皆減	△ 250,272	皆減
409,527	395,576	△ 409,527	皆減	△ 395,576	皆減
928,428	470,942	△ 928,428	皆減	△ 470,942	皆減
1,339,065	873,614	△ 1,339,065	皆減	△ 873,614	皆減

備考：1) 住宅新築資金等貸付事業特別会計の廃止に伴い、令和4年度決算は一般会計に計上しています。

備考：2) 各財産区特別会計（11会計）の廃止に伴い、令和4年度決算は財産区特別会計に計上しています。

3. 令和4年度普通会計の状況（地方財政状況調査の速報値）

1) 決算収支の状況

区 分	歳入総額 (A)	歳出総額 (B)	歳入歳出差引額 (A)-(B) (C)	翌年度繰越 財源 (D)	実質収支 (C)-(D) (E)
令和4年度	33,433,239	31,893,017	1,540,222	495,443	1,044,779
令和3年度	32,986,441	31,323,224	1,663,217	547,385	1,115,832

◇ 普通会計決算における純計決算額の算定明細

	決算額	歳 入	
		左のうち相互重複	
		相手会計名	金額
一 般 会 計	33,433,067		
計	ア 33,433,067		イ
普通会計 を構成する 特別会計		土地取得事業特別会計 172	
計	オ 172		カ
普 通 会 計	(ア-イ+オ-カ) 33,433,239		

備考：1) 後期高齢者医療において、一般会計で処理した一部分が、「地方財政状況調査」の作成要項（取り扱い）と異なるため、歳入決算額および歳出決算額が実質数値と異なっています。

◇ 主な財政分析指標（単位：％）

区 分		令和4年度	令和3年度
実質収支比率		5.8	6.0
経常収支比率		(93.8)	(91.2)
うち	人件費	(24.8)	(24.0)
	物件費	(13.7)	(10.9)
	扶助費	(9.7)	(9.4)
	補助費等	(16.3)	(16.1)
	公債費	(16.1)	(18.0)
財政力指数		0.41	0.40

備考：2) 実質収支比率の算定は、臨時財政対策債発行可能額を含んでいます。

3) 経常収支比率の（ ）は、臨時財政対策債を経常一般財源等から除いた比率です。

4) 標準財政規模の算出は、臨時財政対策債発行可能額を含んでいます。

(単位：千円)

単年度収支 (F)	財政調整基金 積立額 (G)	繰上償還金 (H)	財政調整基金 取崩額 (I)	実質単年度収支 (F)+(G)+(H)-(I)
△ 71,053	557,563			486,510
198,875	9,069		113,756	94,188

(単位：千円)

歳 出		左のうち相互重複	
決 算 額	相手会計名		金額
	31,892,845		
ウ		エ	
31,892,845			
172			
キ		ク	
172			
(ウ-エ+キ-ク)			
31,893,017			

◇ 将来にわたる財政負担

(単位：千円、%)

区 分		令和4年度	令和3年度	増減率
地方債現在高 (A)		23,797,102	24,298,772	△ 2.1
債務負担行為の 翌年度以降支出 予定額 (B)		2,468,513	2,203,330	12.0
積立金現在高 (C)		13,933,216	12,825,089	8.6
うち	財政調整基金	6,122,137	5,564,574	10.0
	減債基金	2,762,126	2,502,763	10.4
	その他目的基金	5,048,953	4,757,752	6.1
(A)+(B)-(C) (D)		12,332,399	13,677,013	△ 9.8
標準財政規模 (E)		17,892,894	18,651,661	△ 4.1
対 標 準 財 政 規 模	((A)+(B))/(E)	1.5	1.4	
	(C)/(E)	0.8	0.7	
	(D)/(E)	0.7	0.7	

2) 歳入の状況

区 分	令和4年度						
	決算額 (A)	うち臨時的なもの(B)		差引経常的 なもの (A)-(B)	左の内訳		決算額 構成比 (%)
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源	
1. 地方税	6,944,372		347,717	6,596,655		6,596,655	20.8
2. 地方譲与税	291,326			291,326		291,326	0.9
3. 利子割交付金	3,599			3,599		3,599	0.0
4. 配当割交付金	51,402			51,402		51,402	0.1
5. 株式等譲渡所得割交付金	36,670			36,670		36,670	0.1
6. 地方消費税交付金	1,370,948			1,370,948		1,370,948	4.1
7. ゴルフ場利用税交付金	26,563			26,563		26,563	0.1
8. 自動車税環境性能割交付金	30,131			30,131		30,131	0.1
9. 法人事業税交付金	78,426			78,426		78,426	0.2
10. 地方特例交付金等	62,377			62,377		62,377	0.2
11. 地方交付税	10,325,169		1,008,485	9,316,684		9,316,684	30.9
12. 交通安全対策特別交付金	4,362			4,362		4,362	0.0
13. 分担金及び負担金	172,021	24,645		147,376	147,376		0.5
14. 使用料	90,276		4,293	85,983	76,952	9,031	0.3
15. 手数料	149,968			149,968	149,968		0.4
16. 国庫支出金	5,168,819	1,487,657	744,723	2,936,439	2,936,439		15.5
17. 県支出金	2,177,397	445,072	11,548	1,720,777	1,720,777		6.5
18. 財産収入	128,397	15,700	79,177	33,520	13,859	19,661	0.4
19. 寄附金	1,393,036		1,393,036				4.2
20. 繰入金	620,569	208,485	412,084				1.8
21. 繰越金	1,663,217	454,271	1,208,946				5.0
22. 諸収入	326,194	12,077	133,114	181,003	105,658	75,345	1.0
内訳	収益事業収入						
	貸付金元利収入	5,975		5,975			0.0
	その他	320,219	12,077	127,139	181,003	105,658	75,345
23. 地方債	2,318,000	2,107,900	210,100				6.9
うち	県貸付金						
	減収補填債特例分						
	臨時財政対策債	210,100		210,100			0.6
歳入合計	33,433,239	4,755,807	5,553,223	23,124,209	5,151,029	17,973,180	100.0
歳入構成比 (%)	100.0	14.2	16.6	69.2	15.4	53.8	

(R3→R4、増減〔＋：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

令和3年度			増減率 (A)-(C) (C) (%)	主な増減内容
決算額 (C)	左のうち 経常一般財源	決算額 構成比 (%)		
6,709,979	6,373,049	20.3	3.5	固定資産税(家屋、現年分)の増 1,283,589→1,367,624 +84,035 固定資産税(償却資産、現年分)の増 702,026→785,862 +83,836
288,318	288,318	0.9	1.0	森林環境譲与税の増 17,335→23,524 +6,189 地方揮発油譲与税の減 70,218→67,065 △3,153
7,247	7,247	0.0	△50.3	利子課税額の減少による減
58,093	58,093	0.2	△11.5	配当課税額の減少による減
64,753	64,753	0.2	△43.4	株式等譲渡所得課税額の減少による減
1,347,680	1,347,680	4.1	1.7	消費税・地方消費税額の増加による増
28,587	28,587	0.1	△7.1	ゴルフ場利用税収入の減少による減
22,481	22,481	0.1	34.0	自動車税環境性能割の増加による増
64,550	64,550	0.2	21.5	法人事業税の増加による増
144,831	138,845	0.4	△56.9	新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金の減 86,741→5,912 △80,829
10,943,301	9,956,230	33.2	△5.6	普通交付税の減 9,956,230→9,316,684 △639,546 特別交付税の増 987,071→1,008,485 +21,414
4,489	4,489	0.0	△2.8	交通反則金収入の減少による減
397,557		1.2	△56.7	学校給食費の減 222,279→23,678 △198,601 県営農業競争力強化基盤整備事業分担金の減 23,973→9,223 △14,750
94,102	9,337	0.3	△4.1	保育所保育料の減 25,654→21,170 △4,484 市民体育館使用料の減 2,391→0 △2,391
151,492		0.5	△1.0	ごみ処理手数料の減 80,917→79,073 △1,844 住民基本台帳手数料の減 6,050→5,216 △834
5,830,305		17.7	△11.3	子育て世帯等臨時特別支援事業補助金の減 834,032→1,803 △832,229 住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業補助金の減 518,500→197,800 △320,700
2,154,635		6.5	1.1	防災重点農業用ため池緊急整備事業補助金の増 84,000→140,563 +56,563 参議院議員通常選挙事務委託金の増 0→33,845 +33,845 地籍調査事業負担金の減 150,661→32,241 △118,420
63,315	18,578	0.2	102.8	土地建物売払収入の増 9,597→74,284 +64,687 財政調整基金有価証券利子の増 6,362→9,764 +3,402
772,972		2.3	80.2	ふるさとまちづくり寄附金の増 772,244→1,392,120 +619,876
766,409		2.3	△19.0	財政調整基金繰入金の減 113,756→0 △113,756 地域振興基金繰入金の減 170,000→130,000 △40,000
1,122,259		3.4	48.2	前年度繰越金の増
317,886	66,310	1.0	2.6	
14,474		0.0	△58.7	住宅新築資金元利収入の減 11,847→4,621 △7,226
303,412	66,310	1.0	5.5	北勢田工業団地専用排水管移設補償金の増 13,270→36,806 +23,536 消防団員退職報償金の増 13,089→25,412 +12,323
1,631,200		4.9	42.1	小学校施設長寿命化事業債の増 0→225,300 +225,300 市道等改良事業債の増 25,000→190,400 +165,400 市道等維持修繕事業債の増 22,400→150,600 +128,200
				臨時財政対策債の増 0→210,100 +210,100
32,986,441	18,448,547	100.0	1.4	
100.0	55.9			

3) 歳出の状況

◇ 目的別

区 分	令 和 4 年 度					令 和 3 年 度		
	決 算 額 (A)	左 の 内 訳		一般財源の うち投資的 経費充当額	決算額 構成比 (%)	決 算 額 (B)	左のうち 一般財源	決算額 構成比 (%)
		特定財源	一般財源					
1. 議 会 費	213,921		213,921		0.7	224,732	224,732	0.7
2. 総 務 費	5,393,312	603,951	4,789,361	42,905	16.9	4,600,043	3,925,863	14.7
3. 民 生 費	10,659,777	5,273,257	5,386,520	4,660	33.4	11,193,307	5,265,793	35.7
4. 衛 生 費	3,295,360	804,944	2,490,416	43,760	10.3	3,433,158	2,364,356	11.0
5. 労 働 費	1,096		1,096		0.0	231	231	0.0
6. 農林業費	1,099,137	604,894	494,243	114,048	3.5	1,266,198	511,998	4.0
7. 商 工 費	1,302,780	385,108	917,672	45,731	4.1	991,085	815,491	3.2
8. 土 木 費	2,485,174	974,462	1,510,712	204,255	7.8	2,260,580	1,545,090	7.2
9. 消 防 費	1,186,438	138,411	1,048,027	5,333	3.7	1,137,635	997,664	3.6
10. 教 育 費	3,346,746	1,106,739	2,240,007	159,339	10.5	2,835,435	1,954,111	9.1
11. 災害復旧費						35,381	5,952	0.1
12. 公 債 費	2,909,276	15,070	2,894,206		9.1	3,345,439	3,329,189	10.7
13. 諸支出金								
14. 前年度繰上充用金								
歳 出 合 計	31,893,017	9,906,836	21,986,181	620,031	100.0	31,323,224	20,940,470	100.0

(R3→R4、増減〔+：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

増減率 (A)-(B) (B) (%)	主な増減内容
△ 4.8	議会運営事業費の減 173,223→165,494 △7,729 議会秘書事業費の増 2,286→2,413 +127
17.2	財政調整基金積立金の増 9,069→557,563 +548,494 ふるさとまちづくり寄附金事業費の増 375,142→610,224 +235,082 固定資産税・都市計画税賦課事業費の増 38,705→88,210 +49,505
△ 4.8	子育て世帯等臨時特別支援事業費の減 827,824→8,011 △819,813 住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業費の減 530,736→212,258 △318,478 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業費の増 0→341,883 +341,883
△ 4.0	新型コロナウイルスワクチン接種事業費の減 717,052→482,384 △234,668 公立那賀病院経営事務組合事業費の減 625,827→600,669 △25,158 水道事業繰出金の増 61,382→163,269 +101,887
374.5	雇用対策事業費の増 181→1,046 +865
△ 13.2	青洲の里整備事業費の減 206,762→0 △206,762 県営農業競争力強化基盤整備事業（尼寺地区）費の減 53,982→18,607 △35,375 県営広域営農団地農道整備事業費の減 127,780→95,880 △31,900
31.4	未来応援券事業費の増 0→645,253 +645,253 新事業用団地造成事業費の増 12,421→44,590 +32,169 商工振興事業費の減 644,875→288,257 △356,618
9.9	市道等維持修繕事業費の増 201,765→344,348 +142,583 公共下水道事業出資金の増 420,242→522,401 +102,159 市営住宅整備事業費の増 0→69,005 +69,005
4.3	消防団運営事業費の増 107,028→132,299 +25,271 水防事業費の増 37,404→58,855 +21,451 消防施設整備事業費の減 104,109→82,524 △21,585
18.0	小学校施設長寿命化事業費の増 0→248,182 +248,182 体育施設管理運営事業費の増 125,633→226,523 +100,890 小学校空調設備整備事業費の増 17,633→90,519 +72,886
△ 100.0	土木施設災害復旧事業費の減 32,378→0 △32,378 農業用施設災害復旧事業費の減 3,003→0 △3,003
△ 13.0	地方債管理事業（元金）費の減 3,245,601→2,819,670 △425,931 地方債管理事業（利子）費の減 99,838→89,606 △10,232
1.8	

◇ 性質別

区 分	令 和 4 年 度								
	決 算 額 (A)	左のうち臨時的なもの(B)		差引経常的 なもの (A)-(B)	左 の 内 訳		決算額 構成比 (%)	経常収 支比率 (%)	
		特定財源	一般財源		特定財源	一般財源			
1. 人 件 費 (7)	4,843,535	63,202	63,986	4,716,347	259,010	4,457,337	15.2	24.5	
2. 物 件 費	4,748,629	895,100	996,024	2,857,505	401,530	2,455,975	14.9	13.5	
3. 維持補修費	329,876	114,800		215,076	26,639	188,437	1.0	1.0	
4. 扶 助 費	6,201,447	716,110	3,705	5,481,632	3,744,738	1,736,894	19.4	9.6	
5. 補助費等	4,767,523	449,737	1,224,699	3,093,087	157,353	2,935,734	15.0	16.1	
内 訳	一部事務組合に対するもの	1,364,111	9,400	39,242	1,315,469		1,315,469	4.3	7.2
	その他のもの	3,403,412	440,337	1,185,457	1,777,618	157,353	1,620,265	10.7	8.9
6. 公 債 費	2,909,276			2,909,276	15,070	2,894,206	9.1	15.9	
内 訳	元利償還金	2,909,276			2,909,276	15,070	2,894,206	9.1	15.9
	一時借入金利息								
7. 積 立 金	1,611,127	15,528	1,595,599				5.1		
8. 投資及び出資金・貸付金	713,532	182,300	491,547	39,685		39,685	2.2	0.2	
9. 繰 出 金	2,835,891	6,880	125,356	2,703,655	546,689	2,156,966	8.9	11.9	
10. 前年度繰上充用金									
計 (1～10)	28,960,836	2,443,657	4,500,916	22,016,263	5,151,029	16,865,234	90.8	92.8	
11. 投資的経費	2,932,181	2,312,150	620,031				9.2	(3.4)	
うち人件費 (4)	90,342		90,342				0.3	(0.5)	
(1) 普通建設事業費	2,932,181	2,312,150	620,031				9.2	(3.4)	
うち補助事業費	764,724	617,348	147,376				2.4	(0.8)	
うち単独事業費	1,986,430	1,527,679	458,751				6.2	(2.5)	
(2) 災害復旧事業費									
歳 出 合 計	31,893,017	4,755,807	5,120,947	22,016,263	5,151,029	16,865,234	100.0		
うち人件費 (7) + (4)	4,933,877	63,202	154,328	4,716,347	259,010	4,457,337	15.5		
歳出構成比 (%)	100.0	14.9	16.1	69.0	16.1	52.9			

(R3→R4、増減〔+：増額、△：減額、±0：同額〕、単位：千円)

令和3年度			増減率 (A)-(C) (C) (%)	主な増減内容
決算額 (C)	左のうち 経常一般財源	決算額 構成比 (%)		
4,872,740	4,435,388	15.6	△ 0.6	一般職給の減 1,811,905→1,777,258 △34,647 総合事務組合負担金(退職手当特別負担金)の減 111,302→82,116 △29,186 会計年度任用職員報酬の増 578,191→610,974 +32,783
4,715,013	2,010,308	15.1	0.7	ふるさとまちづくり寄附金特産品等贈呈委託料の増 337,784→530,971 +193,187 市民公園管理運営委託料の増 0→99,000 +99,000 ため池事業計画策定委託料の増 25,000→85,602 +60,602
213,644	109,677	0.7	54.4	市道等維持修繕事業工事請負費の増 88,541→207,555 +119,014 庁舎管理事業施設・器具修繕料の増 13,133→16,068 +2,935 学校給食センター管理事業施設・器具修繕料の増 3,418→5,258 +1,840
6,244,152	1,736,279	19.9	△ 0.7	子育て世帯臨時特別給付金の減 824,900→1,800 △823,100 私立保育園運営委託料の減 606,434→485,842 △120,592 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金の増 0→325,450 +325,450
4,779,765	2,976,205	15.3	△ 0.3	
1,363,471	1,339,799	4.4	0.0	那賀消防組合負担金の増 710,795→726,214 +15,419 那賀休日急患診療所経営事務組合負担金の減 27,196→17,163 △10,033
3,416,294	1,636,406	10.9	△ 0.4	住民税非課税世帯等臨時特別給付金の減 518,500→0 △518,500 マイナンバーカード利用促進地域振興券事業交付金の減 338,972→32,574 △306,398 未来応援券事業交付金の増 0→591,267 +591,267
3,345,439	3,329,189	10.7	△ 13.0	
3,345,439	3,329,189	10.7	△ 13.0	地方債管理事業(元金)費の減 3,245,601→2,819,670 △425,931 地方債管理事業(利子)費の減 99,838→89,606 △10,232
855,577		2.7	88.3	財政調整基金積立金の増 9,069→557,563 +548,494 地域振興基金積立金の増 274,775→387,186 +112,411 減債基金積立金の増 458,083→559,363 +101,280
604,778	38,068	1.9	18.0	下水道事業会計出資金の増 445,201→551,325 +106,124 水道事業会計出資金の増 159,577→162,207 +2,630
2,860,346	2,182,771	9.1	△ 0.9	国民健康保険事業勘定特別会計繰出金の減 559,277→535,570 △23,707 介護保険事業勘定特別会計繰出金の減 1,059,165→1,056,884 △2,281 国民健康保険直営診療施設勘定特別会計繰出金の減 11,260→9,099 △2,161
28,491,454	16,817,885	91.0	1.6	
2,831,770		9.0	3.5	
84,667		0.3	6.7	道路橋りょう新設改良費人件費の増 38,409→39,827 +1,418 農地費人件費の増 46,258→47,374 +1,116
2,796,389		8.9	4.9	
690,634		2.2	10.7	小学校空調設備整備事業費の増 14,967→81,705 +66,738 旧名手宿本陣整備事業費の増 36,045→58,905 +22,860 子どものための教育・保育給付事業費の増 0→20,533 +20,533
1,894,023		6.0	4.9	小学校施設長寿命化事業費の増 0→244,552 +244,552 体育施設管理運営事業費の増 66,836→151,825 +84,989 生涯学習施設管理運営事業費の増 131,279→204,479 +73,200
35,381		0.1	△ 100.0	土木施設災害復旧事業費の減 32,378→0 △32,378 農業用施設災害復旧事業費の減 3,003→0 △3,003
31,323,224	16,817,885	100.0	1.8	
4,957,407	4,435,388	15.9	△ 0.5	
100.0	53.7			

4. 職員給与費の状況

〔一般会計〕

(単位：人、円)

区 分		令和4年度	令和3年度	増 減
職員数		809	809	0
	特別職	3	3	0
	一般職	806	806	0
	会計年度任用職員以外の職員	496	504	△ 8
	会計年度任用職員	310	302	8
総額		4,889,225,914	4,906,650,851	△ 17,424,937
	報酬	613,387,104	577,041,846	36,345,258
	会計年度任用職員報酬	613,387,104	577,041,846	36,345,258
	給料	1,940,035,929	1,967,487,443	△ 27,451,514
	特別職給	25,142,400	22,253,255	2,889,145
	一般職給	1,914,893,529	1,945,234,188	△ 30,340,659
	手当	1,603,646,836	1,632,810,351	△ 29,163,515
	扶養手当	58,387,224	60,831,697	△ 2,444,473
	住居手当	13,371,419	13,216,836	154,583
	特別職通勤手当	74,400	42,000	32,400
	通勤手当	27,964,520	27,333,740	630,780
	特殊勤務手当	2,350,000	2,583,000	△ 233,000
	時間外勤務手当	120,328,040	124,870,461	△ 4,542,421
	宿日直手当	0	118,800	△ 118,800
	管理職員特別勤務手当	250,000	956,500	△ 706,500
	管理職手当	97,280,000	98,780,000	△ 1,500,000
	特別職期末手当	8,958,454	9,386,494	△ 428,040
	期末手当	417,946,757	423,651,142	△ 5,704,385
	会計年度任用職員期末手当	114,667,757	106,859,745	7,808,012
	勤勉手当	336,180,672	323,762,634	12,418,038
	児童手当	26,290,000	27,710,000	△ 1,420,000
	総合事務組合負担金（退職手当特別職）	7,039,872	6,244,084	795,788
	総合事務組合負担金（退職手当）	290,442,140	295,161,125	△ 4,718,985
	総合事務組合負担金（退職手当特別負担金）	82,115,581	111,302,093	△ 29,186,512
	共済費	732,156,045	729,311,211	2,844,834
	職員共済組合負担金特別職	6,167,204	3,831,361	2,335,843
	職員共済組合負担金	582,652,167	582,829,484	△ 177,317
	職員共済組合負担金追加費用	31,754,448	37,218,720	△ 5,464,272
	職員共済組合負担金払込金	66,322	69,363	△ 3,041
	職員共済組合負担金特定検診負担金	91,290	129,710	△ 38,420
	会計年度任用職員共済組合負担金	20,209,510	0	20,209,510
	社会保険料負担金	91,215,104	105,232,573	△ 14,017,469

備考：1) 時間外勤務手当は、選挙事務に係る手当を含んでいます。

〔特別会計〕

(単位：人、円)

区 分	令和4年度	令和3年度	増 減
職員数 (一般職)	37	42	△ 5
会計年度任用職員以外の職員	8	8	0
会計年度任用職員	29	34	△ 5
総額	147,047,165	149,317,206	△ 2,270,041
報酬	63,398,159	67,761,322	△ 4,363,163
会計年度任用職員報酬	63,398,159	67,761,322	△ 4,363,163
給料	29,540,363	26,530,500	3,009,863
一般職給	29,540,363	26,530,500	3,009,863
手当	32,884,768	34,061,419	△ 1,176,651
扶養手当	694,500	972,000	△ 277,500
住居手当	132,500	0	132,500
通勤手当	450,400	511,200	△ 60,800
時間外勤務手当	1,800,792	3,657,343	△ 1,856,551
管理職手当	1,200,000	1,080,000	120,000
期末手当	6,356,472	5,631,704	724,768
会計年度任用職員期末手当	12,355,092	13,163,178	△ 808,086
勤勉手当	5,109,827	4,313,215	796,612
児童手当	200,000	540,000	△ 340,000
総合事務組合負担金 (退職手当)	4,585,185	4,192,779	392,406
共済費	21,223,875	20,963,965	259,910
職員共済組合負担金	9,361,391	8,336,364	1,025,027
会計年度任用職員共済組合負担金	2,167,607	0	2,167,607
社会保険料負担金	9,694,877	12,627,601	△ 2,932,724

備考：2) 住宅新築資金等貸付事業特別会計 (令和3年度)、国民健康保険事業勘定特別会計および介護保険事業勘定特別会計が対象です。

〔公営企業会計〕

(単位：人、円)

区 分	令和4年度	令和3年度	増 減
職員数 (一般職)	32	31	1
会計年度任用職員以外の職員	29	29	0
会計年度任用職員	3	2	1
総額	244,780,170	243,705,933	1,074,237
給料	123,552,056	122,103,063	1,448,993
一般職給	117,760,484	118,355,700	△ 595,216
会計年度任用職員給	5,791,572	3,747,363	2,044,209
手当	84,477,243	85,029,001	△ 551,758
扶養手当	4,518,092	4,656,000	△ 137,908
住居手当	1,201,200	1,295,200	△ 94,000
通勤手当	1,496,400	1,540,600	△ 44,200
会計年度任用職員通勤手当	298,800	274,800	24,000
時間外勤務手当	2,471,588	3,338,014	△ 866,426
管理職員特別勤務手当	0	2,000	△ 2,000
管理職手当	6,480,000	6,840,000	△ 360,000
期末手当	25,843,584	26,218,060	△ 374,476
会計年度任用職員期末手当	1,158,312	772,208	386,104
勤勉手当	20,836,817	20,018,764	818,053
児童手当	2,505,000	2,320,000	185,000
総合事務組合負担金 (退職手当)	17,667,450	17,753,355	△ 85,905
共済費	36,750,871	36,573,869	177,002
職員共済組合負担金	35,653,320	35,797,995	△ 144,675
会計年度任用職員共済組合負担金	192,953	0	192,953
社会保険料負担金	904,598	775,874	128,724

備考：3) 水道事業会計、工業用水道事業会計および下水道事業会計が対象です。

〔全会計〕

(単位：人、円)

区 分		令和4年度	令和3年度	増 減
職員数		878	882	△ 4
	特別職	3	3	0
	一般職	875	879	△ 4
	会計年度任用職員以外の職員	533	541	△ 8
	会計年度任用職員	342	338	4
総額		5,281,053,249	5,299,673,990	△ 18,620,741
	報酬	676,785,263	644,803,168	31,982,095
	会計年度任用職員報酬	676,785,263	644,803,168	31,982,095
	給料	2,093,128,348	2,116,121,006	△ 22,992,658
	特別職給	25,142,400	22,253,255	2,889,145
	一般職給	2,062,194,376	2,090,120,388	△ 27,926,012
	会計年度任用職員給	5,791,572	3,747,363	2,044,209
	手当	1,721,008,847	1,751,900,771	△ 30,891,924
	扶養手当	63,599,816	66,459,697	△ 2,859,881
	住居手当	14,705,119	14,512,036	193,083
	特別職通勤手当	74,400	42,000	32,400
	通勤手当	29,911,320	29,385,540	525,780
	会計年度任用職員通勤手当	298,800	274,800	24,000
	特殊勤務手当	2,350,000	2,583,000	△ 233,000
	時間外勤務手当	124,600,420	131,865,818	△ 7,265,398
	宿日直手当	0	118,800	△ 118,800
	管理職員特別勤務手当	250,000	958,500	△ 708,500
	管理職手当	104,960,000	106,700,000	△ 1,740,000
	特別職期末手当	8,958,454	9,386,494	△ 428,040
	期末手当	450,146,813	455,500,906	△ 5,354,093
	会計年度任用職員期末手当	128,181,161	120,795,131	7,386,030
	勤勉手当	362,127,316	348,094,613	14,032,703
	児童手当	28,995,000	30,570,000	△ 1,575,000
	総合事務組合負担金(退職手当特別職)	7,039,872	6,244,084	795,788
	総合事務組合負担金(退職手当)	312,694,775	317,107,259	△ 4,412,484
	総合事務組合負担金(退職手当特別負担金)	82,115,581	111,302,093	△ 29,186,512
	共済費	790,130,791	786,849,045	3,281,746
	職員共済組合負担金特別職	6,167,204	3,831,361	2,335,843
	職員共済組合負担金	627,666,878	626,963,843	703,035
	職員共済組合負担金追加費用	31,754,448	37,218,720	△ 5,464,272
	職員共済組合負担金払込金	66,322	69,363	△ 3,041
	職員共済組合負担金特定検診負担金	91,290	129,710	△ 38,420
	会計年度任用職員共済組合負担金	22,570,070	0	22,570,070
	社会保険料負担金	101,814,579	118,636,048	△ 16,821,469

〔職員給与費を構成する期末手当支給率等〕

区 分	令和4年度	令和3年度	増 減
期末手当支給率	2.40月	2.40月	0.00月
勤勉手当支給率	2.00月	1.90月	0.10月
総合事務組合退職手当負担金率	150/1000	150/1000	0/1000
職員共済組合負担金率(40歳以上)	196.5705/1000	195.2801/1000	1.2904/1000
職員共済組合負担金率(40歳未満)	187.8705/1000	186.2601/1000	1.6104/1000
職員共済組合追加費用率	13.2/1000	15.4/1000	△2.2/1000

5. 地方債の状況

1) 地方債現在高の状況

[一般会計]

◇ 事業別

(単位：千円)

区 分	令和3年度末 現在高	令和4年度 発行額	令和4年度 償還額	令和4年度末 現在高
1. 公共事業等債	692,745	118,500	107,064	704,181
2. 防災・減災・国土強靱化緊急対策事業債	72,960	69,500	5,430	137,030
3. 公営住宅建設事業債				
4. 災害復旧事業債	145,190		48,700	96,490
5. (旧)緊急防災・減災事業債	221,829		150,268	71,561
6. 全国防災事業債	172,273		13,325	158,948
7. 教育・福祉施設等整備事業債	351,626	31,500	83,086	300,040
8. 一般単独事業債	14,836,456	801,900	1,468,189	14,170,167
うち地域活性化化事業債	259,200	163,900	44,250	378,850
うち防災対策事業債	11,418		1,918	9,500
うち合併特例事業債	13,632,745	248,100	1,195,065	12,685,780
うち(新)緊急防災・減災事業債	546,344	175,100	84,849	636,595
うち公共施設等適正管理推進事業債	53,200	196,900	9,270	240,830
うち緊急自然災害防止対策事業債	20,220	17,900	1,040	37,080
9. 辺地対策事業債	35,790	7,200	3,870	39,120
10. 過疎対策事業債	485,500	984,300	37,875	1,431,925
11. 公共用地先行取得等事業債				
12. 行政改革推進債				
13. 厚生福祉施設整備事業債				
14. 地域財政特例対策債				
15. 退職手当債(～平成17年度分)				
16. 退職手当債(平成18年度～)				
17. 国の予算貸付・政府関係機関貸付債				
18. 地域改善対策特定事業債				
19. 財源対策債	288,131	70,400	34,566	323,965
20. 減収補填債	29,600		7,400	22,200
21. 臨時財政特例債				
22. 公共事業等臨時特例債				
23. 減税補填債	65,611		22,879	42,732
24. 臨時税収補填債				
25. 臨時財政対策債	6,839,991	210,100	829,138	6,220,953
26. 調整債(昭和60～63年度分)				
27. 調整債(令和1～4年度分)				
28. 減収補填債特例分				
29. 県貸付金				
30. 猶予特例債				
31. 特別減収対策債				
32. その他	61,070	24,600	7,880	77,790
合 計	24,298,772	2,318,000	2,819,670	23,797,102

備考：1) 区分の分類は、地方財政状況調査(決算統計)に準じて作成しています。

◇ 予算説明別

(単位：千円)

区 分	令和3年度末 現在高	令和4年度 発行額	令和4年度 償還額	令和4年度末 現在高
1. 普通債	17,218,380	2,107,900	1,911,553	17,414,727
(1) 総務債	1,735,300	180,800	182,055	1,734,045
(2) 民生債	679,708	11,800	77,331	614,177
(3) 衛生債	2,643,255	133,700	250,860	2,526,095
(4) 農林業債	1,234,524	208,400	132,830	1,310,094
(5) 商工債	45,605		4,165	41,440
(6) 土木債	4,737,682	648,000	478,355	4,907,327
(7) 消防債	535,825	97,500	121,060	512,265
(8) 教育債	5,606,481	827,700	664,897	5,769,284
2. 災害復旧債	145,190		48,700	96,490
(1) 補助災害復旧事業債	110,350		33,640	76,710
(2) 単独災害復旧事業債	34,840		15,060	19,780
3. その他	6,935,202	210,100	859,417	6,285,885
(1) 減収補填債	29,600		7,400	22,200
(2) 減税補填債	65,611		22,879	42,732
(3) 臨時財政対策債	6,839,991	210,100	829,138	6,220,953
合 計	24,298,772	2,318,000	2,819,670	23,797,102

備考：2) 区分の分類は、予算書の付属資料に準じて作成しています。

〔国民健康保険直営診療施設勘定特別会計〕

(単位：千円)

区 分	令和3年度末 現在高	令和4年度 発行額	令和4年度 償還額	令和4年度末 現在高
1. 辺地対策事業債	3,300	10,900	330	13,870
合 計	3,300	10,900	330	13,870

備考：3) 区分の分類は、地方財政状況調査（決算統計）に準じて作成しています。

2) 地方債年度別償還予定の状況

〔一般会計〕

	令和5年度			令和6年度		
	元 金	利 子	計	元 金	利 子	計
1. 政府資金	970,803	21,941	992,744	932,186	18,330	950,516
2. 地方公共団体金融機構資金	508,482	11,923	520,405	418,084	9,886	427,970
3. 市中銀行その他金融機関	1,195,795	52,169	1,247,964	1,162,935	47,675	1,210,610
4. 共 済 等						
合 計	2,675,080	86,033	2,761,113	2,513,205	75,891	2,589,096

〔国民健康保険直営診療施設勘定特別会計〕

1. 政府資金	1,420	32	1,452	1,420	34	1,454
合 計	1,420	32	1,452	1,420	34	1,454

特別会計合計	1,420	32	1,452	1,420	34	1,454
--------	-------	----	-------	-------	----	-------

総 合 計	2,676,500	86,065	2,762,565	2,514,625	75,925	2,590,550
-------	-----------	--------	-----------	-----------	--------	-----------

備考：1) 償還予定額は、令和4年度までに借り入れた起債を基に算出しています。

2) 資金区分の政府資金には財政融資資金および旧郵政公社資金を、地方公共団体金融機構資金には旧公営企業金融公庫資金および旧公営企業等金融機構資金を、また、ゆうちょ銀行資金は市中銀行欄にそれぞれ分類しています。

3) この表には起債前借を含んでいません。起債前借は事業の進捗度合に応じ、長期資金を正式に借り入れるまでのつなぎ資金として借り入れるものです。

(単位：千円)

令和7年度			令和8年度			令和9年度		
元金	利子	計	元金	利子	計	元金	利子	計
803,790	14,689	818,479	684,298	12,095	696,393	582,840	9,848	592,688
380,766	8,210	388,976	358,242	7,076	365,318	317,097	6,300	323,397
1,103,955	42,963	1,146,918	1,083,535	38,331	1,121,866	1,055,005	33,813	1,088,818
2,288,511	65,862	2,354,373	2,126,075	57,502	2,183,577	1,954,942	49,961	2,004,903

(単位：千円)

1,420	30	1,450	1,420	26	1,446	1,420	22	1,442
1,420	30	1,450	1,420	26	1,446	1,420	22	1,442
1,420	30	1,450	1,420	26	1,446	1,420	22	1,442
2,289,931	65,892	2,355,823	2,127,495	57,528	2,185,023	1,956,362	49,983	2,006,345

6. 基金の状況

(単位：円)

基金名		令和3年度末 現在高	令和4年度 取崩額	令和4年度 積立額	令和4年度末 現在高
財政調整基金		5,564,574,000		557,563,000	6,122,137,000
減債基金		2,502,763,000	300,000,000	559,363,000	2,762,126,000
特定目的 基金	中山間ふるさと水と土保全対策基金	43,690,000		14,000	43,704,000
	都市計画事業基金	0			0
	医聖華岡青洲顕彰事業基金	0			0
	人材育成基金	40,320,000	3,000,000	13,000	37,333,000
	地域振興基金	2,129,365,000	130,000,000	387,186,000	2,386,551,000
	地域福祉基金	507,820,000	23,000,000	163,000	484,983,000
	公共施設等整備基金	2,001,726,000	47,000,000	100,646,000	2,055,372,000
	森林環境譲与税基金	34,831,000		6,179,000	41,010,000
定額 運用 基金	土地開発基金	741,387,408		172,011	741,559,419
	うち現金	534,611,908		172,011	534,783,919
	うち土地	206,775,500			206,775,500
普通会計 計		13,566,476,408	503,000,000	1,611,299,011	14,674,775,419
特別会計	国民健康保険事業運営基金	750,069,000	210,066,000	241,000	540,244,000
	介護給付費準備基金	419,196,000		125,467,000	544,663,000
	池田財産区財政調整基金	147,098,000		1,147,000	148,245,000
	田中財産区財政調整基金	68,013,000		17,000	68,030,000
	長田竜門財産区財政調整基金	9,908,000	186,000	1,000	9,723,000
	竜門財産区財政調整基金	269,000		1,000	270,000
	南北志野財産区財政調整基金	4,078,000		1,000	4,079,000
	飯盛財産区財政調整基金	8,183,000		1,000	8,184,000
	静川財産区財政調整基金	2,869,000		1,000	2,870,000
	最上、神田、市場、元財産区財政調整基金	30,679,000		10,000	30,689,000
	調月財産区財政調整基金	29,449,000	230,000	10,000	29,229,000
	丸栖財産区財政調整基金	20,633,000		325,000	20,958,000
	平池財産区財政調整基金	38,098,000		672,000	38,770,000
	特別会計（普通会計以外） 計		1,528,542,000	210,482,000	127,894,000
総合計		15,095,018,408	713,482,000	1,739,193,011	16,120,729,419

7. 一般会計から他会計への繰出金等の状況

(単位：千円)

区分	令和4年度	令和3年度	増減
総額	3,934,024	3,749,867	184,157
特別会計	2,641,448	2,670,009	△ 28,561
国民健康保険事業勘定特別会計	535,570	559,277	△ 23,707
繰出金	535,570	559,277	△ 23,707
国民健康保険直営診療施設勘定特別会計	9,099	11,260	△ 2,161
繰出金	9,099	11,260	△ 2,161
後期高齢者医療特別会計	1,039,895	1,040,307	△ 412
繰出金	1,039,895	1,040,307	△ 412
介護保険事業勘定特別会計	1,056,884	1,059,165	△ 2,281
繰出金	1,056,884	1,059,165	△ 2,281
公営企業会計	1,292,576	1,079,858	212,718
水道事業会計	325,476	220,960	104,516
出資金	162,207	159,577	2,630
負担金	5,536	3,337	2,199
補助金	157,733	58,046	99,687
下水道事業会計	967,100	858,898	108,202
公共下水道事業	921,741	813,325	108,416
出資金	522,401	420,242	102,159
補助金	399,340	393,083	6,257
農業集落排水事業	45,359	45,573	△ 214
出資金	28,924	24,959	3,965
補助金	16,435	20,614	△ 4,179

8. その他資料

1) 人口推移（住民基本台帳人口：3月末日現在）

（単位：人）

区 分	人 口			世帯数	1世帯当 たり人口
	男	女	計		
平成17年	33,759	36,786	70,545	24,010	2.94
平成18年	33,568	36,606	70,174	24,306	2.89
平成19年	33,368	36,473	69,841	24,663	2.83
平成20年	33,051	36,159	69,210	24,795	2.79
平成21年	32,749	35,902	68,651	24,978	2.75
平成22年	32,537	35,710	68,247	25,237	2.70
平成23年	32,252	35,471	67,723	25,465	2.66
平成24年	32,011	35,184	67,195	25,624	2.62
平成25年	31,774	35,088	66,862	25,903	2.58
平成26年	31,467	34,784	66,251	26,055	2.54
平成27年	31,249	34,510	65,759	26,196	2.51
平成28年	30,881	34,127	65,008	26,275	2.47
平成29年	30,508	33,621	64,129	26,346	2.43
平成30年	30,115	33,160	63,275	26,412	2.40
平成31年	29,702	32,682	62,384	26,447	2.36
令和2年	29,292	32,210	61,502	26,510	2.32
令和3年	29,011	31,867	60,878	26,576	2.29
令和4年	28,713	31,592	60,305	26,691	2.26
令和5年	28,481	31,322	59,803	26,910	2.22

2) 学校別児童生徒数（令和4年5月1日 学校基本調査）

〔小学校〕

（単位：人）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
池田小学校	59	64	66	63	63	68	383
田中小学校	75	91	69	89	79	94	497
長田小学校	14	11	18	13	16	15	87
粉河小学校	34	44	35	48	37	40	238
竜門小学校	18	10	14	15	14	16	87
川原小学校	4	6	10	6	13	9	48
名手小学校	27	27	30	36	34	40	194
上名手小学校	5	6	5	9	9	3	37
麻生津小学校	3	5	1	2	3	9	23
安楽川小学校	42	41	43	41	57	49	273
調月小学校	7	8	9	14	12	18	68
中貴志小学校	47	47	54	48	48	53	297
東貴志小学校	15	15	18	12	20	16	96
西貴志小学校	42	57	47	55	66	63	330
丸栖小学校	22	27	22	20	31	26	148
合 計	414	459	441	471	502	519	2,806

〔中学校〕

（単位：人）

	1年	2年	3年	計
打田中学校	128	137	125	390
打田中学校(仙溪分校)	0	1	3	4
粉河中学校	65	81	72	218
鞆渕中学校	0	1	2	3
那賀中学校	40	35	47	122
荒川中学校	49	44	61	154
貴志川中学校	142	153	176	471
合 計	424	452	486	1,362

3) 保育施設別児童数（令和5年3月1日現在）

〔公立（保育所）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
なるき保育所			14	29	40	31	114	144
こぼと保育所	6	20	24	46	47	49	192	252
八王子保育所			5	8	7	12	32	52
中貴志保育所			16	14	23	21	74	90
東貴志保育所		6	12	4	8	15	45	90
西貴志保育所				8	14	25	47	72
丸栖保育所		8	12	14	20	12	66	88
合計	6	34	83	123	159	165	570	788

〔私立（保育園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
粉河保育園	8	28	32	38	46	44	196	240
名手保育園	9	18	25	37	24	26	139	150
安楽川保育園	6	20	24	45	39	42	176	204
山の子共同保育園		2	6	3	4	7	22	20
合計	23	68	87	123	113	119	533	614

〔私立（認定こども園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
レイモンドこども園	5	18	17	19	22	20	101	110
愛の光幼稚園		3	13	13	10	16	55	58
あおば幼稚園			17	23	27	24	91	110
ながやまこども園	10	22	29	23	28	32	144	170
合計	15	43	76	78	87	92	391	448

〔私立（小規模保育施設）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
未来保育園		9	9				18	18
ニチキッズきのかわ保育園	6	8	4				18	19
合計	6	17	13	0	0	0	36	37

〔私立（幼稚園）〕

（単位：人）

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	参考(定員)
智徳幼稚園			9	14	17	17	57	95
合計	0	0	9	14	17	17	57	95

保育施設合計	50	162	268	338	376	393	1,587	1,982
--------	----	-----	-----	-----	-----	-----	-------	-------

備考：1) 児童数には他市町村からの広域入所を含んでいません。

4) 放課後児童クラブ別児童数（令和5年3月1日現在）

（単位：人）

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計	参考(定員)
てのひら	19	18	18	8	3	8	74	75
太陽の子	36	26	13	4			79	90
粉河アットホームクラブ	24	22	10				56	70
チャレンジ児童クラブ	23	12	11	12	3	1	62	80
あらかわ放課後児童クラブ	18	12	10	2	1	2	45	60
ももやま放課後児童クラブ	4	2	7	4(1)	3		20(1)	25
こどもくらぶ	17	10	10	1(6)	(1)		38(7)	70
ほたるっこ	7	6	6(2)	3(1)	(1)	1	23(4)	30
西貴志こどもくらぶ	17	11	8	5(10)	(2)	1	42(12)	60
丸栖っ子クラブ	10	7					17	25
合計	175	126	93(2)	39(18)	10(4)	13	456(24)	585

備考：2) 日割り利用児童数は、() に外数で記載しています。

9. 一般会計主要施策の成果

備考：1) 「事務事業の概要」欄において、長期総合計画体系に該当しない場合は、政策目標から基本施策までを「99 ***」、取組方針を「9 その他」で表示しています。

備考：2) 「指標の実績」欄の各指標において、事前に目標設定することになじまない事務事業は、目標値を設定していません。

備考：3) 「コストの実績」欄は、地方財政状況調査（決算統計）における報告値としています。
R4年度決算額（単位：千円）は、節説明ごとに円単位の支出済額を千円単位に調整し集計しているため、決算書に記載の事務事業決算額と若干の差異が生じる場合があります。
財源内訳は、調査では収入済額のうち新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を一般財源とするところ国庫支出金としています。

[歳入] 市税等収納実績に関する科目

(単位: 円)

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容					
1-1-1 市民税 個人	税務課	2,528,000,000	2,549,784,528	◎個人市民税 現年課税分					
				令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				個人均等割	101,999,000	101,346,581	99.4%	—	—
				個人所得割	2,464,052,180	2,448,437,947	99.4%	—	—
				合 計	2,566,051,180	2,549,784,528	99.4%	—	—
				令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				個人均等割	102,603,890	101,908,279	99.3%	—	—
				個人所得割	2,428,783,010	2,413,656,426	99.4%	—	—
				合 計	2,531,386,900	2,515,564,705	99.4%	—	—
				・対前年度1.4%の増、税額にして34,219,823円の増。					
	収納対策課	19,800,000	16,106,563	◎個人市民税 滞納繰越分					
				年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				令和4年度	48,402,220	16,106,563	33.3%	2,914,721	189件
				令和3年度	56,045,128	20,969,434	37.4%	1,964,423	164件
				・対前年度23.2%の減、税額にして4,862,871円の減。					
1-1-2 市民税 法人	税務課	327,000,000	360,489,200	◎法人市民税 現年課税分					
				令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				法人均等割	127,860,100	127,413,500	99.7%	—	—
				法人税割	233,574,300	233,075,700	99.8%	—	—
				合 計	361,434,400	360,489,200	99.7%	—	—
				令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				法人均等割	119,317,900	119,009,600	99.7%	—	—
				法人税割	227,159,600	227,101,100	100.0%	—	—
				合 計	346,477,500	346,110,700	99.9%	—	—
				・対前年度4.2%の増、税額にして14,378,500円の増。					
	収納対策課	600,000	192,800	◎法人市民税 滞納繰越分					
				年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				令和4年度	1,146,613	192,800	16.8%	200,000	4件
				令和3年度	4,608,730	3,728,917	80.9%	100,000	2件
				・対前年度94.8%の減、税額にして3,536,117円の減。					
1-2-1 固定資産税	税務課	2,950,000,000	2,982,283,225	◎固定資産税 現年課税分					
				令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				固定(土地)	838,562,440	828,797,018	98.8%	—	—
				固定(家屋)	1,381,055,578	1,367,624,418	99.0%	—	—
				固定(償却)	786,113,367	785,861,789	100.0%	—	—
				合 計	3,005,731,385	2,982,283,225	99.2%	—	—
				令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損	
								額	件数
				固定(土地)	841,136,875	831,450,458	98.8%	—	—
				固定(家屋)	1,297,466,063	1,283,588,648	98.9%	—	—
				固定(償却)	702,099,238	702,025,661	100.0%	—	—
				合 計	2,840,702,176	2,817,064,767	99.2%	—	—
				・対前年度5.9%の増、税額にして165,218,458円の増。					

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																				
1-2-2 国有資産等所在市町村交付金	収納対策課	26,600,000	21,579,189	◎固定資産税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>97,777,343</td> <td>21,579,189</td> <td>22.1%</td> <td>16,149,794</td> <td>827件</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>113,227,170</td> <td>31,427,201</td> <td>27.8%</td> <td>7,673,035</td> <td>702件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度31.3%の減、税額にして9,848,012円の減。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	97,777,343	21,579,189	22.1%	16,149,794	827件	令和3年度	113,227,170	31,427,201	27.8%	7,673,035	702件																																
	年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																															
額					件数																																																			
令和4年度	97,777,343	21,579,189	22.1%	16,149,794	827件																																																			
令和3年度	113,227,170	31,427,201	27.8%	7,673,035	702件																																																			
	税務課	5,857,000	5,857,800	◎国有資産等所在市町村交付金 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>5,857,800</td> <td>5,857,800</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>5,990,800</td> <td>5,990,800</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和4年度	5,857,800	5,857,800	100%	令和3年度	5,990,800	5,990,800	100%																																								
年度	調定額	収入済額	収納率																																																					
令和4年度	5,857,800	5,857,800	100%																																																					
令和3年度	5,990,800	5,990,800	100%																																																					
1-3-1 軽自動車税 環境性能割	税務課	19,000,000	18,427,500	◎環境性能割 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>18,427,500</td> <td>18,427,500</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>12,568,300</td> <td>12,568,300</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度46.6%の増、税額にして5,859,200円の増。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和4年度	18,427,500	18,427,500	100%	令和3年度	12,568,300	12,568,300	100%																																								
	年度	調定額	収入済額	収納率																																																				
令和4年度	18,427,500	18,427,500	100%																																																					
令和3年度	12,568,300	12,568,300	100%																																																					
1-3-2 軽自動車税 種別割	税務課	256,000,000	270,035,921	◎種別割 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>273,399,800</td> <td>270,035,921</td> <td>98.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>266,458,500</td> <td>262,478,265</td> <td>98.5%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度2.9%の増、税額にして7,557,656円の増。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	273,399,800	270,035,921	98.8%	—	—	令和3年度	266,458,500	262,478,265	98.5%	—	—																																
	年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																															
額					件数																																																			
令和4年度	273,399,800	270,035,921	98.8%	—	—																																																			
令和3年度	266,458,500	262,478,265	98.5%	—	—																																																			
	収納対策課	3,700,000	3,351,393	◎種別割 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>13,310,025</td> <td>3,351,393</td> <td>25.2%</td> <td>868,635</td> <td>150件</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>13,764,142</td> <td>3,339,623</td> <td>24.3%</td> <td>1,019,129</td> <td>196件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度0.4%の増、税額にして11,770円の増。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	13,310,025	3,351,393	25.2%	868,635	150件	令和3年度	13,764,142	3,339,623	24.3%	1,019,129	196件																																
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																				
				額	件数																																																			
令和4年度	13,310,025	3,351,393	25.2%	868,635	150件																																																			
令和3年度	13,764,142	3,339,623	24.3%	1,019,129	196件																																																			
1-4-1 たばこ税	税務課	345,000,000	368,290,644	◎たばこ税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>種 別</th> <th>本数(本)</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">令和4年度</td> <td>製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ</td> <td>56,210,417</td> <td>368,290,644</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>手持品課税分</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>56,210,417</td> <td>368,290,644</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">令和3年度</td> <td>製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ</td> <td>56,095,463</td> <td>352,543,085</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>手持品課税分</td> <td>2,937,248</td> <td>1,263,003</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>59,032,711</td> <td>353,806,088</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度4.1%の増、税額にして14,484,556円の増。</p>	年度	種 別	本数(本)	収入済額	収納率	令和4年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,210,417	368,290,644	100%	手持品課税分	—	—	—	合 計	56,210,417	368,290,644	100%	令和3年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,095,463	352,543,085	100%	手持品課税分	2,937,248	1,263,003	100%	合 計	59,032,711	353,806,088	100%																					
	年度	種 別	本数(本)	収入済額	収納率																																																			
令和4年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,210,417	368,290,644	100%																																																				
	手持品課税分	—	—	—																																																				
	合 計	56,210,417	368,290,644	100%																																																				
令和3年度	製造たばこ・旧3級品紙巻たばこ	56,095,463	352,543,085	100%																																																				
	手持品課税分	2,937,248	1,263,003	100%																																																				
	合 計	59,032,711	353,806,088	100%																																																				
1-5-1 都市計画税	税務課	339,000,000	344,403,138	◎都市計画税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>都計(土地)</td> <td>147,534,092</td> <td>145,813,594</td> <td>98.8%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>都計(家屋)</td> <td>200,499,223</td> <td>198,589,544</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>348,033,315</td> <td>344,403,138</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">令和3年度</td> <td rowspan="4">調定額</td> <td rowspan="4">収入済額</td> <td rowspan="4">収納率</td> <td colspan="2">不納欠損</td> </tr> <tr> <td>額</td> <td>件数</td> </tr> <tr> <td>都計(土地)</td> <td>148,535,082</td> <td>146,828,042</td> <td>98.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>都計(家屋)</td> <td>188,160,542</td> <td>186,231,899</td> <td>99.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>336,695,624</td> <td>333,059,941</td> <td>98.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度3.4%の増、税額にして11,343,197円の増。</p>	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	都計(土地)	147,534,092	145,813,594	98.8%	—	—	都計(家屋)	200,499,223	198,589,544	99.0%	—	—	合 計	348,033,315	344,403,138	99.0%	—	—	令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	都計(土地)	148,535,082	146,828,042	98.9%	—	—	都計(家屋)	188,160,542	186,231,899	99.0%	—	—	合 計	336,695,624	333,059,941	98.9%	—	—
	令和4年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																															
額					件数																																																			
都計(土地)	147,534,092	145,813,594	98.8%	—	—																																																			
都計(家屋)	200,499,223	198,589,544	99.0%	—	—																																																			
合 計	348,033,315	344,403,138	99.0%	—	—																																																			
令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																				
				額	件数																																																			
				都計(土地)	148,535,082	146,828,042	98.9%	—	—																																															
				都計(家屋)	188,160,542	186,231,899	99.0%	—	—																																															
合 計	336,695,624	333,059,941	98.9%	—	—																																																			

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																
1-6-1 入湯税	収納対策課	3,900,000	3,314,149	<p>◎都市計画税 滞納繰越分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>14,104,114</td> <td>3,314,149</td> <td>23.5%</td> <td>2,098,552</td> <td>827件</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>15,267,839</td> <td>3,870,424</td> <td>25.4%</td> <td>928,984</td> <td>702件</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度14.4%の減、税額にして556,275円の減。</p> <p>※都市計画税は、都市計画事業等に要する経費に充てるために課される目的税です。</p> <p>【都市計画税の充当事業】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>街路費</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>公園費（運動公園管理運営事業など）</td> <td>53,033</td> </tr> <tr> <td>下水道費（公共下水道事業など）</td> <td>218,059</td> </tr> <tr> <td>区画整理費等（都市計画推進事業など）</td> <td>11,348</td> </tr> <tr> <td>公債費</td> <td>65,277</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	14,104,114	3,314,149	23.5%	2,098,552	827件	令和3年度	15,267,839	3,870,424	25.4%	928,984	702件	充当事業	充当額	街路費	0	公園費（運動公園管理運営事業など）	53,033	下水道費（公共下水道事業など）	218,059	区画整理費等（都市計画推進事業など）	11,348	公債費	65,277
	年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																											
額					件数																															
令和4年度	14,104,114	3,314,149	23.5%	2,098,552	827件																															
令和3年度	15,267,839	3,870,424	25.4%	928,984	702件																															
充当事業	充当額																																			
街路費	0																																			
公園費（運動公園管理運営事業など）	53,033																																			
下水道費（公共下水道事業など）	218,059																																			
区画整理費等（都市計画推進事業など）	11,348																																			
公債費	65,277																																			
	税務課	50,000	256,125	<p>◎入湯税 現年課税分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>256,125</td> <td>256,125</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※入湯税は、観光振興等に要する経費に充てるために課される目的税です。</p> <p>【入湯税の充当事業】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観光振興事業</td> <td>256</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和4年度	256,125	256,125	100%	充当事業	充当額	観光振興事業	256																				
年度	調定額	収入済額	収納率																																	
令和4年度	256,125	256,125	100%																																	
充当事業	充当額																																			
観光振興事業	256																																			
2-3-1 森林環境譲与税	財政課	23,524,000	23,524,000	<p>◎森林環境譲与税</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>23,524,000</td> <td>23,524,000</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>17,335,000</td> <td>17,335,000</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※森林環境譲与税は、森林整備及びその促進に要する経費に充てています。</p> <p>【森林環境譲与税の充当事業】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>森林経営管理事業など</td> <td>17,356</td> </tr> <tr> <td>基金積立事業</td> <td>6,168</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和4年度	23,524,000	23,524,000	100%	令和3年度	17,335,000	17,335,000	100%	充当事業	充当額	森林経営管理事業など	17,356	基金積立事業	6,168														
年度	調定額	収入済額	収納率																																	
令和4年度	23,524,000	23,524,000	100%																																	
令和3年度	17,335,000	17,335,000	100%																																	
充当事業	充当額																																			
森林経営管理事業など	17,356																																			
基金積立事業	6,168																																			
7-1-1 地方消費税交付金	税務課	1,370,948,000	1,370,948,000	<p>◎地方消費税交付金</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> <th>収入済額のうち 社会保障財源化分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>1,370,948,000</td> <td>1,370,948,000</td> <td>100%</td> <td>786,747,000</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>1,347,680,000</td> <td>1,347,680,000</td> <td>100%</td> <td>775,481,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度1.7%の増、税額にして23,268,000円の増。</p> <p>※地方消費税交付金のうち、社会保障財源化分は、社会保障施策に要する経費に充てています。</p> <p>【地方消費税交付金（社会保障財源化分）の充当事業】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>充当事業</th> <th>充当額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>社会福祉（生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など）</td> <td>300,249</td> </tr> <tr> <td>社会保険（国民健康保険、介護保険事業など）</td> <td>331,416</td> </tr> <tr> <td>保健衛生（疾病予防対策、健康増進対策事業など）</td> <td>155,082</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	収入済額のうち 社会保障財源化分	令和4年度	1,370,948,000	1,370,948,000	100%	786,747,000	令和3年度	1,347,680,000	1,347,680,000	100%	775,481,000	充当事業	充当額	社会福祉（生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など）	300,249	社会保険（国民健康保険、介護保険事業など）	331,416	保健衛生（疾病予防対策、健康増進対策事業など）	155,082									
年度	調定額	収入済額	収納率	収入済額のうち 社会保障財源化分																																
令和4年度	1,370,948,000	1,370,948,000	100%	786,747,000																																
令和3年度	1,347,680,000	1,347,680,000	100%	775,481,000																																
充当事業	充当額																																			
社会福祉（生活保護、児童福祉、障害者福祉事業など）	300,249																																			
社会保険（国民健康保険、介護保険事業など）	331,416																																			
保健衛生（疾病予防対策、健康増進対策事業など）	155,082																																			
11-1-1 地方交付税	財政課	普通交付税 9,316,684,000	9,316,684,000	<p>◎普通交付税</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>9,316,684,000</td> <td>9,316,684,000</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>9,956,230,000</td> <td>9,956,230,000</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・対前年度6.4%の減、金額にして639,546,000円の減。</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和4年度	9,316,684,000	9,316,684,000	100%	令和3年度	9,956,230,000	9,956,230,000	100%																				
年度	調定額	収入済額	収納率																																	
令和4年度	9,316,684,000	9,316,684,000	100%																																	
令和3年度	9,956,230,000	9,956,230,000	100%																																	

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																	
13-2-2 民生費負担金	保育課	放課後児童クラブ負担金（現年分） 44,029,000	39,329,750	<p>【普通交付税の算定】 (単位：千円)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>基準財政需要額 ①</td> <td>15,978,905</td> <td>16,248,923</td> </tr> <tr> <td>基準財政収入額 ②</td> <td>6,662,221</td> <td>6,292,693</td> </tr> <tr> <td>交付基準額 ③ (①-②)</td> <td>9,316,684</td> <td>9,956,230</td> </tr> <tr> <td>調整額 ④</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>普通交付決定額 ⑤ (③-④)</td> <td>9,316,684</td> <td>9,956,230</td> </tr> <tr> <td>臨時財政対策債発行可能額 ⑥</td> <td>210,146</td> <td>826,941</td> </tr> <tr> <td>実質交付税額 ⑤+⑥</td> <td>9,526,830</td> <td>10,783,171</td> </tr> </tbody> </table>	区分	令和4年度	令和3年度	基準財政需要額 ①	15,978,905	16,248,923	基準財政収入額 ②	6,662,221	6,292,693	交付基準額 ③ (①-②)	9,316,684	9,956,230	調整額 ④	0	0	普通交付決定額 ⑤ (③-④)	9,316,684	9,956,230	臨時財政対策債発行可能額 ⑥	210,146	826,941	実質交付税額 ⑤+⑥	9,526,830	10,783,171									
				区分	令和4年度	令和3年度																															
				基準財政需要額 ①	15,978,905	16,248,923																															
				基準財政収入額 ②	6,662,221	6,292,693																															
				交付基準額 ③ (①-②)	9,316,684	9,956,230																															
				調整額 ④	0	0																															
				普通交付決定額 ⑤ (③-④)	9,316,684	9,956,230																															
				臨時財政対策債発行可能額 ⑥	210,146	826,941																															
				実質交付税額 ⑤+⑥	9,526,830	10,783,171																															
				放課後児童クラブ負担金（過年分） 300,000	157,000	◎放課後児童クラブ負担金 現年度分	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>39,546,750</td> <td>39,329,750</td> <td>99.5%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>38,218,000</td> <td>38,077,000</td> <td>99.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	39,546,750	39,329,750	99.5%	—	—	令和3年度	38,218,000	38,077,000	99.6%	—	—										
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																	
				額	件数																																
令和4年度	39,546,750	39,329,750	99.5%	—	—																																
令和3年度	38,218,000	38,077,000	99.6%	—	—																																
放課後児童クラブ負担金（過年分） 300,000	157,000	◎放課後児童クラブ負担金 滞納繰越分	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>237,000</td> <td>157,000</td> <td>66.2%</td> <td>48,000</td> <td>12件</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>1,129,000</td> <td>340,000</td> <td>30.1%</td> <td>693,000</td> <td>122件</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	237,000	157,000	66.2%	48,000	12件	令和3年度	1,129,000	340,000	30.1%	693,000	122件														
年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																													
				額	件数																																
令和4年度	237,000	157,000	66.2%	48,000	12件																																
令和3年度	1,129,000	340,000	30.1%	693,000	122件																																
保育所保育料（現年分） 57,068,000	52,009,916	◎保育料 現年度分	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>52,591,896</td> <td>51,795,916</td> <td>98.5%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>69,046,276</td> <td>68,448,226</td> <td>99.1%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>一時保育料 7件 214,000円</p>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	52,591,896	51,795,916	98.5%	—	—	令和3年度	69,046,276	68,448,226	99.1%	—	—														
年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																													
				額	件数																																
令和4年度	52,591,896	51,795,916	98.5%	—	—																																
令和3年度	69,046,276	68,448,226	99.1%	—	—																																
保育所保育料（過年分） 1,670,000	1,160,450	◎保育料 滞納繰越分	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>2,082,090</td> <td>1,160,450</td> <td>55.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>2,360,290</td> <td>858,650</td> <td>36.4%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	2,082,090	1,160,450	55.7%	—	—	令和3年度	2,360,290	858,650	36.4%	—	—														
年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																													
				額	件数																																
令和4年度	2,082,090	1,160,450	55.7%	—	—																																
令和3年度	2,360,290	858,650	36.4%	—	—																																
延長保育料（現年分） 512,000	388,900	◎延長保育料 現年度分	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>393,100</td> <td>388,900</td> <td>98.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>539,100</td> <td>527,800</td> <td>97.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	393,100	388,900	98.9%	—	—	令和3年度	539,100	527,800	97.9%	—	—														
年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																													
				額	件数																																
令和4年度	393,100	388,900	98.9%	—	—																																
令和3年度	539,100	527,800	97.9%	—	—																																
延長保育料（過年分） 81,000	11,300	◎延長保育料 滞納繰越分	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>11,300</td> <td>11,300</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>81,300</td> <td>81,300</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	11,300	11,300	100.0%	—	—	令和3年度	81,300	81,300	100.0%	—	—														
年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																													
				額	件数																																
令和4年度	11,300	11,300	100.0%	—	—																																
令和3年度	81,300	81,300	100.0%	—	—																																
14-1-6 土木使用料	住宅政策課	31,324,000	29,462,530	◎住宅使用料 現年度分	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駐車場使用料</td> <td>1,873,000</td> <td>1,769,800</td> <td>94.5%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>市営住宅使用料</td> <td>4,178,000</td> <td>3,489,800</td> <td>83.5%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>改良住宅使用料</td> <td>24,647,300</td> <td>23,497,600</td> <td>95.3%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>30,698,300</td> <td>28,757,200</td> <td>93.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	駐車場使用料	1,873,000	1,769,800	94.5%	—	—	市営住宅使用料	4,178,000	3,489,800	83.5%	—	—	改良住宅使用料	24,647,300	23,497,600	95.3%	—	—	合 計	30,698,300	28,757,200	93.7%	—	—
				令和4年度	調定額					収入済額	収納率	不納欠損																									
						額	件数																														
駐車場使用料	1,873,000	1,769,800	94.5%	—	—																																
市営住宅使用料	4,178,000	3,489,800	83.5%	—	—																																
改良住宅使用料	24,647,300	23,497,600	95.3%	—	—																																
合 計	30,698,300	28,757,200	93.7%	—	—																																
◎住宅使用料 滞納繰越分	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和3年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>駐車場使用料</td> <td>1,986,000</td> <td>1,850,000</td> <td>93.2%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>市営住宅使用料</td> <td>4,585,900</td> <td>3,999,600</td> <td>87.2%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>改良住宅使用料</td> <td>24,688,600</td> <td>22,503,000</td> <td>91.1%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>31,260,500</td> <td>28,352,600</td> <td>90.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	駐車場使用料	1,986,000	1,850,000	93.2%	—	—	市営住宅使用料	4,585,900	3,999,600	87.2%	—	—	改良住宅使用料	24,688,600	22,503,000	91.1%	—	—	合 計	31,260,500	28,352,600	90.7%	—	—				
令和3年度	調定額					収入済額	収納率	不納欠損																													
		額	件数																																		
駐車場使用料	1,986,000	1,850,000	93.2%	—	—																																
市営住宅使用料	4,585,900	3,999,600	87.2%	—	—																																
改良住宅使用料	24,688,600	22,503,000	91.1%	—	—																																
合 計	31,260,500	28,352,600	90.7%	—	—																																

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																																																																																			
17-2-2 物品売払収入	交通政策課 契約管財課 那賀支所 危機管理消防課 廃棄物対策課 教育総務課	535,000	3,212,540	<table border="1"> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市貴志川町長原519番11（普通財産（宅地））</td> <td>66.99</td> <td>384,958</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市貴志川町長原519番15（普通財産（宅地））</td> <td>20.35</td> <td>72,039</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市別所230番1、長田中550番1（普通財産（宅地、雑種地））</td> <td>2,626.18</td> <td>27,510,000</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市杉原308番（普通財産（雑種地））</td> <td>1,909.00</td> <td>16,990,000</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市杉原15番1、16番1（普通財産（宅地））</td> <td>2,300.61</td> <td>21,533,000</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>紀の川市貴志川町岸小野207番ほか（あおば幼稚園用地、分割納付49回中27回目）</td> <td>3,310.98</td> <td>3,000,000</td> </tr> </table> <p>面積（㎡）は、土地の地積、建物の総面積です。</p>	土地	紀の川市貴志川町長原519番11（普通財産（宅地））	66.99	384,958	土地	紀の川市貴志川町長原519番15（普通財産（宅地））	20.35	72,039	土地	紀の川市別所230番1、長田中550番1（普通財産（宅地、雑種地））	2,626.18	27,510,000	土地	紀の川市杉原308番（普通財産（雑種地））	1,909.00	16,990,000	土地	紀の川市杉原15番1、16番1（普通財産（宅地））	2,300.61	21,533,000	土地	紀の川市貴志川町岸小野207番ほか（あおば幼稚園用地、分割納付49回中27回目）	3,310.98	3,000,000																																																																																																																											
				土地	紀の川市貴志川町長原519番11（普通財産（宅地））	66.99	384,958																																																																																																																																																
土地	紀の川市貴志川町長原519番15（普通財産（宅地））	20.35	72,039																																																																																																																																																				
土地	紀の川市別所230番1、長田中550番1（普通財産（宅地、雑種地））	2,626.18	27,510,000																																																																																																																																																				
土地	紀の川市杉原308番（普通財産（雑種地））	1,909.00	16,990,000																																																																																																																																																				
土地	紀の川市杉原15番1、16番1（普通財産（宅地））	2,300.61	21,533,000																																																																																																																																																				
土地	紀の川市貴志川町岸小野207番ほか（あおば幼稚園用地、分割納付49回中27回目）	3,310.98	3,000,000																																																																																																																																																				
18-1-1 一般寄附金	地域創生課	ふるさとまちづくり寄附金 1,400,000,000	1,392,119,800	<p>◎物品売払収入</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>調定額</th> <th>収入済額</th> <th>収納率</th> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>3,212,540</td> <td>3,212,540</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>4,754,780</td> <td>4,754,780</td> <td>100%</td> </tr> </table> <p>【物品売払の内訳】</p> <table border="1"> <tr> <th>区分</th> <th>数量</th> <th>収入済額</th> </tr> <tr> <td>バイク</td> <td>1台</td> <td>38,000</td> </tr> <tr> <td>乗用車</td> <td>5台</td> <td>643,000</td> </tr> <tr> <td>マイクロバス</td> <td>2台</td> <td>110,000</td> </tr> <tr> <td>消防自動車</td> <td>4台</td> <td>257,000</td> </tr> <tr> <td>清掃運搬車</td> <td>1台</td> <td>1,234,000</td> </tr> <tr> <td>し尿運搬車</td> <td>1台</td> <td>778,740</td> </tr> <tr> <td>パソコン等</td> <td>560台</td> <td>151,800</td> </tr> </table> <p>◎ふるさと納税寄附金</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>収入済額</th> <th>件数</th> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>1,387,749,800</td> <td>117,285件</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>770,744,400</td> <td>60,708件</td> </tr> </table> <p>◎企業版ふるさと納税寄附金</p> <table border="1"> <tr> <th>年度</th> <th>収入済額</th> <th>件数</th> </tr> <tr> <td>令和4年度</td> <td>4,370,000</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>1,500,000</td> <td>2件</td> </tr> </table> <p>【ふるさと納税寄附金の地域別件数】</p> <table border="1"> <tr> <th>地域</th> <th>令和4年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> <tr> <td>北海道</td> <td>2,679件</td> <td>1,146件</td> </tr> <tr> <td>東北</td> <td>2,281件</td> <td>1,138件</td> </tr> <tr> <td>関東</td> <td>52,927件</td> <td>27,361件</td> </tr> <tr> <td>中部</td> <td>16,254件</td> <td>7,718件</td> </tr> <tr> <td>近畿</td> <td>29,099件</td> <td>16,929件</td> </tr> <tr> <td>中国・四国</td> <td>5,208件</td> <td>2,586件</td> </tr> <tr> <td>九州・沖縄</td> <td>8,837件</td> <td>3,830件</td> </tr> </table> <p>【ふるさと納税寄附金の返礼品別寄附実績】</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">返礼品</th> <th colspan="2">令和4年度</th> <th colspan="2">令和3年度</th> </tr> <tr> <th>件数</th> <th>寄附額</th> <th>件数</th> <th>寄附額</th> </tr> <tr> <td>果物</td> <td>93.5%</td> <td>91.7%</td> <td>90.9%</td> <td>89.7%</td> </tr> <tr> <td> 桃</td> <td>75.2%</td> <td>78.5%</td> <td>65.4%</td> <td>67.3%</td> </tr> <tr> <td> 柿</td> <td>2.6%</td> <td>2.1%</td> <td>8.1%</td> <td>6.9%</td> </tr> <tr> <td> 八朔</td> <td>3.0%</td> <td>1.7%</td> <td>4.6%</td> <td>2.6%</td> </tr> <tr> <td> いちご</td> <td>0.6%</td> <td>0.7%</td> <td>2.9%</td> <td>3.0%</td> </tr> <tr> <td> いちじく</td> <td>1.6%</td> <td>1.3%</td> <td>2.0%</td> <td>1.7%</td> </tr> <tr> <td> キウイ</td> <td>1.3%</td> <td>1.0%</td> <td>1.6%</td> <td>1.6%</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>9.2%</td> <td>6.4%</td> <td>6.3%</td> <td>6.6%</td> </tr> <tr> <td>飲料類</td> <td>2.3%</td> <td>2.0%</td> <td>3.4%</td> <td>3.5%</td> </tr> <tr> <td>加工品</td> <td>2.5%</td> <td>2.7%</td> <td>2.9%</td> <td>3.4%</td> </tr> <tr> <td>肉類</td> <td>0.3%</td> <td>0.4%</td> <td>1.2%</td> <td>1.4%</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>1.4%</td> <td>3.2%</td> <td>1.6%</td> <td>2.0%</td> </tr> </table>	年度	調定額	収入済額	収納率	令和4年度	3,212,540	3,212,540	100%	令和3年度	4,754,780	4,754,780	100%	区分	数量	収入済額	バイク	1台	38,000	乗用車	5台	643,000	マイクロバス	2台	110,000	消防自動車	4台	257,000	清掃運搬車	1台	1,234,000	し尿運搬車	1台	778,740	パソコン等	560台	151,800	年度	収入済額	件数	令和4年度	1,387,749,800	117,285件	令和3年度	770,744,400	60,708件	年度	収入済額	件数	令和4年度	4,370,000	3件	令和3年度	1,500,000	2件	地域	令和4年度	令和3年度	北海道	2,679件	1,146件	東北	2,281件	1,138件	関東	52,927件	27,361件	中部	16,254件	7,718件	近畿	29,099件	16,929件	中国・四国	5,208件	2,586件	九州・沖縄	8,837件	3,830件	返礼品	令和4年度		令和3年度		件数	寄附額	件数	寄附額	果物	93.5%	91.7%	90.9%	89.7%	桃	75.2%	78.5%	65.4%	67.3%	柿	2.6%	2.1%	8.1%	6.9%	八朔	3.0%	1.7%	4.6%	2.6%	いちご	0.6%	0.7%	2.9%	3.0%	いちじく	1.6%	1.3%	2.0%	1.7%	キウイ	1.3%	1.0%	1.6%	1.6%	その他	9.2%	6.4%	6.3%	6.6%	飲料類	2.3%	2.0%	3.4%	3.5%	加工品	2.5%	2.7%	2.9%	3.4%	肉類	0.3%	0.4%	1.2%	1.4%	その他	1.4%	3.2%	1.6%	2.0%
年度	調定額	収入済額	収納率																																																																																																																																																				
令和4年度	3,212,540	3,212,540	100%																																																																																																																																																				
令和3年度	4,754,780	4,754,780	100%																																																																																																																																																				
区分	数量	収入済額																																																																																																																																																					
バイク	1台	38,000																																																																																																																																																					
乗用車	5台	643,000																																																																																																																																																					
マイクロバス	2台	110,000																																																																																																																																																					
消防自動車	4台	257,000																																																																																																																																																					
清掃運搬車	1台	1,234,000																																																																																																																																																					
し尿運搬車	1台	778,740																																																																																																																																																					
パソコン等	560台	151,800																																																																																																																																																					
年度	収入済額	件数																																																																																																																																																					
令和4年度	1,387,749,800	117,285件																																																																																																																																																					
令和3年度	770,744,400	60,708件																																																																																																																																																					
年度	収入済額	件数																																																																																																																																																					
令和4年度	4,370,000	3件																																																																																																																																																					
令和3年度	1,500,000	2件																																																																																																																																																					
地域	令和4年度	令和3年度																																																																																																																																																					
北海道	2,679件	1,146件																																																																																																																																																					
東北	2,281件	1,138件																																																																																																																																																					
関東	52,927件	27,361件																																																																																																																																																					
中部	16,254件	7,718件																																																																																																																																																					
近畿	29,099件	16,929件																																																																																																																																																					
中国・四国	5,208件	2,586件																																																																																																																																																					
九州・沖縄	8,837件	3,830件																																																																																																																																																					
返礼品	令和4年度		令和3年度																																																																																																																																																				
	件数	寄附額	件数	寄附額																																																																																																																																																			
果物	93.5%	91.7%	90.9%	89.7%																																																																																																																																																			
桃	75.2%	78.5%	65.4%	67.3%																																																																																																																																																			
柿	2.6%	2.1%	8.1%	6.9%																																																																																																																																																			
八朔	3.0%	1.7%	4.6%	2.6%																																																																																																																																																			
いちご	0.6%	0.7%	2.9%	3.0%																																																																																																																																																			
いちじく	1.6%	1.3%	2.0%	1.7%																																																																																																																																																			
キウイ	1.3%	1.0%	1.6%	1.6%																																																																																																																																																			
その他	9.2%	6.4%	6.3%	6.6%																																																																																																																																																			
飲料類	2.3%	2.0%	3.4%	3.5%																																																																																																																																																			
加工品	2.5%	2.7%	2.9%	3.4%																																																																																																																																																			
肉類	0.3%	0.4%	1.2%	1.4%																																																																																																																																																			
その他	1.4%	3.2%	1.6%	2.0%																																																																																																																																																			

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容					
21-3-1 土木費貸付金元利収入	住宅政策課	3,000	0	◎貸付金元利収入 現年度分					
				令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損 額 件数	
				住宅新築資金(国)	223,824	0	0.0%	—	—
				住宅新築資金(県)	95,052	0	0.0%	—	—
				宅地取得資金(国)	120,600	0	0.0%	—	—
				住宅改修資金(国)	161,724	0	0.0%	—	—
				合 計	601,200	0	0.0%	—	—
				令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損 額 件数	
				住宅新築資金(国)	701,625	477,801	68.1%	—	—
				住宅新築資金(県)	95,052	0	0.0%	—	—
				宅地取得資金(国)	120,600	0	0.0%	—	—
				住宅改修資金(国)	161,724	0	0.0%	—	—
				合 計	1,079,001	477,801	44.3%	—	—
		6,264,000	5,974,790	◎貸付金元利収入 滞納繰越分					
				令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損 額 件数	
				住宅新築資金(国)	132,742,979	4,530,799	3.4%	6,784,043	1件
				住宅新築資金(県)	18,092,887	90,000	0.5%	770,409	1件
				宅地取得資金(国)	72,271,998	1,333,991	1.8%	4,777,161	1件
				宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—
				住宅改修資金(国)	12,272,769	20,000	0.2%	—	—
				合 計	235,380,633	5,974,790	2.5%	12,331,613	3件
				令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損 額 件数	
				住宅新築資金(国)	142,398,078	9,878,923	6.9%	—	—
				住宅新築資金(県)	19,487,479	1,489,644	7.6%	—	—
				宅地取得資金(国)	74,532,937	2,381,539	3.2%	—	—
				宅地取得資金(県)	0	0	—	—	—
				住宅改修資金(国)	12,356,908	245,863	2.0%	—	—
				合 計	248,775,402	13,995,969	5.6%	—	—

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名		議会秘書事業		担当課	議事調査課			事業区分	内部管理事業		
	会計		一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	433		
	予算科目	款	1	議会費	長期総合計画体系	政策目標	99	*****				
		項	1	議会費		施策目標	99	*****				
目		1	議会費	基本施策		99	*****					
議事が円滑に議会活動が行えるように、日程の調整、随行、関連団体への参画を支援する事業						取組方針	9	その他				
事務事業を構成する細事業	① 秘書業務		⑤ 全国高速自動車道市議会協議会負担金		⑨							
	② 全国市議会議長会負担金		⑥		⑩							
	③ 近畿市議会議長会負担金		⑦		⑪							
	④ 県市議会議長会負担金		⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	議会交際費支出件数	目標						目標値の設定になじまないため、支出件数を実績値とする。新型コロナウイルス感染症拡大防止対応により、式典等の中止や開催方法を変更する傾向にあり、令和3年度と同程度であった。			
			実績	3	3	5						
	<指標の計算方法>		交際費の支出件数									
	成果指標	議会公務等件数	目標						目標値の設定になじまないため、出席した件数を実績値とする。新型コロナウイルス感染症拡大防止対応により、議会を書面で開催したり、イベントを自粛する傾向にあり、出席件数が減少した。			
			実績	90	82	80						
<指標の計算方法>		議長等が公務等に出席した件数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,413			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			2,413									
事業の実績	① 秘書業務											
	・慶弔 0件											
	・賛助、協賛 0件											
	・会費 1件											
	・接遇、土産 2件											
・その他 2件												
② 全国市議会議長会負担金												
・定期総会1回												
・委員会3回												
③ 近畿市議会議長会負担金												
・定期総会1回												
・研修会1回												
④ 県市議会議長会負担金												
・総会2回												
⑤ 全国高速自動車道市議会協議会負担金												
・定期総会1回												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 正副議長及び議員が議会を代表して出席する会議等の日程調整や随行による支援をすることで、議員が円滑に議会活動を行えるため、事務局によるサポートが必要であり妥当である。 議会交際費は、必要最低限の社会的儀礼を果たすための支出であり、用途を公開することによりその妥当性を示している。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
<ul style="list-style-type: none"> 議会秘書事業は、目標値を設定することに適さないが、性質上、必要不可欠な業務である。 議員が円滑に議会活動を行っていくために適切なサポートができています。 												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<ul style="list-style-type: none"> 議会秘書業務に要する費用で、必要最小限の経費以外計上していないため、コスト削減は難しい。 											

事務事業の概要	事務事業名	議会運営事業			担当課	議事調査課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	437	
	予算科目	款	1	議会費	長期総合計画体系	政策目標	99	*****				
		項	1	議会費		施策目標	99	*****				
		目	1	議会費		基本施策	99	*****				
取組方針	9	その他										
事業概要	市議会の適正な運営と市民にわかりやすく開かれた議会づくりに取り組むとともに、定例会、委員会等の開催や議会広報紙の発行を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	議員報酬・共済			⑤	議事調査業務		⑨				
	②	本会議運営			⑥			⑩				
	③	委員会等運営			⑦			⑪				
	④	議会広報・HP編集業務			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	本会議・委員会等開催回数	目標	60	120	120	120	120	新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、視察の中止及び会議の延期などのため減少した。			
			実績	154	148	115						
	<指標の計算方法>		定例会、臨時会、議会運営委員会、常任委員会、特別委員会、研修会、その他会議									
	成果指標	委員会・議員提出議案件数	目標	3	3	3	3	3	令和3年度より減少したが、必要とされる後方支援業務は遂行できている。			
			実績	6	4	1						
	<指標の計算方法>		委員会提出議案、議員提出議案									
	活動指標	議会広報紙配布部数	目標	104,000	104,000	104,200	104,400	104,400	議会広報紙配布数は、目標どおり配布している。			
			実績	104,000	104,000	104,400						
	<指標の計算方法>		年4回発行、1回につき26,100部印刷									
成果指標	傍聴者数	目標	0	50	50	50	50	傍聴者数は、市民の議会及び市政への関心が大きく左右するため成果指標とした。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況にも関わらず目標どおりであった。				
		実績	41	132	71							
<指標の計算方法>		定例会、各種委員会傍聴者数（議員の傍聴は除く。）										
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			165,494							165,494		
事業の実績	①議員報酬・共済		期末手当	意見書案		0件	10月14日：紀の川市役所					
	・毎月の報酬		6月期	決議案		0件						
		議長	460,000円	2.15月			③委員会等運営 ・令和4年度の3常任委員会の視察研修については、新型コロナウイルス感染症対応により中止。					
		副議長	410,000円	2.25月								
		議員	370,000円	4.4月			④議会広報・HP編集業務 ・1回につき26,100部印刷 ・年4回発行（5月、8月、11月、2月） ・本会議の録画配信を実施（6月、9月、12月、3月） 再生回数 2,592件 ・会議録検索システムの導入 アクセス数 5,485件					
		②本会議運営		⑤議事調査業務		8月19日：紀の川市役所						
		・議案等処理状況		・議員研修会								
		予算	38件									
		条例案（議員提出）	1件									
		条例案（委員会提出）	0件									
		条例案（市長提出）	26件									
		議決案	5件									
		任命（選任）同意	23件									
		認定	21件									
		専決の承認（予算）	4件									
		専決の承認（条例）	5件									
		専決の承認（契約等）	0件									
		諮問案	3件									
		議会会議規則案	0件									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・議会は、市民の代表者である議員で構成され、議案の審議・調査等を行うことにより、地方公共団体における市民の意思や要望を行政に反映させるための市の最高の意思決定機関であり、施策に結びつけるものではない。 ・議会の果たすべき役割である意思決定機関、また執行機関を監視する機関として必要不可欠な事務事業であり、事務局によるサポートが必要であり妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・各種法令等に基づき適正に事務を執行し、円滑な議会運営を行っていくために適切なサポートができています。 ・成果指標は、市民の議会及び市政への関心が大きく左右する。議会に対する理解を深めていただく重要なツールである議会広報紙の発行は、インターネットを利用する環境にない市民をはじめ、多くの市民に議会に関心を持っていただくきっかけづくりを担うものであり有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・議会運営に要する費用で事業費の大部分が報酬等の人件費であり、他には経常経費以外計上しておらず、現状以上にコスト削減は難しい。											

事務事業の概要	事務事業名	行政秘書事業			担当課	秘書課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	445	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針				9	その他							
事業概要	市長、副市長が円滑に公務の遂行が行えるように、日程の調整や随行、関連団体へ参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	秘書・渉外業務			⑤	県市長会負担金			⑨			
	②	栄典・表彰業務（地方自治功労）			⑥				⑩			
	③	全国市長会負担金			⑦				⑪			
	④	近畿市長会負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	市長交際費支出件数	件	目標						市政の円滑な運営と発展のため、式典や大会等への市長交際費の支出件数。令和4年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、式典や大会等の中止や出席自粛が続いていたが、令和4年度の支出件数は増加となった。		
			実績		19	16	43					
	<指標の計算方法>		交際費の年間支出件数									
	活動指標	地方自治功労等に係る栄典及び表彰等の推薦件数	件	目標						叙勲等の受章条件を満たす者が限られるため、推薦件数は少なくなるが、該当者漏れがないよう、各部署と情報を共有し、細心の注意を払い事務をつかさどる。		
			実績		2	4	5					
<指標の計算方法>		年間の推薦件数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,899			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,899		
事業の実績	①秘書・渉外業務 市長、副市長の円滑な公務遂行を補助。			②栄典・表彰業務（地方自治功労） 地方自治功労等に係る栄典及び表彰等の推薦を行う。			③全国市長会負担金 ④近畿市長会負担金 ⑤県市長会負担金					
	「交際費執行状況」 ・慶弔 慶祝 3件 30,000円 ・慶弔 弔慰 0件 0円 ・慶弔 見舞い 0件 0円 ・会費 15件 180,000円 ・激励 4件 50,344円 ・賛助、協賛、協力 1件 5,000円 ・渉外、接遇 20件 511,801円 ・その他 0件 0円 合計 43件 777,145円			・叙勲 2名 ・褒章 0 ・高齢者叙勲 1名 ・死亡叙勲 0 ・叙位 1名 ・県知事表彰 1名 ・その他 0 推薦件数合計 5件			市政の円滑なる運営と進展に資するため、各市との連携を図り、政府等に対して要望活動を行う。					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・行政秘書事業は、市長、副市長が公務を円滑に遂行するために必要不可欠な業務である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・市長、副市長の公務管理・執行補助は的確にできている。 ・突発的な公務が発生した場合であっても、スケジュールを微調整できる体制が構築されている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・来訪者や対外公務等により、内部調整等の時間確保が難しい時もあるが、効率的に業務をすすめて行くことができています。											

事務事業の概要	事務事業名	総務庶務事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	448	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針				9	その他							
事業概要	市が効率的な行政運営をするために、庁内総務業務の処理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 防火管理協議会負担金			⑤ 自動車臨時運行許可			⑨					
	② 平和首長会議メンバーシップ負担金			⑥ 一般寄附金受入			⑩					
	③ 公印・市章管理			⑦ 北方領土返還要求運動和歌山県民会議負担金			⑪					
	④ 自衛官募集			⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	自動車臨時運行許可件数	件	目標						年々需要が減ってきている。		
		実績		546	490	387						
	<指標の計算方法>		許可件数									
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
	<指標の計算方法>											
	目標											
	実績											
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	371			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	239 93		
事業の実績	①防火管理協議会負担金 ・消防操法大会 新型コロナウイルス感染症の影響で中止 ※代替訓練も新型コロナウイルス感染症の影響で中止 ※議案の承認に伴い令和4年度負担金はなし			を、車検・登録などの目的で運行させる必要があるとき、申請に基づき仮ナンバーを交付								
	②平和首長会議メンバーシップ負担金 核のない世界恒久平和の実現に向けた国際世論を醸成			⑥一般寄附金受入 5件、916,123円								
	③公印・市章管理 市長印の使用確認、市章の使用申請の許可			⑦北方領土返還要求運動和歌山県民会議負担金 ・北方領土返還要求運動和歌山県民会議総会 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため書面開催 ・北方領土返還要求和歌山県民大会 新宮市で開催（職員2名参加）								
	④自衛官募集 市広報紙へ年4回掲載											
	⑤自動車臨時運行許可 未登録自動車・検査証の有効期間満了車											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市として行わなければならない、又は行った方が望ましい業務である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・市として対外的に必要な業務、内務事務で必要な業務や住民サービス関係の業務等を支障なく運用することができている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・複数の部署で処理するよりも、総務課が取りまとめて処理することにより、無駄のない運用ができている。											

事務事業の概要	事務事業名	法制事業		担当課	総務課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	450	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1	一般管理費		基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針	9	その他									
事業概要	市が法令に基づき適正な事務を執行するために、条例等の制定や改廃についての審査や管理等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	例規審査		⑤			⑨				
	②	例規管理		⑥			⑩				
	③	公示・公告式・官報管理		⑦			⑪				
	④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	条例等の制定改廃件数	目標							押印の見直しによる関連例規の改正がほぼ完了したため、令和4年度は実績値が大幅に減少した。令和5年度は、機構改革による改正により増加する見込みである。	
			実績	288	511	204					
	<指標の計算方法>		条例、規則、訓令、告示等の制定改廃件数								
	成果指標	例規管理システムへの登録件数	目標								原油価格・物価高騰に関する補助事業の新設等により微増となった。
			実績	995	1,023	1,033					
	<指標の計算方法>		例規管理システムに登録している例規の件数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,306			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,306	
事業の実績	①例規審査 制定改廃件数 204件 ②例規管理 システム登録件数 1,033件 ③公示・公告式・官報管理 紀の川市公告式条例に基づき適正に実施										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市の施策及び事業を規程にする事務は行政運営上必要不可欠であり、民間その他の機関で実施できるものではない。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・外部の法制研修への参加をはじめ、例規システム委託業者への相談、質問等を積極的に行い、法制知識の向上や例規の充実に務めている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・平成26年度に構築したシステムの保守費用及び例規データの更新費用のみのため、経費の大幅な削減は困難である。業務委託先を変更した場合、初期データの構築費並びに過去例規データ、原議データ及び改正履歴データの再構築経費が上乗せとなる。											

事務事業の概要	事務事業名	顧問弁護士相談事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	449	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市及び職員が、問題の適切な対応及び解決を図るために、顧問弁護士に法的問題に関する相談を行い、助言を受ける事業											
事務事業を構成する細事業	①	法律相談			⑤				⑨			
	②	訴訟等対応			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	法律相談件数	件	目標						提訴された事件に関する相談が増えたことにより令和3年度より増加した。		
				実績		40	28	45				
	<指標の計算方法>		法律相談件数									
	成果指標	訴訟等件数	件	目標						令和4年度中に提訴された件数が3件。令和元年度以来実績はなかった。		
				実績				3				
<指標の計算方法>		訴訟、調停、和解等の事件数（提訴した事件を除く。）										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,980			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,980		
事業の実績	①法律相談 18課から事案があり相談時間は延べ1,715分											
	②訴訟等対応 提訴された3件について顧問弁護士に代理委任											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・業務を行う上で生じる法的問題に適切に対応するため、本事業は不可欠である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・法の専門家である弁護士の助言を受けて問題に対処することで、最善の方法で、説得力のある対応ができる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・顧問弁護士に相談した上で案件の解決に取り組むことで、悪化を防ぎ、早期解決に役立っている。											

事務事業の概要	事務事業名	行政手続制度整備事業			担当課	総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1045
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	1 一般管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	市が適正な基準をもって各手続に対する審理や行政処分が行えるように、市の行政手続制度の整備を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	制度整備			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	成果指標	法令に基づく申請に対する処分公表件数	件	目標							適正に処理され、公表されている。
			実績		217	255	276				
		<指標の計算方法>	法令に基づく申請に対する処分公表件数								
	成果指標	法令に基づく不利益処分公表件数	件	目標							適正に処理され、公表されている。
			実績		222	254	236				
		<指標の計算方法>	法令に基づく不利益処分公表件数								
	成果指標	例規に基づく申請に対する処分公表件数	件	目標							適正に処理され、公表されている。
			実績		152	155	163				
		<指標の計算方法>	例規に基づく申請に対する処分公表件数								
	成果指標	例規に基づく不利益処分公表件数	件	目標							適正に処理され、公表されている。
			実績		126	129	127				
<指標の計算方法>		例規に基づく不利益処分公表件数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
		330		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	330	
事業の実績	①制度整備 ・行政手続制度整備のための作業説明会を動画を個人のパソコンで視聴する形で行った。 ・法令及び例規に基づく、申請に対する処分及び不利益処分の個票を追加、削除、更新し、市ホームページで公表を行った。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・行政手続法及び紀の川市行政手続条例に基づき処分基準を公表する必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・行政手続法及び紀の川市行政手続条例に基づき処分基準を公表する必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・各処分担当課による処分の見直し及び更新を行えば業務委託は不要となるが、取りまとめに要する時間及び精度の保持を考慮すると、業務委託により実施することが効率的と考える。										

事務事業の概要	事務事業名	行政不服審査事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1064	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 一般管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針				9	その他							
事業概要	審査請求人の権利が適正に確保されるように、市が行政処分審査請求がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	行政不服審査			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	審査請求件数	回	目標						抜本的に改正された行政不服審査法が平成28年4月1日に施行されて以降、令和元年度を除き、各年度それぞれ1件の審査請求があった。		
				実績	1	1	1					
	<指標の計算方法>		年間審査請求件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	630			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			630									
事業の実績	①行政不服審査 ・市の処分等に関して不服があり、審査請求が提出された場合、その処分等について審査を実施する。 審査請求件数 1件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・行政不服審査法に基づき、市が適切に運用する必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・市が行う処分に対し、不服を申し立てることができる制度である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・不服申し立てを審査する審理員について、弁護士を臨時的に任用することで事務を効率的に進めることができている。											

事務事業の概要	事務事業名	情報公開・個人情報保護事業			担当課	総務課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1066
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	1 一般管理費				基本施策	1	市政情報の発信と適正な情報管理		
事業概要	関連条例等に基づき開示等が適正になされるよう、関係部署への指導や審査会の運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	情報公開	⑤				⑨				
	②	個人情報保護	⑥				⑩				
	③	関係例規の整備	⑦				⑪				
	④	審査会の統合	⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	審査請求に係る情報公開審査会開催回数	目標						平成26年度以降、審査請求に係る情報公開審査会の開催はなし。		
			実績								
	<指標の計算方法>		審査請求に係る情報公開審査会の年間開催回数								
	成果指標	公文書開示請求件数	目標						公文書開示請求件数は令和3年度に比べて減少した。		
			実績	100	68	41					
	<指標の計算方法>		公文書開示請求件数								
	活動指標	審査請求に係る個人情報保護審査会	目標						審査請求に係る個人情報保護審査会の開催はなし。		
			実績								
	<指標の計算方法>		審査請求に係る個人情報保護審査会の年間開催数								
成果指標	個人情報開示請求件数	目標						個人情報開示請求件数は令和3年度と同件数であった。			
		実績	16	22	22						
<指標の計算方法>		個人情報開示請求件数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
1,849									1,849		
事業の実績	①情報公開 市で保管している公文書についての開示請求書及び任意開示申出書を受け付ける。										
	②個人情報保護 市で保管している自己情報について開示請求書を受け付ける。										
	③関係例規の整備 令和5年4月1日施行の個人情報保護法の改正に伴い、紀の川市個人情報の保護に関する条例の廃止及び紀の川市個人情報保護法施行条例の制定を行った。										
	④審査会の統合 審査事務の効率化を図るため、紀の川市情報公開審査会及び紀の川市個人情報保護審査会を統合した紀の川市情報公開・個人情報保護審査会設置条例を制定した。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・個人情報の保護に配慮しながら、行政が保有している情報を公開している。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・自己の情報のコントロール権を保障し、市の説明責任を果たすことは、開かれた市政の実現を目指す手段として有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・必要最小限のコストで事務を行っているため、改善の余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名	文書管理事業		担当課	総務課		事業区分	内部管理事業				
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	460		
	予算科目	款	2 総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
	項目	1	総務管理費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
	目	1	一般管理費		基本施策	1	市政情報の発信と適正な情報管理					
事業概要	職員が公文書を迅速に検索、閲覧できるように、登録から所在確認、廃棄までの管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	文書等收受・発送・配付			⑤				⑨			
	②	文書管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	文書管理作業日数	日	目標	174	174	174	174	174	令和3年度に比べ、廃棄文書等の増加により、委託業者の作業日数が増加した。		
				実績	179	165	180.5					
	<指標の計算方法>		日数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	11,153			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	11,153		
事業の実績	①文書等收受・発送・配付 ・各課からの通知文書を取りまとめ発送。 ・郵送されてきた文書の收受を行い、各課へ配付し、各支所についてはメール便で配付。											
	②文書管理 登録12,752件、修正10,674件、削除1,023件(廃棄除く) 書庫移管8,825件(1,649箱) 廃棄11,955件(830箱) 廃棄年度延長1,620件 廃棄年度延長文書の統廃合1,280件(344箱)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・現状通り継続する必要がある業務である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・事業実施により、職員が公文書を迅速に検索閲覧することができる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・職員自ら確認する必要があることから、現状の一部委託の状態が効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	監察業務事業			担当課	人材マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	840	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	項目	1	総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	目	1	一般管理費			基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実				
事業概要	廉潔で透明性のある市政を実現するために、職員の法令遵守を推進し、監察、調査、指導を行い、また、市への不当要求行為対策に協力する事業											
事務事業を構成する細事業	①	監察業務			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	業務指導・相談件数	件	目標							対前年度比67.1%の減。	
				実績		50	73	24				
	<指標の計算方法>		監察監が実施した職員の業務指導・相談の件数									
	活動指標	不当要求行為対応件数	件	目標							対前年度比75.0%の減。	
				実績		5	4	1				
	<指標の計算方法>		監察監が対応した不当要求行為の件数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
5,703										5,703		
事業の実績	①監察業務 ・業務指導・相談 24件 内 不当要求行為対応 1件 ・新規採用職員対象公務員倫理等研修 1回											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・公正かつ民主的な市政の運営のため、職員の法令遵守を推進する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・市政に対する市民の信頼を得るには有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・専門知識や経験のある者を任用することで効率性は向上する。											

事務事業の概要	事務事業名	職員人事管理事業			担当課	人材マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	3	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	2 人事管理費				基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実			
事業概要	組織の活性化と限られた人員で最大の成果を得る体制づくりをすすめるために、職員の就業管理、定員管理、人事異動を実施する事業											
事務事業を構成する細事業	①	職員人事管理			⑤					⑨		
	②	職員勤務・休暇管理			⑥					⑩		
	③	年末調整事務			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	平均年次有給休暇取得日数	日	目標	10	10	10	10	10	数時間であるが、年々、平均年次有給休暇の取得日数が向上している。		
				実績	10.38	10.6	11.03					
	<指標の計算方法>		全職員の年次有給休暇取得日数÷職員数									
	成果指標	職員数	人	目標	545	545	541	537	536	職員適正化計画の計画目標数値内の職員数となっている。		
				実績	545	542	534					
<指標の計算方法>		4月1日職員数										
活動指標	職場巡視実施回数	回	目標	14	13	13	13	13	新型コロナウイルス感染症の影響もあって、超過勤務縮減月間を定めず規模を縮小して職場巡視を予定していたが、全国的な新型コロナウイルス感染症が拡大していた期間は中止とした。			
			実績	6	2	2						
<指標の計算方法>		職場巡視実施回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	12,698			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	12,698		
事業の実績	①職員人事管理 ・職員の人事異動 280人 (令和5年度に向けての異動準備) ・定年退職者 10人 ・定年延長に伴う条例、規則等を改正 ②職員勤務・休暇管理 ・育児休業取得者 14人(内 男性3人) ・産前産後休業取得者 5人 ・病気休業取得者 177人(内 新型コロナウイルス感染症による病気休業取得者158人) ③年末調整事務 ・年末調整事務(特別職を含む正職員) 535人 ・年末調整事務(会計年度任用職員) 336人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・人事異動によって限られた人員で最大の成果を得る体制をつくるための事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・人事異動により適材適所に職員を配置し職員の能力を十分に発揮することは、市民サービスの向上に繋がる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・本来業務の事務効率の向上を図るため、定型業務などの民間企業ができる業務については、民間委託への転換を促進している。											

事務事業の概要	事務事業名	職員給与管理事業			担当課	人材マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	451	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	項目	1	総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	目	2	人事管理費			基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実				
事業概要	職員が適正な給与を受け取れるように、給与、手当の支給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	特別職報酬等審議会			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標 特別職報酬等審議会開催回数	回	目標	1	1	3	1	1	市議会議員報酬について審査を行った。			
			実績	0	0	3						
	<指標の計算方法>		審議会の開催回数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	161			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			161									
事業の実績	①特別職報酬等審議会 ・第1回審議会 7月28日開催 ・第2回審議会 8月25日開催 ・第3回審議会 10月7日開催 ・答申 11月2日											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・適正な給与及び議員報酬を公正に決定する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・特別職報酬等審議会については、学識経験者を構成委員としている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業自体の効率性を評価すべき事業ではない。											

事務事業の概要	事務事業名	人材育成研修事業		担当課	人材マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	452	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	2 人事管理費			基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実			
取組方針	1		戦略的な人材育成の推進								
事業概要	職員の能力の向上を図るために、各種研修や人事評価等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	職員採用			⑤	県市町村職員研修協議会負担金			⑨		
	②	職員研修			⑥				⑩		
	③	職員派遣			⑦				⑪		
	④	人事評価			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	職員研修開催回数 (市主催研修)	回	目標	20	20	20	20	20	新型コロナウイルス感染症の影響で全体研修は実施できなかったが、感染状況をみながら実施可能な研修を実施した結果、対前年度比82.3%の増となった。	
				実績	19	17	31				
	<指標の計算方法>		市が主催する研修の回数								
	成果指標	職員研修延べ受講者数	人	目標	2,500	2,500	1,000	1,000	1,000		新型コロナウイルス感染症の影響で全体研修の未実施に加え、和歌山県市町村職員研修協議会主催の研修会への参加を控えたため、対前年度比5.4%の減となった。
				実績	962	718	679				
	<指標の計算方法>		市主催研修+和歌山県市町村職員研修協議会主催研修+民間機関等主催研修の受講者数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	5,482			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①職員採用			④人事評価							
	<ul style="list-style-type: none"> 事務職 ・受験者数 88人 ・採用者数 13人 土木職 ・受験者数 4人 ・採用者数 1人 保育職 ・受験者数 22人 ・採用者数 3人 			<ul style="list-style-type: none"> 令和4年4月～令和5年3月にかけて業績評価 ・能力評価を実施 							
事業の実績	②職員研修			⑤県市町村職員研修協議会負担金							
	<ul style="list-style-type: none"> 階層別研修 9回 新規採用職員研修(スタートアップ研修、プレゼンテーション研修、フォローアップ研修、メンター制度等) 16回 職員提案制度研修 5回 安全運転研修 1回 			<ul style="list-style-type: none"> 一般研修 19人受講 専門研修 1人受講 							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地方公務員法により職員に研修機会を提供する義務があるため実施する事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
<ul style="list-style-type: none"> 職員個々の能力向上により、組織力向上を図るため研修内容の更なる充実を図っている。 受験者確保のため職員採用試験の情報発信を充実させる必要がある。 											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・「人材育成体系基本計画」に基づいて階層別研修を推進していく。										

事務事業の概要	事務事業名	職員福利厚生事業			担当課	人材マネジメント課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	456
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	2 人事管理費				基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実		
事業概要	職員の福利厚生の充実を図るために、共済や公務災害補償に関する諸手続きや健康管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	職員共済組合事務			⑤				⑨		
	②	公務災害補償事務			⑥				⑩		
	③	職員健康・安全管理			⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	健康診断受検率	%	目標	100	100	100	100	100	妊娠等以外の職員のほぼ全員が健康診断又は人間ドックを受検した。	
				実績	97.6	97	96.4				
	<指標の計算方法>		職員の健康診断・人間ドックの受検率（3役を含む）								
	成果指標	公務災害の発生件数	件	目標						令和3年度より1件減少。	
				実績	10	3	2				
	<指標の計算方法>		正職員の公務災害発生件数								
	成果指標	非常勤公務災害の発生件数	件	目標						令和3年度より1件減少。	
				実績	1	4	3				
	<指標の計算方法>		会計年度任用職員（非常勤職員）の公務災害発生件数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	12,210			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	12,210	
事業の実績	①職員共済組合事務 (令和4年10月～会計年度任用職員含む) 保険得喪手続き 518件 貸付手続き 2件 貯金手続き 140件 インフルエンザ助成手続き 295件			心の健康相談 27人相談							
	②公務災害補償事務 地方公務員災害補償 2件 非常勤職員公務災害補償 3件 ③職員健康・安全管理 職員健康診断 199人受検 会計年度任用職員健康診断 330人受検 人間ドック・脳ドック 1日人間ドック 152人 2日人間ドック 167人 脳ドック 5人 ストレスチェック 対象職員871人(会計年度任用職員含む) ストレスチェック受検者 718人 高ストレス判定者 84人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・職員の安全と健康を確保する事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・職員の健康や生活設計に関する相談に応じ、福利厚生の充実を推進している。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・主に職員の健康管理をする事業で、医療的な専門業務については外部委託をしている。										

事務事業の概要	事務事業名	会計年度任用職員人事管理事業			担当課	人材マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	455				
	会計	一般会計			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	予算科目	款	2 総務費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		項	1 総務管理費			基本施策	4	職員の育成と職場環境の充実				
目		2 人事管理費		取組方針		2	人材の確保と適正な配置による組織力の向上					
事業概要	職員が組織の活性化と限られた人員で最大の成果を得る体制づくりをすすめるために、職員（会計年度任用職員）の就業管理、定員管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	会計年度任用職員人事管理			⑤			⑨				
	②	会計年度任用職員給与支払			⑥			⑩				
	③	労働災害補償事務			⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	労働災害の発生件数	件	目標						年々減少傾向にあるが、児童や園児とのかかわりの中での負傷が多い傾向にある。		
				実績	7	6	5					
	<指標の計算方法>		会計年度任用職員の労働災害発生件数									
	活動指標	会計年度任用職員数	人	目標						市民ニーズの多様化に対応するため、若干増加傾向にある。		
				実績	302	317	333					
<指標の計算方法>		各年度の4月1日時点での会計年度任用職員の人数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	15,906			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			15,906									
事業の実績	①会計年度任用職員人事管理 各課の繁忙期や単純業務処理を行い、事務の効率化を図るため機動的配置臨時職員1人を年間11部署へ派遣 ②会計年度任用職員給与支払 ・報酬 12回 ・期末手当 2回 ③労働災害補償事務 ・労働災害補償 5件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・限られた人員で最大の成果を得るための体制を構築する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・機動的配置臨時職員の任用により、繁忙期における職員の定型業務の負担が軽減されている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・定型業務を会計年度任用職員に移行することにより、職員の本来業務の効率を向上させている。											

事務事業の概要	事務事業名	広報事業			担当課	広報課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	4
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
目		3 広報費			基本施策		1	市政情報の発信と適正な情報管理			
事業概要	市民、報道機関、市の情報を求める人に必要な情報の入手と市政への理解を深めてもらうために、行政情報や市の魅力を発信する事業										
事務事業を構成する細事業	① 広報紙発行業務			⑤ ラジオ・テレビ等情報発信業務			⑨ 報道発表・報道機関対応業務				
	② 広報紙等配布委託			⑥ 日本広報協会負担金			⑩ 町史（誌）販売管理業務				
	③ メール配信サービス			⑦ 県広報協会負担金			⑪				
	④ HP・FB・Instagram・LINE情報発信業務			⑧ 和歌山放送情報懇談会負担金			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	ホームページ（トップページ）への年間アクセス数	目標	570,000	580,000	590,000	1,000,000	1,000,000	令和4年度も新型コロナウイルス感染症関連情報として、ワクチン接種の予約、市関連施設やイベント等の状況、事業者向け支援等の情報を掲載したこと、またLINEを通じてのアクセス件数もHPのアクセス数に影響したと考えられる。		
			実績	1,027,552	1,286,862	1,059,652					
	<指標の計算方法>		ホームページ（トップページ）への年間アクセス数								
	成果指標	行政の広報活動の満足率	目標	50	50	50	50	50	広報紙やHP、またLINEなどのSNSを活用し、行政情報や市の魅力を発信。内容は分かり易さなどを重視している。市民意識調査では、市政の情報源は広報紙の川から得ているとの回答が最も多く、LINEは3番目となっている。広報紙の内容充実とSNSでの発信も強化し、満足率上昇に努める。		
			実績	35.7	43.9	42.1					
<指標の計算方法>		紀の川市市民意識調査									
成果指標	メール配信サービス登録者数	目標	3,700	5,400	5,500	5,600	5,700	登録チラシの自治区へ回覧、消防団員への個別配布、スマートフォン教室参加者への配布など、啓発に努めたことが、登録者数増加に影響したと考えられる。			
		実績	5,272	5,473	5,667						
<指標の計算方法>		登録メールアドレス数									
活動指標	報道発表件数	目標			120	120	120	報道発表は、各課から提出された施策の実施やイベント情報などを報道機関や新聞社などに発表し、紙面などに掲載してもらうことで、市内外への情報発信手段として有効である。			
		実績	52	60	64						
<指標の計算方法>		報道発表件数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	28,321			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	23,766	
事業の実績	① 広報紙発行業務 広報「紀の川」の発行 ・発行部数 26,500部/月(12回)			⑤ ラジオ・テレビ等情報発信業務 和歌山放送ラジオ(WBS)の番組内で「紀の川とおき情報」のコーナーを設け、イベント・施策・特産品情報などを放送し、紀の川市のPRを実施 第1木曜日 13:30～(約4分間) ・放送回数 12回(年間)			で、個人、団体、企業を問わず多くの方が参加。様々な情報や文化の収集、産官学の連携、経済発展に役立つ。 ・年会費 110,000円				
	② 広報紙等配布委託 業者委託による広報紙の各戸配布 ・配布実績 延べ305,055戸(年間)			⑥ 日本広報協会負担金 国、都道府県、市町村の間を縦と横にたが広報研究連絡団体(公益社団法人) ・年会費 24,000円			⑨ 報道発表・報道機関対応業務 メディアにプレスリリースすることにより、市内外に、紀の川市の魅力、施策のPRを実施 ・発信件数 64件(年間)				
	③ メール配信サービス 防災、防犯、交通安全、観光、行政など日常生活に役立つ情報をメールで提供。 ・メールアドレス登録者数 5,667人			⑦ 県広報協会負担金 県内の市町村の広報力の向上を目的として設立された協会 ・年会費 8,000円			⑩ 町史（誌）販売管理業務 残存する町史（誌）を後世に残すため販売管理を実施 販売3冊 寄贈1冊(年間) ・打田町史 1巻なし 2巻211冊 3巻477冊 ・粉河町史 1巻1,202冊 2巻385冊 3巻372冊 4巻469冊 5巻1,115冊 ・那賀町史 1巻820冊・桃山町誌 527冊 ・貴志川町史 1,2,3巻なし				
	④ HP・FB・Instagram・LINE情報発信業務 市内外への行政情報配信や紀の川市のPRを実施 ・HP年間アクセス件数 1,059,652件 ・FB情報発信件数(9月末で閉鎖) 4件 ・Instagram情報発信件数 47件 ・LINE情報発信件数 106件			⑧ 和歌山放送情報懇談会負担金 和歌山放送が運営する異業種交流組織							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・広報事業は、市民をはじめ、市の情報を求める人に対して情報を発信し、必要な情報の入手と市政への理解を深めてもらう事業であり、市が主体的に行う事業として妥当性がある。また、市民意識調査では約8割の人が、広報紙により市の情報を得ており、市政情報を知るための事業として妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・広報事業では、情報の発信を広報紙やHPなどを通じて、また、SNSを活用しておこなっている。市民や市の情報を求める人が、情報を得るために有効な事業である。今後も市の魅力発信や市政への理解を深めてもらえるよう、アクセシビリティに配慮し、見易さや内容の充実を図る必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・広報紙の発行や情報発信については、編集を自課内のパソコンで行いコストを抑えている。 ・情報発信ツールの特性を生かした効率的で効果的な情報発信の強化が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	財政運営事業			担当課	財政課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	5	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	4 財務管理費				基本施策	2	健全な財政運営の確立			
取組方針	1			財政計画に基づいた計画的な財政運営								
事業概要	市財政を効率的・効果的に健全化を維持するために、財政計画に基づき計画的な財政運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	予算編成			⑤	地方債発行		⑨				
	②	予算執行管理			⑥	財政計画		⑩				
	③	決算（決算統計・成果表）			⑦	財政事情の公表（公会計・健全化判断比率）		⑪				
	④	地方交付税・地方譲与税			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	予算編成回数（一般会計）	目標	6	6	6	6	6	令和4年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症、原油価格・物価高騰などに対応する予算を適宜編成する必要が生じたため、既定の予算編成回数を大きく上回った。			
			実績	12	12	10						
	<指標の計算方法>		当初予算1回、補正予算5回を想定									
	成果指標	経常収支比率	目標	92.2	91.9	91.3	93.5	94.1	近年は90%前半で推移している。令和4年度は、地方税は増加したものの地方交付税が大きく減少したことで、比率が上昇（悪化）した。			
			実績	91.5	91.2	92.8						
	<指標の計算方法>		地方財政状況調査（経常経費充当一般財源÷経常一般財源）×100									
	成果指標	財政力指数（3か年平均）	目標	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	指数に大きな変動はない。令和4年度は、公債費や臨時費目による基準財政需要額の減少、市税等の増による基準財政収入額の増加により、指数が上昇（良化）した。			
			実績	0.4	0.4	0.41						
	<指標の計算方法>		地方交付税算定台帳 基準財政収入額÷基準財政需要額									
成果指標	積立基金現在高比率	目標	49.2	48.2	47.7	70.4	62.2	近年は、ふるさとまちづくり寄附金の増加、普通交付税の追加交付などの財源超過分を基金に積み立てていることで、比率が上昇（良化）基調となっている。				
		実績	69.1	68.8	77.9							
<指標の計算方法>		標準財政規模に対する基金残高の割合										
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	2,160			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		2,160	
事業の実績	①予算編成 ・令和4年度補正予算編成 各会計予算が円滑に執行できるよう所要の補正措置を講じた。 一般会計9回 特別会計（6会計）0回～4回 公営企業会計（3会計）水道4回、工業用水道2回、下水道3回 ・令和5年度当初予算編成 「新型コロナウイルス感染症対策」及び「原油価格・物価高騰対策」に引き続き取り組むとともに、目標人口6万人をめざすため、重点プロジェクトである「呼び込む」「稼ぐ」「育む」「未来をつくる」の取組について、重点的に予算配分を行い「躍動する紀の川市を創る予算」を編成した。 ・令和5年度当初予算書作成 一般会計、特別会計、公営企業会計の当初予算を取りまとめた。 予算書 180部、予算説明書 180部			②予算執行管理 予算執行方針を定め、適宜、庁内に周知することで、予算の適正かつ厳正な執行の確保に努めた。			③決算（決算統計・成果表） 令和3年度各会計別決算状況、基金・地方債の状況、一般会計・特別会計の主要施策の成果を報告書に取りまとめた。 145部			④地方交付税・地方譲与税 基礎数値等を県へ報告し、地方交付税・地方譲与税の交付を受けた。 【主な交付実績】 ・地方揮発油譲与税 67,065千円 ・自動車重量譲与税 200,737千円 ・地方特例交付金 56,465千円 ・普通交付税 9,316,684千円 ・特別交付税 1,008,485千円		
	⑤地方債発行 地方債を財源として行う事業の対象経費を取りまとめ、県との協議を経て、同意を受け、金融機関等から資金の借入れを行った。 ・地方債発行額（一般会計） 2,318,000千円			⑥財政計画 新たな紀の川市財政計画（計画期間：令和5年度～令和8年度）を策定し、市ホームページで公表した。			⑦財政事情の公表（公会計・健全化判断比率） 統一的な基準による財務書類や健全化判断比率を調製し、市の財政状況を公表した。					
	事業の実績											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地方自治体の行政活動で財政運営は基幹を成す業務であることから、財政部局が内部管理を行い全庁を取りまとめて実施することが適当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・長期総合計画の実現に向け、新たな財政計画（令和5年度～令和8年度）を策定し、中長期的な視点に立った財政収支見直しによる財政運営ができています。 ・持続可能な行政運営をしていく中で、財政状況に応じた効率的な予算編成手法を取り入れる必要がある。 ・財政運営と行政評価の連携を深めることで、各事業の妥当性、有効性、効率性を客観的に把握し、より効果的な予算編成に取り組む必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症、原油価格・物価高騰などへの対応や社会情勢に応じた国の施策への対応など状況に応じて効果的な補正予算を編成した。 ・合併特例債の活用終了を見据え、事業内容に応じて合併特例債に代わる交付税算入率が高い起債への転換に取り組んだ。とりわけ一部過疎地域を対象とした過疎対策事業債の有効活用を行った。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・地方自治体の基幹業務として内部管理を行う事業であるため、事業全体として代替手段を導入する余地はない。 ・決算成果表の印刷では、外注を行わず職員で作成したことで、業務スケジュールに余裕を持つとともに、費用の抑制に努めた。 ・財務書類の作成は、専門的な知識を要することから作成支援の委託範囲を最小限に留め、費用の抑制に努めた。											

事務事業の概要	事務事業名	入札契約事業			担当課	契約管財課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	468	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	4 財務管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針				9	その他							
事業概要	市が入札、契約事務における公平性、透明性、競争性を確保するために、事業者の適正な事業者登録や入札・契約事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	工事等検査			⑤				⑨			
	②	指名登録業者管理			⑥				⑩			
	③	入札・契約			⑦				⑪			
	④	契約管理・成績評定システム			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	一般競争（指名競争）入札成立件数	件	目標	300	300	320	320	320	発注課の入札希望数により変動する件数である。令和4年度は建設工事が令和3年度に比べ増加した。		
			実績	331	336	343						
	<指標の計算方法>		建設工事等の入札が成立した件数									
	活動指標	工事検査件数	件	目標	200	200	200	200	200	発注課の建設工事の完了数により変動する件数である。令和4年度は令和3年度に比べ増加した。		
			実績	148	188	223						
<指標の計算方法>		契約管財課（旧財務課）に検査依頼があり検査員が工事等検査を行った件数										
成果指標	入札等参加資格登録業者数	者	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	登録項目において指定の登録期間があり、時期により変動する件数である。			
		実績	2,091	2,094	1,845							
<指標の計算方法>		建設工事、測量・建設コンサルタント等、物品・その他製造等の業者数（4/1現在）										
成果指標	建設工事早期発注率	%	目標	60	60	60	60	60	発注課の入札希望数及び契約締結の時期により変動する件数である。令和4年度は担当課にできる限りの早期発注を依頼し、令和3年度に比べ増加した。			
		実績	57.1	53.5	69.1							
<指標の計算方法>		上半期（4月から9月）の工事契約件数÷年間の工事契約件数										
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			9,214							9,214		
事業の実績	①工事等検査 発注課の依頼に基づき財務課（現契約管財課）所属の検査員が工事検査を実施した。 ・工事検査件数 122件			物品購入 14件			審査会で決定した入札方法及び選定業者により入札を執行した。指名業者の入札辞退等により2件が不調で不成立となった。不成立となった案件は、後日、発注課において随時契約等に対応した。			績評定を全庁的にシステムで運用した。 ・成績評定システムの一部を改修した。		
	②指名登録業者管理 入札等参加資格登録業者の登録・管理を行った。 ・建設工事 600者 ・測量・建設コンサルタント等 349者 ・物品、その他製造等 896者			・入札執行日数 24日 ・入札執行件数 345件 （内訳）条件付一般競争入札 15件 指名競争入札 330件			(3)入札において落札した業者と契約を締結した。 ・契約締結件数 343件 （内訳） 工事請負業者 市内 218件、市外 5件 業務委託業者 市内 65件、市外 42件 物品購入業者 市内 8件、市外 5件					
事業の事後評価	妥当性	③入札・契約 (1)発注課の依頼に基づき、事業案件の入札方法、選定業者案等について、建設工事等請負業者選定審査会を開催した。 ・審査会開催日数 20日 ・審査会審査件数 345件 （内訳）工事請負 223件 業務委託 108件										
		評価結果	改善の余地がない									
		・発注課依頼の入札案件等について、入札・契約・検査に関する事務等を適正に執行するものである。実施主体は、関係法令において透明性・公平性・競争性の確保、不正行為の排除、品質の確保等が厳格に義務付けられている事業であることから、市で実施することが妥当である。										
事業の事後評価	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・発注課からの入札案件等について、適正な事務の執行ができています。令和4年度は、工事発注課に早期発注を依頼し、上半期に工事発注件数が多かったことから早期発注率が前年度と比べ増加した。目標値の達成及び維持できるように継続的に早期の入札執行を促していく必要がある。										
		評価結果	改善の余地がややある									
事業の事後評価	効率性	・市の適正な予算執行（入札・契約・検査）に直接的に関わるため、業務委託は困難な事業である。また、入札件数は増加傾向にあり、人的コスト削減は望みにくい状況である。事務工程の見直しや契約管理・工事成績評定システムの活用によりさらなる事業の効率化に取り組む。										

事務事業名	物品集中調達事業		担当課		契約管財課		事業区分	内部管理事業		
			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	466		
事務事業の概要	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2		総務費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		項	1		総務管理費	基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
		目	4		財務管理費	取組方針	9	その他		
	事業概要	職員が物品を効率的に活用できるように、物品を適正に調達し、管理を行う事業								
事務事業を構成する細事業	①	調達（発注・契約）		⑤			⑨			
	②	物品管理		⑥			⑩			
	③	事務機器管理		⑦			⑪			
	④			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	コピー用紙発注箱数	箱	目標	2,700	2,900	2,900	2,900		2,900
			実績	2,562	2,574	2,342				
	<指標の計算方法>		本庁・南別館で使用するコピー用紙の発注箱数							
	成果指標	集中調達物品種類数	種類	目標	175	175	190	200	200	物品集中調達の種類は、配付品目の精査及び類似品目の廃止また、要望に応じ追加品目があったため増加した。今後も、要望に応じた品目の追加が見込まれる。
			実績	170	166	186				
<指標の計算方法>		契約管財課（旧財務課）で集中調達し、各部署へ配付する事務用品・日用品の種類数								
成果指標	事務機器台数（契約管財課管理分）	台	目標	17	11	7	7	7	本庁、南別館の事務機器の台数は、各フロアに設置している機器の入れ替え等により契約管財課管理でなくなったため減少した。	
		実績	17	11	7					
<指標の計算方法>		本庁・南別館で使用する事務機器（コピー機・輪転機）の台数								
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳						
	11,468			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			11,468							
事業の実績	①調達（発注・契約）			・来庁者の利便を図るため、本庁舎1階に有料コピー機を設置している。						
	・物品を集中調達し、各部署の要望に応じ適正に配付した。			モノクロ 3,552枚 カラー 227枚 計 3,779枚						
	再生紙	A 4 (1箱 2,500枚)	2,092箱							
	A 3 (1箱 1,500枚)	195箱								
	B 5 (1箱 2,500枚)	0箱								
	B 4 (1箱 2,500枚)	0箱								
兼用紙	A 4 (1箱 2,500枚)	45箱								
	A 3 (1箱 2,500枚)	10箱								
	計	2,342箱								
②物品管理			・集中調達物品の種類を見直し、調達にかかる種類を縮減し再構成した。 186種類							
③事務機器管理			・職員が効率よく事務機器を使えるよう管理 ・運用及び次年度に向けた台数の調整を行った。 7台（契約管財課（旧財務課）で予算執行している台数）							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・市が各事業に取り組むうえで物品調達及び管理を一括で行うことにより、市全体として事務効率化及び経費削減を図っており、妥当性は十分ある。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
		・物品の調達及び管理を一括で行うことにより、市全体の事務効率化及び経費削減に貢献している事業である。要望等により集中調達物品の種類の実績を図っている。 ・高速プリンターの印刷初期設定を両面印刷することにより、コピー用紙使用の抑制を図っている。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	・市の予算執行（契約事務）に直接的に関わるため、業務委託は困難であり、今以上の人的コスト削減は望みにくい状況である。 ・コピー用紙発注数が年々増加傾向であり、コスト削減のため使用の抑制を図る必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名		出納管理事業		担当課	会計課		事業区分	内部管理事業		
	会計		一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
目		5 会計管理費		基本施策		2	健全な財政運営の確立				
事業概要		市民（債権者、納税義務者）等に対して公金に係る適正な事務処理を行う事業									
事務事業を構成する細事業	① 出納業務		⑤ 日計表作成業務		⑨						
	② 県会計職員連絡協議会負担金		⑥		⑩						
	③ 口座振替納入依頼書等受付事務		⑦		⑪						
	④ 債権者登録業務		⑧		⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	収納件数	目標							例年通りの数値である。	
			実績	768,910	757,347	740,865					
	<指標の計算方法>		1年間の収納件数								
	活動指標	支払件数	目標							例年通りの数値である。	
			実績	53,788	54,663	53,116					
<指標の計算方法>		1年間の支払件数									
活動指標	口座振替納入依頼書受付件数	目標							インターネット口座振替受付サービス利用が始まり申込件数が254件あったため、金融機関での手続き件数が減少している。		
		実績	4,707	3,454	2,899						
<指標の計算方法>		1年間の受付件数									
活動指標	指定金融機関検査件数	目標							紀の川市指定金融機関等検査実施要領により実施。		
		実績	1	1	1						
<指標の計算方法>		1年間の検査件数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	2,579			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,579	
事業の実績	① 出納業務 ・全会計歳入処理件数… 740,865件 ・全会計歳出処理件数… 53,116件 ・会計課からのお知らせ（職員掲示板に月1回以上掲示）										
	② 県会計職員連絡協議会負担金 ・会計管理者定例会（不開催）										
	③ 口座振替納入依頼書等受付事務 ・受付件数… 2,899件										
	④ 債権者登録業務 ・登録件数… 3,001件										
	⑤ 日計表作成業務 ・各会計の収入額と支払額の確定及び残高の確認										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市以外が実施主体になりえない事務事業であり、継続する必要性が高い事業と考える。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・数値化できない事業であるが、会計事務の専門性及び能力開発のための対策として、課員全員で情報共有に努めたと考える。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・実施方法の変更等でコスト削減できない事業であるが、事業過程に無駄がないか定期的に検証し、コスト削減（人件費）に努めたと考える。										

事務事業の概要	事務事業名	会計審査事業			担当課	会計課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	462	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	5 会計管理費				基本施策	2	健全な財政運営の確立			
事業概要	公金事務処理の審査を行い、市民等に行政への信頼を高めてもらう事業											
事務事業を構成する細事業	①	会計審査			⑤				⑨			
	②	決算業務			⑥				⑩			
	③	源泉徴収審査・支払業務			⑦				⑪			
	④	監査受検			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	決算書作成回数	回	目標							地方自治法第233条第1項に基づき作成。	
			実績		1	1	1					
	<指標の計算方法>		作成回数									
	活動指標	源泉徴収票発行件数	件	目標							例年通りの数値である。	
			実績		2,445	2,548	2,627					
	<指標の計算方法>		1年間の発行件数									
	活動指標	支払調書発行件数	件	目標							例年通りの数値である。	
			実績		323	328	337					
	<指標の計算方法>		1年間の発行件数									
活動指標	監査受検回数	回	目標							紀の川市監査計画に基づき受検。		
		実績		13	13	13						
<指標の計算方法>		例月出納検査・決算審査の受検回数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	370			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	370		
事業の実績	①会計審査 ・紀の川市財務規則による支出命令書等の審査 ・新規採用職員研修実施(会計事務について)			支払額 58,170,068円								
	②決算業務 ・決算書の作成… 一般会計 160部 特別会計 115部			④監査受検 ・監査受検のための資料作成								
③源泉徴収審査・支払業務 ・源泉徴収票 発行件数 2,627件 源泉額 137,090,440円 ・報酬、料金、契約金及び賞金の支払調書 発行件数 222件 源泉額 14,254,807円 ・不動産の使用料等の支払調書 発行件数 115件												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市以外が実施主体になりえない事務事業であり、継続する必要性が高い事業と考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・数値化できない事業であるが、会計事務の専門性及び能力開発のための対策として担当者だけでなく、課員全員で情報共有に努めたと考える。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・実施方法の変更等でコスト削減できない事業であるが、事業過程に無駄がないか定期的に検証し、コスト削減(人件費)に努めたと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	公共施設マネジメント推進事業		担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	962	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	6 財産管理費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民に提供する施設サービスを適切に維持するため、施設全体を統括的に企画、管理することで、計画的な保全による長寿命化や施設保有量の最適化を図る事業										
事務事業を構成する細事業	①	公共施設マネジメント検討委員会運営		⑤	指定管理者選定委員会運営		⑨				
	②	公共施設マネジメント計画推進		⑥			⑩				
	③	個別施設計画推進		⑦			⑪				
	④	保全支援（庁内への情報提供）		⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	公共施設マネジメント検討委員会開催数	目標	3	3	3	3	3	目標回数以上の開催。案件付議申請に対し柔軟に対応出来ている。		
			実績	5	5	6					
	<指標の計算方法>		年間開催数								
	成果指標	解体、統廃合による減少面積	目標	-2,325	-2,325	-2,412.5	-2,412.5	-2,412.5	児童保育施設の一部解体等による延床面積の減少はあったが目標値達成には至らなかった。（参考：令和4年度末時点の縮減面積累計▲16,991㎡÷縮減目標面積▲96,500㎡＝進捗率17.6%）		
			実績	-7,545.95	-139.55	-55					
	<指標の計算方法>		目標＝公共施設マネジメント計画の縮減目標面積▲96,500㎡÷40年、実績＝延床面積の減少面積（財産に関する調査から抽出）								
	成果指標	施設再配置・統廃合による施設減少数	目標	-1	-1	-1	-1	-1	児童保育施設（旧太陽の子）附属棟解体、（てのひら）一部解体のみで施設の再配置・統廃合による施設減少には至らなかった。		
			実績	-6	0	0					
	<指標の計算方法>		公共施設マネジメント計画の対象施設の減少数（財産に関する調査から抽出）								
活動指標	指定管理者選定委員会開催数	目標	3	3	3	3	3	選定委員会を4回開催し、観光交流拠点に係る指定管理者の候補者選定及びその他指定管理者制度導入施設のモニタリング検証を実施した。			
		実績	3	5	4						
<指標の計算方法>		年間開催数									
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
	1,027			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,027	
事業の実績	①公共施設マネジメント検討委員会運営 ・開催数 6回 ・案件付議件数 11件 ・公共建築物保全審査に関する専門部会を設置し、専門知識を有する職員の助言により施設保全経費に係る事業の妥当性、有効性、効率性について調査、審議（②③④に寄与）			共施設マネジメントシステムを導入							
	②公共施設マネジメント計画推進 ・各政策分野の施設面の取り組みについて関連する計画や財政運営との連携・調整を行い各施設の実態に応じた整備を推進			④保全支援（庁内への情報提供） ・施設保全経費として長寿命化を図るための修繕・更新、大規模改修に係る予算要求内容について、内容確認と助言を行う。							
	③個別施設計画推進 ・建物劣化度調査・利用状況調査→施設保全（再配置）計画更新→予算編成→保全（再配置）計画の推進→保全（再配置）実績管理というPDCAサイクルに基づき計画を推進 ・公共施設マネジメント計画及び個別施設計画の適切なデータ更新と進捗管理に資する公			⑤指定管理者選定委員会運営 ・開催数 4回 ・指定管理者の候補者選定 1件 ・指定管理者選定に関する書類作成への助言と業務の履行状況を調査、確認、評価するモニタリング業務への助言 ・モニタリングマニュアルを一部改訂							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・施設の長寿命化及び施設保有数の最適化を図ることを目的とし、市民に提供する施設サービスを適切に維持するために、市が実施することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・公共施設の長寿命化及び施設保有量の最適化を推進するため、公共施設マネジメントシステムを導入した。 ・公共施設マネジメントシステムを活用し、施設の一元管理が可能となったので施設の劣化状況やコスト情報及び利用状況を把握し、使用実態等に応じた再編等の協議が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
・公共施設マネジメント検討委員会において、公共施設の長寿命化及び各施設の改修内容等の妥当性を判断するため専門部会を設置したことにより予算要求がスムーズに行えたが、更に効率性を高めるための検討が必要である。 ・専門部会が考察した内容を公共施設マネジメントシステムにおいて、各施設所管課と共有することにより効率的な施設管理が行える。											

事務事業名	庁舎管理事業		担当課		契約管財課		事業区分	内部管理事業					
			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	7					
会計	一般会計		長期総合計画体系		政策目標	5	地域づくり・行政経営						
予算科目	款	2			総務費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
	項	1			総務管理費		基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
	目	6			財産管理費		取組方針	9	その他				
事業概要	市民、職員が庁舎等を安全、快適に利用できるように、庁舎の適正な管理を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①		本庁舎等施設管理		⑤			⑨					
	②		職員駐車場料金徴収		⑥			⑩					
	③				⑦			⑪					
	④				⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	活動指標	日常目視点検	日	目標	243	242	243	243	243	市役所開庁日は、職員もしくは設備管理委託業者による目視点検を実施。			
			実績	243	242	243							
	<指標の計算方法>		市役所開庁日における職員若しくは設備管理員による目視点検実施日										
	活動指標	前年度に対する光熱水費の比率	%	目標	98	98	98	98	98		電気料金の値上がりに加え、令和4年1月からホール田園が新型コロナウイルスワクチン接種会場に指定されたことによる光熱水費の増加が顕著である。		
			実績	96	110	124							
	<指標の計算方法>		前年度に支出した電気、ガス、水道費の合計に対する割合										
	成果指標	庁舎内無事故日数	日	目標	365	365	365	366	365	年間を通じ、庁舎管理上の瑕疵による事故は発生しなかった。			
			実績	365	365	365							
	<指標の計算方法>		庁舎管理上の瑕疵による事故日のカウント										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	250,727			国庫支出金	1,035	県支出金	85,000	地方債	繰入金	36,912	その他	一般財源	127,780
事業の実績	①本庁舎等施設管理 ・修繕件数47件(機構改革に伴う修繕含む) ・庁舎総合管理委託業務 ・機械警備委託業務 ・植栽管理委託業務 ・定期清掃委託業務(新型コロナウイルス感染症防止対策等追加事業分) ・ホール田園音響・照明操作管理委託業務 ・トイレ洗浄器賃貸借業務 ・職員駐車場用地借上業務 ・新型コロナウイルス感染症防止対策業務(感染予防対策として飛沫感染防止パネルの配備、手指消毒液の配備補充などを実施) ・打田保健福祉センター空調改修工事 ・打田保健福祉センター空調改修工事監理業務 ②職員駐車場料金徴収 収納額 36,911,600円												
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
・市民、職員等が安全で快適に利用するためには、適正な維持管理が必要であり、妥当性があるとする。													
有効性		評価結果	改善の余地がない										
	・引き続き現状の庁舎管理業務の仕様にて成果指標の目標達成を図り、施設を適正に維持するため、修繕等の必要が生じた場合は速やかに修繕を行う。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・照明等の設備機器更新による、省エネ化改善の余地がある。												

事務事業の概要	事務事業名	市有財産管理事業		担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	465	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	6 財産管理費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針			3	公共施設マネジメントの推進							
事業概要	市が市有財産の効果的な活用を図るために、市有財産の適正な管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	保険加入		⑤	市有財産解体（旧納税協会）		⑨				
	②	市有財産管理		⑥			⑩				
	③	財産処分・払下		⑦			⑪				
	④	未利用財産の活用		⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	不動産鑑定委託件数	目標	5	5	5	5	5	一般競争入札による売払い対象地の増加に加え、随意売却に係る不動産鑑定も実施したため、目標値を大幅に上回った。		
			実績	2	4	14					
	<指標の計算方法>		市有財産の効果的な活用を図るために実施した不動産鑑定委託件数								
	活動指標	公共施設マネジメント検討委員会付議件数	目標	3	3	3	5	5	一般競争入札による市有財産売却について、定型業務として年間スケジュール化したことにより、委員会への付議件数の増加に繋がった。（なお、令和4年度実績から市有財産の有効活用に関する付議件数のみ計上）		
			実績	7	9	7					
	<指標の計算方法>		公共施設マネジメント検討委員会への市有財産の有効活用に関する付議件数								
	成果指標	効率的に処分・払下した資産の件数	目標	10	10	10	10	10	用途廃止された法定外公物の払下げは例年並みであったが、一般競争入札による市有財産売却、また随意契約による売却もあり目標値を上回る結果となった。		
			実績	6	11	13					
	<指標の計算方法>		土地・建物の処分・払下件数のうち有償であったもの								
成果指標	市有財産賃貸借件数	目標	40	40	30	30	30	令和4年度から施設管理区分を整理したことで、当課で所管する件数は著しく減少した。また維持管理の観点から必要に応じて賃貸借物件の売却（払下げ）を実施しており、今後も件数は減少していく見込み。			
		実績	45	43	28						
<指標の計算方法>		土地及び建物賃貸借件数（事務所、携帯電話基地局等使用許可含むが、電柱、支線等使用許可は除く）									
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳							
	23,053			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	700	8
事業の実績	①保険加入 ・建物総合損害共済保険加入施設数 507件（一般 425件、水道 59件、下水道 23件） ・総合賠償補償保険への加入			③財産処分・払下 ・一般競争入札実施物件数 9件 ・一般競争入札応札件数 3件 ・随意契約による売払い 3件 ・普通財産払下 11件（うち有償のもの） 7件 ・不動産鑑定委託 14件 ・土地売却に係る調査業務（境界点確認、復元測量等） 1件							
	②市有財産管理 ・財産台帳登録 土地 2,743件 合計 8,000,541.77㎡ 建物 794件 延面積 267,244.56㎡ ・雑草等刈取業務委託 市有地 31箇所 3,593,400円 ・粉河高校下旧集会所（粉河地内）水路等修繕 給水管分岐工事 ・長山団地（貴志川町長山地内）調整池防護フェンス修繕 児童公園フェンス修繕 ・中瀬潤住宅団地（中瀬潤地内）排水用配管等調査及び洗浄 光ケーブル引込修繕			④未利用財産の活用 ・土地 市有地貸付 17件 携帯等基地局 7件 ・建物 庁舎等貸付 4件			⑤市有財産解体（旧納税協会） ・市有財産（旧納税協会、粉河地内）解体整備 工事設計業務				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市名義の資産の管理業務であり、適正な管理・運用処分等を行うためにも市が実施すべき事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・運用処分等にかかる収入件数は過去から安定的に推移しており、一定の効果を維持している。また、普通財産の一般競争入札を継続的に実施し、未利用財産の更なる処分を推進している。 ・所属課が判明しない市有財産を明確にし、有効な活用を可能にするためには、各課の協力のもと円滑な調査を実施し、適切に財産を分類し、財産台帳システムに反映させることが重要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・草刈等の委託が可能な業務について、外部委託することで効率的に業務を進めている。事業全体を通し、委託できる可能性がある業務を研究し、更なる効率化を進めていく。										

事務事業名	公用車管理事業		担当課		契約管財課		事業区分	内部管理事業	
			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	464	
事務事業の概要	会計	一般会計							
	予算科目	款	2 総務費						
		項	1 総務管理費						
		目	6 財産管理費						
事業概要	職員が公用車を安全で快適に使用できるように、公用車の適切な管理を行う事業								
事務事業を構成する細事業	①	公用車管理	⑤					⑨	
	②	マイクロバス運転及び整備管理	⑥					⑩	
	③	自動車保険加入	⑦					⑪	
	④	公用車有料広告掲載	⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析
	成果指標	公用車稼働率	目標	77	77	77	80	80	新型コロナウイルス感染症の長期化の影響により、市の実施する催事やイベント等が中止となり令和3年度よりも稼働率が低下した。
			実績	80	80	77			
	<指標の計算方法>		公用車管理棟で管理している車両（二輪車以外）の稼働率【（毎月：平日稼働日数÷平日日数）の年間平均】						
	成果指標	市保有の公用車台数	目標	340	340	330	330	330	年度末時点の保有台数は増加しているが、これは車両の入庫時期によるもので、実質は横ばいである。
			実績	337	325	327			
<指標の計算方法>		上下水道部車両、特殊車両（乗用草刈機等）、他団体車両を除く市保有の公用車の台数【基準日：年度末3月31日】							
成果指標	自動車保険請求件数	目標						市の実施するイベント等の中止による稼働率は低下したが、保険請求件数は増加した。職員の安全運転意識の向上のため、安全運転啓発や、安全運転講習を継続する。	
		実績	18	13	18				
<指標の計算方法>		事故等（風水害、偶発的事由を除く）により自動車保険を請求した件数【基準日：年度末3月31日】							
<指標の計算方法>									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳					
	58,572			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
			58,572						
事業の実績	①公用車管理 ・公用車事務（車両情報の管理、リース料や燃料費等支払事務と情報管理、整備業者や燃料業者への連絡等） ・車両運行管理業務（運行前後の点検、清掃と自主点検をはじめ車検や修繕の手配、稼働率の算出、自動車事故の報告や対応等） ・新型コロナウイルス感染症防止対策業務（感染予防対策として乗降時の手指消毒、乗車後の消毒作業を実施） ・アルコール検知器を導入し、運転前後の酒気帯びチェックを実施 ・大雪に備えて、支所配車車両へスタッドレスタイヤを装備			（感染予防対策として乗降時の手指消毒、乗車後の消毒作業、乗車人員の制限を実施）					
	②マイクロバス運転及び整備管理 ・マイクロバス運転及び整備管理業務委託（マイクロバスの運転、点検、整備管理および清掃等） ・新型コロナウイルス感染症防止対策業務			③自動車保険加入 ・乗用草刈機等の特殊車両を含む公用車の自動車損害共済保険加入業務					
			④公用車有料広告掲載 ・公用車を媒体とした有料広告事業の募集を開始						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない						
		・職員が公用車を安全で快適に使用するためには、本事業による適正な管理、運営が必要であるため、妥当性は高い。							
	有効性	評価結果	改善の余地がややある						
・稼働率調査や経過年数、走行距離、使用目的に基づき、車両入替や配車等を行うことで、適正な維持管理を実施している。また、公用車は、災害時等緊急時にも必要なことから有効性は高い。 ・類似団体等の状況を参考に、当市の使用状況等を検証したうえで、適正な保有台数を設置する必要がある。また、職員の安全運転意識の向上や適正な予約の啓発を継続して行う必要がある。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある							
	・老朽化した車両の入替、稼働率や使用目的に応じた配車を行うことで適正な配置を進め、修繕等の縮減を図っているため、効率性は高い。 ・公用車を適正かつ安全に使用するため、車両の管理等に関する知識や技術を有する業者へ業務委託を行っており、引き続き業務内容等を精査し、効率性を高める必要がある。								

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵地区公共施設等再編事業			担当課	公共施設マネジメント課		事業区分	ハード事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R1～R7)		事業番号	1112		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	6 財産管理費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要	鞆淵地区の公共施設の再編を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	鞆淵地区公共施設等再編			⑤				⑨				
	②				⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	集約した施設数	棟	目標	3	3	3	3	3	出張所、診療所、消防器具庫の機能集約を目指す。 令和7年度に事業を完了させるため、令和4年度から5年度にかけ造成工事を実施している。			
				実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		再編し集約した施設数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	25,673			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,273			
事業の実績	①鞆淵地区公共施設等再編 令和4年度から5年度にかけ造成工事を実施している。令和4年度の主な業務と工事の内容は次のとおり ・測量設計委託料＝119,900円 ・排水路設置工事に伴う用地測量業務 ・工事請負費＝25,480,000円 ・鞆淵地区複合施設建設造成工事 ・出来高率＝44% (造成工事の主な内容) ・土木工事 ・地盤改良工事 ・暗渠排水工事 (面積比：出張所5、消防施設2、診療施設3)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・老朽化した施設を集約し地域の中心に利便性の高い施設を建設するため、妥当性はある。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・専門性の高い部屋を効果的に配置することで、施設建設後の運用（施設サービス）の有効性は向上する。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・複数の担当部署で実施すべき事業を当課で一括して進めるため、効率性は高いと言える。 ・当初計画から事業内容を再考したことによる事業実施期間延長及び事業費増大については、今後も引き続き抑制するための改善・工夫に取り組む必要がある。												

事務事業の概要	事務事業名	施策計画管理事業			担当課	企画経営課		事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	479
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
目		7 企画経営費			基本施策		3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	行政評価による行政経営システムを運用し、限りある資源を有効に活用し、計画的に行政経営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会運営			⑤	辺地に係る総合整備計画進行管理業務		⑨	パブリックコメント		
	②	庁議・部長会運営			⑥	市民意識調査業務		⑩	紀の川インターチェンジ周辺土地利用可能性調査業務		
	③	施策調整・調査研究業務			⑦	施策評価・事務事業評価		⑪	地域商社設立検討業務		
	④	和歌山社会経済研究所負担金			⑧	市長会要望		⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	庁議付議件数	目標						庁議等設置規程に基づき、市政運営の基本方針や重要施策についての審議を行った。		
			実績	28	20	30					
	<指標の計算方法>		庁議へ付議された審議案件の件数								
	活動指標	パブリックコメント実施件数	目標						市政運営に対する市民参画のひとつの手法として、計画策定時等において市民意見の募集を行った。令和4年度は長期総合計画の策定など計画の策定が例年より多かった。		
			実績	4	3	7					
<指標の計算方法>		各種計画策定時等に実施したパブリックコメント（市民意見募集手続）の件数									
活動指標	行政評価研修開催回数	目標	2	1	1	2	2	新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインで研修を開催した。			
		実績	1	1	1						
<指標の計算方法>		職員対象に実施した行政評価制度に関する研修会の回数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	26,124			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会運営 ・第1回審議会（令和4年8月2日） 地方創生推進交付金の効果検証等 ・第2回審議会（令和4年10月31日） 総合戦略の実績報告等			・刊行物等を通じて調査・研究成果の情報提供を受けた。 ⑤辺地に係る総合整備計画進行管理業務 ・鞆小学校の休校により、中鞆、下鞆の各辺地が辺地要件適用となった。			・事務事業評価を決算主要施策の成果報告書として活用した。 ⑧市長会要望 ・市単独では解決が難しい課題等について、市長会を通じて、国（省庁）や県に対して要望を実施した。				
	②庁議・部長会運営 ・庁議（14回）部長会（14回）を開催 【庁議における主な審議事項】 ・計画等の策定、改定について（計7件） ・協定の締結について（計8件） ・条例の制定、改正について（計10件） ・令和5年度当初予算編成方針について ・令和5年度当初予算における新規・拡充事業の方針について ・紀の川市名誉市民の選考について			⑥市民意識調査業務 ・令和5年1月23日から2月17日まで実施 ・対象者：1,500名（18歳以上75歳未満） ・回答率31.1% ⑦施策評価・事務事業評価 ・行政経営アドバイザーによる行政評価の研修会を開催し、制度への理解度の深化を図った。また、全ての事務事業・施策評価を対象に評価シートの添削・指導、長期総合計画への意見を受けた。 ・第2次長期総合計画の40基本施策を対象に施策評価を実施した。 ・事務事業評価は、令和3年度実施事業の正式評価と令和4年度実施事業の仮評価（年度末評価）を実施した。			⑨パブリックコメント ・市政運営に市民意見を反映させるため、計画策定時等にパブリックコメントを実施した。（実施件数7件、意見63件） ⑩紀の川インターチェンジ周辺土地利用可能性調査業務 ・優先的に事業推進を図る曾山地区の土地利用計画の検討を行った。 ⑪地域商社設立検討業務 ・市内事業者へのヒアリング調査や事業者との先進地（香川県三豊市）への視察を通じて、地域商社設立の必要性の検討や事業者間連携の機運醸成に取り組んだ。				
	③施策調整・調査研究業務 ・内閣府の支援を受け、大学誘致に向けた検討を開始した。										
	④和歌山社会経済研究所負担金										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市が策定した計画における施策や成果の進捗管理は、市が実施するべきであり、他の実施主体は考えられないため、妥当性がある。 ・市民意識調査の実施により、施策全般に対する市民ニーズの把握を行っている。 ・先進地視察や先進事例の情報収集により、従来の手法にとらわれない新たな事業方策についての検討を進めている。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・パブリックコメントを実施しているが、計画によっては意見が無いため、より多くの市民に制度を周知する方法を検討する必要がある。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・事務事業評価結果を多方面に活用することで、事務の効率化につながる要素があることから、活用方策の検討が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	広域連携事業			担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	476	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	7 企画経営費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針	1			効率的・効果的な行政サービスの提供								
事業概要	広域的な課題の解決や施策の推進を図るために、近隣市町村と共通課題等の情報・意見交換や連携を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	広域連携のあり方に関する意見交換会			⑤	全国半島振興市町村協議会			⑨			
	②	吉野川・紀の川流域協議会			⑥	全国過疎地域連盟			⑩			
	③	自転車を活用したまちづくりを推進する全国市町村長の会			⑦				⑪			
	④	紀淡連絡道路実現期成同盟会			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	広域連携のあり方に関する意見交換会への出席	回	目標						令和4年度は意見交換会の開催がなかった。		
			実績			1						
	<指標の計算方法>		広域連携のあり方に関する意見交換会への出席									
	活動指標	吉野川・紀の川流域協議会定例会等への出席	回	目標						令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、総会は書面開催となった。また、幹事会はオンラインでの開催となった。		
			実績		3	3	2					
	<指標の計算方法>		吉野川・紀の川流域協議会定例会等への出席									
	成果指標	吉野川・紀の川流域協議会自主事業への参加者合計	人	目標	20	20	20	20	20	吉野川・紀の川流域協議会自主事業への市民の関心を示す指標 令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で自主事業が実施されなかった。		
			実績		0	0	0					
	<指標の計算方法>		自主事業への参加者の合計									
活動指標	自転車活用に係る会議やイベント等への参加回数	回	目標						新型コロナウイルス感染症の影響で出席を見合わせた。			
		実績		1	1							
<指標の計算方法>		自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会への参加回数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	182			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	182		
事業の実績	①広域連携のあり方に関する意見交換会 ・広域連携に係る4市1町（和歌山市、海南市、紀の川市、岩出市、紀美野町）での意見交換会であるが、令和4年度は開催されなかった。 ②吉野川・紀の川流域協議会 ・吉野川・紀の川流域の奈良1市3町3村、和歌山4市3町で構成する協議会 ・定例総会（7/22、書面開催） ・幹事会（6/29、オンライン開催：欠席3/16、オンライン開催） ・負担金支出 ③自転車を活用したまちづくりを推進する全国市町村長の会 ・全国406自治体で構成する会 ・定例総会（6/1：欠席（委任状提出）） ・役員による要望活動 ・負担金を支出 ④紀淡連絡道路実現期成同盟会 ・和歌山県、大阪府、淡路島の16市7町で構成する会 ・令和4年度は、課長会、総会が開催されなかった。 ⑤全国半島振興市町村協議会 ・半島振興法の適用を受ける全国の市町村で構成される協議会 ・負担金を支出 ⑥全国過疎地域連盟 ・総会（6/17、書面会議） ・負担金を支出											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・近隣市町が広域で連携し共通課題の解決や施策の推進を図ることで、市民サービスの向上につながることを前提とした取組であり、市の関与は妥当である。								
		有効性	評価結果	改善の余地がややある ・広域連携のあり方については、共通課題の解決につながるため有効性があるが、他の連携項目についても連携するメリットの検証が必要である。 ・連携して実施する会議や事業の中には、定例化により形骸化も見られる。								
事業の事後評価	効率性	評価結果	改善の余地がない ・最小限度の費用負担であり、改善の余地はない。									

事務事業の概要	事務事業名	土地利用計画事業			担当課	企画経営課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	475	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 総務管理費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	7 企画経営費				基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
事業概要	計画に基づく適正な土地利用を行ってもらうために、土地売買等届出書の受理や無届土地取引の調査等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	国土利用計画			⑤					⑨		
	②	近郊緑地保全区域			⑥					⑩		
	③	公有地拡大推進			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	土地売買等届出書の届出件数	件	目標							届出は売買契約単位で出す必要があり、令和4年度は1計画で複数の届出があったため令和3年度と比較すると届出件数が大きく増加しており、これを除いても比較的活発に取引が行われたといえる。	
			実績		7	1	36					
	<指標の計算方法>		制度に基づき提出された土地売買等届出書の届出件数									
	活動指標	土地売買等届出制度の周知回数	回	目標	2	2	2	3	3	届出が必要な要件、期限等を周知することで無届取引や遅延届出の防止を図るもので、4月に周知を行い、また例年通り10月の土地月間に合わせて周知を行った。		
			実績		2	2	3					
	<指標の計算方法>		広報紙・ホームページ等での土地売買等届出制度の周知回数									
	成果指標	無届取引等把握調査で判明した無届件数	件	目標						制度が浸透していることを表す指標となるが、令和4年度は例年と同程度の無届件数となっており、引き続き周知が必要となる。また、周知方法について検討する必要がある。		
			実績		10	7	9					
	<指標の計算方法>		無届取引等把握調査で判明した無届件数									
活動指標	近郊緑地保全区域内行為(変更)届出件数	件	目標						近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づく届出で、近郊緑地内の開発回数を把握する指標 令和4年度は1件の届出があった。			
		実績				1						
<指標の計算方法>		近郊緑地保全区域内行為(変更)届出件数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	21			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	繰入金	繰入金	繰入金	繰入金	繰入金
事業の実績	<p>①国土利用計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 国土利用計画法に基づく土地売買等届出書の受理、無届土地取引の調査等で、令和4年度は届出件数36件、事務交付金として51,824円の申請を行った。また土地月間には広報紙などで制度啓発を行った。 <p>②近郊緑地保全区域</p> <ul style="list-style-type: none"> 近畿圏の保全区域の整備に関する法律に基づき指定される保全区域(和泉山脈)における開発に関する届出書の受理で、令和4年度は1件の届出があった。 <p>③公有地拡大推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 公有地の拡大の推進に関する法律に基づく土地売買届出書の受理で、令和4年度は14件の届出があった。 											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・国土利用計画法に基づく事業であり、県からの移譲事務であるため、市が実施主体となる必要がある。									
事業の事後評価	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・制度の周知に努め、期限後の届出を減らす必要がある。										
事業の事後評価	効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・県からの移譲事務に対する交付金は、届出件数に応じて交付されているものの、無届取引の調査や遅延届出などの事務処理が市に生じている。効率的に事務処理を行うためには、マニュアル等を充実させる必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名		空港活性化促進事業				担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	489
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	7 企画経営費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要		関西国際空港周辺の自治体と連携し、空港活性化のための事業を行い、関西国際空港の利用者数の増加を図る事業											
事務事業を構成する細事業		①	空港活性化促進業務		⑤					⑨			
		②	関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会		⑥					⑩			
		③			⑦					⑪			
		④			⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	中央要望回数	回	目標		1	1	1	1	1	国土交通省及び衆議院・参議院の大阪・和歌山選出の議員事務所を訪問し、要望内容の説明及び要望書の手渡しを会長である泉南市長が代表して実施した。		
		実績			1	1	1						
	<指標の計算方法>		地元選出国會議員、国土交通省等への南ルートの実現等に関する要望回数										
	活動指標	空港に関する総会・会議出席回数	回	目標							関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会として開催される総会は、新型コロナウイルス感染症の影響により書面会議となった。		
		実績			2	2	2						
	<指標の計算方法>		空港に関する総会・幹事会等会議への出席回数										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
事業の実績	<p>①空港活性化促進業務 ・関西国際空港全体構想促進協議会総会へは、新型コロナウイルス感染症の影響により出席を見合わせた。</p> <p>②関西国際空港連絡南ルート等早期実現期成会 ・大阪4市2町、和歌山4市で構成する期成会で、幹事会(5/25)に出席した。総会は書面会議となった。また、11/14に中央に要望書を提出した。</p>												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		<p>・関西国際空港は市民にとって一番身近な空港であり、利用促進や空港の活性化自体は運営会社が担うべきものであるが、利用者の増加やインバウンドなど地域経済にもたらす効果、また、中央要望への自治体関与の必要性を考えれば市の関与は妥当である。</p>											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
<p>・関西国際空港連絡南ルートの実現など、現時点では具体化されていない要望段階であるが、今後も社会的動向に注視しながら活動を継続していく必要がある。</p>													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	<p>・コスト面では、空港活性化に向けての要望活動など最小限の経費で実施しており、今後も積極的に参加、関与していく必要があるため、効率性は高いといえる。</p>												

事務事業の概要	事務事業名	行財政改革推進事業			担当課	企画経営課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	963	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	7 企画経営費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市が適正かつ効率的な行財政の運営をするために、第3次紀の川市行財政改革大綱に基づき、内部及び外部組織により計画策定や進捗管理を行い、その状況を公表する事業											
事務事業を構成する細事業	①	行財政改革推進委員会運営			⑤	職員提案制度		⑨				
	②	行財政改革推進本部運営			⑥	地方分権推進業務		⑩				
	③	行財政改革推進部会運営			⑦	組織機構改革業務		⑪				
	④	民間委託・官民連携推進業務			⑧	有料広告審査業務		⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	行財政改革推進委員会開催回数	目標	1	1	1	1	1	第4次紀の川市行財政改革大綱、第2次紀の川市長期総合計画後期基本計画の審議があり、例年よりも開催回数が増えた。			
			実績	1	1	4						
	<指標の計算方法>		行財政改革推進委員会年間開催回数									
	成果指標	職員提案制度の提案採択件数	目標	4	4	4	4	4	令和3年度は1件、令和4年度は5件(内3件は採用3年目職員の研修)の提案があった。			
			実績	2	0	1						
	<指標の計算方法>		職員提案制度の提案採択件数									
成果指標	行財政改革大綱推進項目の取組件数	目標	5	5	5	10	10	第3次行財政改革大綱の推進項目25項目の内、11項目について重点推進項目として設定し、10項目取り組み、5項目で90%以上の達成率となった。				
		実績	10	10	10							
<指標の計算方法>		行財政改革大綱推進項目の取組件数										
活動指標	行財政改革の進捗状況の公表	目標	1	1	1	1	1	進捗状況は、市ホームページで公表した。				
		実績	1	1	1							
<指標の計算方法>		行財政改革の進捗状況の公表件数										
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	995			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	995		
事業の実績	①行財政改革推進委員会運営 ・第1回推進委員会(9/27) 令和3年度行財政改革推進計画の進捗状況、令和4年度行財政改革推進計画の重点推進項目について、市長に提言を行った。また、第4次紀の川市行財政改革大綱の策定について審議した。 ・第2回推進委員会(11/28) 第2次紀の川市長期総合計画後期基本計画(行政経営の分野)について審議した。 ・第3回推進委員会(2/2) 第4次紀の川市行財政改革大綱(案)について審議した。 ・第4回推進委員会(書面開催) 答申(案)について審議した。 ・第4次紀の川市行財政改革大綱答申(3/6) ②行財政改革推進本部運営 ・第1回推進本部会議(9/13) 令和3年度行財政改革推進計画の進捗状況、令和4年度行財政改革推進計画の重											
	点推進項目について審議、第4次紀の川市行財政改革大綱の策定について審議した。 ・第2回推進本部会議(11/21) 行財政改革推進委員会からの提言について報告し、第2次紀の川市長期総合計画後期基本計画(行政経営の分野)について審議した。 ・第3回推進本部会議(1/27) 第4次紀の川市行財政改革大綱(案)について審議した。 ・第4回推進本部会議(3/1) 第4次紀の川市行財政改革大綱(案)について審議した。 ③行財政改革推進部会運営 ・令和4年度の重点推進項目について、行政経営部会、人事部会、施設部会、財政部会の4つの部会でそれぞれ取組を行った。 ④民間委託・官民連携推進業務											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・今後の人口推移や財政状況、社会情勢に合わせた行財政改革を推進していく必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・業務の質、生産性を向上させる行財政改革の考えを全庁に浸透させる必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・本事業自体のコストはこれ以上削減は困難であるが、行財政改革を着実に推進していくことで市の業務全体のコスト効率を高めていくことができる。											

事務事業の概要	事務事業名	長期総合計画（後期基本計画）策定事業			担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度（R3～R4）	事業番号	480		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	7 企画経営費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	「人が行き交い 自然の恵みあふれる 住みよいまち」を実現するための基本計画（令和5年度から令和8年度まで）を策定する事業											
事務事業を構成する細事業	①	長期総合計画審議会運営			⑤				⑨			
	②	長期総合計画本部会運営			⑥				⑩			
	③	市民意識調査業務			⑦				⑪			
	④	パブリックコメント			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	長期総合計画審議会開催回数	回	目標			3	7		年度当初に予定していた日程から変更はあったが、計画策定に必要な会議は開催した。		
				実績			3	7				
		<指標の計算方法>		年間の審議会開催回数								
	活動指標	長期総合計画本部会開催回数	回	目標			5	5		年度当初に予定していた日程から変更はあったが、計画策定に必要な会議は開催した。		
			実績			5	5					
	<指標の計算方法>		年間の本部会開催回数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,248			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,248		
事業の実績	①長期総合計画審議会運営 ・第4回審議会 令和4年4月13日 今後の予定について報告 分科会の開催 ・第5回審議会 令和4年6月13日 今後の予定について報告 分科会の開催 ・第6回審議会 令和4年8月24日 序論について審議 取組方針及び成果指標、SDGsの位置づけ等について説明 ・第7回審議会 令和4年11月10日 序論について審議 重点プロジェクト、後期基本計画の体系、市民意識調査の実施について説明 ・第8回審議会 令和4年12月22日 重点プロジェクト、体系表、行政経営の分野の計画案について審議 市民意識調査結果の報告 ・第9回審議会 令和5年2月7日			後期基本計画案について審議 ・第10回審議会 令和5年3月3日 パブリックコメントについて審議 ・答申 令和5年3月6日			②長期総合計画本部会運営 ・第6回本部会 令和4年8月15日 序論、取組方針及び成果指標、SDGsの位置づけ等について審議 ・第7回本部会 令和4年11月1日 序論、重点プロジェクト、体系表、市民意識調査の実施について審議 ・第8回本部会 令和4年12月12日 重点プロジェクト、体系表、計画案について審議 市民意識調査結果の報告 ・第9回本部会 令和5年1月27日 後期基本計画案について審議 ・第10回本部会 令和5年3月1日 パブリックコメントについて審議			③市民意識調査業務 令和4年11月14日から12月2日まで実施 対象者：1,500人（18歳から75歳まで） 回答率：29.0%（435人）		
	④パブリックコメント 令和5年2月8日から2月27日まで実施 意見5件（内1件について計画案を修正）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・「人が行き交い 自然の恵みあふれる 住みよいまち」を実現するために、市の今後の方向性を定める計画を策定する必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・審議会委員は、各分野の専門家及び一般公募委員で構成されており、有益な意見をもらえている。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・必要最小限の事業費、人件費で事業を実施したが、外部委託により効率性を高めることができる部分も残されている。										

事務事業の概要	事務事業名	マイナンバーカード普及促進事業			担当課	企画経営課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R5)	事業番号	1168	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	7 企画経営費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
事業概要	マイナンバー制度のメリットを活用し、安全・安心で利便性の高いデジタル社会を実現するため、マイナンバーカードの普及、その利活用を促進する事業										
事務事業を構成する細事業	①	マイナンバーカード普及促進業務			⑤				⑨		
	②	マイナポイント設定支援業務			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	マイナンバーカード出張申請窓口実施回数	回	目標			96	150	130	新型コロナウイルスワクチン接種会場、期日前投票所、地区公民館等で実施した。	
				実績			122	162			
	<指標の計算方法>		出張申請を実施した回数								
	成果指標	マイナンバーカード交付率	%	目標			40.7	70	80	全国平均67.0%、和歌山県平均70.1% なお、交付業務は、市民課において行っている。	
				実績			63.6	76.9			
<指標の計算方法>		年度末時点のマイナンバーカード交付済者÷令和4年1月1日時点の人口									
成果指標	マイナポイント設定支援件数	件	目標						令和3年度は1箇月のみ実施、令和4年度は通年実施した。		
			実績			76	4,967				
<指標の計算方法>		マイナポイントの設定支援を実施した件数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)		財源内訳								
	43,077		国庫支出金	41,205	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,872	
事業の実績	①マイナンバーカード普及促進業務 ・5月から3月において出張申請窓口を83日実施し、764人をサポートした。 (実施内訳) ・南別館 (ワクチン接種会場) 8日 ・各地区公民館 58日 ・期日前投票所 13日 ・公立那賀病院 2日 ・本庁 2日 計83日 ・令和5年3月末現在でマイナンバーカード交付率は全国の市区で35位 (全国平均67.0%) ②マイナポイント設定支援業務 ・本庁舎1階情報コーナー及び貴志川支所において合計4,967件の設定支援を実施した。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・国は全国民がマイナンバーカードを保有することを目標としており、市もその方針に基づき事業を実施する必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・出張申請窓口の実施場所や出張申請サポートの実施形態について、検討する必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・民間委託が可能な部分は委託しており、効率的に業務を進めることができた。										

事務事業の概要	事務事業名	粉河支所運営事業			担当課	粉河支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1052	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、粉河支所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤					⑨		
	②	各団体支援			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	5	5	6	6	6	支所が事務局となっている全ての団体の支援を行った。		
			実績	5	5	6						
	<指標の計算方法>		区長会、消防団、交通指導員会、民生委員、敬老会実行委員会、民生委員推薦準備会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	105	87	88	119	100	新型コロナウイルス感染症感染拡大予防対策による活動自粛から活動を再開させてきたことと、令和4年度は民生委員・児童委員の一斉改選の年であったため、目標値を上回る結果となった。		
			実績	64	58	100						
<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数										
活動指標	業務対応件数	件	目標	19,500	21,000	21,000	22,000	21,000	令和3年度と比較し実績値が減少したのは、マイナンバーカード交付関連事務、期日前投票所の開設・運営の対応が減少したためである。			
		実績	23,939	34,400	25,423							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,324			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		4,324	
事業の実績	①窓口対応(25,423件) 〔主な業務〕 ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・指定ゴミ袋等販売 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・マイナンバーカード受付 ・マイナポイント受取支援 ・選挙関係 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付			②各団体支援(100回) ・交通指導員会 22回 ・消防団 23回 ・区長会 7回 ・民生児童委員協議会 26回 ・敬老会実行委員会 14回 ・民生委員推薦準備会 8回								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生活と密着した地域に市役所の出先機関があることは、地域住民にとって必要性が高い。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・高齢者や身体に不自由のある方など、移動に制限のある方へのサービス提供に特に有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・多岐にわたる住民ニーズおよび困難事案には初期対応が重要であり、住民にとって利便性が高い。											

事務事業の概要	事務事業名	粉河支所施設管理事業			担当課	粉河支所		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1053		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
目	8 支所及び出張所費			取組方針	9		その他						
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、粉河支所の適切な維持管理や改修を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	粉河支所施設管理			⑤				⑨				
	②				⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	施設目視点検	日	目標	243	240	243	243	243	開庁日の就業時間前に、入り口付近を中心に安全点検を行っている。			
				実績	243	240	243						
	<指標の計算方法>		開庁日に施設内の目視点検を行う日数										
	成果指標	点検不足による事故件数	件	目標	0	0	0	0	0			支所の入口(自動ドア)を入り窓口カウンターまでスロープ状に段差解消しているため、黒黄色の注意喚起シール及び手すりの設置等の安全対策を行っている。	
				実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>												
				目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	446			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	446			
事業の実績	①粉河支所施設管理 粉河ふるさとセンター内にある支所を適切に維持管理した。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・利用者へ安全、快適に支所を利用していただくために必要である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・支所内で事故もなく、来庁者からの苦情もない。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・必要に応じて改修、修繕を行ないながら、計画的に維持管理を行っていく。												

事務事業の概要	事務事業名	那賀支所運営事業			担当課	那賀支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1054	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、那賀支所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤				⑨			
	②	各団体支援			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	5	5	6	5	5	支所が事務局となっている全ての団体の支援を行っている。		
			実績	5	5	6						
	<指標の計算方法>		交通指導員会、消防団、区長会、民生児童委員協議会、敬老会実行委員会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	80	80	80	80	80	新型コロナウイルス感染対策により会議等が減少した為、支援が目標より下回った。		
			実績	70	70	75						
	<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数									
活動指標	業務対応件数	件	目標	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	マイナンバーカード申請等の増により目標を上回った。			
		実績	15,563	27,709	24,055							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,255			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			4,255									
事業の実績	①窓口対応 24,055件 (主な業務)			・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・マイナンバーカード受付 ・浄化槽設置整備事業現場立会い ・期日前投票所の開設・運営								
	・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持修繕、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍簿・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請交付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付			②各団体支援 ・交通指導員会 20回 ・消防団 14回 ・区長会 5回 ・民生委員児童委員協議会 30回 ・民生委員推薦準備会 2回 ・敬老会実行委員会 4回								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域住民生活に直接影響を及ぼす事業であるため、継続して実施すべきである。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・目標に近い実績であり改善の余地はない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・多種多様な住民ニーズに対応するため、現体制で可能な限り対応する。											

事務事業の概要	事務事業名	那賀支所施設管理事業			担当課	那賀支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1055	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、那賀支所の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	那賀支所施設管理			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	那賀保健福祉センター施設管理業務	件	目標	12	9	8	9	8	施設のメンテナンスを徹底し、施設内の点検を定期的に行い、優先順位を決め修理し来庁者に快適な環境を提供する。		
				実績	12	11	9					
	<指標の計算方法>		施設の維持管理・保守、修繕の件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	9,330			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9,330		
事業の実績	①那賀支所施設管理											
	業務委託 <ul style="list-style-type: none"> ・機械警備業務 ・清掃業務 ・電気保安業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・特殊建築物建築設備定期検査業務 ・特殊建築物防火設備定期検査業務 ・貯水槽清掃等委託業務 施設修繕 <ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽マンホール修繕 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民が安全に施設を利用していくために、施設管理に必要な修繕等を行う事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・施設管理の業務委託を実施していくことで、良好に維持出来ており来庁者からの苦情もない。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・今後も計画的な修繕を実施していくことで効率性を高めると考えられる。											

事務事業の概要	事務事業名		那賀支所改修整備事業			担当課	那賀支所		事業区分	ハード事業		
	会計		一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (H30 ~ R 4)	事業番号	1058	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	8 支所及び出張所費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要		市民がより快適に支所を利用し、行政サービスを受けられるように、那賀支所（那賀保健福祉センター）の改修整備を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	那賀支所整備		⑤				⑨			
		②			⑥				⑩			
		③			⑦				⑪			
		④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	那賀保健福祉センター空調改修契約件数	件	目標							空調工事 平成30年度 設計 令和元年度 工事完了	
				実績								
	<指標の計算方法>		那賀保健福祉センター空調改修契約件数									
	活動指標	那賀保健福祉センター外壁改修契約件数	件	目標			2				外壁改修工事 令和3年度 設計監理1件 調査1件 工事1件	
				実績			3					
	<指標の計算方法>		那賀保健福祉センター外壁改修契約件数									
活動指標	那賀保健福祉センター照明器具LED化契約件数	件	目標				2			照明LED化工事 令和4年度 設計監理1件 調査1件 工事1件		
			実績				3					
<指標の計算方法>		那賀保健福祉センター照明器具LED化契約件数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
43,120					40,800					2,320		
事業の実績	①那賀支所整備 照明LED化工事1件 照明LED化工事設計監理業務1件 照明LED化工事に伴う車庫アスベスト調査業務1件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・那賀保健福祉センター設備の老朽化により計画的な改修が必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・那賀保健福祉センター設備の老朽化により計画的な改修が必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・那賀保健福祉センター設備の老朽化により計画的な改修が必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	桃山支所運営事業			担当課	桃山支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1056	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように、桃山支所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤				⑨			
	②	各団体支援			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	8	8	8	8	8	桃山地域特有の団体も含め、目標どおりの団体支援を実施できている。		
			実績	8	8	8						
	<指標の計算方法>		区長会、消防団、交通指導員、民生委員、敬老会実行委員会、あら川の桃振興協議会、中国研修生受入協議会、民生委員推薦準備会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	150	150	150	150	150	新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から活動が減少していたが、各団体において徐々に従来の活動が再開されてきたことにより、その支援を行うことができた。		
			実績	92	89	127						
<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数										
活動指標	業務対応件数	件	目標	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	令和3年度と比較し実績値が減少した理由としては、主にマイナンバーカード交付関連事務及び期日前投票所の開設・運営の対応が令和3年度より減少したためである。			
		実績	17,422	23,417	19,276							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	6,599			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		6,599	
事業の実績	①窓口対応 19,276件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付			・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・マイナンバーカード受付 ・期日前投票所の開設・運営								
	②各団体支援 (127回) 交通指導員会 24回 消防団 16回 区長会 11回 民生委員児童委員協議会 31回 あら川の桃振興協議会 23回 中国研修生受入協議会 20回 敬老会実行委員会 会議 1回 民生委員推薦準備会 会議 1回											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・桃山地区において行政サービスを行うため、市が実施する以外に考える余地はない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・目標を上回る件数を実施しており、桃山地区の住民へのサービスは十分できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・各団体への支援を行いながら、現状の職員で出来る限り各種の業務に対応している。											

事務事業の概要	事務事業名	桃山支所施設管理事業			担当課	桃山支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1057	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、桃山支所の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	桃山支所施設管理			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	桃山支所施設管理業務	件	目標	10	10	10	10			支所利用者に不便をかけないよう、専門資格の必要な業務については業務委託を行い、修繕が必要な箇所は早急に対応した。また、支所外壁が広範囲で劣化しているため、改修工事に必要な調査と設計業務委託を実施した。	
				実績	13	14	12					
	<指標の計算方法>		施設維持管理のための対応件数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	6,684			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,684		
事業の実績	①桃山支所施設管理 業務委託 定期清掃業務 機械警備業務 電気保安業務 エレベーター保守点検業務 消防設備保守点検業務 外壁調査業務 外壁改修工事設計業務 修繕 給水管修繕 照明器具修繕 エレベーター修繕 2回 チェーンソー修繕											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・行政サービスの出先機関として、利用者に快適に安心して支所を利用いただくために必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・利用者が安心して施設を利用するために必要な業務である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・最低限の予算内で施設の維持管理を実施出来ている。											

事務事業の概要	事務事業名		貴志川支所運営事業				担当課		貴志川支所		事業区分	ソフト事業	
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1059
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営					
		項	1 総務管理費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
		目	8 支所及び出張所費			基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要		市民が市民サービスを受けられるように、貴志川支所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	① 窓口対応		⑤		⑨								
	② 各団体支援		⑥		⑩								
	③		⑦		⑪								
	④		⑧		⑫								
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	5	5	6	6	6	支所が事務局となっている団体の支援をしている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため敬老会が中止となった。一斉改選があったため民生委員推薦準備会を開催した。			
			実績	4	5	5							
	<指標の計算方法>		区長会、消防団、交通指導員会、民生委員児童委員協議会、民生委員推薦準備会										
	成果指標	支援実施数	回	目標	100	100	100	100	100	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各団体の会議、活動等が一部中止、延期となったが、必要な活動については感染予防策を講じ実施している。			
			実績	45	37	49							
	<指標の計算方法>		各団体への会議、活動等の支援回数										
成果指標	業務対応件数	件	目標	42,000	43,000	43,000	43,000	43,000	マイナンバーカード関連の対応と期日前投票所の開設・運営の業務が減少したが、目標を上回る件数である。				
		実績	43,639	57,840	48,645								
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談、苦情等の対応件数											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	4,481			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		4,481		
事業の実績	①窓口対応 48,645件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談、申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・マイナンバーカード受付 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ごみ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談			・福祉医療関係相談、受付 ・国民健康保険加入受付、各種届出受理 ・後期高齢者医療各種届出受理 ・国民年金加入、喪失等各種手続き ・期日前投票所の開設・運営									
	②各団体支援 49回 ・区長会 5回 ・消防団 5回 ・交通指導員会 22回 ・民生委員児童委員協議会 16回 ・民生委員推薦準備会 1回												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・生活と密着した地域に市役所の出先機関があることは地域住民にとって必要性が高く、市が実施するのは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・年少者や高齢者など移動に制約のある方へのサービス提供に特に有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・サービス拠点を分散して身近に設けることは周辺住民の利便性を高め効率的である。												

事務事業の概要	事務事業名	貴志川支所施設管理事業			担当課	貴志川支所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1060	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
取組方針	9	その他										
事業概要	市民が支所を安全で快適に利用できるように、貴志川支所の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	貴志川支所施設管理			⑤				⑨			
	②	未利用財産の活用			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	貴志川支所施設管理業務	件	目標	12	15	15	25	25	施設の長寿命化と経費削減を図りつつ、安全かつ快適に利用できるよう維持管理及び修繕等を行う。また公共施設マネジメント課から業務が移管されたこと等により件数が増加している。		
				実績	27	24	36					
	<指標の計算方法>		支所の維持管理とメンテナンス									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	34,612			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
					9,200		4,598	20,814				
事業の実績	①貴志川支所施設管理 【業務委託等】 支所（貴志川保健福祉センター） ・外壁等調査業務 ・外壁等改修工事設計業務 ・定期清掃業務 ・貯水槽清掃業務 ・機械警備業務 ・電気保安管理業務 ・空調設備保守点検業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・浄化槽保守点検業務 ・浄化槽法定検査 ・雑草等刈取業務 河南図書館（2階3階部分） ・建具改修及びLED照明化工事設計業務 【施設修繕等】 支所（貴志川保健福祉センター）			・西側屋外ガラス割替修繕 ・3階出窓部分屋外ガラス割替修繕 ・西側出窓部分及び玄関軒部分コーキング修繕 ・変電設備修繕 ・照明スイッチパターン変更修繕 ・支所駐車場外灯取替え修繕 ・火災通報装置点検及び2階200番配線修繕 ・外部照明漏電調査修繕 ・外部污水管つまり修繕 ・1階女子トイレ換気扇取替修繕 ・2階ランドリールーム換気扇取替修繕 ・浄化槽ブロワーベルト2本修繕 ・内線電話着信データ変更修繕 ・デュプロ印刷機修繕2回 ・理想科学自動紙折機修繕 河南図書館（2階3階部分） ・河南図書館3階そらまめサポート入口ガラス割替修繕 ・3階そらまめサポート窓修繕			・2階3階ドアチェック取替修繕（5箇所） 公文書庫 ・山田ダム土地改良区ドアノブ取替修繕 【工事請負】 ・貴志川支所照明器具修繕（LED化）及び防犯カメラ設置工事 ・河南図書館2階3階LED照明化工事 【備品購入】 ・公文書庫設置用消火器 ・クッキングルーム種火付二重羽根鋳物コンロ ②未利用財産の活用 (公共施設マネジメント課から移管) ・建物 庁舎等貸付5件 河南図書館2階3階 3件 公文書庫 2件					
	②未利用財産の活用 (公共施設マネジメント課から移管) ・建物 庁舎等貸付5件 河南図書館2階3階 3件 公文書庫 2件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・施設を有効に活用するための維持管理及び修繕は必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・施設の長寿命化のため、貴志川保健福祉センター外壁等改修及び河南図書館建具改修が必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・必要に応じて修繕等を実施しながら計画的に維持管理することが効果的である。											

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵出張所運営事業			担当課	鞆淵出張所		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1062	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が市民サービスを受けられるように鞆淵出張所を開設、運営する事業											
事務事業を構成する細事業	①	窓口対応			⑤				⑨			
	②	各団体支援			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	各種支援団体数	団体	目標	3	3	3	3	3	鞆淵地域特有の団体を含め、目標どおりの団体支援を実施できている。		
			実績	3	3	3						
	<指標の計算方法>		区長会、県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会、真国川を美しくする会									
	成果指標	支援実施数	回	目標	110	110	110	200	200	令和3年に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら実施される各種支援団体の活動や会議の支援を行うことができた。		
			実績	256	296	220						
<指標の計算方法>		各種団体等への会議、活動等の支援回数										
活動指標	業務対応件数	件	目標	2,700	2,700	2,700	2,700	2,700	主にマイナンバーカード関連の対応により目標を上回る対応件数となった。			
		実績	3,471	3,636	3,162							
<指標の計算方法>		来庁、郵送等による証明書発行、各種申請書受理、相談等の対応件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,848			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,848		
事業の実績	①窓口対応 3,162件 (主な業務) ・交通防犯、消防、区長会関係業務 ・建設部、農林商工部の各種補助事業相談申請受付 ・市道等の維持補修、あき地適正管理指導 ・農業委員会業務の受付、相談 ・出生届、婚姻届、死亡届など各種届出 ・印鑑登録、印鑑登録証明 ・戸籍謄・抄本、住民票の発行 ・埋火葬許可証発行 ・税関係各種証明書発行、税務相談 ・学校施設借用申請受付 ・指定ゴミ袋等販売 ・生活保護相談 ・身体障害者手帳・療育手帳の申請受付、交付 ・各種福祉手当の申請受付 ・要介護等申請受付、相談 ・福祉医療関係相談、受付			②各団体支援 ・区長会(民生委員児童委員、招魂祭、敬老会関係含む) 181回 ・県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会 25回 ・真国川を美しくする会 14回								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・鞆淵地区において行政サービスを行うため、市が実施する以外に考える余地はない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・他の施設まで遠く交通も不便、また高齢化が進む地域において窓口を設置することにより、地域住民へのサービスは十分できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・多岐にわたる業務を令和2年度から一般職員2名、会計年度任用職員1名の体制で対応している。											

事務事業の概要	事務事業名	鞆淵出張所施設管理事業			担当課	鞆淵出張所		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1063		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	8 支所及び出張所費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
取組方針	9	その他											
事業概要	市民が出張所を安全で快適に利用できるように、鞆淵出張所の適切な維持管理や改修を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	鞆淵出張所施設管理			⑤					⑨			
	②				⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	出張所施設管理業務	件	目標	20	20	20	20	20	来庁者に安全で快適に利用していただけるよう、保守点検や修繕等を実施しながら必要最小限の経費で施設の維持や管理を行うことができた。老朽化に伴い急遽必要となったガス管修繕を早急に行った。敷地内植栽の手入れを職員にて実施。			
				実績	16	22	4						
	<指標の計算方法>		出張所の維持管理実施件数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	1,509								1,509				
事業の実績	①鞆淵出張所施設管理 業務委託 ・消防設備保守点検業務委託 ・浄化槽保守点検業務委託 ・浄化槽法定検査 施設修繕 ・出張所ガス管修繕												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・行政サービスの出先機関として、利用者に快適に安心して出張所を利用いただくために必要である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・利用者が安心して施設を利用するために必要な業務である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・随所老朽化が目立つ施設を必要最小限の経費で維持管理を行っている。												

事務事業の概要	事務事業名	公平委員会運営事業			担当課	総合行政委員会事務局			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	10	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	1 総務管理費				施策目標	99 ****				
		目	9 公平委員会費				基本施策	99 ****				
取組方針				9	その他							
事業概要	職員の利益の保護と公正な人事権が行使保障されるように、公平委員会に審査請求や措置要求がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	公平委員会運営			⑤				⑨			
	②	全国公平委員会連合会負担金			⑥				⑩			
	③	近畿公平委員会連合会負担金			⑦				⑪			
	④	県公平委員会連合会負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	審査請求件数	回	目標						令和3年度以降審査請求なし。		
			実績		1							
	<指標の計算方法>		審査請求件数									
			目標									
実績												
<指標の計算方法>												
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	70			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		70	
事業の実績	①公平委員会運営 係争中の案件及び審議案件がないため、委員会の開催はなし。											
	②全国公平委員会連合会負担金 新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議。											
	③近畿公平委員会連合会負担金 新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議。											
	④県公平委員会連合会負担金 新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地方自治法で設置が定められている委員会であり、市が実施しなければならない事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・職員の利益の保護と公正な人事権の行使・保障に寄与している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・公平委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。											

事務事業の概要	事務事業名		自治振興事業			担当課	総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	504
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	10 自治振興費				基本施策	1	地域自治・地域コミュニティの充実			
事業概要		自治区が「地域の絆」を強め、地域コミュニティの分野で中心的な役割を担えるように、自治区や認可地縁団体の運営への支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業		① 集会所整備補助金			⑤ 自治区運営補助金			⑨				
		② 自治連絡協議会運営			⑥ 区長会補助金			⑩				
		③ 区長会運営			⑦ 自治区加入促進			⑪				
		④ 一般行政事務委託			⑧ 認可地縁団体活動支援			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	自治区加入率	目標	80	80	80	80	80	自治区加入率の減少については、人口減少・高齢化による加入世帯の減少だけでなく、分母となる総世帯数が世帯分離により増加傾向であるため微減している。			
			実績	74.3	73.8	73						
	<指標の計算方法>		自治区加入世帯数/住民基本台帳世帯数									
	活動指標	自治区補助団体数	目標	198	199	199	199	199	全自治区に対し、補助を実施した。			
			実績	199	199	199						
	<指標の計算方法>		自治区補助団体数									
	活動指標	集会所整備補助件数	目標	28	28	28	28	28	自治区からの要望分に対し、すべて補助を行った。			
			実績	40	25	21						
	<指標の計算方法>		集会所整備補助件数									
活動指標	補助事業の啓発回数	目標	6	6	6	6	6	各地区区長会において、啓発を実施した。				
		実績	6	6	6							
<指標の計算方法>		補助事業の啓発回数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	43,100			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	54 43,024		
事業の実績	①集会所整備補助金 地区集会所の整備に対する補助 ・21件 (改修14件、備品6件、耐震診断1件)			交付した。								
	②自治連絡協議会運営 自治連絡協議会を年2回開催し、協議を行った。			⑦自治区加入促進 各自治区においてパンフレットを活用し、転入者に対し、啓発活動を実施した。								
	③区長会運営 5地区区長会の運営・支援を行った。			⑧認可地縁団体活動支援 50団体に対し告示事項変更の支援、2団体に設立の支援を行いました。								
	④一般行政事務委託 199自治区区長に周知文書の配布等の委託											
	⑤自治区運営補助金 199自治区に地域活動への補助											
	⑥区長会補助金 5地区区長会の運営・支援に係る補助金を											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・一般行政事務委託事業、自治区運営補助事業については、市と自治区が共存していくために実施するのが妥当である。 ・集会所整備事業は、改修等整備に対する補助事業であるため、市が実施するのが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・自治区加入率の減少については、人口減少・高齢化による加入世帯数の減少だけでなく、分母となる総世帯数が世帯分離により増加傾向であることも要因である。 ・自治区運営補助金は集会所の維持費や行事の開催費など「地域の絆」形成に寄与している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・現在の方法が最適であると思われる。											

事務事業の概要	事務事業名	シティプロモーション事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1071	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	11 地域創生費				基本施策	1	市政情報の発信と適正な情報管理			
事業概要	自分に関わるまちへの誇り・共感を高め、まちをより良くしようという意欲や行動を促す事業											
事務事業を構成する細事業	①	シティプロモーション推進業務			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	地域推奨意欲	点	目標				6	6	6	長期総合計画後期基本計画の市民意識調査の結果である。意欲の度合いを0～10の数字から選んでもらい、選んだ人数の多さを加味した値である。「5」を選んだ人が最も多く、次いで「6」が選ばれている。	
				実績				5.3				
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「紀の川市の魅力を誰かにおすすめしたいと思う」に対する回答の平均(0～10点)									
	活動指標	シティプロモーションホームページ訪問者数	件	目標			6,000	80,000			サイト構築当初の令和3年度3月以降、ホームページへの誘導がなかなか行えなかった。暮らし・移住情報のホームページに情報の集約を行うこととした。	
				実績			6,333	5,859				
	<指標の計算方法>		「住いも甘いも紀の川市」ホームページアクセス数									
	成果指標	住み続けたい人の割合	%	目標	60	60	60	60	60	60	令和3年度並の結果であった。年代別では20代が33.8%と最も低く、さらに「転出する予定である」と答えた20代は15.8%と最も高い結果となった。	
				実績	53	55.2	55					
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「これからも紀の川市に住み続けたい」と回答した人の割合									
成果指標	紀の川市のことを誇りに思う人の割合	%	目標				90	90	90	長期総合計画後期基本計画の市民意識調査の結果である。「どちらかといえば誇りに思う」と回答した人が最も多く65.7%となっており、次いで「誇りに思う」が16.3%と続いている。		
			実績				82					
<指標の計算方法>		市民意識調査で「誇りに思う」「どちらかといえば誇りに思う」と回答した人の割合										
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		11,379		4,901						6,478		
事業の実績	①シティプロモーション推進業務・ホームページ「住いも甘いも紀の川市 KinokawaStyle」運営			力を投稿してもらい抽選で20名に景品をプレゼントするキャンペーンを開催。				配布申込者に対するアンケート結果の地域推奨度(0～10点)平均7.6点				
	②「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」				
③「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」					
④「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」					
⑤「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」					
⑥「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」					
⑦「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」					
⑧「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」					
⑨「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」					
⑩「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」					
⑪「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」					
⑫「アドベンチャーワールドの動物たちに桃をプレゼントするイベント」			フリーペーパー「紀の川スタイル」				フリーペーパー「紀の川人」					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・移住・定住人口の増加につながるよう、市に対する誇りや共感を育む本事業は、市が主体となって行う必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・シティプロモーションのホームページへのアクセスは、目標値に届かなかった。 ・市民自らが市の魅力を発見し、発信することで、より効果的に市に対する誇り、共感を高めることができるよう、事業のあり方を検討する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・シティプロモーションが一時的なイベントになるのではなく、市に対する誇りや共感を持続的にもってもらえるように事業のあり方を見直し、コストの削減に努めながら、効果を向上させていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	移住・定住推進事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	990	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
目		11 地域創生費			基本施策		2	地域の活性化と移住・定住環境の充実				
事業概要	移住・定住を促すための補助金の交付、相談や情報を提供するほか、空き家の利活用を促進し地域の活性化を図る事業											
事務事業を構成する細事業	①	移住・定住推進協議会運営			⑤	移住・定住推進補助金		⑨				
	②	移住・定住推進業務			⑥			⑩				
	③	空き家バンク登録・管理業務			⑦			⑪				
	④	空き家利活用促進業務			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	ワンストップ窓口を活用した移住者数	人	目標	5	5	10	25	30	子育て等に関する施策の充実や住居や仕事等、移住希望者のニーズに対応した情報の提供により、ワンストップ窓口を活用した移住者数が増加した。		
			実績	4	19	37						
	<指標の計算方法>		ワンストップ窓口を活用した移住者数									
	活動指標	ワンストップ窓口を活用した移住相談件数	件	目標	120	130	150	300	320	わかやま移住定住支援センター等からの誘導、移住促進ポータルサイトによる情報発信、空き家バンクサイト掲載物件数の増加により、相談件数が増加した。		
			実績	122	173	291						
	<指標の計算方法>		ワンストップ窓口を活用した移住相談件数									
	活動指標	空き家バンクへの空き家登録件数	件	目標	5	10	15	20	20	本市独自の空き家バンク制度の運用及び農業委員会と連携した農地付き空き家の流通に係る取組を実施したが、空き家バンク登録件数が微減した。		
			実績	2	22	19						
	<指標の計算方法>		空き家バンクへの空き家登録件数（単年）									
成果指標	売買・賃貸契約成立件数	件	目標	5	5	5	5	5	空き家バンク登録件数（総数）の増加により、移住希望者のニーズに合致する物件が増え、契約成立件数が増加した。			
		実績	2	6	14							
<指標の計算方法>		売買・賃貸契約成立件数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	22,360			国庫支出金	418	県支出金	2,925	地方債	繰入金	その他	一般財源	19,017
事業の実績	①移住・定住推進協議会運営 ・関係人口と移住による定住人口の拡大を図るために設置（平成28年2月） ・参画地域団体 麻生津の将来を考える会 アイラブともぶち 善田クローバー会 細野溪流キャンプ場管理組合 ・3/29開催			7/31大阪天満OMMビル 17件対応 ・いなスタ 2/23大阪天満OMMビル 7件対応 ・地域創生課窓口 71件対応 ワンストップ窓口を活用した移住者数37名 ・空き家バンク利用 12世帯22名 ・その他 7世帯15名			講演・トークセッション18名 ④空き家利活用促進業務 ・地域活性化起業人派遣 7月～ 打田エリア 1名（株式会社CASE） ・地域おこし協力隊導入 9月～ 打田エリア 1名委嘱（株式会社CASE紀の川支社）					
	②移住・定住推進業務 移住相談件数291件 メール、電話での相談170件 面談件数121件 ・県移住相談会（県主催） 12/10イオンモール堺鉄砲町 6件対応 ・市町村合同移住相談会（県主催） 3/4シティプラザ大阪 4件対応 ・マイナビ就農フェスト 6/26グランフロント大阪 16件対応 ・おいでや！いなか暮らしフェア			③空き家バンク登録・管理業務 ・登録19件 打田3件、粉河5件、那賀2件、桃山2件 貴志川7件 ・空き家対策セミナー及び相談会開催（所有者対象） 8/27 セミナー9名 相談会5組 10/8 セミナー4名 相談会2組 12/17 セミナー7名 相談会4組 2/25 相談会6組 ・空き家活用ミーティング（活用希望者対象） 11/19 まち歩き12名			⑤移住・定住推進補助金 ・移住支援金4件 3,900,000円 ・移住促進支援事業補助金2件 24,460円 ・空き家流通促進奨励金4件 112,000円 ・空き家仲介手数料補助金 売買1件 255,000円 ・定住促進支援事業補助金 リフォーム補助4件 2,126,000円 引越越し補助3件 296,250円 空き家片付け補助3件 300,000円					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・人口減少が進む中、関係人口・定住人口の増加につながる移住・定住推進事業は必要性が高く、市が取り組むことが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・空き家バンク登録物件数に比べて空き家バンク利用希望件数が多いため、複数の物件で内覧待ちが発生しており、空き家情報の掘り起こしを強化し、空き家バンク登録物件数の増加を図る必要がある。 ・関係各課との連携を強化し、移住希望者の求める情報を、効率的かつ一元的に発信していく必要がある。 ・自治会や専門的ノウハウを持った民間団体等と連携しながら、効率的に空き家情報の掘り起こしや利活用を進めていく必要がある。 ・空き家バンクやエアリアルノベーションの取組に加え、シティプロモーション事業をはじめとする他事業との連携を図りながら効果的に事業を進める必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・専門性を持った人材を活用し、空き家情報の掘り起こしや活用を進め、空き家の流動化やエアリアルノベーションを促進する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	若者定住促進住宅取得奨励事業		担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1151	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費			施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費			基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	市内で住宅を取得する若年層を対象に奨励金を交付することで、若者の転入促進と転出抑制を図り、市内定住を促す事業										
事務事業を構成する細事業	①	若者定住促進住宅取得奨励事業		⑤				⑨			
	②			⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	奨励金交付件数	件	目標	120	120	240	240	240	物価や宅地造成開発規模・件数の影響を受けたためか、交付件数は目標値を下回り、令和3年度と比較しても微減した。	
				実績	108	199	187				
	<指標の計算方法>		交付件数								
	成果指標	本事業が住宅取得の誘因となったと回答した交付者数	人	目標	20	20	100	100	100	アンケートでは「本事業が住宅取得の誘因となった」との回答が目標値を上回り、本事業が若年層の住宅取得気運の上昇に好影響を与えたと考えられる。	
				実績	14	85	101				
<指標の計算方法>		アンケートで「本事業が住宅取得の誘因となった」と回答した人数									
成果指標	交付対象年(暦年)における転入数－転出数	人	目標	10	10	10	10	10	様々な要因が考えられ、本事業のみの成果と位置付けることは難しいが、例年の転出超過から、令和4年は転入超過となった。		
			実績	-250	-56	8					
<指標の計算方法>		交付対象年における転入数－転出数(外国人除く)									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	79,462			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	58,762	
事業の実績	①若者定住促進住宅取得奨励事業 ・交付件数 187件 交付金額79,400,000円 基本交付のみ: 300,000円×21件 = 6,300,000円 児童加算のみ: 400,000円×62件 = 24,800,000円 転入加算のみ: 400,000円×37件 = 14,800,000円 児童及び転入加算: 500,000円×67件 = 33,500,000円 ・交付対象世帯員数 563人 うち児童 201人 うち転入者 258人 ・住宅種別 新築161件 中古26件(うち空き家バンク活用2件) ・住宅所在地 打田地区 88件 粉河地区 17件 那賀地区 5件 桃山地区 27件			貴志川地区 50件 ・チラシ配布依頼先(公社)和歌山県地建物取引業協会 ・広報6月号、1月号で周知 ・アンケート結果(抜粋) Q:奨励金制度を知った時期 A:契約前58%、契約～登記前27%、登記後13%、未回答2% Q:奨励金制度の情報入手元(上位3位) A:HP 26%、不動産業者23%、チラシ15% Q:直近の住所(上位3位) A:紀の川市51%、岩出市19%、和歌山市14% Q:最終的に紀の川市に決めた理由(上位3位、複数回答可) A:実家がある70%、施策が充実している49%、親しい友人がいる37%			Q:本制度は紀の川市での住宅取得のきっかけとなったか A:きっかけとなった54%、きっかけとならなかった45%、未回答1%				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・人口減少が進む中、市内で住宅を取得する若年層を対象に奨励金を交付することは、若者の転入促進と転出抑制を図る市の施策として妥当性がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・アンケートでは、回答者の半数以上が住宅取得の誘因となったと回答していることから、若年層の住宅取得において一定の有効性が認められる。また空き家バンクに関する移住定住支援制度との併用も可能であるため相乗効果も期待できる。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・近隣自治体の類似事業と比較しても奨励金額は適正な金額といえ、事務執行にかかるコストも最小限に抑えられている。										

事務事業の概要	事務事業名	奨学金返還支援事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1150	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	奨学金返還者の就労初期における経済的負担を軽減することにより、市内定住を促す事業											
事務事業を構成する細事業	①	奨学金返還支援事業			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	奨学金返還助成金交付件数	件	目標	90	45	75	140	180	紀の川市内の高校から進学実績のある大学・専門学校や日本学生支援機構等へのチラシの配布に加え、HP・広報紙やメール配信サービス・市公式LINE等多くの媒体で周知を行った結果、目標値を上回った。		
				実績	15	46	96					
	<指標の計算方法>		交付件数									
	成果指標	事業の満足度	%	目標	70	100	100	100	100			アンケートではこれまで全て「役に立った」旨の回答を得ており、奨学金を返還する若年層の市民を効果的に支援できていると考えられる。
				実績	100	100	100					
<指標の計算方法>		アンケートで本事業が「とても役に立った」「少し役に立った」と回答があった割合										
成果指標	居住、または居住し続ける要因となった割合	%	目標		85	85	85	85	アンケートでは「本事業が紀の川市居住の要因となった」との回答が85%を占め、若年層市民の市外転出抑制に一定の効果があつたと考えられる。			
			実績		78	85						
<指標の計算方法>		アンケートで「本事業が紀の川市居住の要因となった」と回答があった割合										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	6,405			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,405		
事業の実績	①奨学金返還支援事業 ・対象…大学などを卒業し、令和2年4月1日以降に奨学金の返還を開始し、市内在住で就業している等の要件を満たす者 ・交付者数…96人 (初回55人、2回目30人、3回目11人) ・交付決定額…6,334,000円 ・チラシ配布依頼先 大学等69校(県内27校、県外42校) 独立行政法人日本学生支援機構 和歌山県教育委員会 ・広報6月号、12月号で周知 ・アンケート結果(抜粋) Q:奨学金返還に対する負担意識 A:とても負担に感じる63%、少し負担に感じる28%、負担ではない3%、未回答6%				Q:受給者の勤務地(上位3位) A:紀の川市27%、和歌山市21%、岩出市17%							
	Q:返還支援事業の情報入手元(上位3位) A:広報紙43%、友人・知人22%、HP 12%											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・奨学金返還者の就労初期における経済的負担を軽減し、若年層市民の市内定住を促すことを目的としており、妥当性は高い。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・本事業が紀の川市居住の要因になったとするアンケートの回答が非常に多いことから、若年層市民の市外転出抑制に効果があつたと考えられ、有効性は高い。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・同様の事業を展開する他自治体との比較、奨学金返還額に対する経済的支援割合を鑑みると現在の助成額は適正といえ、事務執行にかかるコストも最小限に抑えられている。												

事務事業の概要	事務事業名	ふるさとまちづくり寄附金事業			担当課	地域創生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	971	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	ふるさと納税の寄附の獲得を通じ、市民の稼ぐ力を高め、市の魅力を発信する事業											
事務事業を構成する細事業	①	寄附額増加対策業務			⑤					⑨		
	②	寄附者管理業務			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	寄附申出件数	件	目標	30,000	54,000	80,000	120,000	135,000	返礼品の数や種類の増加に加え、ポータルサイトが6サイト増えたことで、寄附者の選択肢がひろがり、寄附件数は良好に推移している。		
				実績	41,008	60,708	117,285					
	<指標の計算方法>		寄附申出件数の実績を計上									
	成果指標	寄附金額	千円	目標	400,000	700,000	1,000,000	1,400,000	1,500,000	目標額であった10億円を上回る実績となった。あと数年は市場規模が拡大見込みであり、新たな地場産品の発掘・開発が必要である。		
				実績	545,924	770,744	1,387,750					
<指標の計算方法>		ふるさと納税の寄附金額										
活動指標	返礼品取扱事業者数(各年度末時点)	件	目標	50	65	120	150	180	事業者説明会等を実施したことで、ロコミによる新規事業者の獲得機会が増えている。一部の悪質な仕入事業者による被害を最小限に抑えるためにも、引き続き事業者による直接出品を呼びかける。			
			実績	50	103	165						
<指標の計算方法>		寄附者に対し返礼品を送付している事業者数										
活動指標	返礼品数	品	目標	350	500	700	800	900	主要な返礼品である桃に次ぐ地場産品が構築されつつあり、返礼品数の増加に伴って寄附額が順調に増加している。			
			実績	443	543	711						
<指標の計算方法>		登録返礼品数(総務省への申請数)										
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	610,224			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	610,224		
事業の実績	①寄附額増加対策業務			-令和4年9月21日(2部制)20組参加				対応件数:34,035件/112,863件(令和4年1月~12月分)				
	<ul style="list-style-type: none"> 既存ポータルサイト(8サイト) ふるさとチョイス 101,453千円 楽天 474,416千円 さとふる 659,863千円 ANA 12,461千円 ふるなび 35,942千円 ふるさとプレミアム 13,381千円 au PAY 15,245千円 三越伊勢丹 33,079千円 追加ポータルサイト(6サイト) ふるさとパレット 1,116千円 JAL 16,897千円 JR東日本 6,525千円 ふるさと納税百選 6,027千円 ふるさと本舗 1,932千円 ポケットマルシェ 2,159千円 市へ直接寄附 7,254千円 事業者対象の説明会開催 -令和4年6月21日(2部制)33組参加 			<ul style="list-style-type: none"> 関東圏での返礼品プロモーション -令和4年10月17日~11月7日 -森トラスト運営オフィスビルにて工芸品・日用品を展示 手渡返礼品による1,000円寄附促進 -令和5年3月18,19,25,26日 -4日間で146千円(64件)の寄附 -南紀白浜マリオットホテルにて実施 サンクスレターを作成・発送 -寄附者約1万人に対し送付 -令和4年度初取組で次年度継続予定 悪質な返礼品取扱事業者への対応 -生産者の同意を得ていない事業者を掲載停止にするなど、返礼品の品質向上に注力(2事業者の掲載停止) 				<ul style="list-style-type: none"> ワンストップ特例申請書受付協力員(のべ25人)の活用による業務削減 -前年実績と比較して約2.4倍の件数を3開庁日短縮して処理完了 -1月の職員の超過勤務時間を削減(超過勤務手当換算で31.8%の削減) 				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 先進的な取組を実施している自治体への視察を活かし、寄附者への事業報告や感謝を伝えることができた。 市民の稼ぐ力を高めるとともに市の歳入に関する重要な事業であり、市以外が主体となり得ない事業であることから妥当性には問題がない。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
<ul style="list-style-type: none"> 長期総合計画において、令和8年度に17億円を見込んでいるが、ふるさと納税を通じた地場産品の発信のためには更に品目・数量を確保する必要があり、新たな返礼品の開発・発掘に取り組む必要がある。 												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<ul style="list-style-type: none"> 長年の懸案であったワンストップ特例申請書の受付業務について、アルバイト(ワンストップ特例申請書受付協力員)の活用により大幅に効率性が向上した。 											

事務事業の概要	事務事業名	出会いと交流の場創出事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	単年度繰返し		事業番号	472
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興		
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実		
事業概要	市内での結婚の機運を高め、市への定住を促すために、紀の川市に在住・通勤・将来定住の意思がある未婚の男女に出会いの場の提供を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	出会いと交流の場創出事業			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	出会いと交流の場創出イベント開催回数	目標		1	2			参加者が他の参加者とコミュニケーションを取りやすい内容のイベントを企画し、異なる内容で2回実施することができた。		
			実績		1	2					
	<指標の計算方法>		出会いと交流の場創出イベントを開催した回数								
	成果指標	出会いと交流の場創出イベント参加者数	目標		30	60			複数の方法で周知を行った結果、2回のイベントは、どちらも男女ともに定員を超える申し込みがあり、参加者数も目標値を上回る値となった。		
			実績		38	62					
<指標の計算方法>		出会いと交流の場創出イベントに参加した人数の合計									
		目標									
		実績									
	<指標の計算方法>										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	654			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			654								
事業の実績	① 出会いと交流の場創出事業 ・ 出会いと交流の場創出イベント -開催数：2回 -参加者数合計：65人(内、2回とも参加した人 3人)			参加者数：男性20人(内市内在住7人) 女性20人(内市内在住8人)			周知方法：広報紀の川、わかやま出会いの広場、LiSM、受託業者のホームページ				
	(1) 恋する人狼～騙しあいから始まる恋～ 開催日：令和4年9月25日(日) 定員：男女各15人(申込先着順) 申込者数：男性35人(内市内在住13人) 女性16人(内市内在住5人) 参加者数：男性12人(内市内在住8人) 女性13人(内市内在住5人) 周知方法：広報紀の川、わかやま出会いの広場、LiSM、チラシ、受託業者のホームページ										
(2) 恋するいちご狩り 開催日：令和5年2月5日(日) 定員：男女各20人(申込先着順) 申込者数：男性34人(内市内在住16人) 女性30人(内市内在住9人)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地が大きい								
		・ 婚活・出会いイベントについて、参加者の安心感という点において市が主催することには一定の妥当性がある。しかし、婚活・出会いイベントを実施している民間事業者が数多くあり、また近年においてはマッチングアプリなどを活用する人が増えていることから、市が必ずしも実施する必要はないと考えられる。 ・ 出会いを創出する観点以外に、市として実施すべき結婚支援の方法の検討が必要である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・ 結婚を希望しながらも相手にめぐり合っていない独身の男女に、結婚のきっかけとなる出会いの場を提供することはできても、それが市内に新たな世帯の誕生や定住者の増加に繋がるとは限らない。 ・ 定住者の増加等に繋げることを目的とするのであれば、イベント実施後の参加者の動向を把握するなどの効果検証の方法を検討する必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・ 婚活・出会いイベントの実施について、最小限の費用で委託を行った。										

事務事業の概要	事務事業名	大学連携事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	8	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	地域・大学が共に活性化できるように、大学と各種取組で連携する事業											
事務事業を構成する細事業	①	連携推進業務			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	大学と連携している事業数	目標	65	83	100	100	100	継続的に取り組んでいる事業もある一方で、打田駅前空き家利活用プロジェクトへの参画といった新たな連携もみられた。			
			実績	23	21	24						
	<指標の計算方法>		市の事業のうち大学の教職員や学生が参画もしくは定例的に参加する事業数（インターン受入れは総じて1）									
	活動指標	大学との連携会議の開催回数	目標	10	10	10	10	10	以前からの継続的な取組と、令和4年度からの新たな取組とをバランス良く実施できるよう協議を行った。			
			実績	19	11	10						
	<指標の計算方法>		連携強化のための大学・地域創生課間における会議開催回数									
	活動指標	大学生が参画した地域活動の数	目標	5	5	5	5	5	ふるさと納税ワンストップ特例申請書受付協力員として大学生を雇用し、市役所の業務に携わってもらう機会が増えた。			
			実績	6	8	9						
	<指標の計算方法>		大学生と市民等（市民、企業、市）の交流が生まれた取組の数									
成果指標	連携大学卒業生の立地企業就職者数	目標	5	5	5	10	10	デュプロ精工株式会社への就職者が1名となっており、企業見学等による連携の成果が一定程度みられた。				
		実績	4	2	1							
<指標の計算方法>		連携大学の卒業生のうち、紀の川市の立地企業ガイドブックに掲載されている企業に就職した人数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	100			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	100		
事業の実績	①連携推進業務 ・近畿大学との会議、協議 (1) 卒論報告会の開催に向けた協議 -令和5年2月20日市役所にて報告会開催 (2) 学生を対象とした企業見学実施協議 -デュプロ精工(株)にて学生88名受入れ -令和4年7月27日デュプロ精工(株)の取組等説明 -令和4年8月8日デュプロ精工(株)、紀の川市役所で見学会を実施 (3) 3年生を対象とした企業による講義 -令和4年9月30日、10月7日、10月14日デュプロ精工(株)が講義を実施 (4) 緑色凝灰岩を用いた農作物育成試験 -桃(継続) -高設砂栽培による葉物野菜(継続) (5) 就職情報室との連携協議 -令和5年2月28日学内業界研究会に参加 (6) 大学活動支援補助金の事務処理協議 -包括連携協定大学活動支援補助金			(2)の企業見学実施に際し、学生が乗車した貸切バス料金を補助 (2台 100,200円) -令和5年度以降も活用見込み (7) 地域公共交通活性化再生協議会 -事業の相談等で適宜協議を実施 ・和歌山大学との会議、協議 ・信愛女子短期大学との会議、協議 (1) 連携の模索・検討協議 (2) 和歌山電鐵沿線での活動 -令和4年11月12日フィールドワーク -令和4年12月11日ワークショップ ・近畿大学学生が参画した地域活動 (1) 桃山まつり実行委員 (2) 1年生88名が、市内企業を見学 (3) 特別支援教育についての市指導主事の授業に参加 (4) 市に関する卒業論文を執筆した学生が市役所の報告会で発表			(5) キャリア教育の一環としてオンライン形式で開催する業界研究会に参加 (6) 市が事業委託する株式会社CASEの地域イベントに参加 (7) ふるさと納税ワンストップ特例申請書受付協力員 (8) 市ピンクリボンキャンペーン推進本部会員(学生4名) (9) 市少年少女発明クラブ指導員として事業に参加					
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市民・大学双方のニーズを実現できた事例もあり、妥当性がある。								
有効性		評価結果	改善の余地がややある ・年間一定数の連携協議を基礎とし、学生が市内で活動する機会を創出できており、本事業が目指す成果に対して有効なアプローチができています。 ・大学の研究成果や技術などの「知」と地域を元気にする「学生」、これらの資源を活用して市が抱える課題を解決できるよう連携のあり方を検討する必要があります。									
効率性		評価結果	改善の余地がない ・引き続き市・大学双方の継続的な交流を重ね、地域課題の解決につなげる。									

事務事業の概要	事務事業名	市民活動支援事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	12	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	1	地域自治・地域コミュニティの充実			
事業概要	市民、市民団体が自主的な社会貢献活動を活発に実施してもらえるように、活動の支援や補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	NPO団体活動支援			⑤				⑨			
	②	花いっぱい運動推進			⑥				⑩			
	③	花いっぱい運動補助金			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	認証NPO法人数	法人	目標	20	20	23	23	23	市内に主たる事務所を置く県認証NPO法人数は減少傾向にあるが、令和4年度は1団体増加した。		
			実績	18	15	16						
	<指標の計算方法>		市内に主たる事務所を置く県認証NPO法人数									
	成果指標	花いっぱい運動参加団体数	団体	目標	31	33	35	35	35	構成員の高齢化を理由に2団体が活動をとりやめたが、新たに活動する団体を募集したところ7団体が参加した。		
			実績	26	26	31						
<指標の計算方法>		花いっぱい運動参加団体数										
成果指標	花いっぱい運動参加人数	人	目標	600	640	630	630	630	花いっぱい運動参加人数は、構成員の高齢化等により減少傾向にあるが、令和4年度については新規7団体が加入したため増加した。			
		実績	425	405	591							
<指標の計算方法>		花いっぱい運動参加人数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,853			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		1,853	
事業の実績	①NPO団体活動支援 市ホームページ掲載20団体（県認証NPO12法人、その他8団体）が対象 ・会議室等使用料減免支援 2団体 各1件 計2件 ・輪転機の無料使用申請 1団体 2件 ②花いっぱい運動推進 ・花を愛する県民の集い（10/1、田辺市） 功労者感謝状 「紀の川市荒見自治会」受賞 推進功労者感謝状 「風市花の会」受賞 ③花いっぱい運動補助金 ・補助金交付申請受付、交付決定など ・プランター等の配布 ・現地確認											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・多様化する住民のニーズ全てに対応していくのは、今後ますます困難になると予想される。ゆえに、市が目指す協働の視点に立ち、主体的に活動する市民団体を支援することは必要であり妥当性がある。								
		有効性	評価結果	改善の余地がややある ・公共施設の花壇管理を行う団体が増加したが、構成員の高齢化により花いっぱい運動の参加団体数と参加人数について減少傾向が続くことが予想されるため、継続して新規団体の参入を促す必要がある。 ・花いっぱい運動は市の美化推進活動としてだけでなく、地域コミュニティの推進にもつながる取組として有効である。 ・市民団体やその活動内容の把握に努めるとともに、行政と市民の協働を積極的に進めていかなければならない。								
効率性	評価結果	改善の余地がない ・花いっぱい運動に対する補助では、花苗代や肥料等を補助対象としており、団体の活動はボランティアである。また、一部の団体は、市庁舎を含む公共施設において事業を行っており、施設管理上においても効率的に実施できている。 ・NPO団体の活動支援では、市公共施設の使用に伴う減免措置や輪転機の無料利用といった活動の支援を行っている。										

事務事業の概要	事務事業名	国際交流事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	470	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	観光・交流			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	国際交流と国内交流			
事業概要	姉妹都市、友好都市等と良好な関係を築くとともに、外国人住民と市民が互いに地域の一員として尊重しあえるよう交流を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	姉妹都市・友好都市等との交流			⑤				⑨			
	②	国際交流員受入			⑥				⑩			
	③	多文化共生の推進			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	姉妹都市、友好都市のいずれかを知っている市民の割合	目標		25	30	35	35	35	令和3年度まで認知度は上昇傾向にあったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による往來の減少からか、令和4年度数値は下降した。		
			実績		19.3	22.2	15.8					
	<指標の計算方法>		市民意識調査									
	活動指標	姉妹都市・友好都市等との交流事業開催回数	目標		6	6	6	6	6	オンライン交流や写真展等、往來を伴わない交流事業の実施回数が増加した。また、新型コロナウイルス感染症に関する水際対策の強化に係る措置が見直されたことにより、姉妹都市からの訪問団を2度受入れた。		
実績				3	4	9						
<指標の計算方法>		公式行事の回数										
成果指標	姉妹都市・友好都市等からの来訪者数	目標		50	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染症に関する水際対策の強化に係る措置が見直されたことにより、姉妹都市からの訪問団の受入を再開した。			
		実績		0	0	13						
<指標の計算方法>		公式行事による姉妹都市・友好都市からの来訪者数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,396			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,396		
事業の実績	①姉妹都市・友好都市等との交流 (西帰浦市)			て展示 9/22~10/6			・姉妹都市韓国西帰浦市から国際交流員としてオ・スンウン氏を受入 3/17					
	・両市中学校の生徒会によるオンライン交流を実施 8/19 参加者：粉河中学校生徒会、西帰浦市大新中学校生徒会 交流内容：お互いの学校行事紹介および生徒会の取組紹介など			・観光、文化に関するオンライン交流 11/20			③多文化共生の推進					
・西帰浦市写真展「美しい西帰浦の写真公募展10周年特別展」の優秀作品を打田生涯学習センターで展示 9/23~10/12			・春節祝贺ビデオメッセージの送付 1月 (クアンナム省)			・日本語教室実施団体に対する運営支援 日本語教室の会場使用料を減免することで、教室の継続的な開催を支援 「多文化オアシス☆にほんごおしゃべり会」「にほんで日本語～てには」						
・西帰浦市副市長訪問団(7名)を受入 11/15			・今後のベトナムとの交流を円滑に進めるため、和歌山県のベトナムミッション団に同行し、大使館等を訪問 10/5~10/9 参加者：市長、議長、企画部長、秘書広報課(現秘書課)・議事調査課・地域創生課職員各1名 計6名			・外国人住民を対象に相談や地域の方々との交流を目的とした市民主体の「ZERO YEN MARKET」の実施に協力 9/11(第1回：打田生涯学習センター) 12/11(第2回：古和田会館)						
・西帰浦市市長訪問団(6名)を受入 1/30 (濱州市)			②国際交流員受入									
・濱州市から寄贈のあった本を河北図書館に												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・姉妹都市・友好都市等と築いてきた友好関係のもと、身近な国際交流の機会を市民に提供できるため、市が実施することに一定の妥当性がある。 ・事業について市民の認知度は低く、活動の更なる周知と市民ニーズの把握に努め、関係都市と協議しながら事業を実施する必要がある。 ・市民が国籍に関係なく地域の一員として、安心して暮らせるよう多文化共生を推進することは、市の取組として妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・新型コロナウイルス感染症の影響下において、オンラインによる交流事業実施や公共施設での姉妹都市展示紹介など継続可能な範囲で交流事業の実施に努めた。 ・市民が積極的に事業に参加し、国際感覚の醸成に繋がる事業内容を検討する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・効果を向上させる観点からは、市が主催となる事業に限らず、より多くの市民が参加できる交流事業が実施されることが望ましい。 ・地域のボランティア団体が外国人住民を対象に開催する日本語教室について、継続的に開催できる会場を市が確保するなどの支援を行うことで、外国人住民の日本語学習の機会を効率的に提供できている。											

事務事業の概要	事務事業名	細野簡易郵便局運営事業			担当課	地域創生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	494	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	2	地域自治・コミュニティ・地域振興			
		目	11 地域創生費				基本施策	2	地域の活性化と移住・定住環境の充実			
事業概要	市民（細野地区）が郵便局関連のサービスの提供が受けられるように、細野郵便局の運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	細野簡易郵便局運営			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	郵便取扱い件数	件	目標	50	50	50	50	50	細野簡易郵便局を利用する地域における人口減少や高齢化の影響を受け、取扱い件数は減少傾向にある。		
				実績	42	24	21					
	<指標の計算方法>		取扱い件数を計上									
	活動指標	貯金取扱い件数	件	目標	1,100	1,100	1,000	1,000	1,000	細野簡易郵便局を利用する地域における人口減少や高齢化の影響を受けてはいるものの、取扱い件数は微減にとどまっている。		
				実績	932	884	883					
	<指標の計算方法>		取扱い件数を計上									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,096			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,096		
事業の実績	①細野簡易郵便局運営 郵便取扱い件数 21件 貯金取扱い件数 883件 事務取扱者として、臨時職員3名が、交代制で郵便局運営を行っている。 令和4年10月 臨時職員1名入替。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地が大きい									
		・昭和24年に開局した細野簡易郵便局は、かねてより地域住民の生活インフラとして重要な役割を担ってきたが、自治体が運営する簡易郵便局は和歌山県内では当局のみ、近畿地方内でも8ヶ所のみである。 ・簡易郵便局のある細野生活改善センター施設の地元への移管協議や郵便及び貯金取扱い件数の減少から、市による簡易郵便局事業の運営を見直すこととした。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
効率性	・地域住民にとっての唯一の金融機関として利用されているが、郵便及び貯金の取扱い件数は減少傾向にある。											
	評価結果	改善の余地がややある										
・郵便業務の研修を受講した臨時職員が円滑に事務を行っており、日本郵便株式会社からの取扱い手数料で人件費や施設の維持管理費を賄っている。 ・今後、取扱い件数の減少とともに、日本郵便株式会社からの取扱い手数料の減額が予想される。												

事務事業の概要	事務事業名	バス運行支援事業			担当課	交通政策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	485	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 総務管理費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	12 交通政策費				基本施策	3	公共交通ネットワークの充実			
取組方針	1	公共交通の維持・確保・充実										
事業概要	市民がバスや乗合タクシーでスムーズに移動できるように、バス会社やタクシー会社に対し運行支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	紀の川コミュニティバス運行補助金			⑤				⑨			
	②	地域巡回バス運行補助金（乗合タクシー路線含む）			⑥				⑩			
	③	粉河・熊取線バス運行補助金			⑦				⑪			
	④	関係各所との協議			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	年間利用者数（地域巡回バス）	人	目標	41,000	41,000	41,000	27,000	27,000	人口減少の為、利用者数が年々減少傾向にあり、令和3年度と比較しても利用者数が減少した。 利用者減少率 △1.18% 人口減少率 △0.83%		
		実績		27,044	26,161	25,851						
	<指標の計算方法>		地域巡回バスの年間利用者数									
	成果指標	年間利用者数（紀の川コミュニティバス）	人	目標	34,000	24,000	24,000	20,600	20,600	人口減少の為、利用者数が年々減少傾向にあり、令和3年度と比較しても利用者数が減少した。 利用者減少率 △1.23% 人口減少率 △0.83%		
		実績		24,009	20,120	19,873						
	<指標の計算方法>		紀の川コミュニティバスの年間利用者数									
	成果指標	年間利用者数（粉河熊取線）	人	目標	70,000	70,000	70,000	42,000	42,000	新型コロナウイルス感染症の影響からの回復が見られ、令和3年度に比べ利用者数が増加した。		
		実績		34,234	37,164	41,139						
	<指標の計算方法>		粉河熊取線の年間利用者数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	113,476			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①紀の川コミュニティバス運行補助金 ・和歌山バス那賀株式会社 紀北巡回線：18,250,427円			<デマンド型乗合タクシー運行補助金> ・株式会社有交紀北：60,300円 赤沼田名手駅前路線								
	②地域巡回バス運行補助金（乗合タクシー路線含む） <地域巡回バス運行補助金> ・和歌山バス那賀株式会社：47,452,391円 粉河那賀路線（名手上那賀支所コース・川原西脇コース）、打田粉河路線（赤尾藤井コース・長田竜門コース）、打田路線（北勢田コース・三谷コース・黒土高野コース）、打田貴志川路線（打田貴志川コース） ・有田交通株式会社：12,441,890円 貴志川路線（東貴志丸栖コース・西貴志コース） ・株式会社有交紀北：13,814,040円 粉河桃山路線（桃山瀬淵コース） 打田貴志川路線（細野貴志川コース）			③粉河・熊取線バス運行補助金 ・和歌山バス那賀株式会社：21,137,262円 粉河熊取線				④関係各所との協議 ・地域巡回バス貴志川路線の運行事業者が、令和5年度から有田交通株式会社から和歌山バス那賀株式会社に変更となる事に関して協議を実施。				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域巡回バス及び紀の川コミュニティバス等の路線は、地域住民や来訪者の移動手段確保のための路線であり収益性が低い為、市が補助を行わなければ運行を維持できない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・紀の川市地域公共交通網形成計画に基づき、地域の利用実態に応じた適材適所のサービスへの転換を図っており、有効性がある。 ・少子高齢化や人口減少、新型コロナウイルス感染症の影響により利用者が減少傾向であるが、今後も市民の生活交通の維持・確保を図っていきたい。 ・地域公共交通の再編等は、地域住民に与える影響が大きいため、利用促進・分析・情報発信に時間を割く必要があり、迅速な対応が困難である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・本市における地域公共交通の担い手である事業者は限られており、事業者との良好な関係を構築することは持続可能な公共交通網の形成には不可欠である。その意味においては、限られた資源（運転士・車両など）を効率的に活用し、サービスを提供できている。											

事務事業の概要	事務事業名	鉄道運行支援事業			担当課	交通政策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 総務管理費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	12 交通政策費				基本施策	3	公共交通ネットワークの充実			
取組方針	1	公共交通の維持・確保・充実										
事業概要	市民が鉄道でスムーズに移動できるように、鉄道事業者、関係機関と協力、連携して運行に対する支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 貴志川線運営協議会	⑤ 貴志川線安全輸送に係る設備整備支援事業補助金	⑨									
	② 和歌山線活性化検討委員会	⑥	⑩									
	③ 貴志川線存続支援事業補助金	⑦	⑪									
	④ 貴志川線運営委員会	⑧	⑫									
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	1日当たりの乗降客数(和歌山線)	人/日	目標	5,400	5,400	5,400	5,400	5,400	新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、乗降客数はわずかに増加したものの、新型コロナウイルス感染症が拡大する以前の水準(令和元年度実績5,066人)には回復しなかった。		
				実績	4,524	4,506	4,716					
	<指標の計算方法>		事業者から提供された資料を基に市内5駅の合計値を算出									
	成果指標	1日当たりの乗降客数(貴志川線)	人/日	目標	2,600	2,600	2,600	2,600	2,600	新型コロナウイルス感染症の収束に伴い、乗降客数はわずかに増加したものの、新型コロナウイルス感染症が拡大する以前の水準(令和元年度実績2,301人)には回復しなかった。		
				実績	1,390	1,428	1,460					
	<指標の計算方法>		事業者から提供された資料を基に市内4駅の合計値を算出									
	活動指標	貴志川線運営委員会への出席回数	回	目標	12	12	12	12	12	他の業務と日程が重なり、4月の開催を欠席した。		
				実績	11	10	11					
	<指標の計算方法>		毎月1回開催される運営委員会への出席回数									
活動指標	和歌山線活性化検討委員会の担当者会議開催回数	回	目標	1	1	1	1	1	令和5年度事業等に関する意見交換のため1回実施した。			
			実績	2	4	1						
<指標の計算方法>		和歌山線活性化検討委員会の担当者会議開催回数										
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	50,123			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	20,000	その他	一般財源	30,123	
事業の実績	① 貴志川線運営協議会 ・負担金:100,000円 ・事業内容 会計監査 幹事会:1回(書面) 総会:1回(書面) 利用促進事業の実施 ・構成団体 和歌山市(会長) 紀の川市(副会長) 和歌山県(参与)			・構成団体 紀の川市(会長) 和歌山市(副会長) 橋本市(副会長) 和歌山県(理事) JR西日本和歌山支社(理事) 岩出市(監事) かつらぎ町(監事)			和歌山県立和歌山東高等学校 和歌山県立貴志川高等学校 貴志川線の未来をつくる会 和歌山の交通まちづくりを進める会 和歌山電鐵株式会社 (オブザーバー) 山東まちづくり会 ⑤ 貴志川線安全輸送に係る設備整備支援事業補助金 ・貴志川線の安全な運行継続を図るための設備修繕に係る費用に対して、県及び和歌山市と共同で補助金を交付 交付実績金額:25,092,588円					
	② 和歌山線活性化検討委員会 ・負担金:200,000円 令和4年度への繰越額が例年より多くなったため、負担金を1団体あたり250,000円から200,000円に減額 ・事業内容 幹事会:随時開催 総会:年1回(書面) 利用促進事業の実施			③ 貴志川線存続支援事業補助金 ・県及び和歌山市と共同で補助金を交付 交付実績金額:24,730,000円 ④ 貴志川線運営委員会 ・毎月1回開催される運営委員会に出席 ・委員 和歌山県総合交通政策課 和歌山市都市計画部交通政策課 紀の川市企画部地域創生課(現交通政策課) 和歌山商工会議所 紀の川市商工会(貴志川支部)								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域公共交通網形成計画においても、鉄道は広域軸として重要な移動手段であるとしており、存続支援は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・沿線人口の減少や道路網の整備等により、鉄道を取り巻く状況は依然厳しい状態が続くことが予想される。 ・鉄道事業者とは定期的に会議を開いており、利用者数などその運営状況は適切に把握できているが、今後の鉄道維持のためには、鉄道事業者や沿線自治体、沿線住民が一体となった利用促進に向けたさらなる取組が必要である。 ・貴志駅は、インバウンド対策においても重要な観光拠点である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・令和3年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、特に貴志川線においては、厳しい運営状況となっており、県、和歌山市とともに効率よく支援できているものの、貴志川線の存続のため、補助金の増額や公有民営化について、研究、検討を行っていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	パークアンドライド推進事業			担当課	交通政策課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	490
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境		
		項	1 総務管理費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通		
		目	12 交通政策費				基本施策	3	公共交通ネットワークの充実		
取組方針				2	公共交通の利用促進・啓発						
事業概要	市民が電車、バスを利用しやすくするために、駐輪場、駐車場の整備、管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	粉河駅前市営駐車場管理運営			⑤				⑨		
	②	駅前駐輪場管理運営			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析						
	成果指標	駐車場使用料	円	目標	1,853,280	2,059,200	2,059,200	2,107,200	2,107,200	駐車場利用者について、令和2年度までは減少傾向であったが、令和3年度より増加に転じている。増加した要因については、令和3年度に行った白線の修繕や照明の修繕により利便性が向上したことが考えられる。					
				実績	1,757,900	1,845,100	2,368,800								
	<指標の計算方法>		駐車場使用料の年間合計												
	成果指標	月極駐車場使用率	%	目標	50	50	50	50	50				令和3年度と比較して上昇している。令和3年度に白線の修繕や照明の修繕を行ったことにより、利便性が向上したことが要因であると考えられる。		
				実績	28.8	30.2	38.5								
<指標の計算方法>		1ヶ月あたりの駐車台数の平均値/収容台数×100(少数第二位を四捨五入)													
活動指標	利用促進の年間啓発回数	回	目標	1	1	1	1	1	駐車場の周知を行うため広報紙に掲載し、利用促進を図っている。						
			実績	1	1	1									
<指標の計算方法>		パークアンドライドの推進に関する啓発活動の実施回数													
			目標												
			実績												
<指標の計算方法>															

コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)		財源内訳				
	2,464		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他
						2,369	95

事業の実績	①粉河駅前市営駐車場管理運営	40代17%、50代26%、60代9%、70歳以上9%	西山口駅第2自転車駐車場：20台 大池遊園駅自転車駐車場：25台
	<ul style="list-style-type: none"> 業務委託に関すること 委託先：紀の川市商工会 委託内容：使用料の収納業務 施設管理 など 委託料：279,780円 駐車台数(1ヶ月あたりの平均値) 市営第1駐車場(月極)：23.58台 (収容台数64台) 市営第2駐車場(月極)：13.42台 (収容台数32台) 市営第2駐車場(日極)：10.00台 (収容台数3台) 利用契約時にアンケート調査実施 利用目的： <ul style="list-style-type: none"> 通勤(鉄道)48%、通勤(バス)0%、通勤(近隣)15%、通学(鉄道)7%、通学(バス)4%、自宅駐車場26% 利用者年代： <ul style="list-style-type: none"> 20歳未満0%、20代26%、30代13%、 	<ul style="list-style-type: none"> 駐輪場維持修繕 市営第1駐車場土除去：1回 市営第2駐車場木本伐採：1回 駅前駐輪場管理運営 駐輪台数調査実施 7月6日、7日、13日、14日に実施 駐輪場の収容力 打田駅第1自転車駐車場：100台 打田駅第2自転車駐車場：70台 下井阪駅自転車駐車場：150台 粉河駅第1自転車駐車場：70台 粉河駅第2自転車駐車場：10台 紀伊長田駅自転車駐車場：20台 名手駅第1自転車駐車場：100台 名手駅第2自転車駐車場：150台 貴志駅自転車駐車場：130台 甘露寺前駅自転車駐車場：50台 西山口駅第1自転車駐車場：6台 	<ul style="list-style-type: none"> 利用促進の年間啓発回数：1回 (広報3月号に掲載) 駐輪場維持修繕 名手駅、粉河駅自転車駐車場除草：1回 打田駅第1自転車駐車場蛍光灯交換：1回 打田駅第2自転車駐車場照明修繕：1回

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・地域住民の移動手段となる地域公共交通の維持のために、駐車場・駐輪場を整備、管理することは妥当である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある
<ul style="list-style-type: none"> 市営駐車場(月極)の利用者数が令和3年度より増加した。また、周辺事業者の職員等が市営駐車場を利用しており、比較的用户数が安定している。 駅や周辺事業者を訪れる市民の利便性のみならず、周辺道路の違法駐車や駐輪が減少し、市民の安全に貢献している。 利用者のニーズを把握し利用促進を図るため、契約締結時にアンケート調査を実施した。 日極駐車場についても、利用してもらいやすいよう周知を図らなければならない。 			
効率性	評価結果	改善の余地がない	
	・市営駐車場から近く、管理の目が届きやすい紀の川市商工会に業務委託することは効率的である。		

事務事業の概要	事務事業名	地域公共交通活性化再生事業			担当課	交通政策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1125	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 総務管理費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
目		12 交通政策費			基本施策		3	公共交通ネットワークの充実				
取組方針	1	公共交通の維持・確保・充実										
事業概要	地域公共交通の活性化及び再生に関する利用促進等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）の開催			⑤				⑨			
	②	情報発信・利用促進			⑥				⑩			
	③	試行運行の実施			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）の開催	目標	2	2	3	3	3	対面開催を2回、書面開催を1回実施。			
			実績	4	3	3						
	<指標の計算方法>		法定協議会の開催回数									
	活動指標	住民主体の利用促進活動への支援	目標	7	8	9	10	10	新型コロナウイルス感染症の影響で活動促進のPRが不足し回数が伸びなかった。講座2回、自治区1回、他団体1回			
			実績	3	2	4						
	<指標の計算方法>		地域住民が地域公共交通の利用促進に主体的に関わった回数（網形成計画）									
	活動指標	市が主体となった利用促進の実施回数	目標	7	15	15	10	10	新型コロナウイルス感染症の影響でイベント等が減少し広報等の啓発回数が減少した。市ホームページ1回、市内高校1回、巡回バスラッピング事業1回			
			実績	15	5	3						
	<指標の計算方法>		市が主体的に取り組んだ地域公共交通の利用促進活動の回数									
成果指標	公共交通に満足している市民の割合	目標		30	30	30	30	近年の実績は横ばいで推移。				
		実績	18.8	18.9	19.3							
<指標の計算方法>		市民意識調査で公共交通ネットワークの充実について「満足」「まあ満足」と回答した市民の割合										
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	3,301			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		3,301	
事業の実績	①紀の川市地域公共交通活性化再生協議会（法定協議会）の開催 ・協議会を3回開催 6月13日（対面） 「国庫補助申請に係る承認事項について」等 1月12日（書面） 「令和4年度地域内リーダー系統確保維持計画の事業評価案について」 2月21日（対面） 「地域巡回バス貴志川路線の運行事業者変更について」等 ②情報発信・利用促進 住民主体の利用促進支援 ・自治区からの要望に応じて地域巡回バスの時刻や乗継方法などを説明した回覧資料を作成し、配布 ・粉河民生委員児童委員協議会の依頼により紀の川市の公共交通ネットワークの現 状と課題に関する説明を実施 10月13日 ・那賀民生委員児童委員協議会の依頼により出前講座「マイ時刻表を作ろう！」を開催し、利用促進 1月20日 ・NPO法人フレイルサポート紀の川のフレイル予防バスマップの作成を支援（バス時刻表等の校正および製本） 市主体の利用促進実施 ・市ホームページに地域巡回バスの利用状況に関する情報を掲載 ・市内高校の新入生へ時刻表配布（2校） ・地域巡回バス車両にラッピングするデザインを案の中から市民の投票によって決定。地域巡回バス車両5台にラッピングを施し、関心喚起と利用促進を実施 ③試行運行の実施 ・令和3年10月1日に路線及びダイヤを改正した地域巡回バスについて、令和5年9月											
	30日までの約2年間を試行運行期間と位置づけ運行中 ・令和5年度末に、紀の川市地域公共交通網形成計画の計画期間が終了することに伴い、新たに紀の川市地域公共交通計画を策定するにあたり、市民および地域巡回バス利用者を対象としたアンケート調査を実施し、ニーズの把握等に努めた。											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
・人口減少や高齢化社会が進行する中、市民が利用しやすく、かつ持続可能な公共交通ネットワークの実現に向けて市が取組を行うことは妥当である。												
有効性		評価結果	改善の余地がややある									
	・市民意識調査で「公共交通ネットワークの充実」に対し、「不満」「やや不満」と回答した市民の割合が高い状態が続いている。 ・地域公共交通関係者間で、現在の利用状況や市民ニーズ、または、社会情勢の変化をふまえて協議を重ねながら、利用しやすい最適な公共交通ネットワークとなるよう見直しを行い、満足度の向上に努める必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・より多くの方に利用してもらえる公共交通ネットワークに再構築する必要があるが、コストの削減についても検討する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	電算システム管理運営事業			担当課	デジタル推進室			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	11	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
目		13 電算管理費			基本施策		3	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要	電算システムを安全かつ安定的に稼働させることで、職員が効率的に業務を行い、市民に安定した行政サービスを提供する事業											
事務事業を構成する細事業	①	情報系システム管理			⑤				⑨			
	②	基幹系システム管理			⑥				⑩			
	③	セキュリティ対策			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	情報系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。		
			実績	0	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数									
	成果指標	基幹系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。		
			実績	0	0	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数									
	成果指標	情報漏えい事故発生件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から職員が情報セキュリティポリシーを意識して安全にシステムを利用できており、ISMSも機能していると判断できる。		
実績			0	0	0	0	0					
<指標の計算方法>		実数による件数										
活動指標	サービスデスク受付件数	件	目標	3,500	3,450	3,400	3,350	3,300	受付件数が目標値より少なかったことから安定したシステム運用ができてしていると判断できる。			
		実績	3,498	3,419	3,379							
<指標の計算方法>		実数による件数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	124,544			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	124,544		
事業の実績	①情報系システム管理 ・京セラ製プリンタ修繕 22台 ・mouseパソコン修繕 40台 ・ハードウェア保守の実施 ・ソフトウェア保守の実施 ・ネットワーク保守の実施 ・システム運用支援の実施 ・サービスデスク業務の外部委託実施 ②基幹系システム管理 ・ハードウェア保守の実施 ・ソフトウェア保守の実施 ・帳票印刷の外部委託実施 ・自治体共同クラウドの利用 ・サービスデスク業務の外部委託実施 ③セキュリティ対策 ・ISMS認証の維持 ・自治体情報セキュリティクラウドの利用											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・基幹系及び情報系システムの安定稼働は、本市の業務の根幹を成すものであり、効率的な行政運営や質の高い行政サービスを提供するためには必要不可欠であるため事業実施の妥当性がある。										
有効性	評価結果	改善の余地がない										
	・セキュリティ事故も発生しておらず、システムも安定稼働しているため有効性がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・サービスデスク業務（市職員からの問合せや要望対応の業務）を外部委託に出していること、SLA（サービスレベルアグリーメント）により基本システムについては安定した稼働が保証されているため効率性がある。一方で、サービスデスク業務を行う委託業者の要員は1名しかいないため、別件の対応中などには職員もサービスデスク業務を行うことがあり、更なる効率化などを考える必要がある。											

事務事業名	電算システム更新事業		担当課	デジタル推進室			事業区分	ソフト事業		
	新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	497			
事務事業の概要	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
	予算科目	款	2		総務費	施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		項	1		総務管理費	基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進		
		目	13		電算管理費	取組方針	9	その他		
	事業概要	電算システムを安全に、安定的に稼働させ、市民に安定した行政サービスを提供できるように電算システムを更新する事業								
事務事業を構成する細事業	①	情報系システム更新	⑤		⑨					
	②	基幹系システム更新	⑥		⑩					
	③		⑦		⑪					
	④		⑧		⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	成果指標	情報系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。
			実績	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数							
	成果指標	基幹系システム停止件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から安定稼働していると判断できる。
			実績	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数							
	成果指標	情報漏えい事故発生件数	件	目標	0	0	0	0	0	指標の実績から職員が情報セキュリティポリシーを意識して安全にシステムを利用できており、ISMSも機能していると判断できる。
			実績	0	0	0				
	<指標の計算方法>		実数による件数							
活動指標	基幹システム稼働業務数	業務	目標	53	53	53	53	53	指標の実績から53業務の稼働ができており、安定稼働していると判断できる。	
		実績	53	53	53					
<指標の計算方法>		稼働業務数								
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	4,513			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
								4,513		
事業の実績	①情報系システム更新 ・管理者権限の管理強化 ②基幹系システム更新 ・団体内統合宛名システム更新									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市の業務継続に直結する事業であるため、市が実施することは妥当である。							
		評価結果	改善の余地がない ・指標が示すように、安定したシステムを導入したという成果が出ており有効である。							
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・電算システムに係る機器については、メーカー標準保守期間終了後に機器状態に応じて、機器を買い替えずに保守延長をすることでコスト削減ができており効率性がある。							

事務事業の概要	事務事業名	行政情報化推進事業		担当課	デジタル推進室		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号		
	予算科目	款	2 総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
	目	1 総務管理費	施策目標		3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成					
	目	13 電算管理費	基本施策		3	将来を見据えた行政経営の推進					
事業概要	行政分野への情報通信技術の活用により、市民の利便性の向上と行政運営の効率化を図り、また関係団体、関係機関に負担金の支出や運営へ参加する事業										
事務事業を構成する細事業	①	県情報化推進協議会負担金		⑤	統合型GIS管理		⑨	デジタル化推進			
	②	地方公共団体情報システム機構負担金		⑥	テレワーク促進		⑩	紀の川市DX推進計画策定			
	③	県電子自治体推進協議会参画		⑦	電子申請推進		⑪				
	④	業務自動化促進		⑧	デジタルデバйд対策		⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	業務自動化による削減業務時間数	時間	目標	450	750	800	850	900	各課のL2メールを自動で情報系各課フォルダへ振り分けるシナリオを追加作成し運用していることから令和4年度に関しては大幅に削減時間が増えた。また、その他にも国保年金課及び商工労働課にて1つずつ新しいシナリオを追加作成し運用している。	
			実績	746	759	3,124					
	<指標の計算方法>		削減された業務時間数の合計								
	活動指標	継続実施している情報化推進施策数	個	目標	2	3	4	5	6		統合型地図情報システム、業務自動化ソフトウェア(RPA)の研修・運用、オープンデータ用カタログサイト運営、テレワークシステム運用、電子申請、スマートフォン教室・相談窓口を継続実施
			実績	4	6	6					
	<指標の計算方法>		実施中の情報化施策数(前年度以前からの継続実施を含む)								
成果指標	電子申請件数	件	目標		15	150	180	180	8月から3月末まで、基本郵送料(84円)の無料化を行った結果、一定の効果はあった。また指標ではないが、寄せられた申請者レビュー(158件内42件)は38件が高評価であった。		
		実績		12	158						
<指標の計算方法>		住民票の写しや戸籍謄本等の証明書交付を電子申請で受けた件数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	28,120			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①県情報化推進協議会負担金			独身証明書	5件		・庁内の有志からなるDX推進員を組織し、計5回のDX推進会議を実施 ・パブリックコメント 募集期間:令和5年2月1日~2月21日 意見 2件				
	②地方公共団体情報システム機構負担金			身分証明書	15件						
③県電子自治体推進協議会参画			課税証明書	49件		⑧デジタルデバйд対策 スマートフォン教室 ・アプリ操作編 34回開催 130人参加 ・スマホ操作編 7回開催 78人参加 ・キャッシュレス決済編 1回開催 10人参加 スマートフォン相談窓口 16回開催 78人参加					
④業務自動化促進			納税証明書	8件							
・障害福祉課 420時間削減			⑨デジタル化推進			⑩紀の川市DX推進計画策定 本市が担う行政サービスや様々な行政課題をデジタル技術やデータ活用等により解決し、住民の利便性を向上させるとともに、業務の効率化を図り、人的資源を市民サービスの更なる向上に繋げていくため策定した。					
・教育総務課 210時間削減			・LoGoフォーム(フォーム作成ツール)導入								
・高齢介護課 85時間削減			⑪								
・公共施設マネジメント課 44時間削減			⑫								
・国保年金課 28時間削減											
・商工労働課 57時間削減											
・企画経営課 2,280時間削減											
⑤統合型GIS管理											
⑥テレワーク促進											
・年間6,999日分の貸出実績 (内訳) モバイル 561日分 在宅 6,438日分											
⑦電子申請促進											
住民票の写し 14件 戸籍謄本・抄本 59件 戸籍の附票の写し 8件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・DX等の情報化施策は、職員の生産性向上や業務効率化、住民サービスの向上に寄与し、庁内外への影響も大きいと認め、本事業を実施する妥当性がある。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
			・デジタル推進監(民間のデジタル人材)からの助言に基づき情報化推進施策を実施している。また、指標の通り、継続実施している情報化推進施策が計画値を上回っているため有効性がある。特に業務自動化促進については、投資費用以上の効果が認められる。								
効率性	評価結果	改善の余地がない									
			・DXを進める上では複数のサービス等を比較検討し、コストとパフォーマンスのバランスのとれたサービスを選定しているため効率性がある。ただし、本分野は変化が著しいため、選定後のサービスについても定期的な見直しや再評価が求められている。								

事務事業の概要	事務事業名	地域情報通信基盤管理運営事業			担当課	デジタル推進室		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	402		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1 総務管理費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	14 地域情報化推進費				基本施策	1	市政情報の発信と適正な情報管理				
事業概要	市民（難視聴エリア）の市内における情報格差の是正を図るために、施設整備や情報・通信サービスの提供、対策を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	設備管理			⑤				⑨				
	②	設備更新			⑥				⑩				
	③	難視聴・不感対策			⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	設備適正管理施設数	箇所	目標	5	5	5	5	5	難視聴地域にテレビ放送を提供するため、5箇所には放送用機材を設置している。故障や老朽化を未然に防ぐため、定期保守や機器更新を行う必要がある。			
				実績	5	5	5						
	<指標の計算方法>		管理施設の内、耐用年数超えの機器が存在しない施設数										
	成果指標	ケーブルテレビ放送送信停止	回	目標	0	0	0	0	0			中畑地区において、光ケーブルの幹線が断線したことによる放送停止が発生した。	
				実績	1	0	1						
<指標の計算方法>		ケーブルテレビ放送機器故障等による放送停止回数											
成果指標	1人あたりコスト	円	目標	28,380	28,380	28,380	28,380	28,380	目標値はフレッツテレビとケーブルテレビの年間視聴料の差額で、実績値が上回れば代替手段の検討が必要となる。令和3年度から地方債の充当がなく、世帯数も減少傾向にもあるため実績値が増加している。				
			実績	3,746	17,681	19,463							
<指標の計算方法>		一般財源支出額/ケーブルテレビ加入者数											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	26,296			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
事業の実績	①設備管理				②設備更新				③難視聴・不感対策				
	<ul style="list-style-type: none"> ケーブルテレビ加入世帯数 (加入率：加入世帯数/地域世帯数) 639世帯 (80.7%) インターネット加入世帯数 (加入率：加入世帯数/地域世帯数) 266世帯 (33.6%) ※地域世帯数792世帯 設備保守 スポット保守 10件 支障移転 7件 材料購入 1件 芯線貸出 NTTドコモ 5芯 ソフトバンク 8芯 吊線貸出 ZTV 329箇所 オペテージ 44箇所 KDDI 86箇所 				<ul style="list-style-type: none"> 地上波デジタル放送ヘッドアンブ 光送信機、UHFアンテナ等 				<ul style="list-style-type: none"> 携帯電話鉄塔管理 不感エリア3箇所 (中畑・鳥淵・久保地区) 				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・未だに民間事業者が採算性の点から事業展開しておらず、地域情報通信基盤施設がないとテレビ、インターネットが利用できないなど大きな情報格差が発生するため、設備を管理運営しサービスを安定的に提供する必要がある。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・インターネット接続事業者及びケーブルテレビ会社に地域情報通信基盤施設を貸し出し、市民に必要な通信・情報サービスを実施している。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・現時点では、提供地域に住む住民にとっては代替手段がない。												

事務事業の概要	事務事業名	地域防犯推進事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	500
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 総務管理費				施策目標	1 防災・防犯			
		目	15 地域安全対策費				基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進			
取組方針				取組方針	4 地域防犯対策の推進						
事業概要	市民、自治区の防犯力の向上を図るために、防犯啓発、防犯教室の実施や防犯設備の設置に対する補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 防犯灯設置費補助金			⑤ 県水上安全協会負担金			⑨				
	② 防犯カメラ設置費補助金			⑥ 那賀地区防犯協議会負担金			⑩				
	③ 防犯カメラ管理			⑦ 生活安全・暴力追放推進協議会補助金			⑪				
	④ 行方不明者対応			⑧ 電気用品安全法			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	防犯啓発実施回数	目標	3	3	3	3	3	地域安全運動に伴う啓発活動の規模を新型コロナウイルス感染症拡大により縮小して実施。		
			実績	2	1	1					
	<指標の計算方法>		実施回数								
	活動指標	防犯教室実施回数	目標	5	5	5	5	5	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催要望無し。		
			実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		実施回数								
	活動指標	補助事業の啓発回数	目標	6	6	6	6	6	補助事業の啓発を各地区区長会（5回）で実施した。		
			実績	6	6	5					
	<指標の計算方法>		啓発活動の延べ回数								
成果指標	LED防犯灯設置基数	目標	726	622	622	622	622	蛍光灯からLED灯への器具取替えが主な補助対象となる。令和3年度と比べて62基増加した。			
		実績	601	500	562						
<指標の計算方法>		防犯灯新規(LED化)の設置延べ基数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	10,062			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			10,062								
事業の実績	①防犯灯設置費補助金 ・新設 既設電柱等に設置 85基 支柱も同時に設置 9基 ・取替え 既設蛍光灯から取替え 467基 支柱も同時に取替え 1基 既設LED灯の支柱取替え 0基			⑤県水上安全協会負担金 295,000円 水の事故防止を呼び掛けるための横断幕を作成。竹房橋、諸井橋に横断幕の設置を行った。							
	②防犯カメラ設置費補助金 設置区 8区、設置台数 11台			⑥那賀地区防犯協議会負担金 414,000円 通学路パトロールや特殊詐欺被害防止、犯罪被害防止、薬物乱用防止、万引き防止のための街頭啓発活動や、小学校における防犯訓練などを実施。							
	③防犯カメラ管理 設置台数 7台 設置場所 打田駅、粉河駅、名手駅、下井阪駅(2台)、貴志駅、甘露寺前駅			⑦生活安全・暴力追放推進協議会補助金 78,000円 啓発 1回、教室 0回							
	④行方不明者対応 5件			⑧電気用品安全法 立ち入り店舗 2店舗 該当品目取扱なし							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・公共性が有り、市が率先する事業として妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・市民の防犯意識の更なる向上を図る方法を検討する必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・関係機関と連携を図り継続的に実施する必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	交通安全推進事業		担当課	交通政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	496	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 総務管理費			施策目標	1 防災・防犯				
		目	15 地域安全対策費			基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進				
取組方針	1 交通安全意識の向上推進										
事業概要	市民が交通安全意識を高め、円滑な道路交通で生活できるように、市民(特に児童・高齢者)に街頭啓発や交通安全教室等の開催を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 交通指導員設置			⑤ 那賀地方交通指導員会連絡会負担金			⑨ 紀の川市交通大学				
	② 交通安全啓発			⑥ 交通安全母の会補助金			⑩ 交通安全母の会				
	③ 交通安全施設整備申請			⑦ 交通安全推進連絡協議会補助金			⑪				
	④ 地域交通安全活動推進委員協議会負担金			⑧ 紀の川市交通安全推進連絡協議会			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	交通安全教室実施回数	目標	10	10	10	10	10	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため事業を実施できなかった。		
			実績	4	3	0					
	<指標の計算方法>		実施回数								
	活動指標	交通安全啓発実施回数	目標	12	12	12	12	12	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、規模回数を縮減し実施した。(四季の交通安全運動に伴う啓発活動:4回、地域団体との合同啓発:1回)		
			実績	3	1	5					
	<指標の計算方法>		実施回数								
成果指標	交通事故発生件数	目標	200	190	180	100	100	対前年(令和3年)実績 △8件 令和4年度実績を参考に目標値を180から100に変更した。			
		実績	92	98	90						
<指標の計算方法>		紀の川市管内の人身交通事故件数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位:千円)			財源内訳							
	4,318			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①交通指導員設置 指導員数51名			360,000円							
	②交通安全啓発 5回			⑧紀の川市交通安全推進連絡協議会 交通安全教室の実施無し							
	③交通安全施設整備申請 飛び出し注意看板要望 33件 (看板50、土台34個配布)			⑨紀の川市交通大学 ・交通安全講話(岩出警察署) ・シミュレーター体験等(岩出自動車学院) ・救急救命(危機管理消防課) ・修了式実施							
	④地域交通安全活動推進委員協議会負担金 57,000円			学生15名 年間4回							
	⑤那賀地方交通指導員会連絡会負担金 23,500円			⑩交通安全母の会 あいさつ運動 10回							
	⑥交通安全母の会補助金 112,000円										
	⑦交通安全推進連絡協議会補助金										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・交通安全に係る関係機関との連携を維持・向上させ、交通安全活動を共助・活性化させていくことは、市が主体となり推進する事業として妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・情勢の変化に合わせて調整しつつ、他関係機関と連携を図りながら継続的に実施する必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・他関係機関と連携を図りながら効率的に実施していく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	放棄車両対策事業			担当課	交通政策課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	15		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心					
		項	1 総務管理費				施策目標	1 防災・防犯					
		目	15 地域安全対策費				基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進					
事業概要	市民が放棄車両の無い円滑な道路交通で生活できるように、放置車両の所有者に啓発、警告を行い、放置車両の撤去、保管、廃棄を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	放棄車両対策（撤去）			⑤			⑨					
	②	放棄車両保管			⑥			⑩					
	③				⑦			⑪					
	④				⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	放棄・放置自転車等に対する防止啓発回数	回	目標	2	2	2	2	2	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため実施できず。			
				実績	1	0	0						
	<指標の計算方法>		啓発活動の実施回数										
	活動指標	放置自転車警告台数	台	目標	180	180	180	160	160			対前年度（令和3年度）実績 △11件 警告対象車両の減少によるもの。	
				実績	99	76	65						
	<指標の計算方法>		警告対象とした自転車の台数										
	成果指標	放棄自動車台数	台	目標	1	1	1	1	1	警告を行った放棄自動車は1台であったが、判明した所有者により撤去前に移動済。			
				実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		放棄自動車の撤去台数										
成果指標	放置自転車台数	台	目標	90	90	90	80	80	対前年度（令和3年度）実績 △22件 警告対象車両の減少によるもの。				
			実績	85	52	30							
<指標の計算方法>		放置自転車の撤去台数											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
事業の実績	①放棄車両対策（撤去） 自動車等0台、自転車30台												
	②放棄車両保管 自動車等0台、自転車30台												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・市有地等公共場所の環境保全是管理者の紀の川市が行う必要がある。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・放置自転車は減少傾向にあるが、各駅駐輪場の構造や収容台数等もあり、放置自転車を抑制するための効果的な啓発が難しい。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・市職員による車両撤去作業は効率性が高いとは言えないが、業務委託にしても費用対効果を考慮すると効率的ではないと考える。 ・各支所安全推進監に一部業務を依頼することにより負担の分散を図っている。												

事務事業の概要	事務事業名	税務行政推進事業		担当課	税務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	510	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2	徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
目		1	税務総務費	基本施策		2	健全な財政運営の確立				
取組方針	9	その他									
事業概要	市の円滑な税務行政を推進するために、関連団体への負担金支出やその運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	近畿都市税務協議会負担金		⑤	橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会負担金		⑨	資産評価システム研究センター負担金			
	②	県租税教育推進連絡協議会負担金		⑥	確定申告書発送経費負担金		⑩				
	③	伊那税務協議会負担金		⑦	年末調整関係書類封入発送経費負担金		⑪				
	④	軽自動車税申告事務経費負担金		⑧	地方税共同機構負担金		⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	租税教室開催件数 (粉河税務署管内)	回	目標	50	50	50	50	50	社会科教育の一環として小中学校に対し租税教室の開催を要請し、講師の派遣等を行っている。新型コロナウイルス感染症の影響で減少していたが、徐々に回復してきている。	
			実績	24	34	43					
	<指標の計算方法>		小中学校へ税務署・県・市の職員、税理士等が講師となり開催した教室の回数								
	成果指標	税についての作文 応募件数(粉河税務署管内)	件	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	税への関心と理解を深めるきっかけづくりとして作文の募集を行っている。中高合わせて24校の生徒から応募があったが、令和3年度に比べ2校減っており、応募数が減少した要因と考えられる。	
			実績	602	1,922	1,763					
	<指標の計算方法>		税の作文に応募があった件数(中学生の部・高校生の部の合計)								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,132			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,132	
事業の実績	①近畿都市税務協議会負担金 適正な都市税務制度の確立とその運営に関する相互の円滑な連絡を図ることを目的として設立された団体への負担金(2,000円)			て、市町村の登録台数に応じて負担(920,000円)			⑧地方税共同機構負担金 地方公共団体の相互協力を基本理念として地方税の電子化を推進することにより、納税者の利便性の向上を図るとともに地方税務行政の高度化及び効率化に寄与することを目的として設立された団体への負担金(1,973,307円)				
	②県租税教育推進連絡協議会負担金 粉河税務署の管轄区域内における児童・生徒及び一般社会人に対して、租税教育を推進することを目的として設立された団体への負担金(16,300円)			⑤橋本・伊都・那賀租税教育推進協議会負担金 次代を担う児童・生徒を中心に租税教室の開催や税に関する作文の募集等を通じて、税の意義や役割の正しい理解を促進するために設立された団体への負担金(10,374円)			⑨資産評価システム研究センター負担金 固定資産に係る課税及び評価に関する調査研究事業、地方公共団体における固定資産評価技術の向上のための研修事業等を中心とした事業を実施し、固定資産評価の均衡化、適正化を推進することを目的として設立された団体への負担金(90,000円)				
	③伊那税務協議会負担金 粉河税務署の管轄区域内における税務行政の運営に当たり緊密な協力体制を確立し、併せてその連絡協調を図ることを目的として設立された団体への負担金(23,750円)			⑥確定申告書発送経費負担金 確定申告書の発送経費について、国、市町村において発送数に応じて負担(34,370円)							
	④軽自動車税申告事務経費負担金 軽自動車税の申告事務に要する経費について、市町村において発送数に応じて負担(62,489円)			⑦年末調整関係書類封入発送経費負担金 年末調整関係書類の封入・発送経費について、国、市町村において発送数に応じて負担(62,489円)							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・次の世代を担う子供たちに税の役割や使い道について考え、関心を深めてもらう機会づくりは、将来の納税意識の醸成に寄与するため、市が関連団体の活動に参画(負担金支出)することは妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・関連団体の調査研究成果を通じて、市の課税業務の適正化や高度化につながっている。 ・関連団体の活動により、地方税の電子化が推進されており、納税者の利便性向上につながっている。								
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・確定申告書や年末調整等の関連書類を共同で発送することで、事務経費の節減につながっている。								

事務事業の概要	事務事業名	固定資産評価審査委員会運営事業		担当課	総合行政委員会事務局			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	509	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	2	徴税費		施策目標	99	*****			
		目	1	税務総務費		基本施策	99	*****			
取組方針	9	その他									
事業概要	固定資産課税台帳に登録された価格について、不服がある者から固定資産評価審査委員会に審査の申出がされてから裁決までの行程を円滑に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	固定資産評価審査委員会運営			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	固定資産評価審査委員会運営研修会への参加	回	目標			1	1	1		新型コロナウイルス感染症の影響により、運営研修会不参加。
		実績			1						
	<指標の計算方法>		研修会参加件数								
	活動指標	審査の申出に係る固定資産評価審査委員会の開催	回	目標							審査請求に係る固定資産評価審査委員会の開催はなし。
		実績									
	<指標の計算方法>		審査委員会開催件数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	① 固定資産評価審査委員会運営 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、運営研修会不参加。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・ 地方税法に基づき設置が義務付けられており、市が実施しなければならない事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・ 固定資産評価審査委員会が審査申出を中立的な立場から審査・裁決を行うことにより、公平・適正な価格が保障される。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・ 固定資産評価審査委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。										

事務事業の概要	事務事業名		賦課総務事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業			
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	520	
	予算科目	款	2	総務費		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	2	徴税費			施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	2	賦課費			基本施策	2	健全な財政運営の確立				
事業概要		市が円滑に賦課業務をすすめられるように庶務業務の調整を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	賦課総務事業			⑤					⑨		
		②				⑥					⑩		
		③				⑦					⑪		
		④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	専門研修派遣人数	人	目標	3	3	3	3	3	専門的知識の習得のため、例年、市民税班1名、固定資産税班2名が研修に参加し、実務遂行能力の向上に努めている。新型コロナウイルス感染症の影響で令和2年度から参加を見送っている。			
		実績	0	0	0								
	<指標の計算方法>		全国市町村国際文化研修所における研修参加人数										
		目標											
		実績											
	<指標の計算方法>												
	目標												
	実績												
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	2,561			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,381 180			
事業の実績	①賦課総務事業 ・各税に共通する庶務業務の調整												
	・職員研修 全国市町村国際文化研修所（大津市） 新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、参加を見送った。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・地方税法に基づく課税事務を円滑に行うために必要となる事業であり、市が関与することは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・専門職員研修等を通じて、担当職員の専門的知識の習得及び実務遂行能力の向上につながっている。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・公的機関が実施する研修を活用することで、最小限の経費での研修参加ができています。 ・賦課業務に必要な消耗品等を一括して購入するなど、効率的な経費の執行に努めている。												

事務事業の概要	事務事業名	個人市県民税賦課事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	511		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	2 賦課費				基本施策	2	健全な財政運営の確立				
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（市民）の申告に基づき、適正な課税を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	個人市県民税賦課			⑤					⑨			
	②				⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	市県民税申告書送付件数	件	目標	8,400	6,500	6,500	5,500	5,500	令和3年度に市県民税申告書及び国保税用申告書を提出した市民に対して送付している。生産年齢人口の減少等により減少傾向にある。			
				実績	5,745	5,453	5,299						
	<指標の計算方法>		市県民税申告を促した数										
	活動指標	申告会場における申告書受付件数	件	目標	3,900	3,500	3,300	3,300	3,300			電子申告の普及等により、申告会場での受付件数は減少傾向にある。	
実績				3,524	3,123	3,071							
<指標の計算方法>		申告相談にて受け付けた数											
活動指標	給与支払総括表送付件数	件	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	令和3年度に給与支払報告書の提出があった事業者に対して送付している。若干の増減はあるもののほぼ横ばいで推移している。				
			実績	6,760	6,805	6,797							
<指標の計算方法>		特別徴収義務者に課税資料（給与支払報告書）の提出を促した数											
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	16,695			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	繰入金	繰入金	繰入金	繰入金		
										150	16,545		
事業の実績	①個人市県民税賦課 ・令和4年分所得税確定申告・市県民税申告事務の対応			<ul style="list-style-type: none"> ・納税義務者数 29,068人 ・特別徴収納税義務者数（給与） 18,982人 ・特別徴収納税義務者数（年金） 5,435人 ・普通徴収納税義務者数 4,651人 ・特別徴収義務者数（事業所） 5,429社 ・納税通知書作成及び封入封緘業務（普通徴収） 10,884件 									
	<p>税務課、収納対策課、国保年金課、支所職員及び税務経験職員による協力体制を確立し、2月8日から3月15日まで本庁及び各地域会場で申告相談事務を行った。</p> <p>【受付件数】</p> <p>打田会場 1,270件</p> <p>粉河会場 246件</p> <p>那賀会場 252件</p> <p>桃山会場 305件</p> <p>貴志川会場 976件</p> <p>鞆淵会場 22件</p> <p>総受付件数 3,071件</p> <p>【従事職員数】 335人</p>												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・自主財源確保のため地方税法に基づいて行う事務事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
<ul style="list-style-type: none"> ・国税連携による確定申告データ取り込み数を増やすため、税務署と連携して電子申告を推進している。 ・公平な課税ができるよう所得の内容確認や扶養重複確認などを実施し、適正に課税している。 ・適正課税のもと、自主財源の確保に貢献している。 													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	<ul style="list-style-type: none"> ・電子申告の普及により、徐々に申告相談会場の来場者数も減少しているが、さらなる電子申告の普及により、職員負担の軽減に取り組む必要がある。 ・申告書の入力作業を外部委託することにより、事務の効率化を図っているが、入力後の確認作業も膨大であり、繁忙期における業務負担の軽減を検討する余地がある。 												

事務事業の概要	事務事業名	法人市民税賦課徴収事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	512
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営		
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成		
		目	2 賦課費				基本施策	2	健全な財政運営の確立		
取組方針				9	その他						
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（法人）の申告に基づき、適正な課税や徴収を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	法人市民税賦課事業			⑤				⑨		
	②	法人市民税徴収事業			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	申告依頼書送付件数	件	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	納税義務者各々の決算時期に応じて申告依頼書を送付し、適正な申告納付を求めている。未登録・未申告法人の捕捉のため他の官公庁からの情報収集などを強化した結果、増加傾向にある。		
			実績	1,346	1,384	1,432						
	<指標の計算方法>		対象法人に対し、申告を促した件数									
	活動指標	未申告法人に対する申告依頼書送付件数	件	目標	20	20	20	20	20	未申告の納税義務者に対して、申告期限の翌々月10日前後に申告案内を再送し、適正な申告納付を求めている。		
			実績	26	19	14						
<指標の計算方法>		申告期限までに申告がない法人に対し、再度申告を促した件数										
活動指標	督促状送付件数	件	目標	40	40	40	40	40	申告後、納期限までに納付がない納税義務者に対して、納期限の翌月に督促状を送付し、納付を求めているが、微増傾向にある。			
		実績	36	47	59							
<指標の計算方法>		納期限までに納付がない法人に対し、納付を促した件数										
成果指標	法人税調定額	千円	目標						調定額は社会経済情勢に左右されるが、近年は概ね堅調に推移している。			
		実績	335,723	346,478	361,434							
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額										

コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	7,888		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源

事業の実績	①法人市民税賦課事業 ・納税義務者数1,071社 【内訳】 9号 (50億円超・50人超) 9社 8号 (10億円超50億円以下・50人超) 1社 7号 (10億円超・50人以下) 45社 6号 (1億円超10億円以下・50人超) 5社 5号 (1億円超10億円以下・50人以下) 30社 4号 (1千万円超1億円以下・50人超) 19社 3号 (1千万円超1億円以下・50人以下) 191社 2号 (1千万円以下・50人超) 10社 1号 (上記以外の法人) 761社 ・申告漏れ法人に対する決定件数 18件 (6法人)									
	②法人市民税徴収事業									

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・自主財源確保のため、地方税法に基づいて行う事務である。 ・適正課税による自主財源の確保は、効率的な行財政運営を行うために必要な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・適正な課税事務を行うことで歳入確保につながり、自主財源の確保に貢献している。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・電子申告を推進し効率化を図りたいが、現状では、精度の低い申告データも多く、取込後の確認・修正作業が懸念される。 ・未登録、未申告法人を捕捉する為、他の部署や官公庁からの情報も活用しているが、新たな把握方法確保に努める必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	固定資産税・都市計画税賦課事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	517	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	2 賦課費				基本施策	2	健全な財政運営の確立			
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（土地・家屋・償却資産所有者）の固定資産所有状況を確認し、適正な課税を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	固定資産税・都市計画税（土地）賦課			⑤					⑨		
	②	固定資産税・都市計画税（家屋）賦課			⑥					⑩		
	③	固定資産税（償却資産）賦課			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	固定資産評価審査委員会への審査申出件数	件	目標	0	0	0	0	0	申出がなかったことから市民からの信頼を得た適正課税が行えたことと言える。		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		審査申出がないことは、市民からの信頼を得た適正評価ができていていることに繋がる									
	活動指標	新増築家屋件数	件	目標						旧打田町及び旧貴志川町地区を中心に建築されており、令和4年中に評価した物件の課税への反映は令和5年度からとなる。		
			実績	261	327	267						
	<指標の計算方法>		1月から12月中に新増築され、評価した件数（概要調査より）									
	活動指標	滅失家屋件数	件	目標						建替えや老朽により取壊された件数であり、令和4年中に滅失された物件の課税への反映は令和5年度からとなる。		
			実績	445	462	313						
	<指標の計算方法>		1月から12月中に滅失された件数（概要調査より）									
成果指標	固定資産税・都市計画税調定額	千円	目標						令和3年度は評価替えにより家屋の在来分家屋の減価により全体でも減少となっていたが、令和4年度については、新増築家屋及び償却資産の増により増加となった。			
		実績	3,244,367	3,177,398	3,353,765							
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	88,210			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	88,210		
事業の実績	①固定資産税・都市計画税（土地）賦課 ・地番図更新（令和4年中異動分） ・令和5年度用標準宅地時点修正鑑定（R4.7.1基準日） ・令和6年度評価替えに係る標準宅地見直し ・令和6年度評価替えに係る標準宅地鑑定（R5.1.1基準日） ・令和6年度評価替えに係る田畑標準地見直し ・納税義務者数（令和4年度） (土地：免税点未満含む) 固定資産税：32,556人 都市計画税：24,169人			（家屋：免税点未満含む） 固定資産税：26,343人 都市計画税：24,967人			③固定資産税（償却資産）賦課 ・納税義務者数（令和4年度） (償却：免税点未満含む) 固定資産税：1,311人					
	②固定資産税・都市計画税（家屋）賦課 ・家屋図更新（令和4年中異動分） ・家屋評価件数（令和5年度課税に反映） 木造：204棟 非木造：63棟 ・納税義務者数（令和4年度）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・自主財源確保のため地方税法に基づいて行う事務である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・適正な課税事務を行うことで歳入確保につながっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・登記異動に係る課税への反映や土地、家屋評価のシステムの導入により事務の効率化に取り組んでいる。											

事務事業の概要	事務事業名	軽自動車税賦課事業			担当課	税務課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	18		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	2 賦課費				基本施策	2	健全な財政運営の確立				
取組方針	9	その他											
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、納税義務者（軽自動車所有者）の軽自動車所有状況を確認し、適正な課税を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	軽自動車税賦課			⑤					⑨			
	②				⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	小型特殊車両の登録啓発回数	回	目標	1	1	1	2	2	周知徹底のため、半年に1回広報紙への掲載を行っている。			
				実績	1	1	2						
	<指標の計算方法>		広報紙等を通じて登録啓発を行った回数										
	成果指標	小型特殊車両の登録台数	台	目標	1,180	1,180	1,180	1,300	1,300			農耕用（トラクター等）を中心に市民の登録義務の認識が徐々に浸透し、増加しているものと思われる。	
				実績	1,168	1,216	1,255						
	<指標の計算方法>		小型特殊車両登録台数（決算時）										
	成果指標	課税台数	台	目標						人口減少に加え、高齢化及び少子化が進んでいることが減少の要因と思われる。			
				実績	41,147	41,054	40,942						
	<指標の計算方法>		課税台数（決算時）										
成果指標	軽自動車税調定額	千円	目標						重課税率の影響により増加しているものと思われる。				
			実績	260,859	266,459	273,400							
<指標の計算方法>		現年課税分の調定額											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	4,447			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,447			
事業の実績	①軽自動車税賦課 ・原動機付自転車等標識登録・廃車 1,947件			小型特殊（その他） 156台 小型二輪 946台		156台 946台		伴う令和5年度からの軽自動車税納付書QRコード対応について、適正な導入を図るため、各金融機関での読み取りテストやシステム連動試験等を実施。					
	・陸運支局・軽自協での登録・廃車10,118件			・登録台数のうち非課税、免除台数 842台		842台							
事業の実績	・軽自動車減免申請受付件数 591件			【内訳】 非課税 225台 課税保留 26台		225台 26台		身体障害者減免（税条例90条） 474台 施設減免（税規則55条） 103台 構造減免（税条例90条） 14台 ・納税通知書作成・封入封緘業務 35,799件 ・令和5年1月に全国的に本格稼働となった軽自動車税納付確認システム（略称：「軽JNK S」）の導入にあたり、疎通試験等を実施。 ・地方税共通納税システムの対象税目拡大に					
	・登録台数 41,193台			身体障害者減免（税条例90条） 474台		474台							
	【内訳】 原付 50cc以下 5,762台			施設減免（税規則55条） 103台		103台							
	原付 90cc以下 661台			構造減免（税条例90条） 14台		14台							
	原付125cc以下 988台			・納税通知書作成・封入封緘業務 35,799件		35,799件							
	ミニカー 73台			・令和5年1月に全国的に本格稼働となった軽自動車税納付確認システム（略称：「軽JNK S」）の導入にあたり、疎通試験等を実施。		実施							
	軽二輪 906台			・地方税共通納税システムの対象税目拡大に		拡大							
	軽三輪 1台												
	軽四輪乗用（営業用） 8台												
	軽四輪乗用（自家用） 19,655台												
軽四輪貨物（営業用） 100台													
軽四輪貨物（自家用） 10,838台													
小型特殊（農耕用） 1,099台													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・自主財源の確保のため地方税法に基づいて行う事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・適正な課税事務を行うことで歳入確保につながっている。 ・小型特殊車両は、公道走行の有無に関わらず課税対象となることから、周知徹底のため広報に取り組んでいる。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・軽四輪と自動二輪については、軽自動車検査協会や市長会から送付されるデータの電子化により、迅速かつ確実な申告書の收受ができ、賦課誤りを軽減するとともに事務の軽減が図られている。 ・軽自動車保有関係手続のワンストップサービス（略称「軽OSS」）と市基幹系システムの自動連携機能を令和6年1月に追加導入することで事務の効率化を図ることができる。												

事務事業の概要	事務事業名	市税等収納事業			担当課	収納対策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	523	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	3 徴税費				基本施策	2	健全な財政運営の確立			
取組方針				取組方針	2		歳入確保のための取組の推進					
事業概要	市が歳入を適正に確保するために、市税等の収納状況の管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	収納管理業務			⑤				⑨			
	②	口座振替・コンビニ収納等業務			⑥				⑩			
	③	納税証明交付業務			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	市税収納率	%	目標	95.2	95.3	97.4	97.5	97.6	市税等を納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、納税意識が高まり収納率の向上につながっていると考える。		
				実績	96.9	97.3	97.5					
	<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	37,436			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	37,436		
事業の実績	①収納管理業務 ・市税等の収納管理 ・地方税共通納税システムの運用管理											
	②口座振替・コンビニ収納等業務 ・口座振替利用件数及び利用率 利用件数 22,218件 利用率 27.04% (参考：R3 27.27%) ・コンビニ収納利用件数及び利用率 利用件数 51,705件 利用率 28.13% (参考：R3 26.60%) ・スマホ収納利用件数及び利用率 利用件数 7,489件 利用率 4.07% (参考：R3 3.37%)											
	③納税証明交付業務 ・那賀自動車整備協同組合とのFAX通信による証明書の交付 交付件数 1,390件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・自主財源の根幹となる市税を確保するために、収納管理を的確に行う事業であり、事業の妥当性は高く、改善の余地はない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・納付方法の多様化に対応することで、納付環境の充実は図られている。今後も引き続き納付方法の周知や口座振替の推進を図る必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・収納管理業務の一部を外部委託しているが、更に外部委託できる業務がないか検討する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	市税等滞納整理事業			担当課	収納対策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	521	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	2	徴税費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	3	徴税費		基本施策	2	健全な財政運営の確立				
取組方針	2	歳入確保のための取組の推進										
事業概要	市民の税等の公平性を確保するとともに、市の自主財源の確保を図るために、滞納者に滞納処分を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	督促・催告業務			⑤	債権管理対策本部運営業務			⑨			
	②	財産調査業務			⑥	納税意識向上対策業務			⑩			
	③	滞納整理事業（市税分）			⑦	納税猶予関連業務			⑪			
	④	滞納整理事業（移管分）			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	市税収納率	%	目標	95.2	95.3	97.4	97.5	97.6	市税等を納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、納税意識が高まり収納率の向上につながっていると考える。		
				実績	96.9	97.3	97.5					
	<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率									
	成果指標	強制徴収公債権収納率	%	目標	29	30	30	30	30	保育料、公共下水道使用料、公共下水道受益者負担金、介護保険料、後期高齢者医療保険料、国民健康保険税の滞納繰越収納率		
				実績	31.68	29.58	33.38					
	<指標の計算方法>		強制徴収公債権過年分の収納率									
	活動指標	滞納処分の執行停止処理件数	件	目標	40	40	40	40	40	地方税法第15条の7第1項他（3年執行停止及び即時消滅）		
実績				51	83	82						
<指標の計算方法>		滞納処分の執行停止（3年執行停止、即時消滅）の合計件数										
活動指標	強制徴収公債権移管件数	件	目標	20	65	65	65	65	債権担当課との協議・指導により移管件数が増加している。			
			実績	65	72	83						
<指標の計算方法>		債権担当課から収納対策課へ移管を受け付けた件数										
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	4,883			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	169 4,714		
事業の実績	①督促・催告業務			・ 捜索件数 1件（差押0件）				給与:2、無体財産権:1				
	・ 催告書発送件数 （6月:2,425通、12月:2,782通）			・ 滞納処分執行停止件数 71件 （内訳）即時: 48件 3年: 23件				・ 執行停止 11件 （内訳 単位：件） 即時:7、3年:4				
	・ 督促状発送件数 12,848通			・ 夜間納付相談窓口の開設 利用者 88人 納付額 1,479,459円 ※上記の全ての額は、県民税を含む額				⑤債権管理対策本部運営業務 ・ 債権管理対策本部会議 1回 ・ 強制徴収公債権検討部会（書面会議）1回 ・ 債権管理研修会（10/14） ・ 各債権担当者打合せ 随時 ・ ヒアリング（5所管課）				
②財産調査業務			④滞納整理事業（移管分）				⑥納税意識向上対策業務					
・ 預貯金等調査延べ件数 17,166件			移管受分の実績				・ 中学生及び高校生を対象とした税についての作文の優秀作品の掲示					
・ 生命保険調査延べ件数 18,128件			・ 移管件数 83件 （内訳 単位：件） 介護:58、後期:23 生活保護費返還金:2				・ 市長賞として中学生及び高校生各1名を表彰					
③滞納整理事業（市税分）			・ 前年度からの継続分 73件 （内訳 単位：件） 介護:62、後期:7、保育:1、下水:1				⑦納税猶予関連業務					
・ 差押件数 535件 （内訳 単位：件） 給与:21、年金:4、所得税還付金:13 生命保険等解約金:75、動産:0、 不動産:5、無体財産権:4、 預貯金等:375、報酬:34、その他:4 換価額 33,645,486円 差押解除の効果額 9,596,827円 ※効果額とは、差押することで完納となった額			・ 児童手当過払:1、児童扶養手当過払:1				・ 徴収の猶予 許可件数 2件 猶予額 492,000円					
・ 交付要求の配当件数 14件			・ 差押件数 75件 （内訳 単位：件） 預貯金:63、生命保険:4、年金:5、									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ 市税及び強制徴収公債権の負担の公平性を確保するとともに、自主財源の確保を図るための事業であり、改善の余地はない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・ 市税全体の収納率は年々上昇しており、健全な財政運営の確立及び税負担の公平性の確保の観点からも本事業の有効性は高い。 ・ さらなる成果向上のため、基本業務の徹底と併せ、滞納処分の執行停止及び納税猶予についても適切に対応する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、捜索など一部の業務については積極的に実施できなかったため、実施方法等について、検討の余地がある。											

事務事業の概要	事務事業名	和歌山地方税回収機構連携事業			担当課	収納対策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	19	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	2 徴税費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	3 徴税費				基本施策	2	健全な財政運営の確立			
取組方針				2	歳入確保のための取組の推進							
事業概要	市民の税の公平性を確保するとともに、市の自主財源の確保を図るために、和歌山地方税回収機構の運営へ参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	和歌山地方税回収機構負担金			⑤			⑨				
	②	移管業務			⑥			⑩				
	③	合同公売業務(不動産等)			⑦			⑪				
	④	和歌山地方税回収機構運営会議			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	市税収納率	目標	95.2	95.3	97.4	97.5	97.6	市税等を納付しやすい環境の整備及び効果的な滞納整理を行うことで、納税意識が高まり収納率の向上につながっていると考える。			
			実績	96.9	97.3	97.5						
	<指標の計算方法>		市税現年分、過年分を合算した収納率									
	成果指標	回収機構徴収金額(本税)	目標	7,500	9,000	12,000	12,000	12,000	回収機構徴収金額は令和3年度実績を下回ったが、移管額の減少や調査による滞納処分の変動が要因と考える。			
			実績	19,156	18,361	9,255						
	<指標の計算方法>		回収機構移管分の徴収実績(本税)									
	活動指標	滞納者移管数	目標	45	45	45	45	45	当初予定人数を移管した。			
			実績	45	45	45						
	<指標の計算方法>		市より回収機構へ移管した滞納者の人数									
活動指標	実務研修(派遣)人数	目標	2	2	1	1	1	職員配置の関係から、当初予定人数(短期1名)の派遣は実施しなかった。令和5年度以降については、実務研修の必要性に応じて短期派遣を実施したい。				
		実績	2	2	0							
<指標の計算方法>		回収機構へ実務研修に派遣した職員数(短期派遣含む)										
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	7,288			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		7,288	
事業の実績	①和歌山地方税回収機構負担金			・不動産公売 4回 6件 令和4年5月31日(火) 1件 入札なし 令和4年9月6日(火) 1件 入札なし 令和4年11月22日(火) 1件(再1件) 入札なし 令和5年2月21日(火) 3件(再2件含む) 入札なし								
	・移管人数 45人 ・徴収実績 15,182,745円 (内訳) 市県民税 : 2,901,768円 固定資産税 : 893,917円 軽自動車税 : 220,937円 (参考 国民健康保険税 : 5,239,150円) <小計> 9,255,772円 督促手数料 : 64,755円 (うち国保 41,404円) 延滞金 : 5,862,218円 (うち国保 : 3,162,978円) 《合計》 15,182,745円			④和歌山地方税回収機構運営会議 ・第1回運営会議(R4.4.27)、書面開催 令和3年度活動状況、令和4年度予算概要 ・活動報告ほか ・第2回運営会議(R5.1.26)、書面開催 令和5年度移管提示件数、令和5年度活動方針ほか								
	②移管業務 ・移管催告の発送 127件 ・45件(人)の移管データを作成											
③合同公売業務(不動産等)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・困難な滞納案件を解消することで市税負担の公平性が確保でき、また、市の自主財源の確保を図るためにも本事業の実施には妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・地方税回収機構への移管催告及び移管が新規滞納者への抑止力となっている。 ・地方税回収機構が主となり不動産公売を実施することで、市としては広報や会場手配の負担がなく、容易に参加できる。また、定期的の実施されるため、市としても公売の計画が立てやすい。 ・調査や搜索等の滞納処分が困難な遠方の滞納者についても、地方税回収機構に移管することにより市の負担が少なく滞納処分することができる。 ・派遣された職員が滞納整理を実務研修できる場となっている。また、市が抱える困難案件について、相談することができる。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・負担金は発生するが、徴収実績や移管催告の効果など、効率性の面から必要不可欠な事業である。 ・実務研修の機会の確保のため、職員の派遣を行っており、地方税回収機構のノウハウを実践できる職員が増えることにより、長期的には効率性は向上すると考える。 ・移管することで徴収できる可能性の高い案件を厳選することにより、コストに対する効率性は向上する。												

事務事業の概要	事務事業名	住民基本台帳事業			担当課	市民課		事業区分	ソフト事業																						
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	439																				
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営																						
		項	3 戸籍住民基本台帳費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成																						
		目	1 戸籍住民基本台帳費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進																						
事業概要	市民（異動者）が住民異動に関する諸手続きなどが円滑に行えるように、住民基本台帳を適正に登録をして、証明書等の発行を行う事業																														
事務事業を構成する細事業	①	住民基本台帳管理			⑤	マイナンバーカード交付		⑨																							
	②	証明書発行・閲覧			⑥			⑩																							
	③	特別永住者・中長期在留者管理			⑦			⑪																							
	④	住民基本台帳ネットワークシステム管理			⑧			⑫																							
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析																						
	活動指標	住民票の写しの交付件数（公用を含む）	件	目標						証明書交付件数は、減少傾向にある。																					
			実績	28,229	26,889	26,486																									
	<指標の計算方法>		住民票の写しの交付件数（公用を含む）																												
	活動指標	戸籍附票の写しの交付件数（公用を含む）	件	目標						証明書交付件数は、長期的に横ばい傾向にある。																					
実績			4,444	3,887	4,211																										
<指標の計算方法>		戸籍附票の写しの交付件数（公用を含む）																													
活動指標	マイナンバーカードの交付数	枚	目標						マイナンバーカード普及促進とマイナポイント付与によって交付数は増加している。																						
		実績	14,060	38,835	46,575																										
<指標の計算方法>		市区町村別全申請件数及び交付件数（地方公共団体情報システム機構）																													
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳																											
	49,629			国庫支出金	36,988	県支出金	地方債	繰入金	5,453	その他	7,188																				
事業の実績	①住民基本台帳管理		住民異動 転入者数（県外 735人・県内 869人） 1,604人		転出者数（県外 744人・県内 714人） 1,458人		出生者数 275人		死亡者数 936人		転居件数 573件		世帯変更等 3,138件																		
	②証明書発行・閲覧		住民票の写し等の交付		窓口	20,675件	内公用	1,390件	郵送	2,691件	内公用	1,127件	コンビニ	3,105件	オンライン申請	15件															
戸籍附票の写しの交付		窓口	1,729件	内公用	785件	郵送	2,425件	③特別永住者・中長期在留者管理		令和5年3月31日 現在		日本人住民		男 28,237人	女 31,108人	計 59,345人	26,602世帯	外国人住民	男 244人	女 214人	計 458人	308世帯									
④住民基本台帳ネットワークシステム管理		住民基本台帳ネットワークシステム管理		住民基本台帳閲覧		823件		内公用 380件		⑤マイナンバーカード交付		令和5年3月31日 現在		累計 46,575枚		交付率 76.9%		マイナンバーカード交付事務支援業務委託料		15,918,760円		マイナンバーカード管理システム導入委託料		990,000円		マイナンバーカード管理システム利用料		165,000円		令和5年3月末現在でマイナンバーカード交付率は全国の市区で35位（全国平均67.0%）。	
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない																												
		・住民基本台帳法、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等に定める事務である。																													
	有効性	評価結果	改善の余地がややある																												
・住民基本台帳法、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等に定める事務である。 ・コンビニでの証明書交付サービスやオンライン申請システムでの証明書交付により、市民の利便性の向上につながっている。 ・令和4年4月からマイナンバーカードの休日・夜間サービスの予約と管理を簡単に行えるシステムの運用を開始した。 ・令和4年11月からすでに交付されているマイナンバーカードの管理についてシステム化し、管理しやすい環境を整えた。 ・マイナンバーカードやデジタル技術等を利用し、窓口での証明書交付や申請手続きにおける市民の利便性を高める取組を進める必要がある。																															
効率性	評価結果	改善の余地がややある																													
	・窓口での住民票等の証明書交付や申請手続きにおいて、市民の利便性の向上と事務の効率化を図るため、今後、マイナンバーカードやデジタル技術・機器を利用した書かない窓口のサービス導入を進めていく。																														

事務事業の概要	事務事業名	印鑑登録事業			担当課	市民課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	440	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	3 戸籍住民基本台帳費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 戸籍住民基本台帳費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が目的に応じて証明書を利用できるように、印鑑の登録・管理を行い、証明書の発行を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	印鑑登録管理			⑤				⑨			
	②	印鑑証明発行			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	印鑑登録証明書交付件数(公用を含む)	件	目標							証明書交付数は、減少傾向にある。	
			実績		17,912	15,209	15,100					
	<指標の計算方法>		印鑑登録証明書交付件数(公用を含む)									
	活動指標	印鑑登録証無料交換件数	件	目標							劣化の激しい印鑑登録証の交換は、順調に進んでいる。	
			実績		2,602	1,576	1,028					
<指標の計算方法>		印鑑登録切替申請数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	307			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	307		
事業の実績	①印鑑登録管理 令和5年3月31日現在 41,272人 印鑑登録証作成 236,500円											
	②印鑑証明発行 窓口 12,878件 内公用 239件 コンビニ 2,222件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・紀の川市印鑑条例に基づき、印鑑登録証明書を必要とする市民のための事業である。 ・市が行わなければならない事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・あらかじめの予約により、日曜日に証明書を交付している。 ・コンビニでの証明書交付サービスにより、市民の利便性の向上につながっている。 ・マイナンバーカードやデジタル技術等を利用し、窓口での証明書交付や申請手続きにおける市民の利便性を高める取組を進める必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・窓口での印鑑証明書の交付や申請手続きにおいて、市民の利便性の向上と事務の効率化を図るため、今後、マイナンバーカードやデジタル技術・機器を利用した書かない窓口のサービス導入を進めていく。											

事務事業名	戸籍事業		担当課		市民課		事業区分	ソフト事業										
			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	441										
事務事業の概要	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営											
	予算科目	款	2 総務費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成											
		項	3 戸籍住民基本台帳費		基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進											
		目	1 戸籍住民基本台帳費		取組方針	9	その他											
事業概要	本籍人及びその親族・利害関係人が諸手続きなどを円滑に行えるように、本籍人（親族）、利害関係人の戸籍を適正に登録をして、証明書の発行を行う事業																	
事務事業を構成する細事業	① 戸籍管理			⑤ 戸籍システム管理			⑨											
	② 戸籍謄・抄本等発行			⑥ 県連合戸籍事務協議会負担金			⑩											
	③ 埋火葬許可証発行			⑦ 和歌山戸籍事務協議会負担金			⑪											
	④ 人口動態事務			⑧			⑫											
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析									
	活動指標	戸籍謄抄本等の交付件数（公用を含む）	件	目標						証明書交付数は、長期的に横ばいである。								
			実績	27,518	25,255	27,724												
	<指標の計算方法>		戸籍謄抄本等の交付件数（公用を含む）															
	活動指標	埋火葬許可証の交付件数	件	目標					令和3年度と比べて令和4年度の交付件数は増加しているが、長期的には横ばいである。									
			実績	712	787	913												
	<指標の計算方法>		埋火葬許可証の交付件数															
			目標															
			実績															
	<指標の計算方法>																	
		目標																
		実績																
<指標の計算方法>																		
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳														
	11,931			国庫支出金	264	県支出金	51	地方債	繰入金	その他	11,506	一般財源	110					
事業の実績	① 戸籍管理 戸籍届出処理件数 出生 504件（内送付 223件） 婚姻 669件（内送付 481件） 離婚 187件（内送付 92件） 死亡 1,236件（内送付 314件） 他 677件（内送付 260件） 計 3,273件（内送付 1,370件） 新戸籍編製 426戸籍 戸籍全部消除 707戸籍 令和5年3月31日 現在 本籍数 30,885戸籍 本籍人口 72,405人			③ 埋火葬許可証発行 913件			④ 人口動態事務 令和4年度分 1,482件			⑤ 戸籍システム管理 戸籍システムの維持管理 戸籍総合システムクラウド利用料 7,801,200円 法改正に伴うシステム開発委託料 264,000円 戸籍附票システム中継サーバの維持管理（紀の川市・岩出市の共同利用） ※岩出市負担分を共同利用負担金として 1,331,768円受入 戸籍附票システム中継サーバ保守業務委託料 477,840円			⑥ 県連合戸籍事務協議会負担金 負担金支払い 63,647円			⑦ 和歌山戸籍事務協議会負担金 負担金支払い 16,109円		
	② 戸籍謄・抄本等発行 戸籍証明書等交付 窓口 17,456件 内公用 2,474件 郵送 9,431件 内公用 4,500件 コンビニ 750件			⑧			⑨			⑩			⑪					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない															
		・戸籍法、墓地・埋葬法等に定める事務である。																
	有効性	評価結果	改善の余地がややある															
・戸籍法、墓地・埋葬法等に定める事務である。 ・コンビニでの証明書交付サービスやオンライン申請システムでの証明書交付により、市民の利便性の向上につながっている。 ・戸籍記載チェック体制の充実が必要である。 ・マイナンバーカードやデジタル技術等を利用し、窓口での証明書交付や申請手続きにおける市民の利便性を高める取組を進める必要がある。																		
効率性	評価結果	改善の余地がややある																
	・戸籍届書の入力事務について、事務の効率化とチェック体制の強化のため、一部を外部委託する方向で進めている。 ・窓口での戸籍証明書の交付や申請手続きにおいて、市民の利便性の向上と事務の効率化を図るため、今後、マイナンバーカードやデジタル技術・機器を利用した書かない窓口のサービス導入を進めていく。																	

事務事業の概要	事務事業名	市民窓口事業			担当課	市民課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	443	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	3 戸籍住民基本台帳費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 戸籍住民基本台帳費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民が持つ様々な問題の解決につなげてもらうために、各種相談、相談案内を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	弁護士相談			⑤				⑨			
	②	行政相談			⑥				⑩			
	③	市民相談			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	弁護士相談開催回数	回	目標	12	12	12	12	12	目標どおり達成した。		
				実績	12	12	12	12				
	<指標の計算方法>		月1回開催している無料法律相談の回数									
	成果指標	弁護士相談件数	人	目標	84	84	84	84	84	目標との差は、キャンセル及び募集人数に達しなかった回があったため。		
				実績	82	77	72	72				
	<指標の計算方法>		無料法律相談の相談者数									
	活動指標	弁護士相談案内回数	回	目標	12	12	12	12	12	目標どおり達成した。		
				実績	12	12	12	12				
	<指標の計算方法>		広報に掲載した無料法律相談の案内回数									
成果指標	実相談者数	人	目標	84	84	84	84	84	2名が2回相談を受けた（相談日は異なる）。			
			実績	78	71	70	70					
<指標の計算方法>		無料法律相談実相談者数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	504			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		504	
事業の実績	①弁護士相談 年12回開催 相談件数 72人											
	②行政相談 総務大臣に委嘱された行政相談委員による 相談業務 相談件数 12件											
	③市民相談 21件 (市民課にて相談を受けた分のみ)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民が持つ様々な問題解決につなげてもらうため、市が主体となって行う必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・無料法律相談は、市の顧問弁護士に委託し、ほぼ毎回予約開始日中には定員に達している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・無料法律相談の市顧問弁護士への委託料は、他市町村と比較して同額程度である。 ・行政相談は、総務省から委嘱を受けた行政相談委員が対応しているが、市の費用負担はない。 ・住民相談は、市職員が対応しているため、直接的な費用負担はない。											

事務事業の概要	事務事業名	コンビニ証明書交付事業			担当課	市民課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1029	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	3 戸籍住民基本台帳費				施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成			
		目	1 戸籍住民基本台帳費				基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進			
事業概要	市民、本籍人が目的に応じた証明書を市役所外で取得できるように、住民票写し、印鑑証明書、戸籍証明書をコンビニで交付するシステムの維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	J-LIS負担金			⑤				⑨			
	②	システム管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	システム稼働日数	日	目標	359	359	359	360	359	メンテナンスによるシステム停止が1日あった。		
				実績	351	345	358					
	<指標の計算方法>		年末年始（12/29～1/3）を除く毎日									
	成果指標	コンビニ証明書交付件数	件	目標						マイナンバーカードの普及に伴いコンビニ証明書交付件数は、増加傾向にある。		
				実績	1,318	3,407	6,126					
<指標の計算方法>		住民票・戸籍附票の写し、印鑑登録証明書、戸籍謄抄本のコンビニ証明書交付件数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	7,867			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①J-LIS負担金 J-LIS証明書交付センターに運営負担金を支払う。 2,728,000円											
	②システム管理 コンビニ交付に関係するシステム会社に利用料及び保守料等を支払う。 ・コンビニ交付クラウドサービス利用料 3,564,000円 ・コンビニ交付システム保守委託料 858,000円 ・コンビニ交付手数料 716,742円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・証明書のコンビニ交付サービスは、市民・本籍人の証明書取得の利便性向上のための行政サービスであり、市しか実施できない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・証明書のコンビニ交付サービスを提供するため、システム維持管理する事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国民の92.4%が享受している住民サービスの維持管理費用であり、これ以上の負担軽減は困難である。											

事務事業の概要	事務事業名	選挙管理委員会運営事業			担当課	総合行政委員会事務局			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	525	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	4 選挙費				施策目標	99 ****				
		目	1 選挙管理委員会費				基本施策	99 ****				
目				取組方針	9 その他							
事業概要	選挙権を有する者の意思を正しく政治・行政に反映するために、選挙管理委員会が適正な選挙の管理・執行を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	選挙管理委員会運営			⑤					⑨		
	②	全国市区選挙管理委員会負担金			⑥					⑩		
	③	近畿都市選挙管理委員会連合会負担金			⑦					⑪		
	④	県都市選挙管理委員会連絡協議会負担金			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	選挙執行回数	目標	2	5	3	2	1	参議院議員通常選挙、龍王財産区議会議員一般選挙、和歌山県知事選挙が執行された。			
			実績	2	6	3						
	<指標の計算方法>		選挙が執行された回数（無投票を含む）									
	活動指標	選挙管理委員会開催回数	目標	6	8	10	7	6	定時登録・選挙時登録等を行うため委員会を開催した。			
			実績	6	15	10						
	<指標の計算方法>		定時登録、選挙時登録等の委員会を開催した回数									
	成果指標	選挙管理執行上のミス	目標	0	0	0	0	0	なし。			
			実績	0	2	0						
	<指標の計算方法>		管理執行上の問題となったミスの件数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
		1,237		国庫支出金	県支出金	1	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,236	
事業の実績	①選挙管理委員会運営 ・選挙管理委員会の開催 10回 ・和歌山県選挙管理委員会大会 (リモートによる開催：委員3名、職員1名出席) ②全国市区選挙管理委員会負担金 ③近畿都市選挙管理委員会連合会負担金 ・近畿都市選挙管理委員会連合会総会 (新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議) ・近畿都市選挙管理委員会連合会選挙事務研究会 (新型コロナウイルス感染症の影響により、書面会議) ④県都市選挙管理委員会連絡協議会負担金 ・和歌山県都市選挙管理委員会連絡協議会及び総会 (新型コロナウイルス感染症の影響により、書面決議)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・公職選挙法に定められた義務的事業であり妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・適正に管理執行されており、現状を維持することが有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・選挙管理委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。											

事務事業の概要	事務事業名	参議院議員通常選挙事業			担当課	総合行政委員会事務局			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間 単年度のみ			事業番号	866	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	4 選挙費				施策目標	99	*****			
		目	2 参議院議員通常選挙費				基本施策	99	*****			
事業概要	参議院議員通常選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	参議院議員通常選挙運営			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	投票率（選挙区選出議員選挙）	%	目標			50			前回の選挙（令和元年7月21日執行）の投票率49.75%から増加している。		
				実績			50.93					
	<指標の計算方法>		当日有権者数に対する投票者数の割合									
	成果指標	投票率（比例代表選出議員選挙）	%	目標			50			前回の選挙（令和元年7月21日執行）の投票率49.73%から増加している。		
				実績			50.93					
<指標の計算方法>		当日有権者数に対する投票者数の割合										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）				財源内訳							
	34,505				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	660	
事業の実績	①参議院議員通常選挙運営 ・参議院議員通常選挙 令和4年7月10日執行 有権者数：51,798人 投票者数（和歌山県選挙区選出議員選挙） ：26,382人（50.93%） 投票者数（比例代表選出議員選挙） ：26,382人（50.93%）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・公職選挙法に基づき、投開票準備事務等を行っており妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・目標として設定している投票率を上回ることができている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・投開票事務のプロセスや手法を継続的に見直し、必要経費の削減に取り組む必要がある。											

事務事業名	県知事選挙事業		担当課	総合行政委員会事務局			事業区分	ソフト事業		
			新規・継続	継続	事業期間 単年度のみ		事業番号	901		
	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
	予算科目	款	2 総務費		施策目標	0	*****			
		項	4 選挙費		基本施策	0	*****			
目		3 県知事選挙費	取組方針		0	*****				
事業概要	県知事選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	県知事選挙運営		⑤			⑨			
	②			⑥			⑩			
	③			⑦			⑪			
	④			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	成果指標	投票率	目標			39				前回の選挙（平成30年11月25日執行）の投票率38.36%から増加している。
			実績			40.87				
	<指標の計算方法> 当日有権者数に対する投票者数の割合									
		目標								
		実績								
	<指標の計算方法>									
		目標								
		実績								
	<指標の計算方法>									
	目標									
	実績									
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
31,668				30,978					690	
事業の実績	①県知事選挙運営 ・県知事選挙 令和4年11月27日執行 有権者数：51,247人 投票者数：20,943人（40.87%）									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・公職選挙法に基づき、投開票準備事務等を行っており妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
・目標として設定している投票率を上回ることができている。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	・投開票事務のプロセスや手法を継続的に見直し、必要経費の削減に取り組む必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	県議会議員一般選挙事業			担当課	総合行政委員会事務局		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R 4 ~ R 5)		事業番号	374	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	4 選挙費				施策目標	99	*****			
		目	4 県議会議員一般選挙費				基本施策	99	*****			
取組方針	9	その他										
事業概要	県議会議員一般選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	県議会議員一般選挙運営			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	投票率	%	目標					52	執行日が令和5年度のため、「事業の実績」欄に投票率を記載。		
				実績								
	<指標の計算方法>		当日有権者数に対する投票者数の割合									
			目標									
実績												
<指標の計算方法>												
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		10,459			8,908						1,551	
事業の実績	①県議会議員一般選挙運営 ・県議会議員一般選挙 令和5年4月9日執行 有権者数：50,906人 投票者数：22,449人 44.10 (%) ※前回の選挙（平成23年4月10日執行）の投票率 51.69 (%)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・公職選挙法に基づき、投開票準備事務等を行っており妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・令和5年4月9日執行の選挙のため、令和5年度で評価を行う。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・投開票事務のプロセスや手法を継続的に見直し、必要経費の削減に取り組む必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	龍王財産区議会議員一般選挙事業			担当課	総合行政委員会事務局		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間 単年度のみ		事業番号	902	
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99	*****		
		項	4 選挙費				施策目標	99	*****		
		目	5 龍王財産区議会議員一般選挙費				基本施策	99	*****		
事業概要	龍王財産区議会議員一般選挙が適正に管理・執行できるように、選挙事務を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	龍王財産区議会議員一般選挙運営			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名	単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	投票率	%	目標			57			立候補者数が定数を超えなかったため無投票となった。		
			実績								
	<指標の計算方法>		当日有権者数に対する投票者数の割合								
			目標								
実績											
<指標の計算方法>											
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
		71		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1	
事業の実績	①龍王財産区議会議員一般選挙運営 ・龍王財産区議会議員一般選挙 令和4年4月17日執行 ・令和4年4月12日立候補受付の結果、無投票となる。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・公職選挙法による選挙執行であり、妥当である。								
		評価結果	改善の余地がややある ・これまで選挙になったことがなく今後も無投票となる見込みが高いが、選挙となった場合は、目標値を上回るよう投票率向上を目指す。								
	効率的性	評価結果	改善の余地がややある ・選挙が無投票になることも想定し、投票が実施される際には投開票事務のプロセスや手法を継続的に見直し、必要経費の削減に取り組む必要がある。								

事務事業の概要	事務事業名	統計行政推進事業			担当課	総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	528	
	予算科目	款	2	総務費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	5	統計調査費		施策目標	3	市民サービスの向上・財政運営・行政経営・職員育成				
		目	1	統計調査総務費		基本施策	3	将来を見据えた行政経営の推進				
事業概要	市の統計行政の推進を図るために、関連団体の活動へ参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	近畿都市統計協議会負担金	⑤		⑨							
	②	県市長会統計部会負担金	⑥		⑩							
	③	県統計協会負担金	⑦		⑪							
	④		⑧		⑫							
指標の実績	指標名	単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	近畿都市統計協議会講習会への参加	回	目標	1	1	1	1	1	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止となった。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		近畿都市統計協議会講習会への参加回数									
	活動指標	県市長会統計部会講習会への参加	回	目標	1	1	1	1	1	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、中止となった。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		県市長会統計部会講習会への参加回数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	11			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			11
事業の実績	①近畿都市統計協議会負担金 総会：書面開催 講習会：中止 (新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため) ※議案の承認に伴い令和4年度負担金はなし											
	②県市長会統計部会負担金 第1回理事会：書面開催 第2回理事会：書面開催 (新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため)											
	③県統計協会負担金 「和歌山県統計年鑑」等の統計関係図書を作成。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・統計資料を通して、各行政施策の基礎資料とするため、各関連団体に参画することは妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・各行政施策の基礎資料として、関連団体が取りまとめる資料を提供している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・関連団体の総会が書面で開催したことにより、送付資料等で運用状況を確認している。											

事務事業の概要	事務事業名	基幹統計調査事業			担当課	総務課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	26		
	予算科目	款	2 総務費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****					
		項	5 統計調査費				施策目標	99 ****					
		目	2 基幹統計調査費				基本施策	99 ****					
目	2 基幹統計調査費			取組方針	9 その他								
事業概要	市、統計情報を必要とする者が統計情報を活用できるように、各種基幹統計の調査を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	学校基本調査			⑤					⑨			
	②	就業構造基本調査			⑥					⑩			
	③	住宅・土地統計調査単位区設定			⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	統計調査実施中の事故件数	件	目標	0	0	0	0	0	就業構造基本調査では39人の調査員が動員されたが、説明会等で事故防止及び新型コロナウイルス感染症対策の注意喚起を十分に行ったこともあり、事故なく調査が完了した。 国・県の指定するスケジュール通りに調査を完了することができた。			
				実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		統計調査実施中に問題となった事故件数										
	成果指標	基幹統計実施件数	件	目標									
				実績	3	2	2						
	<指標の計算方法>		基幹統計を実施した件数										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	2,667			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
事業の実績	①学校基本調査 (令和4年5月1日調査基準日) 調査対象：小学校17、中学校7 幼稚園等5												
	②就業構造基本調査 (令和4年10月1日調査基準日) 調査対象：40調査区から選定した2,510世帯												
	③住宅・土地統計調査単位区設定 (令和5年2月1日調査基準日) 調査目的：令和5年住宅・土地統計調査の実施にあたり対象となる130調査区の準備調査												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・統計法に基づき継続して実施する必要がある事業											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・各統計調査において得た情報は、国の各種施策の立案等の重要な資料となる。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・各種統計調査実施時に、回答者の負担軽減及び調査員・事務担当者の業務量削減を目的とし、インターネットの回答率を高めるよう調査員等と協力していくことが必要である。 なお、各年度により統計調査の内容や規模が異なることから、回答率の推移を一連の指標として出すことは困難である。												

事務事業の概要	事務事業名	監査事業		担当課	総合行政委員会事務局			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	27	
	予算科目	款	2 総務費		長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	6 監査委員費			施策目標	99 ****				
		目	1 監査委員費			基本施策	99 ****				
目	1 監査委員費		取組方針	9 その他							
事業概要	市が適正に予算・事務の執行を図るために、監査委員が出納検査や監査を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	監査事務		⑤						⑨	
	②	全国都市監査委員会負担金		⑥						⑩	
	③	近畿地区都市監査委員会負担金		⑦						⑪	
	④	県下都市監査委員会負担金		⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	例月出納検査回数	目標	12	12	12	12	12	月1回例月出納検査を実施している。		
			実績	12	12	12	12				
	<指標の計算方法>		例月出納検査実施回数								
	活動指標	定期監査回数	目標	5	5	5	5	5		各課に対する定期監査を実施している。	
			実績	5	5	5	5				
	<指標の計算方法>		定期監査実施回数								
成果指標	監査結果報告書等の発行回数	目標	20	20	20	20	20	各監査等（例月出納検査12回、決算審査・健全化判断比率審査1回、定期監査5回、財政援助団体等監査1回、工事監査1回）を実施した結果の報告等を行っている。			
		実績	19	19	20	20					
<指標の計算方法>		各監査・審査・検査等の報告書等発行回数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	2,552			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,552	
事業の実績	①監査事務 ・例月出納検査 12回 ・令和3年度決算審査・健全化判断比率審査 1回 ・定期監査（財務監査） 5回 ・財政援助団体等監査 1回（1か所） ・工事監査 1回（1か所） ・東海・近畿・北陸三地区共催都市監査事務研修会（新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため研修会は中止） ②全国都市監査委員会負担金 ③近畿地区都市監査委員会負担金 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため総会・研修会は中止 ④県下都市監査委員会負担金 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため定例会は中止										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地方自治法等により、監査委員が実施するよう定められている事務であり、市が実施しなければならない事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・適正な財務処理に寄与している。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・監査委員に対する報酬のため、これ以上のコスト削減は難しい。										

事務事業名	地域福祉推進事業		担当課		社会福祉課		事業区分	ソフト事業		
			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	587	
	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
	予算科目	款	3 民生費		施策目標	3 福祉				
項目		1 社会福祉費			基本施策	1 地域福祉の仕組みづくりと推進				
目	1 社会福祉総務費		取組方針	1 地域におけるつながり、交流の推進						
事業概要	市民が地域福祉の理解を深め、支え合い助け合う社会を築いてもらうために、市民、職員、社会福祉協議会等が地域福祉計画に基づき、普及・啓発活動や経営支援を行う事業									
事務事業を構成する細事業	① 第2次紀の川市地域福祉計画の推進			⑤ 社会福祉協議会補助金			⑨			
	② 社会福祉法人監査			⑥ 市民団体活動支援事業補助金			⑩			
	③ 近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会負担金			⑦ ボランティア連絡協議会補助金			⑪			
	④ 県都市福祉事務所長連絡協議会負担金			⑧ 赤十字奉仕団補助金			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	成果指標	社会福祉協議会住民相談件数	件	目標	150	150	150	150	150	毎週火曜日、心配ごと相談を開設し、弁護士相談をそれぞれ年12回開催している。例年どおり防災無線、広報紙により、同時にメール配信サービスにより周知を行った。
			実績	131	106	129				
	<指標の計算方法>		年間延べ件数（心配ごと相談・弁護士相談）							
	成果指標	ボランティア団体活動回数	回	目標	110	110	110	110	110	新型コロナウイルス感染症の感染者数を鑑みながら活動を行ったため、令和3年度より回数は増加した。
			実績	49	88	99				
	<指標の計算方法>		市・各支部の年間活動回数							
	成果指標	赤十字奉仕団活動回数	回	目標	50	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染症の感染者数を鑑みながら活動を行ったため、令和3年度より回数は増加した。
			実績	36	31	45				
	<指標の計算方法>		市・各地区赤十字奉仕団の年間活動回数							
		回	目標							
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	141,097			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			141,097							
事業の実績	①第2次紀の川市地域福祉計画の推進 「みんなが安心して暮らせる きのかわ～みんなではぐくむ地域のつながり～」を基本理念として平成30年3月に策定された計画に基づき、それぞれの施策に取り組む。			県内の市福祉事務所の協議会であり、福祉に関する国への要望事項を集約し、課題の検討を行う。 総会 1回			*501,000円 会員数 711名（令和4年度末）			
	②社会福祉法人監査 紀の川市が所管する社会福祉法人を対象に指導監査を実施する。 *実施件数 2件			⑤社会福祉協議会補助金 運営費及び事業費に対する補助を行い地域における福祉の向上を図る。 *111,959,000円			⑧赤十字奉仕団補助金 日本赤十字奉仕団規則の定めるところに基づき、すべての人々の幸せを願い、明るい住みよい社会を築き上げていくための活動に対し、各赤十字奉仕団に補助を行う。 *258,000円 団員数 1,466名（令和4年度末）			
	③近畿ブロック都市福祉事務所長連絡協議会負担金 近畿の市福祉事務所の協議会であり、福祉に関する国への要望事項を集約し、検討課題についての研修を行う。 総会 1回 研修会 1回			⑥市民団体活動支援事業補助金 社会福祉協議会による福祉団体支援を目的とするために補助を行う。 *25,956,000円						
	④県都市福祉事務所長連絡協議会負担金			⑦ボランティア連絡協議会補助金 市内ボランティア団体のつながりを強めるとともに、地域福祉の理解を深め、支え合い助け合う社会の構築のための活動に対し補助を行う。						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある							
		・第2次紀の川市地域福祉計画に基づく事業である。 ・少子高齢化や核家族化、地域の支え合いが希薄化する中で、福祉問題が増加、複雑化する可能性があることから、市民のニーズを的確に把握し、適切に反映させる必要がある。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
		・社会福祉協議会が行う相談の目標値は、指標の性質上設定しづらいが、今後も相談件数は増加すると考えられるため、継続が必要である。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	・地域福祉事業については、市が推進すべき事業であるが、業務分担や委託についても検討、実施が必要である。 ・補助金事業については、会員数の減少により事業等の運営が困難になることも考えられるため、補助金が有効活用され、目的に沿って事業を推進しているか常に検証する必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	民生委員児童委員活動支援事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	577	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	1 社会福祉総務費				基本施策	1 地域福祉の仕組みづくりと推進				
事業概要	市民が適切な福祉サービスを受けられるように、民生委員児童委員の円滑な活動を支援する事業											
事務事業を構成する細事業	①	市民生委員児童委員連絡協議会活動			⑤				⑨			
	②	単位民生委員児童委員協議会活動			⑥				⑩			
	③	単位民生委員児童委員協議会活動費補助金			⑦				⑪			
	④	民生委員児童委員協議会の互助事業			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	民生委員児童委員協議会定例会・研修会の開催回数	回	目標	60	60	60	60	60	新型コロナウイルス感染症の感染者数を鑑みながら、定例会や研修等を実施したため開催回数が増加した。		
			実績	37	36	59						
	<指標の計算方法>		市民生委員児童委員連絡協議会・各単位民生委員児童委員協議会の年間活動回数									
	成果指標	民生委員児童委員数	人	目標	181	181	181	181	181	一斉改選の年であり、なり手不足により後任者が決まりにくい地区もあったが、欠員を出すことなく一斉改選することができた。		
			実績	181	181	181						
	<指標の計算方法>		紀の川市民生委員児童委員定数181人、委嘱委員数181人、欠員なし									
	成果指標	民生委員児童委員年間相談・支援件数	件	目標						各民生委員児童委員からの毎月の活動報告書の件数の合計である。		
			実績	2,543	2,412	2,221						
	<指標の計算方法>		各民生委員児童委員からの活動報告書に基づく									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	18,084			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			12,355						5,729			
事業の実績	①市民生委員児童委員連絡協議会活動 各単位民生委員児童委員協議会の情報や意見交換を行うため役員会、研修会を行う。			交換を行う。								
	②単位民生委員児童委員協議会活動 委員それぞれの活動を通じて把握する地域の課題を共有し、解決方法について検討する。定例会、研修会を開催し、地域福祉の推進に取り組む。											
	③単位民生委員児童委員協議会活動費補助金 ・打田 3,726,000円 ・粉河 2,708,000円 ・那賀 2,444,000円 ・桃山 3,100,000円 ・貴志川 3,144,000円											
	④民生委員児童委員協議会の互助事業 県が主催する会議、研修に参加し、他市町村の民生委員児童委員協議会と情報や意見											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・社会福祉協議会が事務局を担当している市町村もあるが、民生委員法に基づき委嘱された民生委員児童委員の活動を支援するための事業であり、市が実施主体となることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・地域を見守り、地域住民の身近な相談相手、専門機関へのつなぎ役として活動しているが、社会情勢の変化とともに問題が複雑化し、住民の相談内容が多岐にわたる。民生委員児童委員が相談・支援という本来の活動を充実できるように、活動内容を検討する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・民生委員児童委員を組織として協議会が支え、さらに民生委員児童委員協議会として関係機関、団体と連携、協働できる体制づくりを強化するためにも市が実施主体となるべきである。											

事務事業の概要	事務事業名	戦争被害者等援護事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	585	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	1 社会福祉総務費				基本施策	1 地域福祉の仕組みづくりと推進				
取組方針				取組方針	3 相談支援体制の整備と充実							
事業概要	戦没者を追悼し、市民（戦争被害者）の福祉の増進を図るため、式典運営を委託する事業											
事務事業を構成する細事業	①	戦没者追悼式			⑤			⑨				
	②	遺族会補助金			⑥			⑩				
	③	原子爆弾被爆者見舞金			⑦			⑪				
	④	戦傷病者等支援・恩給業務			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	戦没者追悼式参加率	目標	20	20	20	20	20	戦没者追悼式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して開催した。			
			実績			14.5						
	<指標の計算方法>		戦没者追悼式参列者／遺族会の会員数									
	活動指標	遺族会活動回数	目標	50	50	50	50	50	市遺族会と各支部（5支部）で活動している回数である。			
			実績	26	26	22						
	<指標の計算方法>		市・各支部の年間活動回数（重複事業は除く）									
成果指標	原子爆弾被爆者見舞金支給率	目標	100	100	100	100	100	岩出保健所へ対象者を確認し、申請から支給までの事務を円滑に実施している。				
		実績	100	100	100							
<指標の計算方法>		支給件数／対象件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,081			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,058		
事業の実績	①戦没者追悼式 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して開催した。 日時：令和4年9月8日（木） 場所：粉河ふるさとセンター 参列者：126名			保健所へ調査依頼している。								
	②遺族会補助金 835,000円 会員数 869人（令和4年度末） *戦没者家族の福利増進、感謝救済の途を講ずるとともに平和日本の建設に貢献することを目的とした遺族会の活動を補助する。			④戦傷病者等支援・恩給業務 第11回特別弔慰金受付件数 118件 *戦没者の遺族から申請受付を行い、県へ進達し、裁定後、国債を交付する。								
	③原子爆弾被爆者見舞金 1件あたり 20,000円 支給件数 5件 支給額計 100,000円 *7月1日現在の被爆者健康手帳所持者を岩出											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・市として先の大戦で犠牲となられた方々に追悼の意を表し、市民に対し平和の尊さを訴え、市民意識の醸成を図ることは必要と考える。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・戦没者追悼式は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から規模を縮小して開催した。 ・終戦から長い年月が経過し、遺族の参列が減少傾向であり、1人でも多く参列してもらう工夫が必要である。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・遺族が参加するだけでなく、式典について市民に広報し、広く市民に平和の尊さを訴える機会となるよう検討する余地がある。										

事務事業の概要	事務事業名	地域福祉計画策定事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R4)	事業番号	977	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	1 社会福祉総務費				基本施策	1 地域福祉の仕組みづくりと推進			
事業概要	令和5年度からの5年間を計画期間とする第3次紀の川市地域福祉計画を策定する事業										
事務事業を構成する細事業	①	地域福祉計画の改訂			⑤			⑨			
	②	地域福祉計画策定委員会・作業部会開催			⑥			⑩			
	③	パブリックコメント			⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	策定委員会開催回数	回	目標			2	3		予定通り3回開催した。	
			実績			2	3				
		<指標の計算方法>		会の開催回数							
	活動指標	作業部会開催回数	回	目標			2	3		予定通り3回開催した。	
			実績			2	3				
		<指標の計算方法>		会の開催回数							
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,951			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,951	
事業の実績	①地域福祉計画改訂 第3次紀の川市地域福祉計画の策定 (令和5年3月)										
	②地域福祉計画策定委員会・作業部会開催 令和4年度に各3回ずつ開催し、令和3年度から継続して2ヶ年でそれぞれ合計5回開催した。										
	③パブリックコメント 計画策定時に市民意見を反映させるため、パブリックコメントを実施した。(意見なし)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・社会福祉法の規定に基づき、国の基本方針や県の計画と連携した市における福祉計画を総括する上位計画であり、計画策定は妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・学識経験者・保健医療関係者・市民団体や社会福祉団体の代表、一般公募等による策定委員で構成されており、有益な意見をもらえている。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・業者に一部のみの業務を委託し、コスト削減の余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名	心身障害児(者)医療費助成事業			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	30
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	2 健康・医療			
		目	2 障害者医療費				基本施策	2 地域医療体制・医療サービスの充実			
事業概要	市民(心身障害児・者)の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分に対し助成を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理			⑤			⑨			
	②	重度心身障害児者医療費助成			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	1人あたりの医療費助成額	目標						医療費助成額の増加及び助成対象者数の減少に伴い、1人あたりの医療費助成額は増加した。		
			実績	127,717	129,759	131,845					
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷助成対象者数								
	活動指標	助成対象者数	目標						令和3年度と比較して減少している。		
			実績	1,790	1,777	1,752					
	<指標の計算方法>		年度末助成対象者数								
活動指標	医療費助成額	目標						令和3年度と比較して増加している。			
		実績	228,614	230,582	230,992						
<指標の計算方法>		医療費助成額									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位:千円)			財源内訳							
	239,613			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			65,053							174,560	
事業の実績	①受給資格管理 ・対象者数(助成対象者/停止者)			市単独対象							
	県補助対象 816人(791人/25人) 市単独対象 982人(961人/21人) 合計 1,798人(1,752人/46人)			(入院) 700件 26,528,973円 (外来) 15,060件 41,409,247円 (歯科) 1,969件 7,879,675円 (調剤) 8,876件 27,050,323円 (訪問看護) 632件 8,172,440円 (その他) 656件 1,425,560円 (戻入) △2,923,561円							
事業の実績	②重度心身障害児者医療費助成 ・医療費助成内訳			(合計) 27,893件 109,542,657円							
	県補助対象 (入院) 1,131件 32,863,799円 (外来) 12,855件 49,584,293円 (歯科) 1,839件 6,211,094円 (調剤) 7,309件 25,086,745円 (訪問看護) 526件 13,091,545円 (その他) 597件 2,251,044円 (戻入) △7,638,831円			(合計) 52,150件 230,992,346円							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診していただくことができるため、心身障害児(者)の福祉向上の観点から妥当な事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・医療費助成は、心身障害児(者)世帯の経済的負担の軽減につながっており、障害者の福祉向上の観点から有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・助成対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国民健康保険団体連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。また、大量印刷物(受給者証の年次更新)の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。										

事務事業の概要	事務事業名		老人医療費助成事業			担当課		国保年金課		事業区分	ソフト事業	
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	33
	予算科目	款	3	民生費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	社会福祉費			施策目標	2	健康・医療			
		目	3	老人医療費			基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実			
事業概要		市民（老人）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分の一部に対し助成を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	受給資格管理		⑤					⑨		
		②	老人医療費助成		⑥					⑩		
		③			⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	1人あたりの医療費助成額	円	目標						助成対象者は2人であった。		
				実績		29,603	27,226					
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷助成対象者数									
	活動指標	助成対象者数	人	目標						助成対象者は2人であった。		
				実績		1	2					
	<指標の計算方法>		年度内助成対象者数									
活動指標	医療費助成額	円	目標						助成対象者は2人であった。			
			実績		29,603	54,452						
<指標の計算方法>		医療費助成額										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	59			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	32		
事業の実績	①受給資格管理 ・助成対象者数 2人											
	②老人医療費助成 ・医療費助成内訳 (入院) 0件 0円 (外来) 20件 36,371円 (歯科) 4件 14,214円 (調剤) 12件 3,867円 (その他) 0件 0円 (合計) 36件 54,452円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分の一部に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診していただくことができるため、老人の福祉向上の観点から妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・医療費助成は、助成対象者の経済的負担の軽減につながっており、老人の福祉向上の観点から有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・助成対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国民健康保険団体連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。事務効率の改善については余地がない状況である。											

事務事業の概要	事務事業名	国民年金受付事業			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	469	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	2	健康・医療				
		目	4	国民年金費		基本施策	3	医療保険制度の安定運営				
取組方針	1	国民健康保険制度の安定的運営										
事業概要	国民年金制度に基づき、市民が年金を安心して受給できるように、各種届出・申請書の受付等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	国民年金受付			⑤					⑨		
	②	国民年金等相談対応			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	受付進達件数	件	目標							受付進達件数は減少傾向にある。	
			実績		3,643	3,480	3,327					
	<指標の計算方法>		受付件数									
	活動指標	相談件数	件	目標							令和3年度と比較して増加している。	
			実績		5,733	4,906	6,225					
	<指標の計算方法>		相談件数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	555			国庫支出金	555	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①国民年金受付 各種届出・申請書の受付を行った。											
	◎国民年金第1号被保険者の異動届・免除申請等の受付、送付 ・異動に関する届 1,158件 ・免除等に関する申請 1,237件 ・コロナ特例免除に関する申請 33件 ・死亡一時金請求 9件											
	◎国民年金裁定請求の受付、送付 ・裁定請求(高齢・障害・遺族) 57件											
	◎年金受給者死亡後の未支給請求の受付、送付 ・未支給請求(死亡届含む) 571件											
	◎年金受給者に関する届の受付、送付 ・住所変更届等 96件 ・障害状態確認届(現況届含む) 55件											
◎年金生活者支援給付金請求の受付、送付 ・異動・裁定等による給付金請求 111件 <国民年金受付・送付件数計> 3,327件												
◎国民年金等相談対応 各種相談に対応した。 ◎国民年金に関する相談対応等 6,090件 ◎年金生活者支援給付金に関する相談対応等 135件 <国民年金等相談対応件数計> 6,225件												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国民年金市町村事務処理基準に基づき実施する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・国民年金市町村事務処理基準に基づき実施する事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事務処理はシステム化され効率化が図られており、事業効率の改善については余地がない状況である。											

事務事業の概要	事務事業名	高齢者保健事業			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1220	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	2	健康・医療				
		目	5	高齢者保健費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防				
取組方針	9	その他										
事業概要	和歌山県後期高齢者医療広域連合との委託契約に基づき、高齢者の保健事業と介護予防を庁内関係課が連携し一体的に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	高齢者保健事業			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	高齢者に対する個別の支援（ハイリスクアプローチ）指導利用率	%	目標			30	30	30	指導利用の電話勧奨時、本人またはその家族に対し改善や予防に向けてのアドバイス等を行うことにより、指導に繋がられるようアプローチをすることができた。		
				実績			11.2					
	<指標の計算方法>		指導利用人数÷対象者									
	成果指標	高齢者に対する個別の支援（ハイリスクアプローチ）健康状態把握率	%	目標			100	100	100	関係課と連携し、アンケート調査や、個別訪問等により健康状態等を把握し、健康課題等がある人に対しては、必要な支援や関係機関に繋げることができた。		
				実績			69.8					
<指標の計算方法>		健康状態把握人数÷対象者										
活動指標	通いの場等への積極的な関与（ポピュレーションアプローチ）実施回数	回	目標			30	40	40	新型コロナウイルス感染症の影響でサロン等の高齢者の集まりが中止となったことにより、集団的アプローチが十分にできなかったが、各講座内容等の見直しをする等、関係課と連携をとり事業を進めることができた。			
			実績			15						
<指標の計算方法>		講座等開催回数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
3,717								3,708	9			
事業の実績	①高齢者保健事業 ②ハイリスクアプローチ (個別相談・指導) 対象者：89人 利用者：10人 (11.2%) (内訳) ・低栄養に関する相談・指導 対象者：6人 利用者：2人 ・口腔に関する相談・指導 対象者：71人 利用者：7人 ・服薬に関する相談・指導 対象者：0人 ・糖尿病性腎症重症化予防に関する相談・指導 (受診勧奨) 対象者：0人 (保健指導) 対象者：12人 利用者：1人			③ハイリスクアプローチ (健康状態不明者の状態把握) 対象者：182人 ・アンケート調査、訪問等による把握：127人 (69.8%)			④ポピュレーションアプローチ (集団健康教育) 実施回数：15回 参加人数：延べ248人 (内訳) ・栄養に関する講座：7回 81人 ・口腔に関する講座：1回 11人 ・服薬に関する講座：3回 53人 ・疾病に関する講座：2回 16人 ・医師講演会：2回 87人					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・医療保険制度の適正かつ効率的な運営を図るための健康保険法等の一部を改正する法律が施行されたことに伴い、和歌山県後期高齢者医療広域連合より委託を受けて実施する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・和歌山県後期高齢者医療広域連合からの受託により、庁内関係課や関係機関と連携し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組むことは高齢者の健康の保持増進に有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・和歌山県後期高齢者医療広域連合からの受託により、庁内関係課や関係機関と連携し、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に取り組むことは効率性が高い。											

事務事業の概要	事務事業名	後期高齢者医療事業			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	463	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	2	健康・医療			
		目	7 後期高齢者医療費				基本施策	3	医療保険制度の安定運営			
取組方針	2	後期高齢者医療制度の安定的運営										
事業概要	和歌山県後期高齢者医療広域連合が円滑で安定的な運営が行えるように、事務費等を負担する事業											
事務事業を構成する細事業	①	後期高齢者医療広域連合負担金			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	後期高齢者医療広域連合事務費負担金	千円	目標						本市の負担割合は6%台で推移している。		
				実績	10,855	10,334	10,149					
	<指標の計算方法>		負担金額									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	10,149			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	10,149		
事業の実績	<p>①後期高齢者医療広域連合負担金 ・和歌山県後期高齢者医療広域連合の事務的運営経費（一般会計分）として、均等割・後期高齢者人口割・人口割で算出される負担割合で負担金を拠出する。</p> <p>※和歌山県後期高齢者医療広域連合一般会計の事務的運営経費所要額は、167,811,000円で、県内30市町村が負担割合に応じて按分し負担している。</p>											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・和歌山県後期高齢者医療広域連合規約に基づく事務であり、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・和歌山県後期高齢者医療広域連合規約に基づく事務であり、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・和歌山県後期高齢者医療広域連合規約に基づく事務であり、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。											

事務事業の概要	事務事業名	障害児者支援事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	601	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	8 障害者福祉費				基本施策	3 障害者の自立支援				
事業概要	障害児者、障害児者の家族が快適に地域生活を送ってもらえるように、各種サービスの給付・助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	障害者手帳等交付			⑤	身体障害者自動車操作訓練費助成		⑨				
	②	福祉タクシー利用・自動車燃料費助成			⑥	身体障害者自動車改造費助成		⑩				
	③	訪問理容サービス利用助成			⑦			⑪				
	④	難聴児補聴器購入費助成			⑧			⑫				
指標の実績	指標名	単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	活動指標	障害者手帳所持者数	人	目標	4,669	4,650	4,650	4,650	4,650	身体障害者手帳の所持者数は減少傾向にあるが、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者数は増加傾向にある。		
			実績	4,650	4,642	4,603						
	<指標の計算方法>		毎年3月31日現在の3障害（身体・療育・精神保健）手帳所持者の合計									
	成果指標	福祉タクシー利用・自動車燃料費助成券申請者数	人	目標	1,024	900	950	950	950	障害者手帳交付時や広報、ホームページ等で周知を図り、申請につなげている。		
			実績	924	931	913						
<指標の計算方法>		助成券の交付申請をした人数										
成果指標	訪問理容サービス利用申請者数	人	目標	5	5	10	11	11	助成対象者が限定されており大きな増減は見込めないが、広報や障害者手帳交付時に周知を行っていることで、申請者数は増加傾向にある。			
		実績	6	10	11							
<指標の計算方法>		訪問理容サービスの利用申請をした障害のある人の人数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	6,915			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,805		
事業の実績	①障害者手帳等交付 ・障害者手帳所持者数 身体障害者手帳 3,226人 療育手帳 795人 精神障害者保健福祉手帳 582人 計 4,603人			⑤身体障害者自動車操作訓練費助成 ・受給者数 0人								
	②福祉タクシー利用・自動車燃料費助成 ・申請者数 福祉タクシー利用券 144人 (初乗り料金20回分/人) 自動車燃料券 769人 (ガソリン40L分/人) 計 913人			⑥身体障害者自動車改造費助成 ・受給者数 1人								
	③訪問理容サービス利用助成 ・申請者数 11人 (延利用回数18回)											
	④難聴児補聴器購入費助成 ・受給者数 3人 (購入1人、修理2人)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・障害のある人が住みなれた地域で日常生活を営むために必要なサービスを提供している。									
		評価結果	改善の余地がない ・障害のある人の社会参加と生活の質の向上、またその家族の自己負担減につながっている。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・地域や社会情勢の変化に応じ、利用者のニーズに寄り添い、必要なサービスの提供体制を整える必要がある。									
評価結果		改善の余地がややある ・地域や社会情勢の変化に応じ、利用者のニーズに寄り添い、必要なサービスの提供体制を整える必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある ・地域や社会情勢の変化に応じ、利用者のニーズに寄り添い、必要なサービスの提供体制を整える必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	障害児者手当等給付事業		担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	605	
	予算科目	款	3 民生費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費			施策目標	3 福祉				
		目	8 障害者福祉費			基本施策	3 障害者の自立支援				
事業概要	障害児者、障害児者の家族の経済的負担の軽減を図り、自立した生活を送ってもらえるように、各種手当の給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	特別障害者手当給付		⑤	特別児童扶養手当給付		⑨				
	②	福祉手当給付（経過措置分）		⑥			⑩				
	③	障害児福祉手当給付		⑦			⑪				
	④	心身障害児扶養手当給付		⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	特別障害者手当受給者数	人	目標	55	50	50	50	50	重複障害など重度の障害を持つ人に限定されている。一定数の新規申請はあるが、その一方で亡くなる対象者もあり、全体の受給者数に大きな増減はない。	
			実績	48	46	46					
	<指標の計算方法>		特別障害者手当受給者数(3月末現在)								
	成果指標	障害児福祉手当受給者数	人	目標	28	25	23	23	23	重度の障害を持つ児童が対象で、受給者は限定されている。新規申請がある一方で、20歳到達により受給資格を喪失するため、全体の受給者数に大きな増減はない。	
			実績	21	18	17					
	<指標の計算方法>		障害児福祉手当受給者数(3月末現在)								
	成果指標	心身障害児扶養手当受給者数	人	目標	154	145	145	145	145	小児慢性特定疾病等の対象者は、保健所との連携が上手く図れており申請に繋がっている。人口減少により、受給者数は減少傾向にある。	
			実績	159	156	136					
	<指標の計算方法>		心身障害児扶養手当受給者数(3月末現在)								
活動指標	特別児童扶養手当受給者数	人	目標	130	130	130	130	130	障害者手帳判定時や病院等で障害の状況に応じて手当の案内があり、新規認定申請に繋がっている。		
		実績	133	123	137						
<指標の計算方法>		特別児童扶養手当事務取扱交付金の算定対象件数(12月31日現在)									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			25,865	13,287						12,578	
事業の実績	①特別障害者手当給付 「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づく特別障害者手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：46人		身体3～6級、療育B1・B2、精神2・3級：110人 指定難病、小児慢性特定疾患等：25人								
	②福祉手当給付（経過措置分） 「国民年金法等の一部を改正する法律」に基づく福祉手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：0人		⑤特別児童扶養手当給付 申請書の受理及び受給者証等の交付の事務を処理 ・受給者数(12月末現在)：137人								
	③障害児福祉手当給付 「特別児童扶養手当等の支給に関する法律」に基づく障害児福祉手当を支給 ・受給者数(3月末現在)：17人(内1人停止中)										
	④心身障害児扶養手当給付 障害等のある人の経済的負担を軽減するため、市単独の手当を支給 ・受給者数(3月末現在) 身体1・2級、療育A1・A2、精神1級：1人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・特別障害者手当、福祉手当（経過措置）、障害児福祉手当、特別児童扶養手当は、それぞれ法定手当であり実施は妥当である。 ・心身障害児扶養手当は、法定手当の受給資格に該当しない障害児等やその家族の経済的負担の軽減に繋がっている。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・障害を持ちながら在宅で生活している障害児者や障害児者の家族の経済的負担が軽減される。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・受給資格を有する障害児者に対し、手当の申請案内を確実に実施するとともに、申請時には手帳の判定や意見書を精査することで、適正な手当の支給に繋がることができている。										

事務事業の概要	事務事業名	障害者団体運営支援事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	611	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	8 障害者福祉費				基本施策	3 障害者の自立支援				
事業概要	障害児者、障害児者の家族が各種団体活動や社会活動に参画できるように、障害者団体の活動に対する補助や支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	身体障害者連盟補助金			⑤				⑨			
	②	精神障害者家族会補助金			⑥				⑩			
	③	障害児者父母の会補助金			⑦				⑪			
	④	聴覚障害者協会補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	身体障害者連盟への交付補助金額	円	目標	1,150,000	1,150,000	1,110,000	1,110,000	1,110,000	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため予定していた事業が実施されず、支出見込額よりも支出済額が少なかったため補助金を減額。		
				実績	389,000	439,000	485,000					
	<指標の計算方法>		身体障害者連盟への補助金額									
	活動指標	障害児者父母の会への交付補助金額	円	目標	1,388,000	1,388,000	1,388,000	1,388,000	1,388,000	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策をしながら、毎月の親の交流会を開催した。		
				実績	370,000	359,000	1,380,000					
	<指標の計算方法>		障害児障害者父母の会への補助金額									
	成果指標	身体障害者連盟の会員数	人	目標	550	550	550	550	550	会員の高齢化に伴い会員数は減少傾向にある。地域の小・中学校や、各種大会での啓発活動を行っているが会員数増加にはつながっていない。今後も会員数増加にむけて啓発活動に取り組む予定である。		
				実績	478	426	393					
	<指標の計算方法>		身体障害者連盟の会費徴収対象となる会員数									
成果指標	障害児者父母の会の会員数	家族	目標	60	60	60	60	60	支援学校等での啓発活動等を実施しているが、会員数増加にはつながっていない。今後も会員数増加にむけて啓発活動に取り組む予定である。			
			実績	55	51	50						
<指標の計算方法>		障害児者父母の会の会費徴収対象となる会員数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			2,124							2,124		
事業の実績	①身体障害者連盟補助金 ・会員数 393人											
	②精神障害者家族会補助金 ・会員数 30人											
	③障害児者父母の会補助金 ・会員数 50人											
	④聴覚障害者協会補助金 ・会員数 14人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・障害者の会員相互の交流や親睦を図り、社会参加の促進と福祉の向上につながる事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・障害者の社会参加の促進と福祉の向上に一定の効果を上げている。 ・「身体障害者連盟」「障害児者父母の会」への若年層の参加を増やすことができるよう、活動内容の見直しを促進する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・各団体の会員数が減少している状況を鑑み、事業費を見直し、より効率的な活動を促進する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	障害福祉サービス等給付事業		担当課	障害福祉課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	614
	予算科目	款	3 民生費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費			施策目標	3 福祉			
		目	9 障害者総合支援費			基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者が地域で自立した生活を送ってもらえるように、障害福祉サービスの給付を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	障害支援区分認定審査会運営		⑤	障害者補装具給付		⑨			
	②	認定調査業務		⑥			⑩			
	③	障害福祉サービス給付		⑦			⑪			
	④	高額障害福祉サービス等給付		⑧			⑫			
指標の実績	指標名	単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標 認定調査件数	件	目標	200	200	200	200	200	令和4年度は区分更新による認定調査が少ない年度であったため全体の調査件数は減少しているが、新規申請による調査件数は増加している。	
			実績	184	193	186				
	<指標の計算方法>		年間認定調査件数							
	成果指標 障害福祉サービスの延利用者数	人	目標	8,900	8,900	9,200	10,200	10,200	グループホームや就労継続支援B型作業所の増加により、利用者が増加している。	
実績			9,194	9,616	10,120					
<指標の計算方法>		障害福祉サービスの延利用者数								
成果指標 就労移行支援の利用者数	人	目標			21	21	21	障害のある人の社会参加の状況を測る指標であり、事業内容が広く認知されてきたことにより利用者が増加している。		
		実績		16	18					
<指標の計算方法>		就労移行支援の実利用者数								
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)		財源内訳							
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
		1,389,588	685,672	346,118				357,798		
事業の実績	①障害支援区分認定審査会運営		重度訪問介護	5人・	48人	・高額障害福祉サービス等給付				
	・審査委員 10人 (1班 5人、2班 5人) ・開催回数 12回 (月1回) ・審査件数 141件 (内訳) 身体 29件、知的 64件、 精神 46件、難病 2件 ・主治医意見書依頼件数 141件		行動援護	1人・	1人	実受給者 6人 (延受給者 58人)				
②認定調査業務	・認定調査員 (職員) 5人 (内会計年度任用職員 1名) ・認定調査件数 (児童除く) 186件 (内相談事業所委託分 111件) (内訳) 一次判定分 45件 二次判定分 141件 (審査会)		同行援護	13人・	136人	・新高額障害福祉サービス等給付				
			生活介護	156人・	1,759人	実受給者 10人 (延受給者 69人)				
③障害福祉サービス給付	・障害福祉サービス利用者数 実利用者・延利用者 居宅介護 150人・1,392人		療養介護 (福祉分)	14人・	168人	⑤障害者補装具給付				
			短期入所	33人・	240人	・補装具給付件数 購入・修理・借受 義肢 (義足、義手等) 4件・5件・0件 装具 (下肢、体幹等) 26件・11件・0件 座位保持装置 (椅子含む) 3件・4件・0件 視覚障害者安全つえ等 3件・0件・0件 眼鏡 4件・1件・0件 補聴器 36件・19件・0件 車いす (電動含む) 10件・22件・0件 その他補装具 1件・0件・0件				
			共同生活援助	79人・	812人	④高額障害福祉サービス等給付				
			施設入所支援	62人・	729人					
			就労移行支援	18人・	133人					
			就労継続支援A型	99人・	1,022人					
			就労継続支援B型	187人・	1,868人					
			就労定着支援	2人・	13人					
			自立訓練 (機能訓練)	0人・	0人					
			自立訓練 (生活訓練)	24人・	204人					
			宿泊型自立訓練	0人・	0人					
			自立生活援助	0人・	0人					
			計画相談支援	543人・	1,588人					
			地域相談支援	1人・	7人					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
			・障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス給付事業である。							
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
		・障害児者が地域社会で自立した生活を営めるよう、それぞれの実情に合わせた最適なサービスを見極め提供されており、サービス利用者の増加につながっている。 ・障害福祉サービス利用について、その人が必要とするサービスを聞き取り、適したサービス量を提供するとともに、サービス提供事業所からの請求等を精査することで、不適切もしくは過剰なサービス提供を防止し、事業効果を向上させる。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
		・福祉サービスの受給者の増加に対応した業務の効率化へ向けた検討が必要である。								

事務事業の概要	事務事業名	障害児通所給付事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	847		
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心					
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉					
		目	9 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援					
事業概要	障害児が早期からの療育を受け、自立した生活を送ってもらえるように、支援施設への通所サービスの給付を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	障害児通所給付			⑤				⑨				
	②	高額障害児通所給付			⑥				⑩				
	③	児童発達支援センター利用者負担減額助成			⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	児童調査件数	件	目標	60	60	70	70	70	令和4年度の新規申請件数はやや減少したが、乳幼児期からの発達支援として早期の療育に繋がっている。			
				実績	33	69	51						
	<指標の計算方法>		障害児通所給付の新規申請児童に対する調査件数										
	成果指標	児童発達支援利用者数	人	目標	115	115	140	140	140			児童発達支援事業の利用者数は令和3年度に比べると減少したが、療育が必要な児童が早期に利用できている。	
				実績	104	136	115						
	<指標の計算方法>		児童発達支援を利用した実人数										
成果指標	障害児相談支援利用者数	人	目標	137	157	190	190	200	障害児相談支援利用者数は年々増加傾向にあり、個人にあった障害児通所給付に繋がっている。				
			実績	157	189	217							
<指標の計算方法>		障害児相談支援を利用した実人数											
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
431, 829			206, 074	103, 037					122, 718				
事業の実績	①障害児通所給付 障害または発達に遅れのある児童に、通所等による適正な療育サービスを給付 ・児童調査件数 51件 ・障害児通所給付利用者数 実利用者 (延利用者) 児童発達支援 115人 (1, 059人) 放課後等サービス 169人 (1, 831人) 保育所等訪問支援 34人 (50人) 障害児相談支援 217人 (483人)												
	②高額障害児通所給付 ・実受給者 6人 (延受給者 55人)												
	③児童発達支援センター利用者負担減額助成 ・実受給者 0人												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・児童福祉法で定められている事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・障害児または発達に遅れのある児童の早期療育に繋がっている。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・障害児または発達に遅れのある児童の早期療育や発達支援として適切な支援内容であるか、サービス等利用計画にて精査し、効率的な事業の実施に繋げる。												

事務事業の概要	事務事業名	障害者地域生活支援事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	982
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	9 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者、障害児者の家族が住み慣れた地域で自立した生活を送ってもらえるように、相談、各種サービス給付等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	地域生活支援事業給付			⑤	巡回支援専門員整備		⑨			
	②	高額地域生活支援給付			⑥	重度障害者日常生活用具給付		⑩			
	③	障害者相談支援事業委託			⑦	訪問入浴サービス事業		⑪			
	④	障害者地域活動支援センター運営委託			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	地域生活支援事業支給決定者数	人	目標	290	290	290	290	290	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため利用を控える方もあり、支給決定者数が減少した。	
			実績	264	250	191					
	<指標の計算方法>		地域生活支援事業支給決定者数（移動支援・日中一時支援・生活支援それぞれの12月時点における決定者数の合計）								
	成果指標	地域生活支援事業実利用者数	人	目標	220	220	220	220	220	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため利用を控える方もあり、利用者数が減少した。	
			実績	166	156	154					
	<指標の計算方法>		地域生活支援事業を利用した人数（移動支援・日中一時支援・生活支援それぞれの利用人数の合計）								
	活動指標	巡回支援専門員整備事業巡回回数	回	目標	29	27	30	30	30	新型コロナウイルス感染症の感染防止のため巡回する保育所（園）・幼稚園数は当初の計画よりは少なかったが、令和3年度と比較すると増加した。	
			実績	14	8	13					
	<指標の計算方法>		巡回支援専門員が巡回した保育所（園）・幼稚園の延べ箇所数								
成果指標	基幹相談センター相談人数	人	目標	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	基幹相談センターとして、必要に応じ各指定特定相談支援事業所の相談に応じている。また、障害者等からの相談内容は複雑化・多様化してきている。		
		実績	6,608	8,939	6,346						
<指標の計算方法>		年間延べ相談人数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	99,060			27,449	23,343					48,268	
事業の実績	①地域生活支援事業給付 ・障害者移動支援事業 実利用者 95人 延利用時間 9,267H ・日中一時支援事業 実利用者 22人 延利用時間 1,945H ・障害者生活支援事業 実利用者 37人 延利用時間 1,535H			・設置場所 麦の郷紀の川生活支援センター ・人員体制 4人（常勤専従2人、常勤兼務2人）			・巡回対象施設 市内の保育所・幼稚園 ・専門員巡回回数 (延) 13回 ・研修会の開催 (延) 0回				
	②高額地域生活支援給付 実受給者 2人 (延受給者 16人)			④障害者地域活動支援センター運営委託 創作的活動や生産活動、地域との交流促進等の活動を支援する場として、地域活動支援センターを開設し、その運営を委託。 ・開所日数 248日 ・実利用者 91人(延利用者 6,395人) ・委託先 (社福)一麦会 ・設置場所 麦の郷紀の川生活支援センター ・人員体制 7人(常勤専従2人、常勤兼務2人、非常勤専従3人)			⑥重度障害者日常生活用具給付 ・給付件数 ストーマ用装具 1,166件 紙おむつ 455件 電気式たん吸引器 6件 入浴補助用具 4件 情報通信支援用具 4件 特殊寝台 3件 その他生活用具 18件 合計 1,656件				
	③障害者相談支援事業委託 障害者地域生活相談支援業務及び紀の川市基幹相談支援センター業務を委託。 ・開所日数 248日 ・実相談者 376人(延相談者 6,346人) ・委託先 (社福)一麦会			⑤巡回支援専門員整備 発達障害の専門知識を有する専門員が、保育所等の施設を巡回し、施設の担当職員に対し、障害の早期発見や早期対応のための助言等の支援を行う。			⑦訪問入浴サービス事業 ・実人数 3人 (延 266回)				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・障害者総合支援法に基づき市町村が実施する事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・障害児者の自立と社会参加の促進、障害児者を抱える家族の負担軽減に繋がっている。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・障害児者への支援内容や請求内容等について、サービス提供事業所へ適宜指導を行うことで、不適切なサービス提供を防止し、事業コストの効率化につなげる。										

事務事業の概要	事務事業名	障害者権利擁護事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	631
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	9 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者の権利や財産を擁護するために各種支援を行い、市民に対し障害者理解のための広報や啓発を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 成年後見制度利用支援		⑤ 障害者差別解消		⑨ 相談員設置						
	② 障害者虐待防止対策支援事業		⑥ 障害者意思疎通支援		⑩						
	③ 理解促進研修・啓発事業		⑦ 手話奉仕員養成・手話啓発普及		⑪						
	④ 自発的活動支援事業		⑧ 障害者相談		⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	成年後見人市長審判請求件数	目標	2	2	2	2	2	令和4年度は市長審判請求の実績はなかった。市長申立てまではないものの、支援者や家族等のいない障害者に関する相談は増加している。		
			実績	0	1	0					
	<指標の計算方法>		市長審判による請求した件数								
	活動指標	手話奉仕員養成に関する講座数	目標	3	3	3	4	4	基礎講座を2コース、ステップアップ講座（レベルアップ・通訳者養成）を各1コースずつ実施。今後も学習者の意欲が持続するよう、継続して学習の場を提供する必要がある。		
			実績		3	4					
<指標の計算方法>		入門講座、基礎講座、ステップアップ講座などの講座数									
成果指標	手話奉仕員養成講座修了者の割合	目標	100	100	100	100	100	全体の8割を超える受講生が基礎課程を修了することができた。今後も入門課程及び基礎課程の修了者が少しでも増えるよう、開催の周知方法や講座内容を工夫していく必要がある。			
		実績			87						
<指標の計算方法>		手話奉仕員養成講座（入門課程・基礎課程）の受講修了者／受講者数									
成果指標	理解促進研修・啓発事業の参加者数	目標	0	0	800	800	800	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、参加者数は少なかった。障害のある人への理解促進を図るため、啓発方法や内容を工夫することで参加者数を増やしていく必要がある。			
		実績	0	184	206						
<指標の計算方法>		理解促進研修・啓発事業の参加合計人数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
	2,354			516	430				1,408		
事業の実績	① 成年後見制度利用支援 ・市長審判請求支援件数 0件 ・成年後見人等報酬助成金給付 1件			参加者 45名 ○開催日 令和5年1月24日 テーマ 働くことを通してつながる			・意思疎通支援者の派遣 手話通訳士(者)支援件数 61件 要約筆記者支援件数 8件				
	② 障害者虐待防止対策支援事業 ・紀の川市障害者虐待防止センターの設置 通報件数 3件(内虐待認定件数 1件)			参加者 27名 ○開催日 令和5年2月8日 テーマ 誰もが住み慣れたまちで暮らし続けるために			⑦ 手話奉仕員養成・手話啓発普及 ・手話奉仕員養成講座入門課程(2コース分)受講者 27人(内修了者26人) ・手話奉仕員養成講座基礎課程(2コース分)受講者 27人(内修了者21人)				
事業の実績	③ 理解促進研修・啓発事業 ・講演(研修)会の開催 6回 ○開催日 令和4年9月6日 テーマ 一緒に考えよう新しい支援のかたち			参加者 48名 ④ 自発的活動支援事業 新型コロナウイルス感染症予防対策のため、運動会及び避難訓練の実施を中止。			・ステップアップ講座 受講者 レベルアップ 5人 通訳者養成 6人				
	参加者 28名 ○開催日 令和4年9月21日 テーマ 発達障害について			⑤ 障害者差別解消 ・那賀圏域障害者差別解消支援地域協議会 ※オンライン研修 ○開催日 令和4年11月24日 内容 事例検討			・夏休み手話教室(2日間)受講者 12人 ・手話出前講座 延13件 受講者 延328人				
事業の実績	参加者 20人 ○開催日 令和4年11月12日 テーマ 小児在宅医療の使い方			⑥ 障害者意思疎通支援 ・手話通訳士職員配置 3人 (支援件数 726件)			⑧ 障害者相談 ・来所:延44件、訪問:延9件、電話:延353件				
	参加者 38人 ○開催日 令和4年11月17日 テーマ 子どもたちの豊かな発達を願っ						⑨ 相談員設置 ・身体障害者相談員 7人(延相談件数 15件) ・知的障害者相談員 5人(延相談件数 14件)				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・地域社会全体に、障害児者の理解を促進することで、障害者差別の解消や障害者虐待の防止につなげ、障害児者の人権擁護と福祉の向上を図る事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・障害児者の権利擁護を促進するため、中核機関である紀の川市社会福祉協議会と連携し、より有効的な成年後見制度の普及啓発を行うことが求められる。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・手話を続けて学ぼうとする意欲を持ち続けてもらうために、定期的な周知および学習機会の場を提供をしていく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	障害者自立支援医療費等給付事業			担当課	障害福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	638
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	9 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援			
事業概要	障害児者が必要な治療を受け、地域で健康的に暮らしているように、医療費の一部助成を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	更生医療給付			⑤			⑨			
	②	育成医療給付			⑥			⑩			
	③	療養介護医療給付			⑦			⑪			
	④	精神通院医療給付			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	更生医療給付決定件数	件	目標	420	430	430	430	430	医療機関連携を図りながら給付決定を行っている。更生医療を必要とする申請者数はやや減少傾向にある。	
			実績	418	410	385					
	<指標の計算方法>		更生医療給付決定件数（実績報告）								
	成果指標	育成医療給付決定件数	件	目標	30	30	20	20	20		疾患や治療内容で給付対象が限定されており、育成医療を必要とする申請者数は横ばい状態である。
			実績	24	7	21					
	<指標の計算方法>		育成医療給付決定件数（実績報告）								
成果指標	療養介護給付受給者数	人	目標	13	13	14	14	14	病院等で長期入院による医療に加え、常時介護が必要な重度の障害者が受給対象者と限定されており、目標値及び実績値に大きな増減はない。		
		実績	14	14	14						
<指標の計算方法>		療養介護給付受給者数（実績報告）									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			53,980	26,916	13,457				13,607		
事業の実績	①更生医療給付 身体上の障害を取り除いたり軽減して日常生活を容易にする医療等にかかる費用について、利用者の自己負担を軽減するための給付・給付決定件数（実受給者） 内臓障害(心臓) 70件 (37人) 内臓障害(透析) 274件 (221人) 肢体不自由 37件 (28人) 免疫機能障害 4件 (4人)			③療養介護医療給付 医療機関で機能訓練や療養上の管理、看護、介護及び日常生活支援を受けた場合の医療にかかる費用を給付 ・受給件数 169件（実受給者 14人）			④精神通院医療給付 各種申請を受け付け、県の支給認定を受けた後、受給者証の交付を実施 ・申請等受付状況 新規 132件 更新 704件 変更 281件				
	②育成医療給付 児童の身体上の障害を取り除いたり軽減して日常生活を容易にする医療等にかかる費用について、利用者の自己負担を軽減するための給付 ・給付決定件数（実受給者） 視覚障害 4件 (1人) 聴覚・平衡機能障害 4件 (2人) 音声・言語・そしゃく機能障害 4件 (3人)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・障害者総合支援法に基づく事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・心身上の障害を取り除いたり軽減したりして、日常生活を容易にするための医療費にかかる自己負担が軽減できている。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・申請書だけではなく医療機関からの意見書及び所得等により市で判定を行っている。また、内容によっては県へ判定依頼などを行い、適正に実施することができている。									

事務事業の概要	事務事業名	障害者施設運営等支援事業			担当課	障害福祉課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	634	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	9 障害者総合支援費				基本施策	3 障害者の自立支援				
事業概要	ひきこもり状態にある人や障害者等の相談に応じるとともに、居場所を確保するための障害者等の施設の運営支援や補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	ひきこもり支援ステーション事業			⑤				⑨			
	②	障害者グループホーム等整備事業補助金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	ひきこもり支援ステーション事業の居場所利用者数	人	目標	15	15	20	20	20	ひきこもり者の居場所として、個々の状態に合わせた様々な取り組みが実施されている。居場所利用者数は増加傾向にある。		
				実績	10	11	19					
	<指標の計算方法>		市が委託するひきこもり支援ステーション事業の居場所を利用した実人数									
	活動指標	ひきこもり支援ステーション事業における相談等延べ人数	人	目標	450	450	500	600	600	ひきこもり者やその家族からの相談内容は様々であり、長期間のかかりが必要である。相談等延べ人数は増加傾向にあり、今後も相談のニーズは高いと考えられる。		
				実績	486	543	592					
	<指標の計算方法>		市が委託するひきこもり支援ステーション事業の相談・支援延べ人数									
	成果指標	障害者グループホーム定員数	人	目標	55	65	75	110	110	市内に新規設立のグループホームが1か所、既存のグループホームの増設が1か所あり定員は増加している。		
実績				63	88	107						
<指標の計算方法>		市内の障害者グループホームの定員数										
成果指標	障害者グループホーム新設数	箇所	目標	1	1	1	1	0	市内に新規設立のグループホームが1か所あったが、障害者グループホーム等整備事業補助金の申請はなかった。			
			実績	1	2	1						
<指標の計算方法>		市内の障害者グループホーム新設数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
					国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
5,998				3,492						2,506		
事業の実績	①ひきこもり支援ステーション事業 ひきこもり状態にある者及びその家族に対する支援を実施 ・事業内容 ひきこもり相談、居場所提供、地域ネットワークの構築、自立・就労コーディネート ・事業委託先 (社福)一麦会 ・設置場所 麦の郷 ハートフルハウス創(粉河853-3) ・利用者数 ひきこもり相談 (実) 33人 (延) 592人 居場所の利用 (実) 19人 (延) 188人											
	②障害者グループホーム等整備事業補助金 補助件数 0件 ※補助対象外のグループホーム新設 1箇所(定員10名) 既存のグループホーム増設 1箇所(定員9名増)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ひきこもり状態にある人の居場所としての役割は大きい。今後も多様な相談に応じ、ひきこもり状態にある人の社会参加を支援する事業として継続していく必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・ひきこもり状態にある人とその家族への支援は、面談だけでなく訪問やメールなど個々のニーズに応じて様々な方法で実施しているが、長期的なかかりが必要であり、関係機関と連携しながら継続して支援していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・生活困窮者就労準備支援事業費等補助金の国庫補助金を活用し、ひきこもり支援ステーション事業として効率的に事業実施ができている。											

事務事業の概要	事務事業名	老人福祉施設入所支援事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	640			
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心						
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉						
		目	10 老人福祉費				基本施策	2 高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進						
取組方針	2 高齢者の自立支援													
事業概要	市民（入所対象者等）が安心して生活を送れるように、老人福祉施設への入所に関する支援や拠点施設の運営を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	老人ホーム入所判定委員会運営			⑤	高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金		⑨						
	②	老人福祉施設入所者負担金徴収			⑥			⑩						
	③	生活支援ハウス運営事業委託			⑦			⑪						
	④	老人福祉施設入所者措置			⑧			⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	活動指標	生活支援ハウス利用率	%	目標						令和4年度は1名退所者がいたため入居率が減少した。令和5年度は多数の入退所者が見込まれるわけではないため、利用率に大きな変化はないものと考えられる。				
				実績	47.6	54.9	46.9							
	<指標の計算方法>		年間延べ利用日数 ÷ (365日 × 施設定員数 (10人))											
	活動指標	高齢者向け優良賃貸住宅利用率	%	目標						令和4年度は、3名が退去し6名が入居した。3月末時点では14/20 (部屋) の利用であるが、令和5年度は満床に近い利用が見込まれる。				
				実績	77.8	67.3	56							
<指標の計算方法>		年間延べ利用日数 ÷ (365日 × 施設定員数 (20人))												
活動指標	入所者措置数	人	目標						措置数はほぼ横ばいであるが、虐待や緊急措置により急増することも考えられる。					
			実績	45	44	41								
<指標の計算方法>		養護、特別養護老人ホームへの入所措置数												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	95,408			国庫支出金	1,010	県支出金		地方債		繰入金		その他	16,851	一般財源
事業の実績	①老人ホーム入所判定委員会運営 入所措置、措置継続の要否判定 委員数 8人・入所措置 2人			高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金交付 ・3月末実人数 14人 ・延べ利用日数 4,089日										
	②老人福祉施設入所者負担金徴収 収入申告による負担金決定と徴収													
	③生活支援ハウス運営事業委託 利用者承認、生活支援ハウス運営委託 ・3月末実人数 4人 ・実利用人数 5人 ・延べ利用日数 1,711日													
	④老人福祉施設入所者措置 入所者の措置決定 3月末措置者数 (5施設) 41人 ・年間入所者 2人 退所者 5人													
	⑤高齢者向け優良賃貸住宅家賃減額補助金													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・老人福祉法に基づき事業を実施しており、市が事業主体となるのは妥当である。 ・「医療」、「介護」、「介護予防」、「住まい」、「生活支援」のサービスが一体的に切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の構築には、「住まい」の部分で欠かすことのできない事業である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がややある											
・高齢者虐待や家庭事情などにより、居宅での生活が困難と判断した高齢者に対し、安全安心な生活を確保していく上で有効である。 ・生活全般に自立している方は、本人の自立度により「生活支援ハウス」を活用してもらえるよう支援していく必要がある。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・措置費等については、国や県の基準に基づき設定され、収入等に応じた受益者負担を求めている。 ・事業実施にあたっては、必要最小限の人員で対応している。													

事務事業の概要	事務事業名	介護予防・高齢者自立支援事業		担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	649	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉			
		目	10	老人福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進			
取組方針	2	高齢者の自立支援									
事業概要	市民（高齢者）が住み慣れた地域で自立した日常生活を送れるように、各種サービスの提供を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 生活管理指導短期宿泊		⑤ 高齢者居宅改修補助金		⑨ 認知症高齢者等賠償責任保険事業						
	② 外出支援サービス		⑥ 老人日常生活用具給付		⑩ 就労的活動支援事業						
	③ 防災力向上事業		⑦ 高齢者訪問理髪サービス利用助成券給付		⑪ 自立支援型介護予防通所介護事業所認定						
	④ 緊急通報体制整備		⑧ 介護予防事業委託		⑫ フレイル予防推進事業						
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	外出支援サービス利用者数	人	目標	50	50	50	50	50	一般公共機関を利用することができない要介護4・5と認定された方を自宅から医療機関へ送迎するサービス。目標値については実績をもとに設定しているが、ここ数年は50人弱で推移している。	
			実績	48	47	42					
	<指標の計算方法>		年間利用実人数								
	活動指標	救急情報キット配布数	世帯	目標	9,100	11,500	11,500	11,500	11,500	防災力向上のため、新しく65歳到達者の介護保険被保険者証送付時に案内チラシを同封し、希望者に救急キットを配布。今後も目標値を達成できるよう周知啓発を行っていく。	
実績			8,042	8,081	8,124						
<指標の計算方法>		年度末配布済累計数（65歳以上の高齢者がいる全世帯対象）									
活動指標	緊急通報システム設置数	台	目標	350	350	350	350	350	設置台数は減少傾向。見守り付きの高齢者住宅や有料老人ホームの整備が進んできたことや携帯電話やスマートフォンで見守りサービス等が利用できることが要因と考えている。令和5年度からは、さらに新しい見守り事業を開始予定であるため合わせて周知を行っていく。		
		実績	277	268	258						
<指標の計算方法>		年度末設置台数									
活動指標	高齢者訪問理容サービス利用助成券給付	人	目標	20	20	20	30	30	要介護3～5の在宅生活をする高齢者を訪問して理容サービスを提供しているため、年々利用者は増加している。		
		実績	12	17	23						
<指標の計算方法>		年間利用実人数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	17,391			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	3,792	その他	一般財源	13,599
事業の実績	①生活管理指導短期宿泊利用者数 2人		実人数 23人 延べ利用回数 32回		自立支援型介護予防通所介護事業所認定6件						
	②外出支援サービス 延べ人数 144人 延べ利用回数 211回		⑧介護予防事業委託 介護予防拠点施設「蛸の里」において、生きがい活動支援等の介護予防活動を福祉協議会に委託して実施。 延べ利用者数 1,100人		⑫フレイル予防推進事業 歩行基礎力測定委託 2カ所 4回 56人 (栄養士・理学療法士の相談ブースを設置)						
	③防災力向上事業 希望者に救急情報キット配布 43個		⑨認知症高齢者等個人賠償責任保険事業 保険加入決定者数 45人								
	④緊急通報体制整備 3月末設置台数 258台 延べ利用回数 124回		⑩就労的活動支援事業 ・介護事業所等に高齢者等の雇用のニーズや介護助手・ボランティアの受入調査委託 ・介護助手等の受入協力可能事業所数 31件 ・就労やボランティアを希望の高齢者を把握するためのアンケート調査回答者数 11人								
	⑤高齢者居宅改修補助金 実績 0件		⑪自立支援型介護予防通所介護事業所報奨金								
	⑥老人日常生活用具給付 実績 5件（電磁調理器）										
	⑦高齢者訪問理髪サービス利用助成券給付										
事業の事後評価	妥当性	評価結果 改善の余地がない ・対象者の審査に関して、所得状況、身体状況、家族形態等の個人情報が必要となるため、市が事業主体となるのは妥当である。 ・認知症高齢者等個人賠償責任保険事業実施要綱に基づき、認知症の方またその家族が地域で安心して生活することができるよう環境づくりし、支援することは妥当である。 ・高齢者等に対し、就労やボランティア活動等、活躍できる場を確保する取組は妥当である。 ・積極的に自立支援に取組む市指定通所事業所を認定、公表し、事業所の適正化に取組むことは妥当である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている高齢者等への健康づくり支援と、フレイル予防対策に取組むことは妥当である。									
	有効性	評価結果 改善の余地がない ・介護保険事業での給付費、保険料の抑制を図るための事業で有効性は高い。 ・認知症の方やその家族が地域で安心して生活することができる環境を整備することは有効である。 ・高齢者等に対し、就労やボランティア活動の場を確保し、社会参加を促すことは、自身の健康維持・増進に有効である。 ・積極的に自立支援に取組む市指定通所事業所を認定、公表し、適正な評価と成果に応じたインセンティブを付与することはサービス提供体制の充実とサービスの質の向上をさせるためには有効である。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策による外出自粛等により、心身機能や運動機能の低下が見られる高齢者等に対し、健康づくりやフレイル予防等を強化するための取組を充実させることにより有効性を高めた。									
	効率性	評価結果 改善の余地がややある ・事業実施については、すべて社会福祉法人等に民間委託し効率化を図っているが、利用が極端に少ない事業については状況に則しながら見直しが必要。 ・認知症高齢者等個人賠償責任保険加入の場合は、地域支援事業で実施のほっと安心ネットワーク事業への登録を必須としていることから、早期発見、早期対応等、事故等の未然防止に繋がるため効率性は非常に高い。 ・高齢者等に対し就労やボランティア活動の機会を提供することは、介護分野においても介護助手等の人材確保にも繋がるため効率性は非常に高い。 ・事業所と保険者が一体的に自立支援重度化防止を進める事業であり、適正な介護保険運営をしていく上で効率性は非常に高い。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を受けている高齢者等に対し、継続して効率的にフレイル予防の取組の推進が出来た。									

事務事業の概要	事務事業名	高齢者生きがいづくり事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	668	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉				
		目	10	老人福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
取組方針	1	高齢者の生きがいづくりと社会参加の推進										
事業概要	市民（高齢者）に更なる健康と長寿の意欲を持ってもらえるように、長寿祝金の支給、敬老会の開催補助、高齢者団体の活動支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	長寿祝金支給			⑤					⑨		
	②	敬老会補助金			⑥					⑩		
	③	老人クラブ補助金			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	長寿祝金等支給人数	人	目標						対象者（88歳・100歳・最高齢者男女各1名）に「長寿祝金」等を郵送や訪問により贈呈し、更なる健康と長寿を目指す。		
				実績	437	439	388					
	<指標の計算方法>		年度末人数									
	成果指標	敬老会参加者数	人	目標						旧町単位や各地区で実行委員を中心とした敬老事業。新型コロナウイルス感染症の影響により開催できない地区もあったが、規制緩和に伴い大人数での集会形式による開催以外は可能となり、参加者は増加した。		
				実績	1,607	1,117	3,794					
<指標の計算方法>		敬老会行事（旧町単位開催）への参加者数										
活動指標	老人クラブ補助金対象者数	人	目標						対象者が生きがいを持ち、健康で生き生きとした活動ができるよう、対象人数に応じた補助金を交付。高齢者の生活様式の変化により会員数が減少していると考え。			
			実績	9,487	9,324	9,282						
<指標の計算方法>		老人クラブ会員数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	14,277			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,379		
事業の実績	①長寿祝金支給 対象者（88歳 354人） （100歳 32人） （最高齢 男女各1名） ・88歳（5千円相当商品券） ・100歳（3万円と記念品） ・最高齢（5万円と記念写真）			(30人以上123クラブ、30人未満38クラブ)								
	②敬老会補助金 実行委員会を中心とした敬老行実施（記念品・ギフトカードの配布）に対する補助金を交付 70歳以上対象者 16,705人 (26クラブが実施)											
	③老人クラブ補助金 老人クラブ会員が行う活動（清掃活動やペタンク・グラウンドゴルフ大会等）に対する補助金を交付 161クラブ											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・今日の日本社会の礎を築き、多年にわたり社会に貢献されてきた高齢者に対し、感謝の意を表し、敬意の心を持って、その長寿を祝うための行事を催すことは、行政として一定の妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・高齢者が清掃やスポーツ大会を通じて自ら地域福祉の増進を目的とし、活性化を図る事業であり有効である。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・敬老会補助金については、高齢化の進展により、補助対象者の範囲の縮小等、見直しの検討が必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	地域見守り支援事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1114	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉				
		目	10	老人福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
取組方針	2	高齢者の自立支援										
事業概要	市民が地域で支え合い、安全・安心に暮らせるように、地域見守り協力員による見守り活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	地域見守り活動準備事業			⑤					⑨		
	②	地域見守り活動事業			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	見守り活動（フレイルチェック）実施回数	目標	回	110	125	135	145	145	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、11月より体操拠点でのフレイルチェックによる見守り活動を再開した。		
			実績		0	0	12					
	<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点においてフレイルチェックを実施した回数									
	活動指標	地域見守り協力員数	目標	人	170	180	190	200	200	フレイルサポーター養成講座を開催し、フレイルサポーターの増員が出来た。また、広報等で事業内容を周知し、フレイルサポーター以外の新たな協力員の増員も出来た。		
			実績		93	81	116					
	<指標の計算方法>		フレイルサポーター数、募集による協力員登録者数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	543			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①地域見守り活動準備事業 ・地域見守り協力員数 116人（内フレイルサポーター数 82人） ②地域見守り活動事業 ・地域見守り活動委託料 ・見守り活動実施回数 12回 ・地域見守り協力員報償金 （活動自粛中においては、フレイルサポーター一連絡会で、見守り体制等について協議し、各サポーターが地域で見守りや声かけを行った。フレイルチェック再開後は地域の体操拠点にて見守り活動を行った。また、フレイルサポーター以外の協力員には、日常生活の中で地域の見守りをしていただき、気付いた点を報告してもらう等、連携を取った。）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・県地域見守り協力員制度実施要綱により、市町村実施に関する役割が定められている。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・フレイルサポーター養成講座を開催し、フレイルサポーターの協力員増員をすることが出来た。また、広報等で事業内容等広く周知し、フレイルサポーター以外の新たな協力員を増員させ、有効性を高めた。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県補助金を活用した事業であり効率性は非常に高い。											

事務事業の概要	事務事業名	災害時要援護者対策事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	672	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	10 老人福祉費				基本施策	2 高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
事業概要	要援護者が円滑に避難できるように、対象者の把握と受入施設の確保を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	災害時要援護者把握			⑤			⑨				
	②	災害時要援護者受入対策			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	災害時要援護者登録者数	人	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	本来は災害時要援護者名簿に登録され、関係機関及び団体等に情報提供されるべき潜在的な要援護者が多いと思われる。		
			実績	1,100	1,054	1,034						
	<指標の計算方法>		年度末登録者数									
	活動指標	登録者名簿提供に関する説明回数	回	目標	10	10	10	10	10	民生委員児童委員の改選年のため、旧町エリアごとに各定例会で事業説明及び依頼を実施した。		
			実績	2	1	5						
<指標の計算方法>		区長会、民生委員定例会開催時説明回数										
活動指標	協定施設数	施設	目標						協定先は福祉施設等であり、新規に増設される場合を除き資源数は限られる。			
		実績		1								
<指標の計算方法>		年度内協定締結数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,187			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,187		
事業の実績	<p>①災害時要援護者把握 災害時要援護者避難支援システム保守 4回/年(6月・9月・12月・3月)更新 対象者の異動情報等により、名簿や自宅位置の地図の更新作業を実施。</p> <p>災害時要援護者避難支援システム 新ブラウザ対応業務委託 使用期限を迎えたインターネットエクスプローラーから新ブラウザであるEdgeに対応するようシステム改変を実施。</p>											
	<p>②災害時要援護者受入対策 令和4年度末協定施設数 22施設 受入可能人数 長期 28人、短期 104人 (令和4年度末調査のため数値は前年度踏襲し県等へ報告)</p>											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市の地域防災計画に基づく事業であるため、市が実施主体となるのが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・平常時から地域において、要援護者の避難行動を事前に地域内や関係機関と情報共有することにより、災害時には、迅速な対応に繋げることが出来るため有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	<p>・システムの整備により、要援護者の把握は出来ているが、個別計画については時間を要するため、整備を進めるのは容易でないが、危険度の高い浸水地域や、土砂災害地域に居住する対象者から優先的に進めていく必要がある。</p> <p>・本来は災害時要援護者名簿に登録されるべき要介護度3以上等の住民であっても、本人及び家族の同意がない場合は、名簿に登録されないため、潜在的な要援護者が多く存在すると思われる。</p>											

事務事業の概要	事務事業名	高齢者福祉施設管理運営事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	35	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉				
		目	10	老人福祉費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
取組方針	2	高齢者の自立支援										
事業概要	市民が高齢者福祉施設を安全で快適に利用できるように、適正な維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	介護予防施設管理（蛭の里）			⑤					⑨		
	②	老人憩の家施設管理			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	介護予防拠点施設利用者数	人	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	施設利用に不都合が生じないように随時維持管理を行なっている。新型コロナウイルス感染症による制限が段階的に解除されてきたことに伴い開催される事業が増え、その結果、利用者の増加に繋がった。		
				実績	903	660	1,100					
	<指標の計算方法>		年間延べ利用者数									
	成果指標	老人憩の家利用者数	人	目標	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	令和3年度は新型コロナウイルス感染症対策による閉鎖期間が長かった影響もあり、利用者はほぼ固定化されてしまった。施設開放後も新規利用者も含め増加に繋がらなかった。		
				実績	551	381	259					
	<指標の計算方法>		年間延べ利用者数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,166			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,166		
事業の実績	①介護予防施設管理（蛭の里） ・電気設備点検 ・施設劣化調査 ・各種施設管理委託 ・警備機器交換修繕 ・延べ利用者数 1,100人 ②老人憩の家施設管理 ・延べ利用者数 259人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域福祉を目的とした事業を実施する施設であるため、施設の維持管理等市が実施主体となるのは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・高齢者の生きがいがづくりの場として、地域に密着した事業を実施していくために必要な施設である。 ・施設の適正な維持管理を行うことにより、地域住民が安心して集まることが出来る場所を確保できるため有効である。 ・老人憩の家については、新型コロナウイルス感染症対策のため閉鎖した影響もあり、利用者数が目標値を大きく下回る結果となったが、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行したことから、今後、利用者数は徐々に回復すると見込まれ、施設を維持管理していくことは有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・現状では事業を拡大する予定はなく、必要に応じた維持管理等を実施しているため効率は良い。											

事務事業の概要	事務事業名	社会福祉法人利用者負担助成事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1077		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉					
		目	11	介護保険費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進					
取組方針	2	高齢者の自立支援											
事業概要	市民（低所得の高齢者）が安心して介護サービスを利用できるように、社会福祉法人が行う介護サービスの利用者負担の軽減に対する支援を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	社会福祉法人利用者負担助成事業補助金			⑤					⑨			
	②				⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	利用法人数	法人	目標	4	5	5	5	5	助成事業利用法人数は令和3年度と比較すると減少した。法人として利用者負担の軽減を実施しているが、事業の助成要件を満たさず対象とならなかった法人が増加したことが要因と思われる。当事業の財源として国費及び県費を活用しており、市独自で助成要件を変更できない。			
				実績	1	3	1						
	<指標の計算方法>		社会福祉法人利用者負担助成事業補助金の交付法人数										
	活動指標	社会福祉法人等利用者負担軽減対象確認証発行数	件	目標								申請を行った低所得で生計困難である利用者に対し、市で要件に該当するか確認し、該当した場合確認証を交付する。近年交付状況に大きな変化は見られない。	
				実績	13	19	18						
	<指標の計算方法>		年度末発行数										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	154			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	94			
事業の実績	①社会福祉法人利用者負担助成事業補助金												
	<ul style="list-style-type: none"> ・交付法人及び対象者数 社会福祉法人健正福祉会 1名 ・補助金交付 社会福祉法人健正福祉会 												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・低所得で生計困難な利用者に対し、介護サービスを提供する社会福祉法人がその社会的役割として利用者負担の軽減を図ることにより、利用者の介護サービスの利用促進が図られている。その際の財政的な負担を軽減するための市で助成する事業であり、妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・低所得で生計困難な利用者にとって、利用する社会福祉法人がその負担を軽減することで必要なサービスを経済的な制限なく利用することができている。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	<ul style="list-style-type: none"> ・軽減を受ける利用者は、社会福祉法人から利用者負担額（自己負担額）を請求される際に軽減を受けることができるため利用者の手間の負担はない。また、社会福祉法人からの助成申請等についても年度分をまとめて実施する方法で事業者（社会福祉法人）と市の事務効率化を図っている。 ・国費及び県費補助を活用し事業を実施しており、市の財政的負担を軽減している。 												

事務事業の概要	事務事業名	介護保険施設等整備補助事業			担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度のみ		事業番号	1100		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1	社会福祉費		施策目標	3	福祉					
		目	11	介護保険費		基本施策	2	高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進					
事業概要	介護保険施設の整備等を行う介護サービス事業所等に対し、その費用の一部を補助する事業												
事務事業を構成する細事業	①	新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業			⑤					⑨			
	②				⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	2方向から出入りできる家族面会室の整備件数	件	目標				1			県費補助金を活用し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止しつつ、介護施設等における家族面会を実現し、「ウィズコロナ」下での社会活動再開を支援した。		
				実績				1					
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)		財源内訳										
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	3,500			3,500									
	事業の実績	①新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援事業											
		・2方向から出入りできる家族面会室の整備1件											
		社会福祉法人渉久会 サービス付き高齢者向け住宅自然の郷											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・地域の実情に応じた介護サービス提供体制の整備の促進を図るため、介護施設等における新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援を行う事業であり、妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・介護施設等における新型コロナウイルス感染拡大防止対策支援を行うことで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止しつつ、介護施設等における家族面会を実現し、事業者及び市民（利用者及び家族）に対し「ウィズコロナ」下での社会活動再開の支援ができています。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・全額県費補助金を活用し事業を実施しており、市の財政負担はないので効率性は高い。												

事務事業の概要	事務事業名	人権推進事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	684	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営				
		項	1	社会福祉費		施策目標	1	人権尊重				
		目	12	人権推進費		基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現				
事業概要	差別のない明るいまちづくりを目指すために、関係団体、関係機関と連携、協力を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	人権施策推進懇話会運営			⑤	人権委員会補助金			⑨			
	②	人権委員会運営			⑥				⑩			
	③	人権推進活動			⑦				⑪			
	④	和歌山人権研究所負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	人権委員会理事会・代議員会の開催回数	目標	4	4	4	4	4	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、会議を開催して必要な案件について協議した。			
			実績	3	3	4						
	<指標の計算方法>		年間開催回数									
	成果指標	人権推進活動における参加者数	目標			150	500	750	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮したため、目標値に及ばなかった。			
			実績	145	89	124						
	<指標の計算方法>		年間参加者数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	5,017			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,456		
事業の実績	①人権施策推進懇話会運営 ・4月下旬 懇話会(書面開催)：人権施策基本方針に基づいた施策の取組状況について各課からのヒアリング結果報告と、フィードバック。 ・9/30 新規採用職員 ・2/21 人権委員会(桃山・貴志川合同) ・2/22 人権委員会(打田)											
	②人権委員会運営 ・郵送による市内企業啓発を実施。140社 ・懸垂幕およびのぼりの設置 ・同和運動推進月間(11/1~11/30) ・人権を考える強調月間(11/11~12/10)											
	③人権推進活動 人権教育指導員、インターネットモニタリング専門員、井阪文化会館長による人権研修を実施 ・5/16 庁内人権推進検討委員会 ・6/10 農業委員会 ・7/28 人権委員会理事会 ・8/15 庁内人権推進検討委員会											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・人権意識の高揚を図るための施策、その他人権尊重のまちづくりに関する施策を積極的に推進する必要があるため、関係団体、関係機関と連携・協力し、事業を行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・人権課題が多様化、複雑化しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため啓発する機会が自粛となってしまった。人権委員会内でも啓発にあたり、より専門的な知識が必要であるとの要望があり、新たに作製した啓発チラシ「こどもの人権」を積極的に使用して、啓発、研修の充実を図りたい。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・教育委員会や各種人権団体と連携し、人権施策の推進に取り組んでいる。											

事務事業の概要	事務事業名	人権啓発活動事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	527	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	5 地域づくり・行政経営				
		項	1 社会福祉費				施策目標	1 人権尊重				
目	12 人権推進費			基本施策	1 人権が尊重された差別のない社会の実現							
事業概要	市民の人権意識の高揚を図るために、啓発活動や学習機会の提供を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	人権啓発活動			⑤	人権教育啓発推進センター負担金		⑨				
	②	人権講演会・映画会			⑥	インターネット上での人権侵害のモニタリング		⑩				
	③	人権講座			⑦			⑪				
	④	県人権啓発センター負担金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	人権擁護委員の日並びに人権週間時の啓発箇所	箇所	目標	18	18	18	16	16	6/1と12/6の特設人権相談終了後、市内8ヶ所において啓発活動を実施した。(打田2、粉河2、那賀2、桃山1、貴志川1) ×2回		
				実績	0	8	16					
	<指標の計算方法>		人権擁護委員による啓発活動の実施回数									
	活動指標	人権を考える強調月間及び同和運動推進月間時の啓発箇所	箇所	目標	10	10	10	10	10	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、委員間で協議の上、啓発活動はのぼりの設置のみとした。(打田4、粉河1、那賀1、桃山1、貴志川3)		
				実績	0	0	10					
	<指標の計算方法>		人権委員による啓発活動の実施									
	成果指標	人権講演会参加延べ人数	人	目標	400	400	400	400	400	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、委員間で協議の上、講演会開催を自粛し、代替に市内小学生対象配布チラシ「こどもの人権」を作製した。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		人権講演会参加者数									
成果指標	市内イベント啓発活動延べ動員人数	人	目標	150	150	150	150	150	人権委員会で協議の上、3/3紀の川流し難から啓発活動を再開した。			
			実績	0	0	15						
<指標の計算方法>		イベント時の人権委員啓発活動数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	4,008			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,733		
事業の実績	①人権啓発活動 ・市内イベントでの啓発活動は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により自粛が続いたが、3/3紀の川流し難で啓発活動を再開して15人参加した。 ・市内小学生対象配布チラシ「こどもの人権」低学年用1,850部 高学年用1,850部作製。 ・のぼりの設置 ②人権講演会・映画会 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点により中止 ③人権講座 ・5/27「沖縄差別問題と私たちの課題-復帰50年にあたって-」 講師：下地 毅氏 (朝日新聞社記者) 参加者：51人											
	・11/18「多文化共生社会と人権-和歌山県内の在住外国人の現状と課題」 講師：城山 雅宏氏 (和歌山大学観光学部非常勤講師) 参加者：43人 ④県人権啓発センター負担金 負担金 78,000円 ⑤人権教育啓発推進センター負担金 負担金 40,000円 ⑥インターネット上での人権侵害のモニタリング 削除依頼件数：4件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・紀の川市人権尊重のまちづくり条例に定めている通り、人権意識の高揚を図るための施策その他人権尊重のまちづくりに関する施策を積極的に推進する必要があるため、市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・インターネットにおける悪質な書き込み等の早期発見、拡散防止について務め、インターネット上の人権侵害を撤廃するための啓発を実施している。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・県の助成制度を活用して啓発物資の購入を行っており、啓発活動等については人権委員会と協力して実施している。 ・教育委員会や関係団体と連携し、効率的な事業を実施していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	人権擁護事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1069	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 社会福祉費				施策目標	1	人権尊重			
		目	12 人権推進費				基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現			
事業概要	市民を人権侵害から守るために、関係団体、関係機関の活動支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	人権相談			⑤	更生保護女性会補助金		⑨				
	②	県人権擁護委員協議会負担金			⑥	人権擁護委員会補助金		⑩				
	③	県更生保護協会負担金			⑦			⑪				
	④	保護司会補助金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	人権相談開設日数	日	目標	22	22	22	22	22	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、開設日数を確保した。市内5箇所に相談会場を開設。6月、12月は一斉相談を実施。		
			実績	14	12	22						
	<指標の計算方法>		人権擁護委員による人権相談日数									
	成果指標	人権相談件数	件	目標						相談内容は、家族（親子）関係の相談1件、その他の相談2件。		
			実績	7	5	3						
	<指標の計算方法>		人権擁護委員による相談件数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,176			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①人権相談 人権擁護委員による人権相談の実施 相談件数 3件											
	②県人権擁護委員協議会負担金 負担金 357,000円											
	③県更生保護協会負担金 負担金 10,800円											
	④保護司会補助金 補助金 452,000円											
	⑤更生保護女性会補助金 補助金 251,000円											
	⑥人権擁護委員会補助金 補助金 105,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・人権に関する相談支援体制の整備は市が推進する人権施策の基本方針であるため、市が積極的に関与していくことが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・人権侵害のない安心して生活できる社会を目指すため、人権相談を開催し、関係団体と協力・連携しながら事業を進めている。										
	効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・複雑・多様化する人権問題の解決に取り組むため、また地域の実情に見合った事業を展開するため、関係団体の支援を行うことで、協力・連携を図っている。										

事務事業の概要	事務事業名	男女共同参画推進事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	474		
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	5 地域づくり・行政経営					
		項	1 社会福祉費				施策目標	1 人権尊重					
目		12 人権推進費			基本施策		1 人権が尊重された差別のない社会の実現						
事業概要	市民の男女共同参画意識の醸成を図るために、啓発活動や研修会の開催を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	女性会議運営			⑤			⑨					
	②	女性会議補助金			⑥			⑩					
	③	男女共同参画推進プラン策定中間見直し			⑦			⑪					
	④				⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	市の行政機関等における委員会等の女性登用率	%	目標	35	35	35	35	35	地方自治法第180条の5に基づく委員会等のうち女性委員数が減少した。			
				実績	14.3	14.3	8.8						
	<指標の計算方法>		市で設置している審議会・委員会委員の総数に対する女性の割合										
	成果指標	研修会等の参加者数	人	目標	50	50	50	50	50			新型コロナウイルス感染症対策のため制限があるなかで紀の川市女性会議研修を開催し、各団体の交流と男女共同参画推進への意識向上につながった。	
				実績	0	0	17						
	<指標の計算方法>		紀の川市女性会議が開催する研修会に参加した人数（延べ人数）										
	活動指標	啓発活動	回	目標	2	2	2	2	2	令和3年度同様、6月の男女共同参画週間は市役所内で、11月の女性に対する暴力をなくす運動期間には、県と合同で店頭啓発を実施した。			
				実績	2	2	2						
	<指標の計算方法>		県と合同で実施する啓発活動の回数										
活動指標	研修会の開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	紀の川市女性会議研修を開催し、各団体の交流と男女共同参画推進への意識向上につながった。				
			実績	0	0	1							
<指標の計算方法>		紀の川市女性会議が開催した回数											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	1,351			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,351			
事業の実績	①女性会議運営 ・1/12女性会議講義型および実践型研修実施（17人参加） ・啓発活動6月男女共同参画週間に市役所内で、11月女性に対する暴力をなくす運動期間に市内店頭啓発を県と合同で実施。 ・第3回策定懇話会 令和5年2月15日（書面決議） ・パブリックコメント 募集期間：令和5年1月4日～1月20日 意見0件												
	②女性会議補助金 ・補助金 61,405円												
	③男女共同参画推進プラン策定中間見直し 令和4年度に第2次紀の川市男女共同参画推進プランの計画期間中間時点を迎え、各課の女性活躍のための指標の現状値を見直すために、令和4年11月に策定懇話会を発足し、計3回の協議の上、内容をとりまとめた。 ・第1回策定懇話会 令和4年11月11日 ・第2回策定懇話会 令和4年12月9日												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある										
		・男女共同参画社会に対する理解の浸透につながる啓発等を積極的に実施する必要がある。しかし、男女共同参画社会の実現には、市民や女性団体が主体的に活動を実施していくことが妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・今後も創意工夫しながら市民への理解や意識改革へ浸透させるように働きかけていく必要がある。 ・男女共同参画のまちの実現に向け、広報紙・ホームページなどを活用し、広く情報提供し、啓発活動を推進していく。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・関連する所管課との情報の共有及び連携の強化を図り、効率的に取り組んでいく。												

事務事業の概要	事務事業名	隣保館運営事業			担当課	人権施策推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	685	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	1 社会福祉費				施策目標	1	人権尊重			
		目	12 人権推進費				基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現			
事業概要	市民の生活や文化の向上につなげるために、各種教室の開催や相談業務等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	隣保館運営			⑤	県隣保館連絡協議会負担金			⑨			
	②	隣保館施設管理			⑥				⑩			
	③	地域交流業務			⑦				⑪			
	④	県社会福祉協議会負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	受講者数	人	目標	2,040	2,040	2,040	2,040	2,040	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減少していた受講者数も戻りつつある。		
			実績	1,312	1,221	1,478						
		<指標の計算方法> 古和田会館・井阪文化会館における各教室の受講者数(延べ人数)										
	活動指標	各教室開催数	回	目標	180	180	180	180	180	新型コロナウイルス感染症対策を心がけ、講座開催事業を行っており、年間を通してほとんど休むことなく開催できた。		
		実績	144	140	174							
	<指標の計算方法> 古和田会館・井阪文化会館における各教室の開催数											
成果指標	健康増進機器利用者数	人	目標	7,700	7,700	7,700	7,700	7,700	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減少していた利用者数も戻りつつある。			
		実績	5,472	4,975	6,303							
	<指標の計算方法> 古和田会館・井阪文化会館における健康増進機器の利用者数(延べ人数)											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	11,701			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	115 1,744		
事業の実績	①隣保館運営 ・各種相談事業 職業相談の実績 古和田会館 12回 2件 井阪文化会館 12回 0件 ・「会館だより」の発行(年4回) 6月 186部 9月 186部 12月 186部 3月 187部			ストレッチ：24回 155人 男性料理：9回 79人 女性料理：11回 112人 健康教室：12回 195人 英会話教室：13回 118人 歩き方教室：11回 141人 ※井阪文化会館 編み物：12回 81人 料理：11回 63人 手芸：12回 70人 子ども硬筆：24回 186人			換					
	②隣保館施設管理 ・古和田会館施設管理委託 11件 ・井阪文化会館施設管理委託 8件			・健康増進機器の利用者数 ※古和田会館 4,081人 ※井阪文化会館 2,222人								
事業の事後評価	③地域交流業務 ・各種教室を開催 ※古和田会館 書道：11回 84人 太極拳：24回 194人			④県社会福祉協議会負担金 ・他の行政機関との連携を図る								
	⑤県隣保館連絡協議会負担金 ・隣保館事業についての調査研究及び情報交											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・隣保館は部落差別をはじめとするあらゆる人権問題の解決に向けて、人権啓発の推進、周辺地域との交流や相談事業、各種事業を展開していくことが目的であるため、市が運営していくことが望ましい。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、減少していた会館利用者数も、感染症対策を徹底しながら運営できたことで、新型コロナウイルス感染症の影響以前の状況に戻りつつある。 ・来館者数を増やし、啓発活動を行うため、幅広い年代層に対応した新たな事業に取り組む必要がある。									
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・隣保館の事業については、補助金を活用することで効果的に実施した。 ・住民のニーズが多様化する中、効果的かつ効率的な運営に心がけ、コストの削減を図りながら新たな事業を展開していく必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R4)		事業番号	1226
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉			
		目	13 住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業				基本施策	4 生活に困窮している方への支援			
事業概要	新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中、様々な困難に直面した方々に速やかに生活・暮らしの支援を受けられるよう住民税非課税世帯等に対して、1世帯当たり10万円の現金を給付する事業。										
事務事業を構成する細事業	①	住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業			⑤			⑨			
	②				⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	住民税非課税世帯対象給付件数	目標						住民税非課税世帯に給付した。		
			実績		5,174	1,948					
	<指標の計算方法>		住民税非課税世帯支給対象世帯数								
	成果指標	家計急変世帯対象給付件数	目標						家計急変世帯に給付した。		
			実績		11	30					
	<指標の計算方法>		家計急変支給対象世帯数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
		212,258	210,337					1	1,920		
事業の実績	①住民税非課税世帯等臨時特別給付金給付事業										
	<ul style="list-style-type: none"> 住民税非課税世帯給付件数 1,948件 家計急変世帯給付件数 30件 										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・国が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた住民非課税世帯等に給付することは経済的負担を軽減する。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・支給額、事務費については、全額が国からの補助でありコスト面の改善の余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名	電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業			担当課	社会福祉課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	単年度のみ			事業番号	1228
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 社会福祉費				施策目標	3 福祉				
		目	14 電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付				基本施策	4 生活に困窮している方への支援				
事業概要	電力・ガス・食料品の価格高騰による負担増を踏まえ、特に家計への影響が大きい低所得世帯（住民税非課税世帯等）に対して、給付金を支給する事業。											
事務事業を構成する細事業	①	電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金事業			⑤						⑨	
	②				⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	住民税非課税世帯	世帯	目標							住民税非課税世帯に給付した。	
			実績				6,475					
	<指標の計算方法>		住民税非課税世帯支給対象世帯数									
	成果指標	家計急変世帯	世帯	目標							家計急変世帯に給付した。	
			実績				34					
	<指標の計算方法>		家計急変支給対象世帯数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	341,883			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金事業 ・住民税非課税世帯給付件数 6,475件 ・家計急変世帯給付件数 34件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・電力・ガス・食料品の価格高騰の影響を受けた住民税非課税世帯等に給付することは経済的負担を軽減する。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・支給額、事務費については、全額が国からの補助でありコスト面の改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	児童相談・虐待防止事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	708	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
目				取組方針	2 地域の連携による子育て支援体制の充実							
事業概要	児童への虐待を防止するために、家庭児童相談・支援、防止啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	児童相談			⑤			⑨				
	②	児童虐待防止対策			⑥			⑩				
	③	子育て支援プログラム			⑦			⑪				
	④	要保護児童支援ネットワーク事業			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	要保護児童支援ネットワーク会議	回数	目標	7	7	7	11	11	目標値通りに代表者会議が年1回、実務者会議が年6回の開催となっているが、虐待の通告件数が増加しているため、実務者会議の開催回数の検討が必要である。		
			実績	7	7	7						
	<指標の計算方法>		会議の開催回数									
	活動指標	児童虐待防止・子育て支援講演会	回数	目標	1	1	1	1	1	新型コロナウイルス感染症の流行のため対面での講演会の開催が困難であったが、出前講座の申し込みがあり虐待防止の講義を行うことができた。		
			実績	2	1	1						
	<指標の計算方法>		講演会の開催回数									
	成果指標	子育て支援プログラム(トリプルP)受講者	人	目標	13	13	6	6	6	新型コロナウイルス感染症の流行のため実施できなかった。		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		受講人数									
成果指標	児童虐待新規受理人数	人	目標	0	0	0	0	0	全国同様当市も児童虐待の新規受理人数が増加している。内容的には身体虐待の割合が令和3年度の19.3%から35.1%へと増加し、性的虐待が令和3年度に引き続き2年連続での発生となっている。			
		実績	122	140	168							
<指標の計算方法>		年度内新規受理人数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			12,242	4,079	515					7,648		
事業の実績	①児童相談 保健師2名(内1名は管理職)、家庭児童相談員2名(週5日勤務)、事務職1名。			適正相談 0人 発達相談 0人 その他 1人								
	新規受理人数は増加しており、令和3年度の受理人数を上回った。特に児童虐待に関する受理人数が令和3年度の140人から168人に増加し2割増となった。 ・新規相談受理人数 (種別) (人数) 身体的虐待 59人 心理的虐待 70人 性的虐待 1人 ネグレクト 38人 養護相談 57人 保健相談 0人 障害相談 0人 非行相談 2人 育成相談 4人 不登校相談 0人			②児童虐待防止対策 児童虐待防止推進月間に、虐待予防の啓発チラシを紀の川市内の全保育所・認定こども園・幼稚園児の保護者宛1,508名分を配布。小中学校の児童・生徒の保護者宛4,180名分を配布した。								
				③子育て支援プログラム トリプルP(前向き子育てプログラム)は新型コロナウイルス感染症の流行のため実施できなかった。								
				④要保護児童支援ネットワーク事業 代表者会議を年間1回開催した。 実務者会議を年間6回開催し、1回あたり18ケースから34ケースの協議を行った。								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童虐待防止法に規定された事業であり妥当性はある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・虐待予防に関する啓発(広報紙への掲載、保育園児や小中学生の家庭へのチラシ配布など)を行うことで発見数は増えたが、虐待予防に繋がっているかは検証できていない。 ・虐待防止のため、トリプルP(前向き子育てプログラム)の実施を計画していたが、新型コロナ感染症の流行のため実施できず、有効性の評価はできていない。 ・CAP(子どもへの暴力防止プログラム)を紀の川市内の小学4年生と5年生を対象に4校8学級で実施した。命の大切さや子どもの人権、困ったことが起こった時に周りの大人にSOSを出すことの大切さを、子どもにとってわかりやすい方法で伝えることができた。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
・職員の専門性の向上を図ることで、より効率的な虐待対応が行なえると考えるが、相談受理人数の増加に伴い業務量が増加し、職員に時間的な余裕がないため研修会への参加や自己学習の時間を持つことができず、専門性の向上を図ることが十分にできていない。 ・紀の川市要保護児童支援ネットワーク会議の運営方法を改善することで、関係機関との情報共有や対応についての協議をよりスムーズに行うことができると考える。												

事務事業の概要	事務事業名	子育て支援事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	704	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	安心して子育てができる環境整備を図るため、子育て支援センターやファミリーサポートセンターを拠点に、地域の団体や市民と協働で、相談や教室、子どもの送迎や預かり等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	地域子育て支援センター運営			⑤	ファミリーサポートセンター運営		⑨				
	②	地域子育て支援センター事業補助金			⑥	助産扶助		⑩				
	③	子育てサークル支援補助金			⑦	子ども・子育て会議運営		⑪				
	④	子育て短期支援			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	ファミリーサポートセンター登録会員数	人	目標	400	420	430	430	430	スタッフ養成講座や各種講座をオンラインでも開催し、新型コロナウイルス感染症の影響下においても会員数は年々増加している。		
			実績	425	432	463						
	<指標の計算方法>		利用会員＋スタッフ会員＋両方会員									
	成果指標	子育て支援センター年間利用延べ人数	人	目標	10,700	10,700	10,700	10,700	10,700	令和4年度も新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、利用時間、組数を制限した運営を行っており、利用延べ人数は減少したままとなっている。		
実績			3,858	4,270	4,620							
<指標の計算方法>		子育て支援センター（3箇所）の年間延べ利用人数										
成果指標	ファミリーサポートセンター利用件数	件	目標	560	560	570	650	650	新型コロナウイルス感染症の影響で減少していたが徐々に回復している。			
		実績	608	627	650							
<指標の計算方法>		ファミリーサポートセンターのサービス利用件数										
成果指標	子育て短期支援事業利用日数	日	目標	28	28	28	28	28	令和4年度は生活困窮の母子世帯の緊急一時保護を行ったため、例年に比べ実績値が大幅に増加した。			
		実績	36	22	70							
<指標の計算方法>		子育て短期支援事業（ショート・ステイ）の利用日数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			42,459	10,977	10,977			7,564	12,941			
事業の実績	①地域子育て支援センター運営 子育て支援センター年間延利用者数 ・桃山子育て支援センター 延べ 1,333人 (588組) ・那賀子育て支援センター 延べ 1,124人 (480組) ・レイモンド子育て支援センター 延べ 2,163人 (1,058組) ・子育て教室 43回 236組 ・赤ちゃん広場 55回 242組 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止を図る事業：各子育てセンターに交付金を支給			④子育て短期支援 延利用日数 70日			⑤ファミリーサポートセンター運営 (会員状況) <R5,3月現在> 利用会員 372人 スタッフ会員 74人 両方会員 17人 (活動状況) ・病児・病児後の預かり 1人 ・宿泊を伴う預かり 0人 ・緊急度の高い預かり 1人 ・緊急度の高い送迎 0人 ・保育施設の保育開始時や終了後の子どもの預かり 144人 ・保育施設までの送迎 229人 ・放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり 0人			・保育施設の休日の預かり 18人 ・未就園児の預かり 56人 ・習い事の送迎 196人 ・その他 5人 (活動件数) 650件 ・新型コロナウイルスの感染拡大防止を図る事業：交付金を支給		
	②地域子育て支援センター事業補助金 ながやまこども園子育て支援センターへの運営補助金						⑥助産扶助 経済的に困窮し、健康保険等に加入していない妊婦に対し、出産にかかる費用を公費負担する制度であるが、対象者なし			⑦子ども・子育て会議運営 第1回 12月19日開催		
	③子育てサークル支援補助金 1サークルに補助											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域における子育て支援施策を充実させ、必要なときに安心して利用できる子育て環境や支援活動を充実させるには、市が実施主体となるのは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・地域における子育て支援活動が広がってきており、子育ての悩みや負担感の軽減に繋がっているため有効性は高い。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・子育て支援センター事業やファミリーサポートセンター事業は市で運営を行うより、事業開始当初から継続して運営を委託している法人へ事業委託するほうが効率的に実施できる。											

事務事業の概要	事務事業名	在宅育児支援事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1098	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	子育て世帯の経済的負担を軽減し、子どもを安心して生み、育てることができるよう、第二子以降の0歳児の保育を家庭で行う保護者に対し、給付金を支給する事業											
事務事業を構成する細事業	①	在宅育児支援事業給付			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	給付金支給者	人	目標	130	130	130	100	100	増減はあるものの在宅で育児をする世帯が常にあるため、一定数の支給対象者がある。		
				実績	123	102	99					
	<指標の計算方法>		受給対象者の申請者数									
	成果指標	給付金実績額	円	目標	9,165,000	9,360,000	9,360,000	7,650,000	7,650,000	在宅で育児する世帯が一定数あるため、一定額の給付がある。		
				実績	9,360,000	8,670,000	7,650,000					
	<指標の計算方法>		受給対象者の給付決定合計額（目標額：予算額×60%）									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	8,082			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①在宅育児支援事業給付 受給対象者から在宅育児支援事業給付の申請受付及び給付											
	受給者数	新規	60人									
		継続	39人									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・県が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・在宅で子育てをする世帯に給付金を支給することは、子育て世帯の経済的負担を軽減するため有効性が高い。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県からの委託事業であるため、和歌山県在宅育児支援事業給付金業務委託仕様書に基づき対象者に支給する。											

事務事業の概要	事務事業名	放課後児童健全育成事業			担当課	保育課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	740	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	昼間保護者のいない家庭の小学生の健全な育成を図るため、遊びを主とする活動を行う地域組織として児童クラブ（学童保育）を設置し、運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	放課後児童健全育成事業運営			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	学童保育クラブ数	クラブ	目標	10	10	10	10	10	粉河・那賀地区に1クラブずつ、打田・桃山・貴志川地区は学校単位に1クラブずつ、合計10クラブ。令和3年度から変更なし。		
			実績	10	10	10						
	<指標の計算方法>		放課後児童健全育成事業の実施箇所数（学童クラブ数）									
	活動指標	年間開設日数	日	目標	280	280	280	280	280	日・祝・盆正月休み以外に開所。新型コロナウイルス感染症対策等で閉所になった期間もあるが、通年開所している。		
			実績	279	284	284						
	<指標の計算方法>		合計年間開設日数/10クラブ									
	成果指標	学童保育クラブ入所児童数	人	目標	565	590	590	590	590	低学年の入所希望者は多いが、学年が大きくなると、入所希望者が減ってきている。		
			実績	592	593	480						
	<指標の計算方法>		目標値：入所受付時の定員、実績値：3月現在の月極日割合計児童数									
成果指標	障害児受入人数	人	目標	5	5	5	5	5	毎年、障害児の利用申し込みがある。療育手帳等の認定はされないが、診断書等で支援の必要な児童が増加している。			
		実績	5	9	12							
<指標の計算方法>		障害児受入人数：3月実績数										

コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)		財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他
	178,093	53,158	49,252	5,000		39,487	31,196

事業の実績	①放課後児童健全育成事業運営	
	・児童クラブの年間開設日、月平均児童数	
	のひら	289日、80人
	太陽の子	290日、86人
	粉河アットホームクラブ	
	チャレンジ児童クラブ	290日、66人
	あらかわ放課後児童クラブ	290日、68人
	ももやま放課後児童クラブ	289日、47人
	こどもくらぶ	288日、21人
	ほたるっこ	290日、50人
	西貴志こどもくらぶ	281日、25人
	丸栖っ子クラブ	288日、45人
	丸栖っ子クラブ	240日、22人
	・新型コロナウイルス感染症対策事業：感染対策用品を購入、感染症対策のための改修費用を補助する交付金	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・ひとり親家庭の増加や保護者の就労形態の多様化により、年々学童保育のニーズが高まっており、児童の放課後の居場所づくりの観点からも事業は妥当である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がややある
	・支援員研修を受講した指導員により、近年の傾向や専門知識を習得して保育に携わり、日頃の保育に活かされている。		
	・指導員の高齢化が進んでいるため、今後、指導員確保に向けた対策が必要である。		
	・放課後の遊びや生活を支援することで、子どもの健全育成にも繋がり有効である。		
効率性	評価結果	改善の余地が大きい	
	・法人委託することにより、指導員や保護者への運營業務による負担を軽減できる余地は充分にあると考えられる。		

事務事業の概要	事務事業名	ひとり親家庭支援事業			担当課	子ども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	739	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
取組方針	4 子育て世帯への経済的負担の軽減											
事業概要	市民（ひとり親世帯）が自立した生活を営めるように、就業支援や経済的援助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	母子生活支援施設措置			⑤			⑨				
	②	母子寡婦福祉連合会補助金			⑥			⑩				
	③	母子家庭自立支援給付			⑦			⑪				
	④	養育費確保支援給付			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	母子生活支援施設入所世帯数	目標	3	3	3	6	6	入所後2年以内での退所に向け、施設において社会的自立を目指しての指導及び支援を行っているため世帯数の変動は少ない。			
			実績	2	3	4						
	<指標の計算方法>		母子生活支援施設へ入所措置している世帯数（各年度末）									
	成果指標	母子寡婦福祉連合会 会員数	目標	250	250	250	250	250	会員数は年々減少しているが、ひとり親家庭の会員同士の親睦や情報交換等を図り、安定した生活のため自立を目的とした推進活動を行い会員増加に努めている。			
			実績	236	211	206						
<指標の計算方法>		年度末会員数										
成果指標	ひとり親家庭自立支援給付金 受給者数	目標	6	6	6	6	6	安定した職業への就業を目指し、給付対象講座の受講を希望するひとり親に対しホームページや窓口での説明等で周知に努めており、年々増加している。				
		実績	6	9	10							
<指標の計算方法>		高等職業訓練促進給付金・自立支援教育訓練給付金										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	22,489			国庫支出金	15,686	県支出金	3,505	地方債	繰入金	その他	38	一般財源
事業の実績	①母子生活支援施設措置											
	・令和3年度末在籍者数 3世帯 7人											
	・令和4年度入所者数 2世帯 6人											
	・令和4年度退所者数 1世帯 2人											
・令和4年度末在籍者数 4世帯 11人												
②母子寡婦福祉連合会補助金 交付実績額 101,000円												
③母子家庭自立支援給付												
・高等職業訓練促進給付金 9件 (支給月数 延べ 95ヶ月)												
・自立支援教育訓練給付金 1件												
・ひとり親家庭高等学校卒業程度認定試験合格支援事業 0件												
④養育費確保支援給付												
・公正証書等作成費用 3人												
・養育費保証契約締結費用 0人												
・養育費強制執行費用 0人												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・近年のひとり親家庭を巡る社会状況の変化に対し、ひとり親家庭の自立を支援できるよう、多様な相談に対応し、自立の促進に繋げていくため、現行の実施方法は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・就業に結びつきやすい資格を取得するため、養成訓練の受講期間の経済的負担の軽減を目的に給付金として支給することは、ひとり親家庭への自立を進めるためには有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業費の大半が扶助費であり、コスト面で改善の余地はない。また、ひとり親家庭への支援という性質から、受益者負担を求めることはできない。											

事務事業の概要	事務事業名	那賀児童福祉施設組合事業			担当課	こども課			事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	712
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	1	児童福祉総務費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援				
取組方針	9	その他										
事業概要	経済的支援を受けることのできない母子家庭の自立を支援するため、生活拠点となる母子生活支援施設を、岩出市と共に組織した那賀児童福祉施設組合で運営管理する事業											
事務事業を構成する細事業	①	那賀児童福祉施設組合負担金			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	入所世帯数	世帯	目標	18	18	18	18	18	措置の判断については慎重におこなわれているが、虐待等の件数が年々増加しており、常に一定数の世帯が措置されている状態である。		
				実績	15	15	17					
	<指標の計算方法>		那賀児童福祉施設組合、母子生活支援施設「粉河むつみホーム」の入所世帯数(3月1日現在)									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	5,434			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	5,434		
事業の実績	①那賀児童福祉施設組合負担金 紀の川市負担率 75.90%											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・紀の川市と岩出市で那賀児童福祉施設組合として運営している事業であるため、負担割での支出は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・母子生活支援施設は、生活困窮の母子家庭やDV被害者の母子家庭の生活の安定と自立を支援するのに欠かせない施設であり、体制を整え運営を行うために必要な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・紀の川市、岩出市の負担割合は【均等割20%、人口割30%、利用数割50%】に両市の人口割と、施設の利用割合を乗じた金額で両市が負担し、施設組合の運営を行っているため、効率性については妥当である。												

事務事業の概要	事務事業名	育児臨時特別支援給付金給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R4)		事業番号	1159	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	新型コロナウイルス感染症の影響により日常生活等が制約される状況下で出産を迎え、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で育児という様々な不安等を抱えることとなる産婦及びその家族への臨時的支援策として、国の特別定額給付金支給の基準日後に出生した子どもを養育する者に給付金を給付することを目的とする。											
事務事業を構成する細事業	①	育児臨時特別支援給付金			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	育児臨時特別支援給付金支給対象者数	人	目標							出生数の減により、助成件数も減となった。	
			実績			293	273					
	<指標の計算方法>		令和4年4月1日から令和5年3月31日までに生まれ、住民登録された者									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		28,521		23,700							4,821	
事業の実績	①育児臨時特別支援給付金 ・令和4年度出生分 支給者数 273人 給付金額 27,300,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市独自政策として臨時的に実施しているため市が実施主体となることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・物価高騰の中で、育児を行う家庭に対して臨時的支援として有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業実施期間に期限があるため、現状の実施手順が最適である。											

事務事業の概要	事務事業名	出産・子育て応援事業			担当課	こども課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1233	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 児童福祉総務費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
取組方針				4 子育て世帯への経済的負担の軽減								
事業概要	妊娠届出時から妊婦や低年齢期の子育て家庭に寄り添い、出産・育児の面談等を通じて必要な支援につなぐ伴走型相談支援の充実を図るとともに、妊婦や子育て家庭への経済的支援を一体的に実施する事業											
事務事業を構成する細事業	①	出産応援給付金			⑤				⑨			
	②	子育て応援給付金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	出産応援給付金支給件数	件	目標						性質上、目標は設定しない。 対象の妊娠届出者一人につき5万円を支給。		
				実績			369					
	<指標の計算方法>		出産応援給付金の実支給件数									
	成果指標	子育て応援給付金支給件数	件	目標						性質上、目標は設定しない。 対象の出生者一人につき5万円を支給。		
				実績			205					
	<指標の計算方法>		子育て応援給付金の実支給件数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
31,419			21,816	4,887					4,716			
事業の実績	①出産応援給付金 ・支給件数 令和5年1月31日以前(制度開始前の遡及分) 203名(出産後の対象者) 129名(妊娠届の対象者) 令和5年2月1日以降の妊娠届出者 37名 計369名 ・支給金額 18,450,000円											
	②子育て応援給付金 ・支給件数 令和5年1月31日以前(制度開始前の遡及分) 205名 ・支給金額 10,250,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		国により実施依頼のある事業であり、市以外では実施できない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
給付対象者、給付金額など実施要綱により定まった事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	現時点では現金給付が最適な支給方法である。											

事務事業の概要	事務事業名	子ども医療費助成事業		担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	2	児童福祉費		施策目標	2	健康・医療		
		目	2	子ども医療費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実		
取組方針	3	福祉医療費助成の実施								
事業概要	市民（子育て世代）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分に対し助成を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理		⑤			⑨			
	②	子ども医療費助成		⑥			⑩			
	③			⑦			⑪			
	④			⑧			⑫			

指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析
	活動指標	1人あたりの医療費助成額	目標						医療費助成額の増加及び助成対象者数の減少に伴い、1人あたりの医療費助成額は増加した。
			実績	22,540	26,696	28,307			
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷助成対象者数						
	活動指標	助成対象者数	目標						令和3年度と比較して減少している。
実績			6,551	6,454	6,337				
<指標の計算方法>		年度末助成対象者数							
活動指標	医療費助成額	目標						令和3年度と比較して増加している。	
		実績	147,662	172,294	179,381				
<指標の計算方法>		医療費助成額							
		目標							
		実績							
<指標の計算方法>									

コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)		財源内訳				
	189,967		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他
			36,090		100,000		53,877

事業の実績	①受給資格管理 ・助成対象者数		小学生				
	未就学児(入院・通院助成)	2,426人	(入院)	41件	2,657,160円		
	小学生(入院・通院助成)	2,561人	(外来)	17,271件	36,518,140円		
	中学生(入院・通院助成)	1,350人	(歯科)	7,994件	23,108,027円		
	合計	6,337人	(調剤)	7,413件	12,494,476円		
			(その他)	462件	1,162,552円		
			(戻入)		△1,176円		
			(合計)	33,181件	75,939,179円		
事業の実績	②子ども医療費助成 ・医療費助成内訳		中学生				
	未就学児		(入院)	39件	2,751,640円		
	(入院)	283件	(外来)	7,672件	17,924,758円		
	(外来)	21,236件	(歯科)	2,053件	6,951,757円		
	(歯科)	3,892件	(調剤)	2,926件	5,962,677円		
	(調剤)	9,899件	(その他)	663件	1,170,755円		
	(その他)	81件	(戻入)		△2,552円		
	(戻入)		(合計)	13,353件	34,759,035円		
	(合計)	35,391件	68,682,631円				
			総合計	81,925件	179,380,845円		

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診していただくことができるため、子どもの福祉の向上と子育て支援の観点から妥当な事業である。	
	有効性	評価結果	改善の余地がない
	・医療費助成は、子育て世帯の経済的負担の軽減につながっており、子どもの福祉の向上と子育て支援の観点から有効な事業である。		
効率性	評価結果	改善の余地がない	
	・助成対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国民健康保険団体連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。また、大量印刷物（受給者証の区分更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。		

事務事業の概要	事務事業名	ひとり親家庭医療費助成事業			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	45	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	2	児童福祉費		施策目標	2	健康・医療				
目		3	ひとり親家庭医療費	基本施策		2	地域医療体制・医療サービスの充実					
取組方針	3	福祉医療費助成の実施										
事業概要	市民（ひとり親家庭）の経済的負担を軽減し、受診機会の拡大を図るために、医療費の自己負担分に対し助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	受給資格管理			⑤					⑨		
	②	ひとり親家庭医療費助成			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	1人あたりの医療費助成額	円	目標						医療費助成額及び助成対象者数が減少したが、医療費助成額の減少幅の方が小さかったため、1人あたりの医療費助成額は増加した。		
				実績	34,780	37,466	39,628					
	<指標の計算方法>		医療費助成額÷助成対象者数									
	活動指標	助成対象者数	人	目標						令和3年度と比較して減少している。		
				実績	1,425	1,390	1,297					
	<指標の計算方法>		年度末助成対象者数									
活動指標	医療費助成額	千円	目標						令和3年度と比較して減少している。			
			実績	49,562	52,078	51,398						
<指標の計算方法>		医療費助成額										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	54,719			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			28,341									
事業の実績	①受給資格管理											
	<ul style="list-style-type: none"> ・助成対象世帯数 516世帯 ・助成対象者数 1,297人 (内訳) 保護者 510人 未就学児 137人 小学生 279人 中学生 192人 高校生相当 179人 											
②ひとり親家庭医療費助成												
<ul style="list-style-type: none"> ・医療費助成内訳 (入院) 49件 2,120,151円 (外来) 10,205件 26,251,053円 (歯科) 2,754件 10,690,484円 (調剤) 4,745件 10,090,128円 (その他) 997件 2,246,361円 (戻入) △0円 (合計) 18,750件 51,398,177円 												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市条例及び県要綱に基づき行う事業であり、助成対象者の自己負担分に対し助成を行うことで、安心して医療機関を受診していただくことができるため、福祉の向上とひとり親家庭支援の観点から妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・医療費助成は、ひとり親家庭の経済的負担の軽減につながっており、福祉の向上とひとり親家庭支援の観点から有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・助成対象者が窓口で負担する自己負担分について、医療機関から保険者負担分と自己負担分を合わせて国民健康保険団体連合会又は社会保険診療報酬支払基金に対して診療請求し、保険者から一括して支払う効率的な事務に努めている。また、大量印刷物（受給者証の年次更新）の印刷、封入作業などを外部委託しており、事業効率の改善については余地がない状況である。											

事務事業の概要	事務事業名		児童手当給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	43
	予算科目	款	3	民生費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2	児童福祉費			施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	4	児童手当費			基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要		児童を養育する家庭や施設の子育てにかかる経費の負担を軽減し、あわせて児童の健やかな成長に資することを目的に児童手当の給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	児童手当給付		⑤					⑨		
		②			⑥					⑩		
		③			⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	児童手当等受給者数	人	目標						性質上、目標設定はしない。少子化により児童手当受給者数は、年々減少している。		
				実績	3,606	3,548	3,436					
	<指標の計算方法>		支給状況報告（一般・施設受給者）の受給者数（2月末現在）									
	活動指標	児童手当等支給対象児童数	人	目標						性質上、目標設定はしない。少子化により、支給対象児童数は、年々減少している。		
				実績	6,201	6,103	5,891					
<指標の計算方法>		支給状況報告（一般・施設受給者）の支給対象児童数（2月末現在）										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
772,171			532,826	118,729						120,616		
事業の実績	①児童手当給付											
	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳未満児童受給延べ月数 <ul style="list-style-type: none"> 被用者 8,248月 非被用者 1,792月 特例給付者 133月 ・3歳以上児童受給延べ月数 <ul style="list-style-type: none"> 被用者 33,101月 非被用者 9,161月 特例給付者 1,139月 ・中学生児童受給延べ月数 <ul style="list-style-type: none"> 被用者 12,143月 非被用者 3,493月 特例給付者 651月 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童手当法に基づく法定受託であるため、対象者に手当を給付することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・子育ての経済的負担を軽減しているため有効性は高い。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・現況届の現況確認処理・入力作業を会計年度任用職員の協力を得る等、事務作業について改善の余地がある。											

事務事業の概要	事務事業名		児童扶養手当給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	44
	予算科目	款	3	民生費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2	児童福祉費			施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	5	児童扶養手当費			基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要		父または母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立を助け、児童の福祉の増進を図ることを目的として児童扶養手当の給付を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	児童扶養手当給付			⑤					⑨	
		②				⑥					⑩	
		③				⑦					⑪	
		④				⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	受給資格者数	人	目標						性質上、目標は設定しない。受給者数は、年々減少している。		
				実績		577	565	543				
	<指標の計算方法>		福祉行政報告例第61表 (3月末現在)									
	活動指標	受給対象児童数	人	目標						性質上、目標は設定しない。受給者数に比例して、受給対象児童数も年々減少している。		
				実績		752	747	730				
<指標の計算方法>		福祉行政報告例第61表 (3月末現在)										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			256,662	86,678						169,984		
事業の実績	①児童扶養手当給付 ・受給資格者数 543人 ・受給対象児童数 730人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童扶養手当法に基づく法定受託事務であるため、対象者に手当を給付することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・ひとり親及びひとり親に準ずる家庭に対する子育ての経済的負担を軽減しているため有効性は高い。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・経費の大半が扶助費であり、コスト面での削減余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	教育・保育施設入所管理事業			担当課	保育課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	743
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
目		6 保育所費			基本施策		2 保育環境の充実				
事業概要	就学前の児童に対し、教育・保育施設への適正な入所管理を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 入所				⑤ 第2子以降保育料等無料化			⑨			
	② 支給認定（保育所・幼稚園・こども園）				⑥			⑩			
	③ 広域保育				⑦			⑪			
	④ 保育料賦課・徴収				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	入所児童数	人	目標	1,600	1,600	1,600	1,500	1,500	少子化により利用者数全体では減少傾向である。	
			実績	1,671	1,614	1,570					
		<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）							
	活動指標	広域入所児童数（受託）	人	目標	15	15	15	15	15	広域入所については、受託市町村と協議を行い、受け入れを進めているが、低年齢児の受け入れは厳しいものがある。	
			実績	20	18	23					
		<指標の計算方法>		対象児童数（年間総受託者数）							
	成果指標	待機児童数	人	目標	0	0	0	0	0	紀の川市全体での待機児童は生じていない。	
			実績	0	0	0					
		<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）							
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）		財源内訳								
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	28,729		13,000	6,439			916	8,374			
事業の実績	①入所		(2子) 3歳未満 34人		(3子以降)3歳未満 79人、3歳以上 160人						
	②支給認定（保育所・幼稚園・こども園）		公立保育所 570人		私立保育園 533人		小規模保育事業所 36人		認定こども園 391人		
			※R5.3.1現在（広域除く）								
	③広域保育		委託分 41人		※年間総委託者数						
	④保育料賦課・徴収		保育料徴収額		・現年度分 51,584,496円 (2,125件)		・過年度分 1,160,450円 (75件)		※R5.3.31時点		
⑤第2子以降保育料等無料化											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・共働き世帯の増加や保護者の疾病など、家庭において保育が困難な児童を受け入れるため、保育の実施は妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・入所児童数は年々減少しているが、転入世帯や低年齢児の保育ニーズが高くなっており、特定の施設に申込が集中するなど、希望保育所への入所ができない可能性がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・入所希望保育所への入所に向けて、定員数の調整等による改善の余地がある。 ・保育士の処遇改善を進めることで、保育士の確保に努める。										

事務事業の概要	事務事業名	子どものための教育・保育給付事業			担当課	保育課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	750	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	6	保育所費		基本施策	2	保育環境の充実				
事業概要	子ども・子育て支援新制度に基づき、私立教育・保育施設に対する財政支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	認可業務・指導監査			⑤	私立保育園障害児保育補助金			⑨			
	②	私立保育園運営委託			⑥	延長保育事業補助金			⑩			
	③	地域型保育給付			⑦	病児保育事業補助金			⑪			
	④	施設型給付			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	私立入所園児数	人	目標	1,036	1,099	1,099	1,099	1,099	少子化により入所児童数は減少傾向である。		
				実績	1,026	1,001	987					
		<指標の計算方法>		対象児童数（各年3月1日現在）								
	活動指標	私立教育・保育施設数	園	目標	10	10	10	10	11	認可保育施設数については増減はない。		
				実績	10	10	10					
		<指標の計算方法>		対象施設数								
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,066,159			国庫支出金	546,859	県支出金	236,299	地方債	6,800	繰入金	31,418	一般財源
事業の実績	①認可業務・指導監査 ・認可施設 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、山の子共同保育園、未来保育園、ニチイキッズきのかわ保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、あおば幼稚園、ながやまこども園 ・認可外施設 イチゴ保育所、貴志川センター保育室、ひかり保育園、ふたば保育園、そらな保育園、だるま保育園			レイモンドこども園、愛の光幼稚園、あおば幼稚園、ながやまこども園 ⑤私立保育園障害児保育補助金 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、レイモンドこども園、愛の光幼稚園、未来保育園、ながやまこども園 対象園児 50名 ⑥延長保育事業補助金 粉河保育園、名手保育園、レイモンドこども園、ながやまこども園 ⑦病児保育事業補助金 粉河保育園、名手保育園								
	②私立保育園運営委託 粉河保育園、名手保育園、安楽川保育園、山の子共同保育園											
	③地域型保育給付（小規模保育施設） 未来保育園、ニチイキッズきのかわ保育園											
	④施設型給付（認定こども園）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・民間保育施設の安定運営を図るために市が補助を行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・民間保育施設の安定運営を図ることにより、園児の安定した受け入れ人数が確保できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国の基準に基づき、給付費等を支給しているため改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	保育所運営管理事業		担当課	保育課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	744		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	6	保育所費		基本施策	2	保育環境の充実				
事業概要	保育所施設の運営維持管理を行い、市民（児童・保護者）が円滑に利用できるよう、保育サービスの提供を行う事業。											
事務事業を構成する細事業	①	保育職員研修・管理育成			⑤	県社会福祉協議会保育士会負担金			⑨			
	②	給食管理			⑥	施設整備			⑩			
	③	送迎バス運行			⑦	備品購入			⑪			
	④	災害共済加入			⑧	LINEを活用した保護者向け情報配信			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	保育職員研修	回	目標	1	1	1	1	1		新型コロナウイルス感染症対策のため、録画配信で受講した。 各保育所の連絡事項を、LINEを使用し保護者に向けて配信した。	
				実績	0	0	1					
	<指標の計算方法>		実施回数									
	成果指標	各保育所LINEアカウント登録者数	人	目標	0	0	570	570	570			
				実績	0	0	570					
	<指標の計算方法>		登録者数（3月末現在）									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
54,537			115					755	53,667			
事業の実績	①保育職員研修・管理育成 録画配信にて実施 1回			⑧LINEを活用した保護者向け情報配信 登録件数 570件								
	②給食管理											
	③送迎バス運行 桃山地区送迎バス運行											
	④災害共済加入 日本スポーツ振興センター負担金											
	⑤県社会福祉協議会保育士会負担金											
	⑥施設整備 修繕 99件											
	⑦備品購入 97件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童が安心して過ごすために保育環境の維持管理をし、保育サービスの充実を図るため、妥当性が高い事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・児童福祉法により、市町村は保育を必要とする児童を保育所において保育しなければならないとされており、職員配置や施設整備の実施により安定した児童の受入ができています。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・施設の老朽化に伴い、年々修繕箇所が増加している。改修内容の検討を行い、限られた予算でより多くの改善を図りたい。											

事務事業の概要	事務事業名	公立保育所保育事業			担当課	保育課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	752	
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 児童福祉費				施策目標	1	子育て環境・保育サービス			
		目	6 保育所費				基本施策	2	保育環境の充実			
事業概要	市民（児童・保護者）に適切な教育・保育を提供するために、各公立保育所が効率的な保育所運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	こぼと保育所運営			⑤	東貴志保育所運営			⑨			
	②	なるき保育所運営			⑥	西貴志保育所運営			⑩			
	③	八王子保育所運営			⑦	丸栖保育所運営			⑪			
	④	中貴志保育所運営			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	公立保育所数	目標	7	7	7	7	7	施設数に増減はないが、貴志川地区の児童数は減少しているため、再編、統廃合を進める必要がある。			
			実績	7	7	7						
	<指標の計算方法>		対象施設数									
	活動指標	公立入所園児数	目標	1,011	788	788	788	788	年々減少傾向にある。			
			実績	647	599	570						
	<指標の計算方法>		対象園児数（各年3月1日現在）									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
393,336			1,750	2,262				30,608	358,716			
事業の実績	①こぼと保育所運営 ②なるき保育所運営 ③八王子保育所運営 ④中貴志保育所運営 ⑤東貴志保育所運営 ⑥西貴志保育所運営 ⑦丸栖保育所運営											
	各施設の運営 会計年度任用職員の任用、健康診断の実施、施設の維持管理、消耗品の購入等											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・公立保育所として利用者のニーズは高く、今後も公立保育所の運営は必要と考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・公立保育所の特徴を活かしながら多様な保育ニーズに対応し、民間保育施設と連携を図りながら積極的に運営を行うことは有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地が大きい										
	・施設の統廃合によりコストの削減が見込まれる。打田、貴志川地区においても今後、公立保育所の再編を進める。											

事務事業の概要	事務事業名	児童館管理運営事業			担当課	保育課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	47	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	7	児童館費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援				
取組方針	2	地域の連携による子育て支援体制の充実										
事業概要	児童が児童館を安全で快適に利用できるように、児童館の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	西井阪児童館施設管理			⑤					⑨		
	②	粉河児童館施設管理			⑥					⑩		
	③	竜門児童館施設管理			⑦					⑪		
	④	名手児童館施設管理			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	開館日数	日	目標	900	900	600	600	600	新型コロナウイルス感染症の影響はあったが、感染症拡大防止対策を行い、開館している。		
				実績	768	880	596					
	<指標の計算方法>		粉河・竜門児童館の開館日数計（名手児童館は児童利用がないため除く）（西井阪は令和4年度から休館）									
	成果指標	年間利用者数	人	目標	4,000	2,000	1,000	1,000	500	新型コロナウイルス感染症の影響も多少あるが、児童の利用人数は大きく減少している。		
				実績	527	611	200					
	<指標の計算方法>		粉河・竜門児童館の延べ児童利用者数（名手児童館は児童利用がないため除く）（西井阪は令和4年度から休館）									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,783			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,783		
事業の実績	①西井阪児童館施設管理 ・西井阪児童館 令和4年度から休館											
	②粉河児童館施設管理 ・粉河児童館 開館日数 295日 利用者(大人) 2,748人 利用者(小人) 170人											
	③竜門児童館施設管理 ・竜門児童館 開館日数 301日 利用者(大人) 801人 利用者(小人) 30人											
	④名手児童館施設管理 ・名手児童館 開館日数 87日 利用者(大人) 1,087人 利用者(小人) 0人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地が大きい ・社会環境や市民ニーズの変化により、公民館活動での利用や地域の利用がほとんどであり、児童館としての活用がされていない。地元自治会への移管や公民館への移管が必要である。									
		評価結果	改善の余地が大きい ・児童の利用が減少する一方で、大人の利用数の方が圧倒的に多いなど、児童館としてのニーズや役割は果たしていない。									
	効率性	評価結果	改善の余地が大きい ・令和3年度、屋根及び外壁改修工事を行った竜門児童館を除き、各施設の老朽が激しく、旧耐震基準である建物もあるので、今後の利用方法やあり方を検討する。									

事務事業の概要	事務事業名	子育て世帯等臨時特別支援事業			担当課	こども課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R5)	事業番号	1221		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2	児童福祉費		施策目標	1	子育て環境・保育サービス				
		目	8	子育て世帯等臨時特別支援事業費		基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援				
取組方針	4	子育て世帯への経済的負担の軽減										
事業概要	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた子育て世帯を支援する取組の一つとして、児童手当法で定める特例給付扱いとなる所得の世帯を除き、18歳以下の児童がいる世帯に臨時・特別の一時金を支給する事業											
事務事業を構成する細事業	①	子育て世帯等臨時特別支援事業（先行給付・追加給付）			⑤						⑨	
	②	子育て世帯等臨時特別支援事業（支援給付）			⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	給付金支給対象者	目標							性質上、目標は設定しない。 対象児童一人につき10万円を支給。		
			実績		4,772	17						
	<指標の計算方法>		支給実績報告の支給対象者									
	成果指標	給付金支給対象児童数	目標								性質上、目標設定はしない。 対象児童一人につき10万円を支給。	
			実績		8,249	18						
	<指標の計算方法>		事業費実績報告の支給対象児童数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	8,011			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,208		
事業の実績	①子育て世帯等臨時特別支援事業 (先行給付・追加給付) 令和3年度からの繰越予算で支給。			※新生児はR3.10.1～R4.3.31生まれが対象								
	・支給対象者 (積極) 一般児童手当受給者、施設、里親 0人 (申請) 公務員、高校生、新生児養育者 17人			②子育て世帯等臨時特別支援事業 (支援給付) 対象者なし								
事業の実績	・支給対象児童数 (積極) 一般児童手当受給者、施設、里親 0人 (申請) 公務員、高校生、新生児養育者 18人											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
・国が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。												
有効性	評価結果	改善の余地がない										
	・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた子育て世帯に給付金を支給することは、子育て世帯の経済的負担を軽減するために有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国からの補助金で支出する事業であるため、コスト面での改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	低所得の子育て世帯生活支援特別給付金給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	単年度のみ		事業番号	1169
	予算科目	款	3 民生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	2 児童福祉費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	9 低所得の子育て世帯生活支援特別給付金給付				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた子育て世帯を支援する取組の一つとして、低所得の子育て世帯及びひとり親世帯に一時金を支給する事業										
事務事業を構成する細事業	①	低所得の子育て世帯生活支援特別給付金(ひとり親世帯分)		⑤				⑨			
	②	低所得の子育て世帯生活支援特別給付金(その他世帯分)		⑥				⑩			
	③			⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	給付金支給対象者	目標						性質上、目標は設定しない。 対象児童一人につき5万円を支給。		
			実績		904	865					
	<指標の計算方法>		支給実績報告の支給対象者数								
	成果指標	給付金支給対象児童者数	目標						性質上、目標は設定しない。 対象児童一人につき5万円を支給。		
			実績		1,456	1,437					
	<指標の計算方法>		支給実績報告の対象児童数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
		105,136	84,150	国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	20,986	
事業の実績	①低所得の子育て世帯生活支援特別給付金 (ひとり親世帯分)										
		積極支給	502人								
		申請支給	28人								
	・支給対象児童数										
		積極支給	758人								
		申請支給	41人								
	②低所得の子育て世帯生活支援特別給付金 (その他世帯分)										
		積極支給	317人								
		申請支給	18人								
	・支給対象児童数										
		積極支給	610人								
		申請支給	28人								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・国が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・新型コロナウイルス感染症の影響を受けた子育て世帯に給付金を支給することは、子育て世帯への経済的負担を軽減するため効率性が高い。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・国からの補助金で支出する事業であるため、コスト面での改善の余地がない。									

事務事業の概要	事務事業名	生活保護適正実施推進事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	758
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	3	生活保護費		施策目標	3	福祉			
		目	1	生活保護総務費		基本施策	4	生活に困窮している方への支援			
取組方針	1	生活困窮者自立の推進									
事業概要	市が生活保護制度の適正運用を図るために、調査や審査、システムの運営等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	生活保護適正実施推進			⑤					⑨	
	②				⑥					⑩	
	③				⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	生活保護受給者の就労支援件数	件	目標	60	60	60	60	60	生活保護受給者数は微増であるが、就労支援件数は増加している。	
				実績	41	58	73				
	<指標の計算方法>		担当職員による延べ件数								
	活動指標	レセプト点検	件	目標						新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが、病院受診は令和3年度より増加となった。	
				実績	9,112	8,372	9,093				
	<指標の計算方法>		延べ点検件数								
	成果指標	担当職員の研修会参加	回	目標	6	6	6	6	6	新型コロナウイルス感染症の影響で、研修が中止になったため減少となった。	
実績				2	7	3					
<指標の計算方法>		職員の参加回数									
成果指標	就労支援により自立(保護を廃止)した世帯数	世帯	目標	5	5	5	5	5	新型コロナウイルス感染症の影響で、就労支援により自立に繋がったケースが2件であった。		
			実績	1	7	2					
<指標の計算方法>		実世帯数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
13,182			3,902							9,280	
事業の実績	①生活保護適正実施推進 ・生活保護の開始・廃止の状況 (統計基準日における件数の累計)			死亡		19世帯					
	保護開始 55世帯 73人			施設入所		1世帯					
開始理由			他管内へ転出		14世帯						
世帯主の傷病			手持金の増加		5世帯						
離婚・世帯分離			就労収入の取得・増加		2世帯						
収入の減少			保護辞退		5世帯						
失業・倒産			扶養義務履行		1世帯						
仕送りの減少			・就労支援件数		73件						
手持金の減少			自立件数		2世帯 2人						
職務権限			・研修会参加								
施設入所等			全国ケースワーカー研修会								
他管内からの転入			生活保護査察指導員に関する研究協議会								
葬祭扶助のみ			就労支援員・就労準備支援事業従事者養成研修								
保護廃止 47世帯 54人											
廃止理由											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・ 法廷受託事務であるので、市が実施主体となる。法律に従い適性に業務を遂行出来ている。 ・ 本事業の意図は、適正な生活保護運営であり、その対象、手段、意図ともに妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・ 就労支援員の配置により、保護受給者等に対する自立・就労支援が総合的に実施出来ている。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、研修会も自粛状況が続く中、開催された研修会(オンライン含む)には積極的に参加により学習し、業務を効率よく遂行することに努めた。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・ 法に基づく適正な実施により、受益者負担は生じないため、生活保護者に不利益が生じないよう引続き事務の適正に努める。										

事務事業の概要	事務事業名		生活保護扶助事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	49
	予算科目	款	3	民生費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	3	生活保護費			施策目標	3	福祉			
		目	2	扶助費			基本施策	4	生活に困窮している方への支援			
事業概要		市民（生活困窮者）の自立を支援するために、生活保護法に基づく扶助費の支給を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	生活保護扶助		⑤			⑨				
		②			⑥			⑩				
		③			⑦			⑪				
		④			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	人口1千人あたりの生活保護受給者数	人	目標						近年、開始と廃止は横ばいの傾向であったが、令和4年度は、開始が廃止を上回り、令和3年度に比べ微増となった。		
				実績	6.99	6.92	7.05					
	<指標の計算方法>		年度末における人口1千人あたりの生活保護受給者数									
	活動指標	生活保護受給世帯数	世帯	目標						近年、開始と廃止は横ばいの傾向であったが、令和4年度は、開始が廃止を上回り、令和3年度に比べ微増となった。		
実績				335	332	336						
<指標の計算方法>		年度末生活保護受給世帯数										
活動指標	生活保護受給人員	人	目標						近年、開始と廃止は横ばいの傾向であったが、令和4年度は、開始が廃止を上回り、令和3年度に比べ微増となった。			
			実績	414	404	411						
<指標の計算方法>		年度末生活保護受給人員										
				目標								
				実績								
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
772,387			511,273	1,438					259,676			
事業の実績	①生活保護扶助 ・生活保護受給状況（令和5年3月31日） 336世帯 411人 人口1千人あたりの生活保護受給者数 7.05人											
	・各扶助実施状況 (令和5年3月現在) 生活扶助 275世帯 337人 住宅扶助 211世帯 260人 教育扶助 9世帯 13人 介護扶助 105世帯 109人 医療扶助 305世帯 358人 生業扶助 6世帯 8人 施設事務費 18世帯 18人 (令和4年度分) 出産扶助 0世帯 0人 葬祭扶助 5世帯 5人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生活保護に関する業務は、法定受託業務である。また、経済の状況や雇用の情勢など地域の状況について、身近な立場から実態を把握し、客観的な対応が出来るため妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・法令に基づき運用を実施し、ケースワーカーや就労支援員など専門性を持った人材を活用し、生活保護受給者に対する生活の向上や自立に向け支援を行っている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・生活保護業務に関わるケースワーカーは、社会福祉法により、被保護世帯80世帯に所員の定数を1名とし配置している。 ・被保護者の増加が予想されるため、相談・調査・訪問等を効率化する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	生活困窮者自立支援事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	944	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	生活保護費		施策目標	3	福祉				
目		3	援助費	基本施策		4	生活に困窮している方への支援					
事業概要	市民（生活困窮者）の自立を包括的に支援するとともに、給付金の支給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	生活困窮者支援			⑤			⑨				
	②	住居確保給付金の支給			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	生活困窮者相談	件	目標	20	20	20	20	20	新型コロナウイルス感染症の影響下ではあったが、令和3年度より生活困窮者の相談件数は減少した。相談内容の多くは例年と同様に生活福祉資金であった。		
				実績	218	195	120					
	<指標の計算方法>		相談受付数									
	活動指標	支援プラン作成数	人	目標	5	5	5	5	5	新型コロナウイルス感染症の影響での相談が大半であったが、令和3年度より相談件数も減少し、他法他施策に繋げることにより、支援プランの作成までには至らなかった。		
				実績	5	2	0					
	<指標の計算方法>		支援プラン作成数									
	活動指標	住居確保給付金支給件数	件	目標	3	3	3	3	3	新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、令和3年度より微減となり、支給件数は4件であった。		
				実績	9	7	4					
	<指標の計算方法>		住居確保給付金支給件数									
活動指標	生活困窮者・被保護者就労準備支援件数	人	目標	1	1	1	1	1	支給件数は、0件であった。			
			実績	1	0	0						
<指標の計算方法>		生活困窮者・被保護者就労準備支援件数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	17,236			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,018		
事業の実績	①生活困窮者支援 ・相談支援件数 120件 【生活】 生活福祉資金貸付に関すること 86件 家計相談に関すること 1件 生活保護制度に関すること 1件 借金に関すること 4件 その他（住居確保給付金・生活困窮者自立支援金等）に関すること 25件 【就労】 求職活動に関すること 3件 ・支援プラン作成に至った件数 0件 支援プラン 生活困窮者からの相談を受け、抱えている課題を評価・分析し、そのニーズを把握するとともに、ニーズに応じた支援が、計画的かつ継続的に行われるよう作成			するもの。 ②住居確保給付金の支給 4件 65歳未満の離職後2年以内の者であって就労意欲のある者のうち、住宅を喪失または喪失するおそれのある者に対して住居確保給付金を支給するとともに、就労支援を実施することにより、住宅及び就労機会の確保に向けて支援を行う事業。								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生活困窮者自立支援法に基づき実施すべき事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・法に定めた事業に取組むことで支援の幅が広がり、委託先である社会福祉協議会の専門的な知識を持った支援員により自立に向けた支援プランの実効性が高まる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・生活困窮者自立支援事業を社会福祉協議会に委託することで、専門的な知識を持った支援員により、自立に向けた支援プランを立て関係機関と連携をとることにより幅広い事業の展開が出来る。											

事務事業の概要	事務事業名	行旅人援護事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	768	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	生活保護費		施策目標	3	福祉				
		目	3	援助費		基本施策	4	生活に困窮している方への支援				
取組方針	1	生活困窮者自立の推進										
事業概要	行旅人・行旅病人・行旅死亡人へ最低限の援護を行うために、旅費の支給、医療費の支給、葬祭の執行等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	法定外援助			⑤					⑨		
	②	行旅死亡人対応			⑥					⑩		
	③	墓地、埋葬等に関する法律による死亡人対応			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	行旅人旅費支給件数	件	目標						行旅人旅費支給件数はなかった。		
				実績		1	1					
	<指標の計算方法>		行旅人旅費支給件数									
	活動指標	行旅死亡人等取扱件数	件	目標						行旅死亡人取扱件数は1件であった。		
				実績		1	1	1				
	<指標の計算方法>		行旅病人・行旅死亡人取扱件数									
活動指標	墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数	件	目標						墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数は7件であった。			
			実績			1	7					
<指標の計算方法>		墓地、埋葬等に関する法律による死亡人取扱件数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,386			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		1,386	
事業の実績	①法定外援助 ・行旅人に対して、最低限の旅費を支払う。 旅費支給件数 0件											
	②行旅死亡人対応 ・行旅中、住所不明者が病気で倒れ、又は死亡した時は、救護、葬祭を行う。 行旅病人取扱件数 0件 行旅死亡人葬祭件数 1件											
	③墓地、埋葬等に関する法律による死亡人対応 ・取扱件数 7件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・目的の地まで旅行する者で、旅行や食費に困窮している者（旅行人）については、法外援護金（行旅人旅費）取扱要綱、旅行中病気等により医療費の支払いに困窮している者（旅行病人）については生活保護法、市内で身元不明のまま発見された者（行旅死亡人）については、行旅病人及び行旅死亡人取扱法に基づく事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・行旅人、行旅病人、行旅死亡人の対応の必要がある場合は、人道的見地から対象者の福祉を優先的に考え、救護及び火葬を効果的にを行っている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・当該事業は、いつ発生するか予測のつかないものであるため、案件が発生した時に担当者が効果的に事業を進めており、コスト面では、行旅死亡人に遺留品があれば、法に基づいた取扱いにより費用に充当することになっている。											

事務事業の概要	事務事業名	新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金給付事業			担当課	社会福祉課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R4)	事業番号	1170		
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	生活保護費		施策目標	3	福祉				
		目	3	援助費		基本施策	4	生活に困窮している方への支援				
取組方針	9	その他										
事業概要	新型コロナウイルス感染症の影響により生活に困窮する世帯に対して、就労による自立を図るため、また、それが困難な場合には円滑に生活保護の受給につなげるため支援金を給付する事業											
事務事業を構成する細事業	①	新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金給付			⑤				⑨			
	②	新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金再給付給付			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	指標の分析		
	成果指標	支援金支給対象者	目標							一定の要件を満たし、申請があった世帯。		
			実績		26	13						
	<指標の計算方法>		支援金支給対象者									
	成果指標	支援金再支給対象者	目標							自立支援金(初回)の給付が終了し、申請があった世帯。		
			実績		9	4						
	<指標の計算方法>		支援金再支給対象者									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
6,197			3,991							2,206		
事業の実績	①新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金給付 一人世帯6万円、二人世帯8万円、三人以上世帯10万円の3ヶ月間の支給 申請件数 13件 内訳 一人世帯 6件 二人世帯 4件 三人以上世帯 3件											
	②新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金再支給給付 一人世帯6万円、二人世帯8万円、三人以上世帯10万円の3か月間の支給 申請件数 4件 内訳 一人世帯 1件 二人世帯 2件 三人以上世帯 1件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国が実施する事業であるため、市が実施主体となることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・新型コロナウイルス感染症の影響により生活困窮する世帯に支援金を支給することは、世帯の就労による自立につながる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国からの補助金で支出する事業であるため、コスト面での改善の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	災害被害者援護事業			担当課	社会福祉課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	52	
	予算科目	款	3	民生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	4	災害救助費		施策目標	3	福祉				
		目	1	災害救助費		基本施策	1	地域福祉の仕組みづくりと推進				
取組方針	3	相談支援体制の整備と充実										
事業概要	市民（災害被害者）の経済的負担を軽減するために、災害見舞金の支給を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	災害見舞金支給			⑤					⑨		
	②	災害救助法事務			⑥					⑩		
	③	義援金			⑦					⑪		
	④	住家被害認定士研修			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	災害見舞金取扱件数	件	目標						台風等の住家被害がなく、火災3件のみであった。		
				実績	1	1	3					
	<指標の計算方法>		年間取扱件数									
	活動指標	災害見舞金支給率	%	目標						災害見舞金の対象世帯には迅速に支給することができた。		
				実績	100	100	100					
	<指標の計算方法>		支給件数/対象件数									
	活動指標	義援金箱設置場所数	箇所	目標						市役所本庁（1ヶ所）・各支所（4ヶ所）・出張所（1ヶ所）の窓口に義援金箱を設置し、義援金の受付を行った。		
				実績	6	6	6					
	<指標の計算方法>		義援金箱設置場所数									
成果指標	住家被害認定士研修参加者数	人	目標						研修希望者にばらつきがあるため増減がある。			
			実績	9	6	6						
<指標の計算方法>		住家被害認定士研修参加者数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	104			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	104		
事業の実績	①災害見舞金支給 ・火災3件 (全焼1件、部分焼2件)			・家屋被害認定業務研修（eラーニング）に1名参加。								
	②災害救助法事務 災害に対して国に応急的に必要な救助を行ってもらうために、被害状況を把握し、県に適用申請を行う。 ・令和4年度 実績なし											
	③義援金 ・ウクライナ人道危機に対する義援金箱を設置し、義援金を受付、送金した。 ・トルコ・シリア地震災害義援金箱を設置し、義援金を受付、送金した。											
	④住家被害認定士研修 ・県住家被害認定士養成研修に3名参加。 ・県住家被害認定士スキルアップ研修に2名参加。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 今年度も火災のみの災害であり、対象世帯に見舞金を支給できた。 地震や風水害等の災害により被災した住家の被害の程度を、国が示した判断基準に基づき認定を行う。 被災者の早期生活再建のため、迅速な処理が必要であり、改善の余地がない。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
<ul style="list-style-type: none"> 災害の発生や規模によって異なるので、一概に他年度との比較はできない。 国が示している判断基準に基づき認定を行い、速やかに見舞金を支給している。 県や関西広域連合主催の住家被害認定業務研修に参加し、専門性の持った人材の確保や知識向上を図ることで、より有効性を高める事ができる。 												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	<ul style="list-style-type: none"> 県や関西広域連合主催の住家被害認定業務研修に参加し、専門性の持った人材の確保や知識向上を図ることで、より効率性を高める事ができる。 											

事務事業の概要	事務事業名	医療体制整備構築事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	776	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 健康・医療				
目		1 保健衛生総務費			基本施策		2 地域医療体制・医療サービスの充実					
取組方針	1 地域医療体制の充実											
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、医療機関、関係機関と医療体制の整備、構築を行うとともに、骨髄移植等のドナーになる方の経済的負担を軽減することで、ドナー登録の一層の拡大、ドナーが骨髄等の提供を行いやすい環境の整備を行う事業。											
事務事業を構成する細事業	① 災害時医療（医薬品備蓄）			⑤ 那賀歯科医師会負担金			⑨ 骨髄等移植ドナー登録の広報活動					
	② 献血			⑥ 小児救急医療支援事業負担金			⑩					
	③ 県救急医療情報システム負担金			⑦ 骨髄等移植ドナー助成			⑪					
	④ 那賀救急医療対策協議会負担金			⑧ 献血型併行型ドナー登録会			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	年間献血受付者数	人	目標	2,500	2,500	2,500	2,500	2,500	近年、新型コロナウイルス感染症の影響で、献血受付者数が減少していたが、大学での献血再開もあり、増加した。		
			実績	1,912	1,818	1,940						
	<指標の計算方法>		年間の献血の受付者数									
	活動指標	年間献血箇所数	箇所	目標	67	60	60	60	60	近年、新型コロナウイルス感染症の影響で、献血箇所数が減少していたが、大学での献血再開もあり、献血箇所数が増加した。		
			実績	48	43	47						
	<指標の計算方法>		年間の献血実施箇所数									
	活動指標	ドナー助成数	人	目標	2	2	2	2	2	ドナーに対して、助成金の交付がなかった。ドナーとなりうる可能性が高くないことから、毎年度必ずしも助成対象者が現れるとは限らない。		
			実績									
	<指標の計算方法>		ドナーとなり申請のあった人数									
活動指標	献血併行型ドナー登録会開催回数	回	目標	8	10	10	10	10	令和3年度に続きイベント等が中止になったことに加え、ドナー登録会説明員である岩出保健所担当者の予定が合わないことから、登録会開催回数が減少した。			
		実績	4	1	1							
<指標の計算方法>		献血併行型ドナー登録会の開催回数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,687			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,687		
事業の実績	①災害時医療（医薬品備蓄） 医療救護所用医薬品期限切れ対応他			公立那賀病院の休日などの小児二次救急にかかる小児科医師の件費の負担金								
	②献血 合計人数 1,786人 200cc 89人 400cc 1,697人			⑦骨髄等移植ドナー助成 助成人数：0人								
	③県救急医療情報システム負担金 救急医療体制を情報面から支援するための救急医療情報システム運営負担金			⑧献血併行型ドナー登録会 実施回数：1回 登録者数：6人 実施場所：紀の川市役所南別館								
	④那賀救急医療対策協議会負担金 紀の川市、岩出市における救急体制の整備及び円滑な運営を目的とした会の運営負担金			⑨骨髄等移植ドナー登録の広報活動 事業周知チラシを献血併行型骨髄ドナー登録会での説明時に配布 広報「紀の川」への掲載（5・10月号）								
	⑤那賀歯科医師会負担金 休日の歯科救急診療にかかる人件費の負担金											
	⑥小児救急医療支援事業負担金											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ 広域的に地域医療体制の充実及び救急医療体制を構築し、市民が安心して健康に暮らせるように進めていく必要がある。 ・ 献血事業については、血液センターが事業者として実施しており、市は場所の確保、広報活動、粗品の提供、表彰事務等が主な業務であり、日赤奉仕団の協力は得られるものの、生命と直結する血液を集める業務は、救急医療体制のひとつであり、公的にも取り組む必要がある。 ・ 市がドナーに助成金を交付することで、ドナーの負担を軽減し、移植に用いる骨髄等の適切な提供を推進することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・ 令和2年度より、新型コロナウイルス感染症の影響のため、大学やイベント等の例年献血を行っていた場所での献血が実施できず、献血箇所数と受付者数の減少につながっていたが、献血会場の安全性や、血液の必要性を引続き伝えることにより、令和4年度は、少しづつ献血箇所数が増加し、受付者数も増加となった。今後も、献血人数の維持に努める必要がある。 ・ 新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等でドナー登録会を開催することができなかった。 ・ 市内に分娩可能な医療機関がない状態が続いており、市民が安心して産み育てる環境づくりのため、効果的な取り組みが必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・ 献血の箇所数が減ることは、献血者数の減少に繋がるため、比較的献血者数の割合が少ない10代から30代の若い世代への献血の必要性を啓発し、箇所数を増やしていく必要がある。 ・ 今後もドナーの負担を軽減し、またドナー登録者を増加させることで、移植に用いる骨髄等の適切な提供を推進していく必要があり、和歌山県赤十字血液センターや岩出保健所と連携し、効果的かつ効率的な事業の周知方法やドナー登録会の開催方法等について検討を行うなど改善の余地がある。											

事務事業の概要	事務事業名	いのち支える自殺対策推進事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1128	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 健康・医療				
		目	1 保健衛生総務費				基本施策	1 健康づくりと疾病予防				
事業概要	誰も自殺に追い込まれることのない社会を実現するため、自殺者の防止、自死遺族等の支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 地域におけるネットワークの強化		⑤				⑨					
	② 人材の養成及び確保		⑥				⑩					
	③ 啓発及び教育の充実		⑦				⑪					
	④ 相談体制の充実		⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	自殺率	率	目標	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5	自殺者数は、令和3年と同数の13人であった。男性が女性の約5倍である。令和6年の自殺対策計画の目標値である自殺率16.5以下を達成するために今後は、対象を絞った対策の推進と支援体制のさらなる構築が課題である。		
			実績	25.9	21.3	21.5						
	<指標の計算方法>		厚生労働省の地域における自殺の基礎資料による数値(暦年)									
	活動指標	ゲートキーパー養成講座受講者数	人	目標			50	50	50	令和4年度から、紀の川市自殺対策計画にある市民の身近な存在となる民生児童委員や社会福祉協議会職員を対象にゲートキーパー養成講座を実施した。今後も毎年実施を考えている。		
			実績			28						
	<指標の計算方法>		職員・民生児童委員・社会福祉協議会職員等の研修参加者数									
活動指標	紀の川市いのち支える自殺対策担当委員会会議開催回数	回	目標	1	1	1	1	1	担当委員会の開催はせず、情報をメール配信等にて共有するようにした。今後は、庁内の支援体制の構築に向けて情報共有の強化と適時研修会や検討会を実施していく。			
		実績	1									
<指標の計算方法>		年間開催回数										
成果指標	協議会開催回数	回	目標	2	1	1	1	1	計画策定後、初めて集会での協議会を実施した。有識者から意見をいただき、各団体での取組みと情報共有が出来、今後の計画の方向性を示すことが出来た。			
		実績	1	1	1							
<指標の計算方法>		協議会開催回数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	271			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	109		
事業の実績	①地域におけるネットワークの強化 ・新型コロナウイルス感染症に留意しつつ、協議会と本部会を開催した。			④相談体制の充実								
	②人材の養成及び確保 ・民生児童委員や社会福祉協議会職員を対象にNPO心のSOSサポートネットの理事長東睦広氏を講師に招き、ゲートキーパー養成講座を実施した。											
	③啓発及び教育の充実 ・9月予防週間→相談支援先を広報紀の川9月号・ホームページ掲載、メール配信。 ・3月対策強化月間→ホームページ掲載、メール配信、LINE掲載。庁外に懸垂幕設置、庁内窓口に卓上のぼりを設置 ・小学5年生6年生1,020人、中学生1,366人にお守り型リーフレットを教育委員会の協力を得て配布した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・行政のみならず、地域の関係団体や組織・学校・企業・市民らが連携・協働し、包括的に推進する必要がある。その為、ニーズの把握や迅速な対応には更なる体制づくりが必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・自殺対策計画のハイリスク対象者への直接的な支援は、福祉部が担ってくれている。事務の効率化や関係機関との密な連携を考えると情報連携の方法や適切な支援体制の構築に課題を残していると考ええる。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・紀の川市いのち支える自殺対策計画に基づき、和歌山県自殺対策強化補助金を活用し計画を進めている。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大もあり、計画通り実施できておらず、令和6年度が見直し時期であるが、このままでは、目標値は達成できない見通しである。関係機関との情報共有や課題の整理等を明確にするため、庁内の支援体制の構築が必要と考える。											

事務事業の概要	事務事業名	公立那賀病院経営事務組合事業			担当課	健康推進課		事業区分	一部事務組合						
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1073				
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心							
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 健康・医療							
		目	1 保健衛生総務費				基本施策	2 地域医療体制・医療サービスの充実							
取組方針				1	地域医療体制の充実										
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、公立那賀病院の運営に参画する事業														
事務事業を構成する細事業	①	公立那賀病院経営事務組合負担金			⑤			⑨							
	②	病院運営の審査事務			⑥			⑩							
	③	一部事務組合定例会（議会）			⑦			⑪							
	④				⑧			⑫							
指標の実績	成果指標	入院患者数(全体)	単位	人	R 2年度	95,000	R 3年度	95,000	R 4年度	95,000	R 5年度	95,000	R 6年度	95,000	指標の分析 令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大により、一般病床の受け入れが減少した。
			目標	実績	79,399	77,044	76,787								
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ入院された市民(紀の川市・岩出市、管外)の年間患者数(延)												
	成果指標	外来患者数(全体)	単位	人	R 2年度	125,000	R 3年度	125,000	R 4年度	125,000	R 5年度	125,000	R 6年度	125,000	指標の分析 令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の検査希望者が多数いたため外来患者数は増加傾向にある。
			目標	実績	105,445	108,312	108,525								
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ外来通院された市民(紀の川市・岩出市、管外)の年間患者数(延)												
	成果指標	入院患者数(紀の川市)	単位	人	R 2年度	50,000	R 3年度	50,000	R 4年度	50,000	R 5年度	50,000	R 6年度	50,000	指標の分析 令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大により、一般病床の受け入れが減少した。
			目標	実績	38,262	37,510	37,280								
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ入院された紀の川市民の年間患者数(延)												
	成果指標	外来患者数(紀の川市)	単位	人	R 2年度	66,000	R 3年度	66,000	R 4年度	66,000	R 5年度	66,000	R 6年度	66,000	指標の分析 令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の検査希望者が多数いたため外来患者数は増加傾向にある。
			目標	実績	54,389	56,713	57,119								
	<指標の計算方法>		公立那賀病院へ外来通院された紀の川市民の年間患者数(延)												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳											
	600,669			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	600,669					
事業の実績	①公立那賀病院経営事務組合負担金 紀の川市と岩出市の負担割合等を精査し支出した。 紀の川市負担率 57.11%														
	②病院運営の審査事務														
	③一部事務組合定例会（議会） 8月、3月 定例会（議会）開催														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・公立那賀病院は那賀保健医療圏域において唯一の総合病院であり、地域医療の確保に大きな役割を果たしている。県が策定する地域医療構想を基に効率的かつ質の高い医療提供体制を構築することが求められるなかにおいて、負担は妥当である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
・公立那賀病院は、地域に安心を与える財産であることから、有効性において改善の余地はない。															
効率性	評価結果	改善の余地がない													
	・岩出市とともに共同で適正に業務の処理ができており、効率性において改善の余地がない。														

事務事業の概要	事務事業名	那賀休日急患診療所経営事務組合事業			担当課	健康推進課		事業区分	一部事務組合			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1074	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療				
		目	1	保健衛生総務費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実				
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、休日急患診療所の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	那賀休日急患診療所経営事務組合負担金			⑤	那賀医師会との連絡調整			⑨			
	②	一部事務組合定例会（議会）運営			⑥				⑩			
	③	那賀休日急患診療所経営事務の審査			⑦				⑪			
	④	岩出市との連絡調整			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	診療所利用者数(紀の川市民・岩出市民・その他)	人	目標	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	令和3年度は受診控え等により利用者が少なかったが、7月ごろから第7波、第8波により、新型コロナウイルス感染症の検査希望者が増えたため令和3年度と比較して大幅に利用者が増えた。		
			実績	412	561	1,859						
	<指標の計算方法>		休日、祝祭日及び季節性インフルエンザ流行期の土曜日を追加した夜間に一次救急として利用される市民(紀の川市・岩出市)の診療所年間利用者数									
	成果指標	診療所利用者数(紀の川市民)	人	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	令和3年度は受診控え等により利用者が少なかったが、7月ごろから第7波、第8波により、新型コロナウイルス感染症の検査希望者が増えたため令和3年度と比較して大幅に利用者が増えた。		
			実績	204	290	1,007						
	<指標の計算方法>		休日、祝祭日及び季節性インフルエンザ流行期の土曜日を追加した夜間に一次救急として利用される紀の川市民の診療所年間利用者数									
	活動指標	診療所開設の広報掲載回数	回	目標	12	12	12	12	12	診療所の診療時間及び電話番号を市広報誌(毎月)に掲載して案内できている。		
			実績	12	12	12						
	<指標の計算方法>		診療所開院期間及び時間の案内を紀の川広報等を利用した啓発回数									
活動指標	夜間診療の開設日数	日	目標	40	40	40	40	40	令和3年度と同日数であったが、新型コロナウイルス感染症の検査希望者が増え、看護師、事務を増員しての対応となった。			
		実績	31	26	26							
<指標の計算方法>		季節性インフルエンザ等流行期の土曜日・日曜日・祝祭日(年末年始含む)の夜間診療開設日数										
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	17,163			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		17,163	
事業の実績	①那賀休日急患診療所経営事務組合負担金・那賀休日急患診療所経営事務組合の運営に対し負担金を支出した。 紀の川市負担率 53.10%											
	②一部事務組合定例会(議会)運営 ・8月、3月の組合議会に事務局員として出席。											
	③那賀休日急患診療所経営事務の審査 ・那賀休日急患診療所経営事務組合事務局として、診療所運営に係る予算及び決算を精査し、両市財政部局の予算ヒアリングにおいて説明を行った。											
	④岩出市との連絡調整 ・岩出市と那賀休日急患経営事務組合と那賀広域事務組合との統合について協議し、今後調整を図っていく。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・那賀休日急患診療所は、休日の一次救急において大きな役割を担っており、市民が安心して生活する上で必要不可欠なサービスである。									
		評価結果	改善の余地がない ・公立那賀病院の二次救急の負担軽減につながっている。									
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・病院群輪番制を所管する那賀広域事務組合との統合が実現すれば、だれもがいつでも必要な医療を受けることのできる体制を強化することができる。また、専属の職員を採用し、組合事務を執り行うことにより、事務の効率化を図ることができる。									

事務事業の概要	事務事業名	那賀広域事務組合事業			担当課	健康推進課		事業区分	一部事務組合			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1075	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療				
		目	1	保健衛生総務費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実				
取組方針	2	救急医療体制の充実										
事業概要	市民が安心して医療を受けられるように、那賀広域事務組合の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	那賀広域事務組合負担金			⑤					⑨		
	②	病院群輪番制運営の審査事務			⑥					⑩		
	③	一部事務組合定例会（議会）			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	病院群輪番制病院利用者数(全体)	人	目標	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	新型コロナウイルス感染症の検査で利用する者が多くいたため、令和3年度より大幅に増えた。		
				実績	579	744	861					
	<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の年間利用者数(紀の川市・岩出市・他地区)									
	成果指標	病院群輪番制病院利用者数(紀の川市)	人	目標	500	500	500	500	500	新型コロナウイルス感染症の検査で利用する者が多くいたため、令和3年度より大幅に増えた。		
				実績	278	336	433					
	<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の年間利用者数(紀の川市)									
	活動指標	病院群輪番制病院数	医院	目標	7	7	6	6	6	公立那賀病院を含む那賀地域(紀の川市・岩出市)の6病院輪番制で二次救急に対応している。		
				実績	6	6	6					
	<指標の計算方法>		病院群輪番制病院の数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	4,781			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,781		
事業の実績	①那賀広域事務組合負担金 ・病院群輪番制による休日及び祝祭日の二次救急医療提供のため、負担金の支出を実施した。 紀の川市負担率 55.41%											
	②病院群輪番制運営の審査事務 ・病院群輪番制病院数(6) ・病院群輪番制参加医療機関 (1)公立那賀病院 (2)医療法人 殿田会 殿田胃腸肛門病院 (3)医療法人 富田会 富田病院 (4)医療法人 共栄会 名手病院 (5)社会医療法人 三車会 貴志川リハビリテーション病院 (6)医療法人 稲穂会 稲穂会病院											
	③一部事務組合定例会(議会) 8月、3月定例会(議会)開催											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・病院群輪番制是那賀保健医療圏域における休日の二次救急医療確保に必要不可欠であり、市費による負担(負担金)は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地が大きい									
・那賀休日急患診療所経営事務組合と事業を統合させることにより、休日の診療体制を強化することができる。と考える。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・病院群輪番制是那賀保健医療圏域における休日の二次救急医療確保に必要不可欠であり、単に効率性だけを求めることができない。											

事務事業の概要	事務事業名	母子健康管理事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	781
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要	妊産婦、乳幼児の健康管理を支援するために、乳幼児健診や妊産婦健康診査等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	妊産婦健診等助成			⑤			⑨			
	②	乳幼児健診・訪問指導			⑥			⑩			
	③	母子健康手帳交付			⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	乳幼児健診受診率	目標	98	98	98	99	99	新型コロナウイルス感染症の減少に伴い、受診率は増加し目標値を達成できた。		
			実績	96.8	96	98.5					
	<指標の計算方法>		乳幼児健診受診者／乳幼児健診対象者								
	成果指標	乳幼児健診において子育てに支援を要する子ども家庭の件数	目標	330	320	310	310	310	新型コロナウイルス感染症等の影響に伴い、支援を要する家庭は増加したが、件数は目標値以下となった。		
			実績	248	257	278					
	<指標の計算方法>		すこやか親子アンケートに基づく子育てに支援を要する子ども家庭の件数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
51,036			5,522	900					44,614		
事業の実績	①妊産婦健診等助成			・ブックスタート 絵本配布 300件							
	・妊婦健診 受診件数 6,101件 受診実人数 423人 ・妊婦歯科健診 受診件数 121件 ・産婦健診 受診件数 344件 受診実人数 260人			③母子健康手帳交付			・妊娠届出数 288件				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・自治体関与が求められる法定対象の事業で妥当性がある。 ・法定以外の市独自の対象者についても、社会環境の変化に対応しており実施可能であるのは市のみである。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・乳幼児健診受診率は高水準を推移しており、母子の健康状態の把握や疾病の早期発見・治療につなげるための有効な手段である。 ・一方で子育てに支援を要する子ども家庭数は増加しており、保健師等の知識や技術の向上を図ると共に、専門職の人材確保が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・新型コロナウイルス感染症の5類感染症への分類変更に伴い、乳幼児健診の実施体制（スタッフ人数、会場レイアウト、指導内容等）を見直し、効率化を図る必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名		母子保健医療給付事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	857	
	予算科目	款	4 衛生費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育					
		項	1 保健衛生費			施策目標	1	子育て環境・保育サービス					
		目	2 母子保健費			基本施策	1	子育て環境・体制の整備、支援					
事業概要		未熟児、疾病のある子どもが安心して医療を受けられるように、医療費、日常生活用具の給付を行う事業											
事務事業を構成する細事業		①	未熟児養育医療給付		⑤					⑨			
		②	小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付		⑥					⑩			
		③			⑦					⑪			
		④			⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	未熟児養育医療給付件数	件	目標	25	25	25	25	25	公費負担医療である未熟児養育医療での治療が必要な新生児等が対象となるため、治療を受けるために必要となる公費負担医療の申請件数みでの指標となり、指標にばらつきがある。			
				実績	15	20	15						
	<指標の計算方法>		未熟児養育医療給付件数										
	成果指標	小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付件数	件	目標	2	2	2	1	1		小児慢性特定疾病医療受給者が日常生活において生活用具の給付が必要な場合のみの申請件数であり、指標にばらつきがある。		
				実績	0	0	2						
	<指標の計算方法>		小児慢性特定疾病児童日常生活用具助成件数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			1,574	974	399			201					
事業の実績	①未熟児養育医療給付 給付実人員 8人 医療給付件数 15件												
	②小児慢性特定疾病児童日常生活用具給付 給付実人員 2人												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・国及び県制度に基づく事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・公費負担医療の制度である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・公費負担医療の制度であり、事業内容の改善余地はなく、事務手順についても件数も少ないため、改善は困難である。												

事務事業の概要	事務事業名		母子健全育成事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	782
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要		乳幼児が健やかに成長できるように、保護者に親子教室、発達相談等を行う事業										
事務事業を構成する細事業		① 親子教室	⑤			⑨						
		② 発達相談	⑥			⑩						
		③ 小児成育医療支援	⑦			⑪						
		④ 母子保健推進員活動の補助	⑧			⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	親子教室参加率	目標	37	37	37	50	50	目標値は上回っているが、新型コロナウイルス感染症の影響により教室開催を中止にした回もあり、参加率は低下した。			
			実績	50.5	47.8	44.7						
	<指標の計算方法>		親子教室参加者数/親子教室述べ対象者数									
	成果指標	発達相談利用者延べ人数	目標	330	300	300	300	300	新型コロナウイルス感染症の影響によるキャンセルもあり、発達相談利用者数は横ばいとなった。			
			実績	305	252	258						
	<指標の計算方法>		発達相談利用者の延べ人数									
成果指標	母子保健推進員訪問率	目標	92	90	0	0	0	新型コロナウイルス感染症の影響に伴い訪問活動を休止していたため、令和4年度における実績は無し。				
		実績	0	0	0							
<指標の計算方法>		出生世帯訪問数/出生世帯数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	9,216			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		9,216	
事業の実績	①親子教室 1歳児 参加延べ人数 346人 2歳児 参加延べ人数 156人 (※親と子の参加人数の合計)											
	②発達相談 新規相談数 97件 継続相談数 161件											
	③小児成育医療支援 新規相談件数 13件 継続相談件数 134件											
	④母子保健推進員活動の補助 令和4年度実績無し											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・法に基づく乳幼児健診後のフォローアップの位置づけであり、市以外が主体と成り得ない事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・子どもの成長発達に支援が必要であったり、育児不安を抱える保護者に対し、必要な相談や支援を行うことにより、子どもの成長を促し保護者の育児不安の軽減につながる事業である。 ・母子保健推進員の活動について、近年の社会情勢の変化に応じた活動内容の見直しが必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・親子の成長や気持ちに寄り添った丁寧な支援が必要であるが、対応可能人数に限りがあり、専門的知識を持つ発達相談員を維持確保すると共に、新たな委託事業所の開拓や発達相談員の増員についても検討が必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	不妊治療助成事業			担当課	こども課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	835	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援				
事業概要	市民が安心して不妊治療を受けられるように、不妊治療に要する費用の一部の助成を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	一般不妊治療費助成金			⑤				⑨			
	②	特定不妊治療費助成金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	一般不妊治療費助成申請数	件	目標	35	35	35	35	35	令和4年度からの制度改正により保険適用の治療が開始されたため申請数が減少した。		
				実績	35	43	30					
	<指標の計算方法>		一般不妊治療費の助成申請件数									
	活動指標	特定不妊治療費助成申請数	件	目標	30	30	30	0	0	令和3年度からの制度改正により保険適用となり、令和4年度は移行措置で年度中1回のみ申請可能となったため、大幅に申請数が減少した。		
				実績	57	49	17					
	<指標の計算方法>		特定不妊治療費の助成申請件数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
2,547				381						2,166		
事業の実績	①一般不妊治療費助成金 助成件数 30件											
	②特定不妊治療費助成金 助成件数 17件											
※令和4年4月から特定不妊治療が保険適用となり、県事業の終了とともに市事業も終了となったため、令和4年度の実績は令和3年度以前からの治療継続分のみが実績となっている。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国、県、市で財源負担しながら実施している事業であり、市が実施すべき事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・不妊治療にかかる費用は高額であり経済的負担が大きいため、負担軽減のために有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・助成費用については、県費対象分と市単独分とがありコスト効率は考えにくい。											

事務事業の概要	事務事業名	子育て世代包括支援センター運営事業			担当課	こども課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1030
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	1 保健衛生費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	2 母子保健費				基本施策	1 子育て環境・体制の整備、支援			
事業概要	妊産婦、子育て中の親子が妊娠・子育てに関し切れ目のない支援を受けられるように、支援プランに基づく包括的な支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	子育て世代包括支援センター運営			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		

指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析
	活動指標	妊娠届出時の妊婦アンケートに基づく妊婦の心身等の状況把握率	目標	100	100	100	100	100	妊娠届出時すべての妊婦に対して面談を実施できたため、全妊婦の状況把握を行うことができた。
			実績	100	100	100			
	<指標の計算方法>		妊婦アンケート時の面談数/妊娠届出数						
	成果指標	妊産婦、乳幼児への支援・相談件数	目標	550	570	570	1,500	1,500	新型コロナウイルス感染症の減少や行動制限の緩和もあり、相談件数が増加した。
			実績	1,143	1,568	1,707			
<指標の計算方法>		子育て世代包括支援センターが実施した妊産婦、乳幼児への支援・相談等の件数							
成果指標	産後の産婦・乳児に係る訪問率	目標	98	98	98	99	99	訪問率は令和3年度と同水準を維持している。	
		実績	97.3	99.7	99.3				
<指標の計算方法>		助産師・保健師による訪問数/出生した世帯数							
<指標の計算方法>									

コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)		財源内訳				
			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他
	21,008	9,947	2,086				8,975

事業の実績	①子育て世代包括支援センター運営	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービス型 利用人数 4人 利用回数 20回 ・訪問型 利用人数 23人 利用回数 84回
	<p>妊娠届出時の面談数 314件 (内) 転入時の面談数 26件</p> <p>相談件数 電話(着) 269件 電話(発) 643件 来所相談 795件</p> <p>産前産後サポート事業 訪問相談 75件</p> <p>プレパパママ教室(個別実施) 参加者数(組) 67組</p> <p>産後ケア事業 ・宿泊型 利用人数 2人 利用日数 5日</p>	

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・法定事業であり、設置運営は市町村の努力義務とされている。市以外が実施主体と成り得ない事業である。
	有効性	評価結果	改善の余地がややある	・専門職(助産師・保健師)が妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援を行い、妊娠出産や子育てなどの様々な不安に対応することで、児童虐待のリスクの早期発見や低減のためにも有効性は高い事業である。
	効率性	評価結果	改善の余地がややある	・社会情勢の変化と共に相談内容も複雑化し、相談件数も年々増加しているため、必要な時に必要な支援を受けられるよう国の補助金を活用し、専門職の確保や支援体制を強化していく必要がある。

事務事業の概要	事務事業名	感染症対策事業		担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号				
	予算科目	款	4 衛生費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1 保健衛生費			施策目標	2	健康・医療					
		目	3 予防費			基本施策	1	健康づくりと疾病予防					
目			取組方針	2		疾病予防、重症化予防対策の充実							
事業概要	市民の感染症の予防、拡大防止につなげるために、予防接種の実施、予防接種に対する助成を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	定期接種（子ども、高齢者）			⑤	予防接種検討委員会		⑨	感染症対策物品の整備				
	②	風しん追加的対策事業			⑥	医療機関、岩出市との調整		⑩	食中毒、感染症の注意報対応				
	③	予防接種受診勧奨			⑦	予防接種補助金事務		⑪					
	④	予防接種歴入力、確認および支払い事務			⑧	予防接種副反応報告		⑫					
指標の実績	指標名	単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	成果指標	MR2期の接種率	%	目標	95	95	95	95	95	令和3年度より接種率が低下したが、現在、国内での麻しんの感染が広がりつつあるため、流行が起きないように引き続き95%の目標を掲げて進めていく必要がある。			
				実績	97.2	96.5	93.8						
	<指標の計算方法>		接種率の計算方法：接種者数/対象者数(年長児)										
	成果指標	2種混合(DT)の接種率	%	目標	85	85	85	85	85			蔓延を防ぐとされている85%の接種率を上回ることができた。また、令和3年度より接種率が上昇した。従来からの感染症に対しても、流行が起きないように、引き続き85%の目標を掲げて進めていく必要がある。	
				実績	92.8	85.2	91						
<指標の計算方法>		接種率の計算方法：接種者数/対象者数(小学6年生)											
<指標の計算方法>													
<指標の計算方法>													
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
169,570			1,473		15,800	20,000		132,297					
事業の実績	①定期接種（子ども、高齢者）	予防接種名	対象者数（延べ人数）	接種者数（人）	に伴い、キャッチアップ接種対象者は、令和6年度末まで接種機会を確保し救済措置を行う。			・子育て支援アプリによる自動接種お知らせ					
		BCG	290	278	・高齢者の予防接種 各種予防接種実施状況 予防接種名 対象者数(人) 接種者数(人)	④予防接種歴入力、確認および支払い事務			⑤予防接種検討委員会 令和5年2月16日実施				
		MR1期(麻しん、風しん)	322	294		⑥医療機関、岩出市との調整			⑦予防接種補助金事務				
		MR2期(麻しん、風しん)	422	396		・感染症予防事業費等補助金			⑧予防接種副反応報告 なし				
	4種混合（百日せき、ジフテリア、破傷風、不活化ポリオ）	1,192	1,182	高齢者インフルエンザ		20,465	13,064	⑨感染症対策物品の整備					
	2種混合（DT）	531	483	高齢者肺炎球菌	2,694	592	・追加物品（アルコール等）の購入						
	（ジフテリア、破傷風）						⑩食中毒、感染症の注意報対応						
	日本脳炎	2,085	1,774	②風しん追加的対策事業	対象者数(人) 受検(接種者数・人)			【食中毒】					
	ヒブ	1,192	1,188	風しん抗体検査	4,729	171	・市広報掲載 2回						
	小児用肺炎球菌	1,192	1,183	風しん第5期予防接種	120	50	・メール配信 5回						
	子宮頸がん（定期）	3,864	278				・防災行政無線放送 4回						
	子宮頸がん（キャッチアップ）	6,606	303	③予防接種受診勧奨	・MR2期、2種混合(DT)勧奨通知 3回			【感染症】					
	水痘	644	606				・日本脳炎2期勧奨通知 1回						
	B型肝炎	870	864				・高齢者肺炎球菌勧奨通知 1回						
	ロタウイルス	580	615										
	*子宮頸がんワクチンの積極的勧奨の再開												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・予防接種については、国の定期接種の指針に基づいて行っている。感染症の蔓延を防ぐことが必要なため、市が実施することは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・接種勧奨への継続的な取組の中ではあるが、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、令和3年度を下回る接種率となったと考えられる。 ・感染症予防のため、流行が起きないように、引き続き国が示す95%（MR2期）及び85%（DT）の目標を掲げ、接種率の向上に努める必要がある。 ・子宮頸がんワクチンの積極的勧奨の再開により、キャッチアップや定期接種の対象者が接種できるよう体制整備を実施する必要がある。 ・予防接種で防げる感染症については、国からの通知に基づき、新型コロナウイルス感染症の影響により予防接種の機会を逃した方を対象とした特例措置を実施するなど、接種機会の確保に努めることができた。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・一部の予防接種について、予診票の発送を外部委託することで、事務の効率化を図っている。												

事務事業の概要	事務事業名	新型コロナウイルスワクチン接種事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R5)	事業番号	1166	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療			
		目	3	予防費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防			
事業概要	市民の新型コロナウイルス感染症による重症化を防ぐために、接種体制の整備を行い、接種を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	接種体制整備	⑤		⑨						
	②	集団接種関連業務	⑥		⑩						
	③	個別接種関連業務	⑦		⑪						
	④		⑧		⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	集団接種協力医療機関	カ所	目標			26	35	35	令和3年度より減少したものの目標値を上回る医療機関から協力を得た。減少理由は医師本人の体調によるものであった。一部医療機関からは複数の医師を派遣いただき、実際には39名の医師に従事いただいた。	
				実績			38	37			
	<指標の計算方法>		集団接種協力医療機関数 (紀の川市内58医療機関中の協力医療機関数)								
	活動指標	個別接種協力医療機関数	カ所	目標			27	40	40		令和3年度より減少したものの目標値を上回る医療機関から協力を得た。減少理由は医師本人の体調によるもの、通常とは取扱いの異なるワクチンを使用するため、自院の体制では継続困難というものであった。
				実績			44	42			
	<指標の計算方法>		個別接種協力医療機関数 (紀の川市内58医療機関中の協力医療機関数)								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位: 千円)			財源内訳							
	482,384	424,871		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
								231	57,282		
事業の実績	①接種体制整備 包括事務委託 1カ所 ・接種券の印刷、郵送 ・コールセンターの運営 年間受付件数 48,524件 ・集団接種会場の設置、運営 新型コロナウイルスワクチン接種検討委員会の開催 ・那賀医師会より医師 3名派遣 ・検討委員会開催回数 1回			◎参考資料 <一般接種率> ・1回目接種率 全体 85.3% 65歳以上 93.9% 60歳～64歳 93.4% 50歳～59歳 87.8% 40歳～49歳 79.7% 30歳～39歳 74.3% 20歳～29歳 81.2% 12歳～19歳 61.4%			30歳～39歳 22.7% 20歳～29歳 17.5% 12歳～19歳 11.1% ・5回目接種率 全体 31.0% 65歳以上 66.3% 60歳～64歳 40.1% 50歳～59歳 13.1% 40歳～49歳 7.3% 30歳～39歳 5.8% 20歳～29歳 3.3% 12歳～19歳 0.1%				
	②集団接種関連業務 本庁南別館で実施(土・日) ・延べ実施回数 99回 ・延べ接種回数 10,377回			・2回目接種率 全体 85.0% 65歳以上 93.7% 60歳～64歳 93.2% 50歳～59歳 87.6% 40歳～49歳 79.3% 30歳～39歳 73.7% 20歳～29歳 80.4% 12歳～19歳 60.7%			<小児接種率: 5歳～11歳> ・1回目 10.2% ・2回目 9.8% ・3回目 5.1%				
③個別接種関連業務 市内42医療機関にて実施 ・延べ接種回数 45,390回			・3回目接種率 全体 72.1% 65歳以上 90.5% 60歳～64歳 86.4% 50歳～59歳 74.8% 40歳～49歳 60.0% 30歳～39歳 53.0% 20歳～29歳 54.2% 12歳～19歳 34.4%			<乳幼児接種率: 6カ月～4歳> ・1回目 2.5% ・2回目 2.3% ・3回目 1.5%					
			・4回目接種率 全体 50.4% 65歳以上 81.6% 60歳～64歳 68.1% 50歳～59歳 45.0% 40歳～49歳 29.4%			<市外医療機関での接種> ・延べ接種回数 4,453回 ・全接種回数に占める割合 7.4%					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・予防接種法に基づき実施しており事業の妥当性は高い。対象者の拡大や接種回数の変更等にも柔軟に対応し、集団接種を中止する市町村も多い中、集団と個別の二種類の接種方法を継続して実施することで、市民が接種しやすい体制づくりを行った。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある ・ワクチン接種について市独自で効果の検証を行うことが難しい。国も令和4年度の途中からワクチン接種の効果を感染予防、発症予防から重症化予防にあることを前面に打ち出してきたため、接種数が伸び悩んだ。 ・ワクチン接種により重症化予防だけでなく後遺症予防にも効果があるとの調査報告もあるため、市民にワクチン接種のメリットを説明しながら引き続き本事業を進めて行く。								
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・国の方針変更により、計画の見直しを余儀なくされることも多く、それに伴い追加費用が発生する場合がある。 ・上記のような状況ではあるが、その都度効率性やコスト抑制を考えながら事業をすすめている。 ・全国的に本事業にかかるコストが高いことが指摘されており、更なるコスト抑制のため契約単価等を見直す必要がある。								

事務事業の概要	事務事業名	健康づくり事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	55	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 健康・医療				
		目	4 保健事業費				基本施策	1 健康づくりと疾病予防				
取組方針	1		正しい生活習慣の定着を図る取組の充実									
事業概要	市民が健康的な生活を送れるように、紀の川市健康増進計画に基づき、地域と連携しながら健康づくりを行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 身体活動向上事業			⑤ 食生活改善推進協議会補助金			⑨					
	② 健康推進員活動支援			⑥ 健康増進計画策定・進行管理			⑩					
	③ 保健師研修・育成			⑦ 健康アドバイザー事業			⑪					
	④ 市町村保健師協議会負担金			⑧ 紀の川市ピンクリボンキャンペーン推進本部			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	食生活改善推進事業参加者数	人	目標	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	新型コロナウイルス感染症拡大にて調理を伴うイベントを自粛していたが、少しずつ小さな集団から感染対策を講じて実施を再開している。新型コロナウイルス感染症が、5類になりイベント等が再開すれば参加者数の増加が見込まれる。		
			実績	131	149	212						
	<指標の計算方法>		食生活改善推進事業の一般参加者の合計人数									
	成果指標	健康増進に係る事業参加者数(チャレンジ100万歩事業)	人	目標	500	500	500	500	500	令和3年度と同程度の参加者数であった。例年と同様に既存の参加者が多いことと10月のみのイベントとなっている。今後は、新規参加者を獲得し、継続した健康づくりのきっかけとなる事業展開を検討する必要がある。		
			実績	623	503	538						
	<指標の計算方法>		チャレンジ100万歩参加者数									
	活動指標	紀の川市民健康づくり11か条(概要版)配布部数	部数	目標	500	500	500	500	500	チャレンジ100万歩への参加者や食生活改善推進員などへ配布した。		
			実績	25,450	577	715						
	<指標の計算方法>		健康づくり11か条(概要版)配布部数									
<指標の計算方法>												
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	1,322			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	989		
事業の実績	①身体活動向上事業 ・チャレンジ100万歩2022事業 実施期間 令和4年10月(1か月間) 申込者・参加者 128チーム 538人(内結果返送者519人、目標達成者365人)											
	②健康推進員活動支援 ・健康推進員登録者数 66人 ③保健師研修・育成(計5回参加) ④市町村保健師協議会負担金 30,000円+2,000円×21人(保健師数) ⑤食生活改善推進協議会補助金 ・会員64人 ・新型コロナウイルス感染症の影響により支部活動は制限せざるを得なかった。また養成講座については感染対策を実施し、3人を養成。											
⑥健康増進計画策定・進行管理 ・健康づくり推進庁内会議の開催(1回) ・健康増進計画策定に関する業者選定(プロポーザル)の実施。 ⑦健康アドバイザー事業 中川先生に働く世代の40,50歳代をターゲットにした、生活習慣・がんに関する動画(30~40分程度)を作成してもらい、紀の川市公式YouTubeで配信。 ⑧ピンクリボンキャンペーン推進本部 ・10月に青洲の里にてピンクリボンウォーキングを開催予定も新型コロナウイルス感染症拡大にて中止。 ・10/16(日)に乳がん検診(マンモグラフィー及びエコー)を実施し、112人受診した。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・健康づくり事業は、国の健康日本21を基に和歌山県健康増進計画に整合した紀の川市健康増進計画に基づく健康増進事業であり、市民が健康づくりに関心を持ち、市民一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組むきっかけとなるよう、市全体での環境づくりが重要となる為、市が主体となって実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・市民が、自分たちの健康は自分たちでという思いから自主的に、地域の健康の保持増進を図ってもらえるよう地域の健康に関わるボランティア団体を支援するのが事務局の役割である。しかし自主的な活動には至っていないのが現状である。チャレンジ100万歩も10月のイベントをきっかけにして自主的な運動の継続を目的としているが、毎年参加される方は、10月のみ歩こうと思っている人が多く、運動の継続には至っていない。目的・目標を達成するために方法を再度検討する必要がある。 ・健康づくり11か条の認知度は低い為、まずは知ってもらうことを目的に、概要版の配布を含め広報、ホームページ等にて周知を徹底していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・新型コロナウイルス感染症にて従来の祭りやイベントが中止となったことにより、健康増進事業の啓発がSNSでの配信が中心となり、集会・対面での啓発が出来なかった。ピンクリボンキャンペーン推進本部や食生活改善推進協議会等の健康づくりの啓発の実施や運動のイベントも自粛した。今後は、祭り等のイベントが再開されることが予想されるため、地域の方と直接対話によりがん検診の必要性を伝え、調理実習や運動の実践を通して、健康な生活習慣の見直しのきっかけとしてもらいたい。											

事務事業の概要	事務事業名	がん対策事業		担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	792	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心		
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療		
目		4	保健事業費	基本施策		1	健康づくりと疾病予防			
				取組方針		2	疾病予防、重症化予防対策の充実			
事業概要	市民のがんの予防や早期発見につなげるために、がん検診や受診啓発を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	がん検診			⑤	検診部会運営		⑨	関係機関との業務調整事務および会議	
	②	胃内視鏡検診二重読影事業			⑥	がん検診受診勧奨		⑩	和歌山県がん検診推進支援事業補助金	
	③	肺がん検診二重読影事業			⑦	がん検診結果入力・確認		⑪		
	④	乳がん検診精度管理委員会運営			⑧	がん検診精密検査受診勧奨		⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	集団検診申込者数	人	目標	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	以下の理由から申込者の減少に繋がったと考える。①新型コロナウイルス感染症を懸念して集団ではなく個別検診を受診した。②申込締め切り後の追加申込を受付なくなった。③個別検診で全ての検診が受診できるようになった。 個別検診を充実させたこともあり、同等の検診が近くの医療機関で受診可能なため集団検診の受診者数が伸びなかった原因と考える。今後も受診を希望する住民が、集団でも個別でも検診を受けることが出来る体制を整える。 個別検診と同様の検診が受診することができるという認識が定着しつつあり、集団検診を受診していた方が、個別検診へ移行してきていると考える。 新型コロナウイルス感染症拡大前の受診率には及ばないが、定期的な勧奨と10月のピンクリボン月間での日曜日検診もあり、受診率は上がってきている。
			実績	23,440	18,566	14,319				
	<指標の計算方法>		集団検診(胃・肺・大腸・乳がん検診)の申込者数の合計							
	成果指標	集団検診受診者数	人	目標	17,500	17,500	17,500	17,500	17,500	
			実績	3,848	10,926	9,904				
	<指標の計算方法>		集団検診(胃・肺・大腸・乳がん検診)の受診者数の合計							
	成果指標	個別検診受診者数	人	目標	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	
			実績	9,358	10,531	9,667				
	<指標の計算方法>		個別検診(胃・肺・大腸・乳・子宮頸がん検診)の受診者数の合計							
成果指標	乳がん検診受診率	%	目標	30	30	30	30	30		
		実績	7	17	18.6					
<指標の計算方法>		乳がん検診(集団・個別)の受診者数÷対象年齢の全住民×100								
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	94,389			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			91,581							
事業の実績	①がん検診 〔集団検診〕〔受診者数/対象者数〕 胃がん検診(40～74歳) 1,375人/29,437人 大腸がん検診(40歳以上) 3,550人/40,194人 肺がん検診(40歳以上) 3,798人/40,194人 喀痰検診(50歳以上・喫煙指数600以上) 117人/551人 乳がん検診(40歳以上偶数年齢) 1,181人/11,014人 〔個別検診〕〔受診者数/対象者数〕 胃がん検診(40歳以上) 1,582人/40,194人 大腸がん検診(40歳以上) 2,857人/40,194人 肺がん検診(40歳以上) 2,523人/40,194人 喀痰検診(50歳以上・喫煙指数600以上) 185人/341人 乳がん検診(40歳以上偶数年齢) 870人/11,014人 子宮頸がん検診(20歳以上偶数年齢) 1,835人/13,499人 (※内275人は妊婦健診で受診)			〔総受診者数、受診率、がん発見者数〕 ・胃がん検診 2,957人(7.4%) (4人) ・大腸がん検診 6,407人(15.9%) (10人) ・肺がん検診 6,321人(15.7%) (2人) ・乳がん検診 2,051人(18.6%) (4人) ・子宮頸がん検診 1,835人(13.6%) (1人) ②胃内視鏡検診二重読影事業 ・二次読影は、一次検査データを受け取ってからおおむね10日以内に完了できている。 ③肺がん検診二重読影事業 ・二次読影は、一次検査データを受け取ってからおおむね20日以内に完了できている。 ④乳がん検診精度管理委員会運営 1回 ⑤検診部会運営 1回 ⑥がん検診受診勧奨 ・集団検診(胃がん・肺がん・大腸がん)申込者でいずれかの検診未受診者998人に実施し、55人受診した。 ・過去3年間乳がん検診未受診者 40/44/50/54/60/64歳1,819人に実施し、			180人が受診した。 ・過去3年間子宮頸がん検診未受診者 30/34/40/44歳786人に実施し、103人が受診した。 ⑦がん検診結果入力・確認 ・検診受診履歴等をデータベースで経年蓄積管理している。 ⑧がん検診精密検査受診勧奨 3回/年 ⑨関係機関との業務調整事務および会議 ・検診事業の評価等、関係機関と情報共有を図った。 ⑩和歌山県がん検診推進支援事業補助金 ・要綱に則り、適当な額を交付申請した			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・がん対策事業は、健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業として市が実施する事業であり、がんによる死亡率を低下させるため科学的根拠のあるがん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針に沿って、全市民に受診機会を提供する為、市が主体となって実施することは妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
		・がんの予防、早期発見・治療は、市民の身体的・経済的負担を軽減するものであり、紀の川市民のがんによる死亡率の低下につながる。健康増進法第19条の2に基づく健康増進事業として、がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針に基づき、検診の種類・対象年齢、実施頻度を設定している為、対象者が受診機会に確実に受診するよう勧奨していく必要がある。引き続き、受診率向上に向けた取り組みが求められる。 ・今後はさらにイベント等にてがん検診の受診勧奨、ナッジ理論を活用した個別勧奨の実施を行い、受診率のさらなる向上を図る必要がある。								
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
・新型コロナウイルス感染症拡大にて、現在の集団検診のやり方では対応困難な状況もあった。また、検診に伴う事務作業では、検診日の割り振りや郵送事務、検診当日の受付業務等、さらに検診委託業者に依頼できる業務を検討していく。また、検診結果のデータ入力・報告等でも人と時間が必要であるが、電子システムをより活用するなどし、職員は、受診率向上のための計画や受診勧奨等の直接的な住民サービスに業務を割けるよう検討していく余地はある。										

事務事業の概要	事務事業名	成人保健事業		担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	4 衛生費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
	目	1	保健衛生費		施策目標	2	健康・医療			
	目	4	保健事業費		基本施策	1	健康づくりと疾病予防			
事業概要	健康増進法に基づき、市民の健康維持と生活習慣病予防を目的として実施する健康増進事業									
事務事業を構成する細事業	①	肝炎ウイルス検診		⑤	ヘルスアップ健診		⑨			
	②	歯周疾患検診		⑥	健康増進事業費補助金		⑩			
	③	健康教室・相談		⑦			⑪			
	④	健康手帳発行		⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	成果指標	歯周疾患検診受診率	目標	10	10	10	10	10	令和4年度は、集団検診会場にて歯周疾患検診受診勧奨チラシを配布した事により、受診率が上がったと考える。今後も受診勧奨の手法を検討しさらなる受診率向上を目指す。	
			実績	7.7	6.8	11.3				
	<指標の計算方法>		年間歯周疾患検診受診者数/年間歯周疾患検診の対象者数*100							
	活動指標	肝炎ウイルス検診申込者数	目標	1,600	1,600	1,000	1,000	1,000	令和3年度から個別医療機関にて受診できる体制を整えたため、集団検診での申込者数は減少しているが、個別検診での希望者が増えている。	
			実績	872	738	669				
	<指標の計算方法>		年間肝炎ウイルス検診申込者数							
成果指標	肝炎ウイルス検診受診者数	目標	500	1,000	500	500	500	令和3年度は、対象者全員に個別通知にて受診勧奨を行ったため受診者数が増えたが、令和4年度は40歳になった人のみ個別に受診勧奨を実施したため、受診者数は激減した。		
		実績		2,007	333					
<指標の計算方法>		年間肝炎ウイルス検診の受診者数								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	3,192			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
			2,068						1,124	
事業の実績	①肝炎ウイルス検診 実施内容：血液検査によるB型・C型肝炎ウイルス抗体検査 自己負担：無料 対象者：40歳以上で過去に肝炎ウイルス検査を受けたことのない者 〔個別検診〕 受診者：71人 申込者：25人 40歳全員(619人)に個別勧奨実施し、46人受診 〔集団検診〕 受診者：262人 申込者：644人 受診率：40.6%		②歯周疾患検診 実施期間：R4年4月1日～R5年3月31日 実施場所：県内協力医療機関 自己負担：無料 対象者：R4度 40歳、50歳、60歳、70歳 受診率：11.3% 対象者：3310人		③健康教室・相談		<ul style="list-style-type: none"> ・電話や面談等で個別相談にて対応(随時) ④健康手帳発行 集団検診時、希望者に健康手帳を発行。検診の記録等を自己管理。 ⑤ヘルスアップ健診 集団検診で実施 1人 ⑥健康増進事業費補助金 要綱に則り、適当な額を交付申請した。 			
	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・国の健康増進事業に基づく事業であり、市が実施する事業として妥当である。								
有効性	評価結果	改善の余地がややある								
	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周疾患検診は、集団検診にて粗品と受診勧奨のチラシを手渡したことで、受診率はやや改善した。 ・肝炎ウイルス検診の受診率向上に向けては、40歳になる方への個別通知に加え、SNS等を活用した受診勧奨が必要と考える。 ・各検診の受診勧奨については、ナッジ理論を活用した受診勧奨の工夫が必要である。 									
効率性	評価結果	改善の余地がややある								
	肝炎ウイルス検診や歯周疾患検診は、健康増進事業であり、県の補助対象事業であるため、市の支出は軽減されている。肝がんの原因の6割が肝炎ウイルスであり、肝がんによる市民の心身の負担と医療費の軽減のためにも早期発見し治療につなげるために受診勧奨等の周知方法を再検討する。									

事務事業の概要	事務事業名	保健福祉センター管理運営事業			担当課	健康推進課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	57	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 保健衛生費				施策目標	2	健康・医療			
		目	5 保健福祉センター費				基本施策	1	健康づくりと疾病予防			
事業概要	市民が保健福祉センターを安全で快適に利用できるように、施設の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	桃山保健福祉センター維持管理業務			⑤				⑨			
	②	桃山保健福祉センターピーチホール等施設の貸出業務			⑥				⑩			
	③	桃山保健福祉センター各種委託業務			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	集団住民検診(桃山地区)	日	目標	5	5				令和4年度より、桃山地区集団検診について新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、より広いスペースを確保するため、市民体育館に場所を変更した。		
				実績		5						
	<指標の計算方法>		集団検診(桃山地区)の実施回数									
	成果指標	ピーチホールの使用回数	回	目標	215	215	215	215	215	5月末から12月末までの間、浄化槽の修繕工事によりトイレ等水回りの使用が制限されていたため、施設の貸出を中止していた。そのため、使用回数が減少した。1月から再開され、徐々に使用回数は増えてきている。		
実績				142	232	161						
<指標の計算方法>		ピーチホールの使用回数(午前・午後・夜間:各1回、全日利用:3回)										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	26,342			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
					13,400		3,122	9,820				
事業の実績	①桃山保健福祉センター維持管理業務 <ul style="list-style-type: none"> 消防用設備保守点検で要是正となった、誘導灯の取替修繕を実施 建築物設備定期検査で要是正となった、非常照明器具取替修繕と調理実習室換気ダクト吸気不良修繕の実施 浄化槽破損に伴う修繕工事の実施 1階2階のトイレ修繕の実施 破損した窓ガラスの修繕交換の実施 											
	②桃山保健福祉センターピーチホール等施設の貸出業務											
	③桃山保健福祉センター各種委託業務 <ul style="list-style-type: none"> 清掃委託業務 機械警備委託業務 貯水槽清掃等委託業務 電気保安管理委託業務 冷熱機器設備保守点検委託業務 エレベーター保守点検委託業務 消防用設備保守点検委託業務 防火設備点検委託業務 敷地内管理委託業務 調理室害虫駆除委託業務 特殊建築物設備定期検査委託業務 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地が大きい									
		・災害による避難所の役割も兼ねているため、市民が安全で快適に利用できるように、市が施設管理を行うことは妥当である。										
		評価結果	改善の余地が大きい									
有効性	・施設の利活用について、今後の維持管理を踏まえ、関係各課と協議を継続していく必要がある。											
	評価結果	改善の余地がややある										
効率性	・今後も施設の老朽化や設備の経年劣化による工事および修繕が増えてくると思われるが、施設の定期検査や設備の保守点検を適切に実施し、施設の維持管理を効率的に進めていくことが重要である。											

事務事業の概要	事務事業名	環境保全事業			担当課	環境衛生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	804	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6 環境衛生費				基本施策	1 快適な生活環境の維持				
事業概要	市民に快適な環境の中で生活を営んでもらうために、産業廃棄物処理施設等の設置申請の意見具申やあき地の適正管理の指導、周知、啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 環境保全審議会運営			⑤ 空き地管理			⑨					
	② そ族昆虫対策			⑥ 休廃止鉱山鉱害防止等工事補助金			⑩					
	③ 公害対策・発生防止			⑦ 騒音・振動・悪臭対策			⑪					
	④ 温暖化・省エネルギー対策			⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	空き地管理指導に対する対応件数	目標	130	130	130	130	130	令和2年度より指導通知方法を改善し取り組んでいるが、令和3年度が減少したのみで、例年とほぼ同数となった。今後も引き続き粘り強く適正管理について指導に努めていく。			
			実績	182	144	182						
	<指標の計算方法>		指導に対する対応件数									
	成果指標	空き地管理指導に対する対応率	目標	100	100	100	100	100	例年、80%前後の対応率となっており、令和2年度より指導通知方法の改善に取り組んでいるが、本年度の対応率は70%を下回り、対応率の向上には至らなかった。			
			実績	78.4	75.4	68.9						
	<指標の計算方法>		対応件数/管理指導件数									
活動指標	空き地管理指導件数	目標	200	200	200	200	200	例年、200件程度の苦情が寄せられており、増加している要因として、土地所有者の高齢化や相続人の市外流出等による土地管理不足がある。また、同じ土地への苦情も多く、土地所有者の意識改革に努めていく。				
		実績	232	191	264							
<指標の計算方法>		空き地管理指導件数										
活動指標	空き地適正管理広報掲載回数	目標	3	3	3	3	3	例年、広報紙に掲載を行い、啓発を行っている。				
		実績	3	3	3							
<指標の計算方法>		空き地適正管理広報掲載回数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	760			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		760	
事業の実績	①環境保全審議会運営 新型コロナウイルス感染症防止のため、中止			(排出抑制・計画等報告書) 県へ提出								
	②そ族昆虫対策 蜂の防護服貸出状況=72件 (打)18 (粉)5 (那)14 (桃)6 (貴)26 (鞍)3			⑤空き地管理 対応数 182件/指導数 264件 対応率 68.9%								
③公害対策・発生防止 各種苦情対応 61件 (大気汚染)10、(水質汚濁)9、(騒音)5、 (悪臭)11、(不法投棄)8、(動物)4、 (土地管理)3、(その他)11			⑥休廃止鉱山鉱害防止等工事補助金 (坑廃水処理補助対象経費) 5,988,589円 (紀の川市補助金交付額) 498,000円 (補助率) 国：9/12、県：2/12、市：1/12									
④温暖化・省エネルギー対策 事業所として紀の川市役所の年間エネルギー 使用量合計の原油換算値が1,500k1以上のため 提出 原油換算値 2,478k1 (定期報告書) 国へ提出 (中長期報告書) 国へ提出			⑦騒音・振動・悪臭対策 騒音対策 2案件 悪臭対策 1案件									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民からの申し出や相談により、周辺の生活環境を損なっている土地所有者への改善の指導、悪臭や騒音等の生活環境を損なう様々な要因に対し、中立の立場から解決を図り、市民がより良い環境で生活できるようにするため、市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・土地所有者に対する指導や、様々な現場に出向き、改善に導くことには有効性がある。 ・土地所有者に指導通知を郵送する際、シルバー人材センターのチラシを同封し、ひとつの改善の手段として周知している。 ・近年、土地所有者の高齢化、相続人の市外流出等により改善が図られない土地もあり、そのような土地の管理、改善のための対応等の指導が課題となっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・土地所有者の連絡先が土地登記簿に記載されている住所以外不明な場合が多々あり、「自身が所有する土地は、自己において適正に管理しなければならない」という意識を強く持つてもらえるよう郵送による通知にて指導を行っている。しかしながら、即効性があるとは言えず、現在の郵送による通知を継続し、粘り強く指導していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	地域美化事業			担当課	環境衛生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	809	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6 環境衛生費				基本施策	1 快適な生活環境の維持				
取組方針	2 美しいまちづくりの推進											
事業概要	市民が快適な環境の中で生活を営んでもらうために、市民、行政が連携して地域環境の美化活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	都市下水路管理			⑤	地域一斉清掃補助金			⑨			
	②	廃棄物処理(汚泥・死骸)			⑥				⑩			
	③	美化啓発			⑦				⑪			
	④	廃棄物処理負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	水路清掃参加世帯数	世帯	目標	15,200	15,200	15,200	15,200	15,200	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、清掃参加自体が大幅に減少し、自治区1区あたりの参加世帯数も激減した。徐々に参加自治区及び自治区1区あたりの参加世帯数も増加し、今後も増加すると見込んでいる。		
			実績	7,350	9,274	10,961						
	<指標の計算方法>		水路清掃参加世帯数									
	活動指標	水路清掃補助件数	件	目標	199	199	199	199	199	参加世帯の実績値は令和3年度と比較し増加したが、令和5年度から新型コロナウイルス感染症が2類相当から5類に変更されるため、参加世帯数は増加すると見込んでいる。		
			実績	87	94	100						
<指標の計算方法>		水路清掃補助件数										
<指標の計算方法>												
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	9,710			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9,710		
事業の実績	①都市下水路管理 ・水路清掃 ・粉河駅～紀陽銀行：R4.7.29実施 ・紀陽銀行～天福荘：R4.7.29実施 ・マンホール会所清掃 ・県道粉河寺線(24箇所)：R4.7.29実施 ・市道「小田井線」(34箇所)：不実施 ・市道「粉河・井田線」(13箇所)：不実施 ※H30から、マンホール会所部分を隔年で浚渫作業を実施			・野焼き対応 6件			③美化啓発 「犬のフン防止看板」や「ごみポイ捨て禁止看板」等を購入し、再発防止と地域環境美化の啓発			⑤地域一斉清掃補助金 ・各自治区水路清実施事業 【打田・粉河・那賀】自治区 搬入期間：令和4年4月24日～7月18日 ※年間通し受入可 搬入場所：大栄環境(株) 粉河リサイクルセンター 実績…土砂：127.47t、草：0.65t 【桃山・貴志川】自治区 搬入期間：令和4年4月24日～5月29日 ※年間通し受入可 搬入場所：(土砂) 旧貴桃CC不燃物処理場 (草等) 紀の海グリーンセンター 実績…土砂：97.78t、草：15.38t ・各自治区水路清掃補助金交付事業 ※参加1世帯につき、100円を補助(参加世帯数) 10,961世帯(参加自治区数) 100自治区		
	②廃棄物処理(汚泥・死骸) ・20kg以上の大型動物死骸処理業務を委託 【委託先】和歌山市西浜(株)岸化学 6頭処理(猪 0頭、鹿 5頭、犬 1頭) ・休日の動物死骸収集運搬業務及び野焼き苦情現場確認業務を委託 【委託先】(株)共立メンテナンス 紀の川営業所 67回出動(67回処理) ・動物死骸処理 61件			④廃棄物処理負担金 自治区水路清掃から出る土砂について、受託業者の最終処分場が三重県伊賀市及び大阪府和泉市となり、両処分場においては、地方公共団体から搬入される一般廃棄物に対し、環境保全負担金を支出 ・伊賀市(R2年度より)1,000円/t ・和泉市(R元年度より)1,000円/t [令和4年度処理] ・土砂(225.25t)：伊賀市へ搬入処分 ・草木(0.65t)：和泉市へ搬入処分 ※緊急対応時のために、伊賀市へ粹取り(土砂：350t)の協定を締結								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・各自治区が実施する水路清掃は、地域住民と行政が共にきれいで衛生的なまちづくりを行うための意識を共有することを目的とし、清掃時に生じる土砂、草等は、自治区にて処分することが困難となるため、市が処分費等を支出し支援すると共に水路清掃参加世帯数に応じ補助金を交付することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・各自治区にて実施される水路清掃に対し、参加世帯数に応じ補助金を交付し、衛生的な生活環境への意識革命を促すための事業として位置付けている。 ・今後、高齢化等により清掃が困難となってくる自治区も予想されることから、より官・民の連携を深めると共に自治区を超えた地域美化・環境保全について検討する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・自主的に行われる地域住民の水路清掃活動に対し交付される土砂・草等の処理費及び参加補助金は、官・民連携による地域美化の活動費であり、活動実績に応じた補助費用であることから効率的に実施できている。											

事務事業の概要	事務事業名		不法投棄防止事業			担当課		環境衛生課		事業区分	ソフト事業	
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	815
	予算科目	款	4 衛生費		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1 保健衛生費			施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6 環境衛生費			基本施策	1	快適な生活環境の維持				
事業概要		市民に自然環境や生活環境の保全された中で生活を営んでもらうために、不法投棄の未然の防止や迅速な回収を行う事業										
事務事業を構成する細事業		①	不法投棄防止啓発・パトロール		⑤					⑨		
		②	不法投棄物撤去・処理		⑥					⑩		
		③	監視カメラ貸出		⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	不法投棄発見件数	件	目標	300	300	300	300	300	近年では200件前後となっており、パトロールの強化・啓発は行っているが不法投棄が絶えないことから令和4年度は増加となった。		
				実績	236	143	148					
	<指標の計算方法>		不法投棄発見件数									
	活動指標	不法投棄監視パトロール件数	件	目標	450	400	400	400	400	年間を通じ常時かつ臨時的に精力的にパトロールを行っている。		
				実績	273	265	250					
	<指標の計算方法>		不法投棄監視パトロール件数									
	活動指標	不法投棄防止広報紙掲載回数	回	目標	3	3	3	3	3	例年どおり3回広報紙掲載を行い、不法投棄防止の啓発を行った。		
実績				3	3	3						
<指標の計算方法>		広報紙掲載回数										
活動指標	監視カメラ貸出回数	回	目標	8	8	8	8	8	監視カメラを貸出し、不法投棄防止に活用した。令和4年度は同じ場所に定期的に不法投棄されるが多かったため、自治区等への貸出回数が増加した。			
			実績	8	8	28						
<指標の計算方法>		監視カメラ貸出回数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	6,511			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	6,511		
事業の実績	①不法投棄防止啓発・パトロール ・広報紙による啓発 ・不法投棄防止啓発看板・のぼりを配布 ・会計年度任用職員・正職員でパトロール ・年2回(6月・12月)、岩出保健所、各支所 合同でパトロール ②不法投棄物撤去・処理 ・会計年度任用職員撤去回数 120回 ・正職員撤去回数 28回 ③監視カメラ貸出 ・カメラ貸出回数 28回 (自治区 2回、庁内 26回)											
	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・不法投棄は依然として多く、通行の妨げや不法投棄を誘発する可能性のあるものには早期発見・早期撤去が望ましく、きれいな街づくりのため、市が事業を実施することは妥当である。										
有効性	評価結果	改善の余地がややある										
	・不法投棄監視パトロールを実施することにより、不法投棄を未然に防止・再発を抑制し環境保全が維持できるだけでなく、事故防止、事件防止にも繋がるため、有効性の高い事業である。 ・1人でのパトロールには限界があり、不法投棄物の見落としや応援を呼んでからの再撤去など時間のロス等に繋がる。また安全面を考慮し、2名体制でのパトロールの実施がより有効的である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・今後、パトロールの実績をもとに、警察など関係機関と情報の共有を図るとともに連携を強化し、不法投棄防止に努めていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	浄化槽普及促進事業			担当課	環境衛生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	810	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 保健衛生費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6 環境衛生費				基本施策	3	適切な生活排水対策の推進			
取組方針	2			浄化槽の普及促進とし尿の適正処理								
事業概要	市民が公共用水域の水質汚濁の防止がされた衛生的な生活ができるように、市民（合併処理浄化槽設置者）に合併浄化槽設置に関する補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	浄化槽普及促進協議会負担金			⑤				⑨			
	②	浄化槽設置整備事業補助金			⑥				⑩			
	③	浄化槽台帳整備			⑦				⑪			
	④	県水質保全センター負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	合併処理浄化槽人口普及率	%	目標	50	51	52	53	54	新築及びくみ取り便槽または単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換に伴い普及率が年々上昇している。		
				実績	55.1	56	59.2					
	<指標の計算方法>		合併処理浄化槽人口普及率									
	活動指標	浄化槽補助基数	基	目標	230	230	230	230	230	くみ取り便槽または単独処理浄化槽から合併処理浄化槽へ転換した場合の配管工事費に対する補助金交付により、合併処理浄化槽の普及が進んでいる。		
				実績	200	214	214					
	<指標の計算方法>		浄化槽補助基数									
	活動指標	単独転換補助基数	基	目標	10	10	10	10	10	単独処理浄化槽を合併処理浄化槽に転換してもらえるかが課題となっている。配管工事費に対する補助金交付は有効な手立てとなっている。		
				実績	8	5	11					
	<指標の計算方法>		単独転換補助基数									
活動指標	配管工事補助基数	基	目標	85	85	85	85	85	くみ取り便槽または単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換に伴う配管工事費を補助することにより、合併処理浄化槽への転換が促進されているが、令和3年度よりは減少した。			
			実績	64	51	47						
<指標の計算方法>		配管工事補助基数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
91,759			34,176	29,212					28,371			
事業の実績	①浄化槽普及促進協議会負担金 ・浄化槽普及促進協議会への負担金 63,000円			・くみ取り便槽撤去補助件数・補助金額 ・5人槽 5件、7人槽 5件 900,000円								
	②浄化槽設置整備事業補助金 ・浄化槽設置整備補助金交付・補助件数・補助金額 ・5人槽 179件 59,428,000円 ・5人槽 (更新) 4件 888,000円 ・7人槽 25件 10,350,000円 ・7人槽 (更新) 1件 276,000円 ・10人槽 3件 1,644,000円 ・10人槽 (更新) 1件 366,000円 ・25人槽 1件 548,000円 計 214件 73,500,000円			・配管工事補助件数・補助金額 ・5人槽 30件、7人槽 16件、 10人槽 1件 13,776,100円			③浄化槽台帳整備 ・浄化槽管理システム利用料 198,000円					
	・単独処理浄化槽撤去補助件数・補助金額 ・5人槽 6件、7人槽 5件 990,000円			④県水質保全センター負担金 ・入会金 10,000円 (令和4年度のみ) ・会費 10,000円								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・合併処理浄化槽設置を推進し普及促進することにより、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するとともに、市民が快適で衛生的な生活が行えるようにすることを目的としている。 ・新たな住宅へ合併処理浄化槽を設置する者、また既存便槽を合併処理浄化槽へ転換する者に対し補助金を交付することは、設置者の費用負担の軽減が図られるため、市で実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・浄化槽補助件数は減少傾向であったが、平成30年度より単独処理浄化槽又はくみ取り便槽から合併処理浄化槽へ転換する場合の配管工事についても補助対象となったことから補助件数は増加傾向にある。しかしながら、計画目標値までには至っていない状況となっている。 ・補助金申請者には浄化槽管理講習会の受講を義務付け、浄化槽の保守点検、清掃、法定検査等を遵守し適正な管理に努めていただくよう指導・啓発を行い、生活排水による公共用水域の水質汚濁の防止を図るとともに汚水処理人口普及率の向上に努めていく必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
・単独処理浄化槽やくみ取り便槽の方々に対して、従来からの補助金に加え、平成30年度から導入した配管工事の補助金を活用して合併処理浄化槽に転換してもらえるよう普及・啓発に取り組んだことにより、合併処理浄化槽への転換が進んでいる。今後も、汚水処理人口普及率の向上に向け、引き続き合併処理浄化槽への転換、普及啓発が必要である。												

事務事業の概要	事務事業名	水質保全事業			担当課	環境衛生課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	813	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	保健衛生費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	6	環境衛生費		基本施策	1	快適な生活環境の維持				
取組方針	3	生活衛生の向上										
事業概要	市民が公共用水域の水質汚濁の防止がされた衛生的な生活ができるように、市内河川等の水質検査及び浄化槽維持管理の適正化を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	水質検査			⑤					⑨		
	②	貴志川水質保全対策連絡協議会負担金			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	検査項目BOD値で環境基準値内の検査箇所数	箇所	目標	37	37	37	37	37	検査項目BOD値は全ての検査箇所 で環境基準内で収まっている。		
				実績	37	37	37	37				
	<指標の計算方法>		検査項目BOD値で環境基準値内の検査箇所数									
	活動指標	水質検査箇所数（紀の川、貴志川支流）	箇所	目標	39	39	39	39	39	水質検査箇所数は全て目標どおり 検査できている。		
				実績	39	39	39	39				
	<指標の計算方法>		水質検査箇所数（紀の川、貴志川支流）									
	活動指標	浄化槽の適正な維持管理の啓発回数	回	目標	3	6	6	4	4	浄化槽の適正な維持管理は、管理講習会等で啓発を行っており、令和4年度は全て開催することができ、十分に啓発することができた。		
				実績	3	3	6	6				
	<指標の計算方法>		浄化槽の適正な維持管理の啓発回数									
成果指標	汚水処理人口普及率	%	目標	80	80	80	80	80	市の汚水処理人口普及率は、合併処理浄化槽設置及び公共下水道の供用区域拡充に伴い年々上昇している。			
			実績	72	73.1	76.7	76.7					
<指標の計算方法>		総人口に占める汚水処理施設の処理人口の割合										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	609			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	609		
事業の実績	①水質検査 市内河川検査委託 ・水質検査の実施 令和4年8月23日、24日：紀の川市内河川33箇所 夏季分 令和5年2月27日、28日：紀の川市内河川33箇所 冬季分 ②貴志川水質保全対策連絡協議会負担金 ・水質検査の実施 （貴志川水質保全対策連絡協議会として） 令和4年6月28日：貴志川水系（紀の川市内分）6箇所 夏季分 令和4年12月15日：貴志川水系（紀の川市内分）6箇所 冬季分 ※ただし、6箇所中2箇所はふん便性大腸菌群数のみ検査											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市内河川33箇所（生活環境・健康に関する検査17項目）及び貴志川水系6箇所（生活環境に関する検査5項目）の水質検査を実施する事業である。公共用水域の水質汚濁の防止を図り、市民が快適で衛生的な生活が送れるように水環境の保全を行うことを目的としているため、市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・水質検査は、全ての検査箇所で行った検査項目BOD値が基準値内に収まり、目標どおりとなっている。その一方で33箇所のうち、数箇所では河川の水の透視度が若干悪い箇所が見受けられた。 ・貴志川水系は検査時において、水浴に不適な箇所が全くなく、河川の環境基準値を十分に満たしており、清浄な状態である。今後も引き続きこの良好な水質保全を保ち続けていくために、検査結果を公表し、良好な河川の水質保全について、更なる通知、啓発をしていく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・より良い水環境の保全に向けて、汚水処理人口普及率の向上及び合併処理浄化槽の適正管理に向けた啓発等に取り組むとともに、常に河川の状況を把握しておくことは重要なことである。 ・民間業者に水質検査を委託することで精度の高い検査を実施することができ、検査結果の状況を常に確認できることは、より良い水環境の保全に努めることができるため効率性が高い。											

事務事業の概要	事務事業名	畜犬管理事業			担当課	環境衛生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	814
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 保健衛生費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6 環境衛生費				基本施策	1	快適な生活環境の維持			
取組方針				3	生活衛生の向上							
事業概要	市民（飼い主）にペットの衛生的に適切な飼育を行ってもらうために、飼い犬の登録、予防接種を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	犬登録・管理			⑤				⑨			
	②	狂犬病予防注射			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	予防注射接種件数	件	目標	2,200	2,200	2,200	2,200	2,200	年々減少傾向であったが、令和4年度は増加した。引き続き狂犬病予防の必要性を飼い主に理解してもらい啓発を行っている。		
				実績	2,097	2,039	2,129					
	<指標の計算方法>		畜犬の予防接種件数									
	活動指標	新規犬登録件数	件	目標	240	240	240	240	240	登録の際、予防接種の必要性をはじめ、飼育に関するモラルについて啓発を行っている。		
				実績	280	260	274					
	<指標の計算方法>		新規犬登録件数									
	活動指標	予防注射通知件数	件	目標	3,800	3,800	3,800	3,800	3,800	狂犬病予防集合注射の実施2週間前を目途に、登録のある畜犬の飼い主に案内はがきを例年ほぼ同数送付している。		
				実績	3,516	3,544	3,486					
	<指標の計算方法>		はがき発送件数									
成果指標	予防注射接種率	%	目標	100	100	100	100	100	接種率は依然として低いため、引き続き飼い主の意識改革を促す啓発を行っている。			
			実績	55.29	52.44	54.96						
<指標の計算方法>		予防注射接種件数/犬総登録件数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			1,150					1,144	6			
事業の実績	①犬登録・管理 ・畜犬登録手数料（3,000円）を徴収し、鑑札を交付 ・紀の川・岩出市内の動物病院でも登録可能 ・総登録件数 3,874頭											
	②狂犬病予防注射 ・狂犬病予防集合注射を令和4年4月中旬に、各地区2日、延べ10日間：65箇所を実施 ・狂犬病予防注射済票交付手数料（550円）を徴収し、年度ごとの済票を交付											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・狂犬病予防法に則った事業であるため、市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・狂犬病予防注射の接種率が伸び悩んでいることから、今後も飼い主の意識改革に努めていく必要がある。 ・集合注射の実施について、過年度の実績等による実施個所の見直しを検討する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・動物病院が近くにない方や移動手段がない方のためにも、市内を巡回して実施する集合注射は効率性は高い。											

事務事業の概要	事務事業名	墓地管理運営事業			担当課	環境衛生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	59
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1 保健衛生費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6 環境衛生費				基本施策	1	快適な生活環境の維持			
取組方針	3	生活衛生の向上										
事業概要	市民が墓地等を安心して快適に利用できるように、施設の維持管理や運営を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市営墓地運営			⑤					⑨		
	②	市営墓地施設管理			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	市営墓地草刈委託回数	回	目標	4	5	5	6	6	安心して快適な環境で市営墓地を使用してもらうため、草刈・修繕による維持管理業務を実施している。		
				実績	4	5	6					
	<指標の計算方法>		市営墓地草刈委託回数									
	成果指標	市営墓地公募区画数	区画	目標	5	5	8	13	13	同一市営墓地に返還届から約2年以上経過した区画が5区画以上生じた場合、広報紙等を通じて公募を実施している。市営墓地台帳更新整備中のため、令和4年度は公募を中断している。		
				実績	4	4	0					
	<指標の計算方法>		市営墓地公募区画数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,478			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	20 2,458		
事業の実績	①市営墓地運営 ・墓地、納骨堂又は火葬場経営等の許可及び変更・廃止許可申請 0件 ・市営墓地の承継 9区画 (1)小坂墓地 2区画 (2)矢倉墓地 5区画 (3)那賀第1墓地 1区画 (4)那賀第2墓地 1区画 ・改葬許可申請 40件 (94名分) ・市営墓地台帳更新整備 (1)使用者調査票の送付、とりまとめ (2)連絡先不明区画への立て札設置、回収 (3)墓地台帳の入力、更新 ②市営墓地施設管理 ・修繕工事 0件			・墓地区画整備 0区画 ・市営墓地草刈業務委託 6回 (1)矢倉墓地 進入路 1回 (2)矢倉墓地 地内 1回 (3)小坂墓地 1回 (4)那賀第2墓地 1回 (5)那賀第1墓地 支障木除去 1回 (6)那賀斎場跡地 1回								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市営墓地地内を適切に清掃管理し、良好な状態に保つことは、快適な環境維持及び生活衛生の向上に結び付いている。 ・市営墓地は性質上、永続性・非営利性が求められることから、市(地方公共団体)が墓地経営を行うことは、安定的に経営を行っていくうえで妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・市営墓地の維持管理に係る適切な業務及び法令等に基づく必要不可欠な業務であり適切である。 ・墓地台帳が完成した後も、墓地使用者が安心して快適な環境で永続的な使用ができる体制づくりを引き続き検討していく必要がある。 ・公募による市営墓地空き区画の使用を目指すうえで、日々の維持管理・台帳更新を適宜実施していくことは有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
・墓地の維持管理は必要な草刈・修繕による管理を実施しており、実施費用は可能な限り削減されたものであることから、更なる削減は適切な維持管理が困難となる。 ・今後の市営墓地の運営全般について、業務効率を考慮した検討が必要である。												

事務事業の概要	事務事業名	五色台広域施設組合事業			担当課	環境衛生課			事業区分	一部事務組合	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	819
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境			
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	6 環境衛生費				基本施策	1 快適な生活環境の維持			
取組方針				取組方針	3 生活衛生の向上						
事業概要	市民が滞りなく葬祭、火葬を行えるように、五色台広域施設組合の運営に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	五色台広域施設組合負担金			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	成果指標	火葬件数（紀の川市管内）	件	目標						多少の増減を行いながら概ね横ばい状態であったが、令和4年度は増加した。	
				実績	716	759	896				
	<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した紀の川市管内の火葬件数								
	成果指標	火葬件数（五色台聖苑全体）	件	目標						多少の増減を行いながら概ね横ばい状態であったが、令和4年度は増加した。これは構成市町全体でも同様の傾向である。	
				実績	1,439	1,525	1,716				
	<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した火葬総件数								
	成果指標	葬祭件数（紀の川市管内）	件	目標						新型コロナウイルス感染症の影響により、ほぼ横ばい傾向にあったが、令和4年度は増加した。	
				実績	15	18	28				
	<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した紀の川市管内の葬祭件数								
	成果指標	葬祭件数（五色台聖苑全体）	件	目標						新型コロナウイルス感染症の影響により、ほぼ横ばい傾向にあったが、令和4年度は増加した。これは構成市町全体でも同様の傾向である。	
				実績	189	184	221				
<指標の計算方法>		五色台聖苑にて実施した葬祭総件数									
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
	64,708			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	64,708	
事業の実績	①五色台広域施設組合負担金 紀の川市負担金 64,708,000円 紀の川市負担率 53.81% （内訳） ・管理運営負担金（人口割50%、使用割50%） $102,547,000円 \times 54.01\% = 55,386,000円$ ・施設建設負担金（人口割85%、均等割15%） $17,709,000円 \times 52.64\% = 9,322,000円$ ・参与会 3回 ・管理者会 3回										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市内に火葬を行う施設はなく五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう事業経営に参画して実施することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・市内に火葬を行う施設はなく五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう事業経営に参画して実施することは有効的である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・市内に火葬を行う施設はなく五色台聖苑で執り行っていることから、五色台広域施設組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう事業経営に参画して実施することは効率的である。										

事務事業の概要	事務事業名	地元管理飲料水供給施設整備補助事業			担当課	環境衛生課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	60	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	1 保健衛生費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	7 水道事業費				基本施策	1 快適な生活環境の維持				
事業概要	市民（飲料水供給施設利用者）が安全・安心な飲料水の確保と安定供給を享受するために、飲料水供給施設の新設・改修及び維持管理について補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	地元管理飲料水供給施設事業補助金			⑤				⑨			
	②	飲料水供給施設定期巡回指導			⑥				⑩			
	③	地元管理飲料水供給施設運営特別助成金			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	飲料水安定供給世帯数	目標	315	315	315	315	315	地元管理飲料水供給施設の給水世帯数は、ほぼ横ばい傾向にある。			
			実績	297	296	313						
	<指標の計算方法>		飲料水安定供給世帯数									
	活動指標	飲料水供給施設補助件数	目標	4	4	4	4	4	地元管理飲料水の安全かつ安定した供給を行うため、維持管理費の補助を行っている。			
実績			4	4	4							
<指標の計算方法>		飲料水供給施設補助件数										
活動指標	飲料水供給施設定期巡回指導件数	目標	6	6	6	6	6	地元飲料水供給施設組合の状況把握及び安心・安全な飲料水供給のため、保健所主導により巡回指導を行っている。				
		実績	2	2	2							
<指標の計算方法>		飲料水供給施設定期巡回指導件数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,446			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		3,446	
事業の実績	①地元管理飲料水供給施設事業補助金 [施設修繕補助金] ・名手上小山水道組合 690,000円 ・神田741自治会 140,000円 ・西杉原南部水道組合 1,420,000円			・助成金額 1,057,500円								
	[維持管理補助金] ・中尾飲料水供給施設組合 138,600円											
	②飲料水供給施設定期巡回指導 [R5.3.7指導 2件] ・荒見東水道組合 ・名手上小山水道組合											
③地元管理飲料水供給施設運営特別助成金 新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、原油価格・物価高騰の影響を受けた市民生活や施設維持管理にかかる費用の一部を申請のあった組合に助成 ・交付組合 14組合(282戸)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・水道未普及地域において、地元管理飲料水供給施設は地域住民の重要なライフラインであり、地元のみでの事業実施及び施設維持管理となると負担が大きくなることから、飲料水を安心・安全に供給するために市が事業を補助することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・地元住民が安心・安全に飲料水を供給するために実施している定期巡回指導は、対面によるものであるから、新型コロナウイルス感染症対策を行ったうえで実施した。 ・各施設の修繕・維持管理補助は、要望件数の全てに補助しており、施設の維持管理に寄与できていると考える。しかしながら、施設の老朽化等による大規模修繕が多発している状況にある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・地元管理飲料水供給施設の経年劣化又は突発的な故障により修繕が必要となった場合、修復には緊急を要する。地元管理の観点から、修繕などは地元で行うのが望ましいが、飲料水を安心・安全に供給するため、地元の費用負担も考慮して施設修繕費等に係る費用の一部補助は効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	ごみ適正排出推進事業			担当課	廃棄物対策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	828	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	2 清掃費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	1 清掃総務費				基本施策	2 ごみや資源物の効率的な収集・処理				
取組方針	1			取組方針	1		ごみの減量化・資源化の促進					
事業概要	市が効率的にごみ処理ができるように、市民にごみの適正な処理・排出方法の啓発や周知を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	指定ごみ袋作成管理			⑤	資源ごみ持ち去りパトロール		⑨				
	②	啓発物資作成（カレンダー等）			⑥			⑩				
	③	啓発活動			⑦			⑪				
	④	ごみ集積施設設置補助金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	ごみ集積所箇所数	箇所	目標	2,640	2,620	2,600	2,600	2,600	宅地開発に伴って設置した数が集約した数を上回ったことにより、集積所数が増加した。		
			実績	2,625	2,643	2,649						
	<指標の計算方法>		ごみ集積所の箇所数									
	成果指標	ごみ集積所設置補助基数	基	目標	50	50	50	50	50	補助金を交付した自治区数は増加し、それに伴い交付した補助金額も令和3年度を上回った。		
			実績	20	16	24						
	<指標の計算方法>		補助金交付を行った集積所ボックス新設・修繕基数（目標：建て替え修繕30基/年、集約新設20基/年）									
	活動指標	資源ごみパトロール回数	回	目標	80	80	80	80	80	資源ごみ持ち去りについての通報も多かったことから、例年よりもパトロールの回数を増やした。		
			実績	62	62	67						
	<指標の計算方法>		資源ごみパトロール回数									
成果指標	ごみ資源化率	%	目標	13	13	13	13	13	近年、横ばい傾向にある。			
		実績	11.3	11.2	10.8							
<指標の計算方法>		ごみ資源化量÷ごみ処理量（集団回収量を含む、事業系ごみは除く）										
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			59,583							59,583		
事業の実績	①指定ごみ袋作成管理 ごみ袋を作成しました。 ・家庭用もやす(大) 2,250,000枚 ・家庭用もやす(小) 700,000枚 ・家庭用資源(大) 360,000枚 ・家庭用資源(小) 252,000枚			各自治区から申請のあったごみ集積施設設置費用の1/2の補助を行いました。(新設 20基、建替 1基、改修 3基) 上記のうち、ごみ集積施設集約化設置補助4地区(粉河 2地区 3基、那賀 2地区 3基)								
	②啓発物資作成(カレンダー等) 家庭用ごみ収集日程表(カレンダー)を作成し、各家庭に配布しました。 ・印刷部数 27,500部			⑤資源ごみ持ち去りパトロール ・パトロール回数 67回 ・パトロール実施日数 29日 ・パトロール実施者数 129人								
	③啓発活動 ・出前講座開催数 3回 ・集約化協力依頼通知 79地区 ごみ集積所の集約化に向けて、集約化が進んでいない自治区に対し、集約化の協力依頼を行いました。											
	④ごみ集積施設設置補助金											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・廃棄物処理法では、一般廃棄物の処理は市町村の責務であると規定されており、ごみの適正な処理及び排出方法やごみの排出量の抑制、ごみ集積所の集約化は一般廃棄物処理基本計画に基づいて取り組むもので、市で実施すべきものであり、啓発、周知を行うことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・ごみの分別について、「ごみの出し方ルールとマナー」やごみ収集カレンダー等で周知を行っており、家庭から出るごみの適正排出及び資源の有効活用につながっている。しかし、未だ分別不十分なごみの排出が発生しているため、引き続き市民への周知を行っていく必要がある。 ・出前講座による啓発活動は市民の分別意識の向上に有効であると考えられるので、引き続き実施し、ごみ資源化率の向上に努めていく必要がある。 ・ごみ集積所の集約は市民の理解と協力が不可欠であるため、区長会等を通じて集約の依頼を行っている。しかし、依然として地域によって集約状況に格差が生じているため、市民の理解と協力を得られるよう引き続き推進していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・ごみ集積所の集約化はごみ収集の効率化や費用抑制につながるものであり、市民の理解と協力が不可欠なため、引き続き推進していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	ごみ対策事業			担当課	廃棄物対策課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	829	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境					
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会					
		目	1	清掃総務費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理					
取組方針	3	ごみの適正処理の推進											
事業概要	市が循環型社会の構築に寄与するために、一般廃棄物処理計画に基づく施策の推進を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	廃棄物処理業許認可業務			⑤				⑨				
	②	一般廃棄物処理計画進行管理			⑥				⑩				
	③	汚染負荷量賦課金負担金			⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	事業系一般廃棄物収集量	トン	目標	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	令和2年度以降は増加傾向にある。新型コロナウイルス感染症に伴う自粛要請により企業の経済活動が制限されていたが、大部分が再開されたため、排出されるごみが増加したと考えられる。			
			実績	1,575.29	1,636.82	1,741.19							
	<指標の計算方法>		事業系一般廃棄物を収集運搬許可業者が収集し、紀の海クリーンセンターへ搬入した量										
		目標											
		実績											
	<指標の計算方法>												
	目標												
	実績												
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	78			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	78			
事業の実績	①廃棄物処理業許認可業務 ・一般廃棄物処理業許可更新 5件												
	②一般廃棄物処理計画進行管理 紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画を策定し、告示しました。												
	③汚染負荷量賦課金負担金 公害健康被害の補償等に関する法律に基づき、公害健康被害者への補償給付等のための負担金を支払いました。 78,000円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いは各法で定められていることから、市で実施することは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いについて、各法で定められているとおり適正に処理できている。 ・ごみの効率的な収集・処理の検討は、今後も引き続き行っていく必要がある。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・紀の川市一般廃棄物（ごみ）処理実施計画の策定や汚染負荷量賦課金負担金の支払いについて、各法で定められているとおり適正に処理できている。 ・一般廃棄物の処理は、廃棄物処理法において市町村の責務とされていることから、ごみ処理事業(収集運搬も含む。)は、適正かつ能率的な運営に取組む必要がある。												

事務事業の概要	事務事業名	最終処分事業			担当課	廃棄物対策課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1068	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2 清掃費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	1 清掃総務費				基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理				
取組方針	3	ごみの適正処理の推進											
事業概要	市が最終処分場の整備や確保を進めるために、関連団体の運営に参画する事業												
事務事業を構成する細事業	①	大阪湾広域廃棄物埋立処分場建設工事負担金			⑤					⑨			
	②				⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	最終処分量	トン	目標	2,565	2,565	2,565	2,535	2,505	もやすごみ処分量の減少に伴い、令和3年度と比較すると減少した。			
				実績	2,553	2,364	2,255						
	<指標の計算方法>		焼却灰、不燃粗大ごみ、ばいじん量										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	3,820			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			3,820										
事業の実績	①大阪湾広域廃棄物埋立処分場建設工事負担金 ・上半期分 1,010,000円 ・下半期分 673,000円 ・建設工事負担金(2期追加分) 2,137,000円 ※委託量増量分3,846㎡に係る平成9年度～平成29年度建設工事負担金												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・一般廃棄物の処理は廃棄物処理法において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正かつ能率的に運営するよう努めなければならない事が定められており、処分場を確保しなければならないため、大阪湾広域臨海環境整備センターで実施することは妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度で効率的な処理や環境負荷の軽減が可能となるため有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・国土交通省、港湾管理者が主体となる事業であり、市町村や府県域を超えた関係者が共同で利用することができる廃棄物の最終処分場を確保し、圏域全体の長期的で安定的な廃棄物の処分を図ることができ、かつ、民間の処分場と比較すると安価で処分することができることから、コスト面において効率的である。												

事務事業の概要	事務事業名	紀の海広域施設組合事業			担当課	廃棄物対策課		事業区分	一部事務組合			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	830	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	1	清掃総務費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理				
取組方針	3	ごみの適正処理の推進										
事業概要	市民が滞りなくごみ処理を行えるように、紀の海広域施設組合の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	紀の海広域施設組合負担金			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	もやすごみ処理量	トン	目標						分別についての細分化に伴い、収集量が適正化され、令和3年度と比較すると減少した。		
				実績		15,875	15,447	15,102				
	<指標の計算方法>		年間処理量									
	活動指標	資源ごみ処理量	トン	目標						令和3年度と比較すると87t減少し、分別が適正化されているように見えるが、民間でのリサイクルの推進が進んでいるため、民間に資源ごみが流れている状況も考えられる。		
				実績		1,361	1,325	1,238				
	<指標の計算方法>		年間処理量									
	活動指標	粗大ごみ処理量	トン	目標						令和3年度と比較すると減少している。令和2年度から新型コロナウイルス感染症による外出自粛に伴い、粗大ごみの量が増加していたが、例年並みに落ち着いてきたと考えられる。		
実績					1,315	1,322	1,177					
<指標の計算方法>		年間処理量										
活動指標	理立ごみ処理量	トン	目標						令和3年度と比較すると横ばい傾向にある。			
			実績		128	102	103					
<指標の計算方法>		年間処理量										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
	360,510				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①紀の海広域施設組合負担金				・ 災害復旧負担金(公債費) 10,529,000円(48.52%) ※熱回収施設管理運営負担割合 均等割 10% 人口割 20% 処理量割 70%							
	◎ 施設管理運営負担金、市負担率											
	・ 熱回収施設 213,674,000円(48.52%) ・ 焼却施設 126,971,000円(82.97%) ・ 洗車施設 2,412,000円(50.73%) ※管理運営負担割合 均等割 10% 人口割 20% 処理量割 70%											
	◎ 施設建設負担金、市負担率											
周辺整備												
・ 熱回収施設 6,924,000円(45.94%) ※建設負担割合 均等割 15% 人口割 50% 処理量割 35%												
◎ 災害復旧負担金、市負担率												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ 一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められている。複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストの縮減が可能となることから、紀の海広域施設組合で実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・ 一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められているが、複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストが縮減となり効率的である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・ 一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められているが、複数の市町村が広域的に連携してごみ処理に取り組むことで、より高度かつ効率的な処理、また環境負荷の低減及びごみ処理コストが縮減となり効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	ごみ収集事業			担当課	廃棄物対策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	821	
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	2 清掃費				施策目標	2 生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	2 塵芥処理費				基本施策	2 ごみや資源物の効率的な収集・処理				
取組方針	1 ごみの減量化・資源化の促進											
事業概要	市民が衛生的な生活を送れるように、市民、企業等が排出したごみの収集を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	ごみ収集（もやす・資源）			⑤	ごみ出し困窮家庭支援			⑨			
	②	ごみ収集（粗大）			⑥	ごみ収集車管理			⑩			
	③	ペットボトル拠点回収			⑦	ごみ収集事務所施設管理			⑪			
	④	廃油回収			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	1人1日当たりのごみ搬出量	g	目標	790	780	780	780	780	令和2年度から連続して減少している。市民のごみ減量に対する意識が高まってきたため、家庭から搬出されるごみの量が減少したと考えられる。		
				実績	840	826	807					
	<指標の計算方法>		ごみの総搬出量÷365日÷人口									
	成果指標	もやすごみ収集量	トン	目標	16,700	16,600	16,600	16,400	16,200	分別についての細分化に伴い、収集量が適正化されるとともに年々減少傾向にあり、例年目標値を達成できている。		
				実績	15,875	15,447	15,102					
	<指標の計算方法>		もやすごみ収集量									
	成果指標	資源ごみ収集量	トン	目標	1,500	1,490	1,490	1,480	1,480	分別についての細分化に伴い収集量が適正化されているように見えるが、民間でのリサイクルの推進が進んでいるため、民間に資源ごみが流れている状況も考えられる。		
				実績	1,361	1,325	1,238					
	<指標の計算方法>		資源ごみ収集量									
成果指標	粗大ごみ収集量	個	目標	5,700	5,700	5,700	5,700	5,700	収集個数は令和3年度と比較して減少している。令和2年度から新型コロナウイルス感染症防止による外出自粛に伴い粗大ごみの量が増加していたが、例年並みに落ち着いてきたと考えられる。			
			実績	5,625	5,657	5,077						
<指標の計算方法>		粗大ごみ戸別回収収集個数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	214,801			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
					3,900		80,615	130,286				
事業の実績	①ごみ収集（もやす・資源）			<ul style="list-style-type: none"> 年間収集日数 259日 防災力向上及び知識スキルアップ向上として重機免許取得講習及び研修を受講した。 車両系建設機械(解体用)運転技能 2人 フォークリフト運転技能講習 2人 								
	②ごみ収集（粗大）			<ul style="list-style-type: none"> 粗大ごみ戸別回収実績 収集件数 1,782件 収集個数 5,077個 								
	③ペットボトル拠点回収			<ul style="list-style-type: none"> 拠点回収回収箇所 32箇所 								
	④廃油回収			<ul style="list-style-type: none"> 廃油回収量 3,460L 								
	⑤ごみ出し困窮家庭支援			<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度からふれあい収集事業を開始した。 申請件数 38件（累計38件） 利用者数 31件 								
			<ul style="list-style-type: none"> ⑥ごみ収集車管理 収集車両購入 購入額 2tパッカー車 1台 7,238,000円 収集車両売却 売却額 3tパッカー車 1台 1,234,000円 									
			<ul style="list-style-type: none"> ⑦ごみ収集事務所施設管理 桃山詰所 地下ポンプ修繕 128,260円 重機類修繕（4台分） 255,145円 									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物の処理等に関しては、法令等により市で行わなければならないため妥当である。 市民の生活環境の維持及び限られた資源の有効活用を図るため、「ごみの出し方ルールとマナー」をもとに、分別を徹底し、排出量の抑制や効率化等を図るうえで必要な事業である。 高齢化等によるごみ出し困窮家庭に対する支援策について、全国の地方公共団体において高齢化社会に対応した廃棄物処理体制にシフトしていく必要性が生じているため、令和4年度から紀の川市ふれあい収集事業を開始した。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
<ul style="list-style-type: none"> ごみの排出量は年々減少傾向にあり、ごみの排出抑制の効果は見受けられている。令和2年度には新型コロナウイルス感染症拡大防止による外出自粛などの影響から家の片付けをする人が多かったことにより、直接、紀の海クリーンセンターへ持ち込まれる粗大ごみなどの量が一時的に増加したが、令和3年度以降は例年並みに減少している。 ごみの排出抑制に向けた取り組みは、ごみ収集業務に携わる職員に年数回研修を行い、スキルの向上を図っている。また、今後はより一層講習会及び研修会を受講及び実施し、より一層住民サービスの向上を図りたい。 												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	<ul style="list-style-type: none"> ごみ収集業務を民間委託しても必ずしもコストダウンに繋がらない。さらに、住民サービスの低下に繋がる可能性があり、費用対効果を含めて慎重に検討していく必要がある。 効率性及び人件費を含めたコスト削減について、様々な点に考慮しながら、収集計画及び収集体制の見直しを検討していく必要がある。 											

事務事業の概要	事務事業名	廃棄物処理施設跡地管理事業			担当課	廃棄物対策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1147	
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	2	塵芥処理費		基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理				
事業概要	市で運営していた一般廃棄物処理施設の跡地を適正かつ安全な管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	旧施設管理			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	跡地管理施設箇所数	箇所	目標	3	3	2	2	2	跡地管理が必要な施設を適正に管理した。		
				実績	3	3	2					
	<指標の計算方法>		跡地管理施設箇所数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,236			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,236		
事業の実績	①旧施設管理 ・旧粉河クリーンセンター跡地植林管理 生育巡視等年6回、肥料・農薬散布年2回、草刈等年3回等 委託金額 935,000円 ・雑草等刈取作業委託 麻生津中地内5,231㎡ 委託金額 100,642円 ・旧粉河クリーンセンター河川水測定分析 年2回 委託金額 200,200円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・市の廃棄物処理施設の跡地管理は市が責任を持って安全かつ適正に管理する必要があり妥当である。									
		評価結果	改善の余地がない ・市の廃棄物処理施設の跡地を近隣の環境に配慮して安全かつ適正に管理することが有効にできている。									
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・市の廃棄物処理施設の跡地を今後も長期間にわたり安全かつ適正に管理していくにあたり、効率的な管理方法について適宜検討していく必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	収集事務所整備事業			担当課	廃棄物対策課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R2～R5)	事業番号	956		
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 清掃費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会			
		目	2 塵芥処理費				基本施策	2	ごみや資源物の効率的な収集・処理			
取組方針				2	より効率的なごみ収集体制の構築							
事業概要	収集業務の一元化による経費削減等が図られた収集体制を構築することを目的に、効率化された収集事務所を整備する事業											
事務事業を構成する細事業	①	収集事務所整備			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	収集事務所整備工事の進捗率	%	目標	0	5	25	100	工期スケジュールどおり工事が進み、予定進捗率を達成できている。			
				実績	0	7.2	32.4					
	<指標の計算方法>		収集事務所整備工事の出来高率									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	80,100			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,100		
事業の実績	①収集事務所整備 ・収集事務所整備工事 出来高32.4%、支払額76,100,000円 ・収集事務所整備工事施工監理 出来高32.4%、支払額4,000,000円 ・主な施工内容 土木造成工事 土工事 (切土法面工モルタル吹付等) 建築工事 車庫兼災害ごみ仮置場棟建築工事 (建築工事) 屋外工事 (地下貯留槽設置)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・一般廃棄物の処理は、廃棄物の処理及び清掃に関する法律において市町村の責務とされ、ごみ処理事業を適正に効率的に運営することに努めなければならないことが定められており、市が必要な施設を整備することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・収集業務の一元化された収集事務所を整備することにより、収集業務の効率化等を図ることができることから有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・収集業務の一元化による収集体制を構築することにより、収集業務の効率化及び経費削減を図ることができる。											

事務事業の概要	事務事業名	し尿処理事業			担当課	那賀支所			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	817		
	予算科目	款	4 衛生費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2 清掃費				施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	3 し尿処理費				基本施策	3	適切な生活排水対策の推進				
取組方針	2	浄化槽の普及促進とし尿の適正処理											
事業概要	市民が衛生的な生活を送れるように、那賀地区のし尿の処理を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	し尿収集			⑤				⑨				
	②	し尿処理収集車管理			⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	し尿汲取り件数	件	目標	4,500	4,500	4,500	3,900	3,900	合併浄化槽の普及や人口の減により減少傾向にある。			
				実績	4,149	4,103	3,997						
	<指標の計算方法>		し尿汲取り件数										
	活動指標	し尿収集車保有台数	台	目標	4	4	4	4	4			老朽化する車両の入替を行いながら4台を維持する。	
				実績	4	4	4						
	<指標の計算方法>		し尿収集車保有台数										
				目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	17,649			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	17,528 121			
事業の実績	①し尿収集 (し尿汲取り件数) ・一般(普通)便槽：3,412件 ・合併浄化槽：371件 ・単独浄化槽：214件 (那賀衛生環境整備組合処理量) ・生し尿：1,329.97k1 ・浄化槽汚泥：1,691.40k1 ②し尿処理収集車管理 ・4台(3トン車2台、2トン車2台)												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・地域住民・企業等の浄化槽清掃・維持管理の為、し尿収集業務を行い、公衆衛生の向上に努める。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・地域住民・企業等の浄化槽のし尿収集申込に対し、迅速に対応することで満足度は高く、衛生的な生活環境を満たしている。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・現状の実績等からすれば、人員については適正と考える。申込に対する電話対応は、支所職員全員で行っている。												

事務事業の概要	事務事業名	那賀衛生環境整備組合事業			担当課	環境衛生課			事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	818
	予算科目	款	4	衛生費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	清掃費		施策目標	2	生活環境・環境保全・循環型社会				
		目	3	し尿処理費		基本施策	3	適切な生活排水対策の推進				
取組方針	2	浄化槽の普及促進とし尿の適正処理										
事業概要	市民が衛生的な生活を送れるように、那賀衛生環境整備組合の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	那賀衛生環境整備組合負担金			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	し尿搬入量	kl	目標	18,900	18,000	17,100	16,800	16,800	年々減少傾向にあり、合併処理浄化槽の普及と公共下水道への接続が要因である。今後もくみ取り便槽から合併処理浄化槽への転換、公共下水道への接続によって減少すると予想される。		
				実績	17,216.73	15,509.13	15,410.26					
	<指標の計算方法>		し尿搬入量									
	活動指標	浄化槽汚泥搬入量	kl	目標	21,900	21,900	21,900	21,900	21,900	令和4年度は減少したものの、年々増加傾向にあり、合併処理浄化槽を設置した住宅には補助金が交付されるため、今後も合併処理浄化槽へ転換する世帯が増加すると考えられることから増加すると予想される。		
				実績	20,486.08	21,666.31	21,265.64					
	<指標の計算方法>		浄化槽汚泥搬入量									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	171,276			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	171,276		
事業の実績	①那賀衛生環境整備組合負担金 紀の川市負担金 171,276,000円 (内訳) ・均等割 $315,020,000円 \times 20\% \times 50.00\% = 31,502,000円$ ・人口割 $315,020,000円 \times 30\% \times 53.00\% = 50,088,180円$ ・利用割 $315,020,000円 \times 50\% \times 56.94\% = 89,686,194円$ ・令和4年度交付税算入分を除いた負担割合 紀の川市 54.37%、岩出市 45.63% ・令和3年3月末人口 (114,872人) 紀の川市 60,878人、岩出市 53,994人 ・令和2年度処理実績 (66,219k1) 紀の川市 37,703k1、岩出市 28,516k1											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・し尿、浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設是那賀衛生環境整備組合であり、那賀衛生環境整備組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう経営に参画して実施することは妥当である。								
有効性		評価結果	改善の余地がない ・し尿、浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設是那賀衛生環境整備組合であり、那賀衛生環境整備組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう経営に参画して実施することは有効である。									
効率性		評価結果	改善の余地がない ・し尿、浄化槽汚泥を適正に処理する処理施設是那賀衛生環境整備組合であり、那賀衛生環境整備組合へ負担金を負担し適正な運営が行われるよう経営に参画して実施することは効率的である。									

事務事業の概要	事務事業名	雇用対策事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	64	
	予算科目	款	5 労働費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 労働諸費				施策目標	2	雇用・就労			
		目	1 労働諸費				基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興			
取組方針				3	就労への支援							
事業概要	市民の就業を支援するために、職業相談室の開設や運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	キャリア教育推進事業			⑤	就職フェア開催事業			⑨			
	②	地元企業見学事業(バスツアー)			⑥	合同企業説明会			⑩			
	③	ママジョブマルシェ開催事業			⑦	マザーズ就活準備セミナー			⑪			
	④	地域職業相談室開設事業			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	地域職業相談室年間紹介成功率	目標	35	35	35	35	35	求職者と雇用者のマッチングが高まり、就職促進につながった。			
			実績	35.6	35.2	40.5						
	<指標の計算方法>		地域職業相談室で紹介した求人先に就職した割合									
	活動指標	合同企業説明会における参加者数	目標	100	100	100	100	100	目標値には達成していないが、他市で開催されたイベントと比較した場合は、多くの参加が得られた。			
			実績	112	41	69						
<指標の計算方法>		合同開催した企業説明会参加者に加え、市単独で開催した企業説明会参加者数										
成果指標	合同企業説明会における市内在住者の内定者数	目標	15	15	15	15	15	内定者数は令和2年度と同値であり、令和3年度より増加しているが目標値には達成していない。市内事業者の人材が不足している背景が伺える。				
		実績	2	0	2							
<指標の計算方法>		合同開催した企業説明会時の内定者に加え、市単独で開催した企業説明会時の内定者数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,046			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		1,046	
事業の実績	①キャリア教育推進事業(対象 中学2年生)			④地域職業相談室開設事業			募集人員 163人(市内企業募集人員91人)					
	打田中学校 12月12日 4クラス 137人 粉河中学校 10月20日 3クラス 81人 那賀中学校 11月 1日 1クラス 35人 荒川中学校 12月13日 2クラス 44人 貴志川中学校 10月18日 5クラス 152人 計 15クラス 449人 ※頼渕中学校は参加者なし			・ワークサロン貴志川職業相談 職業相談件数 2,977件 紹介件数 861件 就職件数 349件(成功率40.5%)			⑥合同企業説明会 開催日 3月10日 13:00~16:00 会場 打田生涯学習センター 参加企業 12社(全て市内企業) 参加者 22人(市内在住者11人)					
	②地元企業見学事業(バスツアー) 開催日 12月12日 9:30~11:40 訪問先 ハバジツ日本株式会社 デュプロ精工株式会社 参加人数 粉河高校2年生 2人 貴志川高校2年生 18人			⑤就職フェア開催事業 ・就職支援セミナー(合同開催) 開催日 10月13日 14:00~15:30 会場 和歌山県旧県議会議事堂 参加者 9人 テーマ 第1部 他の人とは違う!と思わせる志望動機の組み立て方 第2部 面接トーク術 ・紀の川・岩出就職フェア 開催日 10月23日 13:00~16:00 会場 粉河ふるさとセンター 小ホール 参加企業 28社(市内企業 16社) 参加者 34人(市内在住者 14人) 内定者 6人(市内在住者 2人)			⑦マザーズ就活準備セミナー 開催日 3月23日 13:30~15:30 会場 紀の川市役所 テーマ 就職活動の進め方 ハローワークの利用方法 「給与と税金」~自分にあった働き方は?~ 保育園入所時の注意点について 参加者 3人(市内在住者2人)					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・雇用施策の充実と拡充について和歌山労働局と雇用対策協定に基づき事業計画を策定していることから、市が関与することが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・内定者数は令和2年度と同値となり、令和3年度と比べると高まっているが、目標値には達成していない。 ・求職者が望む雇用条件を提示できる市内企業の情報を集約する必要がある。 ・市内事業者に勤務する外国人の語学力を高める必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・対面とオンラインのハイブリッドで開催し、より多くの求職者が参加できる環境を整え費用対効果を高める必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	働き方改革推進支援事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1121		
	予算科目	款	5 労働費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流					
		項	1 労働諸費				施策目標	2 雇用・就労					
		目	1 労働諸費				基本施策	1 就労支援の充実と雇用創出の振興					
事業概要	労働環境の改善と雇用問題に対して、ワークライフバランスの必要性を啓発するとともに、働き方改革への取組を一層強化する事業												
事務事業を構成する細事業	①	一般事業主行動計画策定支援事業			⑤				⑨				
	②	優良取組事例選定事業			⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	一般事業主行動計画策定事業者数	事業者	目標	5	5	5	2	2	職場環境の向上をすすめた事業所数は目標を達成しなかった。			
			実績	2	1	1							
	<指標の計算方法>		一般事業主行動計画を市の補助により策定した事業者の数										
	成果指標	「くるみん」認定事業者数	事業者	目標	1	1	1	1	1			全国レベルに達する優れた職場環境を整備した事業者はいなかった。	
			実績	0	0	0							
	<指標の計算方法>		実績値による										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	50			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	50			
事業の実績	①一般事業主行動計画策定支援事業 申請者 株式会社なだいコーポレーション 業 種 サービス業（訪問看護など） 社員数 42人(男8人 女34人) 期 間 令和4年9月1日～令和9年1月31日 (4年5ヵ月間) 目 標 ・男性職員が育児休業を取得しやすい職場環境の整備 ・育児と就労の両立に向けた職場環境の整備												
	②優良取組事例選定事業 「くるみん」の認定は確認できなかった。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・国が取り組んでいる働き方改革の一環であることから、市の関与が妥当である。										
		評価結果	改善の余地がややある ・市内事業者に対し事業趣旨と取り組み意義への理解を求めたことで、補助制度に関する浸透率は高まったが、引き続き和歌山労働局と連携しながら、働き方改革を推進する必要がある。										
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・事業経費を最大限抑制しているため効率性は高い。										

事務事業の概要	事務事業名	農業委員会運営事業			担当課	農業委員会事務局			事業区分	内部管理事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	811	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	99 ****				
		項	1 農業費				施策目標	99 ****				
		目	1 農業委員会費				基本施策	99 ****				
事業概要	農地の権利移動の許可、転用許可の意見決定業務や「農地等の利用の最適化」に関する業務（農地の集積・集約化、遊休農地の発生防止・解消、新規参入の促進）などを行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農業委員会運営			⑤	許認可事務			⑨			
	②	農地利用最適化推進委員会運営			⑥				⑩			
	③	農地情報整備管理			⑦				⑪			
	④	県農業会議負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	総会開催	目標	12	12	12	12	12	計画どおり月1回の総会を開催した。			
			実績	12	12	12						
	<指標の計算方法>		総会開催回数									
	活動指標	農地の権利移動及び転用の審査	目標						農地法第3条の権利移動が8件増加、農地法第4条の転用件数が7件増加、農地法第5条の転用許可が18件減少した。			
			実績	234	220	217						
<指標の計算方法>		農地の権利移動（農地法3条）及び転用（農地法第4条・第5条）の審査件数										
活動指標	利用権設定	目標	400	400	400	400	400	利用権設定の設定件数が69件減少した。				
		実績	676	497	428							
<指標の計算方法>		利用権設定件数										
活動指標	農地の適正管理指導	目標						適正管理の指導件数は、気象条件により変動している。				
		実績	197	268	330							
<指標の計算方法>		農地の適正管理指導件数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	20,713			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	18,291		
事業の実績	①農業委員会運営 総会 12回開催			⑤許認可事務 ・法令等に基づき適正な事務処理を行った。								
	②農地利用最適化推進委員会運営 ・推進委員会 打田地区 11回開催 粉河地区 11回開催 那賀地区 11回開催 桃山地区 11回開催 貴志川地区 11回開催 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、推進委員会の開催を1回中止した。											
	③農地情報整備管理 ・農家台帳等の整備を行った。											
	④県農業会議負担金 ・農業委員等に対する講習及び研修、その他農業委員会への支援などを行う和歌山県農業会議に負担金を支出した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・法定事務であり、市民ニーズや社会環境の変化に影響を受ける事業ではない。 ・耕作者の地位の安定と農業生産の増大を図り、食糧の安定供給の確保を目的に、農地法に基づき農地を農地以外のものにすることを規制し、農地を効率的に利用する耕作者へ権利の取得の促進など農業上の利用を確保するための措置を講じる事業であるため、農業者を代表する公的機関として農業委員会が実施していることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・許認可事務等の処理件数を数値目標として設定することは適していないと考える。 ・農業生産力の向上による農業経営の安定、農地の有効利用など農業経営の健全な発展に寄与するため有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・事務処理にかかるコストは、殆どが人件費のため削減の余地はない。 ・許認可事務については、個人情報を含む事務であり、公平性や守秘義務の観点から民間等への委託は適さない。なお、遊休農地の適正管理指導については、民間委託をし、職員の負担を軽減することが可能である。											

事務事業の概要	事務事業名	農業者年金事業			担当課	農業委員会事務局			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1079		
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興				
		目	1 農業委員会費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興				
取組方針				2	農業経営の安定と強化								
事業概要	市民（農業者・農業者年金加入者、受給者）が農業者年金に加入し、将来適正に受給し、安定した生活を送ることができるように、加入促進、各種届出の受付を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	農業者年金加入・相談			⑤				⑨				
	②	資格管理			⑥				⑩				
	③	農業者年金業務委託手数料			⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	新規加入者数	人	目標	7	8	8	10	10	農業委員や推進委員からの情報や、また広報等の制度内容周知により加入推進を実施した。農業者年金の特徴とメリット等の理解は得られたと思うが、保険料の負担が課題として加入者が目標に至らなかった。			
				実績	4	9	5						
	<指標の計算方法>		県農業会議より割り振りされた数字										
	活動指標	受給手続説明会開催回数	回	目標	1	1	1	1	1			県農業会議と連携して受給者説明会を計画どおり開催した。	
				実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		受給手続説明会開催回数										
	活動指標	現況届受付件数	件	目標						対象件数386件全件を受け付け、受給資格の確認を行った。			
				実績	476	437	386						
	<指標の計算方法>		現況届受付件数										
活動指標	新年金加入推進PR活動回数	回	目標	1	1	1	1	1	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策で、加入推進PR活動を中止した。				
			実績	0	0	0							
<指標の計算方法>		新年金加入推進PR活動回数											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	79			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	79			
事業の実績	①農業者年金加入・相談 ・農業委員や農地利用最適化推進委員とともに個別訪問を実施し、加入推進を図った。 ②資格管理 ・被保険者の資格及び保険料関係書類の受付や農業者年金受給のための裁定請求の手続きを行った。 ③農業者年金業務委託手数料 ・農業者年金業務委託契約に基づき、独立行政法人農業者年金基金に手数料の請求を行った。												
	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・独立行政法人農業者年金基金法の規定による委託契約に基づく事業で、農業者の老後の安定した生活のために必要な事業であり、妥当性が高いといえる。											
有効性	評価結果	改善の余地がない											
	・加入の相談に適切に対応できるよう農業委員会で制度についての研修を行い、農業委員、農地利用最適化推進委員とともに加入推進を実施している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・独立行政法人農業者年金基金の定めた事務取扱要綱に基づき、適切に事業を実施しており、コスト削減や実施手段の最適化の余地はない。												

事務事業の概要	事務事業名	農業活動事業		担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	
	予算科目	款	6 農林業費	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
	目	1	農業費		施策目標	1	農業振興・産業振興			
	目	2	農業総務費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	那賀地方の農業従事者等が活気に満ち、持続可能な安定した農業経営ができるように、協議会への負担金の交付や、様々な普及活動を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	農業振興事務		⑤	クビアカツヤカミキリ防除対策補助金		⑨			
	②	那賀農業改良普及推進協議会負担金		⑥	施設園芸用燃油価格高騰対策事業補助金		⑩			
	③	都市農村交流（民泊）事務		⑦			⑪			
	④	那賀地方病害虫防除対策協議会負担金		⑧			⑫			
指標の実績	指標名	単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	成果指標	農業士の新規認定者数	人	目標	3	3	3	3	3	県が認定する農業士は、指導農業士、地域農業士、青年農業士の3分野があり、毎年、市から県に候補者を推薦している。
			実績	5	7	9				
	<指標の計算方法> 一定の要件を満たし、地域農業の中核者として活動してもらうに相応しいと、毎年、県が認定する農業士数									
	成果指標	農業士総数	人	目標	120	120	120	120	120	農業士総数は、担い手不足や高齢化により年々減少傾向にあるが、令和3年度と比べて令和4年度では増加している。
			実績	113	109	110				
<指標の計算方法> 指導農業士、地域農業士、青年農業士の総数										
			目標							
			実績							
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
3,609			419						3,190	
事業の実績	①農業振興事務 指導農業士 2名認定 地域農業士 4名認定 青年農業士 3名認定 県農林水産業賞 1名受賞			⑤クビアカツヤカミキリ防除対策補助金 クビアカツヤカミキリの被害を受けた樹木に対して補助金を交付した。 被害状況 24園地134本（桃 19園地66本、スモモ 1園地33本、梅 4園地35本）						
	②那賀農業改良普及推進協議会負担金 農業振興や農業改良普及推進のため、那賀地方で構成された協議会に負担金を支出した。			補助件数 12園地70本（伐採抜根46本、ネット被覆4本、伐採伐根ネット被覆20本）						
	③都市農村交流（民泊）事務 農家民泊施設数 4施設			⑥施設園芸用燃油価格高騰対策事業補助金 交付件数 13件 交付金額 419,400円						
	④那賀地方病害虫防除対策協議会負担金 農作物の病害虫被害防止のため、発生状況等の調査や防除指針等の対策を講じる目的で那賀地方で構成された協議会に負担金を支出した。									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・当該事業は、本市を含む那賀地方の農業振興に資するものであり、市が実施することは妥当であると考えている。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある							
・農業士数は、年齢要件があるため認定されても一定の年齢になると認定解除となるが、毎年、県に推薦した新規候補者が認定を受けているため、現状としては一定数が確保できている。 ・本市として農業を振興していく上で、今後は農業士数を増加させる必要があると考えている。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	・当該事業に要する事業費は、事務費や負担金、補助金であるため、これ以上の削減の余地はないものと考えている。 ・職員の業務量（人件費）についても、当該事業の遂行に係る最低限度であることから、現時点で効率性を改善する余地はないと考えている。									

事務事業の概要	事務事業名	畜産・水産事業			担当課	農業振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	808	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	2 農業総務費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	畜産農家に安定した経営をしてもらうために、畜産農家、関係団体に負担金の交付や関連事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	畜産振興事務			⑤				⑨			
	②	県畜産協会負担金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	肉用牛個体登録頭数	頭	目標	50	50	50	50	50	外部導入を行っている畜産農家が自家生産を開始したが経験不足から母牛の妊娠ができなかった等により登録頭数が減少した。		
			実績	63	73	60						
	<指標の計算方法>		個体登録を行った頭数									
	活動指標	畜産農家訪問回数	回	目標	12	12	12	12	12	肉用牛の保留確認を畜産農家が来庁された際に実施したため、訪問回数が減少した。		
			実績	15	15	10						
	<指標の計算方法>		牛舎等へ訪問を行った回数									
成果指標	肉用牛飼養農家数	軒	目標	7	7	7	7	7	畜産農家の高齢化や後継者問題により今後は減少傾向に転じることが想定されるため、各種補助金の紹介等を行うなど畜産農家の経営継続の支援に努めている。			
		実績	7	7	7							
<指標の計算方法>		市内で肉用牛を飼養している農家の数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	77			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		77	
事業の実績	①畜産振興事務 熊野子牛市場出荷頭数 55頭											
	②県畜産協会負担金 家畜・畜産物を生産する事業者の経営診断や各種基金等を安定的に運営するため、また、消費者へ「食の安全・安心」を正しく啓発することなどを目的に、県下市町村、関係機関及び会員団体に構成された協会に負担金を支出した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 畜産協会が指定する事務委託先の一つが市町村であるため妥当といえる。 畜産の振興を図るものであり、畜産農家の自助努力では足りないため、市が実施することは妥当であるといえる。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
<ul style="list-style-type: none"> 畜産農家の戸数は、ほぼ横ばい状態を維持している。大きな振興策は実施できていないが、訪問等を通じて困窮内容の把握や助言を行うことで経営継続の一助になっているものと考え。 												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<ul style="list-style-type: none"> 事業費は少額の負担金であり、事務量も少ないので削減の余地はないと考える。 											

事務事業の概要	事務事業名	農業振興団体活動支援事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	69
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流		
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興		
		目	3 農業振興費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興		
事業概要	農業振興団体の自立を促し農業振興や地域の活性化を図るために、補助金の交付や団体活動の支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 農業士会活動支援補助金			⑤ 生活研究グループ連絡協議会補助金			⑨ 鞆渕地域活性化実行委員会活動支援				
	② 4Hクラブ活動支援補助金			⑥ 環境保全型農業グループ補助金			⑩				
	③ 青年農業経営者協議会活動支援補助金			⑦ あら川の桃振興協議会補助金			⑪				
	④ 営農研究会活動支援補助金			⑧ 中国実習生受入協議会補助金			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	補助団体の会員数	人	目標	926	926	926	926	926	農業者の高齢化や担い手不足などにより減少傾向にある。	
				実績	871	835	796				
	<指標の計算方法>		各農業振興団体の会員数総計								
	成果指標	補助団体の活動数	回	目標	164	164	164	164	164	新型コロナウイルス感染症の影響により開催を自粛したイベントや研修会等もあったが、令和3年度と比べ団体活動数が増加している。	
				実績	104	89	131				
	<指標の計算方法>		各農業振興団体の年間活動数総計								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,134			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,134	
事業の実績	①農業士会活動支援補助金 補助金額 280,000円 会員数 109人 活動数 20回			止したため補助金を交付しなかった。			活動数 20回				
	②4Hクラブ活動支援補助金 補助金額 230,000円 会員数 16人 活動数 9回			⑤生活研究グループ連絡協議会補助金 補助金額 545,000円 会員数 8団体(101人) 活動数 27回			⑨鞆渕地域活性化実行委員会活動支援 黒豆の収穫体験等のイベント時に運営活動支援を行った。				
	③青年農業経営者協議会活動支援補助金 補助金額 216,000円 会員数 25人 活動数 4回			⑥環境保全型農業グループ補助金 補助金額 390,000円 会員数 89人 活動数 34回							
	④営農研究会活動支援補助金 補助金額 0円 会員数 8団体(1,160人) 活動数 0回 新型コロナウイルス感染症により活動を中			⑦あら川の桃振興協議会補助金 補助金額 673,000円 会員数 537人 活動数 17回			⑧中国実習生受入協議会補助金 補助金額 800,000円 会員数 4人				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市が団体に対して活動補助金を交付することで、それぞれの農業振興団体の主体的活動が活発化することは、団体のみならず地域農業の活性化と農業生産性の向上にも繋がるため、市が実施することは妥当であると考えます。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・農業従事者の高齢化や担い手不足などにより会員数は減少傾向にあるが、農業を取り巻く厳しい状況の中では、団体活動を通じて市の農業振興に一定の効果をもたらしている。 ・会員数を増加させるためにも、定例となっている活動を見直し、新しい事業活動を取り入れるなど、団体活動をより魅力的なものにしていく必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・各団体において、会員数、活動回数、活動内容によって補助金額を見直していく必要がある。 ・団体に自主性を持たすためにも、市職員の役割を見直していくことも必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	農業資金・制度資金利子補給事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	797
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	農業従事者等の農業関係資金や風水害等の被害に対する融資負担の軽減を図り、農業経営の安定化を図るために、利子補給を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	農業経営基盤強化資金利子補給金			⑤				⑨		
	②	生活営農資金利子補給金			⑥				⑩		
	③	特別融資制度推進会議運営			⑦				⑪		
	④	農業振興資金利子補給金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名	単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	生活営農資金利子補給件数	件	目標						償還期間満了や繰上償還により、利子補給件数は減少していく見込みである。		
			実績	131	127	123					
	<指標の計算方法>	紀の川市生活営農資金利子補給金交付要綱に基づき利子補給した件数									
	農業経営基盤強化資金利子補給件数	件	目標						償還期間の満了がなく、令和3年度と同数となる。		
			実績	5	4	4					
	<指標の計算方法>	紀の川市農業経営基盤強化資金利子補給金交付要綱に基づき利子補給した件数									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	204			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		204
事業の実績	①農業経営基盤強化資金利子補給金 4件										
	②生活営農資金利子補給金 H30年台風20, 21, 24号対策 123件										
	③特別融資制度推進会議運営 対象となる融資がなかったため会議を開催しなかった。										
	④農業振興資金利子補給金 H30年台風20, 21号対策 3件										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・意欲的な農業者に対して利子補給を行い農業従事者の負担を軽減することは、安定した農業経営の確立につながり、長期総合計画の基本施策に適合している。 ・市が関与することにより融資を円滑にし、農業者に長期で低金利の資金を融資することができ、農業の近代化に資することができる。 ・県事業への上乗せ補助制度のため、県事業と重複するが、農業従事者の負担軽減を図るもので妥当といえる。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・農業従事者に対して金利負担の軽減を図り、農業経営の安定化と強化につながっている。 ・自然災害からの復旧には多額の資金が必要となり、農業者にとっては経営意欲が低下することが懸念されるが、利子補給制度により農業経営の維持につながる。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・利子補給金及び人件費のみの事業である。 ・事務処理などに会計年度職員等を活用することにより、人件費コストの縮減が可能であると考えられる。									

事務事業の概要	事務事業名	有害獣被害防止対策事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	798
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	有害鳥獣による農作物被害を防止し、農家の経営安定と生産振興を図るため、紀の川市内の農地に設置する防護柵等の設置費用の一部に補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	有害獣被害防止対策事業補助金			⑤			⑨			
	②	農作物鳥獣被害対策アドバイザー育成			⑥			⑩			
	③	野生鳥獣による農作物の被害状況調査			⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	農作物鳥獣被害対策アドバイザー取得者数	人	目標	1	1	1	1	1	令和4年度も2名のアドバイザーを育成したことにより、農作物の被害軽減のための知識を習得し、職員も有害捕獲対応が可能となった。	
			実績	2	2	2					
	<指標の計算方法>		市職員の農作物鳥獣被害対策アドバイザー取得者数								
	活動指標	防護柵等設置面積(市単・県単)	ha	目標	50	50	50	50	50	豚熱発生によりイノシシの生息数が一時的に減ったと推測されるため設置面積が減少している。	
			実績	40	12.8	9.84					
	<指標の計算方法>		市補助及び県補助により防護柵等を設置した面積								
成果指標	有害獣による農作物被害額(イノシシ)	千円	目標	31,309	29,661	28,103	11,209	10,619	鳥獣被害防止計画の被害実績値を毎年5%減少を目標値と設定して猟友会協力のもとで相当数の捕獲を行っているが、依然として高い被害額で推移している。		
		実績	16,458	11,799	12,663						
<指標の計算方法>		野生鳥獣による農作物の被害状況調査票による									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳							
	1,984			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,984	
事業の実績	①有害獣被害防止対策事業補助金(市単) 36件 9.8ha										
	②農作物鳥獣被害対策アドバイザー育成アドバイザー取得者数 2名										
	③野生鳥獣による農作物の被害状況調査 J A紀の里・和歌山県農業共済組合より被害状況聞き取り結果 イノシシによる農作物被害額 12,663千円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		<ul style="list-style-type: none"> 有害鳥獣による農作物の被害軽減を図ることは、農業経営の安定化につながり長期総合計画の基本施策に適合している。 農作物の被害防止対策は、農業従事者の自主的な取組だけでは限界があり、行政や地域での一体となった取組が必要である。 									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
<ul style="list-style-type: none"> 農作物の被害状況は依然として高い数値となっているため、防護柵の有効性や補助事業を広報等で周知し、防止対策を推進していく必要がある。 防護柵の設置は被害対策として有効であるため、農業従事者の生産意欲の低下につながらないよう継続していく必要がある。 											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	<ul style="list-style-type: none"> 地域一体で被害対策に取組むことで、より効果が向上することが見込まれる。 										

事務事業の概要	事務事業名	農産物販売促進事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	801	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	農業従事者等の所得を向上させるために、市産農産物のトップセールスや販売促進に係るイベントを行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	産業まつり補助金			⑤			⑨				
	②	トップセールス等販売促進事業			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	産業まつり来場者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		産業まつり会場への来場者数									
	活動指標	トップセールス等の実施回数	回	目標	8	9	9	10	10	新型コロナウイルス感染症の拡大状況を見ながら、トップセールスや直売イベント等を実施した。実施回数は新型コロナウイルス感染症の発生前の状態に戻りつつある。		
				実績	3	2	7					
	<指標の計算方法>		トップセールス等の年間実施回数									
	活動指標	海外現地商談件数	件	目標	0	0	0	0	0	国の交付金の終了や新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和元年度で事業を一旦終了している。		
実績				0	0	0						
<指標の計算方法>		海外バイヤーとの商談総件数										
成果指標	海外現地商談成約見込件数	件	目標	0	0	0	0	0	国の交付金の終了や新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和元年度で事業を一旦終了している。			
			実績	0	0	0						
<指標の計算方法>		海外バイヤーとの成約見込総件数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,700			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①産業まつり補助金 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止した。			農作物を販売した。 ・紀の川マルシェ (市主催) 実施日：3月5日 場所：ディアモール大阪 (大阪市) 内容：市主催で、イチゴ等の市産農作物を販売した。			場所：ホテルニューオータニ (東京都) 内容：和歌山県主催レセプションで、市産農作物のPRを行った。					
	②トップセールス等販売促進事業 【トップセールス】 ・桃 実施日：7月5日 場所：大阪市中央卸売市場 ・いちじく (中止) ・柿 実施日：9月26日 場所：東京都中央卸売市場大田市場 ・キウイ・中晩柑 実施日：2月7日 場所：東京都中央卸売市場大田市場 【直売イベント】 ・農林水産祭「実りのフェスティバル」 実施日：11月11日～12日 場所：サンシャインシティワールド インポートマートビル (東京都) 内容：和歌山県のブース内で、柿等の市産			【プロモーションイベント】 ・Peach Aviation桃配布イベント 実施日：7月12日 場所：関西国際空港第2ターミナル 内容：国内到着3便の乗客に、桃の無料配布を行った。 ・Peach Aviationオンラインキャンペーン 実施日：7月13日～15日 内容：Peach公式Twitterで対象ツイートをリツイートした方に、抽選で50名に桃のプレゼントを行った。 ・和みわかやま東京レセプション 実施日：10月27日			【農産物活用商品開発】 企業と連携し、市産農作物を使用した商品開発を行った。 ・(株)中島大祥堂 商品：市産桃を使用したパイ、かき氷等 販売店舗：関西5店舗 (大丸梅田店、他) ・(株)セブン・イレブン・ジャパン 商品：あらかわの桃シュークリーム 販売店舗：和歌山、阪南、兵庫県内の店舗 ・セガフレード・ザネッティ・ジャパン(株) 商品：市産キウイを使用したヨーグルトドリンク 販売店舗：東京都内の1店舗 (新宿) ・銀座料理飲食業組合連合会 商品：市産八朔を使用した料理・ドリンク 販売店舗：東京都内の14店舗 (銀座)					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市産農作物の認知度を向上させ、ブランド化や産地化の推進を図ることは、農業従事者の生産力及び所得向上に繋がるとともに、市の主要産業である農業の振興を図るうえでも市の関与は必要である。 ・JA紀の里と連携して実施しており、実施主体としても適当であると言える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・産業まつりは、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止が続いているが、市の主要産業である農業を活性化させるためにも、新型コロナウイルス感染症の影響がある中での開催基準の見直しや開催内容を検討し、開催できるように進めていくことが必要である。 ・市場や小売店との信頼関係を築く市場でのトップセールスや消費者への認知度向上、消費拡大に繋がる直売イベントの実施は、農業従事者の所得向上に繋がるため、引き続き実施していくことが必要である。 ・今後の国内人口減少に伴う国内市場の縮小を見据え、海外市場の動向を見ながら海外販路拡大事業の実施を検討していくことが必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・シティプロモーションやふるさと納税事業、観光施策と連携した効率的・効果的な事業を、引き続き実施していくことが必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	6次産業化支援事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	992
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	6次産業化を実践する農業従事者等の新商品の開発や販路開拓の促進等を支援する事業										
事務事業を構成する細事業	①	6次産業化支援事業補助金			⑤			⑨			
	②	6次産業化スクール			⑥			⑩			
	③	加工商品開発コンテスト事業			⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	新商品の開発数	品	目標	4	4	4	4	4	補助メニューを活用した新商品の開発品数は目標に達しなかったが、商品開発の相談など一定のニーズがあることを把握した。	
			実績	2	2	1					
	<指標の計算方法>		紀の川市6次産業化支援事業の補助メニューを活用して開発された商品の数								
	活動指標	補助金交付件数	件	目標	4	4	4	4	4	補助金の交付件数は目標に達しなかったが、相談など一定のニーズがあることを把握した。	
			実績	2	2	1					
<指標の計算方法>		紀の川市6次産業化支援事業補助金の交付件数									
成果指標	6次産業化スクール事業参加者数	人	目標	50	70	70	70	70	6次産業化への取り組みに関心のある農業従事者が増加傾向にある。		
		実績	43	70	85						
<指標の計算方法>		講演会、スクール、個別相談会の合計参加人数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	21,909			国庫支出金	10,835	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	11,074
事業の実績	①6次産業化支援事業補助金 ・新商品の開発や新規販路の開拓に対して補助金を交付し、6次産業化の支援を行った 【商品開発】1件			促進させるため、市内生産者と全国のクリエイターが共に商品企画を行い商品化するコンテスト(第2回)を実施した。 【生産者】 応募者数：11名(選定：7名) 【クリエイター】 応募者数：55名(選定：7チーム) 【優秀賞(商品化補助)】 4チーム				場所：東京ビッグサイト			
	②6次産業化スクール ・農家だからこそできるこれからの事業づくりをテーマに、講演会をはじめ、取り組み方を実践的に学ぶワークショップ形式のスクール、個別相談会を実施した。 【講演会】 実施回数：1回 参加者数：40名 【スクール】 開催回数：全3回 参加者数：24名 【個別相談】 開催回数：全3回 参加者数：延べ21名			・紀の川市で起きている商品開発などの様々なチャレンジを、市として後押しするため、紀の川市認定ブランド「ISSEKI」を立ち上げ、認定第1弾商品を発表した。 【認定商品】 2商品 (第1回加工商品開発コンテスト優秀商品) 【展示会出展】 FOODEX JAPAN 2023 期間：3月7日～3月10日(4日間)							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
		・6次産業化は農作物の価値を高め、農業者の所得向上に繋がる取り組みであるため、支援を継続していく必要がある。 ・補助事業の内容については、よりニーズを満たせるように制度設計を見直すなど対応していく必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・6次産業化の講演会やスクール、個別相談会の実施は、6次産業化実践者の確保に繋がっている。また、加工商品開発コンテストの実施は、6次産業化ビジネスモデルの形成に効果があり、事業の継続に向けた検討も必要である。 ・補助事業の利用実績は横ばいであるが、6次産業化の講演会やスクールの開催により、相談や問い合わせなど一定のニーズがある。6次産業化をより推進し、実践者を確保していくことで補助事業の活用につなげていくことが必要である。 ・商工関連施策と連携し、6次産業化事業立ち上げのリスクを軽減する効果的な措置を検討することが必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・農業者の6次産業化ビジネスを支援しながら、商工業者や加工関連会社などと連携することで、より取り組みやすい環境にしていくことが必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	農業経営基盤強化促進事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	787	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興			
取組方針				3	農業の担い手育成と支援							
事業概要	意欲ある農業従事者及び新たに就農する青年等の農業経営基礎の確立を図るために、農業経営の改善及び安定化・効率化の促進等の支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農業経営改善計画等認定審査会運営			⑤	農業経営管理合理化推進事業補助金			⑨			
	②	認定農業者・認定新規就農者支援			⑥	農地集積協力金			⑩			
	③	農地利用促進			⑦	経営体育成支援事業補助金			⑪			
	④	農地流動化奨励補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	農業経営改善計画等認定審査会の開催回数	目標	4	4	4	4	4	4月、7月、10月、1月の年4回、認定農業者及び認定新規就農者の認定機会を設定し、審査会を開催している。			
			実績	4	4	4	4					
	<指標の計算方法>		認定農業者及び認定新規就農者の決定機関（法第12条第4項及び第14条の4第3項）である審査会の開催回数									
	成果指標	農用地利用配分計画（案）の作成回数	目標	6	6	6	6	6	農地中間管理機構を活用した農地の利用権設定は、国が推奨する取組である。			
			実績	12	12	12	12					
	<指標の計算方法>		農地中間管理事業を活用して農用地等の賃借権の設定等を行ってもらうために作成する件数（法第19条第2項）									
	成果指標	農地流動化奨励事業の実施面積	目標	2,000	2,000	2,000			農業者に対して、認定農業者制度及び利用権設定の周知が図られていると考える。事業見直しにより令和4年度をもって終了となる。			
			実績	3,538	2,464	2,053						
	<指標の計算方法>		認定農業者等が農業経営の規模拡大を図るために利用権設定した農地の面積									
活動指標	農業経営管理合理化推進事業の実施件数	目標	40	40	40	40	40	農業者に対して、認定農業者制度の周知が図られており、令和4年度は前年度と同程度となっている。				
		実績	38	20	21							
<指標の計算方法>		認定農業者等が農業経営改善計画等の達成に必要な農業用機械の導入に対して補助した件数										
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	3,571								3,571			
事業の実績	①農業経営改善計画等認定審査会運営 認定審査会を4回開催			⑦経営体育成支援事業補助金 0件								
	②認定農業者・認定新規就農者支援 農業経営や新規就農の相談や農業関係制度の説明などを随時行いました。											
	③農地利用促進 農用地利用集積計画の公告 12回 農用地利用配分計画の作成 12回											
	④農地流動化奨励補助金 51人 2,053.62a											
	⑤農業経営管理合理化推進事業補助金 中型農機 10件 大型農機 11件											
	⑥農地集積協力金 0件											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・持続可能な農業を実現するためには、人と農地の問題を一体的に考える必要がある。さらに地域農業の担い手となる農業者を育成し確保していくためには、市が積極的に関与する必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・農業者の高齢化と担い手不足が著しいなか、継続して実施していく必要がある。 ・農地の流動化推奨補助金は影響が微弱であることから令和4年度をもって事業を廃止し、令和5年度からは農業経営管理合理化推進事業補助金の拡充を図ることとしている。 ・すぐに農業経営の強化促進効果が表れる事業でないため、継続実施による効果検証を行いながら事業の見直しや改善を図る。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・新規就農や補助制度などで多くの方が相談に来庁され、対応には専門的知識が必要であるため会計年度任用職員等への置換は困難であると考える。											

事務事業の概要	事務事業名	農業次世代人材投資事業			担当課	農業振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	851	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興			
取組方針	3	農業の担い手育成と支援										
事業概要	青年農業者の就農意欲の喚起と就農後の定着による就農者の増加を図るために、認定新規就農者へ資金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農業次世代人材投資資金の交付			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	新規就農者研修会の開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	新規就農者に対して農業経営の確立を支援するための研修会が定期的に開催できている。		
				実績	1	2	2					
	<指標の計算方法>		新規就農者を対象とした研修会の年間開催回数									
	活動指標	審査委員会の開催回数	回	目標	2	2				国の事業変更により令和4年度から別事業での運用となったため、新規採択者を決定する審査会は実施しなかった。		
				実績	1	2						
	<指標の計算方法>		農業次世代人材投資事業審査委員会の年間開催回数									
	活動指標	資金の新規採択者数	人	目標	4	4				国の事業変更により令和4年度から別事業での運用となったため、当該事業における新規採択者はいない。		
				実績	3	6						
	<指標の計算方法>		農業次世代人材投資資金の新規採択者数									
成果指標	新規就農者数	人	目標	25	25	25	25	25	目標値に届いていないが、新規就農者数は一定の水準にある。			
			実績	25	22	15						
<指標の計算方法>		県の新規就農者調査による前年度中の本市の新規就農者数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	25,998			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	498		
事業の実績	①農業次世代人材投資資金の交付 ・次世代を担う農業者となることを志向するものに対し、就農直後の経営確立を支援するために資金を交付し、就農支援を行いました。 交付対象者数 21名（令和3年度以前からの継続者のみ）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・新たな担い手農業者の育成と確保を図るものであり、長期総合計画の基本施策に適合している。 ・新規就農者の就農初期の不安定な経営を支えるため、国の制度を活用して市が資金を交付する事業であり、市の関与は妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・国の要綱において運用しており、国が事業の有効性を検証して見直しや改善等を行っているため、市の裁量はない。 ・国制度の運用により令和3年度をもって終了となり、令和3年度以前に採択している交付対象者への資金交付及び営農サポートを継続する。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・国の要綱に基づき事業運用しており、他市町と比べて対象件数が多いが、スムーズな事務処理が遂行出来ているため、コスト削減などについて改善の余地はない。												

事務事業の概要	事務事業名	担い手育成支援事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1129
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	農業の担い手の確保・育成を図り、地域農業の振興を図る事業										
事務事業を構成する細事業	①	親元就農助成金			⑤			⑨			
	②	受入体制の基盤整備			⑥			⑩			
	③	紀の川アグリカレッジ事業			⑦			⑪			
	④	新規就農者育成総合対策事業			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	担い手育成支援事業審査委員会の開催回数	目標	2	2	2	2	2	経営開始資金、親元就農助成金の交付を採択するための審査委員会が定期的に開催できている。		
			実績	2	2	1					
	<指標の計算方法>		経営開始資金、親元就農助成金の採択を審査する審査委員会の年間開催回数								
	活動指標	検討委員会の開催回数	目標	4	3	3	3	3	担い手農業者の受入体制の構築について検討する検討委員会が計画的に開催できている。		
			実績	4	3	3					
	<指標の計算方法>		担い手の受入体制を検討する検討委員会の年間開催回数								
	成果指標	経営開始資金の新規採択者数	目標	0	0	10	10	10	国の事業変更により、農業次世代人材投資資金に変わる事業として令和4年度から開始された新規事業である。		
			実績	0	0	9					
	<指標の計算方法>		新規就農者育成総合対策（経営開始資金）の新規採択者数								
成果指標	親元就農助成金の新規採択者数	目標	6	8	8	8	8	目標値に達していないが、今後も申請（採択者）が見込まれる。			
		実績	5	6	1						
<指標の計算方法>		親元就農助成金の新規採択者数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	20,527			国庫支出金	3,996	県支出金	6,750	地方債	繰入金	その他	一般財源
事業の実績	①親元就農助成金 ・親元就農助成金の交付 交付対象者数 8名（うち新規1名）			・経営開始資金の交付 交付対象者数 9名（うち新規9名）							
	②受入体制の基盤整備 ・JA紀の里、紀ノ川農協、市がそれぞれ実施する研修機関が連携を図り、一体となって新規就農希望者の受入れに取り組み、研修生への支援を行った。 ・研修生を受け入れるための基盤整備に係る検討委員会の開催回数 3回										
	③紀の川アグリカレッジ事業 ・いちご農家として本市で就農を目指す方を募集し、研修生として受入れました。 令和4年度第1期生 4組5名 研修期間 2年間										
	④新規就農者育成総合対策事業										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・次世代の就農意欲を喚起し、担い手を確保・育成することは、持続可能な力強い農業を将来にわたり実現することにつながり、長期総合計画の基本施策に適合している。 ・新規就農者の就農初期の不安定な経営を支えるため、国の制度を活用して市が資金を交付する事業であり、関与は妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・親の農業を継承する者に対して支援を図ることで、農業経営を円滑に継承し地域農業の新たな担い手となることが期待できるため、有効的な事業である。 ・他産業からの就農希望者を積極的に確保するために、研修生受入事業「紀の川アグリカレッジ」を実施し、令和4年度は12名の応募者の中から3名を研修生として受入れを決定。今後も研修生が新規就農者として安定した農業経営を継続できるよう事業の改善を行いながら支援を図る。 ・資金交付については、国の要綱において運用しており、国が事業の有効性を検証して見直しや改善などを行っているため、市の裁量はない。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・新規就農希望者や親元就農者からの問い合わせや相談対応、助言等の支援、県や関係団体との連携が必要であり農業の専門的な識見を要するため、対応できる人員の確保が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	経営所得安定対策等事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1086	
	予算科目	款	6	農林業費	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流				
		項	1	農業費		施策目標	1	農業振興・産業振興				
		目	3	農業振興費		基本施策	1	地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	担い手農家の経営の安定や食糧自給力の維持向上を図るため、水田の活用を推進する経営所得安定対策事業の実施主体である地域再生協議会へ補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農業再生協議会補助金			⑤				⑨			
	②	経営所得安定対策等事業			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	地域別事業説明会の開催	箇所	目標	16	16	16	16	16	新型コロナウイルス感染症の影響で説明会の開催を中止したため、資料の郵送に代えて実施した。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		地域別説明会の開催箇所数									
	成果指標	産地交付金対象作物の作付面積	a	目標	21,000	20,000	20,000	20,000	20,000	農業者から提出された営農計画書を取りまとめた作付計画面積をもとに算出している。令和3年度から減少にある。		
				実績	20,981	21,086	20,370					
	<指標の計算方法>		水田活用の直接支払交付金（産地交付金）の対象となる作物（野菜、花き・花木、果樹）の作付合計面積									
成果指標	経営所得安定対策等事業交付金の申請者数	人	目標						農地が交付対象でなくなった方や農業者数の減少によって申請者数が減少傾向にある。			
			実績	741	699	637						
<指標の計算方法>		経営所得安定対策等事業交付金（水田活用の直接支払交付金）の申請者数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	11,280			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
				6,806				3,453	1,021			
事業の実績	①農業再生協議会補助金 ・農業経営の安定と地域農業の発展に向けた取組をしている紀の川市農業再生協議会に対して補助金を交付しました。 推進事業補助金 国庫 6,806千円 市 201千円											
	②経営所得安定対策等事業 交付金申請者数 637名											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・水田の有効活用を推進する経営所得安定対策事業の実施主体である地域農業再生協議会に対して国庫補助金を交付する事業である。また、固定資産等の個人情報の取扱いや市の農業関連業務との関連が深いために、市が関与することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・国の要綱に基づき、本事業の有効性を検証しながら見直しや業務改善を行っている。 ・農業者から営農計画書の提出を受け、営農状況の把握及び水田台帳の整備や管理ができています。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国の要綱に基づき事業運用しているため、コスト削減等について改善の余地はない。 ・事業対象である水田筆数が非常に多く業務量も膨大であるため、データ入力や単純作業において会計年度任用職員の任用が必然であり、効率的な活用ができています。											

事務事業の概要	事務事業名	農業用施設整備支援事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1130	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	農業経営の安定化を図るため、モモせん孔細菌病対策の防風ネットやハウス整備に対して補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	モモせん孔細菌病対策事業補助金			⑤			⑨				
	②	ハウス整備支援事業補助金			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	モモせん孔細菌病対策事業補助件数	件	目標						平成30年台風被害から多くの桃農家が防風ネットを新設、改修したため申請件数が少ない傾向にある。		
			実績	1	2	2						
	<指標の計算方法>		補助対象となった事業の件数									
	活動指標	ハウス整備支援事業補助件数	件	目標						令和4年度から市の要綱を県の要綱に合わせ、補助の対象を充実させたことで件数が増加した。		
			実績	2	7	10						
	<指標の計算方法>		補助対象となった事業の件数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	5,367			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			5,367									
事業の実績	①モモせん孔細菌病対策事業補助金 ・モモせん孔細菌病を抑えるための対策として、桃生産者の防風ネットの導入に係る経費の一部について補助金を交付した。 申請件数 2件 受益面積 0.34ha											
	②ハウス整備支援事業補助金 ・農業用ハウスの導入に係る経費の一部について補助金を交付した。 申請件数 10件 整備面積 40.6a											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・農業経営の安定化を図るために農業用施設の整備を支援することは、長期総合計画の基本計画にも貢献するものであるので妥当といえる。 ・防風ネットの設備や農業用ハウスの整備は、国においても補助制度はあるが、採択要件が異なるため重複するものではない。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・防風ネットの設置は、モモせん孔細菌病の最も有効な対策であり、生産性の確保にも繋がるため、市が補助金を交付して支援を図ることは有効であるといえる。 ・台風による甚大な被害を減少し農業の効率化を高めるため、農業用ハウスの導入を推奨し、市が補助金を交付して支援を図ることは有効であると考え。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・要綱に基づき運用しているため、コスト削減等について改善の余地がない。 ・県事業と合わせて2分の1の補助率であり、負担割合は適正なものと考え。											

事務事業の概要	事務事業名	地産地消・食育推進事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	74	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興				
事業概要	市民に市産農産物を使った健全な食生活を実践してもらうために、地産地消と食育推進の普及啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	食育推進会議運営			⑤				⑨			
	②	食育フェアの開催			⑥				⑩			
	③	食育料理教室の開催			⑦				⑪			
	④	野菜フェスタ参加負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	食育料理教室の開催数	回	目標	7	7	7	7	7	新型コロナウイルス感染症により開催を中止した。		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		紀の川市立保育所での親子料理教室の開催回数									
	成果指標	食育フェア来場者数	人	目標	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000	新型コロナウイルス感染症により開催を中止した。		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		合同で開催している産業まつりへの集客も含んだ来場者数									
	成果指標	食育に関心を持っている成年の割合	%	目標	90	90	90	90	90	次回の調査は、第4次食育推進計画策定に係るアンケート調査を令和5年度に実施する。		
			実績		80.1							
	<指標の計算方法>		紀の川市食育推進計画におけるアンケート調査結果より算出									
成果指標	三食規則正しく食べる成年の割合	%	目標	80	80	80	80	80	次回の調査は、第4次食育推進計画策定に係るアンケート調査を令和5年度に実施する。			
		実績		60.5								
<指標の計算方法>		紀の川市食育推進計画におけるアンケート調査結果より算出										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	535			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		535	
事業の実績	①食育推進会議運営 1回開催 前年度実績報告、収支決算報告及び当年度事業計画、収支予算について											
	②食育フェアの開催 新型コロナウイルス感染症により中止											
	③食育料理教室の開催 新型コロナウイルス感染症により中止											
	④野菜フェスタ参加負担金 新型コロナウイルス感染症により中止											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・海外から輸入する農産物の増加や食品の産地偽装など、食を取り巻く環境が変化するなか、市民の食への関心は依然として高く、一定の市民ニーズもあることから事業継続の必要性は高いと考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・本市の食育推進の取組について、市民を広く対象とした事業が全体的に少ないため啓発の機会が少なく、市民に対して食育推進の取組を十分に周知できていない。事業内容や食育推進に伴う広報、啓発の手段について見直す必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・食育推進について、各種イベント等での効果的なPR方法を検討していく必要がある。 ・関係団体を積極的に巻き込むことで、より効率的かつ効果的な事業の実施が可能であると見込まれるので、各種団体との連携を強化する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	環境保全型農業直接支払事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	831
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	3 農業振興費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	農業者団体が環境保全型農業の推進を図るために、地球温暖化防止や生物多様性保全に効果の高い営農活動や推進活動に対する支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	環境保全型農業直接支払交付金事業			⑤			⑨			
	②	環境保全型農業直接支払推進事業			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	取組団体数	件	目標	3	3	4	5	5	取組団体として新たに1団体が増え、既存団体においても取組者数が増加傾向にある。	
			実績	3	4	5					
	<指標の計算方法>		環境保全型農業直接支払交付金を受け活動を行う団体等の総数								
	成果指標	取組面積	a	目標	700	700	1,000	1,300	1,300	取組団体の増加や取組者による農地の新規取得等により取組面積は増加傾向にある。	
			実績	646	980	1,275					
	<指標の計算方法>		各団体等の取組総面積								
成果指標	推進活動回数	回	目標	9	9	9	9	9	取組回数は横這いであるが、新たな活動内容に入れ替えるなど積極的な推進活動が行われている。		
		実績	7	6	8						
<指標の計算方法>		各団体等の推進活動の総回数									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,583			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	395	
事業の実績	<p>①環境保全型農業直接支払交付金事業 地球温暖化防止、生物多様性保全等に貢献していくため、より環境保全に効果の高い営農活動を行う農業者団体等に補助を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組団体数：5件 構成員人数：27人 取組み面積：1,275 a 推進活動数：8回 <p>②環境保全型農業直接支払推進事業 環境保全型農業直接支払交付金事業の適正かつ円滑な実施の促進に資するため、推進事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施状況の確認事務 27件 有機質肥料施用、低農薬防除の推進 										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		<ul style="list-style-type: none"> 農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律では、農業の有する多面的機能は国民に多くの恵沢をもたらすものであり、国、県、市が集中的かつ効果的に支援を行うこととされている。 法令に基づき、農業の持続的発展と多面的機能の発揮を図るために、環境保全に効果の高い営農活動に対して支援を行っている。 国施策の「みどりの食料システム戦略」に掲げる目標の達成に向けて、有機農業への転換に係る農家負担の低減を図るため本事業の積極的な活用を行う必要がある。 									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
<ul style="list-style-type: none"> 本市ではまだまだ慣行栽培が主流で、リスクを伴う環境保全型農業に取り組む農業者が少ないことが現状であるが、農業の有する多面的機能の発揮を促進するためにも、積極的な事業周知を図っていく必要がある。 有機農業の推進を通じて農業に由来する環境負荷の低減を図るとともに、有機農業の普及における体制づくりを行う必要がある。 											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	<ul style="list-style-type: none"> 事業の実施は、国の定める実施要綱、要領に基づき実施している。 負担割合についても要綱に基づき実施している。 										

事務事業の概要	事務事業名	農業振興地域整備計画事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	77	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	3 農業振興費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
事業概要	農地の無秩序な開発の防止や良好な営農環境の確保を図るために、農業振興地域内の農用地の変更申出の審査及び農用地利用計画の変更を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農業振興地域整備促進協議会運営			⑤			⑨				
	②	農業振興地域整備計画管理			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	農用地区域変更件数	件	目標						変更件数については、農地所有者からの申し出が主であるため年度毎ではばつきがある。		
				実績		47	58	25				
	<指標の計算方法>		農用地区域変更申出を精査し受付した件数の内、県同意を得て変更した件数									
	成果指標	農用地区域除外面積	a	目標						除外面積については、農地所有者からの申し出が主であるため年度毎ではばつきがある。		
				実績		372	503	234				
	<指標の計算方法>		農用地区域からの変更で除外した農用地面積									
成果指標	農用地区域編入面積	a	目標						編入面積については、農地所有者からの申し出が主であるため年度毎ではばつきがある。			
			実績		117	11	134					
<指標の計算方法>		農用地区域からの変更で編入した農用地面積										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,090			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			3,087									
事業の実績	①農業振興地域整備促進協議会運営 農業振興地域整備促進協議会 2回開催											
	②農業振興地域整備計画管理 計画変更回数 2回 農用地区域への編入 3件 134 a 農用地区域から除外 22件 234 a 令和3年度から令和4年度において農業振興地域整備計画の全面見直しを実施した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・本事業は、農業振興地域の整備に関する法律及び関連法令に基づく義務的業務であるため、市が実施主体となることは妥当である。 ・良好な農業環境を守りながら市民の農地転用のニーズに適正に応えるため、農地と農地以外の土地の合理的な利活用の調整を図る業務でもあり、継続する必要性が高い業務である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・宅地化が進んでいる地域では、年々、計画と現況との乖離が大きくなるため、農業振興地域整備計画の定期的な見直しが必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・専門的な業務以外の事務処理を会計年度任用職員に置き換えるなどコスト削減の余地はある。										

事務事業の概要	事務事業名	農業振興施設管理運営事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	790
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	4 農業施設費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	農業振興施設が農業振興や住民の公共の福祉に寄与するために、施設管理を適切に行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	桃源郷学習体験館施設管理			⑤	西の池かんがい用水施設管理		⑨			
	②	農村改善センター施設管理			⑥	細野生活改善センター施設管理		⑩			
	③	農村婦人の家施設管理			⑦			⑪			
	④	農産物直売所施設管理			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	桃源郷学習体験館施設利用回数	目標	170	170	170	170	170	施設の利用の一部は、ジャム作りなどの調理を伴う学習体験であるため、新型コロナウイルス感染症の影響による利用数は下げ止まりとなっている。		
			実績	117	133	138					
	<指標の計算方法>		有料施設使用許可申請書受付枚数								
	成果指標	農村改善センター施設利用回数	目標	380	380	380	380	380	新型コロナウイルス感染症の影響により低下していた利用数は回復傾向にある。		
			実績	339	279	436					
	<指標の計算方法>		農村改善センター貸出予定及び実績報告書における施設利用回数								
	成果指標	農村婦人の家施設利用回数	目標	190	190	190	190	190	施設の利用の大半が高齢者団体であることや調理実習であるため、新型コロナウイルス感染症の影響による利用数は下げ止まりとなっている。		
			実績	146	125	128					
	<指標の計算方法>		農村婦人の家使用予定表における施設利用回数								
成果指標	桃源郷学習体験館一般来場者数	目標	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900	新型コロナウイルス感染症の影響による一般来場者数の低下は、回復傾向にある。			
		実績	1,610	1,696	1,837						
<指標の計算方法>		桃源郷学習体験館一般来場者数による来場者数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	26,339			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
					12,500		123	13,716			
事業の実績	①桃源郷学習体験館施設管理 施設利用回数 138回 一般来場者数 1,837名										
	②農村改善センター施設管理 施設利用回数 436回										
	③農村婦人の家施設管理 施設利用回数 128回										
	④農産物直売所施設管理 農村交流施設撤去工事を実施した。										
	⑤西の池かんがい用水施設管理 電気設備の保安管理を委託した。										
	⑥細野生活改善センター施設管理 屋根改修を実施した。										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
		・農村改善センターは粉河公民館長田分館と併設され、農村婦人の家は近隣に粉河公民館川原分館が存在する。利用実態は生涯学習及び生涯スポーツ活動が多いが、耐震性が無く老朽化が進んでいることもあり、統廃合の検討が必要である。 ・両施設とも地域住民には必要な集会所等の地域コミュニティ機能を有していることから、統廃合には自治区を含めた慎重な検討が必要である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・農村改善センターと農村婦人の家は、農業経営や生活の改善、農村在住者の健康増進と住民相互の親睦を図り、住みよい地域づくりを目的に設置されているが、建設当初と比べ農村における生活環境も大きく変化していることから、農業振興施設と位置づけた効果に疑問がある。									
効率性	評価結果	改善の余地が大きい									
	・農村改善センターと農村婦人の家は、その利用実態から社会教育施設への移管、集会所としての自治区への移管といった検討が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	青洲の里管理運営事業			担当課	農業振興課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	972
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興			
		目	4 農業施設費				基本施策	1 地域の特性を生かした農業振興			
事業概要	利用者に情報発信・休憩・地域交流をはじめとする各種サービス・機能の提供を行うために、青洲の里の施設管理及び広報活動を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 青洲の里施設管理			⑤				⑨			
	② 青洲の里管理運営委託			⑥				⑩			
	③ 全国道の駅連絡会負担金			⑦				⑪			
	④ 近畿道の駅連絡会負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	フラワーヒルミュージアム年間入場者数	人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	令和4年度の実績は、令和元年度程度には回復している。(令和元年: 33,404人)	
			実績	18,831	24,853	31,779					
	<指標の計算方法>		青洲の里フラワーヒルミュージアムへの年間入場者数								
	成果指標	春林軒年間入場者数	人	目標	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	個人の入場者数は増加しているが、団体の入場者数は令和元年度の半数に満たない。(団体: 大人 令和元年: 1,523人、令和4年: 686人、小人 令和元年: 465人、令和4年: 0人)	
			実績	5,956	7,645	8,579					
	<指標の計算方法>		春林軒・展示室の年間入場者数								
	成果指標	EV充電器利用回数	回	目標	1,380	1,380	1,380	1,380	1,380	利用ユーザー数は増加(令和3年: 192、令和4年: 216)したが、利用回数100回を超えるユーザー数は減少(令和3年: 3名、令和4年: 2名)した。	
			実績	1,246	1,373	1,309					
	<指標の計算方法>		青洲の里駐車場EVステーション利用回数								
活動指標	情報発信回数	回	目標	100	100	100	100	100	華岡青洲の顕彰事業、各種イベント、花の開花状況など情報発信が増えている。(twitter35回、Instagram80回)		
		実績	105	96	139						
<指標の計算方法>		青洲の里フェイスブック等更新回数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位: 千円)			財源内訳							
	29,573			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	371 29,202	
事業の実績	① 青洲の里施設管理 ・修繕 目立看板修繕 春林軒自動火災報知設備改修 ・管理 EV急速充電機、Wi-Fi等			③ 全国道の駅連絡会負担金 負担金 20,000円							
	② 青洲の里管理運営委託 ・一般財団法人青洲の里と青洲の里の管理及び運営に関する協定を締結し、指定管理者による管理運営業務を実施した。 期間: 令和3年4月1日～令和8年3月31日 ・紀の里農業協同組合と農産物直売所の管理及び運営に関する協定を締結し、指定管理者による管理運営業務を実施した。 期間: 令和3年12月1日～令和8年3月31日 ・現地測量業務 3,711,400円 公園部分を中心に現状把握と図面電子化を実施した。			④ 近畿道の駅連絡会負担金 負担金 27,000円							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・農業振興と地域住民のコミュニティ活動及び市民と都市住民の交流等の拠点としての位置づけのもと、医聖華岡青洲の顕彰拠点であり、道の駅に登録された施設であることから、市が管理運営することは妥当である。 ・借地を購入することで継続的に公共の用に供することができる。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・指定管理者制度の導入により民間のノウハウや経営手腕が発揮されつつある状況である。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止措置は国・県・市の方針を踏まえたうえで実施するとともに、集客力を高める取り組みを実施している。 ・春林軒及び展示室の活用について、関係機関と協議し、企画展示等を発案していく必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・道の駅としての機能を確保し、施設の適正管理を図り、集客のための取り組みを一体として運営するため、指定管理者制度を導入している。 ・指定管理料は、指定管理者の自主事業収入の増加や経常的経費の低下などができれば縮減の余地がある。										

事務事業の概要	事務事業名	農業施設整備事業			担当課	農地整備課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	756	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
事業概要	農業従事者等が利用する農業用施設の長寿命化や農業基盤の整備充実を図るために、関連団体への補助金の交付や農道の維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 県土地改良事業団体連合会負担金		⑤ 冬期通水負担金		⑨							
	② 国営造成施設管理体制整備促進事業負担金		⑥ 農業用施設整備補助金		⑩							
	③ 県ため池保全整備連絡協議会負担金		⑦		⑪							
	④ 県棚田等保全連絡協議会負担金		⑧		⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	農業用施設整備補助金の補助件数	件	目標	51	46	50	50	50	年度途中の追加認定及び申請取り下げにより変動するが最終的には増加している。		
			実績	81	69	77						
	<指標の計算方法>		交付要綱に基づき補助金を交付した件数									
	成果指標	整備箇所全体延長【農道・水路】	m	目標	1,266	1,123	1,000	1,000	1,000	年度途中の追加認定及び申請取り下げにより変動した。		
			実績	1,180	1,519	2,056						
	<指標の計算方法>		整備した農道、水路の延長									
	成果指標	整備箇所全体箇所【ため池・農業用施設】	箇所	目標	14	5	7	7	7	年度途中の追加認定及び申請取り下げにより変動するが最終的には増加している。		
			実績	26	21	19						
	<指標の計算方法>		整備したため池、農業用施設の箇所数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	37,507			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			37,507									
事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ②国営造成施設管理体制整備促進事業負担金 ③県ため池保全整備連絡協議会負担金 ④県棚田等保全連絡協議会負担金 ⑤冬期通水負担金 ・小田井土地改良区、荒見井土地改良区、藤崎井土地改良区、安楽川井土地改良区、貴志川土地改良区に冬季通水負担金を支出した。 ⑥農業用施設整備補助金 ・補助金交付件数 77件 整備実績 農道 17件 839m 水路 41件 1,217m ため池 11件 11箇所 施設 8件 8箇所											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・農業施設を維持するにあたり、国・県の採択条件に満たない事業であり、施設の老朽化や豪雨により破損した箇所を早急に修繕したい旨の要望が多く、迅速に対応ができる事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・緊急性が高い地元要望については、年度途中においても追加事業採択を行い早急に改修し、農産物の生産性・農業経営の安定が図られている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・本事業は農業用施設補修等の工事に対し補助金を交付する事業であり、地元関係者の認知度は高く要望も多い。修繕箇所の早期解消に向けて、手順良く事業活用を進めている。											

事務事業の概要	事務事業名	農村公園管理事業			担当課	農地整備課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1085	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
事業概要	市民の憩いの場として有効活用するために、農村公園の施設管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	農村公園等管理業務			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	現地確認回数	回	目標	24	24	24	24	24	各公園の点検を月2回行うことで、故障等不具合箇所の早期発見、早期対応することができた。		
				実績	24	24	24					
	<指標の計算方法>		現地確認回数									
	活動指標	修繕件数	件	目標						点検をこまめに行うことにより、修繕箇所が減少している。令和4年度は計画通り遊具の取替工事を行うことができた。令和5年度においても、経年劣化をした遊具の修繕を予定している。		
				実績	5	3	3					
<指標の計算方法>		公園施設の修繕件数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	7,349			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,349		
事業の実績	①農村公園等管理業務 ○桜つつみ公園・北涌農村公園 場所：名手西野・北涌地内 業務内容：草刈(年2回) 消毒(年2回) トイレ清掃・施設清掃 修繕箇所： ・桜つつみ公園 浄化槽操作盤修繕 ・北涌農村公園 男女手洗場修繕 ○南中ふれあい公園 場所：南中地内 業務内容：草刈(年3回) 消毒(年2回) トイレ清掃・施設清掃 ○曾池ふれあい公園 場所：桃山町調月地内 業務内容：清掃・草刈・消毒											
	○はりま池公園 場所：貴志川町丸栖地内 修繕箇所：手洗場排水管漏水修繕 ②工事請負 ○桜つつみ公園遊具取替工事 ・スプリング遊具3基撤去 ・新規スプリング遊具2基設置 ・シーソー1基取替 ○南中ふれあい公園 ・駐車場舗装改良工事：192㎡ ○公園施設防犯カメラ設置工事： 桜つつみ公園、北涌農村公園、南中ふれあい公園、はりま池公園											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市が設置している公園施設であり、公園利用者に快適に利用してもらえるよう維持管理は必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・月2回の定期点検を目標として行うことにより、故障箇所の早期発見と早期対応することができ、安全かつ快適に利用することが出来る。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・はりま池公園の管理については、地元で管理しており、定期点検時に消耗品の補給と修繕を行っている。 ・北涌農村公園、桜つつみ公園、南中ふれあい公園の管理については、シルバー人材センターに委託しているため、公園での問題点が発生した場合でも早急に対応出来ている。 ・曾池ふれあい公園の維持管理については、清掃、草刈り、消毒作業を地元へ委託している。											

事務事業の概要	事務事業名	県営広域営農団地農道整備事業			担当課	農地整備課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	期間限定複数年度 (H7～R4)		事業番号	759	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	5 農地費				基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備			
事業概要	農業従事者等が生産から流通にいたる一貫した広域産地体制化と市場圏拡大を図れるように、県営工事で農道の整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	県土地改良事業団体連合会負担金			⑤				⑨			
	②	県営紀の里地区広域営農団地農道整備事業負担金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	事業進捗率	%	目標	87.4	95.9	100			令和4年度本線が完成。事業主体の県と地元関係者が円滑に進むように調整し、本線の工事を完了することができた。		
				実績	87.1	98.8	100					
	<指標の計算方法>		実施事業費/総事業費									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	95,880			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9,980		
事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じた負担金を支出した。											
	②県営紀の里地区広域営農団地農道整備事業負担金 ・工事実施 道路工 555.0m (荒見) 舗装工 2,343.0m (荒見)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・本事業は2市2町を広域的に整備する事業であるため県営事業で実施しており、事業主体である県と地元との調整を図り事業を進めることができた。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・長期間継続している事業であり、事業計画による事業効果発現の面からも早急に事業完了することができた。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・本事業は県営事業であることから、最も効率的に事業を行えた。											

事務事業の概要	事務事業名	県営農業競争力強化基盤整備事業（尼寺地区）			担当課	農地整備課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（H30～R8）		事業番号	1011
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流		
		項	1 農業費				施策目標	1	農業振興・産業振興		
		目	5 農地費				基本施策	2	均衡の取れた農村や農地の整備		
取組方針				1	ほ場整備の推進						
事業概要	農業従事者等が農業競争力の強化を図れるように、県営工事で尼寺地区のほ場整備や農道整備を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	県土地改良事業団体連合会負担金			⑤				⑨		
	②	県営農業競争力強化基盤整備事業負担金			⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		

指標の実績	指標名	単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	事業進捗率	%	目標	36.8	45	52.2	61.5	78.2	事業の早期完了に向け、国の補正予算の活用や地元委員会と事業量の調整を図った結果、目標値を達成することが出来た。	
			実績	33.8	46.7	52.5				
	<指標の計算方法>		実施事業費÷全体事業費×100							
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										

コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)	財源内訳					
		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
	18,607			8,500		9,223	884

事業の実績	①県土地改良事業団体連合会負担金 ・事業費に応じて負担金を支出した。				
	②県営農業競争力強化基盤整備事業負担金 ・ほ場整備工 12.4ha				

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	・本地区は、まとまりのある未整備農地を区画整理して、農業経営の担い手への農地利用集積を図ることで地域農業の安定を目指すものであり、農業者の営農作業効率を高めることで生産性向上を目指すことを目的とした事業である。
	有効性	評価結果	改善の余地がない	・長期間継続していく事業であり、事業計画による事業効果発現の面からも早急に事業を完了することが有効な効果を生むため、現状を維持しつつ事業を進めることが必要である。
	効率性	評価結果	改善の余地がない	・本事業については県営事業であり、県と市が連携をとりながら調整することにより、事業の進捗率向上が図られている。

事務事業の概要	事務事業名	国営総合農地防災事業			担当課	農地整備課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (H26 ~ R10)	事業番号	905	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 農業費				施策目標	1 防災・防犯			
		目	5 農地費				基本施策	3 災害に強いまちの形成			
事業概要	市民が農業地域の湛水被害から安全が確保されるように、国営事業により湛水被害の軽減を図る事業										
事務事業を構成する細事業	①	水路清掃委託料			⑤				⑨		
	②	県土地改良事業団体連合会負担金			⑥				⑩		
	③	国営総合農地防災事業負担金			⑦				⑪		
	④	国営総合農地防災関連事業（県営）負担金			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	年度事業実施箇所数	箇所	目標	2	3	2	1	1	事業計画を基に用地・物件補償・改修工事に着手している箇所数で県営事業（嶋地区）水路工・（丸栖北地区）排水機場が順調に進んでいる。	
				実績	3	3	2				
	<指標の計算方法>		測量設計及び改修工事実施数								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	46,073			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,173	
事業の実績	①水路清掃委託料 ・岡田排水路清掃業務委託 排水路内土砂等清掃 1.8m ³										
	②県土地改良事業団体連合会負担金 事業費に応じた負担金を支出した。										
	③国営総合農地防災事業連合会負担金 事業費に応じた負担金を支出した。										
	④国営総合農地防災関連事業（県営）負担金 ・県営嶋地区（令和4年度予算で事業完成） 水路工 L= 110.3m ・県営丸栖北地区 水路工 L=45.5m 機場造成工										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・国主体の防災事業及び関連県営事業であり、近年頻発する豪雨による湛水被害の軽減を目的とした事業であるため必要である。また、県営嶋地区排水路事業及び県営丸栖北地区排水機場事業についても湛水被害の軽減を図るため、国営・県営事業に対して負担金の支出が必要。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・本事業は国営・県営事業であり、国・県の計画事業で定められた計画に基づき実施されている。現在の進捗も計画どおり進んでいる。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・国・県の防災対策事業で市の負担が少なくなる事業であり、国・県の同時施工により事業効果が大きく影響する。										

事務事業の概要	事務事業名	多面的機能支払交付金事業			担当課	農地整備課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	770	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
事業概要	農業従事者等が農業・農村が有する多面的機能を適切に維持・発揮できるように、対象地域の各活動組織に対して交付金の交付を行い、地域の共同活動の支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	多面的機能支払推進事業			⑤				⑨			
	②	多面的機能支払交付金事業			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	事業認定面積	目標	188,046	188,000	188,000	188,800	188,800	2組織が活動を終了したものの、1組織が活動を始めたことにより、わずかながら認定面積が増加している。			
			実績	176,197	188,061	188,794						
	<指標の計算方法>		事業認定面積の実績									
	活動指標	活動組織数	目標	51	55	56	56	56	再認定組織13組織、新規組織1組織が活動を始めた。今後、5カ年の活動を終了する組織が33組織あり、役員の高齢化等の理由により活動を終了する組織がでる恐れがある。			
			実績	52	56	55						
	<指標の計算方法>		活動組織数									
活動指標	個別説明会、個別相談の開催回数	目標	5	5	5	5	5	事業の周知のおかげで、新規に活動を検討している3組織へ事業の説明を行うことが出来た。また、新規活動組織に対し、事務説明も行った。今後も事業への周知に取り組んでいく必要がある。				
		実績	3	6	7							
<指標の計算方法>		個別説明会、個別相談の開催回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	106,384			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	27,394		
事業の実績	①多面的機能支払推進事業 ・活動内容の指導 55組織 ・現地確認の実施 55組織											
	②多面的機能支払交付金事業 活動内容 組織数 認定面積 ・農地維持支払 55組織 188,794a ・資源向上支払 (共同活動) 51組織 178,564a ・資源向上支払 (長寿命化) 50組織 178,402a											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・法制化された国の事業であり、地域の農業用施設の草刈りや泥上げ改修等に交付金を交付するもので、地域の環境保全活動に対して市が支援することは必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・農業用施設の維持管理や補修更新、花の植栽などの景観活動が地域で行われており、有意義な事業となっている。また、地域住民の参加による一体感や農業者と非農業者とのコミュニケーションの機会が増加するなど、地域の結びつきも強くなっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・国からの要綱・要領に基づいて事業を行っているので、事業費の削減の余地はない。 ・活動組織の事務処理能力を向上させることで、提出された書類の審査などの時間は削減できる。											

事務事業の概要	事務事業名	中山間地域等直接支払事業			担当課	農地整備課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	73	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
事業概要	中山間地域の協定者が農業生産活動の促進を図るために、交付金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	中山間地域等直接支払推進事業			⑤				⑨			
	②	中山間地域等直接支払交付金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	協定面積	a	目標	51,932	40,922	41,832	42,095	42,095	集落協定に参加者を増やして貰えるように呼びかけたことにより、協定面積が増えた。		
				実績	40,922	41,832	42,095					
	<指標の計算方法>		制度の対象農用地の合計面積									
	活動指標	協定件数	件	目標	47	43	43	44	44	新たに参加者を呼びかけたことにより、新規の集落協定が増えた。		
				実績	43	43	44					
<指標の計算方法>		中山間地域の農用地を維持・管理していくための協定を締結している集落数										
活動指標	協定参加人数	人	目標	665	527	529	532	532	集落協定に参加者を増やして貰えるように呼びかけたことにより、協定参加人数が増えた。			
			実績	527	529	532						
<指標の計算方法>		5年間農業生産活動等を継続する農業者の合計数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	54,593			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	14,341		
事業の実績	①中山間地域等直接支払推進事業 ・活動内容の指導 44件 ・現地確認の実績 44件											
	②中山間地域等直接支払交付金 ・地区名 協定数 参加人数 協定面積 打田 3件 22人 1,240a 粉河 29件 334人 23,460a 那賀 8件 162人 15,659a 桃山 2件 9人 1,277a 貴志川 2件 5人 459a 合計 44件 532人 42,093a											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・中山間地域等直接支払制度は、中山間地域等の多面的機能を有している農用地を農業生産活動を通じて維持継続して管理することを条件として、協定地域に交付金の支払いをしている。 ・中山間地域等では今後さらに農業就業人口の減少や高齢化の進行と担い手不足等により、耕作放棄地の増加等、多面的機能の維持が難しくなるため、事業を行うことにより耕作放棄地の発生防止に繋がっている。 ・国の政策によるものであるため、交付金の交付、協定集落の拡大と指導など、今後も市で実施していく必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・国の要綱・要領において、市の役割が位置図けられているため、事務事業のやり方や進め方の見直しが出来ない。 ・協定期間である5年間は、新たな耕作放棄地の発生防止に繋がっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・国の要領において、対象農用地の条件により面積当たりの支払い額が定められており、事業費の削減の余地がない。											

事務事業の概要	事務事業名	農業水路等長寿命化・防災減災事業			担当課	農地整備課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1111	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 農業費				施策目標	1	防災・防犯			
		目	5 農地費				基本施策	3	災害に強いまちの形成			
事業概要	農業活動の基盤となる農業水利施設の長寿命化及び防災減災対策を推進する事業											
事務事業を構成する細事業	①	ため池廃止事業			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	ため池廃止数	箇所	目標	2	2	2	2	2	立矢池・袴谷池の廃止工事を完了した。令和4年度発注のびわの池・箕谷池については、工事内容の変更等により、繰越した。		
				実績	0	2	2					
	<指標の計算方法>		不用なため池の廃止件数									
	成果指標	ため池管理システム設置箇所数	箇所	目標	0	0	0	1	0	管理システム設置に向けて地元調整を行った。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		農業用ため池で管理システムを設置したため池数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	33,920			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
				33,748				135	37			
事業の実績	①ため池廃止事業											
	【R3繰越明許】 工事請負費 26,351,000円 立矢池（中瀬淵） 袴谷池（桃山町最上） 箕谷池（桃山町最上） 工食用道路 県土地改良事業団体連合会負担金 132,000円 【R4繰越明許】 工事請負費 40,602,000円 びわの池（下瀬淵） 箕谷池（桃山町最上） 県土地改良事業団体連合会負担金 203,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・利用していない農業用ため池について廃止を行い少しでも災害リスクを少なくする。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・農家戸数の減少に伴い利用していない農業用ため池については増加傾向にあり、このようなため池の貯水機能を廃止することにより下流域の浸水被害が軽減されることから必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・測量設計時において、現地特性・設計書籍に沿った内容で実施し、効果的な事業の実施に努めている。											

事務事業の概要	事務事業名	防災重点農業用ため池緊急整備事業			担当課	農地整備課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1160	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 農業費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	5 農地費				基本施策	3 災害に強いまちの形成				
事業概要	防災重点農業用ため池について、堤体や洪水吐、樋管などの劣化状況評価及び豪雨耐性評価をするとともに、防災工事が必要と判断したため池について推進計画を策定し、整備を推進する事業。											
事務事業を構成する細事業	①	調査業務			⑤					⑨		
	②	測量設計委託			⑥					⑩		
	③	工事請負費			⑦					⑪		
	④	県土地改良事業団体連合会負担金			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	劣化状況評価等の実施ため池数	箇所	目標		60	60	32	200	防災重点農業用ため池の構造機能、水理機能等の低下状況を把握し、防災工事の必要性を判断するための評価を84池実施した。前倒し予算の追加により16箇所について未契約で繰越した。		
			実績		84	84						
	<指標の計算方法>		調査を実施したため池数									
	成果指標	ため池改修計画策定箇所数	箇所	目標	4	5	13	11	3	ため池14箇所（市11箇所、県3箇所）について事業計画書を作成した。また、前倒し予算の追加により10箇所について未契約で繰越した。		
			実績	0	5	14						
<指標の計算方法>		ため池改修計画書を作成した箇所数										
成果指標	ため池管理システム設置箇所数	箇所	目標	1	1	1	0	0	平池に水位計等を設置した。			
		実績	0	1	1							
<指標の計算方法>		防災重点農業用ため池で管理システムを設置したため池数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	140,586			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			140,563					21		2		
事業の実績	①調査業務 ため池評価調査 紀の川市全域 84箇所			【令和3年度繰越明許】 63,000,000円 8池				一字池 [貴志川町西山] 籠池 [貴志川町長山]				
	【令和3年度繰越明許】 21,329,000円 紀の川市全域 35箇所			新池 [西三谷] 尼御前池 [北勢田] 垣内池 [上田井] 明見池 [江川中] 堂山池 [荒見] 松池 [荒見] 前田池 [桃山町調月] 前田池 [貴志川町前田]				③工事請負費 【令和3年度繰越明許】 4,001,000円 平池に水位計・雨量計・監視カメラを設置				
事業の実績	②測量設計委託 ため池整備計画策定 3池			【令和4年度繰越明許】 76,010,000円 10池				④県土地改良事業団体連合会負担金 20,000円				
	西山皿池 [貴志川町西山] 入田池上 [貴志川町鳥居] 入田池下 [貴志川町鳥居]			小田ノ池 [古和田] 柏原池 [西大井] 高井谷池 [藤井] 半像池 [江川中] 平野上池 [平野] 宮ノ池 [貴志川町岸宮] 霧谷池 [貴志川町岸宮] 尼寺皿池 [貴志川町尼寺]								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・ため池改修計画を進めるために、ため池の現状を評価し、効果的・効率的な防災減災対策を計画するための重要な基礎資料であるため必要。 ・ため池の改修事業の基礎となる事業計画策定を推進することで災害リスクを軽減する。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・評価内容を基に、今後の改修事業の優先順位を検討出来ることから必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・市民の安全・安心を確保していく上でため池の現状を知ることが重要であり、調査過程において管理者の方々に施設の聞き取りを行うことで、日常の維持管理の啓発にも繋がっている。 ・測量設計時において、現地特性・設計書籍に沿った内容で実施し、積算時においてもコスト比較を行い安価で効果的な事業の実施に努めている。											

事務事業の概要	事務事業名	小規模土地改良事業			担当課	農地整備課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	80	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 農業費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	5 農地費				基本施策	2 均衡の取れた農村や農地の整備				
事業概要	農業従事者等の営農労力の軽減を図り農業経営を改善するために、地域の実情に即した生産基盤の整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	改良工事			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	改良地区数	箇所	目標	4	3	3	3	2	国の採択要件に満たない改良等の事業について、地元から要望を受け施工を行った。		
				実績	3	3	3					
	<指標の計算方法>		実施箇所									
				目標								
				実績								
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	14,877			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
				4,772	5,700		3,676	729				
事業の実績	①改良工事 ・蓮池護岸改良工事(池田新) 護岸工L=26.0m ・芦池護岸改良工事(南中) 護岸工L=22.3m ・竈池水路改修工事(貴志川町井ノ口) 水路改修L=52.0m											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・国の採択要件に満たない事業であり、県からの補助金を受けることで地元負担の軽減を図り、農業施設の改修を行うことが出来る。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・事業を進める上で既存施設の改修については、地元要望に沿った柔軟で適切な計画が検討でき、また、早期着手による効果が発揮できることから事業を実施することが必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・地元要望事業であり、県費補助を活用することで地元負担の軽減も図り、また、早期事業に取り掛かれることが可能なため、緊急的な事業については効率的に解消することが出来る。											

事務事業の概要	事務事業名	緑化推進事業		担当課	林務課			事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	741			
	予算科目	款	6 農林業費		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境					
		項	2 林業費			施策目標	3	自然環境					
		目	1 林業総務費			基本施策	1	豊かな自然環境の保全					
取組方針	1	自然環境保全につながる教育・啓発の推進											
事業概要	市民が緑ある環境づくりを進めることができるように、緑の募金等を通じて、緑化の推進を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	緑化推進（緑の募金）			⑤	キノピー教室			⑨				
	②	紀の国ふるさとづくり協議会負担金			⑥				⑩				
	③	企業の森			⑦				⑪				
	④	市町村民の森			⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	成果指標	緑の募金額	千円	目標	1,800	1,800	1,700	1,700	1,700	目標は達成できていないが、県内3番目の募金額で協力いただいている。少子高齢化や地域のつながりが希薄になっていることに加え、募金に協力していただける家庭が減少してきているため、目標設定を再検討する必要がある。			
				実績	1,648	1,696	1,655						
	<指標の計算方法>		自治会等よりの募金額										
	活動指標	キノピー教室実施回数	回	目標	17	17	17	17	17			開催予定で進めてきたが、新型コロナウイルス感染症の状況が改善していない状況であったため令和3年度同様中止となった。	
				実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		保育所でのキノピー教室の実施回数										
	成果指標	企業の森協定件数	件	目標	1	1	1	1	1	企業単位のレクリエーションより個人の時間が優先される昨今の情勢もあり現状に至っている。			
				実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		協定件数										
成果指標	緑の募金活用事業数	件	目標	1	1	1	1	1	1団体ではあるが、事業を活用し植林を実施したところ、隣接地を管理する団体に関心を示し、今後事業を活用する計画を検討していただくことになった。				
			実績	0	0	1							
<指標の計算方法>		事業件数											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
	294				165					129			
事業の実績	①緑化推進（緑の募金） ・緑の募金（家庭募金）を実施した。 ・緑の募金活用事業として、鎌垣財産区がハイランドパーク粉河紅葉植林事業を実施し、植林を行った。			び下草刈り作業を実施した。									
	②紀の国ふるさとづくり協議会負担金 ・山村の役割・魅力を普及・啓発するため、和歌山県内の市町村及び和歌山県で構成された協議会に負担金を支出し、運営に参画した。			⑤キノピー教室 ・新型コロナウイルス感染症の状況が改善していない状況であったため中止した。									
	③企業の森 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため活動は中止した。												
	④市町村民の森 ・和歌山県で開催された第62回全国植樹祭において植樹した田中財産区有林内の植栽地を維持するため、県の補助を受け、補植及												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・豊かな自然環境を保全し次世代につなげていくため市民と行政が一体となって取組む必要があり、長期総合計画の基本施策とも合致している。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
		・緑化推進は緑の募金事業を活用して、自治区や団体等の自主活動が主な推進事業となっている。効果を向上させる観点からは、緑の募金事業の活用の啓発を図っていくことが考えられる。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・当該事業に要する事業費は、事務費や負担金などの少額であることから、これ以上の削減の余地はないものとする。 ・職員の業務量（人件費）についても、当該事業の執行にかかる最低限度の業務量であることから、現時点で効率性を改善する余地はないものとする。												

事務事業の概要	事務事業名	林業対策事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	734	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	2 林業振興費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
事業概要	市民、森林所有者、林業従事者が林業の活性化による森林の健全化や森林の多面的機能の維持を図れるように、森林の適切な整備・管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 森林病虫害防除委託			⑤ 間伐材流通支援補助金			⑨					
	② 林業労働力確保支援センター負担金			⑥ 森林保全対策			⑩					
	③ 山村振興対策協議会負担金			⑦ 森林台帳整備・管理			⑪					
	④ 葛城高原まつり補助金			⑧ 林業担い手社会保障制度等充実対策事業補助金			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	防除面積	ha	目標	121	121	121	121	121	面積及び伐倒材積は、県知事命令により指示されているので、変更がない限り増減はない。		
			実績	121	121	121						
	<指標の計算方法>		松くい虫の防除面積									
	活動指標	伐倒材積	m ³	目標	50	50	50	50	50	県の予算削減により損失補償金の割り当て額が減少したため、面積及び伐倒材積も減少した。		
			実績	50	50	15						
	<指標の計算方法>		松くい虫の伐倒駆除材積									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	13,110			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			7,639					1,623		3,848		
事業の実績	① 森林病虫害防除委託 ・鎌垣・龍王両財産区有林内の松林の松枯れを防止するため、松くい虫の防除作業を実施した。 特別防除 116 ha 地上散布 5 ha 伐倒駆除 15 m ³			④ 葛城高原まつり補助金 ・和泉葛城山の山開きについては、昨年と同様、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により神事のみ執り行ったため、龍王財産区と龍王財産区内自治区で構成された実行委員会への補助金の交付はなかった。			・県が行う保安林の指定に関する意見聴取はなかった。 ⑦ 森林台帳整備・管理 ・財産区物件管理並びに収納管理システム修正を行った。					
	② 林業労働力確保支援センター負担金 ・林業労働者の安定した雇用の促進と林業の健全な発展のため、和歌山県内市町村で構成されたセンターへ負担金を支出し、運営に参画した。			⑤ 間伐材流通支援補助金 ・紀の川市産間伐材の販売量を向上させ、間伐を促進することにより山林の荒廃を解消し、地球温暖化防止及び災害防止を図ることを目的に補助金を交付した。 搬出材積 1,256m ³ (2団体の計)			⑧ 林業担い手社会保障制度等充実対策事業補助金 ・林業事業者の体質強化を図り、林業労働者の社会保障の充実を促進し、労働力の確保のため、事業主が負担しなければならない社会保険料等に補助金を交付した。					
	③ 山村振興対策協議会負担金 ・山村のあり方と安全で快適な生活基盤を形成するため、和歌山県内の山村振興地域に関係のある市町村及び和歌山県で構成された協議会に負担金を支出し、運営に参画した。			⑥ 森林保全対策 ・森林法等に適応する届出を行ってもらい、森林整備計画に適合するかどうかを確認し県に届け出た。 届け出件数： 58件								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・林業経営体の所得向上を促し、担い手確保を図ることは、自然環境を保全し、森林の持つ水源の涵養、土砂災害防止等の多目的機能の発揮につながることから、市が関与することの妥当性は大きいといえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・林業労働者の社会保障の充実や木材利用の啓発等、担い手の育成・確保に努めているが、長引く木材価格の低迷等の林業環境を取り巻く環境は依然として厳しい状況にあり、顕著な効果が現れていない。 ・森林病虫害防除による森林環境の維持や間伐の促進対策など、森林の維持管理につながる取組は荒廃を防止する効果が見込まれる。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・森林環境の維持や間伐の促進対策などによって、林業の産業成長化や森林の適正な維持管理、木材利用の普及が見込まれる。											

事務事業の概要	事務事業名	森林経営管理事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1126	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	2 林業振興費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
事業概要	経営管理が行われていない森林について、市が所有者の委託を受け経営管理したり、意欲と能力のある林業経営者に再委託することにより、森林管理の適正化を促進する事業											
事務事業を構成する細事業	①	意向調査業務			⑤				⑨			
	②	経営管理集積計画の作成			⑥				⑩			
	③	市町村森林経営管理事業			⑦				⑪			
	④	経営管理実施配分計画の作成			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	森林経営管理意向調査面積	ha	目標	64	402.44	100	100	100	目標数値は県担当者及び受注者と協議して決めているが、市の全体的な計画を策定し優先順位を決めて調査を実施していく必要がある。		
			実績	49.21	61.84	65.59						
	<指標の計算方法>		意向調査を行った人工林の面積合計									
	成果指標	森林経営管理権集積計画面積	ha	目標	42	15.73	35	35	35	意向調査で市に森林経営を委ねると返答のあった森林所有者に対して現地調査を行ったうえで集積計画の作成を検討するが、ある程度森林整備が行われていたり、保育間伐の必要性がないなどの森林も目立っている。		
			実績	6.49	4.78	43.03						
	<指標の計算方法>		経営管理権集積計画を公告・縦覧した面積									
成果指標	市町村森林経営管理事業面積	ha	目標	42	22.22	50	50	50	令和3年度の集積計画作成区域の間伐実施区域に加え、令和4年度の集積計画作成区域も併せて間伐を実施したが、雑木地となっている箇所等が多かったため間伐面積は当初の想定より少なくなっている。			
		実績	0	5.73	9.75							
<指標の計算方法>		経営管理権集積計画に則り間伐等を実施した面積										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	9,181			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		9,181	
事業の実績	①意向調査業務 調査対象面積：162.29ha 調査実施面積：65.59ha 調査実施者：110名（145件） 回答率：67.59%（内、市に経営管理を委託することを検討すると回答した割合：55.1%）											
	②経営管理集積計画の作成 計画作成面積：43.03ha 計画作成件数：23件											
	③市町村森林経営管理事業 事業対象面積：17.12ha 実施面積：9.75ha（除地面積：7.37ha）											
	④経営管理実施配分計画の作成 計画対象面積：0ha 作成面積：0ha											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・実施主体は市町村と定められており、森林経営管理法において制度概要が制定されている。県内の各市町村の事業の進捗状況を注視し、県の指導を仰ぎながら市町村同士が相互に検討、協議するなどして市が独自に事業を進めていく必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・森林の多面的機能の発揮に向けては、適時適切に伐採、造林、保育等の施策を実施することが必要であり、森林管理の適正化を図るためには有効な事業といえる。 ・森林所有者の森林管理に対する意識が低いのが実情であるため、森林経営管理制度を森林所有者に周知啓発を行うことが必要と考えられる。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・今後、実施面積の規模が増大してくるため、人員体制の強化が必要とされる。また業務発注時期についても年度早期に発注できるような細事業の年度内計画の見直しを図っていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	有害鳥獣捕獲対策事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	737	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	2 林業振興費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
取組方針	2			自然環境の保全・整備の推進								
事業概要	農業従事者等の農作物被害の軽減を図るために、猟友会等と有害鳥獣対策を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	鳥獣被害防止対策協議会運営			⑤				⑨			
	②	鳥獣被害対策実施隊運営			⑥				⑩			
	③	有害鳥獣捕獲事業等補助金			⑦				⑪			
	④	猟友会補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	実施隊捕獲出動回数	回	目標	15	15	15	15	15	紀の川市鳥獣被害対策実施隊の協力のもと目標に達成することができた。		
			実績	19	21	25						
	<指標の計算方法>		実施隊が捕獲活動に出動した回数									
	活動指標	有害鳥獣捕獲数	頭(羽)	目標	1,500	1,500	1,650	1,800	1,800	目標に達成していないが、令和2年度に豚熱が発生したことでイノシシの生息数が一時的に減少したことが原因だと考えられる。		
				実績	1,746	793	1,176					
<指標の計算方法>		年間の有害鳥獣(イノシシ・シカ・カラス・アライグマ)の捕獲頭(羽)数										
活動指標	狩猟免許取得者の補助人数	人	目標	20	20	20	20	20	目標を達成していないが、農業被害への関心から免許取得者が一定数維持している傾向にある。			
			実績	15	7	12						
<指標の計算方法>		補助金申請者数										
成果指標	有害獣による農作物被害額(イノシシ)	千円	目標	31,309	29,661	28,013	11,209	10,619	鳥獣被害防止計画の被害実績値を毎年5%減らすため、目標値を設定して相当数の捕獲を行っているが、依然として高い被害額で推移している。			
			実績	16,458	11,799	12,663						
<指標の計算方法>		野生鳥獣による農作物の被害状況調査票による										
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	12,142			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7 6,770		
事業の実績	①鳥獣被害防止対策協議会運営 協議会総会 1回											
	②鳥獣被害対策実施隊運営 捕獲活動 25回											
	③有害鳥獣捕獲事業等補助金 イノシシ 389頭 シカ 182頭 アライグマ 499頭 カラス 106羽											
	④猟友会補助金 ・市内6分会で構成される猟友会の団体活動支援として補助金を交付した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・有害鳥獣の捕獲対策を実施し、農作物の被害を軽減することにより、農業経営の安定化を図るものであり長期総合計画の基本施策に貢献するものである。 ・近年では、民家付近へのイノシシの出没が増加しており、市民生活の安全・安心のため市が積極的に関与する必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・有害鳥獣捕獲や実施隊での捕獲を実施し、相当数(豚熱の影響でイノシシの捕獲数は減っている。)の捕獲を行っているが、農作物被害額には顕著に現れていない状況である。 ・捕獲従事者の増加を図るため、引き続き狩猟免許取得支援を実施するとともに、狩猟免許の取得者に対して狩猟登録を継続してもらう対策を併せて実施していく必要がある。 ・さらなる成果を向上させるためには、実施隊の活動回数の増加が必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・事業を実施するには猟友会との連携・協力が不可欠な事業であり、今後も猟友会の協力を得て進めていく。 ・今後、国、県と連携できる事業等を模索していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	森林公園管理運営事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	729		
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境				
		目	3 林業施設費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全				
事業概要	市民、観光客が自然環境を保護し、自然公園等を安全に利用できるようにするために、管理・清掃を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	葛城山公衆トイレ施設管理			⑤	和泉葛城山保全活用対策協議会負担金		⑨					
	②	龍門山ハイキングコース施設管理			⑥	自然公園管理		⑩					
	③	ハイランドパーク粉河管理運営委託			⑦			⑪					
	④	葛城高原環境保全委託			⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	成果指標	ハイランドパーク粉河年間利用者数	人	目標	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	利用者数は、16,436人となっている。新型コロナウイルス感染症拡大防止によるキャンプ場・展望台の営業中止の影響により、令和3年度並みとなっているが、今後は例年並みまで回復するものと思われる。			
			実績	19,911	16,550	16,436							
	<指標の計算方法>		ハイランドパーク粉河における年間の利用者数										
	成果指標	葛城高原環境保全活動日数	日	目標	50	50	50	50	50			ほぼ週に一度以上の清掃活動が実施されており良好な状態に保たれている。	
			実績	52	55	52							
	<指標の計算方法>		中尾町内会に委託している葛城高原環境保全活動が年間に実施された日数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	10,268			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	671 9,597			
事業の実績	①葛城山公衆トイレ施設管理			等の清掃管理を実施した。									
	②龍門山ハイキングコース施設管理 ・和海紀森林組合に委託し、龍門山頂周辺及びハイキングコースの雑草除去を実施した。			・林道重谷線 (L=3,365m W=4.0m) の維持管理を実施した。									
事業の実績	③ハイランドパーク粉河管理運営委託 ・鎌垣財産区にハイランドパーク粉河の管理運営を委託した。 ・管理運営委託施設 管理棟、展望台、イベント広場、野外ステージ、トイレ、キャンプ場、バーベキュー場、遊歩道、遊具 ・年間利用者数 16,436人			⑤和泉葛城山保全活用対策協議会負担金 ・国の天然記念物であるブナ林及びその周辺の豊かな自然環境を保護・保全するため、和泉葛城山を管轄する府・県・市で構成された協議会に負担金を支出した。									
	④葛城高原環境保全委託 ・中尾町内会に委託し、葛城山周辺施設の環境保全(清掃)を実施した。 ・葛城山頂周辺、公衆便所、駐車場、展望台			⑥自然公園管理 ・自然保護監視員として、所管する地域の県自然環境保全地域(金剛生駒紀泉国定公園、龍門山県立自然公園)を巡視等により状況把握に努めた。									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・葛城山、龍門山はそれぞれ国定公園、県立自然公園の指定地となっており、自然環境保全の観点から市が関与することは妥当であるといえる。 ・ハイランドパーク粉河は、森林に関する知識の普及及び自然保護の意識高揚を図ることを主な目的として設置している施設であり、その維持管理については市が実施することが妥当な施設である。施設運営に関しては、指定管理による運営を行ってきたが、令和4年度から施設管理として鎌垣財産区に委託した。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・葛城山と龍門山は、自治会や森林組合を通じて必要な維持管理を実施しており、自然環境の保全は図られていると考えている。 ・ハイランドパーク粉河は、利用者数が伸び悩んでいることから、新たな視点での集客策や活性化策等を模索していく必要がある。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
		・葛城山と龍門山周辺の維持管理については、地元の自治会や森林組合に委託しており、管理面では効率的な運用が行っている。 ・ハイランドパーク粉河は、令和4年度から施設管理業務に関して鎌垣財産区に委託しているが、建設から年数が経過し老朽化による修繕等が発生しており、その対応に要する業務量が増加傾向にあり、対応策を検討していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	治山林道管理事業			担当課	林務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	728	
	予算科目	款	6 農林業費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 林業費				施策目標	3	自然環境			
		目	3 林業施設費				基本施策	1	豊かな自然環境の保全			
事業概要	市民、林業従事者等が森林へのアクセス道路を安全に走行できるように、林道のパトロールを強化し、林業施設の異変を早急に発見し、現状復旧を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	治山林道管理事業			⑤				⑨			
	②	林道施設整備事業補助金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	パトロール活動	目標	60	60	60	60	60	パトロールを行うことで林道施設の異変を早期発見、対処することができた。令和4年度は、積雪による通行止めや、路面凍結が多く凍結防止剤の配布回数が多かった。			
			実績	72	75	80						
	<指標の計算方法>		林道パトロールを行った回数									
	成果指標	事故報告件数	目標	0	0	0	0	0	高齢者による対物事故が1件あったが、ガードレールのおかげで車両の転落を防ぐことができ、大事には至らなかった。			
			実績	0	0	1						
<指標の計算方法>		事故の報告があった件数。パトロールを強化し年間を通じてゼロを目指す。										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	7,717			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			7,717									
事業の実績	①治山林道管理事業 【雑草除去】 ・林道紀泉高原線 雑草除去11,600㎡ ・林道粉河中央線 雑草除去8,200㎡ ・林道真国野田原線 雑草除去3,500㎡ 【水路清掃】 ・林道粉河中央線 側溝清掃 5,829m 横断側溝 1.2㎡ ・林道紀泉高原線 側溝清掃 10,569m 横断側溝 3.1㎡ ・林道重谷線 側溝清掃 3,365m 横断側溝 1.4㎡ ・林道真国野田原			側溝清掃 4,392m 【林道凍結防止融解作業】 林道紀泉高原線・林道重谷線 凍結防止融解作業 作業回数：3回 人数：6名 時間：20時間 【維持管理委託】 ・林道勝神線 維持管理委託 1,655m 【工事】 ・林道紀泉高原線 アスカーブ設置 L=162.0m ガードレール撤去 L=24.5m ガードレール設置 L=33.5m ・林道粉河中央線 アスカーブ設置 L=40.7m			②林道施設整備事業補助金 ・補助金交付件数 1件 整備実績 林道米の郷線・東谷線側 溝清掃・崩土・倒木除去 作業距離 5,401m					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・林道を安全かつ快適に通行できるように維持管理が必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・林道パトロールを定期的に行うことにより、道路施設、道路周辺の状況を確認することができ、側溝の土砂の堆積、枝打ち箇所など維持修繕箇所を早期発見することで、林道の安全性を高め未然に災害防止に繋がっている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・林道を維持管理するにあたり、草刈り、崩土除去、道路清掃に費用がかかっているが、林道を通行する人が増え、安全かつ快適に利用されている。 ・生活環境課の不法投棄パトロール時に道路施設の確認、道路周辺の状況確認を行ってもらうことで効率よく、施設の状態を把握できている。 ・パトロールに時間を要するため人員配置に考慮する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	シルバー人材センター運営支援事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	726	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	2 雇用・就労				
		目	1 商工総務費				基本施策	1 就労支援の充実と雇用創出の振興				
事業概要	市民（高齢者）の就業機会の創出と生きがいづくりを促進するために、シルバー人材センター、関係機関に運営に対する補助や負担金の支出を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	全国シルバー人材センター負担金			⑤				⑨			
	②	県シルバー人材センター連合会負担金			⑥				⑩			
	③	シルバー人材センター運営支援事業			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	加入会員数	人	目標	400	400	400	400	400	岩出市 504人 橋本市 500人 入会説明会や入会促進チラシの配布を行った結果、微増だが加入促進につながった。		
				実績	360	364	366					
	<指標の計算方法>		シルバー人材センターへ入会登録している会員（3月31日時点）									
	成果指標	加入会員の就業率	%	目標	85	85	85	85	85	岩出市 74% 橋本市 81% 会員が希望する業種を受注できたことにより就業率が上がった。		
				実績	72.5	70.3	72.4					
<指標の計算方法>		会員数に対する就業実人員の割合										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	22,700			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			22,700									
事業の実績	①全国シルバー人材センター負担金 ・負担金 50,000円			会員数 366人(男性243人/女性123人) 会員の平均年齢 73.7才 年会費 4月～9月加入 月2,000円 10月～3月加入 月1,000円				個人計 2,341件 就業率 2,849件 請負、委任 就業人数 204人÷会員数366人=55.7% 労働派遣 就業人数 83人÷会員数134人=61.9% 総合 就業年間延べ人数 26,216人 事故発生件数 11件(傷害保険 6件/賠償責任保険 5件)				
	②県シルバー人材センター連合会負担金 ・連合会負担金 150,000円 ・総会6月13日 和歌山県勤労福祉会館 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い総会への参加を見送った。			会員の職歴 事務系 86人 技術系 134人 その他 113人 自営業 28人 無職 5人								
事業の実績	③シルバー人材センター運営支援事業 ・運営補助金22,500,000円 5月24日 第1回理事会 6月25日 総会及び第2回理事会 9月29日 第3回理事会 1月27日 第4回理事会 3月23日 第5回理事会 ・組織概要(R5.3.31現在) 職員9人(事務局長1人/職員2人/嘱託5人/臨時1人) ・会員状況			・新規会員の入会動機 社会的 72%(男性24人/女性12人) 健康的 16%(男性 6人/女性 2人) 経済的 12%(男性 3人/女性 3人) ・受注状況 請負、委任 2,759件 (119,704,449円) 労働派遣 90件 (33,125,742円) 計 2,849件 (152,830,191円) ・契約状況 公共事業 140件 一般企業 368件								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・高齢者の自立支援と生きがい対策の一環として行っている福祉的要因を含む就労対策であり、本市の高齢化率を踏まえれば市が関与することが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・加入会員数と加入会員の就業率は、掲げている目標値を達成できなかったが、昨年度より実績値は微増した。 ・加入会員の就業率を高めるため、会員が求める業種を把握する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・会員に対するデジタル化の導入だけでなく事務局や利用者においても同様に、デジタル化の導入の可能性と効果を検証する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	消費者安全対策事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	727	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 商工費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 商工総務費				基本施策	4 防犯・交通安全対策の推進				
取組方針				5 消費者の安全対策の推進								
事業概要	市民が消費者被害にあわないように、啓発や相談窓口を開設する事業											
事務事業を構成する細事業	①	消費者問題啓発事業			⑤			⑨				
	②	消費者問題相談事業			⑥			⑩				
	③	県都市消費生活対策連絡協議会負担金			⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	消費者問題相談件数	目標	90	90	90	90	90	岩出市 185件 橋本市 523件 各市ともインターネット通販に関する相談が増加している。			
			実績	167	148	180						
	<指標の計算方法>		市の消費相談窓口で受付した年間の相談件数									
	成果指標	消費者問題相談解決率	目標	80	80	80	80	80	全体の解決率は向上している一方で、インターネット通販は、販売者の特定が困難である場合やクーリングオフが適用されないため市の相談窓口では解決に至らない傾向がある。			
			実績	73	75	84						
	<指標の計算方法>		相談を受付した件数のうち、問題解決に至った件数の割合									
活動指標	啓発活動回数	目標	12	12	12	12	12	岩出市 18件 橋本市 81件 概ね計画どおり啓発活動を行うことができた。				
		実績	14	10	12							
<指標の計算方法>		年間に実施した消費問題に関する啓発活動の回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,022			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	675		
事業の実績	①消費者問題啓発事業			②消費者問題相談事業			③県都市消費生活対策連絡協議会負担金					
	<ul style="list-style-type: none"> 啓発活動を12回実施した。 4月19日 消費者月間ポスター啓発 5月14日 消費者月間街頭啓発 9月22日 那賀地区公民館講座 11月17日 シルバー人材センター講話 11月26日 桃山地区公民館講座 1月 8日 はたちのつどい 1月11日 女性会議 2月 3日 人権委員会理事会 3月 1日 エシカル消費啓発(広報折込) 3月 4日 青洲の里街頭啓発 3月10日 合同企業説明会 3月14日 生活研究グループ役員会 ・出前講座を3回実施した。 9月22日 那賀地区公民館講座 13人 11月17日 シルバー人材センター 7人 11月26日 桃山地区公民館講座 11人 			<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口を開設した。 年47回 専門相談員(毎週月曜日) 年12回 ぐらしのネットワーク(毎月第2水曜日) 主な相談内訳(重複あり) 訪問販売 27件(内24件解決) インターネット通販 58件(内50件解決) 架空請求 9件(内 9件解決) クーリングオフ 16件(内15件解決) ・消費者教育パンフレットを配付した。 部数 1,500部(市内中学生) ・スキルアップ研修に9回参加した。 4月18日 消費生活相談等初任者研修 6月 9日 ※宇治市消費生活相談員研修 6月30日 消費生活相談実地研修 8月 9日 ※通信販売について学ぶ 9月29日 ※消費生活相談員パワーアップ研 			<ul style="list-style-type: none"> 10月 7日 消費生活サポーター研修会 11月24日 消費者教育推進のための研修 ～25日 11月29日 市町村職員等専門研修 1月27日 市町村職員等専門研修 ※はオンライン受講 6月 1日 総会(書面決議)前年度事業・決算報告・本年度予算・事業計画 					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・消費者基本法や消費者安全法に定める基本理念に則り、自治体は消費者安全の確保に関する施策を推進する責務があるため、消費者庁をはじめ県消費生活センターと緊密に連携を保ちながら消費者行政全般に対して、市が関与することが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・消費者問題相談解決率は年々高まっている。 ・現在より相談件数が増加すれば、周辺自治体と広域的な相談体制の整備を協議する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・成人年齢引き下げに伴う相談者の若年化が予想されるので、オンライン等を活用した相談環境を整備する必要がある。 ・中学校へ配布している啓発物資をデータ化し、モバイルデバイスでの閲覧を導入することによってコスト削減を図る必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	商工振興事業		担当課	商工労働課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1016	
	予算科目	款	7 商工費		長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 商工費			施策目標	1	農業振興・産業振興			
		目	2 商工振興費			基本施策	3	商工業の振興			
事業概要	商工業者の経営安定化につなげるために、運営、事業に対する支援や補助を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	中小企業支援対策(セーフティネット)		⑤	プレミアム付デジタル商品券事業		⑨				
	②	商工会補助金		⑥	商工業者原油価格・物価高騰対策事業		⑩				
	③	商工会商品券補助金		⑦	小規模事業者経営資金利子補給金		⑪				
	④	マイナンバーカード普及促進地域振興券事業		⑧	中小企業ネットワーク構築事業		⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	商工会会員数	人	目標	1,242	1,246	1,250	1,243	1,245	岩出市 659人 新型コロナウイルス感染症に関連した多くの支援金の申請手段がオンライン化し、サポートを必要とする事業者が商工会に加入したことで微増した。	
				実績	1,199	1,243	1,245				
	<指標の計算方法>		毎年度4月1日時点の紀の川市商工会及び那賀町商工会の会員数								
	活動指標	経営改善相談・指導件数	件	目標	5,500	5,500	5,500	8,000	8,000	新型コロナウイルス感染症に関連した支援策への相談が大部分を占めた。	
				実績	8,405	8,190	7,781				
	<指標の計算方法>		各商工会が実施した年間の経営改善相談及び指導件数の合計								
	活動指標	後継者の育っている事業所数	人	目標	56	58	60	40	42	岩出市 31人 若年層の新規会員の加入が少なかったため減数した。	
				実績	43	36	31				
	<指標の計算方法>		毎年度4月1日時点の各商工会青年部会員数								
成果指標	商工会商品券利用率	%	目標	100	100	100	100	100	高い利用率を保持しているため、消費喚起につながっている。		
			実績	99.6	99.5	99.4					
<指標の計算方法>		各商工会が発行したプレミアム商品券のうち、利用(換金)された割合									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位:千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			288,257	175,047			10,000	48,069	55,141		
事業の実績	①中小企業支援対策(セーフティネット)			当選口数 9,809口(当選率 77.2%)			当選者 1次9,920人 2次6,716人				
	・書類審査 68件 4号37件 5号31件			加盟店舗数 406店舗			当選率 1次100% 2次55.2%				
事業の実績	②商工会補助金			利用率 99.4%(発行枚数220,000枚)			加盟店舗数 336店舗				
	・紀の川市商工会 補助金額 26,580,000円 会員数 1,040人(内青年部会員数 26人) 職員15人(局長1人/職員9人/嘱託5人) 経営改善並びに指導相談件数 7,328件			④マイナンバーカード普及促進地域振興券事業(C券)			専用アプリダウンロード数 14,647件 専用ウェブサイト閲覧数 350,236件				
事業の実績	・那賀町商工会			発送者数 3,315人(10,000円分/人)			⑥商工業者原油価格・物価高騰対策事業				
	補助金額 5,000,000円 会員数 205人(内青年部会員数 5人) 職員 5人(職員2人/嘱託2人/臨時1人) 経営改善並びに指導相談件数 453件			発券総額 33,150,000円			申請件数 1,146件				
事業の実績	③商工会商品券補助金			換金額 32,574,500円			交付決定数 1,132件				
	補助額 16,701,057円 プレミアム率 10%			換金率 98.3%			交付額 74,505,000円				
事業の実績	予約申込者 4,493人			加盟店舗数 299店舗			⑦小規模事業者経営資金利子補給金				
	当選者数 3,507人(当選率 78.1%)			券種 500円/枚			・紀の川市商工会 申請件数 106件/利子補給額 2,286,100円				
事業の実績	予約申込口数 12,713口			⑤プレミアム付デジタル商品券事業			・那賀町商工会 申請件数 26件/利子補給額 549,300円				
				プレミアム率 50%			⑧中小企業ネットワーク構築事業				
事業の実績				販売額 222,825,000円 (29,710口×7,500円)			登録数 1,705アドレス				
				利用率 222,258,623円			配信回数 18回				
事業の実績				利用率 99.7%							
				申込者 1次9,920人 2次12,170人							
事業の実績				申込平均年齢 約49才							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・市内商工業者の経営基盤の安定化と持続化を図り、地域経済を活性化させることが目的であるため、市が関与することが妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・事業が次世代に引き継がれていない背景から、若い後継者が育っている事業所が減少した。									
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
		・各種申請のオンライン化を進め、業務の効率化を図り生産性を高める必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	創業支援事業		担当課	商工労働課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1088	
	予算科目	款	7	商工費	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1	商工費		施策目標	2	雇用・就労			
		目	2	商工振興費		基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興			
事業概要	創業者の経営の安定化を図り商工業を活性化させるため、創業に必要な知識を得るためのセミナーの開催や、創業に伴う必要経費等に対する支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	創業セミナー開催補助金	⑤		⑨						
	②	創業支援補助金	⑥		⑩						
	③	インキュベーター教育導入事業	⑦		⑪						
	④		⑧		⑫						
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	創業セミナー参加者数	人	目標	10	10	10	10	10	岩出市 10人 橋本市 15人 大幅に目標値を上回っていることから創業意欲が高いことが伺えた。	
				実績	24	18	19				
	<指標の計算方法>		創業セミナーへの年間参加者								
	成果指標	創業支援補助金交付決定数	件	目標	3	3	3	6	6	岩出市 0人 橋本市 0人 新型コロナウイルス感染症の影響も緩和しつつあることを捉えた事業実施により目標値を大幅に超えた。	
				実績	2	6	7				
	<指標の計算方法>		創業支援補助金交付要綱に基づき補助金を交付した件数								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,921			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	3,000	その他	一般財源 921	
事業の実績	①創業セミナー開催補助金 ・運営先 紀の川市商工会 ・補助金額 500,000円 ・開催内容 講師 中小企業診断士 濱田智司氏 第1回6月22日 経営① 第2回6月28日 経営② 第3回7月 5日 財務① 第4回7月15日 財務② 第5回7月19日 販路開拓① 第6回7月26日 販路開拓② 第7回8月 2日 人材育成① 第8回8月 9日 人材育成② ・参加者数 19名			・打田地内 サービス業 41才 523千円 ・那賀地内 飲食業 48才 500千円 ・貴志川地内 サービス業 51才 500千円 ・那賀地内 飲食業 24才 500千円			副会長 谷岡 樹氏 参加者数 生徒22人 教員 3人				
	②創業支援補助金 交付決定数 7名(年齢は交付申請時) ・貴志川地内 小売業 33才 248千円 ・打田地内 サービス業 37才 500千円 ・打田地内 飲食業 59才 500千円			③インキュベーター教育導入事業 市内高校生を対象に、思い描く将来設計の中に、「起業」という選択肢も加えてもらうことを目的に特別授業を開催した。 ・貴志川高等学校2年生 日時 2月22日 10:45~12:20 講師 関西ニュービジネス協議会 副会長 谷岡 樹氏 参加者数 生徒15人 教員 2人			・粉河高等学校1年生 日時 3月13日 10:45~11:30 講師 関西ニュービジネス協議会				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		創業支援等事業計画に基づき、経済産業省ならびに県と連動した創業支援策は、持続可能な市内商業の基盤形成につながるため、市が関与することが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・移住定住施策と連動し、域外からの創業希望者を募る必要がある。 ・創業セミナー受講生の参加者数が鈍化しているが、目標値は達成できている状況である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	創業セミナーに関して内容や各自治体独自の取り組みなど、情報を収集する必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	企業誘致促進事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	387	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	2	雇用・就労			
目	2 商工振興費			基本施策	1		就労支援の充実と雇用創出の振興					
目				取組方針	1		企業誘致の促進					
事業概要	市民の雇用創出や市の税収拡大を図るために、進出を希望する企業に誘致活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	企業用地調査・情報提供			⑤	企業誘致関連法事務		⑨				
	②	県企業立地連絡協議会負担金			⑥	企業誘致活動		⑩				
	③	企業立地促進助成金			⑦	地域好循環型ビジネスモデル構築事業		⑪				
	④	宿泊施設誘致奨励金			⑧	誘致宿泊施設周知事業		⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	フォローアップ訪問社数	社	目標	15	15	15	15	15	年度計画どおり各企業に対し、各種助成金といった支援制度の周知や懸案事項に関する相談、解決等のフォローアップを実施した。		
			実績	22	27	22						
	<指標の計算方法>		誘致後のフォローアップのために誘致企業を訪問した回数									
	活動指標	助成金支出企業数	社	目標	3	5	6	5	2	年度計画のとおり奨励金の支援対象としていた進出企業に対し、助成金を交付した。		
			実績	3	5	6						
	<指標の計算方法>		企業立地促進条例及び宿泊施設の誘致等に関する条例に基づき助成金を交付した企業件数									
	成果指標	誘致企業地元雇用率(全体)	%	目標	38.2	38.2	38.2	38.2	38.2	団塊世代社員の定年退職を背景に企業の新規雇用需要に対し応募する新規求職者が不足しているため、雇用全体では減少しているがそれを補うためパート等地元在住者の非正規雇用が増加したと考えられる。		
			実績	34.9	33.6	36						
	<指標の計算方法>		誘致企業対象に実施するアンケート調査(毎年4月1日時点)									
成果指標	誘致企業地元雇用率(正社員)	%	目標	34.6	34.6	34.6	34.6	34.6	地元在住正社員の定年等退職者数に対し、地元新規正社員の雇用者数を確保できなかったため減少したと考えられる。			
		実績	31.3	35	34							
<指標の計算方法>		誘致企業対象に実施するアンケート調査(毎年4月1日時点)										
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	83,072			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	83,072		
事業の実績	①企業用地調査・情報提供 民間所有の企業用空き用地の調査を行い、所有者が希望する用地についてはデータベース化しホームページで情報提供した。 ②県企業立地連絡協議会負担金 県企業立地連絡協議会において情報交換を行い、協議会負担金を負担した。 ③企業立地促進助成金 条例に基づく協定企業の生産設備に関する新設及び増設に対し助成金を交付した。 ・㈱共栄テクシード(増設助成2年目) 3,619,000円 ・㈱平和エンジニアリング(新設助成2年目) 6,130,000円 ・オーアイテック㈱(新設助成3年目) 2,424,000円 ・ハバジット日本㈱(増設助成1年目) 4,094,000円 ・津田工業㈱(新設助成2年目) 3,042,000円 ④宿泊施設誘致奨励金 新規誘致宿泊施設の開業により、条例に基づく奨励金を交付した。 ・ルートインジャパン(㈱(ホテルルートイン紀の川) 宿泊施設建築奨励金 30,000千円 地域環境保全対策奨励金 30,000千円 合計 60,000千円 ⑤企業誘致関連法事務 工場立地法による工場の新設及び増設の届出に対し、協議、指導し計画を受理した。 ・工場立地法届出の受理 3社(変更3件) ⑥企業誘致活動 誘致企業として和歌山県と三者による進出協定を締結した。 ・㈱キョウデンプレジジョン(新規・新設) (プリント基盤電子部品実装) ・㈱コテック(継続・増設) (エンジニアリングプラスチック原料加工) ⑦地域好循環型ビジネスモデル構築事業 農産物加工業者進出動向調査及び誘致対象企業訪問調査を行い、市内への進出に関心が高い企業に対し、誘致活動を行った。 ・誘致活動を行った企業 5社 ・市内企業と取引を開始した企業 1社 谷尾食糧工業株式会社(岡山県) 取引農産物 無花果 ・市内へ進出した企業 0社 ⑧誘致宿泊施設周知事業 新規開業した誘致宿泊施設について市民を対象に周知を行った。 ・無料宿泊招待(市民対象) 応募数 4,150件(ｼﾝｸﾞﾙ587件ﾀｲﾝ3,563件) 当選数 延べ50人(ｼﾝｸﾞﾙ20件ﾀｲﾝ15件) ・記念品配布(宿泊者対象) 記念品(フルーツ羊羹)及びパンフレット(観光・紀の川飯)配布 1,000セット											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある ・市外からの企業誘致は、自主財源の確保や住民の雇用機会の創出、地域経済の発展、人口流出防止策として最も即効性のある施策であるため、市独自の企業誘致活動を行政が行うことは妥当であると考えられる。 ・誘致する企業の業種について、市の産学の特色や市民のニーズを含めて検討する必要がある。 ・市内産のフルーツを活用し、生産から加工、販売して消費までの経済的循環を目指し、加工、販売の分野で進出意欲のある企業に対し誘致を行う必要がある。								
有効性		評価結果	改善の余地がややある ・企業立地に伴う直接的な地元雇用の拡大、地域経済への波及効果の面からも有効性は高いと考える。 ・現在市が管理する企業団地に空きがなく、進出を検討している企業を逃がしている状態である。 ・条例の改定により市内の既存企業も助成対象となるよう事業要件を拡充したため、増設を計画する既存企業も現れてきたが、まだまだ事業の周知が十分でないため継続して広報していく必要がある。									
効率性		評価結果	改善の余地がややある ・市が、市及び市民を受益者として行う事業であり、地元雇用及び地域経済の面からも市が企業誘致を行うことは有効と考える。 ・即時対応可能な事業用地に空きがないため、新たに確保、整備する必要がある。 ・民間による市内進出を促進するため、空き用地、空き倉庫等の情報を収集する必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	立地企業連携事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	483	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	2 商工振興費				基本施策	3 商工業の振興				
取組方針	2 中小企業の活性化の推進											
事業概要	立地企業連絡協議会会員企業の新製品や新技術の開発を促進するために、企業間交流や研修会の開催を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	立地企業連絡協議会運営			⑤			⑨				
	②	企業間交流促進業務			⑥			⑩				
	③	雇用促進・就業支援体制整備			⑦			⑪				
	④	立地企業連絡協議会補助金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	先進技術や産業振興に必要な制度等の研修会	目標	3	3	2	2	2	総会により年度計画を定め年2回の研修会を予定していたが、研修会の実施主体との調整の結果、受講者の理解レベルに合わせ複数回の実施となり最終的に3回の実施となった。			
			実績	1	1	3						
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会が主催する会員企業対象の研修会回数									
	活動指標	経営層だけでなく従業員も含めた活発な意見交換交流会	目標	4	1	1	1	1	総会により年度計画を定め年1回の交流会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ令和4年度は中止した。			
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会が主催する交流会の回数									
	活動指標	会員企業連携による新製品や新技術開発検討会議	目標	1	1	1	1	1	協議会会員による産官学連携による新商品、新技術開発協議は新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を踏まえ実施できなかった。			
			実績	2	0	0						
	<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会会員企業が連携し、新たに産出する商品開発検討会議の回数									
成果指標	業務提携件数	目標	1	2	3	3	3	令和4年度は新たな提携事例はなかったが、令和2年度から引き続き新型コロナウイルス感染症対策商品として段ボールパーティション、アルコール消毒液の製造、販売を継続し一般販売ができた。				
		実績	2	2	2							
<指標の計算方法>		立地企業連絡協議会会員企業が提携し実施した業務件数（累計）										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
	62								62			
事業の実績	①立地企業連絡協議会運営 企業と地域の結びつきの促進、会員企業相互の連携と情報の収集・提供を目的とし、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで下記の通り活動した。			した企業見学会			③雇用促進・就業支援体制整備 会員企業を紹介した立地企業ガイドブックを就職希望者に見てもらえるように県内高校、専門学校、大学等に送付するなどの就職支援を行った。					
	<ul style="list-style-type: none"> 加入企業等 31企業 1大学 総会 1回（書面決議） 役員会 2回 研修会 3回（DX講座 計3回実施） その他実施事業 <ul style="list-style-type: none"> アンケート調査 中核的人材の育成に向けたアンケート キャリア教育授業 粉河・貴志川中学校の2年生を対象 企業見学バスツアー 就職を希望する市内高校2年生を対象と 			<ul style="list-style-type: none"> ・ママジョブマルシェ 子育て世代の母親の就職活動を支援するためのカジュアルな企業説明会 ・紀の川市合同企業説明会 わかやま新卒応援ハローワークと合同主催した就職説明会 ・きのくに人材Uターンフェア 和歌山県経営者協会主催の就職説明会に協議会のブースを出展 			<ul style="list-style-type: none"> ・ガイドブック送付学校数 42校 ・貴志川・粉河高校3年生 347人 将来の職業等についての参考、また市内企業の周知のため立地企業ガイドブックを配布した。 <ul style="list-style-type: none"> ・市内中学2年生 453人 					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携、農商工連携、異業種連携等、新たな取組への投資、新製品の開発は、企業の投下固定資産の増加と新たな雇用の創出を期待することが出来る。また、このような取組が地域社会への貢献につながることから、市が関わることは妥当と考える。 										
		評価結果	改善の余地が大きい									
有効性	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・経営層の企業間の交流は十分に深まっているので、新製品、技術開発等に貢献する連携に繋げるための事業展開を行う必要があり、各企業の技術力等の情報を市民に広め企業の認知度を高める必要がある。 ・新規雇用を課題としている会員企業も多いため、協議会として雇用対策も検討する必要がある。 										
		評価結果	改善の余地がややある									
効率性	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・協議会の会計収入のほとんどが会員からの会費で占められており、市の補助額は少額であるため費用対効果は高く事業の効率性は高いが、今後実施する各研修会・交流会の内容に関し異業種連携等に関する内容をさらに吟味し、限られた各研修会・交流会に盛り込めるよう、事業計画を調整する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の全国拡大後において、社会を取り巻く情勢を踏まえた組織運営を検討する必要がある。 										
		評価結果	改善の余地がややある									

事務事業の概要	事務事業名	工業団地維持管理事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	484
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	2 雇用・就労			
		目	2 商工振興費				基本施策	1 就労支援の充実と雇用創出の振興			
事業概要	立地企業が安全、安心に操業できるようにするために、工業団地の施設の適切な維持管理と用地の有効活用を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	工業団地管理（草刈・水路管理）			⑤			⑨			
	②	用地貸付（歳入）			⑥			⑩			
	③	工業団地用地登記業務			⑦			⑪			
	④	工業団地施設補修工事			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	維持管理面積	目標	19,513	19,105	18,276	18,276	18,276	維持管理の実施に当たり管理区域の除外及び追加を行った結果、当初計画に対し管理実施面積が微減した。		
			実績	19,105	18,276	18,156					
	<指標の計算方法>		草刈り等、維持管理している面積								
	活動指標	維持管理箇所数	目標	6	6	6	6	6	当初より予定していた工業団地について維持管理を実施することが出来た。		
			実績	6	6	6					
	<指標の計算方法>		草刈り等、維持管理を実施した工業団地箇所数								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	5,842			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①工業団地管理（草刈・水路管理）			②用地貸付（歳入）			④工業団地施設補修工事				
	市内6箇所の工業団地の市管理地において雑草除去、雑木伐採等の維持管理について業務委託にて実施した。 ・雑草除去業務委託 12 件 18,156㎡ ・雑木伐採業務委託 2 件 一式 ・側溝清掃委託 1 件 一式 ・廃棄物撤去処理委託 1 件 一式 維持管理総計 6団地 16 件 18,156㎡ ※雑草除去業務は基本的に年2回とも業務委託（管理面積は2回目を計上しない実数） 施設の老朽化により発生している不具合箇所の修繕を実施した。 ・法面修繕（北勢田第2工業団地） 1 件 ・舗装修繕（桃山第2工業団地） 1 件			平成19年度から賃貸借契約を締結している桃山第3工業団地の市管理地について、令和4年度も継続して貸付を行った。 目的：携帯電話基地局用地として 住所：紀の川市桃山町調月713-3・713-27（桃山第3工業団地敷地内） 面積：200㎡ ③工業団地用地登記業務 北勢田第2工業団地に係る一部用地に関し、関係者協議により登記処理がなされていない土地があり、協議解決により今回所有権移転登記を行った。 ・所有権移転登記 4筆			北勢田第2工業団地内の管理道について、一部区間のコンクリート舗装補修工事を実施した。 ・コンクリート舗装補修工事 179.20m				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		基本的に市有地であるため、市による維持管理を行う必要がある。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
シルバー人材センターを積極的に活用しているが、会員の高齢化により急傾斜地等の危険箇所や集草等の重作業は辞退されるケースが増加しており、そのような箇所は地元業者等を積極的に活用する必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・急傾斜法面部等の難作業箇所の業務費は高額になる傾向が高く、作業員の安全面等も考慮すると防草シートによる対策を講じることによって委託面積を減じることができ、作業員の安全確保及び委託費用の軽減につながるため、防草対策工事を検討する余地がある。 ・造成工事より期間が経過しており老朽化による不具合が増加傾向であることから、不具合箇所に対し修繕工事等の対策を講じ、施設の長寿命化を図る必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	北勢田工業団地専用排水管移設事業			担当課	商工労働課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R7)		事業番号	1162
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	2 雇用・就労			
		目	2 商工振興費				基本施策	1 就労支援の充実と雇用創出の振興			
事業概要	県道泉佐野打田線の4車線化拡幅工事に伴い、工事の支障となる北勢田工業団地からの専用排水管を移設することで県道工事後の専用排水管の安定的運用を確保する事業										
事務事業を構成する細事業	①	測量設計業務			⑤			⑨			
	②	排水管路移設替工事			⑥			⑩			
	③				⑦			⑪			
	④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	測量設計実施延長	目標		2,100	200	0	300	測量設計に際し起終点の取り合わせ等の検討により実施延長が増加したが、概ね当初計画区間の測量設計を実施出来た。		
			実績		210	212					
	<指標の計算方法>		測量設計業務を実施した延長								
	成果指標	移設工事実施延長	目標		200	0	228	212	令和4年度工事は令和3年度繰越工事のみの実施である。令和3年度発注、令和4年度工事完了のため令和4年度の工事実績に再度計上した。		
			実績		210	182					
	<指標の計算方法>		移設工事を実施した延長								
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	33,950			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	33,950	
事業の実績	①測量設計業務			度実績に再度計上しています。							
	県道拡幅計画に合せた北勢田工業団地専用排水管の移設計画の検討を行い、業務委託にて現地測量および実施設計を行った。 ・実施設計業務 L=212m										
事業の実績	②排水管路移設替工事										
	今年度工事は令和3年度繰越工事のみ実施した。 ・排水管移設工事 (R3繰越工事) ダクタイル鋳鉄管 直径250mm L=182m (開削工 L=159m・推進工 L=23m) ※本工事は令和3年度繰越工事であり、令和3年度実績に計上しているが、工事の完了は令和4年度のため、令和4年										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・移設工事の対象となる排水管は県の施工により造成されたが現在市へ財産移管されており、県道に対する占用物となるため市による事業実施は妥当と考える。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・事業の性質上、県道拡幅工事計画に応じた排水管移設計画を検討する必要があるが、県工事の実設計も全線完了していないため、県計画の進捗に合わせて事業実施していくほかないと考える。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・対象施設は市の占用物となるが、県道拡幅工事の支障となる一部区間の移設工事については公共補償を伴う受託事業となり、測量設計費及び仮設工事費は全額、移設工事費は既設施設の供用年数に応じた減耗額を差し引いた工事額が公共補償対象のため、経費の面からも最も効果的と思われる。											

事務事業の概要	事務事業名	紀の川はっさくプロジェクト推進事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R5)	事業番号	1171		
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	2 商工振興費				基本施策	3 商工業の振興				
事業概要	「地域産業創出に向けた連携協定」に基づき、はっさく果皮含有成分による商品開発等を推進するとともに、「紀の川はっさく」のブランド化による地域経済の活性化を図る事業											
事務事業を構成する細事業	①	紀の川はっさく普及推進事業			⑤			⑨				
	②	紀の川はっさくプロジェクト推進事業			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	紀の川はっさくのロゴ使用申請数	申請	目標	0	5	10	15	15	市内でプロジェクトに対する理解度が高まり、ロゴを印字したシールの貼付に取り組む個人農家や卸売店が一定数ある。		
				実績	0	3	11					
	<指標の計算方法>		ロゴの使用に対し許認可した件数									
	活動指標	開発した商品及び試供品の種類	商品	目標	0	0	1	2	3		はっさくエールを販売し認知度を高め、羊羹・ゼリーを製造し消費者へのアンケートを実施した。	
				実績	0	0	3					
<指標の計算方法>		開発した商品及び試供品の種類										
成果指標	含有成分の効能を表記した商品数	商品	目標	0	0	1	1	1	事業を自走するためにも収益性が望める商品化を実現する必要がある。			
			実績	0	0	0						
<指標の計算方法>		含有成分の効能を表記した商品数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,401			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,401		
事業の実績	①紀の川はっさく普及推進事業 はっさくの出荷箱や出荷袋に貼付するシール等を製作し、生産地の認知度向上を図った。 丸型シール 670,000枚 角型ステッカー 50,000枚 はっさくを原材料にしたクラフトビールを醸造し市内で販売した。 ・商品名 紀の川はっさくエール ・発売日 令和5年2月18日 ・販売価格 550円/本(税込) ・販売本数 2,760本 ・内容量 330mmℓ/本 ・取扱店舗 9店舗 【打田】 岩田酒店 酒の紀の川 めっけもん広場 【粉河】 (有)楠酒販 やまもと 【那賀】 岡本商店			【貴志川】 (財)青洲の里 (株)しおん 産直市場よってって貴志川店			②紀の川はっさくプロジェクト推進事業 ・対象者 (株)和環 ・補助額 2,258,000円 ・内容 (1) 試作品の開発及び検証 (2) 熱中症予防成分効率的抽出技術研究及び知財化 (3) 安全性確認試験 (4) 展示会出展と試作品のアンケート調査					
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・紀の川はっさくに対する付加価値を高め、地域経済の好循環を目指している事から、市が関与することが妥当である。								
有効性		評価結果	改善の余地が大きい ・含有成分の効能を表記した商品化と販売までのスケジュールを明確化する必要がある。									
効率性		評価結果	改善の余地がややある ・商品開発は公共の技術機関や他の支援制度を活用することにより費用を圧縮しているが、普及推進のシール等の製作は受益者負担への移行を検討していく必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	新事業用団地造成事業			担当課	商工労働課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R7)		事業番号	1161	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	2	雇用・就労			
		目	2 商工振興費				基本施策	1	就労支援の充実と雇用創出の振興			
事業概要	新事業用団地計画地区である曾山地区について、誘致企業の新設、及び既存企業の増設用地として整備することで市内に新たな産業を導入し、また、既存企業の増設等の事業拡大を促すことで、市民の雇用機会の創出、市内産業の活性化及び市の自主財源を確保する事業											
事務事業を構成する細事業	①	用地等補償契約			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	対象となる事業計画面積	ha	目標			9.7	9.7	9.7		令和4年度に実施した用地調査面積と事業計画面積に変動は無いため、用地調査面積の増減はない。	
				実績			9.7	9.7				
	<指標の計算方法>		事業計画面積									
	成果指標	用地補償等契約面積	ha	目標				3.1	7.5		令和4年度中に用地等補償契約を締結する予定であった権利者の死亡により、土地等の相続に期間を要する等の事情があったため、年度内の契約締結が不可能となり契約予定面積に達しなかった。	
				実績				1.5				
	<指標の計算方法>		用地等補償契約を締結した面積									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	44,590			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		44,590	
事業の実績	①用地等補償契約 事業用地の取得のため計画区域内の用地等補償契約を締結した。 ・用地等補償契約件数 4件 14,886.79㎡ ※用地等補償契約については令和4年度予算の繰越措置により継続して契約業務を実施する。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・基本的に事業用団地を新規に造成する事業であるため、その造成に際し民間資金や技術力を活用する、いわゆるPFI手法を検討する余地があるが、事業計画の規模、期間を考慮するに小規模、短期間という点や事業目的を考慮すると、市が実施することは妥当と考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・現在の進捗としては計画に沿っていると考えているが、事業効果の早期発現のため効率的な造成工事に関する実施設計や工事施工を検討する必要があると考える。 ・本計画地域は「紀の川インターチェンジ周辺土地利用構想」に基づく先行開発地との位置付けであるため、構想に則した造成計画を検討する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業計画の規模、期間を考慮するに小規模、短期間という点や事業目的を考慮すると、費用対効果を常に検討しつつ市が主体となり事業を実施することが最も効率が高いと考える。											

事務事業の概要	事務事業名		未来応援券事業			担当課	商工労働課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ		事業番号	1222
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	1 農業振興・産業振興				
		目	2 商工振興費				基本施策	3 商工業の振興				
事業概要		新型コロナウイルス感染症の影響を受けている市民生活の支援を図るとともに、地域における消費を喚起することを目的として、未来応援券を配付する事業										
事務事業を構成する細事業		①	未来応援券事業			⑤			⑨			
		②				⑥			⑩			
		③				⑦			⑪			
		④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	未来応援券利用率	%	目標			100			商工会商品券事業 99.4% 他の類似事業と概ね同率の利用率であったので、消費喚起につながったと考える。		
				実績			98.49					
	<指標の計算方法>		換金された割合									
	活動指標	未来応援券の利用可能店舗数	店舗	目標			394			商工会商品券事業 406店舗 上記の商品券事業には加盟出来ない大規模店舗から、加盟を希望する傾向が高かった。		
				実績			335					
<指標の計算方法>		未来応援券が利用できる市内商業者数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			645,253	358,675				286,578				
事業の実績	①未来応援券事業 概要			加盟店舗			11月分 197,982,000円					
	配布額	10,000円分/人		加盟店舗数335店舗			12月前期 49,967,000円					
利用期間	10月1日～12月31日		エリア別加盟店舗数			12月後期152,072,000円						
券種	1,000円/枚		打田地区 86店舗			コールセンター						
要件	5月1日現在で住民基本台帳に記録されている方		粉河地区 74店舗			開設期間						
発送	7月～9月		那賀地区 48店舗			市民用 6月～1月						
			桃山地区 40店舗			店舗用 4月～1月						
			貴志川地区87店舗			対応件数						
発送者	60,289人		エリア別利用率			市民から 228件						
受取者	60,033人		打田地区 40.8%			店舗から 103件						
受取率	99.57%		粉河地区 17.8%									
			那賀地区 6.3%									
発券額	600,330,000円・・・㉠		桃山地区 3.0%									
発券枚数	600,330枚		貴志川地区32.1%									
換金額	591,267,000円・・・㉡		換金実績									
換金枚数	591,267枚		10月分 191,246,000円									
換金率	98.49% (㉡/㉠)											
未換金額	9,063,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		<ul style="list-style-type: none"> 市内の消費を喚起し、新型コロナウイルス感染症により落ち込んでいる経済の活性化を図る観点から、市が関与することが妥当である。 利用から換金後の振込まで、タイムラグが発生するため経営体力が低い小規模事業者が加盟しない傾向がある。 										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
<ul style="list-style-type: none"> 利用率は概ね目標値と近似となっている。 												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		<ul style="list-style-type: none"> デジタルで管理された事業に転換し、正確で即時的な換金手段を検討する必要がある。 										

事務事業の概要	事務事業名	観光振興事業			担当課	観光振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	720	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	3	観光・交流			
		目	3 観光振興費				基本施策	1	観光資源を発掘・活用した観光振興			
取組方針	1			誘客・観光PRの促進								
事業概要	市に訪れる観光客数の増加につなげるために、観光客への情報の発信(PR)や各観光団体への取組支援や運営への参画を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 観光PR			⑤ 紀の川エリア観光サイクリング推進協議会負担金			⑨ 観光PR用車両管理					
	② 県観光連盟負担金			⑥ メイヤーズカップ補助金			⑩ 観光振興業務					
	③ 紀の川みち広域観光連絡協議会負担金			⑦ スカイグランプリ補助金			⑪ 団体旅行誘致促進補助金					
	④ 和みわかやまキャンペーン推進協議会負担金			⑧ 観光協会補助金			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	観光PR件数	件	目標	15	15	15	15	15	新型コロナウイルス感染症の影響が続く中ではあるが、実施できたイベントでのPRとキャンペーンスタッフのテレビ出演等により、観光PR件数は令和3年度より増加した。		
			実績	2	6	11						
	<指標の計算方法>		観光キャンペーンスタッフの参加イベント数(複数日あるイベントも1件とする)									
	成果指標	観光協会会員数	会員	目標	130	135	135	135	135	新規会員を勧誘し会員の増加に努めたところ、新規入会があったが退会もあったため増減はなかった。		
実績			124	124	124							
<指標の計算方法>		年度末時点の会員者数(特別会員含む)										
成果指標	特産品推奨制度新規登録商品数	品	目標	10	10	10	10	10	食品関係の新商品の開発があり、令和4年度の新規登録商品数は増加した。			
		実績	3	4	6							
<指標の計算方法>		推奨特産品の新規登録商品数(変更・更新は除く)										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
7,898									7,898			
事業の実績	①観光PR 令和4年4月28日紀の川市出身の俳優・楠見薫さんを2代目紀の川市フルーツ大使に任命した。また、市内を周遊しSNS等PRしていただいた。その他フルーツ羊羹、桃のハンドクリーム、はっさくエールの配布により紀の川市をPRしていただいた。 ・観光スポットや、飲食店への周遊をし、観光消費額の向上を図るため市内周遊促進事業を実施した。			⑤紀の川エリア観光サイクリング推進協議会負担金 国内外のサイクリング観光客を紀の川エリアに誘致するため、レンタサイクル事業やレンタサイクル利用促進に係る各種イベント開催事業等への支援をした。			ホームページの更新・運営(6回) 観光協会広報紙の発刊(3回) フェイスブックでの情報発信(92回) キャラクターグッズ販売及び観光PRイベントへの参加やメディアを活用した観光・特産品のPRの実施					
	②県観光連盟負担金 和歌山県を売り出すことにより経済の発展を促す事業への支援をした。 ③紀の川みち広域観光連絡協議会負担金 令和4年度をもって、正式に解散が決定。 ④和みわかやまキャンペーン推進協議会負担金 和みわかやまキャンペーン推進協議会において県全域で「継続可能な観光地づくり」を推進する事業への支援をした。			⑥メイヤーズカップ補助金 フライト紀の川実行委員会により開催されるパラグライダー事業への支援をした。 ・開催 11月19日~20日 参加者35名 ⑦スカイグランプリ補助金 紀の川スカイグランプリ実行委員会により開催される全国各地から選手が集まるハングライダー競技大会への支援。 ・開催中止 ⑧観光協会補助金 特産品推奨事業の実施 新規6商品4業者(計70商品,27業者) 推奨特産品パンフレット制作(7,000部) 特産品販売事業の実施(6回)			⑨観光PR用車両管理 観光PRのために利用 ⑩観光振興業務 ・観光ガイドブック印刷(20,000部) ・観光スポットを紹介するため、観光カードを作成した。(11,400部)35ヶ所配布済 ⑪団体旅行誘致促進事業 紀の川市内にバスで訪れて宿泊し、市内周遊を1か所以上旅程に取り入れた旅行者や団体等に対する補助をした。 ・バス1台につき10名以上で50,000円1件 ・バス1台につき15名以上で75,000円2件 ・バス1台につき20名以上で100,000円6件					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・観光PRを進め、観光客の増加を図ることで、市の地域経済の発展や活性化につながるなどの効果が期待されるため、市が観光振興に取り組むことについては妥当性がある。また、各補助団体における補助事業についても地域経済の発展や活性化に必要な事業であると判断できるため、支援を行うことは妥当と考える。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・積極的に観光PR活動や販売活動を行うとともに、SNS等を効果的に活用したPRを継続して実施していくことは本市の観光振興に有効であると考えられる。しかし、観光協会の運営やPR事業にかかる業務が多いため、継続的に事業を実施していくには協会内の業務分担について改善の余地があると思われる。												
効率性		評価結果	改善の余地がない									
		・補助金交付対象団体は補助事業への取り組みについて常に創意工夫を重ねており、当面は現状維持での支援を行っていくことが観光振興に必要であると考えられる。										

事務事業の概要	事務事業名	まつり開催支援事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	88	
	予算科目	款	7	商工費	長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流				
		項	1	商工費		施策目標	3	観光・交流				
		目	3	観光振興費		基本施策	1	観光資源を発掘・活用した観光振興				
取組方針	1	誘客・観光PRの促進										
事業概要	市の交流人口の拡大と活性化につなげるために、実行委員会との協働により、まつりや各種イベントの開催を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市民まつり補助金			⑤	まつり開催支援			⑨			
	②	粉河祭補助金			⑥				⑩			
	③	青洲まつり補助金			⑦				⑪			
	④	桃山まつり補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	まつり関係構成員数(実行委員、協力団体)	人	目標	208	208	208	208	208	まつり関係団体の構成員数の重複している役員を整理した結果、減少した。		
			実績	193	198	193						
	<指標の計算方法>		市民まつり、粉河祭、青洲まつり、桃山まつり関係構成員数(実行委員、協力団体)									
	成果指標	まつり集客数	人	目標	113,000	113,000	113,000	113,000	113,000	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、各まつりが中止となり集客数なしとなった。		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		観光客動態調査報告数値									
	活動指標	まつり関係会議回数	回	目標	55	55	55	55	55	令和4年度のまつりは全て中止となったが、令和5年度開催に向けて、早い段階から会議を行い回数が増えた。		
			実績	12	18	25						
	<指標の計算方法>		市民まつり、粉河祭、青洲まつり、桃山まつり開催準備会議数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	1,548			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①市民まつり補助金 8月21日 開催中止 来場者数 0人 実行委員会運営 構成員数 33名			実行委員会運営 構成員数 24名 ⑤まつり開催支援 開催中止に伴う、周知・広報を行った。								
	②粉河祭補助金 7月30日・31日 開催中止 来場者数 0人 粉河祭保存会で運営 構成員数 84名 9月24日・25日 昔の粉河祭の写真展示と動画を上映する「粉河祭写真展」を開催											
	③青洲まつり補助金 10月24日 開催中止 来場者数 0人 実行委員会運営 構成員数 52名											
	④桃山まつり補助金 4月2日 開催中止 来場者数 0人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・まつりの開催にあたっては、まつり実行委員会自ら考え、自らの運営により魅力のあるイベントをつくりあげることでそれぞれのまつりの集客や地域の活性化につなげることが大切である。一方で、実行委員会が主となってまつりを運営できるように組織作りをし、それぞれのまつりが安全かつ円滑に開催されるためには市の側面からのサポートが必要である。したがって、市がまつり運営に関与することは妥当であると考えます。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・それぞれのまつりは、それぞれの地で培われた魅力、歴史、伝統を広く参加者に伝え、地域の活性化につながるものである。また、まつりは市外からの誘客のきっかけになり、交流人口の増大や市民交流につながる事業であることから有効である。 ・事故を未然に防ぎ、より安全なまつりイベントの開催に向け、きめ細やかな対策を講じる必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況を注視しながら、実施可能な取り組み・感染症対策を実行委員会と考えていく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・まつりの会場設営に関する業務は、実行委員会が外部委託しており効率化が図られている。 ・まつり運営に関しては、実行委員会が1年を通して活動する方向に導くことで、協賛金や募金活動も更にスムーズに行うことができ、自主財源の確保につながるため、今後も実行委員会組織の強化に努める必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	ほたる保護事業		担当課	観光振興課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	722	
	予算科目	款	7 商工費		長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費			施策目標	3 観光・交流				
		目	3 観光振興費			基本施策	2 国際交流と国内交流				
事業概要	市民に環境保全の大切さについて理解を深めてもらうために、ほたる保護団体への活動支援、ほたるサミットや観賞会等の開催を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	ほたるの館施設管理		⑤	源氏ボタルを育てる会補助金		⑨				
	②	ほたる観賞会		⑥			⑩				
	③	ほたるサミット参加負担金		⑦			⑪				
	④	ほたる保存会補助金		⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	ほたる保護団体数	団体	目標	5	5	5	4	4	ほたる保護団体の1つである「野田原のほたる」が、地域の少子高齢化に伴い、事業の開催を行えない旨から活動の取り止めを決定した。	
			実績	5	5	4					
	<指標の計算方法>		ホタル保護を行っている団体数								
	活動指標	ほたるサミット参加市町村数	団体	目標	6	6	6	6	6	令和4年度「2022ほたるサミット下関」は、新たな形としてオンラインでの開催となり、加入市町村の増加はなかった。	
実績			6	6	6						
<指標の計算方法>		ホタルサミット参加市町村連絡協議会規約構成市町村数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	989			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	989	
事業の実績	①ほたるの館施設管理		ほたるの育成環境を保全するため、ほたるの館・観賞池の維持管理を行った。		重谷川の自然に育ったほたるを保護するため生育環境保護と自然環境美化のための活動に対する補助を行った。 河川愛護団体登録を申請した。 ⑤源氏ボタルを育てる会補助金 ゲンジボタルの人工飼育による保護や自然保護と水質保全及び生物を学ぶ活動に対する補助を行った。 ほたる保護団体の観賞情報は、紀の川市のホームページや観光ガイドブック及び県の観光情報誌等に掲載した。						
	②ほたる観賞会		令和4年度「ほたる観賞会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の為、平日のみ開催した。 6月1日～10日の平日のみ 8日間								
	③ほたるサミット参加負担金		日本一のほたるの里を目指す真庭市、下関市、北九州市、米原市、阿久比町、本市の6市町が参加している。 「つなげよう自然とホタル 未来へ」をテーマとしたほたるの里を目指す6市町が一堂に会するサミットである。令和4年度は、オンラインで開催した。								
	④ほたる保存会補助金										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市内のほたる保護団体に、ほたる保護活動を行ってもらうことで、市内外の住民に対し広く自然環境保護のメッセージを発信していくことに繋がるため、市が関与することは妥当である。 ・ほたる保護活動を通じて自然環境保護の重要性を広く市内外に広めていくことは、次世代へ美しい郷土を引き継いでいくという目的達成への貢献度が高いと考える。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・ほたるサミットに参加することで広く全国に紀の川市をアピールできている。 ・ほたるの観賞地は、飛翔時期には観光資源の一つである。観賞地の案内や駐車場警備は地元、警察、行政の3者において安全の確保を行っており、交流人口の増加や市の知名度アップに貢献している。 ・保護団体の会員の高齢化が進んでいるため、新たな会員の確保と継承者の育成が課題である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・ほたる保護活動については、各保護団体において人工飼育・自然飼育という活動方針に違いがあるものの効率的かつ自主的に活動している。									

事務事業の概要	事務事業名	地域おこし促進事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	991		
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流					
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流					
		目	3 観光振興費				基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興					
取組方針				3	DMOの推進								
事業概要	「フルーツのまち 紀の川市」の魅力を外内に広め、紀の川市への定住・定着を図るために、地域おこしの支援や地域活動を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	地域おこし協力隊募集			⑤			⑨					
	②	活動支援			⑥			⑩					
	③	定住・定着のための情報収集・技術取得			⑦			⑪					
	④				⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	地域おこし協力隊員数	人	目標	3	2	2	2	2	令和4年度は、新規に1名の協力隊を採用し計2名の協力隊が紀の川市の観光PR等の業務を行うとともに、任期満了後には紀の川市への定住をすべく活動を行った。			
				実績	1	2	2						
	<指標の計算方法>		各年度に地域おこし協力隊員として活動している隊員数										
	成果指標	定住・定着者数	人	目標	1		1	1	1			令和3年度末で協力隊を退任した1名が定住した。	
				実績	1		1						
	<指標の計算方法>		各年度に委嘱期間終了後、紀の川市に定住した地域おこし協力隊員数										
活動指標	地域おこし活動件数	回	目標	60	60	60	60	60	令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響があったが、地元団体への支援活動や観光施設などへの支援活動を行った。また、新規採用の協力隊が地域に根ざすため、地元農家への訪問やイベント等に参加する等幅広い活動ができたため、活動件数は増加した。				
			実績	13	7	14							
<指標の計算方法>		協力隊員が行った地域おこし活動件数（目的別）											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	7,172			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,172			
事業の実績	①地域おこし協力隊募集 令和4年度は4名の地域おこし協力隊の応募があった。そのうち1名の地域おこし協力隊員を新規採用した。			(藤井の里マルシェ、打田竹灯籠まつりでのマルシェ、和歌浦メイコーストリート移住定住関連マルシェ等) ・その他の活動 創カフェでの観光PR支援活動(84回) ユーピーパラグライダースクールでの観光PR支援活動(26回) ・SNS等による市の魅力発信 インスタグラム(21回) フェイスブック(88回)									
	②活動支援 (一社)紀の川フルーツ・ツーリズム等の地域づくり団体と活動した。 ・ぶる博7開催支援 フルーツのまち紀の川市の魅力を内外に広め、地域振興に貢献。市の魅力発信とファンづくりに寄与した。 ・藤井の里くらぶ 農業体験や加工、調理体験等を通して都市と農村交流を図るための活動を支援した。 ・マルシェイベント 様々な地域で開催されているイベントに参加した。今後の地域の活性化のための参考にしていく。			③定住・定着のための情報収集・技術取得 ・高野熊野地域通訳案内士取得 ・地域通訳案内士研修受講 ・援農シェアハウスについての情報収集 ・観光農園についての情報収集									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・地域おこし協力隊の業務については、(一社)紀の川フルーツ・ツーリズム等の市民活動の支援、「フルーツのまち紀の川市」の魅力発信とファンづくり、フルーツを利用した商品開発・販売などである。観光振興事業を通じて協力隊個人の生きがいづくりや生業の発見もしてもらっている。 ・任期満了時には紀の川市に移住定住してもらうため、市が関与し様々な情報提供を行う必要がある。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・地域おこし協力隊は日常的に行政が携わりにくい地域の活動に直接参加することで、地域の活性化を図ることができるため、今後も制度を活用して地域活性化を図るには有効な手段である。令和3年度任期満了者である1名についても、本市へ定住し、引き続き積極的に地域活動に参画している。 ・協力隊は全国的に募集されているため人材の確保が困難な傾向にある。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・地域おこし協力隊は国の制度であり、市において地域の活性化事業に取り組む際、地域おこし協力隊制度を活用することは、事業費の一部について特別交付税措置があるため効率性が高い事業である。 ・新たに着任する協力隊への効率的な引継ぎ方法を整理しておく必要がある。												

事務事業の概要	事務事業名	観光交流創造事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1014	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3 産業・交流				
		項	1 商工費				施策目標	3 観光・交流				
		目	3 観光振興費				基本施策	1 観光資源を発掘・活用した観光振興				
事業概要	観光客、市民がフルーツのまちとしての魅力・イメージアップにつなげるために、地域資源であるフルーツと他の魅力ある地域資源を結びつける取組を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	まちづくり人材育成塾			⑤				⑨			
	②	紀の川フルーツ・ツーリズム補助金			⑥				⑩			
	③	DMO運営支援			⑦				⑪			
	④	観光交流拠点の運営			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	体験交流人口	人	目標	7,800	8,600	9,300	9,300	9,300	令和4年度は、県事業であるほんまもん体験イベントの参加者が211名減少した。(一社)紀の川フルーツ・ツーリズムが主催のぶる博6への参加者が207名減少し、合計418名の減少となった。		
				実績	3,478	2,933	2,515					
	<指標の計算方法>		ほんまもん体験利用者数と市内体験交流催し参加者数の合算(観光客動態調査(暦年調査)による)									
	活動指標	年間外国人観光客数	人	目標	130,000	140,000	150,000	150,000	160,000	観光交流拠点への来客数が、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の令和元年度から92.7%減少していることから、貴志駅についても推定80,000人×7.3%=5,840名とした。貴志駅以外の外国人観光客数951名と合わせて6,791名となった。		
				実績	15,090	323	6,791					
	<指標の計算方法>		各観光施設等への調査(観光客動態調査(暦年調査)による)									
成果指標	観光ファンクラブ会員数	人	目標	2,400	2,450	2,500	2,550	2,600	メールマガジンによるPRやぶる博開催時にファンクラブへの加入者を獲得したことにより、224名の新規加入者があった。			
			実績	1,887	2,025	2,249						
<指標の計算方法>		紀の川ぶるぶるファンクラブ会員数(3月31日現在)										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額(単位:千円)			財源内訳								
	20,847			国庫支出金	2,267	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	18,580	
事業の実績	①まちづくり人材育成塾 8月から9月に「フルーツライフスクール」を開校予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。			・視察・研修受け入れ(2回、計7名) ・マーケティング調査の実施・公表 ・「紀の川秋のフルーツスタンプラリー」の開催 参加者573名 スタンプ累計838個			・共用施設利用者数(R4.4~R5.3) 1F イベント広場(2回、54人) 2F 体験交流スペース(3回、38人) 両施設同時利用(0回、0人)					
	②紀の川フルーツ・ツーリズム補助金 「フルーツのまち紀の川市」をPRする市民団体である(一社)紀の川フルーツ・ツーリズムが開催する「ぶるぶる博覧会」への支援を行った。 ・ぶる博7令和5年2月26日から開催(体験催し43種類、参加者数1,384人)			・googleビジネスプロフィールセミナーの開催 参加者10名 ・和大テラス出展 阪神百貨店において、紀の川市特産品販売及びPR ・紀の川フルーツフェア開催 和歌山近鉄百貨店においてフルーツ羊羹他紀の川市特産品販売およびPR								
③DMO運営支援 まちづくりに関係する11の構成団体による、(一社)紀の川フルーツ観光局を支援。観光を用いたまちづくりを推進していく取組を支援した。 ・合同部会(0回) ・理事会(4回) ・総会(1回) ・モデルルート等受入実施(7回計216名)			④観光交流拠点の運営 和歌山電鐵貴志駅前、観光交流拠点「紀楽里(きらり)」を運営。観光案内、土産物の紹介、体験交流などを通じて紀の川市の魅力を発信した。 ・来客数(R4.4~R5.3) 9,205人(内外国人1,632人)									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・市民と協働して地域のブランド化、基幹産業である農業の振興と地域の活性化を図る取組である。 ・市民団体、民間企業及び大学等、観光まちづくりに携わる関係団体が多種多様であるため、それぞれの役割を明確にして、それぞれの事業を円滑に進めていく必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・訪日外国人観光客との交流を進めていくことは、市民が気軽に参加できる国際交流の機会を増やす。 ・本事業において設定している指標の中には、社会情勢等による影響が大きいものもあり、実績数値のみを取り上げて有効性を判断することは難しいと思われる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・令和5年度以降はDMO(観光地域づくり組織)への専門人材の派遣や、観光客の回復を見込んだ継続的な誘客のため、物販も拡張して行うようにするなどの取組を図り、収益面において市の補助金に頼らない運営を進めていく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	観光施設管理運営事業			担当課	観光振興課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	89	
	予算科目	款	7 商工費			長期総合計画体系	政策目標	3	産業・交流			
		項	1 商工費				施策目標	3	観光・交流			
		目	4 観光施設費				基本施策	1	観光資源を発掘・活用した観光振興			
取組方針	2		観光基盤・受入体制の整備									
事業概要	市民が観光施設を安全で快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	観光施設管理（トイレ等諸施設）			⑤	市営大門橋前駐車場施設管理			⑨			
	②	百合山緑化施設管理			⑥	貴志川観光物産センター			⑩			
	③	細野溪流キャンプ場施設管理			⑦	桃山産業振興館施設管理			⑪			
	④	きしべの里施設管理			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	細野溪流キャンプ場入場者数	人	目標	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	コロナウイルス感染症対策による制限を解除し、市内外の来訪者を受け入れたことや、また近年のアウトドア人気の影響により入場者数は増加した。		
				実績	5,989	7,115	9,937					
	<指標の計算方法>		実績報告による（キャンプ場の入場者数）									
	成果指標	市営大門橋前駐車場駐車台数	台	目標	1,300	1,300	1,300	1,300	1,300	受入れが再開されたインバウンドや全国旅行支援により、大型バス等を利用した観光が徐々に回復し駐車場利用台数が増えた。		
				実績	883	891	964					
	<指標の計算方法>		実績による（普通車・マイクロバス・大型バスの駐車数合計）									
	成果指標	桃山産業振興館利用者数	人	目標	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000	受入れが再開されたインバウンドや全国旅行支援により、大型バス等を利用した観光が徐々に回復し利用者数が増えた。		
				実績	25,422	23,563	24,212					
	<指標の計算方法>		実績報告による（レジ客件数）									
	成果指標	貴志川観光物産センター利用者数	人	目標	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	受入れが再開されたインバウンドや全国旅行支援により、大型バス等を利用した観光が徐々に回復し利用者数が増えた。		
				実績	60,143	52,881	53,247					
<指標の計算方法>		実績報告による（レジ客件数）										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	9,023			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	897 8,126		
事業の実績	①観光施設管理（トイレ等諸施設） 窪ちびっこ広場—施設清掃委託 山田ダム公衆便所—施設清掃委託 大池遊園公衆便所—施設清掃委託			⑥貴志川観光物産センター 施設管理運営 利用者数 53,247人								
	②百合山緑化施設管理 施設管理・トイレ清掃管理・樹木等維持管理委託			⑦桃山産業振興館施設管理 施設管理運営 利用者数 24,212人								
	③細野溪流キャンプ場施設管理 指定管理 入場者数 9,937人											
	④きしべの里施設管理 施設管理・清掃管理・雑草処理・植木保守委託											
	⑤市営大門橋前駐車場施設管理 施設管理委託 利用台数 964台											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市が管理する観光施設を快適に利用していただくために維持管理を行う事業であるため、市の事業実施は妥当であるとする。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・施設利用者から施設利用における事故や怪我等の報告もなく、安全に利用していただいていることから事業は有効に実施できていると考える。 ・観光施設を利用するリピーターを増やすためには観光客や市民のニーズを把握する必要がある。モニタリング等の結果を分析・検証することで有効活用に向けたその後の事業展開を模索していく。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・観光施設の老朽化による修繕費用を軽減させるため、定期点検と随時修理を行い施設の長寿命化に取り組んでいる。											

事務事業の概要	事務事業名	土木管理事業			担当課	建設総務課			事業区分	ソフト事業	
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	717
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	1	土木総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
取組方針	9	その他									
事業概要	土木一般事務並びに法定外公共物を適正に管理する事業										
事務事業を構成する細事業	①	土木総務管理			⑤					⑨	
	②	地形図整備・管理・販売			⑥					⑩	
	③	法定外公共物管理			⑦					⑪	
	④				⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	法定外公共物許認可件数	件	目標						<ul style="list-style-type: none"> ・法定外公共物施行承認件数 ・同占用許可申請 ・同用途廃止件数 ・公有財産使用（借用）件数 	
				実績	78	73	60				
	<指標の計算方法>		法定外公共物許認可件数								
	活動指標	白地図販売枚数	枚	目標						<ul style="list-style-type: none"> ・紀の川市管内図販売数 	
				実績	69	89	71				
	<指標の計算方法>		枚数								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	527			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
								22	505		
事業の実績	①土木総務管理 ・土木管理事業に関する総務 ・管理に関する住民相談等										
	②地形図整備・管理・販売 ・地図販売枚数 71枚										
③法定外公共物管理 ・施行承認件数 41件 ・占用許可件数 4件 ・用途廃止件数 13件 ・公有財産使用(借用)許可件数 2件											
開発や個人住宅建築また電気通信線路維持に伴う法定許認可事務を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・法定公共物の管理については、機能管理及び財産管理であるため妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・法定公共物の管理については、機能管理及び財産管理であるため有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・法定公共物の管理については、機能管理及び財産管理であるため効率的である。										

事務事業の概要	事務事業名	道路管理事業			担当課	建設総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1047	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	土木総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
取組方針	1	橋梁の適正な維持管理										
事業概要	市の道路が適正に機能するように、道路の認定・廃止に基づく道路台帳の整備や道路の占用管理等を行う、また市民による清掃活動を実施し、道路の愛護活動を通じて、道路の役割や重要性を改めて認識してもらう事業											
事務事業を構成する細事業	①	許認可（占用管理・通行規制）			⑤	道路施設管理			⑨			
	②	市道認定・廃止			⑥	訴訟・事故・苦情対応			⑩			
	③	道路美化・愛護			⑦				⑪			
	④	道路台帳整備			⑧				⑫			
指標の実績	活動指標	許認可件数	単位	件	目標						道路法等、法令に基づき適正に処理する。	
		実績				293	253	314				
	<指標の計算方法>		許認可件数									
	活動指標	市道認定路線数	単位	路線	目標							市道認定基準に基づき議会の議決を得る。
		実績					11	20	17			
	<指標の計算方法>		市道認定路線数									
	活動指標	道路一斉清掃参加人数	単位	人	目標							国の示す道路愛護月間に管内一斉清掃を市民ボランティアと例年実施しているが、新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止した。
		実績										
	<指標の計算方法>		道路一斉清掃参加人数									
	活動指標	事故対応件数	単位	件	目標	0	0	0	0	0	0	迅速かつ適正な判断のもと対応する。
実績					0	1	3					
<指標の計算方法>		市道における事故対応件数（保険対応分）										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	16,275			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	16,275		
事業の実績	①許認可（占用管理・通行規制） ・占用許可件数 64件 ・掘削許可件数 155件 ・施行承認件数 80件 ・幅員証明・通行協議 15件 ・特殊車両通行協議 167件 開発や個人住宅建築また電気通信路線維持に伴う法定許認可事務を行った。			④道路台帳整備 ・紀の川市道路台帳整備業務 6,725,400円 新設及び改良等により区域変更された道路について台帳整備並びにシステム更新を行った。								
	②市道認定・廃止 ・市道廃止 1路線 ・市道認定 17路線 ・延長 1,036Km 路線数 2,889路線 ③道路美化・愛護 ・道路清掃参加人数 新型コロナウイルス感染症拡大防止により中止			⑤道路施設管理 ・道路パトロール(幹線道路) 月2回実施 主に2車線の主要幹線道路を定期パトロールし、道路を安全に通行できるよう管理・保全に努めた。 ⑥訴訟・事故・苦情対応 ・被害対応 42件・加害対応 3件 市道敷における事故対応や、市道敷に張り出している樹木の伐採等の依頼を行った。								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・道路行政事務を行う上で妥当である。									
		有効性	改善の余地がない ・道路行政事務を行う上で有効である。									
	効率性	改善の余地がない ・道路行政事務を行う上で効率的である。										

事務事業名	地籍調査事業		担当課	建設総務課			事業区分	ソフト事業		
			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (H30 ~ R 4)	事業番号	716		
	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
	予算科目	款	8		土木費	施策目標	1	都市基盤整備・公共交通		
項		1	土木管理費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備			
目	2	地籍調査費		取組方針	3	地籍調査の着実な推進				
事業概要	市民（地権者）が正確な土地情報を把握し、土地の活用ができるように、市内の土地について調査・測量・閲覧を行い、地籍図及び地籍簿の作成を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	調査		⑤	近畿ブロック国土調査推進連絡協議会負担金		⑨			
	②	推進委員会運営		⑥	県地籍調査協議会負担金		⑩			
	③	閲覧・成果データ管理		⑦			⑪			
	④	全国国土調査協会負担金		⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	一筆地調査地区数	地区	目標	2	4	2	0		0
			実績	2	4	2				
	<指標の計算方法>		調査地区の地区数							
	活動指標	閲覧地区数	地区	目標	9	8	4	1		閲覧業務4地区の実施予定であったが、一筆地調査を実施したうちの1地区について、閲覧工程まで進めることができた。
			実績	9	8	5				
	<指標の計算方法>		閲覧業務開催地区数							
	活動指標	調査面積	km ²	目標	206.91	216.72	220.97	221.61		冊子「和歌山県の地籍調査」に公表している数値との整合性を図る。令和4年度当初に、実績面積と残事業面積の合計が、調査対象面積を超過する状況であったため資料の残る過年度実績等集計した結果、地籍調査第5次計画（H12～H21）期間に誤った実績計上がなされていたと思われ、第7次計画（R2～）の残面積22.53km ² の調査完遂に向けて、実績調整を行った。
			実績	208.14	213.24	217.75				
	<指標の計算方法>		前年度末実施累計面積 + 当該年度実施済面積（地積測定確定後） + 19条5項指定済面積							
成果指標	調査面積に対する地籍調査の進捗率	%	目標	93.7	97.7	99.7	100		上記理由と同じ。	
		実績	93.9	96.2	99					
<指標の計算方法>		当該年度未完了済面積 ÷ 調査対象面積221.61km ²								
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	62,009			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	
				32,241			2,321	27,447		
事業の実績	①調査		・ 閲覧実施地区 5地区		・ 12,000円					
	・ 一筆地調査実施地区 2地区				⑥県地籍調査協議会負担金					
	②推進委員会運営		・ 新型コロナウイルス感染症予防対策のため書面開催		・ 10,000円					
	③閲覧・成果データ管理		・ 法務局からの土地の分・合筆の異動に伴う地籍情報管理システムへの反映（随時）							
	④全国国土調査協会負担金		・ 調査完了地区（登記完了）の地籍情報管理システムへ反映（4地区）		・ 36,000円					
⑤近畿ブロック国土調査推進連絡協議会負担金										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・ 所有者、利害関係人及びこれらの代理人の確認を得て調査すること、また調査に必要な個人情報を取り扱うことから、市が実施していくことが妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
・ 順調に地籍調査が推移し、成果の利用ができています。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	・ 外注方式により効率的に調査を実施した。									

事務事業の概要	事務事業名	登記事業		担当課	建設総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	415	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	1	土木管理費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
目		3	土地登記費	基本施策		1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	9	その他									
事業概要	市が取得した土地を市有名義として登記するために、所有権移転の手続きを行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	登記	⑤					⑨			
	②	相続調査	⑥					⑩			
	③		⑦					⑪			
	④		⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	地籍調査事業に基づく登記筆数	筆	目標						登記が完了したことにより市道等の境界が明確化し、所有権移転が円滑に実施できた。	
				実績	370	174	229				
	<指標の計算方法>		地籍調査完了地区における、道路・水路敷の所有権を市名義に移転登記した筆数								
	活動指標	道路改良事業等に伴う登記筆数	筆	目標						道路等の整備が進み、地域住民の利便性の向上に寄与することができた。	
				実績	318	382	320				
	<指標の計算方法>		道路事業等で所有権を市名義に移転登記した筆数								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	7,543			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	7,543	
事業の実績	①登記 ・地籍調査事業に基づく登記筆数：229筆 ・道路改良事業等に伴う登記筆数：320筆										
	②相続調査 ・道路改良事業に伴う所有者死亡による相続調査及び地籍調査事業における相続調査(随時)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・登記業務に関して、統一的な事務手続きを行うことができる。								
		評価結果	改善の余地がない ・本業務は他部署からの登記依頼もあり、市の土地に関する事務事業において必要不可欠である。								
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・地籍調査完了地区の道路や水路等の所有権移転登記業務を外注すれば、件数も相当数あり多額の費用が掛かるため、市が登記業務を行うことにより費用を抑制することができる。								

事務事業の概要	事務事業名	道路行政推進事業			担当課	建設総務課			事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1048				
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境							
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通							
		目	1	道路橋りょう総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備							
事業概要	市の計画的な道路行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業														
事務事業を構成する細事業	① 日本道路協会負担金			⑤ 県国道連絡会負担金			⑨								
	② 県高規格幹線道路建設促進委員会負担金			⑥ 県用地対策連絡協議会負担金			⑩								
	③ 県道路協会負担金			⑦ 県建設技術協会負担金			⑪								
	④ 県市町村道路整備促進期成同盟会負担金			⑧ 無電柱化を推進する市区町村長の会負担金			⑫								
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析						
	活動指標	総会参加回数	目標	5	5	5	5	5	幹線道路等の整備促進のためには、各団体への活動及び総会への参画は必要である。						
			実績	5	5	5	5	5							
	<指標の計算方法>		総会参加回数												
		目標													
		実績													
	<指標の計算方法>														
		目標													
		実績													
	<指標の計算方法>														
	目標														
	実績														
<指標の計算方法>															
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳											
	438			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	438					
事業の実績	①日本道路協会負担金 ・30,000円 国内外の道路の果たす多様な役割を通じて、国民生活に不可欠な道路政策のあり方を研究し、道路に関する知識の普及啓発に努め、道路及び交通の発達を推進し、もって公共の福祉の増進に寄与することを目的とする。			和歌山県の道路利用者の総意に基づき、道路整備を促進するとともに、道路交通の発展に寄与することを目的とする。			整及び損失補償に関する調査研究等を行い、もって公共用地取得の適正化とその円滑な推進に寄与することを目的とする。								
	②県高規格幹線道路建設促進委員会負担金 ・20,000円 近畿自動車道紀勢線、京奈和自動車道、東海南海自動車道、紀伊半島縦貫道等の早期整備を図るため、国等への要望活動を実施し、事業促進に必要な啓発等、目的達成に必要な事業を行い、もって本県産業経済の発展に寄与することを目的とする。			④県市町村道路整備促進期成同盟会負担金 ・12,000円 和歌山県内の市町村道の整備を推進するため、道路財源の確保、道路予算の拡大について活動を行うことを目的とする。			⑦県建設技術協会負担金 ・57,600円 建設関係施策の確立を促進するため、建設技術関係者の技術水準の向上とその処遇改善を図り、もって建設技術の向上発展に資することを目的とする。								
	③県道路協会負担金 ・270,100円 (管内県道等整備による事業費割)			⑤県国道連絡会負担金 ・23,000円 和歌山県内の地方道路の整備促進及びその適切な維持管理を支援することにより、快適な道路環境を実現し、住民の安全の確保、生活の安定向上を図ることを目的とする。			⑧無電柱化を推進する市区町村長の会負担金 ・3,000円 政府や民間等との連携・協力を図り、無電柱化のより一層の推進を進めることを目的とする。								
				⑥県用地対策連絡協議会負担金 ・22,500円 公共用地の取得に関し、会員相互間の連絡調											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・幹線道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は妥当である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
・幹線道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は有効である。															
効率性	評価結果	改善の余地がない													
	・幹線道路の整備促進についての要望活動及び総会への参画は効率的である。														

事務事業の概要	事務事業名	国・県道整備促進事業			担当課	建設総務課			事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	714			
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境						
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通						
		目	1	道路橋りょう総務費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備						
事業概要	市が国道・県道の整備を促進するために、関連団体への整備要望や活動に参画する事業													
事務事業を構成する細事業	①	整備促進・要望活動			⑤				⑨					
	②	県京奈和自動車道建設促進協議会負担金			⑥				⑩					
	③	県道整備期成同盟会補助金			⑦				⑪					
	④				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	活動指標	整備促進・要望活動回数	目標	回	3	3	3	3	3	・国道、県道の整備促進のためには、各団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。				
			実績		3	3	3							
	<指標の計算方法>		整備促進・要望活動回数											
		目標												
		実績												
	<指標の計算方法>													
	目標													
	実績													
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	3,168			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,168				
事業の実績	①整備促進・要望活動 京奈和自動車道、県道関係事業に関する要望活動の実施													
	②県京奈和自動車道建設促進協議会負担金 ・49,000円 京奈和自動車道の延伸及び4車線化を目指す団体。													
	③県道整備期成同盟会補助金 地域の福祉を増進するために、生活の根幹である県道の整備要望活動及び改修協力に対する補助金。 ・200,000円 県道かつらぎ桃山線大改修期成同盟会 野田原谷道路委員会													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・国、県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への参画は妥当である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・国、県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への参画は有効である。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・国、県道整備については、周辺自治体との連携が必要であり総会等への参画は効率的である。													

事務事業の概要	事務事業名	京奈和関空連絡道路整備促進事業			担当課	京奈和関空連絡道路推進室		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	713		
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境					
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1 都市基盤整備・公共交通					
		目	1 道路橋りょう総務費				基本施策	2 道路や橋梁などまちの基盤整備					
事業概要	市が京奈和関空連絡道路の早期事業化を目指すために、関係団体への要望活動及び事業認定を受けるための活動を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	整備促進・要望活動			⑤			⑨					
	②	京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会負担金			⑥			⑩					
	③	京奈和関空連絡道路調査業務委託			⑦			⑪					
	④				⑧			⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	要望活動回数	回	目標		3	3	4	4	4	府県間を繋ぐ高規格道路である本道路の整備促進のためには、関係機関への要望活動は必要不可欠である。		
				実績		0	0	4					
	<指標の計算方法>		要望活動回数										
	活動指標	総会開催回数	回	目標		1	1	1	1	1		同盟会規則に基づき会員市町村首長並びに議長出席による総会を年1回開催する。	
				実績		1	1	1					
	<指標の計算方法>		総会開催回数										
	活動指標	検討会開催回数	回	目標		1	1	1	1	1			本道路の整備効果を検証する検討会を年1回開催する。
				実績		1	1	1					
	<指標の計算方法>		検討会開催回数										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
2,491										2,491			
事業の実績	<p>①整備促進・要望活動 ・国会議員、国土交通省、近畿地方整備局、大阪府への要望活動を行った。</p> <p>②京奈和関空連絡道路建設促進期成同盟会 ・負担金 148,500円 ・総会（書面表決） ・啓発用物品作製（ポケットティッシュ作製）</p> <p>③京奈和関空連絡道路建設促進調査業務委託 ・調査業務委託費 本市負担金 1,591,975円</p> <p>委託業者による調査業務内容について、近畿地方整備局・ネクスコ西日本・大阪府・和歌山県・泉佐野市・紀の川市にて、ワーキング及び調査検討会を開催した。</p> <p>加盟22市町の商工会議所並びに商工会を賛助会員として勧誘活動をした。</p>												
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
・本道路構想実現に向けた要望活動は妥当である。													
有効性		評価結果	改善の余地がややある										
	<p>・本道路構想実現に向けた要望活動は有効である。</p> <p>・本道路構想実現に向けて、更なる広報活動を実施する必要がある。</p> <p>・本道路の整備効果検証を実施するには、専門知識を有するコンサルタントに委託することが適当である。</p>												
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・本道路構想実現に向けた要望活動は効率的である。												

事務事業の概要	事務事業名	市道等維持修繕事業			担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	92	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	2 道路橋りょう維持費				基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
事業概要	市道利用者が安全快適に利用できるように、市道の適切な維持管理や修繕を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市道維持修繕			⑤	道路付属施設管理			⑨			
	②	融解作業委託			⑥				⑩			
	③	道路管理清掃委託			⑦				⑪			
	④	舗装メンテナンス			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	草刈清掃業務路線数	路線	目標						草刈業務については、継続的に実施している。		
				実績		52	52	50				
	<指標の計算方法>		年間草刈業務及び清掃委託路線数									
	活動指標	要望による道路修繕箇所数	箇所	目標						緊急性の高いところから修繕を優先的に実施している。		
				実績		71	102	125				
<指標の計算方法>		地元要望による道路維持修繕箇所数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
344,348			30,390		150,600		958	162,400				
事業の実績	①市道維持修繕						⑤道路付属物施設管理					
	・道路修繕	125箇所	207,554,600円				・道路灯修繕	19件	790,350円			
	・維持修繕	37箇所	9,011,009円									
	・道路冠水警報装置	5箇所	11,600,000円									
②融解作業委託												
・融解作業	8件31路線	4,396,964円										
③道路管理清掃委託												
・草刈清掃業務	29件50路線	22,189,140円										
④舗装メンテナンス												
・【R3線】	工事(3路線)	20,958,300円										
・【R4】	工事(4路線)	36,040,400円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・委託と直営施工により市道の維持管理や修繕を行い、利用者が安全・快適に利用できるよう市が主体となり実施することは妥当といえる。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・市道の維持管理及び修繕をすることは、道路の安全性を高めるには有効である。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・維持管理や簡易修繕は会計年度任用職員で直営施工し、また発注する修繕については、工法選定によりコスト削減に努めることは効果的である。 ・簡易的な修繕については各支所で対応可能な範囲でお願いし作業効率の向上を図る必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名		橋りょう維持修繕事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業				
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	706		
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境					
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通					
		目	2 道路橋りょう維持費				基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備					
事業概要														
橋りょう利用者が橋りょうを安全に利用できるように、5年毎に点検を行い、その結果を基に修繕を行う事業														
事務事業を構成する細事業	① 橋りょう維持修繕			⑤			⑨							
	② 調査業務			⑥			⑩							
	③			⑦			⑪							
	④			⑧			⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析					
	活動指標	橋りょう点検箇所数	橋	目標	122	129	239	239	86	<p>目標通り点検を実施している。他事業で整備され点検の対象外となった橋梁もあり管理橋梁は、811橋となっている。定期点検(回/5年)は、平成30年で一巡し、令和元年度より二巡目の点検となっている。</p> <p>目標通り点検を実施している。他事業で整備され点検の対象外となった橋梁もあり管理橋梁は、811橋となっている。定期点検(回/5年)は、平成30年で一巡し、令和元年度より二巡目の点検となっている。</p> <p>橋梁点検により早期の対応が必要な橋梁から補修を実施している。</p>				
				実績	122	129	235							
	<指標の計算方法>		計画による橋りょう点検箇所数											
	活動指標	橋りょう点検進捗率	%	目標	25	41	71	100	11					
				実績	25	41	71							
	<指標の計算方法>		橋りょう点検に対する進捗率											
	活動指標	橋りょう修繕件数	橋	目標	2	3	3	2	3					
				実績	15	5	5							
	<指標の計算方法>		橋りょう点検に伴う修繕済み件数											
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源					
	187,751			99,638		75,200		5	12,908					
事業の実績	①橋りょう維持修繕 ・設計業務(R4)(2橋) 13,699,400円 (中津川橋・八幡橋) ・補修工事(R3繰越)(1橋) 17,793,200円 (上丹生谷西川原線3号橋) ・補修工事(R4)(4橋) 128,383,200円 (麻生津橋・突出川橋1号・突出川橋2号・松田橋)													
	②調査業務 ・橋梁定期点検(235橋) 27,875,100円													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・橋梁点検結果を基に個別施設計画を作成し修繕することで橋梁を安全に利用できるよう市が実施することは妥当といえる。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・橋梁点検結果を基に個別施設計画を作成し修繕を行うことは有効である。														
効率性	評価結果	改善の余地がややある												
	・橋梁の損傷を早期に発見し従来の対処療法的な維持管理から損傷が軽微な段階で予防的に対策を講じる予防保全型の維持管理を行うことで安全、安心を確保しつつライフサイクルコスト及び工法の検討によるコストの削減を図る。 ・延長5m以下の橋梁については、極力直営での点検を実施し経費削減に努める。													

事務事業の概要	事務事業名	主要幹線道路整備事業			担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	696	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境			
		項	2 道路橋りょう費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通			
		目	3 道路橋りょう新設改良費				基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備			
事業概要	市道利用者の利便性の向上を図るために、市道（主要幹線道路）の整備、改良を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市道東国分赤尾線			⑤					⑨		
	②	市道西野山平山線			⑥					⑩		
	③	市道丸85号線			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	市道東国分赤尾線道路整備率	%	目標	60	80	90	100			令和元年度より工事施工中であり令和5年度の完成を目指している。	
				実績	43	68	89					
	<指標の計算方法>		整備による進捗率									
	活動指標	市道東国分赤尾線(二工区)道路整備率	%	目標							令和5年度に詳細設計を実施し令和7年度より工事着手予定である。	
				実績								
	<指標の計算方法>		整備による進捗率									
	活動指標	市道西野山平山線道路整備率	%	目標					100		令和5年度の完成を目指している。	
				実績								
	<指標の計算方法>		整備による進捗率									
	活動指標	市道丸85号線道路整備率	%	目標							令和5年度に詳細設計を実施し令和7年度より工事着手予定である。	
				実績								
<指標の計算方法>		整備による進捗率										
コストの実績	R 4年度決算額(単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		105,820		54,368			34,600		5,361	11,491		
事業の実績	①市道東国分赤尾線											
	・【R3線】 工事 2件 54,160,200円											
	・【R4】 工事 2件 4,398,700円											
	用地 1件 5,539,900円											
補償 6件 29,221,974円												
(二工区) 委託 1件 1,125,300円												
②市道西野山平山線												
・【R4】 委託 1件 7,737,400円												
調査 1件 974,600円												
③市道丸85号線												
・【R4】 委託 1件 2,662,000円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・主要幹線市道を整備することにより利用者の利便性が大きく向上することから妥当といえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・主要幹線市道を整備するとともに歩道整備も視野に入れ計画することで歩行者の安全性が向上するため有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・コスト縮減に向けた部材、工法選定の検討が必要である。 ・国県の補助事業を活用し市の財政負担の軽減を図っている。											

事務事業の概要	事務事業名	市道等改良事業			担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	689	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	3	道路橋りょう新設改良費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
取組方針	2	市道の整備・充実										
事業概要	市道利用者の利便性、安全性の向上を図るために、市道の改良工事を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市道改良			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	市道改良箇所数		箇所	目標						継続的に事業実施されている。	
		実績	64		53	43						
	<指標の計算方法>		道路改良箇所数									
					目標							
					実績							
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	222,763			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	29,030		
事業の実績	①市道改良											
	・委託		14箇所	17,305,200円								
・工事		43箇所	175,984,600円									
・土地購入		10件	2,032,900円									
・補償		26件	19,912,755円									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生活道路的な市道を地元からの要望を基に事業を行っていることから、真に危険な箇所、不便な箇所は、利便性の向上を図る必要があり、市が事業主体になることは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・生活道路的な市道を地元からの要望を基に事業を行っていることから、真に危険な箇所、不便な箇所を改良することにより、利便性の向上を図っており有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・使用部材、工法選定を検討しコスト削減に努め、より多くの工事に対応し少しでも道路の安全性、通行性を向上させる。											

事務事業の概要	事務事業名	道路整備等補助事業			担当課	道路河川課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	694	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	3	道路橋りょう新設改良費		基本施策	2	道路や橋梁などまちの基盤整備				
取組方針	2	市道の整備・充実										
事業概要	市民の住生活の改善を図るために、自治区の集落道や排水路の改修への補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	道路整備等事業補助金			⑤				⑨			
	②	生活環境施設整備事業補助金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	補助金交付指令件数	件	目標						地元要望によりやや増加傾向にある。		
				実績	12	14	20					
	<指標の計算方法>		地元要望に対する補助金件数									
	活動指標	整備率	%	目標	100	100	100			要望に伴う整備工事については、目標通り実施、完成している。		
				実績	100	100	100					
	<指標の計算方法>		補助金交付に対する整備率									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
1,934										1,934		
事業の実績	①道路整備等事業補助金 ・補助金(50%) 12件 903,250円											
	②生活環境施設整備事業補助金 ・補助金(50%) 8件 1,031,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市道以外の集落道、集落排水については、地元(受益者)において機能管理しており住生活環境の向上を図る。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・自治区が事業主体で、毎年度申請があることもあり住生活環境の向上には有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・自治区が事業主体であり、コスト縮減に努め事業を効率的に進めるよう協議を行っている。											

事務事業の概要	事務事業名	交通安全施設整備事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	94	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	2	道路橋りょう費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	4	交通安全施設費		基本施策	4	防犯・交通安全対策の推進				
取組方針	2	交通安全施設の整備										
事業概要	市道利用者の安全確保を図るために交通安全施設の整備を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	交通安全施設整備			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	交通安全施設工事・修繕箇所数	箇所	目標						損傷の激しい箇所から随時修繕を実施している。		
				実績		134	147	117				
	<指標の計算方法>		交通安全施設の設置箇所数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		34,106		4,269		2,800				27,037		
事業の実績	①交通安全施設整備 ・工事、修繕 33,260,480円 カーブミラー 74箇所 防護柵 13箇所 区画線 23箇所 グリーンベルト 6箇所 道路灯 1箇所											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市道利用者の安全性を図るため交通安全施設の整備を市が実施することは妥当といえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・日常的な業務内での道路パトロールにより、施設の老朽化、損傷を早期に発見、修繕し安全性の向上を図ることは有効である。 ・施設の損傷度、緊急度、地域性を基に整備することは有効といえる。 ・全ての施設について、状態把握出来ないことから地区からの要望を受け確認施工することは有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・ミラー取替等、簡易な施工については、会計年度任用職員で施工することによりコスト縮減にもなり早急に対応できている。											

事務事業の概要	事務事業名	国・県河川行政推進事業			担当課	建設総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	95
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯			
	目	1	河川総務費	基本施策		3	災害に強いまちの形成				
事業概要	計画的な河川行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業										
事務事業を構成する細事業	①	日本河川協会負担金			⑤				⑨		
	②	紀の川改修促進期成同盟会負担金			⑥				⑩		
	③	紀の川水質汚濁防止連絡協議会			⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	総会参加回数	回	目標	1	1	1	1	1	河川整備事業の促進のためには、本団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。	
				実績	1	1	1	1	1		
	<指標の計算方法>		総会参加回数（和歌山県河川協会）								
	活動指標	総会参加回数	回	目標	1	1	1	1	1	紀の川整備事業の促進のためには、本団体への要望活動及び総会への参画は必要不可欠である。	
				実績	1	1	1	1	1		
	<指標の計算方法>		総会参加回数（紀の川改修促進期成同盟会）								
	活動指標	総会参加回数	回	目標	1	1	1	1	1	紀の川水質汚濁防止のためには、本団体総会への参画は必要不可欠である。	
				実績	1	1	1	1	1		
	<指標の計算方法>		総会参加回数（紀の川水質汚濁防止連絡協議会）								
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	167			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①日本河川協会負担金 ・119,000円 治水利水防災事業の促進を図ることを目的とする。			・佐川改修事業に関する協議 ・紀の川改修100周年イベントに向けて準備会							
	②紀の川改修促進期成同盟会負担金 ・48,000円 紀の川改修の促進を期し、流域住民が洪水による災禍を永遠に被らないよう努めることを目的とする。										
③紀の川水質汚濁防止連絡協議会 協議会内で水質汚濁による情報共有することで早期対応を目的とする。											
その他各種事業に関する協議・要望 ・藤崎狭窄部対策事業に関する協議・調整 ・麻生津無堤防地区に関する協議・調整 ・貴志川浚渫要望 ・海神川土砂埋め立てに関する協議・調整											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・総会等の参画に関しては、会員市としての責務であるため妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・個別事業に関する要望や協議事案については、専門的知識が有する人材配置が有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・国、県においては、河川整備計画に基づき事業を実施しているため効率性がある。										

事務事業の概要	事務事業名		砂防行政推進事業				担当課	建設総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1050
	予算科目	款	8 土木費				長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	3 河川費					施策目標	1	防災・防犯			
		目	1 河川総務費					基本施策	3	災害に強いまちの形成			
事業概要		砂防行政の推進を図るために、関連団体の活動に参画する事業											
事務事業を構成する細事業		①	砂防行政事業				⑤					⑨	
		②	全国治水砂防協会負担金				⑥					⑩	
		③					⑦					⑪	
		④					⑧					⑫	
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	活動指標	総会参加回数	回	目標	1	1	1	1	1	土砂災害から市民の生命、財産を守るため、国や県と連携して防火機能の強化を図るため、総会等に参画する。			
			実績	1	1	1							
	<指標の計算方法>		総会参加回数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	151			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			151										
事業の実績	①砂防行政事業 全国治水砂防協会総会へ参加することで、治水・砂防施設の整備促進に向け関係省庁に対して要望活動を展開。												
	②全国治水砂防協会負担金 ・151,000円 和歌山県が実施する管内砂防整備事業について負担金として負担するもの。 細野地区砂防事業地元調整												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・治水砂防事業については、市民生活の安全性が向上されると見込まれるため妥当である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・治水砂防事業に伴う協議等については、専門的知識を有する職員の配置が有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・治水砂防事業については、市民生活の安全性が向上されるため効率的である。												

事務事業の概要	事務事業名		県営急傾斜地崩壊対策事業			担当課	建設総務課		事業区分	ハード事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1141
	予算科目	款	8	土木費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	3	河川費			施策目標	1	防災・防犯			
		目	1	河川総務費			基本施策	3	災害に強いまちの形成			
事業概要		急傾斜地崩壊対策として和歌山県が実施する事業に対し、市が費用を負担する事業										
事務事業を構成する細事業		①	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金		⑤					⑨		
		②			⑥					⑩		
		③			⑦					⑪		
		④			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金比率	%	目標						和歌山県急傾斜地崩壊危険地区に指定された地区に事業実施に伴う負担金5%を担う。		
				実績		5	5	5				
	<指標の計算方法>		全体事業費×負担率									
	活動指標	県営急傾斜地崩壊対策事業負担金比率	%	目標						和歌山県急傾斜地崩壊危険地区に指定された地区に事業実施に伴う負担金10%を担う。		
				実績		10	10	10				
	<指標の計算方法>		全体事業費×負担率									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	10,340			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	740		
事業の実績	①県営急傾斜地崩壊対策事業負担金											
	<ul style="list-style-type: none"> ・平野地区（法枠工） <ul style="list-style-type: none"> 事業費 42,000,000円 負担金 2,100,000円(5%) ・寺長地区（法面工） <ul style="list-style-type: none"> 事業費 82,400,000円 負担金 8,240,000円(10%) 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		和歌山県が急傾斜地崩壊危険地区として指定した地区について、対策事業に対する負担金であり妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
和歌山県が急傾斜地崩壊危険地区として指定した地区について、対策事業に対する負担金であり有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	和歌山県が急傾斜地崩壊危険地区として指定した地区について、対策事業に対する負担金であり効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	県営小規模土砂災害対策事業			担当課	建設総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1142	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	1	河川総務費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
取組方針	2	土砂災害防止対策の推進										
事業概要	小規模土砂災害対策として和歌山県が実施する事業に対し、市が費用を負担する事業											
事務事業を構成する細事業	①	県営小規模土砂災害対策事業負担金			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	県営小規模土砂災害対策事業負担金比率	%	目標						県営小規模土砂災害対策事業に採択された地区の事業実施にあたり、地元負担金10%を担う。		
				実績	10	10	10					
	<指標の計算方法>		全体事業費×負担率									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	650			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	650		
事業の実績	①県営小規模土砂災害対策事業負担金											
	<ul style="list-style-type: none"> 北山地区（ブロック積工） <ul style="list-style-type: none"> 事業費 6,500,000円 負担金 650,000円(10%) 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・小規模土砂災害対策事業に対する負担金であり妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・小規模土砂災害対策事業に対する負担金であり有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・小規模土砂災害対策事業に対する負担金であり効率的である。											

事務事業の概要	事務事業名	河川管理保全事業			担当課	道路河川課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	687	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	2	河川管理費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
取組方針	1	治水対策の推進										
事業概要	市が治水機能の維持と水辺環境の美化保全を図るために、河川、河川公園の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	河川愛護・美化保全			⑤					⑨		
	②	河川管理事務			⑥					⑩		
	③	河川公園管理			⑦					⑪		
	④	河川管理保全			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	河川一斉清掃参加人数	人	目標						新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により清掃活動を中止。		
				実績								
	<指標の計算方法>		河川一斉清掃参加人数									
	活動指標	河川維持管理件数	件	目標						2箇所の新設工事を実施した。 4箇所の改修工事を実施した。		
				実績	12	9	6					
	<指標の計算方法>		河川維持管理件数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	21,698			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,798		
事業の実績	①河川愛護・美化保全 ・河川一斉清掃 (新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により中止)											
	②河川管理事務 ・(許認可事務・法令に基づく規制等)											
	③河川公園管理 (3河川公園) ・草刈清掃											
	④河川管理保全 ・準用河川 浚渫 (1河川) 489,500円 ・普通河川 浚渫 (1河川) 3,168,000円 ・普通河川 改修 (4河川) 16,193,100円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・河川掃除を通じ、市民の水辺環境の美化保全を考えてもらう。 ・準用河川、普通河川を維持管理することは、防災の目的をするうえで妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・河川掃除の開催時期を河川愛護月間に合わせることで、より多く市民に携わっていただいている。 ・堆積土の浚渫や河川構造物の修繕することには、治水上有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・費用的にはボランティア清掃であるため、過大費用でない事業である。 ・市内の全河川は、国県の管理河川に流れ込んでいることから、国県の河川維持管理が必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	急傾斜地崩壊対策事業			担当課	道路河川課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	682	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	3	河川費		施策目標	1	防災・防犯				
		目	2	河川管理費		基本施策	3	災害に強いまちの形成				
事業概要	市民の安全性を確保するために、急傾斜対策を行った施設の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	急傾斜地管理（調月北部）			⑤				⑨			
	②			⑥					⑩			
	③			⑦					⑪			
	④			⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	急傾斜地の維持管理箇所数	箇所	目標	1	1	1	1	1	調月北部の急傾斜対策済箇所について維持管理を行っている。		
				実績	1	1	1					
	<指標の計算方法>		急傾斜地の維持管理箇所数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,264			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		1,264	
事業の実績	①急傾斜地管理（調月北部） ・草刈業務 1,263,900円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・民地や公共施設に影響を及ぼす可能性がある急傾斜対策済箇所の維持管理を市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・急傾斜対策済箇所の除草をすることで法面の状態を把握するには有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・急傾斜対策済箇所の除草をすることで法面を適正に管理されている。											

事務事業の概要	事務事業名	都市計画推進事業			担当課	都市計画課		事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	681		
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境					
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通					
		目	1	都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備					
取組方針	4	計画的な都市基盤整備の推進											
事業概要	市の計画的な都市計画行政の推進を図るために、関連団体の運営や活動に参画する事業												
事務事業を構成する細事業	①	都市計画審議会運営			⑤	屋外広告物管理			⑨				
	②	全国都市計画協会負担金			⑥				⑩				
	③	全国都市計画街路事業促進協議会負担金			⑦				⑪				
	④	県都市計画協会負担金			⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	都市計画審議会開催件数	件	目標	1	1	1	1	1	都市計画審議会開催件数は、計画案件の有無により変動する。			
				実績	0	2	1						
	<指標の計算方法>		都市計画審議会開催件数										
	成果指標	屋外広告物の更新率	%	目標	80	80	80	80	80			郵送で更新依頼し申請が来なかった者に対して、電話等で再度更新手続きをお願いし更新率の向上につなげた結果、令和4年度は100%達成できている。	
				実績	91	88	100						
	<指標の計算方法>		更新した件数÷更新予定件数（除却件数は除く）										
	活動指標			目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	1,897			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			838							1,059			
事業の実績	<p>①都市計画審議会運営 ・都市計画道路一部変更に伴う審議のため開催。ただし、コロナ禍により戸別訪問で意見を聴取した。</p> <p>②全国都市計画協会負担金 ・全国都市計画協会事業費を負担した。</p> <p>③全国都市計画街路事業促進協議会負担金 ・全国都市計画街路事業促進協議会事業費を負担した。</p> <p>④県都市計画協会負担金 ・和歌山県都市計画協会事業費を負担した。</p> <p>⑤屋外広告物管理 ・屋外広告物の各種届出を審査し、許認可事務を行った。 ・違反広告物の簡易除却、パトロールを実施した。</p>												
	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		<ul style="list-style-type: none"> ・住み良い都市環境の整備をするには、市以外が実施主体になりえない事務事業であるため妥当性がある。 ・違反広告物の減少により、良好な景観を形成している。（屋外広告物） 											
		評価結果	改善の余地がない										
	有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画の案件に対して、都市計画審議会を開催し、審議会委員の意見を聴取することは有効性がある。 ・屋外広告物の許可申請書の審査や違反広告物のパトロールを行うことにより、良好な景観を守ることが有効性がある。 											
評価結果		改善の余地がない											
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画審議会の審議により、都市計画行政をすすめることは、効率性がある。 ・屋外広告物の許可の更新依頼を郵送で行うことにより、問合せや相談に要する時間が短縮できている。 												
	評価結果	改善の余地がない											

事務事業の概要	事務事業名	開発指導事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業				
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	677			
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境						
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通						
		目	1	都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備						
事業概要	市民に住みよいまちを提供するために、開発事業者に適正な開発指導を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	開発計画審議会運営			⑤				⑨					
	②	開発指導			⑥				⑩					
	③				⑦				⑪					
	④				⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	活動指標	無届開発摘発件数	件	目標	0	0	0	0	0	令和4年度も特に摘発するものがなかった。				
				実績	0	0	0							
	<指標の計算方法>		無届開発摘発件数											
	活動指標	開発審議会開催件数	件	目標	2	2	2	2	2			令和4年度は、2回の開催だった。		
				実績	3	1	2							
	<指標の計算方法>		開発審議会開催件数											
			目標											
			実績											
<指標の計算方法>														
			目標											
			実績											
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	243			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	243				
事業の実績	①開発計画審議会運営 ・審議会の運営を実施した。													
	②開発指導 ・紀の川市開発指導要綱及び宅地造成等規制法に基づく技術的指針を遵守し、適正な住宅地等の開発指導を行った。 令和4年度 開発許可 4件 開発協議 20件													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・無秩序な開発事業を防止し、適正な住宅地等の開発の指導を行うことは、妥当性がある。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・開発許可申請に対して、開発審議会を開催し、審議会委員の意見を聴取することは有効性がある。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・秩序あるまちづくりの形成のためには、事業者に対して開発指導を行うことは効率性がある。													

事務事業の概要	事務事業名	都市施設管理運営事業			担当課	都市計画課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	680	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	4	都市計画費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	都市計画総務費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	4	計画的な都市基盤整備の推進										
事業概要	市民が都市施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	JR粉河駅周辺都市施設管理			⑤				⑨			
	②	防犯カメラ管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	管理不十分による問い合わせ件数		件	目標	0	0	0	0	0	施設の点検・修繕等、事前の対応をしていたため、管理不十分による問い合わせがなかった。	
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		問い合わせ件数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,006			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,006		
事業の実績	①JR粉河駅周辺都市施設管理 ・植栽の手入れを適切な時期に行った。 ・トイレの日常管理を行った。											
	②防犯カメラ設置 ・防犯カメラを適正に管理した。 粉河駅南トイレ付近 1箇所 南北地下連絡道入口付近 2箇所											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民が安全・安心に暮らすためには、必要な事業であり、植栽の管理は、メンテナンスが必要な観点から継続して行う必要があるため妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・JR粉河駅周辺都市施設を管理することにより、市民が通行する際の安全面を確保することができ、有効性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・粉河駅南の植栽管理や、トイレの日常管理を民間委託しているため効率性がある。											

事務事業の概要	事務事業名	都市公園管理運営事業			担当課	都市計画課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	101	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	4 都市計画費				施策目標	1 都市基盤整備・公共交通				
		目	2 都市公園費				基本施策	1 土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
事業概要	市民が都市公園を安全で快適に利用できるように、都市公園の適切な維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 西井阪公園（南児童公園）施設管理		⑤ 王子公園施設管理		⑨							
	② 東国分公園（中児童公園）施設管理		⑥ 名手公園施設管理		⑩							
	③ 古和田公園（北児童公園）施設管理		⑦ 粉河河南緑地公園施設管理		⑪							
	④ 秋葉山公園施設管理		⑧ 平池緑地公園施設管理		⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	管理不足での事故件数	目標	0	0	0	0	0	遊具の安全点検や防護柵の設置等安全面を重視した管理を行った結果、事故なく管理ができた。			
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		事故件数									
			目標									
<指標の計算方法>												
		目標										
<指標の計算方法>												
		目標										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	28,632			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	9 27,423		
事業の実績	①～⑧各公園施設管理 ・施設、器具の修繕をした。 ・植木、トイレ、防犯カメラ等の日常管理を適切に行った。 【防犯カメラ設置場所】 古和田公園（北児童公園）トイレ付近1箇所 東国分公園（中児童公園）トイレ付近1箇所 西井阪公園（南児童公園）トイレ付近1箇所 秋葉山公園 トイレ付近1箇所 平池緑地公園 トイレ付近2箇所 【上記以外の実績】 ①・②・⑤・⑧の施設管理について、区長の要望を受け、木が生い茂り、公園維持管理や近隣の住民に支障をきたしてくる恐れがあるため、高木を剪定及び根元から伐採した。 ④秋葉山公園施設管理 ナラ枯れ発生に伴い、樹木を伐採した。 ⑦粉河河南緑地公園施設管理 ・公園の面積を明確にするため測量した。			⑧フェンス設置工事を行い、近隣環境の保全及び安全性を高めた。								
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・自治会や地域の人々に、維持管理を委託することは妥当である。								
有効性		評価結果	改善の余地がない ・自治会や地域の人々に、維持管理を委託することによって、より住民ニーズに合った事業内容にすることができている。									
効率性		評価結果	改善の余地がない ・自治会や地域の人々に、維持管理を業務委託することによって、コスト効率性は高いと考える。									

事務事業の概要	事務事業名		都市公園活性化事業				担当課	都市計画課		事業区分	ソフト事業						
	会計		一般会計				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	837				
	予算科目	款	8	土木費				政策目標	4	都市基盤・生活環境							
		項	4	都市計画費				施策目標	1	都市基盤整備・公共交通							
		目	2	都市公園費				基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備							
事業概要		市民の都市公園利用の促進を図るために、都市公園でイベント開催等を行う事業															
事務事業を構成する細事業	① 貴志川イルミネーション実行委員会		⑤				⑨										
	② 大賀ハス観蓮会実行委員会		⑥				⑩										
	③		⑦				⑪										
	④		⑧				⑫										
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析								
	活動指標	イベント開催回数	回	目標	2	2	2	2	2	令和4年度は、観蓮会については新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止となったが、貴志川イルミネーションについては開催した。（ただし、式典は中止。）							
			実績	0	0	1											
	<指標の計算方法>		イベント開催回数														
			目標														
			実績														
	<指標の計算方法>																
		目標															
		実績															
<指標の計算方法>																	
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳													
	487			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源								
			487														
事業の実績	①貴志川イルミネーション実行委員会 ・実行委員会を軸に貴志川イルミネーションの開催をした。ただし、式典は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となった。																
	②大賀ハス観蓮会実行委員会 ・実行委員会を軸に大賀ハス観蓮会の開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、中止となった。																
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない														
		・実行委員会に運営の主体において、行政側がサポートすることは、イベントの本質から鑑み妥当性がある。															
	有効性	評価結果	改善の余地がない														
・都市公園でイベントを開催することにより、幅広い年齢層の人々が都市公園に関心を示し、来場されることで紀の川市の魅力、関心が高まることは有効である。																	
効率性	評価結果	改善の余地がない															
	・実行委員会に運営の主体において、行政側がサポートすることは、イベントの本質から鑑み効率性がある。																

事務事業の概要	事務事業名	運動公園管理運営事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	873	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	4	都市計画費		施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		目	3	運動公園費		基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実				
取組方針	2	スポーツ施設の充実と適切な管理										
事業概要	市民が運動公園施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	桃源郷運動公園陸上競技場施設管理			⑤	市民公園(打田若もの広場)施設管理			⑨	市民公園(トレーニングルーム)施設管理		
	②	愛宕池公園施設管理			⑥	市民公園(市民プール)施設管理			⑩			
	③	粉河運動場施設管理			⑦	市民公園(テニスコート)施設管理			⑪			
	④	市民公園(市民体育館)施設管理			⑧	市民公園(ゲートボール場)施設管理			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	年間利用者数	人	目標	193,000	195,000	198,000	198,000	198,000	新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた利用者数は回復傾向にある。		
				実績	129,221	147,179	159,176					
	<指標の計算方法>		運動公園施設全体の年間利用者数									
	活動指標	施設使用料	円	目標	9,952,000	9,952,000	3,452,000	3,500,000	3,500,000	市民公園(市民体育館ほか)施設使用料が指定管理者の収入となっているため、結果的に施設使用料収入は減少した(指定管理分の使用料収入は「事業の実績」参照)。		
				実績	7,308,110	5,787,900	2,717,020					
	<指標の計算方法>		運動公園施設の使用料									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
	167,626			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	7,000	その他	2,717	一般財源	157,909
事業の実績	施設利用状況			⑤市民公園(打田若もの広場)施設管理								
	①桃源郷運動公園陸上競技場施設管理 ・サッカー 113件 12,914人 ・陸上 139件 5,541人 ・その他 3件 270人			501件 16,689人								
②愛宕池公園施設管理 ・多目的グラウンド 155件 3,815人 ・テニスコート 0件 0人 ・ゲートボール場 0件 0人			⑥市民公園(市民プール)施設管理 6,688人									
③粉河運動場施設管理 ・野球場 235件 9,446人 ・ソフトボール場 162件 12,049人 ・多目的広場 155件 5,233人 ・テニスコート 293件 2,428人			⑦市民公園(テニスコート)施設管理 2,718件 15,326人									
④市民公園(市民体育館)施設管理 2,161件 50,642人			⑧市民公園(ゲートボール場)施設管理 74件 697人									
			⑨市民公園(トレーニングルーム)施設管理 17,438人									
			※④～⑨はR4.4.1から指定管理者による施設運営を実施 指定管理分利用者数:107,480人 指定管理分使用料収入:6,500,055円									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・市が管理運営する施設については、環境を整え備品や設備等の充実を図り、適正な管理が必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・安全で快適に利用できる施設を目指し、市民ニーズを的確に把握していく必要があるため、利用者アンケート等を実施する。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・利用者数の増加と運営効率の観点から、令和4年度から市民公園施設に指定管理者制度を導入している。他の施設についても、民間活力導入の可能性について検討する余地がある。 ・施設使用料の減免にかかる市の統一基準を精査し、令和7年4月からの運用に向け利用者や関係団体に周知していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅施設管理事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	655	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	5	市営住宅の適正管理										
事業概要	市営住宅入居者が快適に市営住宅を利用できるように、施設管理や入居者管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	市営住宅施設管理			⑤					⑨		
	②	入居者管理			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	修繕戸数	戸	目標						適正な施設の維持管理が行えている。受動的な業務が多く目標設定することにはそぐわない。		
				実績	84	90	104					
	<指標の計算方法>		修繕戸数									
	活動指標	公募戸数	戸	目標	3	3	9	7	4	9戸を公募し、12件の申し込みがあった。市営住宅に対する需要があることがうかがえる。		
				実績	3	3	9					
	<指標の計算方法>		公募戸数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
	79,726				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	19,188 60,538	
事業の実績	①市営住宅施設管理 ・適正な施設の維持管理を行い、不具合等については修繕対応を行った。 修繕箇所 97件実施。 公募用住宅の修繕 7件実施。											
	②入居者管理 ・9戸の公募を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市営住宅に対するニーズは少なからずある。住宅に困窮している低額所得者のためのものであり、修繕していくことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・一定数の公募をする必要があると思うが、住宅に困窮している低額所得者のための住宅確保は目的であるため、必ずしも入居者数が増えることが有効性を示すものでない。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・施設管理の一部に関して、業務分担や委託をするなど検討の余地はある。											

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅解体整備事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1046	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	5	市営住宅の適正管理										
事業概要	市民が市営住宅を今後も利用できるように、解体整備を計画的に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	下野井公営住宅解体			⑤				⑨			
	②	井田公営住宅解体			⑥				⑩			
	③	城山南公営住宅解体			⑦				⑪			
	④	応神公営住宅解体			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	市営住宅解体	棟	目標	1	0	3	2	2	後田公営住宅3棟の解体を実施。		
				実績	1	0	3					
	<指標の計算方法>		解体棟数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	9,787			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	587		
事業の実績	①後田公営住宅解体 ・3棟5戸分の解体工事を行い、跡地を整備した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・老朽化し使用されない市営住宅については、解体、整地を行っていく必要があり妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・建築分野の知識を持った職員を配置し、適正な解体業務を行っている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・老朽化及び耐震性能の不足による解体のため、コスト削減は難しいと考える。											

事務事業の概要	事務事業名	住宅用地管理運営事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	419	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
事業概要	旧町において販売した住宅用地にかかる債権の管理・徴収を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	住宅用地管理			⑤				⑨			
	②	徴収			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	売買金の徴収金額	円	目標	1,966,000	1,730,000	1,730,000	1,030,000	1,030,000	目標額1,730,000円に対して、1,680,000円集金した。		
				実績	1,741,000	1,916,000	1,680,000					
	<指標の計算方法>		個別の徴収金額の積上げ									
	成果指標	売買金の残額	円	目標	17,222,000	15,717,000	13,801,000	12,821,000	1,179,000	毎月契約者を訪問し、納付指導している。		
				実績	17,447,000	15,531,000	13,851,000					
	<指標の計算方法>		個別の残額の積上げ									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	80			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	80		
事業の実績	①住宅用地管理 ・契約金額完済 2件。											
	②徴収 ・契約金未納9件の内、6名から集金。 1. 40,000円 2. 450,000円 3. 600,000円 4. 100,000円 5. 250,000円 6. 240,000円 計 1,680,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・同和対策事業に関連して立ち退き等を余儀なくされた地権者への土地販売であることから妥当である。									
		評価結果	改善の余地がややある ・契約者の死亡など解決困難な懸案が残っているが、適正な解決・事業終了を図るべき方策を立てることが有効である。									
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・費用の大半が人件費となっているので、早期に事業を終了させることが一番の費用削減になるが内部事情に精通している人員を配置することは適正である。									

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅使用料等徴収事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	657	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	5	市営住宅の適正管理										
事業概要	市営住宅入居者の公平性を確保し、市営住宅の適正管理を行うために、住宅使用料の適正な徴収を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	住宅管理指導員設置			⑤				⑨			
	②	徴収			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	市営住宅 (現年) 収納金額	千円	目標	4,920	4,589	3,644	3,644	3,644	新たな滞納をつくらないように指導する。		
				実績	4,433	4,000	3,489					
		<指標の計算方法>	実績を元に計算									
	活動指標	市営住宅 (過年) 収納金額	千円	目標	336	303	157	156		新たな滞納をつくらないように指導し、滞納分は分納計画などにより納付してもらう。		
				実績	183	106	162					
		<指標の計算方法>	実績を元に計算									
	活動指標	改良住宅 (現年) 収納金額	千円	目標	26,601	25,097	23,532	23,532	23,532	新たな滞納をつくらないように指導する。		
				実績	25,733	22,503	23,497					
		<指標の計算方法>	実績を元に計算									
	活動指標	改良住宅 (過年) 収納金額	千円	目標	964	1,084	1,946	1,930		新たな滞納をつくらないように指導し、滞納分は分納計画などにより納付してもらっているが、実績が目標を下回っている。		
				実績	1,928	1,852	516					
<指標の計算方法>		実績を元に計算										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位:千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			3,546							3,546		
事業の実績	①住宅管理指導員設置 ・住宅管理指導員1名を配置して、助言をもらった。											
	②徴収 ・駐車場使用料 1,796,800円 ・市営住宅使用料 3,652,000円 ・改良住宅使用料 24,013,730円 を徴収しました。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・住宅に困窮している低所得者に住宅を提供しているため妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・他の料金を徴収している部課があるので、連携することも可能である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・入居者の大半が低所得者で、収納状況の変化による家賃納付の相談が多いことから、コストを最小限に抑えて運営しており、市が実施することが適正である。											

事務事業の概要	事務事業名	建築指導事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1070			
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境							
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通							
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備							
	取組方針	2	良好な居住環境の形成												
事業概要	市民に無秩序な建築等が防止された住みよいまちに居住してもらうために、市民（施工事業者）からの建築確認申請等の審査や受付を行なう事業														
事務事業を構成する細事業	①	建築確認審査			⑤					⑨					
	②				⑥					⑩					
	③				⑦					⑪					
	④				⑧					⑫					
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析					
	活動指標	建築確認申請経由進達	件	目標							建築確認申請の審査を的確に行うことで、速やかに経由進達が出来た。民間検査機関へ申請が普及してきたため、本市への経由進達数は減少しているとともに、受動的業務であるため、目標を設定することはそぐわない。				
			実績		235	123	42								
	<指標の計算方法>		経由進達件数												
			目標												
			実績												
<指標の計算方法>															
		目標													
		実績													
<指標の計算方法>															
		目標													
		実績													
<指標の計算方法>															
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳											
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源						
		2,522								2,522					
事業の実績	①建築確認審査 ・建築確認申請等が紀の川市の各種規制に適合しているか審査して、建築主事に経由進達した。														
	経由進達42件														
	また、進達と同等事務内容の民間検査機関からの照会書についても本市の各種規制に適合しているか審査して回答した。 照会書回答238件														
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない												
		・建築確認申請内容が、紀の川市各種規制に適合しているか審査し、建築主事に進達する事業である。													
	有効性	評価結果	改善の余地がない												
・建築主事を補うため、市内各種規制の情報を提供している。															
効率性	評価結果	改善の余地がない													
	・建築主事を補うため、市内各種規制の情報を提供している。														

事務事業の概要	事務事業名	住宅耐震化促進事業			担当課	住宅政策課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	673	
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	5 住宅費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	1 住宅費				基本施策	3 災害に強いまちの形成				
取組方針				4 住宅耐震化の促進								
事業概要	市民が耐震基準の満たされた住宅に居住できるように、耐震基準を満たさない民間住宅の耐震化の促進と診断、改修に対する補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	木造住宅耐震診断事業			⑤			⑨				
	②	住宅耐震改修事業補助金交付事業			⑥			⑩				
	③	耐震化促進啓発			⑦			⑪				
	④	判定士研修・育成			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	木造住宅耐震診断件数	件	目標	60	60	60	60	60	国、県の補助金等を活用し、県建築士会に業務委託して耐震診断実施が46件あったが、令和3年度の実績数より少なかった。		
			実績	55	54	46						
	<指標の計算方法>		件数									
	成果指標	住宅耐震改修事業費補助	件	目標	20	20	20	20	20	国、県の補助金等を活用して、耐震補強設計と耐震改修工事の総合的な実施が12件あったが、令和3年度の実績数より少なかった。		
			実績	13	21	12						
	<指標の計算方法>		補助件数									
活動指標	戸別訪問	件	目標	350	350	350	350	350	県、建築士会と協力して耐震化について啓発し、補助制度を利用した耐震化促進に繋げている。令和4年度の実施件数は、新型コロナウイルス感染症の影響により戸別訪問を延期したため、令和3年度より減少した。			
		実績	114	91	80							
<指標の計算方法>		訪問戸数										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			16,318	9,682	4,814					1,822		
事業の実績	<p>①木造住宅耐震診断事業 ・県建築士会への委託により、診断士を派遣して、申請者に診断結果を報告した。</p> <p>②住宅耐震改修事業補助金交付事業 ・耐震補強設計、耐震改修工事の補助金の交付した。</p> <p>③耐震化促進啓発 ・県、県建築士会の協力のもと戸別訪問、及び広報による啓発を実施した。</p> <p>④判定士研修・育成 ・危険度判定士を育成に努めた。 県被災宅地危険度判定士養成講習会に1名参加。 県地震被災建築物応急危険度判定士認定講習会に1名参加。</p>											
	事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			<ul style="list-style-type: none"> 国、県の交付金や補助金を活用しての事業実施であり、市が実施主体となり継続的に進めることが妥当である。 危険度判定士の講習会等は、県が主体となって行われるため、改善の余地ない。 									
			評価結果	改善の余地がない								
事業の事後評価	有効性	<ul style="list-style-type: none"> 補助制度を活用した耐震診断、耐震改修を行うことで、耐震化が図られている。 										
		評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 会計年度任用職員による訪問啓発、技術職員による検査対応ができています。 										
事業の事後評価	効率性	評価結果	改善の余地がない									
		<ul style="list-style-type: none"> 会計年度任用職員による訪問啓発、技術職員による検査対応ができています。 										

事務事業の概要	事務事業名	空家等対策事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	678
	予算科目	款	8 土木費			長期総合計画体系	政策目標	4 都市基盤・生活環境				
		項	5 住宅費				施策目標	1 都市基盤整備・公共交通				
		目	1 住宅費				基本施策	1 土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	2 良好な居住環境の形成											
事業概要	空家の倒壊による事故を防ぎ、景観、環境面の保全を図るために、空家所有者に空家の適正管理等を促す事業											
事務事業を構成する細事業	①	空家等対策協議会運営			⑤					⑨		
	②	空家等指導			⑥					⑩		
	③	特別措置法に基づく措置			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	空家除却件数	戸	目標	1	1	1	1	1	除却に限らず、適正な管理に努めるよう助言・指導を行う。建材の飛散防止などの対応がされている場合もある。		
				実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		危険性の高い空家等の除却件数									
	活動指標	特別措置法に基づく指導件数	件	目標	5	5	5	5	5	特定空家の所有者に対して、特別措置法に基づく段階的な指導を行う。助言・指導4件、勧告1件		
				実績	5	5	5					
	<指標の計算方法>		指導等の件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	182			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	182		
事業の実績	①空家等対策協議会運営 ・協議会において、法に基づく段階的な措置の実施について協議した。											
	②空家等指導 ・空家等の所有者等に対し、修繕、除却などの対応をとるように助言・指導を行った。											
	③特別措置法に基づく措置 ・特定空家の所有者等に対して、法に基づく「助言・指導」、「勧告」を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・特別措置法に基づく措置等、市が実施主体となることが妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・市からの助言で対応に至ることがあり、行政からの助言・指導は有効的な手段である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・コスト削減の余地がない。											

事務事業の概要	事務事業名	住宅新築資金等貸付事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1217	
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
取組方針	9	その他										
事業概要	歴史的・社会的理由によって、生活環境等の安定向上が阻害されている地域の住環境改善対策の一環として、住宅の改修や住宅新築促進のため、国の施策に基づき市が貸し付けた資金の収納事務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	住宅新築資金等貸付			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名	単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	住宅新築資金等貸付収納率	%	目標			3	3	3	残債については債務者の事情により納付が困難な事案への対応が大半を占めている状態である。		
				実績			2.53					
	<指標の計算方法>		収納額÷調定額×100									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,663			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,228		
事業の実績	①住宅新築資金貸付 ※令和3年度まで住宅新築資金等貸付事業特別会計で実施してきた事業であるが、令和4年度より一般会計で事業を実施している。											
	【内訳】											
	住宅新築資金（国費）収納率 3.41%											
	住宅新築資金（県費）収納率 0.49%											
	宅地取得資金（国費）収納率 1.84%											
住宅改修資金（国費）収納率 0.16%												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・当該事業は、市町村の負担を軽減し貸付事業の円滑な実施を目的として国と県が財政的な助成を行う制度として昭和42年度から住宅改修資金貸付事業、昭和48年度に宅地取得事業、昭和49年度に住宅新築資金貸付事業が創設され、旧町（那賀町・桃山町・打田町）での貸付事業が運営されて個人への貸付償還事務がされていた。平成17年度の市町村合併後、引き続き償還残額が残されている個人に対して回収が続いており、事業を引き続き実施することは妥当性がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・適正に債権を管理・回収していく必要があるため、本事業の有効性は高いが、債権回収にかかる事務には非常に高い知識などが必要であるため、会計年度任用職員を含めた職員のスキルアップなどにより有効性を高める必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・実務経験が豊富な会計年度任用職員の派遣を行うことで、円滑な納付交渉が実現している。 ・債権回収にかかる事務には非常に高い知識などが必要であり、会計年度任用職員を含めた職員のスキルアップなどにより効率性を高める必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	市営住宅整備事業			担当課	住宅政策課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R7)	事業番号	1165		
	予算科目	款	8	土木費	長期総合計画体系	政策目標	4	都市基盤・生活環境				
		項	5	住宅費		施策目標	1	都市基盤整備・公共交通				
		目	1	住宅費		基本施策	1	土地の有効利用と住みよい都市環境の整備				
事業概要	耐用年数が過ぎ、耐震基準に適合していない市営住宅については、入居者の安全性が確保できないため市営住宅の建替えを行う事業。											
事務事業を構成する細事業	①	市営住宅整備			⑤						⑨	
	②				⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	

指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	活動指標	市営住宅建設設計業務契約件数	件	目標				1		市営住宅建設 令和5年度 設計 令和6年度 工事着工 令和7年度 工事完了			
			実績										
	<指標の計算方法>		市営住宅建設設計業務契約件数										
	活動指標	市営住宅建設工事の進捗率	%	目標						50	工期スケジュールどおり工事が進み、予定進捗率を達成する。		
			実績										
	<指標の計算方法>		市営住宅建設工事の出来高率										
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													

コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	69,005		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
						69,005		

事業の実績	①市営住宅整備 ・市営住宅用地購入 契約金額：38,320,900円 契約内容：4筆 5,342㎡						
	・市営住宅物件補償費 契約金額：30,674,000円 契約内容：果樹・倉庫及び農業用設備						

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない	
		・市営住宅の建設は、耐震性のない住宅の建替えであり、入居者の安全を確保することは妥当である。		
	有効性	評価結果	改善の余地がない	
・耐震性のない住宅を集約し整備することにより、維持管理の効率化等を図ることが出来ることから有効である。				
効率性	評価結果	改善の余地がややある		
	・市営住宅を集約することにより、維持管理業務の効率化及び経費削減を図ることができる。			

事務事業の概要	事務事業名	危機管理対策事業		担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	946	
	予算科目	款	9	消 防 費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	消 防 費		施策目標	1	防災・防犯			
		目	1	消防総務費		基本施策	1	地域防災力の向上			
事業概要	市の危機発生時における防災力の強化につなげるために、市民、職員、協力機関が災害に備えて防災体制の整備を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① 防災会議運営		⑤ 災害時応援協定		⑨ 災害対策費用保険						
	② 国民保護協議会運営		⑥ 職員防災力強化		⑩						
	③ 災害対策本部運営		⑦ 県総合防災情報システム運営負担金		⑪						
	④ 地域防災計画・ハザードマップ管理		⑧ 県防災ヘリコプター運航連絡協議会負担金		⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	職員避難所開設等訓練	目標	3	3	3	3	3	R4.12.16 職員図上型防災訓練 R4.9.19 大雨災害に伴う自主避難所開設も実績としている。		
			実績	3	2	2					
	<指標の計算方法>		避難所の開設数（訓練等を含む）								
	成果指標	災害協定締結件数	目標	40	40	45	50	52	各種団体と災害協定を順次締結しており、年々協定数は増加している。		
			実績	41	43	48					
	<指標の計算方法>		協定件数（累計）								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
31,613				257	8,300				23,056		
事業の実績	①防災会議運営 ・2月27日実施(委員28人出席)			⑥職員防災力強化 ・国：Jアラートテスト実行7回、Jアラート情報伝達訓練4回、Jアラート緊急地震速報訓練2回、Lアラート伝達訓練1回、大滝ダム管理演習1回 ・県：物資調達・輸送調整等支援システム訓練2回、孤立集落通信訓練1回、非常通信訓練(那賀振興局)1回、防災相互通信訓練1回 ・市：防災総合訓練1回、新規採用職員・安全推進監防災研修・訓練1回、安全推進監訓練1回、職員図上型防災訓練1回(職員140人参加)1回、情報伝達訓練1回 ・その他：無線訓練(岩出警察署)1回			⑧県防災ヘリコプター運航連絡協議会負担金 6,366,946円				
	②国民保護協議会運営 ・開催なし			⑦県総合防災情報システム運営負担金 ・県防災システム 441,535円 ・きのくにe-ねっと 307,824円 ・県総合防災情報システムの再整備に係る令和4年度負担金 8,330,000円			⑨災害対策費用保険 ・避難指示等を発令した場合の災害対応にかかる避難所の開設運営費用や救助費用職員の手当等を対象に保険金が支払われる。				
	③災害対策本部運営 ・大きな被害なし 警戒体制1号 1回 ・新型コロナウイルス対策本部の開催 14回 随時本部会議を実施										
	④地域防災計画・ハザードマップ管理 ・災害対策基本法、水防法等の改正に伴い市地域防災計画にも反映										
⑤災害時応援協定 ・災害発生時の各種協定の締結 締結により5団体増加											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・防災の観点から必要不可欠な事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・災害が発生した場合に効果は検証出来るが、他の事業と比べて非常に検証しづらい。									
効率性	評価結果	改善の余地が大きい									
		・災害対策本部運営について、今後システム化の研修等続け効率化を図る必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	地域防災力強化事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	644	
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消防費				施策目標	1	防災・防犯			
目		1 消防総務費			基本施策		1	地域防災力の向上				
事業概要	市民、自治区の防災意識の向上と地域防災力の向上につなげるために、防災に関する啓発や訓練の支援、または、資機材整備の補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	防災総合訓練			⑤	防災ボランティア活動負担金			⑨			
	②	小学生防災教室			⑥	防災ボランティア活動補助金			⑩			
	③	防災啓発研修会			⑦	自主防災組織育成事業補助金			⑪			
	④	防災リーダー会			⑧	自主防災組織の研修及び訓練			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	自主防災組織率（世帯割）	目標	100	100	100	100	100	自主防災組織設立自治区数は、134自治区(23,733世帯)である。設立に向けて前向きであった自治区も新型コロナウイルス感染拡大防止のため会合できず、23,733(世帯)÷26,910(全自治区世帯数)×100=88.2%			
			実績	88	88.1	88.2						
	<指標の計算方法>		自主防災組織設立自治区世帯数÷全自治区世帯数×100									
	成果指標	市や地域での防災訓練への参加者数	目標	4,000	4,500	5,000	5,000	5,000	・市防災総合訓練参加者 545名 ・防災啓発研修会参加者・自主防災組織の研修及び訓練参加者合計 318名 ・小学校防災教室参加者 285名			
			実績	930	707	1,148						
	<指標の計算方法>		防災訓練への参加者数									
	成果指標	自主防災組織の活動に参加している市民の割合	目標	50	50	50	50	50	令和3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止により活動自粛する自治区が大半であったことから参加する市民の割合は低下している。 ・防災啓発研修会参加者 211名 ・自主防災組織研修・訓練参加者 107名			
			実績	9.9	9.4	9.6						
	<指標の計算方法>		市民意識調査でお住まいの地域における防災研修や防災訓練に「参加している」と回答した市民の割合									
成果指標	水や食料などを備蓄している市民の割合	目標	70	70	70	70	70	備蓄割合は上昇傾向にある。 ・1週間分以上の備蓄をしている11.3% ・3日分程度の備蓄をしている41.1%				
		実績	46.2	46.8	52.4							
<指標の計算方法>		市民意識調査で「一週間分以上の備蓄をしている」「3日分程度の備蓄をしている」と回答した市民の割合										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
3,429				42					3,387			
事業の実績	①防災総合訓練 令和4年度(第12回)紀の川市防災総合訓練の実施…545名参加 内訳：訓練実施期間中の防災学習Web視聴用動画「避難所開設編」の視聴回数(324回)+消防団訓練参加者数(191名)+市職員参加者数(30名)			④防災リーダー会 総会(書面会議)・役員会…6回 研修…1回 県外研修…0回 補助金…15,000円			⑧自主防災組織の研修及び訓練 研修回数…1回、参加者数 25名 訓練回数…3回、参加者数 82名 合計 …4回、参加者数 107名					
	②小学生防災教室 市内5校(4～6年生児童)…285名参加 新型コロナウイルス感染症拡大防止によりリモート体験学習を実施 防災教室用資料を作成・配布 学校教諭への防災授業の実施依頼			⑤防災ボランティア活動負担金 3団体(82名)の防災ボランティア活動 保険加入			⑥防災ボランティア活動補助金 打田福祉防災ボランティア会…71,000円 粉河福祉防災ボランティア会…28,000円 那賀福祉防災ボランティア会…63,000円 桃山福祉防災ボランティア会…103,000円 貴志川福祉防災ボランティア会…72,000円					
	③防災啓発研修会(自主防災組織以外) 研修回数… 8回、参加者 142名 訓練回数… 3回、参加者 69名 合計 …11回、参加者 211名			⑦自主防災組織育成事業補助金 31組織…2,739,900円								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・大規模災害時に備え、避難行動(避難ルート、危険箇所の確認)や避難所設営(震度感知式鍵ボックスの開け方、感染症対策、資機材等の使い方等)等により実践的な研修・訓練の推進が必要である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・職員の防災に関する知識向上のために研修回数を増やし、さらに専門性をもった人材を活用することで、事業の有効性を高める必要がある。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・地域における研修・訓練の際、専門性をもった人材(危機管理監、消防防災専門員、安全推進監)の活用や関係団体の積極的な参画を図る。併せて「紀の川市防災ガイド」や「紀の川市ハザードマップ」を活用することで、より効果的な事業の実施に繋げていく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	家具転倒防止対策促進事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1005	
	予算科目	款	9 消 防 費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消 防 費				施策目標	1	防災・防犯			
		目	1 消防総務費				基本施策	1	地域防災力の向上			
事業概要	市民の災害発生時の被害を軽減するために、家具転倒防止対策に支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	金具取付委託			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	家具転倒防止金具取付支援事業	件	目標	30	30	30	45	45	市公式LINEによる周知を行ったことで、実績値が目標を上回った。		
				実績	27	30	31					
	<指標の計算方法>		申請件数									
	成果指標	家具固定を行っている市民の割合	%	目標	50	50	50	50	50	高齢者の家具を固定していない割合は依然として高いが、支援事業への申請件数の増加などから、意識の向上につながってきていると考えられる。		
				実績	22	24.1	29.6					
	<指標の計算方法>		市民意識調査で「固定している」「固定が必要な家具類がない」と回答した市民の割合									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,952			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	979		
事業の実績	①金具取付委託 ・1申請当たり3台の家具を上限に金具取付 ・31世帯実施											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・家具転倒防止については、個人や各家庭で出来る有効な防災対策であるが、高齢者世帯や要配慮者のいる世帯では個人による対策が難しい状況があると思われるため、市が支援を行う必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・自治区や団体の防災研修において、家具転倒防止対策の啓発を行い、家具固定の有効性は理解してもらっているが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症防止対策により、講習会等における説明機会が少なかった。 ・今後も継続して、市公式LINEを活用した周知を行い、家具転倒防止金具取付支援事業への申請者の増加や、防災意識の向上に努める必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・取付業者と申請者間での取付日程の調整等で、取付まで時間を要する場合がある。迅速な工事対応ができるよう働きかける。											

事務事業の概要	事務事業名	消防防火対策事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	647
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	1 消防費				施策目標	1 防災・防犯			
		目	1 消防総務費				基本施策	2 効率的で効果的な消防体制の整備			
事業概要	市民の防火意識の向上と防火体制の強化を図るために、協力機関・団体へ補助等の支援や運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	消防防火対策業務			⑤			⑨			
	②	阪和林野消防協議会負担金			⑥			⑩			
	③	消防協会負担金			⑦			⑪			
	④	女性防火クラブ補助金			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	地区研修等活動数	目標	30	30	30	30	30	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動自粛となり令和3年度同様に目標の回数を開催できなかった。		
			実績	4	11	8					
	<指標の計算方法>		年間活動数								
	活動指標	市主催行事開催数	目標	4	4	4	4	4	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動自粛となり令和3年度同様に目標の回数を開催できなかった。		
			実績	1	1	1					
	<指標の計算方法>		年間開催数								
	活動指標	活動補助金申請地区数	目標	38	36	35	35	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動自粛となり令和3年度同様に目標の回数を開催できなかった。			
			実績	4	15	12					
	<指標の計算方法>		申請地区数								
成果指標	活動への参加者数	目標	800	800	800	800	新型コロナウイルス感染症拡大が少しずつ落ち着きだし、活動参加人数は令和3年度より微増したが目標値には達していない。				
		実績	27	183	219						
<指標の計算方法>		参加者数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	1,034			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	500	534
事業の実績	①消防防火対策業務 ・無線従事者講習会受講 1名 ・防火防災訓練用資機材整備 586,300円 ②阪和林野消防協議会負担金 15,000円 ③消防協会負担金 312,382円 ④女性防火クラブ補助金 12地区 79,800円										
	<女性防火クラブ地区研修訓練> ・地区研修訓練回数 (8回) <女性防火クラブ活動実績> 【市主催行事】 ・8/1 令和4年度紀の川市女性防火クラブ 連絡協議会総会書面開催 計1回 <活動への参加者数> ◆地区活動参加数 202人 ◆協議会活動参加数 17人 計219人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・女性防火クラブには、公的な法令はないが、家庭の防火をはじめ、防火・防災のため幅広い実践活動や、災害時の後方支援活動等を行うことができ、地域住民の生命・身体及び財産を守るための事業であることから、市が実施することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・新型コロナウイルス感染症が拡大していた時と比べ、防火・防災訓練及び研修、救命講習等は定期的実施できる体制に戻つつあるが、さらに専門知識や技能を持った人材育成や職員の知識向上を常に図ることが必要と考える。また、クラブ員の高齢化もあるため、隣接組織との合同活動や組織統合も検討する。また、自主防災組織等との連携や働きかけにより、活動を市内全域に広げられるような仕組みの検討を行う必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・高齢化、人口減少に伴い、会員確保や地域単位のクラブの結成やクラブを統合するなど、紀の川市全体としての女性防火クラブ運営ができるように検討する必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	那賀消防組合事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	一部事務組合		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	106	
	予算科目	款	9 消 防 費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消 防 費				施策目標	1	防災・防犯			
		目	2 常備消防費				基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備			
取組方針	1	消防・救急・救助体制の充実										
事業概要	市民に安全、安心な消防、救急体制を提供するために、那賀消防組合の運営に参画する事業											
事務事業を構成する細事業	①	消防指令車等更新			⑤				⑨			
	②	消防組合職員確保			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	消防指令車等更新	台	目標	2	2	1	2	2	はしご車のオーバーホールが完了し、緊急自動車購入計画の見直しを行ない、令和4年度は1台の更新を行なうことができました。		
				実績	2	0	1					
	<指標の計算方法>		更新台数									
	活動指標	消防組合職員確保	人	目標	128	128	128	128	128			令和4年度は、退職数の増加があったが、新規2名を採用し目標値を達成できた。
				実績	129	130	128					
	<指標の計算方法>		職員人数									
成果指標	消防、救急体制に対して満足と感じている市民の割合	%	目標	70	70	70	70	70	新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策を講じ、可能な限り地域の消防訓練指導や、火災想定訓練等を実施・啓発したことにより、横這いとなっている。			
			実績	45.1	44.5	45						
<指標の計算方法>		市民意識調査で「満足」「まあ満足」と回答した市民の割合										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	726,214			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	716,814		
事業の実績	①消防指令車等更新 ・緊急車両 1台 (参考) 保有車両台数 43台											
	②消防組合職員確保 職員数 128名 (うち新規採用2名) (参考) 出動回数 火災 53回 救助 101回 警戒等 318回 救急 5,807回											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・市民の生命財産を災害等から守るために、一部事務組合への負担金を負担し、事業経営に参画することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・一部事務組合への負担金を負担し、一部事務組合において車両の更新や職員数を計画的に確保することは、多様化する災害に迅速・的確に対応ができ、市民の生命財産を守ることに直結する。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・広域的に紀の川市と岩出市が連携し、一部事務組合を運営することは効率的である。										

事務事業の概要	事務事業名	消防団運営事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	107	
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消防費				施策目標	1	防災・防犯			
		目	3 非常備消防費				基本施策	2	効率的で効果的な消防体制の整備			
事業概要	消防団員の消防力を強化するために、消防団員に研修や訓練の実施、装備品の充実、福利厚生を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	消防委員会運営			⑤	消防団員報酬・福利厚生			⑨			
	②	消防団活動			⑥	消防団活動補助金			⑩			
	③	消防団出初式・訓練			⑦				⑪			
	④	ポンプ操法大会参加			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	消防団員数	人	目標	220	220	220	220	220	全国の消防団員数は減少傾向にある。市の人口減少、高齢化している中でも消防団員は現状維持できている。		
			実績	220	221	221						
	<指標の計算方法>		紀の川市の人口1万人あたりの消防団員数（全国と比較）									
	活動指標	消防団活動回数	回	目標	80	50	50	80	80	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、会議及び訓練を実施したことで、目標値を達成できた。		
		実績	37	56	82							
<指標の計算方法>		訓練、会議等の回数										
活動指標	女性分団活動回数	回	目標	30	60	30	30	30	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、応急手当普及員として消防団への指導や、防火広報活動を実施できた。			
		実績	7	11	32							
<指標の計算方法>		訓練及び指導、会議等の回数										
成果指標	消防団活動が地域の防災力向上に貢献していると感じている市民の割合	%	目標	100	100	100	100	100	市民意識調査で地域防災力に貢献していると感じている市民の割合は65%前後を維持しており、消防団活動への理解が深まっている。			
		実績	63.8	66.8	66.6							
<指標の計算方法>		市民意識調査で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した市民の割合										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	132,299			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	25,412 106,887		
事業の実績	①消防委員会運営 消防委員会開催 4/4書面開催, 12/21 消防委員会委員報酬 (154,000円)			・消防団員報酬 (39,507,895円) 【報酬】								
	②消防団活動 訓練、会議等の回数 82回			・消防団員退職報償金 (25,412,000円) 【福利厚生】								
	③消防団出初式・訓練 年末特別警戒12/28~30 消防団出初式1/15 火災・風雪水害・捜索活動 その他会議・各方面隊訓練			・消防団員公務災害補償掛金負担金 (2,673,300円) ・消防団員退職報償金掛金負担金 (27,014,400円) ・消防団員等福祉共済掛金負担金 (4,221,000円) ・消防作業従事者掛金 (117,632円)								
	④ポンプ操法大会参加 第29回和歌山県消防操法大会参加辞退 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため)			⑥消防団活動補助金 (9,782,007円) 本部、方面隊 (5)、分団 (24) 捜索活動・消防学校入校補助等								
	⑤消防団員報酬・福利厚生 【報酬】											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・消防組織法に基づき消防団を設置し、住民の身体及び財産を守るための事業であり、市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・定期的に訓練を実施し、消防力向上を図る。 ・専門性を持った人材確保及び職員の知識向上を図る。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・業務分担及び委託等検討し、現状の消防団活動を維持し、防災力強化の取組みも導入できる体制を整える。											

事務事業の概要	事務事業名	消防施設管理事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	637	
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 消防費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	4 消防施設費				基本施策	2 効率的で効果的な消防体制の整備				
事業概要	消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動を行えるように、消防施設の維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	消防器具庫管理			⑤				⑨			
	②	防火水槽管理			⑥				⑩			
	③	小型動力ポンプ付積載車管理			⑦				⑪			
	④	消火栓管理			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	消防器具庫修繕	目標	1	1	1	1	1	消防器具庫の修繕を計画通り実施出来ている。			
			箇所									
			実績	1	1	1						
	<指標の計算方法>		修繕箇所数									
	活動指標	防火水槽修繕	目標	3	3	3	3	3	修繕が必要な箇所を区長要望にて集約し、要望数を修繕する事が出来ている。			
			箇所									
			実績	1	2	2						
	<指標の計算方法>		修繕箇所数									
	活動指標	小型動力ポンプ積載車点検修繕	目標	124	124	124	124	124	小型動力ポンプ積載車124台が法定点検と車両検査を実施し、必要に応じて修繕する事が出来ている。			
			台									
			実績	124	124	124						
<指標の計算方法>		必要台数										
活動指標	消火栓修繕	目標	1	1	1	4	4	消火栓の漏水やボックスの老朽化に伴う修繕の必要数が増加傾向となっており、緊急性のある案件については、修繕をすることが出来ている。				
		箇所										
		実績	4	5	8							
<指標の計算方法>		修繕箇所数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	18,998			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	18,998		
事業の実績	①消防器具庫管理 仮設消防器具庫移設修繕 1箇所											
	②防火水槽管理 栄町地区防火水槽用地整備修繕 1箇所 元地区防火水槽設備修繕 1箇所											
	③小型動力ポンプ付積載車管理 124台											
	④消火栓管理 段新田地内消火栓ボックス取替修繕 1箇所 元地内消火栓ボックス取替修繕 1箇所 市場地内消火栓取替修繕 1箇所 元地内消火栓ボックス取替修繕 1箇所 荒見地内消火栓取替修繕 1箇所 井ノ口地内消火栓ボックス取替修繕 1箇所 北長田地内消火栓漏水修繕 1箇所 粉河寺線消火栓ボックス撤去修繕 1箇所											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域の消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動ができるように、市として消防施設の維持管理を行い、常時使用可能にしておく必要がある。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・火災等突然の災害時に消防施設を使用可能な状態に施設管理できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・必要に応じた施設の修繕工事や車両修繕があり、火災・災害に必要な施設で専門知識を持った人材を配置することで効率良く修繕を行う必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	消防施設整備事業			担当課	危機管理消防課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	108	
	予算科目	款	9 消 防 費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 消 防 費				施策目標	1 防災・防犯				
		目	4 消防施設費				基本施策	2 効率的で効果的な消防体制の整備				
事業概要	消防団、那賀消防組合が円滑に消火活動を行えるように、消防施設の整備を計画的に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	消防器具庫整備			⑤				⑨			
	②	防火水槽整備			⑥				⑩			
	③	小型動力ポンプ付積載車整備			⑦				⑪			
	④	消火栓整備			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	消防器具庫新築件数	棟	目標	2	3	2	1	2	消防器具庫建築は、計画どおり実施できている。		
				実績	0	3	2					
		<指標の計算方法>	新築件数									
	活動指標	防火水槽新設基数	基	目標	2	2	3	2	2	防火水槽建設は、3基の建設を予定していたが、県道拡幅工事の遅延により、1基の建設が翌年度に施工することとなっている。		
				実績	1	3	2					
		<指標の計算方法>	新設基数									
	活動指標	積載車購入台数	台	目標	5	5	5	5	5	小型動力ポンプ付積載車は、計画通り更新できている。		
				実績	5	5	5					
		<指標の計算方法>	購入台数									
			目標									
			実績									
			<指標の計算方法>									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
	82,524				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,394	
事業の実績	①消防器具庫整備 藤井消防器具庫 松井消防器具庫											
	②防火水槽整備 藤井地区防火水槽 下鞆地区防火水槽											
	③小型動力ポンプ付積載車整備 小型動力ポンプ付積載車 5台											
	④消火栓整備 打田地区消火栓											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・火災・災害時等による被害を最小限にとどめ、活動の拠点となる施設を設置することで地域防災力の強化につながるため妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域の消防活動、災害時における活動拠点となる施設整備であるため計画的な整備が必要である。										
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
		・建築工事については、専門知識を持った人材を用いることで効率性が高まる。										

事務事業の概要	事務事業名	防災施設管理運営事業			担当課	危機管理消防課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	639	
	予算科目	款	9 消防費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 消防費				施策目標	1	防災・防犯			
		目	4 消防施設費				基本施策	1	地域防災力の向上			
取組方針	2			防災施設などの計画的な整備								
事業概要	市民の災害発生時の被害を軽減するために、防災施設の計画的な整備や適切な維持管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	備蓄物資管理			⑤					⑨		
	②	資機材整備管理			⑥					⑩		
	③	防災行政無線管理運営			⑦					⑪		
	④	戸別受信機設置			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	備蓄食糧（アルファ米・パン）	目標	59	67	84	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人が1日3食として3日分を計画。配備後は継続して維持する必要がある。			
			実績	52	71	81						
	<指標の計算方法>		保有数合計÷（4,500人×3食×3日分）									
	活動指標	備蓄水	目標	45	62	81	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人が1日に必要な水分30を3日分を計画。500mlペットボトルで保管。配備後は継続して維持する必要がある。			
			実績	43	61	76						
	<指標の計算方法>		保有本数合計÷（4,500人×6本×3日分）									
	活動指標	備蓄携帯トイレ	目標	96	100	100	100	100	三連動地震の被災者想定4,500人。1人1日5回の排泄として3日分。5個入りパックで保管。令和3年度に配備が完了したため、今後も継続して維持する必要がある。			
			実績	96	100	100						
	<指標の計算方法>		保有数合計÷（4,500人×3日分）									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	35,595			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①備蓄物資管理 保存水 11,760本 アルファ米 4,650食 備蓄パン 3,300本											
	②資機材整備管理 AED本体一式 25箇所 AED付属消耗品取替 67箇所											
	③防災行政無線管理運営 保守管理 親局1局、操作卓6台、中継局2局、簡易中継局3局、再送信局14局、子局267局											
	④戸別受信機設置 14台 （うち、視覚・聴覚に障害のある方への貸出 8台）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・防災の観点から必要不可欠な事業である。									
		評価結果	改善の余地がない ・目標が達成・維持できるよう、計画的に物資の備蓄を進める。ただし、災害時に緊急の使用や破損等が嵩む場合、目標の達成が困難になる。									
	効率性	評価結果	改善の余地がややある ・保管場所が多岐に渡るため、資機材の管理場所に検討の余地がある。									

事務事業の概要	事務事業名	水防事業		担当課	危機管理消防課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	109	
	予算科目	款	9	消 防 費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1	消 防 費		施策目標	1	防災・防犯			
		目	5	水 防 費		基本施策	3	災害に強いまちの形成			
取組方針	1	治水対策の推進									
事業概要	市民の水害による被害を抑制するために、排水機場等の維持管理や運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	水防計画管理			⑤	水防活動			⑨		
	②	樋門・排水機場操作委託			⑥				⑩		
	③	排水機場施設管理			⑦				⑪		
	④	水防資機材管理			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	水防訓練・講習会	回	目標	4	4	4	4	4	講習会（樋門操作要領・避難要領等）一斉操作訓練（開閉操作・情報伝達訓練）を年間4回行い、有事に備える事ができた。	
				実績	2	2	4				
	<指標の計算方法>		水防訓練・講習会実績								
	活動指標	排水機場保守点検実施	回	目標	7	7	7	7	7		保守点検実施の結果、修繕の優先順位をつけ、今後運転に支障があるもしくは、支障の恐れがあるものから早期対応を行う。
				実績	7	7	7				
	<指標の計算方法>		実績箇所数								
	活動指標	樋門・排水機場修繕実施	回	目標	20	20	20	20	20	出水期までに、不具合箇所の修繕やオイル交換を行い水害対応に備えた。	
				実績	14	5	14				
	<指標の計算方法>		修繕実施回数								
成果指標	水防訓練・講習会参加者数	人	目標	112	112	112	112	112	講習会（樋門操作要領・避難要領等）一斉操作訓練（開閉操作・情報伝達訓練）を年間4回行い、有事に備える事ができた。		
			実績	56	56	112					
<指標の計算方法>		水防訓練・講習会参加実績									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			58,855	13,249	148				45,458		
事業の実績	①水防計画管理 地域防災計画の基本方針の確定及び校正を行った。										
	②樋門・排水機場操作委託 委託契約を行い講習会・訓練・毎月の施設点検・河川水位上昇による出動										
	③排水機場施設管理 委託契約を行い講習会・訓練・毎月の施設点検・河川水位上昇による出動										
	④水防資機材管理 出水期に点検・管理を行う。										
	⑤水防活動 樋門操作員出動（自宅待機要請含む）回数 0回										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある								
		・水害を警戒し、被害を軽減させることで、公共の安全性を保持することを目的とし、市が水防施設を管理し、樋門操作員に施設点検、水防活動を行ってもらうことは妥当であり、併せて市の管理体制の強化が必要である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・大雨や増水による出水期は、被害が発生することがあるが、水防施設の維持管理及び水防出動により被害を防止または軽減できている。 ・雨水量が想定以上の場合に備え、河川の浚渫対策が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・随時修繕を行い、また保守点検による不具合箇所の改善を行っている。機械が老朽化しているので、設備の改修や入替等の対策が必要である。 ・消防団員の多くが操作員として委託を受けており、後継者不足が生じているため、業者委託等検討が必要である。										

事務事業の概要	事務事業名	教育委員会運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	内部管理事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	110	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	1 教育総務費				施策目標	99	*****			
		目	1 教育委員会費				基本施策	99	*****			
取組方針	9	その他										
事業概要	教育委員会が効率的、効果的な教育行政を進めるために、教育委員、市長、関係者が教育行政における重要課題や方針について、検討や協議を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	教育委員会運営			⑤					⑨		
	②	総合教育会議運営			⑥					⑩		
	③	外部評価			⑦					⑪		
	④	市町村教育委員会連絡協議会負担金			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	教育委員会定例会・臨時会への上程議案・報告事項・その他件数	目標	0	0	0	0	0	教育委員会定例会・臨時会（令和4年度開催なし）において審議及び協議された件数 議案41件、報告事項28件、その他14件			
			実績	91	94	83						
	<指標の計算方法>		教育委員会定例会・臨時会への上程議案・報告事項・その他件数									
	活動指標	学校訪問・かけはし訪問の日数	目標						教育委員の学校訪問・かけはし訪問日数 学校訪問22日、かけはし訪問22日			
			実績	42	42	44						
	<指標の計算方法>		学校訪問・かけはし訪問の日数									
	活動指標	教育委員会定例会・臨時会議決案件数	目標						教育委員会定例会・臨時会（令和4年度開催なし）において議決された件数			
			実績	54	55	41						
	<指標の計算方法>		教育委員会定例会・臨時会での議決案件数									
活動指標	総合教育会議の議題件数	目標	0	0	0	0	0	市長と教育委員会が連携を図りつつ、より一層教育行政を推進していくため開催				
		実績	2	0	2							
<指標の計算方法>		総合教育会議の議題件数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,633			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		2,633	
事業の実績	①教育委員会運営 ・定例会12回、臨時会0回			1市町村の教育委員会ごとに15,000円 (市町村割) 1市町村ごとに 45,000円								
	②総合教育会議運営 ・第2次紀の川市教育大綱の改訂（案）について ・紀の川市立学校適正規模適正配置基本計画について (上記2件の議題について協議)											
	③外部評価 ・令和4年度予算編成事業ごとに事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うため外部評価委員会に評価を依頼 (年3回開催)											
	④市町村教育委員会連絡協議会負担金 89,000円(当初) (人口割) 58,348人×0.5円 29,000円 (教育委員会数割)											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・教育委員会は地域における学校教育・社会教育・文化・スポーツ等に関する事務を担当する行政機関である。 ・教育長を含む5名で構成された教育委員会が、教育行政や学校運営における具体的な施策を客観的に審議し総括して推進を図る事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・教育委員会定例会において、教育の基本方針や教育・文化・スポーツの振興など教育全般についての諸問題や検討課題及び計画等の審議を行い、目標どおり事業を進めている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・教育委員会定例会等の各種会議の議事録作成についてはかなりの時間を要しており、AIによる議事録作成を検討してきたが、音声文字変換の精度が満足いくものではないため、職員が従来の方で作成している。今後、事務の効率化を図るためにも、議事録作成を業者委託することを検討していく。											

事務事業の概要	事務事業名	教育委員会事務局運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	630	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	99	*****			
		項	1 教育総務費				施策目標	99	*****			
		目	2 事務局費				基本施策	99	*****			
目				取組方針	9		その他					
事業概要	教育委員会が円滑な運営を行えるように、教育長、教育委員の活動に支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	教育委員会事務局運営事業			⑤	近畿都市教育長協議会負担金			⑨			
	②	栄典・表彰業務（教育功労）			⑥	県都市教育長会負担金			⑩			
	③	教育長秘書			⑦	県公立学校施設整備期成会負担金			⑪			
	④	全国都市教育長会負担金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	後援名義許可件数	件	目標						教育総務課12件、生涯学習課7件、生涯スポーツ課11件		
			実績		17	40	30					
	<指標の計算方法>		後援名義許可件数									
	活動指標	叙位・叙勲・栄典等承認件数	件	目標						秋の生存者叙勲1件、死亡叙勲1件、高齢者叙勲1件		
			実績		3	1	3					
	<指標の計算方法>		叙位・叙勲・栄典等承認件数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,068			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	1,068		
事業の実績	①教育委員会事務局運営事業 ・教育や文化の向上振興に寄与する事業への「紀の川市教育委員会」の後援名義の許可			補助金割	4,036,000円×0.03%	1,200円	10,400円					
	②栄典・表彰業務（教育功労） ・永年に亘って教育の振興に貢献された教育関係者の方々の栄典授与に関する事務を行う。			学校数割	300円×24校	7,200円						
	③教育長秘書 ・教育長の公務の日程調整や教育部内の行事予定のとりまとめ			へき地校割	1,000円×2校	2,000円						
	④全国都市教育長会負担金			28,000円								
	⑤近畿都市教育長協議会負担金			32,000円								
	⑥県都市教育長会負担金			20,000円								
	⑦県公立学校施設整備期成会負担金											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・教育委員会の権限に属する事務であり、市が主体となり実施すべき事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・「紀の川市教育委員会」の後援名義の許可審査や教育の振興に貢献された方の功績の確認など、適切に事務処理を行い、事業目的を達成している。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・許可審査など判断が必要な事務に職員が従事することで円滑に実施できている。外部委託できる業務はない。											

事務事業の概要	事務事業名	学校教育総務管理事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1084	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	児童、生徒が安全で円滑な学校生活が行えるように、安全面及び学校運営に係る必要な支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校安全対策協議会負担金			⑤	教育情報セキュリティ対策			⑨			
	②	那賀地方教育研究会補助金			⑥				⑩			
	③	鞆淵地区山村留学補助金			⑦				⑪			
	④	学校安全対策・通学路安全対策			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	スクールサポーター登録者数	人	目標	450	450	450	450	450	一部の学校でスクールサポーター(見守りスタッフ)の募集をした結果、新規登録者が増加し全体として人数が増加した。		
			実績	396	399	466						
	<指標の計算方法>		スクールサポーター登録者数									
	活動指標	通学路安全対策実施箇所	箇所	目標	11	15	15	15	15	国・県・警察等の関係機関と連携し、年次的に対策を講じている。		
			実績	11	15	15						
	<指標の計算方法>		学校から危険箇所の報告があったもののうち、対策を講じた件数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	32,559			国庫支出金	4,000	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	28,559	
事業の実績	①学校安全対策協議会負担金 330,000円 学校安全対策協議会の設置 ・市内在住の児童及び生徒の安全確保を図るため、学校長やPTA、青少年健全育成推進員、民生委員児童委員連絡協議会委員等の代表で組織し、協議した。(令和4年度は書面決議) ・スクールサポーターの保険加入や活動費の補助、通学路に設置する看板の購入などを行った。											
	②那賀地方教育研究会補助金 紀の川市、岩出市管内小中学校の教科別研究会に対し、岩出市とともに補助を行い、研究活動を支援した。											
	③鞆淵地区山村留学補助金 310,400円 鞆淵地区山村留学センターの運営費用の一部に補助を行った。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・通学路における児童生徒の安全確保を図るとともに円滑な学校生活が行えるよう、学校運営に関する支援を行っており継続することが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・学校からの通学路等の危険箇所改修の要望を県や警察等の関係機関と連携して点検や改修を行っており、児童生徒の安全確保に大変有効である。 ・スクールサポーターの高齢化に伴い、今後十分に協力を得ることが難しい可能性がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県や警察と連携していることで危険箇所の情報共有を図ることができ、改修までの対応がスムーズであり、効率的な事業である。											

事務事業の概要	事務事業名	学校教育推進事業		担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	615		
	予算科目	款	10 教育費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	1 教育総務費			施策目標	2	学校教育				
		目	3 教育諸費			基本施策	2	子供の力をのばす教育				
事業概要	児童、生徒の力をのばすために、学力・体力の向上につながる取組を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 教職員研修	⑤ 教職員研修費等補助金			⑨							
	② 英語教育	⑥ 研究指定校補助金			⑩							
	③ 学力調査	⑦			⑪							
	④ 学力向上	⑧			⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	市主催の研修（講演会）に参加した教職員数	人	目標	660	660	660	660	660	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修を実施しなかったため。		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		研修に出席した教職員数									
	成果指標	外国語指導員と担任によるTT授業時数	時間	目標	70	70	70	70	70	目標どおり実施できている。		
実績			64.5	70	70							
<指標の計算方法>		TT（ティー・ティー・ティー：複数教員で行う授業）授業を実施した5,6年生の1学級あたり時間数の平均										
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	15,632			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			15,632									
事業の実績	①教職員研修 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、研修を実施しなかった。			年間6回研修を実施し、作成した指導案をもとに公開授業を実施した。								
	②英語教育 ・ALT(外国語指導助手)を1名配置し、児童生徒のコミュニケーション活動を充実させた。 ・小学校教諭の外国語(活動)に係る授業力の向上を図るため、外国語指導員5名と県配置の英語専科教員2名の合計7名を配置した。			⑤教職員研修費等補助金 学校現場での喫緊の課題である、「ミドルリーダーの育成」を図るため、全国規模の研究大会への参加旅費等を補助した。								
③学力調査 4月19日に全国学力・学習状況調査を実施し、市として結果分析を行った。			⑥研究指定校補助金 ・瞳きらめく学校推進事業 教育の質の向上を図り、創意と活力に満ちた学校づくりに資する実践研究を行う2校に対し補助を行った。 ・ふるさと教育推進事業 ふるさとに誇りと愛着を持ち、将来紀の川市の発展に貢献できる人材の育成を目指す特色ある教育実践を行う6校に対し補助を行った。									
④学力向上 小学校5年生、中学校2年生の算数・数学担当教員を対象に、授業力向上を図るため、												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・教職員の資質向上を目指した各種研修会や外国語指導員の配置・ALT(外国語指導助手)の派遣等、児童生徒の学力向上につながる事業であるため、継続することが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・教職員の資質向上を目指した各種研修会や外国語指導員の配置・ALT(外国語指導助手)の派遣等、児童生徒の学力向上につながる有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・ALT(外国語指導助手)派遣については、プロポーザル方式により業者を選定しており、実施内容や費用等を総合的に判断し、効率的に実施できている。 ・中学校英語科のOBを外国語指導員として小学校に配置したことにより、小学校教員の英語の授業力のスキルアップにつなげることができている。											

事務事業の概要	事務事業名	学校図書館教育推進事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1132	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	1 教育総務費				施策目標	2 学校教育				
		目	3 教育諸費				基本施策	2 子供の力をのばす教育				
目				取組方針	1 確かな学力の向上							
事業概要	子供や教員が活用しやすい環境づくりと教員の授業支援を進めるため、学校図書館の環境整備と学校司書を配置する事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校司書配置			⑤				⑨			
	②	学校図書館のICT化			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	学校司書の配置数	人	目標	7	10	11	11	11	目標どおり配置することができている。		
				実績	8	10	11					
	<指標の計算方法>		配置人数									
	活動指標	システム導入校数	校	目標	15	18	21	21	21	全ての学校に導入することができている。		
				実績	15	21	21					
	<指標の計算方法>		学校図書館システムを導入した学校数									
	成果指標	授業での年間図書館活用回数	回	目標	42	44	45	45	45	新型コロナウイルス感染症の影響で図書館の活用が少なくなっている。		
				実績	27	30	27					
	<指標の計算方法>		各学校での活用回数の平均									
成果指標	1ヶ月あたりの児童生徒の図書貸出冊数	冊	目標	2.7	2.8	3	3.2	3.4	図書館の活用が減少した半面、貸出で読書に取り組むことができた。			
			実績	2.2	2.8	3.1						
<指標の計算方法>		1ヶ月の貸出冊数の平均										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	26,271			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	15,271		
事業の実績	<p>①学校司書配置 全ての小中学校に学校司書を配置できたことで、貸出冊数を増やすことができています。</p> <p>②学校図書館のICT化 ICT化したことにより蔵書検索もできるようになった他、児童生徒の貸出履歴も把握できることから、児童生徒のニーズに合った図書の購入もできるようになった。 また、タブレットからの図書検索ができるよう、アプリを導入したことで、図書活用をすすめることができた。</p>											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」により、学校図書館が果たす役割が重要視され、継続する必要がある事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・学校図書館の整備とICT化により、児童生徒及び教員の学校図書館の活用が広がり、学びの質を高めることができています。 ・学校図書館を活用した授業を推進するためにも、公立図書館とのシステム連携が今後必要と思われる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・学校司書の配置により、月1回の学校司書定例会で選書情報を共有し、できるだけ重複しないよう、図書を購入することができた。											

事務事業名	教育相談事業		担当課		教育総務課		事業区分	ソフト事業			
			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し	事業番号	619			
事務事業の概要	会計	一般会計		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
	予算科目	款	10		教育費	施策目標	2	学校教育			
		項	1		教育総務費		基本施策	1	学校教育環境の充実		
		目	3		教育諸費		取組方針	1	教育相談の充実		
事業概要	児童、生徒、保護者が不登校、いじめ等の問題解決を図り、教育に対する不安を解消できるように、相談の実施や適応指導教室の運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	教育相談	⑤				⑨				
	②	適応指導教室運営	⑥				⑩				
	③		⑦				⑪				
	④		⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	適応指導教室指導員数	人	目標	9	9	9	9	9	指導できる人材が1名見つからなかった。	
			実績	9	8	8					
	<指標の計算方法>		配置人数								
	成果指標	教育相談員配置事業相談指導者数	人	目標	5	5	5	5	5	目標どおり配置することができた。	
			実績	6	5	5					
	<指標の計算方法>		配置人数								
	成果指標	適応指導教室在籍児童生徒数	人	目標						在籍している児童生徒数が、年々増加してしている。	
			実績	14	15	17					
	<指標の計算方法>		年度内での実在籍者数								
成果指標	教育相談員相談指導件数	件	目標						不登校児童生徒数の増加とともに、相談件数が令和3年度より増えた。 <不登校児童生徒数> R3 95名(小学生34名 中学生61名) R4 109名(小学生37名 中学生72名)		
		実績	1,108	1,124	1,757						
<指標の計算方法>		相談員の延べ相談指導件数の合計									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	13,668			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
13,668											
事業の実績	①教育相談 ・市費の教育相談員3人と県費のSSW(スクールソーシャルワーカー)2人を配置し、児童生徒の不登校や就学指導等の問題解決にあたりました。 ・相談、指導件数：1,757件(延べ件数) 保護者・児童生徒：1,167件 学校関係等：590件 ・スクールソーシャルワーカー 相談件数：1,008件(延べ件数)										
	②適応指導教室運営 ・主に不登校児童生徒を対象に貴志川生涯学習センター(火～金)、貴志川支所(月)及び旧粉河中学校校舎内に設置し、午前9時から午後3時まで開室しました。 ・貴志川教室：8人、粉河教室：9人 うち高校進学：4人、学校復帰：5人										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・児童生徒や保護者、教職員が持つ様々な悩みや問題の解決を図るため教育相談を実施している。 ・不登校児童生徒の集団生活への適応や基礎学力の補充等の指導を行い、学校への復帰や進学に関する支援を行う適応指導教室を開設している。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・児童生徒の悩みや問題の解決を図る。 ・不登校児童生徒に支援を行うことで、学校への復帰や進学につながる有効な事業である。 ・適応指導教室指導員の人員確保について、指導できる人材を1名見つけることができず、設定した目標を達成することができなかった。しかし、配置できた人員で対応することができたため大きな影響はなかった。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・県費のスクールソーシャルワーカーを含め、児童生徒やその保護者、教職員が抱える悩みや問題の解決に向け、相談体制が構築されて機能している。 ・適応指導教室については、粉河、貴志川どちらの教室も毎日運営することができている。										

事務事業の概要	事務事業名	特別支援教育推進事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	937	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	教育上配慮が必要な児童、生徒が安心して学校に通えるように相談の実施、介助員等の配置を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学齢期発達相談			⑤				⑨			
	②	早期支援コーディネーター設置			⑥				⑩			
	③	就学相談			⑦				⑪			
	④	介助員・看護師設置			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	保護者に特別支援教育の理解啓発を行った小学校数	校	目標	16	16	15	15	15	全ての学校において行っている。		
			実績	15	15	15						
	<指標の計算方法>		就学時健診で保護者に特別支援教育の理解啓発を行った小学校数									
	活動指標	就学指導対象園児の延べ観察回数	回	目標	100	100	100	100	100	新型コロナウイルス感染症対策により、園への立入を制限していることもあるため、目標値以下となっている。		
			実績	34	44	50						
<指標の計算方法>		保育所・幼稚園等を訪問し、対象園児を観察した延べ回数										
成果指標	就学園児で学校教育法施行令第22条の3判断で支援学校を選択した割合	%	目標						各保護者の思いや考え方が異なるため、年度によってばらつきがある。			
		実績	50	58.3	43.8							
<指標の計算方法>		就学園児で教育支援委員会での判断が2条の3に該当する園児のうち支援学校を選択した割合										
活動指標	早期支援コーディネーター活動回数	回	目標						コロナ禍で保育所等への訪問活動は限定されたが、未就学児の保護者に対して個別的教育相談の機会を増やす等の対応を行ない、コロナ禍前の活動回数に戻つつある。			
		実績	161	190	193							
<指標の計算方法>		学校等の訪問回数や教育相談回数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	71,944			国庫支出金	1,525	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	70,419	
事業の実績	<p>①学齢期発達相談 ・教員や保護者に対し、特別支援学級に在籍する児童生徒、通常学級に在籍する支援を必要とする児童生徒への日常の関わり方や発達上の課題、適切な教育環境の選択等について相談活動を実施した。</p> <p>②早期支援コーディネーター設置 ・障害のある園児とその保護者に対し、就学前から就学後まで切れ目ない支援を行うため早期支援コーディネーター2人を配置した。 ・学校訪問 延べ90回(実態調査、学校見学、体験学習の同行) ・教育相談 延べ68回(未就学児の保護者) ・保育所等訪問 延べ35回(実態調査、保護者説明会)</p> <p>③就学相談 ・次年度就学予定の園児の保護者に対して、</p>											
	<p>こども課が実施する発達相談に同席し就学に関する相談を受けたり、学校見学やつきあひシート作成の場に同席して保護者や学校に対してアドバイスを行った。</p> <p>④介助員・看護師設置 ・介助が必要な児童生徒のいる対象校16校に32人の介助員を配置した。</p>											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<p>・早期支援コーディネーターを配置し、こども課や保育所・幼稚園等の各関係機関と連携し、未就学児童の就学に関する相談や支援を行うことで、児童や保護者が安心して就学できるようにしている。</p> <p>・丁寧な支援を必要とする児童生徒に介助員を配置し、安全安心な学習環境の提供を行っている。</p>										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
<p>・早期支援コーディネーターを配置し、こども課や保育所・幼稚園等の各関係機関と連携し、未就学児童の就学に関する相談や支援を行うことで、児童や保護者が安心して就学できるようにしている。</p> <p>・丁寧な支援を必要とする児童生徒に介助員を配置し、安全安心な学習環境の提供を行っている。</p>												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<p>・指導主事を中心に早期支援コーディネーターや各関係機関との情報共有が図れており、効率的な支援を行うことができている。</p>											

事務事業名	遠距離通学対策事業			担当課	学校再編推進室			事業区分	ソフト事業		
				新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	112	
	会計	一般会計			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
	予算科目	款	10 教育費			施策目標	2	学校教育			
項目		1 教育総務費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
目	3 教育諸費				取組方針	3	安全・安心で快適な教育環境の充実				
事業概要	遠距離通学児童、生徒が安全に通学できるように、登下校時にスクールバスの運行を行う事業										
	事務事業を構成する細事業	①	スクールバス運行			⑤				⑨	
		②	スクールバス車両管理			⑥				⑩	
		③				⑦				⑪	
④					⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	活動指標	巡回路線数	コース	目標	5	5	5	5	5	安楽川小学校3コース（黒川・善田）（野田原・銚子ノ口）（鞆渕）、荒川中学校2コース（黒川・善田）（野田原・銚子ノ口）の全5コースを運行している。	
				実績	5	5	5				
	<指標の計算方法>		巡回路線数								
	活動指標	運行回数	回	目標							臨時休業等もなく例年通りの運行回数であった。
				実績	2,136	2,397	2,485				
	<指標の計算方法>		各コースの合計運行回数								
	成果指標	乗車児童・生徒数	名	目標						乗車すべき児童生徒を漏れることなく乗車させることができている。	
				実績	22	23	24				
	<指標の計算方法>		各コースの合計乗車実人数								
活動指標	スクールバス購入台数	台	目標	0	0	0	0	0	令和4年度については購入なし。		
			実績	0	0	0					
<指標の計算方法>		更新（買い替え）・新規購入									
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
	17,285			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,285	
事業の実績	①スクールバス運行 ・学校、委託者とともに、授業時間・クラブ活動を考慮した効率的な運行を計画し、乗車人数を調整した。 （桃山管内小中学校24名） 安小（黒川・善田）コース 387回 安小（野田原・銚子ノ口）コース414回 安小（鞆渕）コース 389回 荒中（黒川・善田）コース 663回 荒中（野田原・銚子ノ口）コース632回 ・安全に運行業務を委託できる業者を選定するとともに、低価格で契約できている。 桃山・鞆渕管内委託料：15,299,900円										
	②スクールバス車両管理 燃料費 1,849,626円 自動車損害保険料 62,050円 公課費 73,800円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・スクールバス運行対象地区内でのニーズを的確に把握し、事業内容に適切に反映している。 ・教育環境を整えるという観点から、継続する必要性が高い事業である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・乗車人数については、対象地区内で希望する児童生徒全員が乗車できている。 ・無事故で運行できた。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・委託業者を1社とすることにより、運行管理が一元化でき、コスト削減を意識した効率的な運行ができている。 ・スクールバス運行は社会的責務のため無償運行が望ましく、受益者負担を求めない。										

事務事業の概要	事務事業名	教職員人事管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1083
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	教職員が円滑に授業を進められるように、教職員の健康管理、人事管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	教職員検診			⑤					⑨		
	②				⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	教職員健診受診率	%	目標	80	80	80	80	80	令和3年度までは対象外であった産休・育休中の職員も希望すれば受けられるように変更したため、受診率が低下した。		
				実績	76.3	77.8	73					
	<指標の計算方法>		教職員健診の受診者数÷対象者数									
	成果指標	教職員のストレスチェック受診率	%	目標	100	100	100	100	100	令和3年度より下がったものの、高い受診率を維持できている。		
				実績	99	98.4	94.1					
	<指標の計算方法>		ストレスチェック受診者数÷対象者数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	4,167			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,167		
事業の実績	①教職員健診 教職員健診とストレスチェックを実施した。											
	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員健診 対象者数 499名 受診者数 364名 ・ストレスチェック 対象者数 443名 受診者数 417名 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施しており、今後も継続しなければならない事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施しており、教職員が心身の健康を保持するために有効である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健安全法、労働安全衛生法で定められている健康診断およびストレスチェックを実施している。 ・新型コロナウイルス感染症予防対策が必要となったことで、検診の実施にあたっては例年より課の人員配置等に配慮を要した。 											

事務事業の概要	事務事業名	学校適正規模適正配置推進事業			担当課	学校再編推進室			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R5～R15)	事業番号	1146		
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	1 教育総務費				施策目標	2	学校教育			
		目	3 教育諸費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	次代を担う子供たちのためにより良い教育環境の確保及びその向上を図ることを目的に、保護者・市民等の意見聴取を通じて、小中学校の適正規模適正配置を推進するための事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校適正規模適正配置検討委員会開催			⑤					⑨		
	②	基本計画の策定			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	検討委員会開催回数	回	目標	5	5	5			紀の川市立学校適正規模適正配置基本計画の策定にあたり、検討委員会において協議し計画内容を取り決めた。		
			実績	3	5	5						
	<指標の計算方法>		紀の川市立学校適正規模適正配置検討委員会の開催回数									
	活動指標	作業部会開催回数	回	目標	0	0	8	5	5	紀の川市立学校適正規模適正配置基本計画の策定にあたり、検討委員会運営がスムーズに進行できるよう、検討委員会が出た課題等について協議を行うなど、運営サポートを行った。		
			実績	0	0	8	5	5				
<指標の計算方法>		紀の川市立学校適正規模適正配置検討作業部会の開催回数										
活動指標	住民説明会等開催回数	回	目標	0	0	0	10	12	今後、第1次実施計画の策定にあたり、第1次実施計画の対象校に在籍する児童及びその校区に住所を有する就学前児童の保護者の方を対象とした意見交換会を開催し、子供達の事を第1に考えた計画の策定に努める。			
		実績	0	0	0	10	12					
<指標の計算方法>		児童及び就学前児童の保護者の方や地域住民の方等を対象に行った住民説明会及び意見交換会等の開催回数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,620			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		3,620	
事業の実績	<p>①学校適正規模適正配置検討委員会開催 令和3年度の答申を基に、紀の川市立学校適正規模適正配置基本計画（以下「基本計画」）の策定にあたり、令和4年7月に検討委員会を発足し、計5回の協議を開催し基本計画の内容を取決めた。 ・第1回検討委員会：令和4年10月17日 ・第2回検討委員会：令和4年11月14日 ・第3回検討委員会：令和4年11月28日 ・第4回検討委員会：令和4年12月8日 ・第5回検討委員会：令和5年2月13日</p> <p>検討委員15名（学識経験者、PTAの代表、学校長、住民の代表、教育委員会が必要と認めた者：就学前児童の保護者の代表）</p> <p>作業部会員9名（市立学校の運営に関する実務担当者により構成）</p>											
	<p>②基本計画の策定</p> <p>全国的な少子化に伴い、紀の川市においても児童生徒が減少する中、子供達にとって、より良い教育環境の構築を目指し基本計画を策定した。 ・基本計画（案）におけるパブリックコメント実施結果 意見：52件（17人） 募集期間：令和5年1月4日～1月31日</p>											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・紀の川市立学校の今後の在り方について検討する事業であり、市（教育委員会）が所管し、事業を継続することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・全国的に少子化が進み、紀の川市においても児童生徒数が減少し、紀の川市立学校、特に小学校において学校規模に差が生じてきている現状を踏まえ、また、今後においてもさらに減少することが予測される中、学校規模による教育環境・条件に不均衡を生じさせないための対策をおこなっていくことは有効であると考えます。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・紀の川市立学校に通う児童生徒には、単に教科等の知識や技術を習得させるだけでなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決力などを育み、社会性や規範性を身に付け、急激な社会の変化にも対応できる力を身に付けてもらうことに重点をおいているため、学校規模による不均衡の是正や教育上の課題の改善をおこない、子供達にとってより良い教育環境を構築していくことは効率性があると考えます。また、学校の統合により通学が遠距離となる児童に対し、児童の安全を第一に考えた通学手段として、スクールバスの導入は効率性があると考えます。												

事務事業の概要	事務事業名	小学校運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	606	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	児童が円滑に学校生活が行えるように、小学校に校務員の配置や備品の整備等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校運営協議会			⑤				⑨			
	②	校務員配置			⑥				⑩			
	③	ICT支援員配置			⑦				⑪			
	④	学校備品整備			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	校務員配置校数	校	目標	16	16	15	15	15	全小学校に校務員を配置している。		
				実績	16	16	15					
	<指標の計算方法>		校務員を配置している小学校数									
	活動指標	備品購入費決算額	千円	目標							校務用パソコン及び新型コロナウイルス感染症対策備品を購入したため、実績額が増加した。	
				実績	30,619	11,091	55,286					
<指標の計算方法>		全小学校における備品購入費（庁用器具購入費と機械器具購入費）に係る決算額										
成果指標	ICT支援員配置数	人	目標		6	7	8	11	文部科学省が策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」の水準（ICT支援員は4校に1人配置）を満たすことができている。しかし、この水準は最低限度のものであり、引き続き人数の増加を進めていく。			
			実績		6	8						
<指標の計算方法>		市内全小中学校へのICT支援員配置人数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
294,419			6,465					6,417	281,537			
事業の実績	①学校運営協議会 全小学校に学校運営協議会を設置し、年間3回程度開催した。											
	②校務員設置 全小学校15校に1人ずつ配置した。											
	③ICT支援員配置 市内の小中学校全体で8名のICT支援員を配置した。											
	④学校備品整備 校務用パソコン、児童の机及び椅子、ビジネスフォンなどの備品を購入した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・小学校の運営に必要な経費であり、継続して行うことが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・小学校の運営に必要な経常経費であるが、限られた予算を有効に執行できるように学校へ指導している。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・支払事務の効率化を図るため、学校への継続的な指導が必要である。 ・人材確保や労務管理の観点から校務員の外部委託の検討を行う必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校施設管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	599	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	児童、教職員が学校施設を安全で快適に利用できるように、小学校施設の適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	小学校施設管理			⑤					⑨		
	②	小学校施設改修			⑥					⑩		
	③				⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	屋内運動場照明のLED化工事実施校数	校	目標	0	3	2	0	0	屋内運動場照明のLED化未実施校のうち、上名手小学校、麻生津小学校において屋内運動場照明のLED化を実施した。		
				実績	0	3	2					
	<指標の計算方法>		屋内運動場照明を新たにLED化する学校数									
	成果指標	屋内運動場照明のLED化を完了した学校の割合	%	目標	68.75	87.5	100	100	100	新たに2校の屋内運動場照明のLED化を実施したため、LED化率100%に増加。(12.5%増)全小学校の屋内運動場照明のLED化が完了した。		
				実績	68.75	87.5	100					
	<指標の計算方法>		屋内運動場照明に占めるLED化が完了した学校数の割合									
成果指標	施設改修工事実施箇所数	箇所	目標	5	4	4	3	3	令和3年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、必要に応じた改修工事を実施している。			
			実績	5	9	2						
<指標の計算方法>		防水工事や機能改善等に係る工事の実施箇所数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	59,283			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①小学校施設管理 ・施設管理に伴う各種業務委託 ・使用料及び賃借料(土地借り上げ、電柱共架料)の契約事務及び支払い ・施設器具修繕 ②小学校施設改修 (改修工事に伴う設計監理業務委託を含む) ・上名手小学校屋内運動場照明器具他改修工事 ・麻生津小学校屋内運動場照明器具他改修工事											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童及び教職員が安全かつ快適に使用できるように、老朽化していく施設の維持管理に必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・老朽化していく施設の状況等を鑑みると修繕費を減らすことは難しいが、各校とも限られた予算の中で大きな改修に至らないよう修繕で対応できるうちに対応し、施設の維持管理に努めている。 ・施設長寿命化推進の観点から適切な維持管理に努めること。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・保守点検結果や令和3年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、緊急性や優先度を精査したうえで必要に応じた改修工事を実施し、児童・教職員に安全及び快適な学習環境を提供できている。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校施設長寿命化事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R42)		事業番号	1218	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	学校施設の劣化状況や状態の変化を把握し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び平準化を図りつつ、改修等の優先順位、改修内容、実施時期等を定め、学校施設に求められる機能・性能を確保する事業											
事務事業を構成する細事業	①	設計監理業務委託			⑤				⑨			
	②	設計業務委託			⑥				⑩			
	③	工事請負費			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	設計及び設計監理業務実施件数	件	目標				6	1	0	学校施設等長寿命化計画どおり実施できている。	
				実績				6				
	<指標の計算方法>		工事を実施するための設計業務及び設計監理業務の実施件数									
	活動指標	工事実施件数	件	目標				3	5	0		学校施設等長寿命化計画どおり工事を施工したが、池田小学校外壁他改修工事については、アスベストが検出され、工法を変更したことに伴い工期延長となり令和5年度に繰越になった。
				実績				2				
	<指標の計算方法>		長寿命化工事を実施した件数									
成果指標	小学校施設の長寿命化計画に基づく工事進捗率	%	目標			6.5	9.4	9.4	学校施設等長寿命化計画どおり工事を施工したが、池田小学校外壁他改修工事については、アスベストが検出され、工法を変更したことに伴い工期延長となり令和5年度に繰越になった。			
			実績			5						
<指標の計算方法>		学校施設等長寿命化計画の対象となる施設において整備が完了した割合										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			248,182			225,300	10,000		12,882			
事業の実績	①設計監理業務委託 ・池田小学校外壁他改修工事設計監理業務 ・粉河小学校外壁他改修工事設計監理業務 ・中貴志小学校外壁他改修工事設計監理業務											
	②設計業務委託 ・川原小学校屋内運動場外壁他改修工事設計業務 ・名手小学校屋内運動場外壁他改修工事設計業務 ・東貴志小学校屋内運動場外壁他改修工事設計業務											
	③工事請負費 ・池田小学校外壁他改修工事（繰越） ・粉河小学校外壁他改修工事 ・中貴志小学校外壁他改修工事 ・名手小学校屋内運動場外壁他改修工事（繰越）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童にとって必要な学校施設の環境整備は、学校設置者として市が実施すべき事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・学校施設については、施設数も多く規模や経過年数などにより既存施設の劣化状況は様々であり、抜本的な対策がない限り年々保全改修箇所は増加していく。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・学校施設等長寿命化計画に基づき、計画的な保全を行い既存施設を効果的に活用する。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校空調設備整備事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	951	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
取組方針	3	安全・安心で快適な教育環境の充実										
事業概要	児童及び教職員等の学習環境の改善を図るため、空調設備を特別教室等に年次的・計画的に設置する事業											
事務事業を構成する細事業	①	空調設備設置工事			⑤					⑨		
	②	監理業務委託			⑥					⑩		
	③	設計業務委託			⑦					⑪		
	④				⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	空調設備設置工事実施件数	件	目標			2	6	3	2	計画どおり、特別教室（理科室・家庭科室）及び特別支援教室の空調設備未設置校に設置した。	
				実績			2	6				
	<指標の計算方法>		教室へ新たに空調設備を設置する件数									
	活動指標	空調設備設置工事設計業務実施件数	件	目標			5	3	2	0		計画どおり、特別教室（理科室・家庭科室）の空調設備未設置校に設置するための設計を実施した。
				実績			6	3				
	<指標の計算方法>		教室へ新たに空調設備を設置するための設計を実施する件数									
	成果指標	普通教室及び特別支援教室への空調設備設置を完了した学校の割合	%	目標			99	100	100	100	令和4年度から特別支援教室が増加した学校に、計画どおり設置したことにより、設置率が100%となった。	
				実績			99	100				
	<指標の計算方法>		普通教室及び特別支援教室の室数に占める空調設備設置室数の割合									
成果指標	特別教室（理科室・家庭科室）への空調設備設置を完了した学校の割合	%	目標			32	67	87	100	計画どおり、特別教室（理科室・家庭科室）及び特別支援教室の空調設備未設置校に設置し、令和4年度の目標値は達成した。		
			実績			32	67					
<指標の計算方法>		特別教室（理科室・家庭科室）の室数に占める空調設備設置室数の割合										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
		90,519		10,233			15,300	10,000			54,986	
事業の実績	①空調設備設置工事 ・池田小学校特別支援教室空調設備設置工事 ・粉河小学校特別教室空調設備設置工事 ・丸栖小学校特別教室空調設備設置工事 ・西貴志小学校特別教室空調設備設置工事 ・中貴志小学校特別教室空調設備設置工事 ・東貴志小学校特別教室空調設備設置工事 ②監理業務委託 ・池田小学校特別支援教室空調設備設置工事監理業務 ・粉河小学校特別教室空調設備設置工事監理業務 ・丸栖小学校特別教室空調設備設置工事監理業務 ・西貴志小学校特別教室空調設備設置工事監理業務 ・中貴志小学校特別教室空調設備設置工事監理業務 ・東貴志小学校特別教室空調設備設置工事監理業務 ③設計業務委託 ・長田・川原・調月小学校特別教室空調設備設置工事設計業務											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・児童及び教職員が安全かつ快適に学校生活を過ごせるように、熱中症対策や寒冷対策として必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・限られた予算の中で、特別教室（理科室・家庭科室）への空調設備未設置校に対して順次計画的に設置を進めており、設定した目標を達成できている。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・空調設備設置工事の予定年度の前年度に設計業務を実施することにより、空調設備の需用が高まる時期に合わせてスムーズに施工できるよう、施工管理を工夫するように努めている。												

事務事業の概要	事務事業名	小学校トイレ洋式化事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	1033
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
取組方針	3	安全・安心で快適な教育環境の充実										
事業概要	児童、教職員がトイレを快適に利用できるように、小学校のトイレの洋式化を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	トイレ改修工事			⑤						⑨	
	②	設計監理業務委託			⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	工事実施校数	校	目標	3	4	2			目標どおり安楽川小学校屋内運動場、丸栖小学校屋内運動場に設置した。		
				実績	3	4	2					
	<指標の計算方法>		トイレ改修を実施した小学校数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
7,603			126			200				7,277		
事業の実績	①トイレ改修工事 ・安楽川小学校屋内運動場トイレ改修工事 ・丸栖小学校屋内運動場トイレ改修工事											
	②設計監理業務委託 ・安楽川小学校・丸栖小学校屋内運動場トイレ改修工事設計監理業務											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生活様式の変化に対応するための改修工事であり、トイレ環境の充実を図ることができている。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・当初計画のとおり、洋式トイレを安楽川小学校屋内運動場、丸栖小学校屋内運動場に設置し目標を達成した。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・継続事業であるため、工事進捗のチェックポイント等のノウハウが経験により蓄積されているので、迅速に判断できるようになってきている。											

事務事業の概要	事務事業名	小学校教育情報化事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1152		
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育				
		目	1 小学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実				
取組方針	3	安全・安心で快適な教育環境の充実											
事業概要	児童に個別最適化された教育を効果的・効率的に実現するため、小学校におけるICT環境の整備を行う事業。												
事務事業を構成する細事業	①	ICT環境の整備			⑤				⑨				
	②				⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	教育のICT化に向けた環境整備5か年計画の達成率	%	目標	60	80	85	85	100	教育のICT化に向けた環境整備5か年計画に掲げられている6つの目標のうち、唯一未達成目標の大型提示装置の整備について、令和4年度度に特別教室用として各校2台ずつ整備を実施した。(目標は各校6台の配備)			
				実績	80	85	85						
	<指標の計算方法>		計画に掲げている目標水準6項目の達成率										
		目標											
		実績											
	<指標の計算方法>												
	目標												
	実績												
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	4,784			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	4,784			
事業の実績	① ICT環境の整備												
	・大型提示装置・実物投影機の整備 増設された特別支援学級へ合計6台導入												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・これからの子供たちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校ICT環境の整備は遅れているため、令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務とされている。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・国庫補助や地方財政措置などを有効活用して事業を行っている。 ・また、新型コロナウイルス感染症対策のために小中学校を臨時休業する場合の学習の保障等にもICTの環境整備は有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・市内小中学校全体を整備することにより、スケールメリットを生かして予算を効率的に執行するとともに、人的負担も軽減している。												

事務事業の概要	事務事業名	小学校教育活動事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	595	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	2 小学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	2 小学校教育振興費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	児童の学力向上と豊かな心や感性をはぐくむために、教材の購入や各種補助金の交付を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	教材器具・教科書整備			⑤	教員研修費等補助金			⑨			
	②	現場学習等引率費補助金			⑥	学校農園補助金			⑩			
	③	緑育推進事業補助金			⑦				⑪			
	④	宿泊体験活動推進事業補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	図書充足率を満たしている学校数	校	目標	16	16	15	15	15	年次計画に基づき計画的に図書の購入を行っているが、学校司書の配置により新しい図書への入れ替え等の蔵書整理を行っているため、充足率が低い状態が続いている。		
			実績	5	2	2						
	<指標の計算方法>		文科省が定める学校図書館図書標準に対する充足率を満たしている学校数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	19,557			国庫支出金	158	県支出金	1,406	地方債	繰入金	その他	一般財源	17,993
事業の実績	①教材器具・教科書整備 4,854,960円			④宿泊体験活動推進事業補助金 共同生活を通して豊かな心や感性を育むために行う集団宿泊体験に対し補助を行った。 ⑤教職員研修費等補助金 研修に参加する教員の参加費や、校内研修の費用を補助した。 ⑥学校農園補助金 学校農園の運営に係る種苗や土、機材の費用を補助した。								
	②現場学習等引率費補助金 修学旅行や現場学習に係る教員の交通費や宿泊費などを補助した。 ③緑育推進事業補助金 森林学習や間伐体験を通し、森林の持つ様々な機能や大切さを学び、間伐材を利用した木工クラフトや本立て等を製作した。 実施校及び参加人数 長田小 : 17人 182,874円 川原小 : 13人 172,529円 竜門小 : 13人 182,891円 上名手小 : 37人 189,965円 安楽川小 : 59人 678,006円 合計 5校 : 139人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・教育活動に必要な不可欠な教材等の購入や活動に対する補助を行う事業であり、今後も継続することが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・教育活動に必要な不可欠な教材や備品、図書などの購入にあたり、数社から見積を徴して少しでも安価に購入できるようにしている。 ・図書充足率を満たしている学校数については、年次計画に基づき図書を購入しているため、計画どおりに購入を継続していく。 ・研究授業や各種体験などに係る費用の一部を補助し、円滑に教育活動が行えるように支援できている。												
効率性	効果性	評価結果	改善の余地がない									
		・次年度の予算策定にあたり、学校から要望を聴取した上で査定したり、日常的に購入事務などについて指導していることで効率的な事業及び予算の執行が行えている。										

事務事業の概要	事務事業名		児童就学援助事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	589
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	2 小学校費				施策目標	2 学校教育				
		目	2 小学校教育振興費				基本施策	1 学校教育環境の充実				
事業概要			経済的理由により就学が困難となる児童が就学できるように、保護者に学用品費用等の一部を支援する事業									
事務事業を構成する細事業		①	要保護及び準要保護児童生徒就学援助費			⑤			⑨			
		②	特別支援教育就学奨励費			⑥			⑩			
		③				⑦			⑪			
		④				⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	就学援助費認定者数	人	目標						児童数は減少傾向にあり、就学援助の支援を必要とする保護者も減少した。		
			実績		384	373	344					
	<指標の計算方法>		年度内認定者数（4月1日付で認定取り消しした者を除く）									
	活動指標	特別支援教育就学奨励費認定者数	人	目標						児童数は減少傾向であるが、特別支援学級対象児童の増加、及び医療的ケアを必要とする児童・保護者が特別支援学校ではなく、地元校への進学希望が増加傾向にある。		
			実績		131	131	148					
<指標の計算方法>		年度内の認定者数										
成果指標	市立小学校における就学援助認定者の割合	%	目標						認定者数が減少した。			
		実績		13.2	13	12.1						
<指標の計算方法>		年度内認定者数（4月1日付で認定取り消しした者を除く）÷3月1日現在児童数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	11,068			国庫支出金	935	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	10,133	
事業の実績	①要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 ・経済的に就学が困難な児童に対し、学用品費、修学旅行費等必要な援助を行い、円滑な義務教育の推進を図った。 ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助費認定者数 市内:15小学校 341人 市外:3小学校 3人、市内小学校の認定率 12.1% 支給者数 344人（うち市外3人） ※認定者のうち要保護者1名 修学旅行費の支給を含む。 ・令和4年度に新1年生になる児童に対し、新入学学用品費等の入学前支給を行った。（生活保護法第6条第2項に規定する要保護者で現に保護を受けている保護者に準ずる程度に困窮している保護者） 支給者数：39人 ②特別支援教育就学奨励費 ・特別支援学級に就学する児童の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図った。 ・特別支援教育就学奨励費認定者数 市内14小学校 148人 支給者数 148人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・就学援助費は、経済的に就学が困難な家庭の児童を就学させるために必要な事業である。 ・特別支援教育就学奨励費は、特別支援学級に入級している児童の保護者のうち、世帯所得が一定の額より低い保護者に支給しており、保護者負担の軽減に必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・就学援助・特別支援教育就学奨励費ともに就学にかかる保護者の経済的負担が軽減されており、児童の適正な就学に有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・就学援助システム導入により効率化が図られているが、一部システムで対応出来ない項目がありエクセル管理と2重管理になっている。											

事務事業の概要	事務事業名	中学校運営事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	583	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 中学校管理費				基本施策	2	子供の力をのばす教育			
事業概要	生徒が円滑に学校生活が行えるように、中学校に校務員の配置や備品の整備等を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校運営協議会			⑤				⑨			
	②	校務員配置			⑥				⑩			
	③	ICT支援員配置			⑦				⑪			
	④	学校備品整備			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	校務員配置校数	校	目標	5	5	6	5	5	全中学校に校務員を配置している。		
				実績	5	5	6					
	<指標の計算方法>		校務員を配置している中学校数									
	活動指標	備品購入費決算額	千円	目標							校務用パソコン及び新型コロナウイルス感染症対策備品を購入したため、実績額が増加した。	
				実績	14,137	4,908	25,461					
<指標の計算方法>		全中学校における備品購入費（庁用器具購入費と機械器具購入費）に係る決算額										
成果指標	ICT支援員配置数	人	目標		6	7	8	11	文部科学省が策定した「教育のICT化に向けた環境整備5か年計画」の水準（ICT支援員は4校に1人配置）を満たすことができている。しかし、この水準は最低限度のものであり、引き続き人数の増加を進めていく。			
			実績		6	8						
<指標の計算方法>		市内全小中学校へのICT支援員配置人数										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
154,338			2,945	1,155				3,049	147,189			
事業の実績	①学校運営協議会 全中学校に学校運営協議会を設置し、年間3回程度開催した。											
	②校務員配置 中学校6校（打田中学校仙溪分校除く）に校務員を配置した。											
	③ICT支援員配置 市内の小中学校全体で8名のICT支援員を配置した。											
	④学校備品整備 校務用パソコン、小型無線機などの備品を購入した。											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・中学校の運営に必要な経常経費であり、継続して行うことが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・中学校の運営に必要な経常経費であるが、限られた予算を有効に執行できるように学校へ指導をしている。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・支払い事務の効率化を図るため、学校への継続的な指導が必要である。 ・校務員の外部委託の検討を行う必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	中学校施設管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	580		
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育				
		目	1 中学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実				
事業概要	生徒、教職員が学校施設を安全で快適に利用できるように、中学校の施設の適切な維持管理や改修を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	中学校施設管理			⑤					⑨			
	②	中学校施設改修			⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	屋内運動場及び格技場照明のLED化工事実施校数	校	目標	1	2	1	2	0	屋内運動場及び格技場のLED化未実施校のうち、那賀中学校格技場において照明のLED化を実施した。			
				実績	1	2	1						
	<指標の計算方法>		屋内運動場及び格技場照明を新たにLED化する学校数										
	成果指標	屋内運動場及び格技場照明のLED化を完了した学校数の割合	%	目標	50	70	80	100	100			新たに1校の格技場照明のLED化を実施したため、LED化率80%に増加（10%増）。	
				実績	50	70	80						
<指標の計算方法>		屋内運動場及び格技場照明に占めるLED化が完了した学校数の割合											
成果指標	施設改修工事実施箇所数	箇所	目標	2	3	3	1	2	令和3年度に学校からヒアリングを行い、必要に応じた改修工事を実施している。また、突発的な改修工事にも対応し、生徒・教職員に安全で快適な学習環境を提供できている。				
			実績	2	5	2							
<指標の計算方法>		防水工事や機能改善等に係る工事の実施箇所数											
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	26,936			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
					2,400		180	24,356					
事業の実績	①中学校施設管理 ・施設管理に伴う各種業務委託 ・使用料及び賃借料（土地借上げ、電柱共架料）の契約事務及び支払 ・施設器具修繕 ②中学校施設改修 (改修工事に伴う設計監理業務委託を含む) ・那賀中学校格技場照明器具改修工事 ・荒川中学校特別活動室間仕切り増設工事												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・生徒及び教職員が安全かつ快適に使用できるように、老朽化していく施設の維持管理に必要な事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・老朽化していく施設の状況等を鑑みると修繕費を減らすことは難しいが、各校とも限られた予算の中で大きな改修に至らないよう修繕で対応できるうちに対応し、施設の維持管理に努めている。 ・施設長寿命化推進の観点から適切な維持管理に努めること。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・保守点検結果や令和3年度に実施した学校でのヒアリングをもとに、緊急性や優先度を精査したうえで必要に応じた改修工事を実施し、生徒・教職員に安全及び快適な学習環境を提供できている。												

事務事業の概要	事務事業名	中学校施設長寿命化事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度 (R3～R42)		事業番号	1219	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 中学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	学校施設の劣化状況や状態の変化を把握し、中長期的な維持管理等に係るトータルコストの縮減及び平準化を図りつつ、改修等の優先順位、改修内容、実施時期等を定め、学校施設に求められる機能・性能を確保する事業											
事務事業を構成する細事業	①	設計監理業務委託			⑤				⑨			
	②	設計業務委託			⑥				⑩			
	③	工事請負費			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	設計及び設計監理業務実施件数	件	目標				3	1	0	学校施設等長寿命化計画どおり実施できている。	
				実績				3				
	<指標の計算方法>		工事を実施するための設計業務及び設計監理業務の実施件数									
	活動指標	工事実施件数	件	目標				0	4	1	令和5年度からの指標である。	
				実績				0				
	<指標の計算方法>		工事を実施した件数									
成果指標	学校施設の長寿命化計画に基づく工事進捗率	%	目標				0	11.4	13.6	令和5年度からの指標である。		
			実績				0					
<指標の計算方法>		学校施設等長寿命化計画の対象となる施設において整備が完了した割合										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	11,234			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	934		
事業の実績	①設計監理業務委託 ・令和4年度なし ②設計業務委託 ・打田中学校格技場大規模改造工事設計業務 ・荒川中学校屋内運動場外壁他改修工事設計業務 ・貴志川中学校外壁他改修工事設計業務 ③工事請負費 ・荒川中学校屋内運動場外壁他改修工事（繰越） ・貴志川中学校外壁他改修工事（繰越）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生徒にとって必要な学校施設の環境整備は、学校設置者として市が実施すべき事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・学校施設については、施設数も多く規模や経過年数などにより既存施設の劣化状況は様々であり、抜本的な対策がない限り年々保全改修箇所は増加していく。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・学校施設等長寿命化計画に基づき、計画的な保全を行い既存施設を効果的に活用する。											

事務事業の概要	事務事業名	中学校空調設備整備事業			担当課	教育総務課		事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	完了	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1019
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育		
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育		
		目	1 中学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実		
取組方針				3	安全・安心で快適な教育環境の充実						
事業概要	生徒及び教職員等の学習環境の改善を図るため、特別教室等に空調設備を年次的、計画的に設置する事業										
事務事業を構成する細事業	①	設計業務委託			⑤				⑨		
	②	監理業務委託			⑥				⑩		
	③	設計監理業務委託			⑦				⑪		
	④	空調設備設置工事			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	空調設備設置工事実施件数	目標			5	7	0	計画通り、特別教室の空調設備未設置校に設置するとともに、部品の調達不足により繰り越した屋内運動場の空調設備設置工事も完了した。		
			実績			0	7				
	<指標の計算方法>		教室等へ新たに空調設備を設置する件数								
	活動指標	空調設備設置工事設計業務実施件数	目標			7	0	0	令和4年度事業なし。		
			実績			7	0				
	<指標の計算方法>		教室等へ新たに空調設備を設置するための設計を実施する件数								
	成果指標	屋内運動場への空調設備設置を完了した学校の割合	目標			100	100	0	新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で一部の部品が調達できず繰越となっていたが、設置が完了したことにより設置率は100%となった。		
			実績			0	100				
	<指標の計算方法>		屋内運動場を有する中学校数に占める空調設備設置校数の割合								
成果指標	特別教室への空調設備設置を完了した学校の割合	目標			73	89	0	計画通り、特別教室（理科室・家庭科室・技術室・美術室）の空調設備未設置校に設置した。			
		実績			73	89					
<指標の計算方法>		特別教室（理科室・家庭科室・技術室・美術室）の室数に占める空調設備設置室数の割合									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			138,983	10,829		83,100	10,000	1,109	33,945		
事業の実績	①設計業務委託 令和4年度なし			<ul style="list-style-type: none"> ・貴志川中学校特別教室空調設備設置工事 ④空調設備設置工事（R3からの繰越） ・打田中学校屋内運動場空調設備設置工事 ・粉河中学校屋内運動場空調設備設置工事 ・那賀中学校屋内運動場空調設備設置工事 ・荒川中学校屋内運動場空調設備設置工事 ・貴志川中学校屋内運動場空調設備設置工事 							
	②監理業務委託 ・那賀中学校特別教室空調設備設置工事監理業務 ・貴志川中学校特別教室空調設備設置工事監理業務										
③設計監理業務委託（R3からの繰越） ・打田中学校屋内運動場空調設備設置工事設計監理業務 ・粉河中学校屋内運動場空調設備設置工事設計監理業務 ・那賀中学校屋内運動場空調設備設置工事設計監理業務 ・荒川中学校屋内運動場空調設備設置工事設計監理業務 ・貴志川中学校屋内運動場空調設備設置工事設計監理業務											
④空調設備設置工事 ・那賀中学校特別教室空調設備設置工事											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒及び教職員が安全かつ快適に学校生活を過ごせるように、熱中症対策や寒冷対策として必要な事業である。 ・特に熱中症対策については、屋内運動場の避難所機能強化につながるものとして、必要な事業である。 									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
<ul style="list-style-type: none"> ・限られた予算の中で、特別教室（理科室・家庭科室・技術室・美術室）への空調設備未設置校に対して順次計画的に設置を進めており、設定した目標を達成できている。 											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	<ul style="list-style-type: none"> ・空調設備設置工事の予定年度の前年度に設計業務を実施することにより、空調設備の需が高まる時期に合わせてスムーズに施工できるよう施工管理を工夫するように努めている。 										

事務事業の概要	事務事業名	中学校トイレ洋式化事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業		
	会計	一般会計			新規・継続	新規	事業期間	単年度のみ			事業番号	1032
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育			
		目	1 中学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
事業概要	生徒、教職員が快適にトイレを利用できるように、中学校のトイレの洋式化を図る事業											
事務事業を構成する細事業	①	トイレ改修工事			⑤						⑨	
	②	設計監理業務委託			⑥						⑩	
	③				⑦						⑪	
	④				⑧						⑫	
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	工事実施校数	校	目標				1			目標通り貴志川中学校屋内運動場に設置した。	
				実績				1				
	<指標の計算方法>		トイレ改修を実施した中学校数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
8,591			379			700			7,512			
事業の実績	①トイレ改修工事 ・貴志川中学校屋内運動場トイレ改修工事											
	②設計監理業務委託 ・貴志川中学校屋内運動場トイレ改修工事設計監理業務											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・生活様式の変化に対応するための改修であり、トイレ環境の充実を図ることができている。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・当初計画のとおり、洋式トイレを貴志川中学校屋内運動場に設置し目標を達成した。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・小学校において継続的にトイレ改修を実施してきたため、工事進捗のチェックポイント等のノウハウが経験により蓄積されており、中学校の改修においても迅速に判断できるようになってきている。											

事務事業の概要	事務事業名	中学校教育情報化事業			担当課	教育総務課			事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1153		
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育				
		目	1 中学校管理費				基本施策	1	学校教育環境の充実				
取組方針	3	安全・安心で快適な教育環境の充実											
事業概要	生徒に個別最適化された教育を効果的・効率的に実現するため、中学校におけるICT環境の整備を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	ICT環境の整備			⑤				⑨				
	②				⑥				⑩				
	③				⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	教育のICT化に向けた環境整備5か年計画の達成率	%	目標	60	80	85	85	100	教育のICT化に向けた環境整備5か年計画に掲げられている6つの目標のうち、唯一未達成目標の大型提示装置の整備について、令和4年度に特別教室用として各校2台ずつ整備を実施した。(目標は各校6台の配備)			
				実績	80	85	85						
	<指標の計算方法>		計画に掲げている目標水準6項目の達成率										
		目標											
		実績											
	<指標の計算方法>												
	目標												
	実績												
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	2,291			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,291			
事業の実績	① ICT環境の整備												
	・大型提示装置・実物投影機の整備 増設された特別支援学級へ合計3台導入												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・これからの子供たちにとって、教育におけるICTを基盤とした先端技術等の効果的な活用が求められる一方で、現在の学校ICT環境の整備は遅れているため、令和時代のスタンダードな学校像として、全国一律のICT環境整備が急務とされている。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・国庫補助や地方財政措置などを有効活用して事業を行っている。 ・また、新型コロナウイルス感染症対策のために小中学校を臨時休業する場合の学習の保障等にもICTの環境整備は有効である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・市内小中学校全体を整備することにより、スケールメリットを生かして予算を効率的に執行するとともに、人的負担も軽減している。												

事務事業の概要	事務事業名	中学校教育活動事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	576			
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育					
		項	3 中学校費				施策目標	2	学校教育					
		目	2 中学校教育振興費				基本施策	2	子供の力をのばす教育					
事業概要	生徒の学力向上と豊かな心や感性をはぐくむために、教材の購入や各種補助金の交付を行う事業													
事務事業を構成する細事業	①	教材器具・教科書整備			⑤				⑨					
	②	生徒派遣費補助金			⑥				⑩					
	③	教職員研修費等補助金			⑦				⑪					
	④	現場学習等引率費補助金			⑧				⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析					
	成果指標	図書充足率を満たしている学校数	校	目標	7	7	7	6	6	年次計画に基づき計画的に図書の購入を行っているが、学校司書の配置により新しい図書への入れ替え等の蔵書整理を行っているため、充足率が低い状態が続いている。				
			実績	2	1	1								
	<指標の計算方法>		文科省が定める学校図書館図書標準に対する充足率を満たしている学校数											
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	22,700			国庫支出金	210	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	22,490			
事業の実績	①教材器具・教科書整備 4,113,450円													
	②生徒派遣費補助金 体育の振興及び文化の向上を図るため、市立中学校がクラブ活動において全国大会を始めとする各種大会に選手を派遣する際の交通費、宿泊費等の経費について補助した。													
	③教職員研修費等補助金 研修に参加する教員の参加費や、校内研修の費用を補助した。													
	④現場学習等引率費補助金 修学旅行や現場学習に係る教員の交通費や宿泊費などを補助した。													
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・教育活動に必要な不可欠な教材等の購入や活動に対する補助を行う事業であり、今後も継続することが妥当な事業である。												
	有効性	評価結果	改善の余地がややある											
・教育活動に必要な不可欠な教材や備品、図書などの購入にあたり、数社から見積を徴して少しでも安価に購入できるようにしている。 ・図書充足率を満たしている学校数については、年次計画に基づき図書を購入しているため、計画どおりに購入を継続していく。 ・研究授業や各種体験などに係る費用の一部を補助し、円滑に教育活動が行えるように支援できている。														
効率性	評価結果	改善の余地がない												
	・次年度の予算策定にあたり、学校から要望を聴取した上で査定したり、日常的に購入事務などについて指導していることで効率的な事業及び予算の執行が行えている。													

事務事業の概要	事務事業名	生徒就学援助事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	571	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	3 中学校費				施策目標	2 学校教育				
		目	2 中学校教育振興費				基本施策	1 学校教育環境の充実				
事業概要	経済的理由により就学が困難となる生徒が就学できるように、保護者に学用品費用等の一部を支援する事業											
事務事業を構成する細事業	①	要保護及び準要保護児童生徒就学援助費			⑤			⑨				
	②	特別支援教育就学奨励費			⑥			⑩				
	③				⑦			⑪				
	④				⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	就学援助費認定者数	人	目標						生徒数は減少傾向にあるが、就学援助の支援を必要とする保護者は増加傾向にある。		
			実績	186	192	214						
	<指標の計算方法>		年度内認定者数（4月1日付で認定取り消しした者を除く）									
	活動指標	特別支援教育就学奨励費認定者数	人	目標						特別支援学級対象の生徒の増加及び医療的ケアを必要とする生徒・保護者が特別支援学校ではなく地元校への進学希望が増加傾向にある。		
実績			44	50	53							
<指標の計算方法>		年度内認定者数										
成果指標	市立中学校における就学援助認定者の割合	%	目標						生徒数が減少したが、就学援助の認定者が増加した。			
		実績	12.8	13.5	15.2							
<指標の計算方法>		年度内認定者数（4月1日付で認定取り消しした者を除く）÷3月1日現在生徒数										
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	12,718			国庫支出金	655	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	12,063	
事業の実績	①要保護及び準要保護児童生徒就学援助費 ・経済的に就学が困難な生徒に対し、学用品費、修学旅行費等必要な援助を行い、円滑な義務教育の推進を図った。 ・要保護及び準要保護児童生徒就学援助費認定者数：市内6中学校 209人、市外4中学校5人 市内中学校の認定率15.2% 支給者数 214人（うち市外5人） ※支給対象となる要保護者（生活保護受給者）は1人修学旅行費支給実績含む。 ・令和5年度に新中学1年生になる生徒に対し新入学学用品費等の入学前支給を行った。（生活保護法第6条第2項に規定する要保護者で現に保護を受けている保護者に準る程度に困窮している保護者）支給者数：54人 ・特別支援教育就学奨励費 ・特別支援学級に就学する生徒の保護者の経済的負担を軽減し、特別支援教育の普及奨励を図った。 ・特別支援教育就学奨励費認定者数 市内5中学校 53人 支給者数 53人											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・就学援助費は経済的に就学が困難な家庭の生徒を就学させるために必要な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・就学援助・特別支援教育就学奨励費ともに就学にかかる保護者の経済的負担が軽減されており、生徒の適正な就学に有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・就学援助システム導入により効率化が図られているが、一部システムで対応出来ない項目があり、別で管理する必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	私立幼稚園運営支援事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し			事業番号	119	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育					
		項	4 幼稚園費				施策目標	2 学校教育					
		目	1 幼稚園費				基本施策	2 子供の力をのばす教育					
事業概要	幼児が適正に就園できるように、保護者に施設利用費等の支給を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	施設等利用費			⑤				⑨				
	②	私立幼稚園運営補助金			⑥				⑩				
	③	私立幼稚園第二子以降無料化事業補助金			⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	第2子以降保育料無料化事業費補助金支給園児数	人	目標						令和元年度の下半期より幼児教育・保育の無償化事業が開始されたことに伴い利用者数は少なく、令和4年度の実績は1名となった。			
				実績				1					
	<指標の計算方法>		第2子以降保育料無料化事業費補助金支給園児数										
				目標									
				実績									
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			25,840	10,015	5,106					10,719			
事業の実績	①施設等利用費 ・施設等利用費 紀の川市 1幼稚園 57人 岩出市 2幼稚園 19人 和歌山市 2幼稚園 3人 ・補足給付費 紀の川市 1幼稚園 9人 岩出市 1幼稚園 2人												
	②私立幼稚園運営補助金 ・紀の川市内私立幼稚園の運営を助成し、幼児教育の推進を図った。												
	③私立幼稚園第二子以降無料化事業補助金 ・補助申請実績は1名となった。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある										
		・運営補助金について、子ども・子育て支援制度に移行していない幼稚園のみを対象として支出しているが、令和4年度から支出額を段階的に引き下げ、令和5年度で終了する。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・保護者の経済的負担を軽減することで子育て支援策の充実を図ることができている。 ・私立幼稚園の運営を補助することで教育環境の充実を図っている。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・幼児教育・保育の無償化事務は、私立幼稚園就園奨励補助事務の名残で現在本市での事務はこども課と教育総務課の2課にまたがって実施しているが、幼児教育保育の無償化事業は子ども・子育て支援法により実施されることとなったため、利用者にも担当部署を分かりやすくするために令和5年度には窓口を保育課へ一本化した。												

事務事業の概要	事務事業名	社会教育推進事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業					
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	567			
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育					
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ					
		目	1 社会教育総務費				基本施策	1	生涯学習の推進					
事業概要	市が適切に社会教育施策を推進するために、関係機関との連携、協力や支援を行う事業													
事務事業を構成する細事業	① 社会教育委員会運営			⑤ 社会教育主事育成・研修			⑨							
	② 社会教育指導員設置			⑥ 社会教育推進事務			⑩							
	③ 県社会教育委員連絡協議会負担金			⑦			⑪							
	④ 県社会教育主事等連絡協議会負担金			⑧			⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析					
	活動指標	社会教育委員会及び研修会の開催回数	回	目標	6	6	6	6	6	社会教育委員会は書面による1回を含む計3回開催した。第3次紀の川市生涯学習推進計画策定に係る第2次計画のフィードバックを1回実施した。社会教育委員研修会を1回実施した。社会教育指導員連絡会は書面による1回を含む目標値である計6回を実施した。				
			実績	4	4	5								
	<指標の計算方法>		社会教育委員会及び研修会の開催回数											
	活動指標	社会教育指導員連絡会の開催回数	回	目標	6	6	6	6	6					
			実績	6	6	6								
	<指標の計算方法>		社会教育指導員連絡会の開催回数											
			目標											
			実績											
	<指標の計算方法>													
		目標												
		実績												
<指標の計算方法>														
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳										
	13,850			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	13,850				
事業の実績	①社会教育委員会運営 第1回 9月16日(書面) 第2回 11月30日 第3回 3月22日 第3次紀の川市生涯学習推進計画策定に係る第2次計画のフィードバック 9月16日 社会教育委員研修 1月24日 田辺市学社融合の取組と田辺市中部公民館の施設視察			④県社会教育主事等連絡協議会負担金 0円 新型コロナウイルス感染症により事業の実施がなかったので支出なし。										
	②社会教育指導員設置 指導員数 5人 ③県社会教育委員連絡協議会負担金 29,000円			⑤社会教育主事育成・研修 社会教育主事講習受講1名 ⑥社会教育推進事務										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない											
		・社会教育法に基づき社会教育委員を委嘱しており、社会教育に関する調査研究、諸計画の立案や提言など社会教育を推進する上で重要な役割を担っている。 ・社会教育指導員は、地区公民館に配置し、市における社会教育について直接指導、学習相談、社会教育団体の育成に努め、社会教育を推進する具体策を企画提案しており、市の社会教育の推進に重要な役割を担っている。												
	有効性	評価結果	改善の余地がない											
・社会教育委員の立案や提言を求めながら市の社会教育のあるべき姿をモデル化し、各計画を策定する。														
効率性	効果性	評価結果	改善の余地がない											
		・社会教育法に基づき社会教育委員を委嘱している。 ・社会教育指導員については、学識経験者を各地区公民館に会計年度任用職員で配置しているため、現状の実施方法が最適である。												

事務事業の概要	事務事業名	文化振興事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業						
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	565					
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育							
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ							
		目	1 社会教育総務費				基本施策	1	生涯学習の推進							
事業概要	市民の芸術文化への関心を高めるために、関連団体への支援やイベント、啓発を行う事業															
事務事業を構成する細事業	①	文化協会運営補助金			⑤				⑨							
	②	自主文化事業（粉河ふるさとセンター）			⑥				⑩							
	③	自主文化事業（貴志川生涯学習センター）			⑦				⑪							
	④	劇団運営補助金			⑧				⑫							
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析							
	活動指標	自主文化事業開催回数	目標	8	8	8	8	8	新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、1事業は入場者数制限を行った。また、貴志川生涯学習センター改装工事の工期延長のため1事業を中止した。このことにより目標値を下回った。							
			実績	0	2	2										
	<指標の計算方法>		自主文化事業開催回数													
	成果指標	自主文化事業入場者数	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000				新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、1事業は入場者数制限を行った。また、貴志川生涯学習センター改装工事の工期延長のため1事業を中止した。このことにより目標値を下回った。				
			実績	0	296	665										
	<指標の計算方法>		自主文化事業入場者数													
		目標														
		実績														
<指標の計算方法>																
		目標														
		実績														
<指標の計算方法>																
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳												
	7,085			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	658 6,427						
事業の実績	①文化協会運営補助金 加盟団体 116団体 (打田支部 30団体、粉河支部 33団体、 那賀支部 10団体、桃山支部 13団体、 貴志川支部 30団体)			「BLACK BOTTOM BURASS BANDライブfeat. 花*花」 入場者数人102人 ・3月12日(日) 「スーパーJAZZコンサート」 入場者数人563人												
	文化祭の開催 ・10月29日(土)～30日(日) 粉河支部 ・11月5日(土)～6日(日) 打田支部・那賀支部 ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため桃山地区及び貴志川地区文化祭を自粛。また、歌唱を行う芸能発表、模擬店等も自粛。			③自主文化事業（貴志川生涯学習センター） ・施設改装工事の工期延長のため1事業について中止 ④劇団運営補助金 ・令和4年度は申請なし。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない													
		・文化祭等広く地域の芸術文化振興に寄与する文化協会の活動に対して、市が支援することは妥当である。 ・自主文化事業については、あらゆる世代の市民に優れた芸術文化に触れる機会を提供しているため、市が様々な文化芸術事業を行うことは妥当である。														
	有効性	評価結果	改善の余地がややある													
・自主文化事業については、一般職の職員が催事企画を行っており、市民の芸術文化に対する関心を高めるためにも、市民ニーズや時代ニーズを捉えた魅力的な事業を行っていく必要がある。 ・効果的な文化事業を展開するには、長期的な視点も必要となることから、今後民間や他の自治体のノウハウを継続的に調査・研究し、効果的な方法を取り入れていく必要がある。																
効率性	評価結果	改善の余地がややある														
	・文化協会会員の高齢化、会員数の減少が顕著である。市の補助だけでなく各クラブ自身の活性化に向けての早急な取組が必要である。															

事務事業の概要	事務事業名	家庭教育推進事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	562	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	1 社会教育総務費				基本施策	3 地域の子供の健全育成の推進				
取組方針				取組方針	3 家庭教育の推進							
事業概要	市民（保護者）に家庭教育の大切さを理解してもらうために、家庭教育の重要性の啓発を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	子ども読書活動推進			⑤				⑨			
	②	PTA連絡協議会補助金			⑥				⑩			
	③	家庭教育講座			⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	読み聞かせ回数	回	目標	50	50	50	50	50	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため回数を制限したことから減少した。		
				実績	27	26	25					
		<指標の計算方法>		河北・河南図書館での開催回数 定例（月2回程度）+夏休み期間中分								
	成果指標	読み聞かせ参加者数	人	目標	900	900	900	900	900	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため回数を制限したことから減少した。		
				実績	249	238	203					
		<指標の計算方法>		河北・河南図書館での参加人数 定例（月2回程度）+夏休み期間中分								
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)				財源内訳							
	225				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源 225		
事業の実績	①子ども読書活動推進 ・学校司書との連携、学校図書館訪問 ・読み聞かせ 〔河北図書館〕 〔河南図書館〕				②PTA連絡協議会補助金 21,738円 ③家庭教育講座 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため 集団での講座は中止し、個別での対応を実施 啓発リーフレットを作成し、1歳児健康相談 、1歳8か月児健診、その他において都度配布 する。 1歳児健康相談 306人 1歳8ヶ月健康診断 343人 その他（はぐくみサポート紀の川での個別相 談など）ふれあい遊びは新型コロナウイルス 感染症拡大防止のため開催なし。							
	4月	0回	0人	0回	0人							
5月	0回	0人	0回	0人								
6月	0回	0人	0回	0人								
7月	0回	0人	0回	0人								
8月	0回	0人	0回	0人								
9月	0回	0人	0回	0人								
10月	3回	11人	3回	15人								
11月	2回	11人	1回	14人								
12月	2回	6人	3回	43人								
1月	3回	23人	1回	12人								
2月	2回	16人	2回	20人								
3月	2回	14人	1回	18人								
計	14回	81人	11回	122人								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・子供読書活動推進事業は、紀の川市の未来を担う子供たちが読書を通して自ら学び、力強く成長していけることを目的としており、市が実施することは妥当である。 ・PTA連絡協議会については、単位PTAとの緊密な連携と相互の協力によって、保護者と学校とがお互いの信頼関係を深めるために研修会等様々な活動を行っており、市全体として子供たちの教育環境の向上を図ることを目的としていることから、市が支援することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・乳幼児期から学齢期まで、切れ目のない家庭教育支援の推進を図るため、関係各課の連携による推進体制の構築を進める必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・読み聞かせについては図書館ボランティアの協力で事業を運営していることから、効果的でコストの削減の余地はない。											

事務事業の概要	事務事業名	生涯学習推進事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	848	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	1 社会教育総務費				基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市民に生涯学習の推進をするために、生涯学習活動に支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	はたちのつどい実行委員会運営			⑤				⑨			
	②	はたちのつどい開催			⑥				⑩			
	③	ユネスコ連絡協議会補助金			⑦				⑪			
	④	婦人会補助金			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	はたちのつどい実行委員会委員数	人	目標	12	12	12	12	12	令和4年度はたちのつどい実行委員については、募集方法について改善を図ったが、引き続き新型コロナウイルス感染症の関係もあり令和3年度より減少した。		
			実績	6	20	8						
	<指標の計算方法>		はたちのつどい実行委員会委員数									
	成果指標	はたちのつどい出席率	%	目標	80	80	80	80	80	令和3年度より2.65%の減少となった。		
			実績	76.05	76.43	73.78						
<指標の計算方法>		当日の出席者を対象者（住登外で出席申込希望者含）で除した割合										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,497			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			3,497									
事業の実績	①はたちのつどい実行委員会運営 第1回 7月8日 第2回 8月5日 第3回 9月2日 第4回 10月21日 第5回 11月18日 第6回 12月23日 第7回 2月24日											
	②はたちのつどい開催 1月8日 ・開会式典（短縮） ・自主イベント 「ハタチのち晴れ！ ～雲ひとつない空へ～」 （実行委員製作のスライドショー上映）											
	③ユネスコ連絡協議会補助金 90,000円											
	④婦人会補助金 100,000円											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・市民に生涯学習活動を推進するため行政が関与及び支援することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・例年募集している「はたちのつどい実行委員会」は、はたちのつどい式典の進行やイベントの企画・運営を行うことにより、社会の一員として組織で活動する意識や責任感、達成感を得ることができ有効性が高い。 ・実行委員の参画者を募るのに毎年苦慮しているが、あらゆる知り合いを使っての人伝が一番有効であると思われる。 ・ユネスコ連絡協議会や婦人会の活動については、自主運営できており事業の有効性は高い。 ・新型コロナウイルス感染症対策を講じた開催方法やイベント内容を検討する必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・事業内容を精査し、補助金を減額するなど節減努力に努め、低コストでの事業を展開しており、効率性は高い。											

事務事業の概要	事務事業名	公民館活動推進事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	564	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 公民館費				基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市民の交流機会の創出や教養を高めてもらうために、公民館でのイベントや講座の開催を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	公民館講座・各種教室開催			⑤	公民館へいこらフェア		⑨				
	②	公民館主事設置			⑥	県公民館連絡協議会負担金		⑩				
	③	公民館活動・運営委託			⑦			⑪				
	④	公民館運営審議会			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	公民館講座教室数	教室	目標	45	45	45	45	45	公民館講座教室数は、目標値を超えることができました。		
			実績	41	44	54						
	<指標の計算方法>		各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室数									
	成果指標	公民館講座出席率	%	目標	80	80	80	80	80	公民館講座の出席率は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い減少した。		
			実績	76.6	80.1	76.7						
	<指標の計算方法>		各地区公民館及びコミセンで開催の講座教室申込者の平均出席率									
	活動指標	公民館へ行こらフェア開催日数	日	目標	15	15	15	15	15	公民館へ行こらフェアの開催日数は、目標値を超えることができました。		
			実績	65	16	17						
	<指標の計算方法>		公民館へ行こらフェア開催日数									
成果指標	公民館へ行こらフェア参加人数	人	目標	750	750	500	500	500	公民館へ行こらフェアの参加人数は、目標値を新型コロナウイルス感染症拡大に伴い見直したが目標値を下回った。しかし、令和3年度よりは増加した。			
		実績	513	367	466							
<指標の計算方法>		公民館へ行こらフェア参加人数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	26,667			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	1,004	一般財源	25,663	
事業の実績	①公民館講座・各種教室開催			「クリスマスコンサート」(90人)			季節の花のミニ寄せ植え(25人)					
	打田地区公民館 12講座(延べ)1,249人			児童虐待について(33人)			食品サンプルを作ろう(11人)					
	粉河地区公民館 8講座(延べ)864人			粉河地区公民館			絵本とお琴(66人)					
	那賀地区公民館 8講座(延べ)996人			体質改善ヨガ体験教室(17人)			⑥県公民館連絡協議会負担金 30,000円					
	桃山地区公民館 4講座(延べ)621人			己書体験教室(9人)								
桃山1コミセン 3講座(延べ)239人			お菓子作り体験教室(11人)									
貴志川地区公民館 8講座(延べ)1,277人			那賀地区公民館									
貴志川4コミセン 11講座(延べ)1,966人			押し花体験教室(18人)									
②公民館(コミセン)主事設置			「ひろ&えく」と共に皆さんご存じの									
貴志川地区公民館 1名			曲を楽しみましょう(31人)									
桃山1コミセン 1名			お菓子作り体験教室(16人)									
貴志川4コミセン 4名			桃山地区公民館									
③公民館活動・運営委託			手話 de ほっとタイム(8人)									
粉河地区5分館 714,297円			ドライフラワーアレンジメント(15人)									
那賀地区5分館 2,000,000円			初めてのキャッシュレス決済(15人)									
貴志川地区4コミセン 640,000円			太極養生功と練功十八法(17人)									
④公民館運営審議会 4回開催			貴志川地区公民館									
⑤公民館へいこらフェア			美容と健康のインド式ヨガ体験(14人)									
打田地区公民館			Colorsによるいろどり									
打田中学校吹奏楽部による			コンサート(70人)									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・社会情勢や市民のニーズに合わせて公民館活動の推進を図る必要があり、地域の要望・課題に対応する講座や公民館へ来館するきっかけとなるイベント開催は、社会教育が担う部分が多く、市が公民館活動を推進することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・公民館活動には仲間の形成や地域とのつながりを醸成させる目的があり、地域における公民館の役割は大きい。 ・公民館講座は趣味・稽古事だけに限らず、社会的な課題に応える内容の講座を増やすなど改善の余地がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・公民館講座教室及び公民館へ行こらフェア等の参加者には受講料及び材料費等を受講者より徴収していることから効率性は高い。											

事務事業の概要	事務事業名	公民館管理運営事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	121
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育		
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ		
		目	2 公民館費				基本施策	1	生涯学習の推進		
事業概要	市民が公民館を安全で快適に利用できるように、公民館の適切な維持管理や改修を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	中貴志コミュニティセンター施設管理		⑤	ふれあいコミュニティセンター施設管理		⑨				
	②	東貴志コミュニティセンター施設管理		⑥	粉河5分館(川原、竜門、粉河、長田、鞆瀬)施設管理		⑩				
	③	西貴志コミュニティセンター施設管理		⑦	那賀5分館(麻生津、名手、那賀、上名手、王子)		⑪				
	④	丸栖コミュニティセンター施設管理		⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	コミュニティセンター利用団体数	団体	目標	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	コミュニティ施設5館(桃山地区1館、貴志川地区4館)の利用団体数。新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い利用団体が増加。	
				実績	975	1,298	1,549				
	<指標の計算方法>		コミュニティセンター利用団体数								
	成果指標	コミュニティセンター利用人数	人	目標	50,000	50,000	50,000	50,000	5,000	コミュニティ施設5館(桃山地区1館、貴志川地区4館)の利用人数。新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い利用人数が増加。	
				実績	34,912	53,573	58,198				
	<指標の計算方法>		コミュニティセンター利用人数								
				目標							
				実績							
	<指標の計算方法>										
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	47,064			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
					6,800		404	39,860			
事業の実績	①中貴志コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕エレベーター電磁接触器等修繕			⑤ふれあいコミュニティセンター施設管理 〔修繕〕クロス張替修繕 消防設備修繕 〔工事〕空調設備改修工事							
	②東貴志コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕機械警備機器取替修繕及び配線改修 大会議室空調修繕 屋外遊具修繕 排煙装置修繕			⑥粉河5分館(川原、竜門、粉河、長田、鞆瀬)施設管理							
	③西貴志コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕エレベーター主ロープ等修繕 ヘルストロン室空調修繕 排煙装置修繕 誘導灯等修繕			⑦那賀5分館(麻生津、名手、那賀、上名手、王子)施設管理 〔修繕〕上名手分館外部倉庫屋根等改修 王子分館屋外遊具修繕 麻生津分館照明器具取替修繕							
	④丸栖コミュニティセンター施設管理 〔修繕〕機械警備機器取替修繕及び配線改修 屋外遊具修繕 誘導灯等修繕										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・地域と密接に関わるコミュニティセンターや公民館分館は、地域の生涯学習の拠点として活動を支援していく必要があり、市が関与することは妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・地域の実情に沿って自主的なコミュニティ活動や公民館分館活動として、概ね効果的に事業を実施できているが地域によっては活動の格差がある。									
効率性	評価結果	改善の余地が大きい									
		・稼働率が低く老朽化が進んだ施設は、周辺の集集機能を有する施設などへ集約化や複合化を検討する必要があるため、地域の施設利用団体等と適正な施設管理・運営について協議を進める必要がある。 ・施設使用料の減免運用見直しについて、受益者負担の原則による負担の公平性の適正化を図るために運用見直しすることを施設利用者へ理解してもらうため、丁寧な説明に努める必要がある。									

事務事業の概要	事務事業名	人権教育推進事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	561	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	5	地域づくり・行政経営			
		項	5 社会教育費				施策目標	1	人権尊重			
		目	3 人権教育費				基本施策	1	人権が尊重された差別のない社会の実現			
事業概要	市民の人権意識の高揚を図るために、講座の開催や啓発、関係機関の補助を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	人権学習講座開催			⑤					⑨		
	②	保護者学級補助金			⑥					⑩		
	③	識字学級を支援			⑦					⑪		
	④	人権啓発ポスター・標語作成			⑧					⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	じんけん学習講座開催回数	回	目標	5	5	5	5	5	年間5地区公民館で開催する講座回数。新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、全5回予定通り開催することができた。		
			実績	2	3	5						
	<指標の計算方法>		じんけん学習講座開催回数									
	成果指標	じんけん学習講座参加者数	人	目標	200	200	200	200	200	年間5地区公民館で開催する講座参加者数。令和3年度と違い全5回を予定通り開催することができたため増加している。ただし、参加者数は目標達成していない。		
			実績	40	57	124						
	<指標の計算方法>		じんけん学習講座参加者数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	3,447			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		3,087	
事業の実績	①人権学習講座開催 5地区公民館で開催 参加者124名											
	②保護者学級補助金 小学校に在籍する児童の保護者の人権意識を高めるため、様々な人権について学ぶ保護者学級の運営補助を行いました。											
	③識字学級を支援 定例学級開催、交流会や研修会への参加を支援しました。											
	④人権啓発ポスター・標語作成 啓発物資・啓発資料作成 除菌ウェットティッシュ 5,000個 人権啓発カレンダー 400冊											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・人権啓発ポスターを募集し、人権啓発ポスターを掲載したカレンダーを作成、また人権標語を印字した啓発物資を配布することにより、児童生徒をはじめ広く市民の人権意識の高揚を図る効果があることから市が実施することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・人権啓発ポスターの入賞作品以外の応募作品について、公民館にて展示会を行うことができ多くの来場者があり人権意識の向上に有効であった。人権学習講座参加人数については令和4年度は令和3年度と比べて増加したが、今後も市民にニーズのある講座を考える必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県からの補助金もあり、費用面での効率性は高いと考えられる。											

事務事業の概要	事務事業名	文化財保護事業		担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	558		
	予算科目	款	10 教育費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	5 社会教育費			施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		目	4 文化財保護費			基本施策	2	歴史資産の保護・活用				
事業概要	市内の文化財を後世に残すために、文化財の保護や活用を行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 文化財保護審議会運営		⑤ 全国史跡整備市町村協議会負担金			⑨						
	② 発掘調査・研究		⑥ 文化財等保存整備事業補助金			⑩						
	③ 文化財保護管理委託		⑦ 指定文化財管理費補助金			⑪						
	④ 活用事業（講演・企画展等）・啓発		⑧ 無形民俗文化財等保存団体補助金			⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	歴史体験教室・企画展等の参加者数	人	目標	600	600	600	600	600	歴史体験教室や企画展等を開催しているが、目標の参加者数に至っていない。企画展の開催や効果的な広報により参加者数の増加に努める必要がある。		
			実績	507	617	473						
	<指標の計算方法>		参加者名簿から算出									
	活動指標	歴史体験教室・企画展等の開催数	回	目標	6	6	5	5	5	新型コロナウイルス感染症対策をしながら、可能な回数でコーナー展、企画展、歴史体験教室を開催した。		
			実績	1	2	3						
<指標の計算方法>		歴史体験教室・企画展等の開催数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
17,666			1,110	111				1	16,444			
事業の実績	①文化財保護審議会運営		・第1回(理事会)6月2日		・第1回(審議会)6月6日		書面表決		示した。期間中の来館者数は145人であった。また、11月16日～12月18日にかけて「藤崎弁天」と題し企画展を開催した。期間中の来館者数は207人であった。実施期間中の12月3日には藤崎弁天にて見学説明会を行った。見学者は45人であった。			
	②発掘調査・研究		・開発事業に伴う発掘調査32件、史跡整備等に伴う内容確認調査2件を実施。		・旧南丘家住宅では、5月3日～5日に特別開館を実施した。2月18日～3月12日の土曜日・日曜日にはイベントに合わせて春季特別開館を実施した。期間中の来館者は68人であった。		・12月24日に歴史体験教室「近くで楽しむ正月遊び」を実施した。参加者は8人であった。		・粉河祭保存会、百合山の自然と遺跡を生かす会の活動、東田中神社境内旧竹房神社本殿保存修理、鞆淵八幡神社若宮社・高良社修理、粉河寺庭園保存修理、中津川行者堂屋根保存修理に補助を行った。			
	③文化財保護管理委託		・指定文化財の内、8件について所有者に保護管理委託を行った。		⑤全国史跡整備市町村協議会負担金		・補助事業についての国への要望に関する事務を行った。		⑦指定文化財管理費補助金			
	④活用事業(講演・企画展等)・啓発		・歴史民俗資料館では、6月29日～8月14日にかけて、教育委員会に寄贈された歴史資料をコーナー展「新取蔵品の展示」として展		⑥文化財等保存整備事業補助金				・対象 粉河寺、鞆淵八幡神社、三船神社			
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・文化財は市の財産であり、後世に文化財を残すためには継続的に保護・活用を行い、市民にその価値を伝えていくことが重要である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
		・文化財は市民全体の歴史であり財産であるが少子高齢化等により保護が困難となってきた。地域の文化財を市全体で守っていく必要があり、文化財を活用した企画展等を通して、市民に文化財への関心を高めることは重要であり、効果的な広報により参加者数が増えることで、市の観光資源にも活用できる。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・企画展は職員で資料等を作成しているため、コストは削減されている。また歴史体験教室は紀の川市文化財サポーターの会との協働により、効率よく実施できている。										

事務事業の概要	事務事業名	文化財施設管理運営事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	553	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				政策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
目	4 文化財保護費			基本施策	2		歴史資産の保護・活用					
目				取組方針	1		歴史文化の保護・継承					
事業概要	市民が文化財施設を快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	歴史民俗資料館・体験館施設管理			⑤	旧南丘家住宅管理			⑨			
	②	紀伊国分寺公園管理			⑥	藤崎弁天管理			⑩			
	③	西行法師像モニュメント管理			⑦				⑪			
	④	旧名手本陣管理			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	旧名手宿本陣利用者数	人	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	令和3年度と比較すると利用者は増加しているが、新型コロナウイルス感染症の影響前と比較すると利用者は少ない。		
				実績	1,818	1,557	1,747					
	<指標の計算方法>		芳名録へ記載されている人数									
	成果指標	歴史民俗資料館利用者数	人	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	新型コロナウイルス感染症の影響及び資料館空調改修工事で一時的に閉館していたため利用者が減少した。		
				実績	1,644	1,531	1,083					
	<指標の計算方法>		芳名録へ記載されている人数									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	49,207			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	19,048		
事業の実績	①歴史民俗資料館・体験館施設管理 空調改修 施設の管理を委託 研修室モニター修繕 資料館浄化槽マンホール修繕			⑥藤崎弁天管理 名勝範囲内の雑木伐採 整備事業費の概算額算出								
	②紀伊国分寺公園管理 北側駐車場修繕 年間を通じ公園管理を委託 トイレ浄化槽プロロー修繕 トイレ浄化槽ポンプ修繕 トイレ照明修繕											
③西行法師像モニュメント管理 西行法師像モニュメント用地の借用に関する事務を行った。												
④旧名手本陣管理 電気引込柱及び離れ・蔵幹線改修 主屋の防蟻を委託 施設の管理を委託												
⑤旧南丘家住宅管理 年間を通じ施設の管理を行った。												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・重要文化財や市指定文化財などの歴史的な建造物を含む文化財施設は、市民に文化財について興味を持たせるために不可欠な施設である。適切に管理し、後世に受け継ぐべきものである。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・資料館で企画展やコーナー展を開催し来館者の増加に努めた。他の施設でも事業を実施する計画であったが、新型コロナウイルス感染症の影響のため一部実施できなかった。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・一部の施設の管理委託や国分寺公園の草刈りを個人に委託し経費を抑えているが、国分寺公園のトイレなど施設により修繕が多くなってきているところがある。施設の状況を把握し計画的に改修等を進める必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名		旧名手宿本陣整備事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ハード事業			
	会計	一般会計					新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	552
	予算科目	款	10 教育費					長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	5 社会教育費						施策目標	3 生涯学習・生涯スポーツ			
		目	4 文化財保護費						基本施策	2 歴史資産の保護・活用			
事業概要	旧名手宿本陣を後世に残すために、整備や活用を行う事業												
事務事業を構成する細事業	① 紀の川市名手本陣保存整備委員会運営		⑤				⑨						
	② 保存整備計画進捗管理		⑥				⑩						
	③ 保存整備・保存修理		⑦				⑪						
	④ 重要文化財保存活用計画策定		⑧				⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析				
	成果指標	旧名手宿本陣利用者数	人	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	令和3年度と比較すると利用者は増加しているが、新型コロナウイルス感染症の影響前と比較すると利用者は少ない。			
			実績	1,818	1,557	1,747							
	<指標の計算方法>		芳名録へ記載されている人数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	59,023			国庫支出金	23,818	県支出金	2,381	地方債	32,700	繰入金	その他	一般財源	124
事業の実績	①紀の川市名手本陣保存整備委員会運営 第1回 8月4日、第2回 3月9日・14日												
	②保存整備計画進捗管理 文化庁・保存整備委員会・県に指導助言を もらい計画の進捗管理を実施												
	③保存整備・保存修理 名手役所主屋及び離れ・蔵復旧整備その3 工事を実施。主屋の復旧工事を完了した。 土堀、井戸屋形、南倉の保存修理を実施。 整備を進める資料を得るため発掘調査を実施。												
	④重要文化財保存活用計画策定 計画の一部を作成												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・旧名手宿本陣は市所有の文化財であり、敷地は国指定史跡、建物3棟は重要文化財である。後世に受け継がなければならない重要な歴史資産である。策定した整備計画により事業を実施している。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・文化財修理を専門的に行う団体に設計監理を依頼し、実績のある業者が工事を行っている。工事を実施しながら見学は可能としていたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により来館者数は回復していない。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・国や県の補助を受け所有者である市が事業を実施している。施設管理は地元の個人に委託しコストを抑えている。												

事務事業の概要	事務事業名	青少年健全育成事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	551
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	5 青少年育成費				基本施策	3 地域の子供の健全育成の推進			
事業概要	青少年の健全育成を図るために、関係団体への活動支援や啓発活動を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	青少年育成市民会議活動			⑤			⑨			
	②	青少年健全育成事業			⑥			⑩			
	③	ガールスカウト補助金			⑦			⑪			
	④	少年少女発明クラブ補助金			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	紀の川市少年メッセージ参加者数	人	目標	340	340	340	340	340	紀の川市少年メッセージは、令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため作文審査のみとなり発表審査を行わなかった。	
			実績	0	0	0					
	<指標の計算方法>		紀の川市少年メッセージ参加者数（主催者、来賓、発表者、スタッフ含む）								
	活動指標	紀の川市青少年健全育成推進員人数	人	目標	100	100	100	100	100	青少年健全育成推進員数は、ほぼ現状維持している。	
			実績	101	102	101					
	<指標の計算方法>		紀の川市青少年健全育成推進員総数								
	活動指標	紀の川市少年少女発明クラブ開催日数	日	目標	12	12	12	12	12	紀の川市少年少女発明クラブ開催日数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため事業日数は11日となり目標日数は達成できなかった。	
			実績	6	4	11					
	<指標の計算方法>		紀の川市少年少女発明クラブ開催日数								
成果指標	紀の川市少年少女発明クラブ参加人数	人	目標	330	330	330	330	330	紀の川市少年少女発明クラブ参加人数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、定員数削減と活動回数が11日となり目標値は達成できなかったが、過去2年間に比べて増加傾向にある。		
		実績	156	88	228						
<指標の計算方法>		紀の川市少年少女発明クラブ参加人数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	2,569			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,569	
事業の実績	①青少年育成市民会議活動 「紀の川市少年メッセージ2022」 内容：市内の6中学校より提出のあった作文1,328作品を2度の審査会にて最優秀賞（1点）、優秀賞（2点）、佳作（6点）及び入選（36点）として表彰を行った。 記念冊子配布部数：275冊										
	②青少年健全育成事業 紀の川市青少年健全育成推進員を中心に、地域・学校・家庭と連携し、各地区での地区事業を実施した。										
	③ガールスカウト補助金 ガールスカウト 粉河・貴志川 2団										
	④少年少女発明クラブ補助金 創造性豊かな少年少女を育成するために、科学的な興味・関心を追究する場を提供し、自由な環境の下で創造活動を行った。 紀の川市内の小学校4年生から6年生の児童が対象で、令和4年度は定員以上の応募があり、抽選により選ばれた24人がクラブ員として活動した。紀の川市少年少女発明クラブ開催日数については年間12回であるが令和4年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため11回の活動となった。 年間活動回数：11回										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・時代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に、家庭、学校、地域、企業、その他あらゆる分野の関係機関で構成する青少年育成市民会議が、相互に協力し、連携を取りながら目的達成のために、市の委託で事業を実施することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
		・青少年育成市民会議活動では、紀の川市少年メッセージの開催により大人が中学生に対する理解を深めるとともに郷土の未来を担う次世代の育成を図っており、有効性は高い。 ・青少年健全育成推進協議会は、各支部がそれぞれの地域に根差した様々な学習体験を青少年に行っているため有効性が高い。 ・青少年健全育成推進協議会は、各支部が地域性を考慮して指導活動や活動内容を工夫しているが、一定の方向性を示す必要がある。 ・青少年健全育成団体の支援と育成のために補助金を交付することは、有効性が高い。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・青少年育成市民会議活動及び青少年健全育成事業については、事業委託を行っており効率性が高い。 ・事業委託団体の節減努力により事業費については必要最小限で実施しており、効率性は非常に高い。										

事務事業の概要	事務事業名	地域子ども会活動支援事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	124	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	5 青少年育成費				基本施策	3 地域の子供の健全育成の推進				
事業概要	生徒・児童・幼児の健全育成を図るために、子ども会への活動支援を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	子ども会活動支援			⑤				⑨			
	②	地域子ども会活動支援事業補助金			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	紀の川市地域活動連絡協議会加盟子ども会数	団体	目標	32	30	30	30	30	加盟子ども会数については現状維持であった。		
				実績	31	30						
	<指標の計算方法>		紀の川市地域活動連絡協議会加盟子ども会数									
	成果指標	公益社団法人全国子ども会連合会全国子ども会安全共済会加入者数	人	目標	1,650	1,600	1,600	1,600	1,600	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため活動が少なくなっており加入者数が減少傾向にあった。		
				実績	1,139	1,082	1,055					
	<指標の計算方法>		公益社団法人全国子ども会連合会全国子ども会安全共済会加入者数（当初加入者人数）									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,225			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
			530						695			
事業の実績	①子ども会活動支援 紀の川市ソフトドッジボール大会(7/2予定) →新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止 指導者研修会(秋予定) →新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため中止			補助金額 53,000円 補助子ども会数：2団体 地域活動事業補助金(B)：市単独補助金 会員数10人以上、活動日数3日以上 補助金額 26,000円 補助子ども会数：1団体								
	②地域子ども会活動支援事業補助金 (地域総合活動)：市および県補助金 会員数40人以上、活動日数50日以上 補助金額 212,000円 補助子ども会数：0団体 地域子ども会活動支援事業補助金 (地域集団活動)：市および県補助金 会員数20人以上、活動日数12日以上 補助金額 106,000円 補助子ども会数：10団体 地域活動事業補助金(A)：市単独補助金 会員数15人以上、活動日数6日以上											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・地域のより良い環境の中で子どもたちが健やかに成長できる地域社会の実現を図るため、市が支援していくことは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・少子化の影響により、単位子ども会及び加入者数は減少傾向にあり、子ども会活動継続のために、隣接する子ども会の合同での取組などの支援を強化する必要がある。 ・各地域の子ども会活動は地域の方々の交流も増え、地域全体で子どもたちの成長を市も支援することになり、地域の活性化にもつながるので、有効であるといえる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・県費補助対策のため、費用面での効率性が高い。											

事務事業の概要	事務事業名	共育コミュニティ推進事業			担当課	生涯学習課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	549	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス				
		目	5 青少年育成費				基本施策	3 地域の子供の健全育成の推進				
事業概要	地域社会の活性化と学校を核とした地域づくりを図るために、地域と協働し、子供たちの成長を支える活動を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	子どもの居場所づくり推進事業			⑤				⑨			
	②	共育コミュニティ推進			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	居場所づくり事業開催日数	日	目標	95	119	119	119	119	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、令和3年度とほぼ同じ開催日数を維持した。		
				実績	105	132	131					
	<指標の計算方法>		居場所づくり事業年間の開催日数									
	成果指標	居場所づくり事業参加人数	人	目標	1,900	2,380	2,380	2,000	2,000	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、令和3年度とほぼ横ばいの参加者数を維持した。		
				実績	1,248	1,561	1,461					
	<指標の計算方法>		年間の参加人数									
	活動指標	共育コミュニティ事業実施日数	日	目標	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	学校との連携による事業実施日数には増減がある。		
				実績	968	2,016	2,311					
	<指標の計算方法>		年間の実施日数									
成果指標	共育コミュニティボランティア活動人数	人	目標	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	学校との連携による事業実施日数及び事業内容により必要ボランティア人数には増減がある。			
			実績	4,799	12,039	9,587						
<指標の計算方法>		年間の延べ活動人数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	1,565			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	711		
事業の実績	<p>①子どもの居場所づくり推進事業 放課後等、公民館施設などで、安全・安心な子供の居場所を設け、地域の人々の協力を得て、一緒に過ごすことでコミュニケーション力の向上や学習習慣を身につけられるよう支援している。</p> <p>・みんなの家 (NPO法人 ロッツ) 活動日数 平日95日 土曜日等休日12日 計107日 参加人数 延べ1,273人</p> <p>・こ・はうすきしがわ 活動日数 平日11日 土曜日等休日13日 計24日 参加人数 延べ188人</p> <p>②共育コミュニティ推進 打田地区 実施回数 946回 ボランティア延べ人数 2,257人 粉河地区 実施回数 460回</p>											
	<p>ボランティア延べ人数 1,622人 実施回数 130回 那賀地区 ボランティア延べ人数 545人 桃山地区 実施回数 483回 ボランティア延べ人数 2,699人 貴志川地区 実施回数 292回 ボランティア延べ人数 2,464人</p>											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、相互の連携・協働のもと学校づくりと地域づくりを進め、一体となって子供たちの成長を支えることを市が支援することは妥当である。										
		評価結果	改善の余地がややある									
有効性	有効性	・地域創生の観点からも必要な事業であり、短期的な結果を求めめるのではなく、引き続き事業を展開していくことが大切と思われる。本事業によって地域のつながりも深まっていると思われる。										
		・コミュニティ・スクールと連携を図り、学校や地域の課題を協働で取り組み解決に導くための事業を推進する必要がある。										
		評価結果	改善の余地がややある									
効率性	効率性	・共育コミュニティボランティアについては無償であるため、コスト面においては改善の余地がない。										
		・ボランティア、指導員及びコーディネーターの負担軽減や、次の担い手と人材発掘及び育成が当面の課題である。 ・令和元年度から市内全小中学校に導入されたコミュニティ・スクールとの一体的な推進を図ることで、さらに事業の効率性が向上するものである。										

事務事業の概要	事務事業名	青少年センター運営事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	550
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	1 子育て環境・保育サービス			
		目	5 青少年育成費				基本施策	3 地域の子供の健全育成の推進			
事業概要	青少年の非行防止及び健全育成を図るために、青少年センターの円滑な運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	青少年センター運営			⑤	関係機関との連携業務		⑨			
	②	青少年センター施設管理			⑥			⑩			
	③	啓発・広報・補導活動			⑦			⑪			
	④	青少年防犯業務			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	街頭補導事業実施回数	目標	320	320	320	320	320	年間の街頭補導事業実施回数は、目標値を達成することが出来た。		
			実績	335	337	337					
	<指標の計算方法>		街頭補導事業年間実施回数								
	活動指標	広報啓発事業実施回数	目標	90	90	90	90	90	広報啓発事業実施回数は、目標値を達成することが出来た。		
			実績	67	92	91					
	<指標の計算方法>		街頭啓発、各種教室開催回数及びチラシ配布回数の合計								
活動指標	環境浄化事業実施回数	目標	140	140	140	140	140	環境浄化事業回数は、目標値を下回った。			
		実績	141	136	136						
<指標の計算方法>		書店等立入回数及び自販機調査数の合計									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	14,360			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	14,302	
事業の実績	①青少年センター運営			どと連携協力し、青少年の健全育成に努めた。							
	②青少年センター施設管理 ・電気使用料節減のため、執務室の照明設備をLEDに取替修繕した。 ・周囲の安全のため、敷地内の老朽化したプレハブ小屋を撤去した。										
	③啓発・広報・補導活動 青少年の健全育成を目的とし、非行防止・事故防止のため、広報活動や補導活動を実施した。										
	④青少年防犯業務 年間を通じ地域・学校・警察・関係施設などと連携協力し、不審者情報等の共有に努めた。										
	⑤関係機関との連携業務 年間を通じ地域・学校・警察・関係施設な										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・青少年防犯業務及び啓発・広報・補導活動について一部民間団体とも連携を取っているが、触法少年の個人情報や不審者の判断をも扱う業務であるため、行政において実施するのが妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・青少年に関する問題は常に社会情勢の変化に伴い多様化・複雑化してきており、事業実施の有効性が高い。 ・今後も社会情勢の変化に沿って、青少年問題について取り組む必要がある、より専門性を持った人材及び関係機関の協力得ながら取り組む必要がある。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・青少年センター運営事業は委託事業に適さないが、現在4名の会計年度任用職員を専任で配置しているため費用面での効率性は高いと考える。										

事務事業の概要	事務事業名	図書館運営事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	546
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3 生涯学習・生涯スポーツ			
		目	6 図書館費				基本施策	1 生涯学習の推進			
事業概要	市民に文化や教養を高めてもらうために、図書館の蔵書購入やイベントの開催等を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	図書館運営			⑤	読書活動推進		⑨			
	②	利用促進（講演会・イベント開催）			⑥	移動図書館事業		⑩			
	③	図書・雑誌購入			⑦			⑪			
	④	システム・図書データ管理			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	図書館利用者登録率（人口比）	目標	42	43	44	48	49	利用登録の推進を図ることにより利用者登録者数の増加率は維持できている。		
			実績	45	46	47					
	<指標の計算方法>		図書館利用者登録率（人口比）								
	成果指標	図書館貸出冊数（年間）	目標	330,000	330,000	330,000	300,000	300,000	年間の貸出冊数は令和3年度より増加している。市民1人当たりの貸出冊数は4冊となり、1日当たりの貸出冊数と比較すると令和3年度よりやや減少に転じている。		
			実績	223,893	217,363	244,000					
<指標の計算方法>		図書館貸出冊数（年間）									
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳							
	60,536			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
事業の実績	①図書館運営			③図書・雑誌購入			⑥移動図書館事業				
	<ul style="list-style-type: none"> 第2次紀の川市子供読書活動推進計画策定準備 開館日数 河北図書館 291日 河南図書館 292日 来館者数 河北図書館 84,459人 河南図書館 86,625人 貸出者数 55,569人 貸出冊数 237,118冊 1日当たり貸出者数 河北図書館 93人 河南図書館 88人 1日当たり貸出冊数 河北図書館 410冊 河南図書館 388冊 			<ul style="list-style-type: none"> 蔵書冊数 河北図書館 103,926冊 河南図書館 85,532冊 購入雑誌種数 河北図書館 77種 河南図書館 72種 購入新聞種数 河北図書館 9種 河南図書館 9種 			<ul style="list-style-type: none"> 読書推進に係るイベントの実施 河南図書館11回 参加人数 122人 河北図書館 1回 河南図書館 5回 来館者数 4,037人 貸出者数 1,587人 貸出冊数 6,882冊 				
	②利用促進（講演会・イベント開催）			④システム・図書データ管理			⑤読書活動推進				
	<ul style="list-style-type: none"> イベント実施回数 河北図書館 12回 河南図書館 6回 イベント参加人数 河北図書館 1,063人 河南図書館 447人 			<ul style="list-style-type: none"> 図書館システム管理に係る契約件数 6件 資料購入契約件数 5件 移動図書館運営管理に係る契約件数 3件 			<ul style="list-style-type: none"> 紀の川市中高生ビブリオバトル大会開催 市内小中学校司書との連携・協働 市内小中学校図書館支援 おはなし会の実施 河北図書館14回 参加人数 81人 				
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		市民に文化や教養を高めてもらうために図書館において現在実施している事業は、妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
<ul style="list-style-type: none"> 図書館が実施するイベント等について利用者のニーズに即しているか、改善すべき部分を検証し、積極的に改善に努め読書推進を図る必要がある。 目標達成に至らずとも、貸出冊数等の向上が見られる点は維持に努める必要がある。 											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	<ul style="list-style-type: none"> 両図書館ともに正職員1名と会計年度任用職員5名ずつの配置となっており、人員や人材が豊富とはいえない。そのため効率性向上のために、図書館職員の能力向上が必要となる。 移動図書館については、業務の委託により効率的に運営できている。 										

事務事業の概要	事務事業名	図書館施設管理事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰越し		事業番号	987	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				政策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	6 図書館費				基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市民が図書館を安全で快適に利用できるように、維持管理を適正に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	河北図書館施設管理			⑤				⑨			
	②	河南図書館施設管理			⑥				⑩			
	③	蔵書拠点管理			⑦				⑪			
	④	移動図書館管理			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	図書館施設管理業務	目標	14	14	14	14	14	施設の適正な維持管理に伴う業務委託および緊急の修繕案件にも迅速に対応した。また、移動図書館の公用車庫建設及び、修繕案件についても適切に対応した。			
			実績	15	16	20						
	<指標の計算方法>		施設維持管理に必要な業務委託・修繕等の件数									
	成果指標	図書館利用者数	目標	75,000	75,000	75,000	80,000	85,000	新型コロナウイルス感染症への対応に加え移動図書館事業の開始により、総利用人数も1日当たりの利用人数も増加した。			
			実績	51,750	46,958	57,156						
	<指標の計算方法>		図書館利用者数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	18,603			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	①河北図書館施設管理業務委託実績なし。ただし、河北図書館に係る施設維持管理業務および大規模修繕は打田生涯学習センター維持管理業務に含まれる。			・3階誘導灯蓄電池取替修繕 ・雨水枡修繕 ・浄化槽制御盤修繕 ・エレベーター修繕 ・ロスナイセンサー取替修繕 ・男子トイレドアクローザー修繕								
	②河南図書館施設管理業務委託 ・清掃業務（日常清掃、定期清掃） ・貯水槽清掃業務 ・機械警備業務 ・電気保安管理業務 ・空調設備保守点検業務 ・空調機ブロン漏洩調査業務 ・エレベーター保守点検業務 ・消防設備保守点検業務 ・浄化槽保守点検業務 ・植木管理業務			③蔵書拠点管理委託、修繕等実績なし。 ④移動図書館管理 ・公用車庫建設事業 打田生涯学習センターの駐車場に移動図書館車の庫車を建設。（設計監理及び工事） 修繕 ・移動図書館車バッテリー修繕 ・移動図書館車スタッドレスタイヤ取替修繕								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・図書館運営と連動させながら施設の維持管理を適正に行うことが望ましく、現在の事業実施方法が妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・感染症への対策は情勢に応じて適正に行われ、移動図書館に係る事業も目標通り実施できたことから、利用者は増加した。 ・事業実施のために、職員の専門性や能力の向上が必要となる。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・最低人員で施設管理を担当しており、専門的な知識を要する部分については、公共施設マネジメント課の指導を受けている。											

事務事業の概要	事務事業名	生涯学習施設管理運営事業			担当課	生涯学習課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	543	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	5 社会教育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	7 生涯学習施設費				基本施策	1	生涯学習の推進			
事業概要	市民が生涯学習施設を安全で快適に利用できるように、適切な維持管理や改修を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	打田生涯学習センター施設管理			⑤	粉河ふるさとセンター施設管理			⑨	貴志川生涯学習センター施設管理		
	②	東大井教育集会所施設管理			⑥	那賀総合センター施設管理			⑩			
	③	東国分教育集会所施設管理			⑦	西元町教育集会所施設管理			⑪			
	④	古和田教育集会所施設管理			⑧	桃山会館施設管理			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	生涯学習施設使用団体数	目標	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800	新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い利用団体が増加。			
			実績	1,587	2,135	3,108						
	<指標の計算方法>		生涯学習施設使用団体数									
	成果指標	生涯学習施設利用人数	目標	150,000	150,000	150,000	150,000	150,000	新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い利用人数が増加。			
			実績	64,808	76,414	103,811						
	<指標の計算方法>		生涯学習施設利用人数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	321,060			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	128,414		
事業の実績	①打田生涯学習センター施設管理 〔修繕〕空調設備修繕 西側花壇土入替修繕 衛生設備機器雨水ろ過装置修繕 屋内消火栓設備補給水槽修繕			〔工事〕避難誘導灯取替修繕 非常用照明取替修繕 舞台吊物機構改修工事 大・小ホール等Wi-Fi整備工事 ホール映像装置更新工事			⑨貴志川生涯学習センター施設管理 〔修繕〕機械警備機器修繕 自家発電機ラジエーター修繕 〔工事〕外壁改修工事 駐車場拡幅整備工事 ホール排煙窓改修工事					
	②東大井教育集会所施設管理 〔修繕〕排煙窓修繕 ロビー天井照明器具取替修繕			⑥那賀総合センター施設管理 〔修繕〕電話機入替修繕 避難誘導灯取替修繕 〔工事〕外壁改修工事								
	③東国分教育集会所施設管理 〔修繕〕1階床張替修繕			⑦西元町教育集会所施設管理 〔修繕〕屋外遊具修繕								
	④古和田教育集会所施設管理			⑧桃山会館施設管理 〔修繕〕玄関ホールブラインド修繕 防護柵修繕 消防設備修繕 玄関スロープ改修 〔工事〕照明器具改修工事(LED化)								
	⑤粉河ふるさとセンター施設管理 〔修繕〕浄化槽調整ポンプ取替修繕 会議室カーテン取替修繕 特別会議室カーテン取替修繕 屋外遊具落下防止柵取替修繕											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・社会教育、生涯学習を推進していく拠点となる生涯学習施設を市が基本的に維持管理することは妥当である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・利用者の便利向上を図るため、高齢者、子育て世代、障害のある方など、誰もが利用しやすい生涯学習施設の整備が必要である。												
効率性	評価結果	改善の余地が大きい										
	・老朽化した稼働率が低い教育集会所は、廃止も含め社会教育施設等への集約化や地元の集会所的な利用が多い場合には地元自治会への移管など、効率的かつ利用実態に応じた適切な施設管理に向け、関係団体と継続的な協議が必要である。											

事務事業の概要	事務事業名	スポーツ推進委員協議会運営事業			担当課	生涯スポーツ課			事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	542		
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育				
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ				
		目	1 保健体育総務費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実				
事業概要	市民にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、スポーツ推進委員に行政と地域住民のパイプ役となってもらうための支援を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	スポーツ推進委員協議会運営			⑤				⑨				
	②	全国スポーツ推進委員連合会負担金			⑥				⑩				
	③	県スポーツ推進委員協議会負担金			⑦				⑪				
	④				⑧				⑫				
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	研修等参加回数	回	目標	3	3	3	3	3	新型コロナウイルス感染症への対策を充分に取りながら、県、近畿、全国のスポーツ推進委員研究協議会、及び県の新任研修に参加した。全国は表彰対象者が居たので参加。			
				実績	2	2	4						
	<指標の計算方法>		スポーツ推進委員関係の研修等への参加回数										
	成果指標	研修等参加人数	人	目標	50	50	50	30	30			和歌山県主催の研究協議会で、ラジオ体操を紀の川市スポーツ推進委員が担当し、紀の川歩（てくてく）体操を実技研修会として実施したことで、令和3年度よりも参加者数が増加した。	
				実績	10	10	16						
	<指標の計算方法>		スポーツ推進委員関係の研修等への参加人数										
成果指標	スポーツ推進委員数	人	目標	43	43	43	43	43	定員が43人。推進委員に相応しい人物を探しているが、就任に結び付いていない。				
			実績	39	39	39							
<指標の計算方法>		スポーツ推進委員の人数											
			目標										
			実績										
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	2,060			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	2,060			
事業の実績	①スポーツ推進委員協議会運営 ・スポーツ推進委員 39人 ・スポーツ推進委員研修等参加人数 国 2人 近畿 1人 県 9人 県新任 4人												
	②全国スポーツ推進委員連合会負担金 39人 19,500円												
	③県スポーツ推進委員協議会負担金 39人 39,000円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある										
		・スポーツ基本法により市教育委員会が委嘱することとなっているため、市が実施することは妥当と考える。 ・女性委員が14名（39名中）と少ないので、女性委員の加入を引き続き促していきたい。											
	有効性	評価結果	改善の余地がややある										
・新型コロナウイルス感染症が継続している状況や、スポーツ推進委員研究協議会の一部が平日開催等、参加しづらい日程もあるが、スポーツ推進委員の更なる資質向上のために、研修会への参加者を増員できるように努めていきたい。													
効率性	評価結果	改善の余地がややある											
	・研修会等で習得したことを、各ブロック（旧町単位）に持ち帰って、ニュースポーツ教室、障害者スポーツ教室など、地域に密着した教室を開催し、スポーツ振興に努めている。												

事務事業の概要	事務事業名		生涯スポーツ振興事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業		
	会計		一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	130
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 生涯スポーツ振興費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要		市民にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、関係機関等への運営の参画や補助金の交付等の支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業		① スポーツ振興・啓発			⑤ 県体育施設協会負担金			⑨ 総合型地域スポーツクラブ事業補助金				
		② スポーツ賞表彰			⑥ 県レクリエーション協会負担金			⑩ スポーツ大会派遣費補助金				
		③ スポーツインストラクター派遣委託料			⑦ 県B&G地域海洋センター連絡協議会負担金			⑪				
		④ 近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会負担金			⑧ 体育協会補助金			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	事業実施数	事業	目標	88	88	88	88	88	新型コロナウイルス感染症が終息しない状況で、各加盟団体主催の事業などが開催中止となり、令和3年度に引き続き目標値を下回っている。		
				実績	23	30	38					
	<指標の計算方法>		体育協会加盟団体が実施した事業数（年間）									
	活動指標	加盟団体数	団体	目標	34	34	34	34	34	加盟団体数の増減はなく、令和3年度と同数となっている。		
				実績	32	32	32					
	<指標の計算方法>		体育協会に加盟している団体数（競技種目別連盟等）									
	活動指標	登録人数	人	目標	3,750	3,800	3,800	3,800	3,800	加盟団体数の増減は無いが、構成メンバーの入れ替わりや登録チーム数の減少により、登録人数が減っている。		
				実績	3,347	2,954	2,948					
	<指標の計算方法>		体育協会の加盟団体（競技種目別連盟等）に加入している人数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
	6,689			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		6,689	
事業の実績	① スポーツ振興・啓発 ・市広報、市ホームページを活用し、イベントや各種教室等の周知を行う			④ 近畿ブロック地域海洋センター連絡協議会負担金 ・負担金 10,000円			⑨ 総合型地域スポーツクラブ事業補助金 ・補助金 60,000円 桃山体育王国スポーツクラブ					
	② スポーツ賞表彰 ・表彰式開催日 11月12日 ・推薦依頼件数 485件 ・推薦件数 個人 15件、団体 4件 ・選考委員会開催数 1回（9月15日） ・スポーツ賞受賞者 個人：スポーツ顕彰 1人 スポーツ賞 7人 スポーツ奨励賞 5人 団体：スポーツ賞 3団体 スポーツ奨励賞 1団体			⑤ 県体育施設協会負担金 ・負担金 15,000円			⑩ スポーツ大会派遣費補助金 ・補助金 475,630円 スポーツ少年団加盟団体 13団体 体育協会加盟団体 3団体 その他 3団体					
	③ スポーツインストラクター派遣委託料 ・委託料 729,000円 貴志川トレーニングプラザ (23回) 那賀体育館トレーニングルーム (22回)			⑥ 県レクリエーション協会負担金 ・負担金 3,000円			⑦ 県B&G地域海洋センター連絡協議会負担金 ・負担金 40,000円					
			⑧ 体育協会補助金 ・補助金 3,024,888円 加盟団体：32団体、加盟チーム：161チーム 加盟人数：2,948人 事業件数：38事業									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・各種団体が自主運営できる部分もあるが、市のスポーツ振興を行う団体や個人等の育成及び発掘を行っていくため、市が実施することが妥当といえる。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・市民ニーズに合わせた幅広い年齢層を対象とし、初心者でも気軽に行うことができるスポーツ教室等を開催していくため、各種団体の専門性を活用していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・各種団体の自主運営方法を見直すことで、各種団体の競技に対する専門知識やノウハウを活用することにより効率の向上や内容の充実を図ることにつながる。また、補助金の見直し等を行うことで、コスト削減につながる。											

事務事業の概要	事務事業名	スポーツイベント開催事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	539
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3 生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 生涯スポーツ振興費				基本施策	3 スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	市民（大会参加者）にスポーツを通じて心身ともに健康的な生活を送ってもらうために、スポーツ教室やイベント等の開催を行う事業										
事務事業を構成する細事業	① スポーツフェスティバル開催		⑤ 桃源郷マラソン大会補助金		⑨						
	② 市町村対抗ジュニア駅伝参加支援		⑥ 教室開催（B&G事業）		⑩						
	③ スポーツ教室開催		⑦		⑪						
	④ 市町村対抗ジュニア駅伝参加補助金		⑧		⑫						
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	スポーツ教室・大会等事業数	目標	10	10	10	10	10	新型コロナウイルス感染症予防のため、桃源郷ハーフマラソン、スポーツフェスティバル、各種教室が中止となり、事業数は目標値を下回っている。		
			実績	3	3	5					
	<指標の計算方法>		実施したスポーツ教室・大会等の事業数の合計								
	成果指標	スポーツ教室・大会等事業参加人数	目標	4,400	4,450	4,450	4,450	4,450	新型コロナウイルス感染症予防のため、桃源郷ハーフマラソン、スポーツフェスティバル、各種教室が中止となり、参加人数は目標値を下回っている。		
			実績	718	916	866					
	<指標の計算方法>		実施したスポーツ教室・大会等の参加人数の合計								
			目標								
			実績								
	<指標の計算方法>										
		目標									
		実績									
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	760			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	62 693	
事業の実績	① スポーツフェスティバル開催 (新型コロナウイルス感染症予防のため中止)			・夏休みスイミング教室（参加者14人）							
	② 市町村対抗ジュニア駅伝参加支援 ・選考会 11月26日・12月3日 ・練習 12月16日～2月11日（29回） ・大会当日2月12日 結果28チーム中4位			④ 市町村対抗ジュニア駅伝参加補助金 ・補助金447,307円 選手18名 指導者4名							
事業の実績	③ スポーツ教室開催 ・スポーツ教室 4月～3月実施 実施内容 健康体操、親子体操、キッズ体操、ジュニア体操、卓球、スポーツウエルネス吹矢、フラダンス（参加者 延783人） ・ディスコン ・障害者スポーツ教室 1月22日実施（参加者30人） ・ニュースポーツ教室（新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止）			⑤ 桃源郷マラソン大会補助金 ・第16回紀の川市桃源郷ハーフマラソン 開催日：令和4年4月3日（新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止とし、令和5年度に延期）							
				⑥ 教室開催（B&G事業） ・アクアビクス教室（参加者17人）							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・市民ニーズの把握等、民間や各種団体を活かすために、市が積極的に関与していく必要があり、市が実施することは妥当と言える。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・新型コロナウイルス感染症予防のため中止となるイベントも多かったが、実施できたイベントは感染防止対策を参加者協力のもと行い、「心身ともに健康な生活を送る」という目的にあった事業を行っており有効である。											
効率性	評価結果	改善の余地がややある									
	・専門知識やノウハウを持った講師や他団体を活用して事業の幅を広げていく必要がある。										

事務事業の概要	事務事業名	スポーツ少年団運営事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	540
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3 生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 生涯スポーツ振興費				基本施策	3 スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	青少年がスポーツを通じて健康な身体をつくり、よりよい社会人となってもらうために、スポーツ少年団の運営に支援を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	スポーツ少年団運営			⑤			⑨			
	②	スポーツ少年団指導者協議会負担金			⑥			⑩			
	③	スポーツ少年団運営費補助金			⑦			⑪			
	④	スポーツ少年団資格取得費補助金			⑧			⑫			
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	スポーツ少年団募集チラシ発行回数	回	目標	1	1	1	1	1	各団が用意した要項等を市で取りまとめて作成したチラシを、年度末に配布している。	
			実績	1	1	1					
	<指標の計算方法>		市内の保育所(園)年長、小学校1~6年生、中学校1・2年生に団員募集チラシを配布する回数								
	成果指標	スポーツ少年団加入率	%	目標	17.25	17.25	17.35	17.35	17.35	スポーツ少年団の加入率は年によって増減はあるがほぼ横ばいで推移している。	
			実績	17.32	17.36	18.5					
	<指標の計算方法>		市スポーツ少年団の市内小中学生の加入率								
	成果指標	スポーツ少年団団数	団	目標	55	55	55	55	55	少子化による児童の減少により、団活動を継続していくため、団の統合が行われている。	
			実績	52	52	51					
	<指標の計算方法>		市スポーツ少年団の団数								
成果指標	スポーツ少年団団員数	人	目標	750	750	750	750	750	年度により増減するが、中長期的には少子化の影響により団員数が減少することが予想される。		
		実績	735	739	775						
<指標の計算方法>		市スポーツ少年団のに所属する小中学生の人数									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位:千円)			財源内訳							
	3,108			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,108	
事業の実績	①スポーツ少年団運営 ・本部総会:書面決議 (新型コロナウイルス感染症の影響で中止) ・指導者協議会:1回目(5月)書面決議 2回目(2月) ・入団式・体カテスト (新型コロナウイルス感染症の影響で中止)			公認スポーツ指導者資格取得指導者数 8人							
	②スポーツ少年団指導者協議会負担金 ・那賀地方スポーツ少年団指導者協議会負担金 45,990円										
	③スポーツ少年団運営費補助金 ・補助金2,957,576円 51団体 指導者数 159人 役員・スタッフ数 125人 団員数 775人										
	④スポーツ少年団資格取得費補助金 ・補助金 104,600円										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・スポーツを通じて青少年の健全育成を図り、その活動をしていくため、市が実施することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がややある								
・少子化により団員数が減少している中、スポーツ少年団の加入率は、ほぼ目標値に達しているため、事業実施については有効である。 ・今後は、団活動を継続していくため、団の統合も含めた検討が必要である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・指導者がボランティアで指導や団運営を行っているため、コスト削減の余地はない。										

事務事業の概要	事務事業名	スポーツ交流事業		担当課	生涯スポーツ課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	983	
	予算科目	款	10 教育費		長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費			施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	2 生涯スポーツ振興費			基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	市民のスポーツ振興と健康づくりを図るために、関係機関と相互協定に基づく交流を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	児童派遣		⑤				⑨			
	②	体育・スポーツ推進協議会運営		⑥				⑩			
	③	指導講師招へい		⑦				⑪			
	④			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	成果指標	紀の川市体育・スポーツ推進協議会開催数	回	目標	2	2	2	2	2	書面議決を1回含め、2回の審議について協議した。	
			実績	2	2	2					
	<指標の計算方法>		年間協議会開催数								
	成果指標	児童派遣人数	人	目標	30	30	30	30	30	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、令和4年度も児童派遣を行うことが出来なかった。	
実績			0	0	0						
<指標の計算方法>		日体大への児童派遣人数									
成果指標	講師招へい・講座開催数	回	目標	1	1	1	1	1	新型コロナウイルス感染症の拡大状況によらず講習会が開催できる可能性が高いオンライン講習会を予定し、準備を整えたが、直前に講師が怪我により入院となったため、中止となった。		
		実績	0	0	0						
<指標の計算方法>		日体大からの講師招へいによる講座開催回数									
			目標								
			実績								
<指標の計算方法>											
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	109			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
									109		
事業の実績	①児童派遣 ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止										
	②体育・スポーツ推進協議会運営 ・1回目は書面議決(5月) ・2回目は通常開催(3月) ・日体大主催事業(NITTAIDA I×自治体フォーラム2022)教育長出席(11月)										
	③指導講師招へい ・講師入院のため中止 ・オンライン講習会「新しい時代のコーチング中学校部活動地域移行に向けて」の開催を準備していた(3月)										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・日本体育大学と市の協定に基づく事業のため、市が実施することは妥当である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・新型コロナウイルス感染症の影響により当初予定していた児童派遣事業は行えなかった。 ・講師招へい事業をオンラインで行う予定をしていたが、直前に講師の入院で中止となった。令和5年度に改めて専門的知識をもつ講師による質の高い講習を開催するための段取りを確認する事ができた。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・効果を出すために現状を踏まえながら、実施内容等を協議により決定している。 ・コストは削減の余地がないもの(旅費)が大半を占めるので、現状が適切である。										

事務事業の概要	事務事業名	体育施設管理運営事業			担当課	生涯スポーツ課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	131	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	3	生涯学習・生涯スポーツ			
		目	3 体育施設費				基本施策	3	スポーツの振興と環境の充実			
事業概要	市民が体育施設を安全で快適に利用できるように、維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	① 体育館施設管理			⑤ 夜間照明施設管理			⑨ 貴志川スポーツ公園施設管理					
	② 粉河武道館施設管理			⑥ 粉河西部・中部運動場施設管理			⑩ 那賀B&G海洋センター施設管理					
	③ パークゴルフ場施設管理			⑦ 奥安楽川広場施設管理			⑪					
	④ トレーニング施設管理			⑧ 長山ふれあい公園(多目的広場)施設管理			⑫					
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	年間利用者数	人	目標	227,000	230,000	232,000	232,000	232,000	新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた利用者数は回復傾向にある。		
				実績	156,246	148,281	167,091					
	<指標の計算方法>		社会体育施設全体の年間利用者数									
	活動指標	施設使用料	円	目標	14,006,000	14,006,000	14,006,000	14,006,000	14,006,000	新型コロナウイルス感染症の影響により減少していた施設使用料収入は回復傾向にある。		
				実績	10,164,770	9,801,960	11,600,655					
	<指標の計算方法>		社会体育施設全体の使用料									
				目標								
				実績								
	<指標の計算方法>											
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	226,523			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
事業の実績	施設利用状況			西部運動場	6件	67人						
				中部運動場	187件	4,779人						
	① 体育館施設管理			・那賀中学校・調月小学校夜間照明施設管理			⑨ 貴志川スポーツ公園施設管理					
	・粉河体育館 588件 10,989人			・那賀中学校 28件 521人			・野球場 173件 9,431人					
	・那賀体育館 762件 15,742人			調月小学校 54件 1,314人			・ソフトボール場 378件 10,932人					
	・桃山勤労者体育館 680件 12,550人						・テニスコート 1,419件 14,361人					
・貴志川体育館 981件 23,942人			・貴志川スポーツ公園夜間照明施設管理			⑩ 那賀B&G海洋センター施設管理						
② 粉河武道館施設管理			ソフトボール場 81件 1,508人			2,098人						
453件 4,127人			テニスコート 220件 1,159人									
③ パークゴルフ場施設管理			⑥ 粉河西部・中部運動場施設管理									
2,991組 15,367人			・西部運動場 117件 1,710人									
④ トレーニング施設管理			・中部運動場 205件 5,555人									
・那賀体育館トレーニングルーム 4,372人			⑦ 奥安楽川広場施設管理									
・貴志川トレーニングプラザ 13,803人			33件 1,865人									
⑤ 夜間照明施設管理			⑧ 長山ふれあい公園(多目的広場)施設管理									
・粉河西部・中部運動場夜間照明施設管理			407件 10,899人									
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がややある									
		・市民が利用し、市が管理運営する施設であるため、環境を整え、備品や設備等の充実を図り、適正な管理が必要である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がややある									
・安全で快適に利用できる施設を目指し、市民のニーズを的確に把握していく必要がある。												
効率性	評価結果	改善の余地がややある										
	・利用者数の増加と運営効率の観点から、指定管理者制度等の民間活力の導入も検討していく必要がある。 ・施設使用料の減免にかかる市の統一基準を精査し、令和7年4月からの運用に向け利用者や関係団体に周知していく必要がある。											

事務事業の概要	事務事業名	学校給食運営事業			担当課	教育総務課		事業区分	ソフト事業			
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	533	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2 子育て・教育				
		項	6 保健体育費				施策目標	2 学校教育				
		目	4 学校給食費				基本施策	1 学校教育環境の充実				
事業概要	児童、生徒に安全、安心な給食を提供するために、調理配送委託先への指導監督や給食の管理運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	学校給食運営・安全対策			⑤	県学校栄養士研究会負担金		⑨				
	②	学校給食委託			⑥	栄養教諭設置期成会負担金		⑩				
	③	給食配送車管理			⑦			⑪				
	④	全国学校栄養士協議会負担金			⑧			⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	年間給食実施日数	日	目標	201	201	197	202	202	粉河学校給食センター及び河南学校給食センターの令和4年度の年間給食実施日数が令和3年度よりも増加しているのは、新型コロナウイルス感染症対策による夏季休暇の延長や学級閉鎖の発生が減少したため。		
				実績	180	191	201					
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの給食実施日数の平均									
	成果指標	年間給食実食数	食	目標	900,000	900,000	900,000	900,000	900,000			粉河学校給食センター及び河南学校給食センターの令和4年度の年間給食実食数が令和3年度よりも増加しているのは、年間給食実施日数が増加したことによる。
				実績	837,817	874,443	880,201					
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの給食実食数の合計									
活動指標	フルーツ給食の実施回数	回	目標	30	34	34	34	34	令和4年度の給食実施回数は年間を通じて粉河学校給食センターで17回、河南学校給食センターで15回の合計32回実施した。令和3年度よりも減少したのは、物価高騰によるフルーツの値上がりが主な原因である。			
			実績	32	34	32						
<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターでフルーツ給食を提供した回数										
成果指標	年間フルーツ給食の実食数	食	目標	65,000	67,000	67,000	67,000	67,000			実施回数減少に比例して実食数も減少した。	
			実績	66,987	73,521	69,340						
<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターでフルーツ給食を提供した実食数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	492,928			国庫支出金	36,698	県支出金	地方債	繰入金	その他	24,800	一般財源	431,430
事業の実績	①学校給食運営・安全対策			<ul style="list-style-type: none"> ・河南学校給食センター 配送車：2t車 5台 ・学校給食食材費 粉河学校給食センター 60,041,094円 河南学校給食センター 167,059,414円 ・学校給食に紀の川市産のフルーツを食材として使用し、食育の一環として活用した。 ・フルーツ給食食材費 粉河学校給食センター 593,564円 河南学校給食センター 1,612,428円 								
	②学校給食委託			<ul style="list-style-type: none"> ・粉河、河南学校給食センター (給食調理・配送・施設管理) 166,056,000円 ④全国学校栄養士協議会負担金 ・@7,000×3名分(粉河1名、河南2名) 21,000円 ⑤県学校栄養士研究会負担金 ・一律5,000円 ・@2,000円×3名分(粉河1名、河南2名) 6,000円 ⑥栄養教諭設置期成会負担金 ・@5,000円×3名分(粉河1名、河南2名) ※参考(④～⑥について) 共同調理場における栄養士の配置人数(文部科学省教職員定数より) 1,500食以下 1名(粉河) 1,501食～6,000食 2名(河南) 								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・安全安心な学校給食を提供するために今後も市が実施していくことが妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・地産地消を積極的に推進するとともに、地元産果物を使用したフルーツ給食の提供など、安全安心な給食の提供及び食育の観点からも大変有意義な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・学校給食の調理、配送、施設の保守及び衛生管理業務を委託しており、効率化が図られている。											

事務事業の概要	事務事業名	学校給食センター管理事業			担当課	教育総務課			事業区分	ソフト事業		
	会計	一般会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	1087	
	予算科目	款	10 教育費			長期総合計画体系	政策目標	2	子育て・教育			
		項	6 保健体育費				施策目標	2	学校教育			
		目	4 学校給食費				基本施策	1	学校教育環境の充実			
取組方針				4	学校給食の充実							
事業概要	児童、生徒に安全な給食を滞りなく提供するために、学校給食センター維持管理を適切に行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	粉河学校給食センター施設管理			⑤				⑨			
	②	河南学校給食センター施設管理			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			

指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	施設設備の点検、メンテナンス、改良工事件数	件	目標	20	15	15	15	15	令和4年度において、工事、修繕件数が17件に増加したのは、経年劣化による予算計上分の工事・修繕が増加したのが主な原因である。		
			実績	15	8	17						
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの施設設備（厨房設備除く）のメンテナンス修繕件数、法定検査、委託点検、改良工事の合計件数（予算計上分）									
	活動指標	施設設備の緊急を要する修繕・工事件数	件	目標	5	5	5	25	25	施設の経年劣化による突発的な修繕等が年々増加している。		
			実績	15	15	25						
	<指標の計算方法>		粉河学校給食センターと河南学校給食センターの施設設備（厨房設備除く）の予定していない修繕と工事の合計件数（予算計上していないもの）									
	成果指標	施設設備の不具合で給食が提供できなかった日数	日	目標	0	0	0	0	0	令和4年度において、突発的な事故・故障等による給食の停止はなかった。		
			実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		施設設備の不具合で給食が提供できなかった日数									
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												

コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)		財源内訳					
	73,897		国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源
					62,700			11,197

事業の実績	①粉河学校給食センター施設管理							
	<ul style="list-style-type: none"> ・法定及び定期検査 4件 544,300円 ・緊急修繕 12件 636,130円 ・工事(設計監理含む) 3件 62,753,108円 							
事業の実績	②河南学校給食センター施設管理							
	<ul style="list-style-type: none"> ・法定及び定期検査 3件 1,826,000円 ・施設修繕 7件 2,402,620円 ・緊急修繕 13件 2,219,118円 							

事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない ・学校給食センターの施設・設備等の保守及び管理を行う業務であり、市が継続していくことが妥当な事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない ・施設や設備等の老朽化及び経年劣化による修繕等が発生する中、定期的なメンテナンスや修繕を行っていることで、設備の不備に起因する学校給食の提供中止の事態を避けることができる。								
	効率性	評価結果	改善の余地がない ・施設管理に特化した事業であり、メンテナンスについては学校の長期休業中に計画的に実施している。								

10. 特別会計主要施策の成果

国民健康保険事業勘定特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																
1-1-1 一般被保険者保険税	国保年金課	1,228,651,000	1,264,940,644	◎一般被保険者分保険税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>924,677,500</td> <td>898,423,325</td> <td>97.2%</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>277,539,500</td> <td>269,588,635</td> <td>97.1%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>101,191,400</td> <td>96,928,684</td> <td>95.8%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,303,408,400</td> <td>1,264,940,644</td> <td>97.0%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和3年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>1,073,365,329</td> <td>1,039,987,299</td> <td>96.9%</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>328,832,900</td> <td>318,438,757</td> <td>96.8%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>121,930,400</td> <td>116,173,605</td> <td>95.3%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>1,524,128,629</td> <td>1,474,599,661</td> <td>96.8%</td> </tr> </tbody> </table> 【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象年度</th> <th>件数</th> <th>減免税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和4年度分</td> <td>2件</td> <td>149,400</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>令和3年度分</td> <td>19件</td> <td>2,625,700</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	924,677,500	898,423,325	97.2%	—	—	後期支援分	277,539,500	269,588,635	97.1%	介護納付分	101,191,400	96,928,684	95.8%	合 計	1,303,408,400	1,264,940,644	97.0%	令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	1,073,365,329	1,039,987,299	96.9%	—	—	後期支援分	328,832,900	318,438,757	96.8%	介護納付分	121,930,400	116,173,605	95.3%	合 計	1,524,128,629	1,474,599,661	96.8%	年度	対象年度	件数	減免税額	令和4年度	令和4年度分	2件	149,400	令和3年度	令和3年度分	19件	2,625,700
	令和4年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																											
額					件数																																																															
医療給付分	924,677,500	898,423,325	97.2%	—	—																																																															
後期支援分	277,539,500	269,588,635	97.1%																																																																	
介護納付分	101,191,400	96,928,684	95.8%																																																																	
合 計	1,303,408,400	1,264,940,644	97.0%																																																																	
令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
医療給付分	1,073,365,329	1,039,987,299	96.9%	—	—																																																															
後期支援分	328,832,900	318,438,757	96.8%																																																																	
介護納付分	121,930,400	116,173,605	95.3%																																																																	
合 計	1,524,128,629	1,474,599,661	96.8%																																																																	
年度	対象年度	件数	減免税額																																																																	
令和4年度	令和4年度分	2件	149,400																																																																	
令和3年度	令和3年度分	19件	2,625,700																																																																	
	収納対策課	55,100,000	52,611,616	◎一般被保険者分保険税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>127,991,058</td> <td>35,889,528</td> <td>28.0%</td> <td rowspan="4">6,560,641</td> <td rowspan="4">747件</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>32,859,580</td> <td>10,427,360</td> <td>31.7%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>21,507,692</td> <td>6,294,728</td> <td>29.3%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>182,358,330</td> <td>52,611,616</td> <td>28.9%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和3年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>140,583,493</td> <td>37,536,606</td> <td>26.7%</td> <td rowspan="4">9,341,269</td> <td rowspan="4">951件</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>35,536,394</td> <td>10,852,178</td> <td>30.5%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>23,553,903</td> <td>6,295,607</td> <td>26.7%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>199,673,790</td> <td>54,684,391</td> <td>27.4%</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	127,991,058	35,889,528	28.0%	6,560,641	747件	後期支援分	32,859,580	10,427,360	31.7%	介護納付分	21,507,692	6,294,728	29.3%	合 計	182,358,330	52,611,616	28.9%	令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	140,583,493	37,536,606	26.7%	9,341,269	951件	後期支援分	35,536,394	10,852,178	30.5%	介護納付分	23,553,903	6,295,607	26.7%	合 計	199,673,790	54,684,391	27.4%												
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
医療給付分	127,991,058	35,889,528	28.0%	6,560,641	747件																																																															
後期支援分	32,859,580	10,427,360	31.7%																																																																	
介護納付分	21,507,692	6,294,728	29.3%																																																																	
合 計	182,358,330	52,611,616	28.9%																																																																	
令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
医療給付分	140,583,493	37,536,606	26.7%	9,341,269	951件																																																															
後期支援分	35,536,394	10,852,178	30.5%																																																																	
介護納付分	23,553,903	6,295,607	26.7%																																																																	
合 計	199,673,790	54,684,391	27.4%																																																																	
1-1-2 退職被保険者等保険税	国保年金課	3,000	0	◎退職被保険者分保険税 現年課税分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和3年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>92,471</td> <td>92,471</td> <td>100.0%</td> <td rowspan="4">—</td> <td rowspan="4">—</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>28,400</td> <td>28,400</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>30,200</td> <td>30,200</td> <td>100.0%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>151,071</td> <td>151,071</td> <td>100.0%</td> </tr> </tbody> </table> 【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象年度</th> <th>件数</th> <th>減免税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	0	0	—	—	—	後期支援分	0	0	—	介護納付分	0	0	—	合 計	0	0	—	令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	92,471	92,471	100.0%	—	—	後期支援分	28,400	28,400	100.0%	介護納付分	30,200	30,200	100.0%	合 計	151,071	151,071	100.0%	年度	対象年度	件数	減免税額	令和4年度	—	—	—	令和3年度	—	—	—
	令和4年度	調定額	収入済額	収納率					不納欠損																																																											
額					件数																																																															
医療給付分	0	0	—	—	—																																																															
後期支援分	0	0	—																																																																	
介護納付分	0	0	—																																																																	
合 計	0	0	—																																																																	
令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
医療給付分	92,471	92,471	100.0%	—	—																																																															
後期支援分	28,400	28,400	100.0%																																																																	
介護納付分	30,200	30,200	100.0%																																																																	
合 計	151,071	151,071	100.0%																																																																	
年度	対象年度	件数	減免税額																																																																	
令和4年度	—	—	—																																																																	
令和3年度	—	—	—																																																																	
	収納対策課	600,000	114,396	◎退職被保険者分保険税 滞納繰越分 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療給付分</td> <td>2,459,598</td> <td>72,403</td> <td>2.9%</td> <td rowspan="4">713,281</td> <td rowspan="4">28件</td> </tr> <tr> <td>後期支援分</td> <td>440,927</td> <td>20,042</td> <td>4.5%</td> </tr> <tr> <td>介護納付分</td> <td>532,296</td> <td>21,951</td> <td>4.1%</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>3,432,821</td> <td>114,396</td> <td>3.3%</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	医療給付分	2,459,598	72,403	2.9%	713,281	28件	後期支援分	440,927	20,042	4.5%	介護納付分	532,296	21,951	4.1%	合 計	3,432,821	114,396	3.3%																																						
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																
				額	件数																																																															
医療給付分	2,459,598	72,403	2.9%	713,281	28件																																																															
後期支援分	440,927	20,042	4.5%																																																																	
介護納付分	532,296	21,951	4.1%																																																																	
合 計	3,432,821	114,396	3.3%																																																																	

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容								
				令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損				
				医療給付分	2,708,399	245,982	9.1%	4,100	1件			
				後期支援分	498,067	56,608	11.4%					
				介護納付分	596,640	63,595	10.7%					
				合 計	3,803,106	366,185	9.6%					
				◎軽減世帯数および軽減被保険者数								
				世帯数				被保険者数				
				7割	5割	2割	計	7割	5割	2割	計	
				一般被保険者	2,902	1,546	1,112	5,560	4,029	2,901	2,068	8,998
				退職被保険者	0	0	0	0	0	0	0	0
				合 計	2,902	1,546	1,112	5,560	4,029	2,901	2,068	8,998
				注) 同一世帯内に一般被保険者と退職被保険者が混在する場合は、一般被保険者の世帯数として計上								
				◎未就学児均等割保険料軽減								
				医療給付分				後期支援分				
				被保険者数	軽減税額			被保険者数	軽減税額			
				一般被保険者	365	2,695,204			365	829,279		
				退職被保険者	0	0			0	0		
				合 計	365	2,695,204			365	829,279		
				◎賦課割合 (被保険者全体)								
				賦 課 区 分	応 能 割			応 益 割				
					所得割	資産割		均等割		平等割		
				医療給付分	49.31%	49.31%	0.00%	50.69%	35.21%	15.48%		
				後期支援分	48.51%	48.51%	0.00%	51.49%	36.04%	15.45%		
				介護納付分	48.03%	48.03%	0.00%	51.97%	36.87%	15.10%		
				区 分 全 体	48.62%	48.62%	0.00%	51.38%	36.04%	15.34%		

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	総務費（国保）			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	国民健康保険事業勘定特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7001	
	予算科目	款	1	総務費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
						施策目標	2	健康・医療				
	基本施策	3	医療保険制度の安定運営									
取組方針	1	国民健康保険制度の安定的運営										
事業概要	国民健康保険制度に基づき被保険者が医療保険を利用できるよう管理を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	総務管理費	⑤	⑨								
	②	徴税费	⑥	⑩								
	③	運営協議会費	⑦	⑪								
	④		⑧	⑫								
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	国民健康保険税（現年課税分）の収納率	%	目標	95.3	95.3	96	97	97	収納率は高水準を維持している。		
				実績	96.5	96.8	97					
	<指標の計算方法>		現年分収納済み額÷現年度調定額									
	活動指標	被保険者証の交付（年度更新）	枚	目標						後期高齢者医療制度への移行、被用者保険の適用拡大により被保険者数は減少傾向にある。		
				実績	15,566	15,493	14,935					
	<指標の計算方法>		被保険者証の一斉更新対象の被保険者数									
	活動指標	国民健康保険事業の運営に関する協議会の開催	回	目標	4	4	4	4	4	新型コロナウイルス感染症拡大により1回は書面開催としたが、税率改正などの協議は例年通りスムーズに行い、令和3年度と同様に開催した。		
				実績	3	3	3					
	<指標の計算方法>		実施回数									
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	39,594			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源			
				12,985				183	26,426			
事業の実績	①総務管理費 【被保険者の状況（年度平均）】 世帯数 9,282世帯 被保険者数（全体） 15,282人 （内訳）一般被保険者 15,282人 退職被保険者 0人 （再掲）介護保険第2号被保険者 5,004人 ◎紀の川市国民健康保険運営 ・被保険者証の更新 ・保険者事務電算共同処理委託 ・事務システムの保守・開発 ・各種受給者証等の作成 ・県国民健康保険団体連合会負担金 会員負担金 保険者均等割 380,000円 被保険者割 4,211,026円 ※当該年度の4月末現在の被保険者数に応じて算出 （R4.4月末 15,678人）			②徴税费 ◎国民健康保険税賦課徴収 ・納税通知書等作成・送付 ・口座振替手数料費用 254,016円（単価：10円【税別】） ・コンビニ収納手数料費用 1,252,700円（単価：59円【税別】） ・収納率向上のための徴収員（収納対策課配属）の雇用			③運営協議会費 ◎紀の川市の国民健康保険事業の運営に関する協議会（委員数17名） ・開催回数 3回 第1回 令和4年8月18日（書面） 第2回 令和5年1月19日 第3回 令和5年2月16日					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・保険者として国民健康保険法、地方税法等に基づき実施する事務である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・保険者として国民健康保険法、地方税法等に基づき実施する事務である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・大量印刷物（被保険者証、納税通知等）の印刷、封入などを外部委託しており、事務効率の改善については、余地がない状況である。												

事務事業の概要	事務事業名	保険給付費（国保）		担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業				
	会計	国民健康保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7002		
	予算科目	款	項	目	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
						施策目標	2	健康・医療				
						基本施策	3	医療保険制度の安定運営				
取組方針	1	国民健康保険制度の安定的運営										
事業概要	国民健康保険制度に基づき被保険者が医療保険を利用できるよう運営を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	療養諸費			⑤	移送費			⑨			
	②	高額療養費			⑥	傷病諸費			⑩			
	③	出産育児諸費			⑦				⑪			
	④	葬祭諸費			⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	出産育児一時金支給件数	件	目標	52	42	36	35	35		被保険者数は減少傾向にあるが、支給件数は令和3年度と比較して6件の増加となった。令和3年度と比較して僅かながら増加しているが、実績経過からも少子化が進んでいることが窺える。	
				実績	29	35	41					
	<指標の計算方法>		支給実績件数									
	活動指標	葬祭費支給件数	件	目標	101	104	95	95	95	被保険者数は減少傾向にあるが、支給件数は令和3年度と比較して4件の増加となった。		
				実績	80	98	102					
	<指標の計算方法>		支給実績件数									
	活動指標	1人あたり費用額	円	目標								1人あたり費用額は、増加傾向にある。要因としては、医療技術の高度化及び医療施設の充実による診療機会の増加などが考えられる。
				実績	367,712	406,393	419,396					
	<指標の計算方法>		療養給付費・療養費の費用額（一般・退職）÷平均被保険者数									
活動指標	1人あたり保険者負担額	円	目標						1人あたり保険者負担額は、増加傾向にある。要因としては、医療技術の高度化及び医療施設の充実による診療機会の増加などが考えられる。			
			実績	269,186	298,235	307,932						
<指標の計算方法>		療養給付費・療養費の保険者負担額（一般・退職）÷平均被保険者数										
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳								
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他		一般財源		
	5,411,087				5,382,075					29,012		
事業の実績	①療養諸費				③出産育児諸費							
	◎給付件数（療養給付費） ・一般被保険者 275,676件 ・退職被保険者 0件 ◎給付件数（療養費） ・一般被保険者 12,487件 ・退職被保険者 0件 ◎審査支払件数 ・一般被保険者 288,273件 ・退職被保険者 0件				◎支給件数 ・420,000円 40件 ・408,000円 1件 ④葬祭諸費 ◎支給件数 102件 ⑤移送費 ◎支給件数 0件							
②高額療養費				⑥傷病諸費								
◎給付件数（高額療養費） ・一般被保険者 11,682件 ・退職被保険者 0件 ◎給付件数（高額介護合算療養費） ・一般被保険者 24件 ・退職被保険者 0件				◎相談件数 68件 ◎申請件数 27件 ◎支給件数 27件								
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
			・保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費、高額療養費、出産育児一時金及び葬祭費の支給等）を実施する事務である。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
		・保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費、高額療養費、出産育児一時金及び葬祭費の支給等）を実施する事務である。										
効率性	評価結果	改善の余地がない										
		・保険者として健康保険法等に基づき法定給付（療養の給付、療養費、高額療養費、出産育児一時金及び葬祭費の支給等）を実施する事務である。										

事務事業の概要	事務事業名	保健事業（国保）			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	国民健康保険事業勘定特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	7006	
	予算科目	款	6	保健事業費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
	項目					施策目標	2	健康・医療				
	目					基本施策	3	医療保険制度の安定運営				
事業概要	特定健康診査等事業や保健事業を通して、被保険者の健康寿命を延伸できるようにする事業											
事務事業を構成する細事業	①	特定健康診査等事業			⑤				⑨			
	②	保健事業			⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	特定健診受診率	%	目標	39	34	35.9	42	42	新型コロナウイルス感染症により低下していた受診率は、徐々に回復している。		
				実績	31.8	35.9	38.2					
	<指標の計算方法>		特定健診受診者数÷特定健診対象者数									
	成果指標	特定保健指導率	%	目標	23	21.3	32.9	36.1	38	集団健診会場において、引き続き保健指導を実施するとともに、訪問による保健指導を再開したことにより、利用率が上昇した。		
				実績	16	32.9	36.1					
	<指標の計算方法>		特定保健指導終了者数÷特定保健指導対象者数									
	成果指標	未受療者受療勧奨による受療率	%	目標	60	63.3	63.3	70	70	糖尿病性腎症重症化予防事業を医療機関と連携したことで、受療率が上昇した。		
				実績	41.9	63.3	69.7					
	<指標の計算方法>		受療者数÷対象者数（糖尿病性腎症重症化予防事業）									
活動指標	医療費通知の通知回数	回	目標	6	6	6	6	6	予定通り実施することができた。			
			実績	6	6	6						
<指標の計算方法>		医療費通知の通知回数										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	97,871			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		33,791	
事業の実績	①特定健康診査等事業 ◎特定健康診査 ・対象者数:12,392人 受診者数:4,728人 受診率:38.2% (特定健診受診者内訳) 集団健診受診者数:1,331人 個別健診受診者数:3,095人 脳ドック検診の特定健診受診者数:302人			◎糖尿病性腎症重症化予防事業 ・受療勧奨 対象者:76人 受療者:53人(69.7%) ・保健指導 対象者:317人 利用者:35人(11.0%)			◎生活習慣病重症化予防(高血糖)の健康相談 対象者:317人 利用者:35人(11.0%)					
	◎特定保健指導 ・対象者:521人 利用者:188人 利用率:36.1% (保健指導利用者内訳) 動機付け支援:対象者399人 利用者147人(36.8%) 積極的支援 :対象者122人 利用者 41人(33.6%)			②保健事業 ◎重複・多剤対策事業 対象者:579人 多剤解消者数:116人 重複解消者数:32人			◎スマホドック事業 対象者:945人 申込者:109人 受診者:92人(9.7%)					
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・特定健康診査及び特定保健指導は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて実施している。また、その他の保健事業についても、被保険者の健康を保持増進することが目的のため、妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・特定健康診査及び特定保健指導は、高齢者の医療の確保に関する法律に基づいて実施している。また、その他の保健事業についても、被保険者の健康を保持増進することが目的のため、有効な事業である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	・個別特定健康診査受診券印刷業務や令和5年度各種検診希望調査票通知作成業務を委託することにより、更なる事務の効率化を図っている。											

国民健康保険直営診療施設勘定特別会計

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名		一般管理事業（直診）			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計					新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	186
	予算科目	款	1	施設費		長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心				
		項	1	施設管理費			政策目標	2	健康・医療				
		目	1	一般管理費			基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実				
事業概要	市民（鞆渚地域及び周辺地域住民）が適切な医療行為を受けられるよう診療所の管理を行う事業												
事務事業を構成する細事業	①	一般管理事業			⑤						⑨		
	②				⑥						⑩		
	③				⑦						⑪		
	④				⑧						⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	活動指標	診療日数	日	目標						診療日数はできる限り維持している。			
				実績	191	243	241						
	<指標の計算方法>		診療日数										
	成果指標	受診者数	人	目標						地域住民の人口減少に伴い、年間延べ受診者数は減少傾向にある。			
				実績	1,641	1,532	1,336						
	<指標の計算方法>		延べ受診者数										
成果指標	レセプト請求件数	件	目標						受診者数の減少のため、レセプト請求件数も減少傾向にある。				
			実績	1,471	1,370	1,206							
<指標の計算方法>		レセプト請求件数											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳									
	20,281			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源				
			20,281										
事業の実績	①一般管理事業 ・直営診療施設受診者数 1,218名（鞆渚診療所） 118名（細野診療所） ・レセプト請求件数 1,096件（鞆渚診療所） 110件（細野診療所） ・診療所通院バス運転委託料 高齢者などの交通弱者が鞆渚診療所へ来院できるように通院バスの運行を行う。（午前中最大4便運行） 【利用状況】 運行回数 583回 乗降人数 333人 ・管理運営委託料 鞆渚診療所指定管理事業者への管理運営委託料 17,631千円												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
		・周辺に医療機関がない山間地（へき地）であり、民間の医療機関の参入・進出が見込めない地域であるため、直営診療施設での医療行為の提供は、妥当な事業である。											
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
・周辺に医療機関がない山間地（へき地）であり、民間の医療機関の参入・進出が見込めない地域であるため、直営診療施設での医療行為の提供は、有効な事業である。													
効率性	評価結果	改善の余地がない											
	・令和元年度から指定管理者制度を実施しており、運営の効率化及びコスト削減に取り組んでいる。												

事務事業の概要	事務事業名	診療施設再編事業（直診）			担当課	国保年金課		事業区分	ハード事業				
	会計	国民健康保険直営診療施設勘定特別会計			新規・継続	継続	事業期間	期間限定複数年度（R1～R7）		事業番号	1138		
	予算科目	款	1	施設費	長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心					
		項	1	施設管理費		政策目標	2	健康・医療					
		目	1	一般管理費		基本施策	2	地域医療体制・医療サービスの充実					
取組方針	4	鞆淵診療所の安定的運営											
事業概要	機能性及び利便性が向上した診療所（施設）において、適切な医療が受診できるよう、鞆淵地区の公共施設（鞆淵出張所・鞆淵診療所・消防詰所）を複合施設などに再編する事業												
事務事業を構成する細事業	①	診療施設再編事業			⑤					⑨			
	②				⑥					⑩			
	③				⑦					⑪			
	④				⑧					⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析			
	成果指標	再編する診療施設数	施設	目標	1	1	1	1	1	出張所、診療所、消防器具庫の機能集約を目指す。令和7年度に事業を完了させるため、令和4年度から5年度にかけ造成工事を実施している。			
				実績	0	0	0						
	<指標の計算方法>		再編を行った診療施設数										
			目標										
			実績										
	<指標の計算方法>												
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
		目標											
		実績											
<指標の計算方法>													
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳									
	10,920			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	20			
事業の実績	①診療施設再編事業 ・鞆淵地区複合施設建設造成工事 工事金額 10,920,000円 出来高率44% （面積比 出張所5、消防施設2、診療施設3）												
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない										
			・鞆淵地区の公共施設で老朽化している出張所、消防施設及び診療施設を集約し再編することは、市民の利便性等を含めて妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない										
		・鞆淵地区の公共施設で老朽化している出張所、消防施設及び診療施設を集約し再編することは、市民の利便性等を含めて有効な事業である。											
効率性	評価結果	改善の余地がない											
		・鞆淵地区の公共施設で老朽化している出張所、消防施設及び診療施設を集約し再編することは、施設管理のコスト削減に繋がる。											

後期高齢者医療特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																																															
1 - 1 - 1 後期高齢者医療保険料	国保年金課	715,368,000	692,998,200	<p>◎後期高齢者医療保険料 現年度分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別徴収分</td> <td>430,597,500</td> <td>430,597,500</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通徴収分</td> <td>264,322,300</td> <td>262,400,700</td> <td>99.3%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>694,919,800</td> <td>692,998,200</td> <td>99.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和3年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別徴収分</td> <td>421,814,900</td> <td>421,814,900</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通徴収分</td> <td>255,367,000</td> <td>253,032,000</td> <td>99.1%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>677,181,900</td> <td>674,846,900</td> <td>99.7%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎軽減被保険者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">被保険者別</th> <th colspan="4">被保険者数</th> </tr> <tr> <th>7割</th> <th>5割</th> <th>2割</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>一般</td> <td>4,741</td> <td>1,404</td> <td>1,150</td> <td>7,295</td> </tr> <tr> <td>元被扶養者</td> <td>720</td> <td>46</td> <td>49</td> <td>815</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>5,461</td> <td>1,450</td> <td>1,199</td> <td>8,110</td> </tr> </tbody> </table> <p>【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象年度</th> <th>件数</th> <th>減免税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">令和4年度</td> <td>令和4年度分</td> <td>1件</td> <td>40,200</td> </tr> <tr> <td>令和3年度分</td> <td>4件</td> <td>122,800</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>令和2年度分</td> <td>2件</td> <td>61,400</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎後期高齢者医療保険料 滞納繰越分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>3,613,300</td> <td>2,319,487</td> <td>64.2%</td> <td>147,400</td> <td>18件</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>3,328,826</td> <td>2,170,726</td> <td>65.2%</td> <td>95,100</td> <td>9件</td> </tr> </tbody> </table>	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	430,597,500	430,597,500	100.0%	—	—	普通徴収分	264,322,300	262,400,700	99.3%	—	—	合 計	694,919,800	692,998,200	99.7%	—	—	令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	421,814,900	421,814,900	100.0%	—	—	普通徴収分	255,367,000	253,032,000	99.1%	—	—	合 計	677,181,900	674,846,900	99.7%	—	—	被保険者別	被保険者数				7割	5割	2割	計	一般	4,741	1,404	1,150	7,295	元被扶養者	720	46	49	815	合 計	5,461	1,450	1,199	8,110	年度	対象年度	件数	減免税額	令和4年度	令和4年度分	1件	40,200	令和3年度分	4件	122,800	令和3年度	令和2年度分	2件	61,400	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	3,613,300	2,319,487	64.2%	147,400	18件	令和3年度	3,328,826	2,170,726	65.2%	95,100	9件
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																															
				額	件数																																																																																																														
特別徴収分	430,597,500	430,597,500	100.0%	—	—																																																																																																														
普通徴収分	264,322,300	262,400,700	99.3%	—	—																																																																																																														
合 計	694,919,800	692,998,200	99.7%	—	—																																																																																																														
令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																															
				額	件数																																																																																																														
特別徴収分	421,814,900	421,814,900	100.0%	—	—																																																																																																														
普通徴収分	255,367,000	253,032,000	99.1%	—	—																																																																																																														
合 計	677,181,900	674,846,900	99.7%	—	—																																																																																																														
被保険者別	被保険者数																																																																																																																		
	7割	5割	2割	計																																																																																																															
一般	4,741	1,404	1,150	7,295																																																																																																															
元被扶養者	720	46	49	815																																																																																																															
合 計	5,461	1,450	1,199	8,110																																																																																																															
年度	対象年度	件数	減免税額																																																																																																																
令和4年度	令和4年度分	1件	40,200																																																																																																																
	令和3年度分	4件	122,800																																																																																																																
令和3年度	令和2年度分	2件	61,400																																																																																																																
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																															
				額	件数																																																																																																														
令和4年度	3,613,300	2,319,487	64.2%	147,400	18件																																																																																																														
令和3年度	3,328,826	2,170,726	65.2%	95,100	9件																																																																																																														
		1,485,000	2,319,487																																																																																																																

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	一般管理事業（後期）			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	後期高齢者医療特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	391	
	予算科目	款	1 総務費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
		項	1 総務管理費				施策目標	2 健康・医療				
		目	1 一般管理費				基本施策	3 医療保険制度の安定運営				
事業概要	後期高齢者医療制度に基づき、被保険者が医療保険を利用できるよう受付等の業務を行う事業											
事務事業を構成する細事業	①	一般管理事業			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	被保険者数	人	目標						団塊の世代が75歳に到達してきており、被保険者数は増加している。		
				実績	10,332	10,501	10,847					
	<指標の計算方法>		紀の川市の被保険者数（年度末）									
	活動指標	被保険者証（新規）送付件数	件	目標						75歳年齢到達者の増加に伴い、被保険者証の送付件数は増加している。		
				実績	538	895	1,115					
<指標の計算方法>		新規取得の被保険者証送付件数										
			目標									
			実績									
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳								
	8,239			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	3,659 4,580		
事業の実績	<p>①一般管理事業 ・後期高齢者医療の保険者は和歌山県後期高齢者医療広域連合であるが、市は被保険者証や減額証・限度証の年次更新、受付業務に係る各種通知等の発送を行っている。 令和4年度は制度改正により被保険者証を2回更新し郵送している。</p> <p>◎郵送件数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被保険者証（更新）郵送 10,581通 ・被保険者証（2回目更新）郵送 10,726通 ・被保険者証（新規）郵送 1,115通 ・減額証・限度証（更新）郵送 1,967通 ・高額介護合算通知書郵送 883通 											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		<p>・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。</p>										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
<p>・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。</p>												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
	<p>被保険者証や減額証・限度証は和歌山県後期高齢者医療広域連合から封入封緘された状態で納品されており、事業効率の改善については余地がない状況である。</p>											

事務事業の概要	事務事業名	徴収事業（後期）			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業		
	会計	後期高齢者医療特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	392
	予算科目	款	1 総務費			長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項	2 徴収費				施策目標	2 健康・医療			
		目	1 徴収費				基本施策	3 医療保険制度の安定運営			
事業概要	後期高齢者医療制度に基づき、保険料徴収等の業務を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	徴収事業			⑤				⑨		
	②				⑥				⑩		
	③				⑦				⑪		
	④				⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	成果指標	現年度分保険料収納率	%	目標	99.8	99.8	99.8	99.8	99.8	収納率は高水準を維持している。	
				実績	99.6	99.7	99.7				
		<指標の計算方法>		現年度保険料収納率							
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
			目標								
			実績								
		<指標の計算方法>									
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳							
	3,164			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	8 3,156	
事業の実績	①徴収事業 ・後期高齢者医療の保険者は和歌山県後期高齢者医療広域連合であるが、市は保険料の徴収を行っている。 ◎保険料の納付書、督促状等の発送 ・当初額決定通知書郵送 10,729通 ・督促状郵送 1,173通 ・納付済証明書郵送 3,676通 ・更正通知郵送 1,625通 ◎保険料徴収関係件数 ・口座振替手数料 8,704件 ・コンビニ収納手数料 2,198件										
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
			・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・高齢者の医療の確保に関する法律に規定する後期高齢者医療制度に関する事務であり、和歌山県後期高齢者医療広域連合規約及び和歌山県後期高齢者医療広域連合計画に規定のある市町村事務で、高齢者の医療を確保するために実施する事業である。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
		・大量印刷物（当初額決定通知書等）の印刷、封入などを外部委託しており、事務効率の改善については、余地がない状況である。									

事務事業の概要	事務事業名	保健事業（後期）			担当課	国保年金課		事業区分	ソフト事業			
	会計	後期高齢者医療特別会計			新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	428	
	予算科目	款	3 保健事業費			長期総合計画体系	政策目標	1	安全・安心			
		項	1 保健事業費				施策目標	2	健康・医療			
		目	1 保健事業費				基本施策	3	医療保険制度の安定運営			
事業概要	脳ドックなどの保健事業を通じて、高齢者の健康維持、疾病を早期発見し、高齢者の健康寿命を延伸するための事業											
事務事業を構成する細事業	①	保健事業			⑤				⑨			
	②				⑥				⑩			
	③				⑦				⑪			
	④				⑧				⑫			
指標の実績	指標名		単位		R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	成果指標	脳ドック検診の受診者数	人	目標	30	30	50	80	80	脳ドック検診当選者がほぼ受診している。		
				実績	28	29	49					
	<指標の計算方法>		脳ドック検診の受診者数									
			目標									
			実績									
	<指標の計算方法>											
		目標										
		実績										
<指標の計算方法>												
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳								
	2,935			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	620 2,315		
事業の実績	①保健事業 ②被保険者の脳ドック検診に要した費用の一部を助成 申込者：181人 承認者：50人 受診者：49人（98.0%）											
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない									
		・脳ドック助成は、脳血管疾患等の発症又は進行を防止することによる高齢者の健康保持のために、妥当な事業である。										
	有効性	評価結果	改善の余地がない									
・脳ドック助成対象者の募集、抽選をいずれも国保被保険者分と同時に行うことで、事業を効率的に行っている。事業効率の改善については余地がない状況である。												
効率性	評価結果	改善の余地がない										
・脳ドック助成対象者の募集、抽選をいずれも国保被保険者分と同時に行うことで、事業を効率的に行っている。事業効率の改善については余地がない状況である。												

介護保険事業勘定特別会計

款 項 目	担当課	予 算 現 額	収 入 済 額	事 業 等 実 施 内 容																																																																																																																			
1-1-1 第1号被保険者保険料	高齢介護課	1,408,333,000	1,457,749,838	<p>◎介護保険料段階別人数（令和5年3月末現在） ・65歳以上の方の保険料は、所得段階によって分かれます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>所得段階</th> <th>被保険者数</th> <th>所得段階</th> <th>被保険者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1段階</td> <td>3,730</td> <td>第7段階</td> <td>2,757</td> </tr> <tr> <td>第2段階</td> <td>1,762</td> <td>第8段階</td> <td>1,057</td> </tr> <tr> <td>第3段階</td> <td>1,589</td> <td>第9段階</td> <td>530</td> </tr> <tr> <td>第4段階</td> <td>2,545</td> <td>第10段階</td> <td>198</td> </tr> <tr> <td>第5段階</td> <td>2,361</td> <td>第11段階</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td>第6段階</td> <td>3,433</td> <td>合計</td> <td>20,135</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎介護保険料 現年度分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和4年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別徴収分</td> <td>1,344,098,400</td> <td>1,344,098,400</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通徴収分</td> <td>119,786,600</td> <td>113,651,438</td> <td>94.9%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,463,885,000</td> <td>1,457,749,838</td> <td>99.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和3年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">令和3年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>特別徴収分</td> <td>1,347,858,500</td> <td>1,347,858,500</td> <td>100.0%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>普通徴収分</td> <td>127,155,900</td> <td>121,347,800</td> <td>95.4%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,475,014,400</td> <td>1,469,206,300</td> <td>99.6%</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>【新型コロナウイルス感染症の影響による減免】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>対象年度</th> <th>件数</th> <th>減免税額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>令和4年度分</td> <td>2件</td> <td>78,000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">令和3年度</td> <td>令和3年度分</td> <td>6件</td> <td>396,700</td> </tr> <tr> <td>令和2年度分</td> <td>2件</td> <td>60,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>◎介護保険料 滞納繰越分</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th rowspan="2">調定額</th> <th rowspan="2">収入済額</th> <th rowspan="2">収納率</th> <th colspan="2">不納欠損</th> </tr> <tr> <th>額</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和4年度</td> <td>13,363,364</td> <td>6,489,622</td> <td>48.6%</td> <td>3,486,042</td> <td>74件</td> </tr> <tr> <td>令和3年度</td> <td>19,181,153</td> <td>8,634,789</td> <td>45.0%</td> <td>2,890,300</td> <td>89件</td> </tr> </tbody> </table>	所得段階	被保険者数	所得段階	被保険者数	第1段階	3,730	第7段階	2,757	第2段階	1,762	第8段階	1,057	第3段階	1,589	第9段階	530	第4段階	2,545	第10段階	198	第5段階	2,361	第11段階	173	第6段階	3,433	合計	20,135	令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	1,344,098,400	1,344,098,400	100.0%	—	—	普通徴収分	119,786,600	113,651,438	94.9%	—	—	合計	1,463,885,000	1,457,749,838	99.6%	—	—	令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	特別徴収分	1,347,858,500	1,347,858,500	100.0%	—	—	普通徴収分	127,155,900	121,347,800	95.4%	—	—	合計	1,475,014,400	1,469,206,300	99.6%	—	—	年度	対象年度	件数	減免税額	令和4年度	令和4年度分	2件	78,000	令和3年度	令和3年度分	6件	396,700	令和2年度分	2件	60,000	年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損		額	件数	令和4年度	13,363,364	6,489,622	48.6%	3,486,042	74件	令和3年度	19,181,153	8,634,789	45.0%	2,890,300	89件
所得段階	被保険者数	所得段階	被保険者数																																																																																																																				
第1段階	3,730	第7段階	2,757																																																																																																																				
第2段階	1,762	第8段階	1,057																																																																																																																				
第3段階	1,589	第9段階	530																																																																																																																				
第4段階	2,545	第10段階	198																																																																																																																				
第5段階	2,361	第11段階	173																																																																																																																				
第6段階	3,433	合計	20,135																																																																																																																				
令和4年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																																			
				額	件数																																																																																																																		
特別徴収分	1,344,098,400	1,344,098,400	100.0%	—	—																																																																																																																		
普通徴収分	119,786,600	113,651,438	94.9%	—	—																																																																																																																		
合計	1,463,885,000	1,457,749,838	99.6%	—	—																																																																																																																		
令和3年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																																			
				額	件数																																																																																																																		
特別徴収分	1,347,858,500	1,347,858,500	100.0%	—	—																																																																																																																		
普通徴収分	127,155,900	121,347,800	95.4%	—	—																																																																																																																		
合計	1,475,014,400	1,469,206,300	99.6%	—	—																																																																																																																		
年度	対象年度	件数	減免税額																																																																																																																				
令和4年度	令和4年度分	2件	78,000																																																																																																																				
令和3年度	令和3年度分	6件	396,700																																																																																																																				
	令和2年度分	2件	60,000																																																																																																																				
年度	調定額	収入済額	収納率	不納欠損																																																																																																																			
				額	件数																																																																																																																		
令和4年度	13,363,364	6,489,622	48.6%	3,486,042	74件																																																																																																																		
令和3年度	19,181,153	8,634,789	45.0%	2,890,300	89件																																																																																																																		
		4,500,000	6,489,622																																																																																																																				

[歳出]

事務事業の概要	事務事業名	総務費（介護）		担当課	高齢介護課			事業区分	ソフト事業	
	会計	介護保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	8001
	予算科目	款	1 総務費		長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心			
		項				施策目標	3 福祉			
		目				基本施策	2 高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進			
目			取組方針	3 介護保険サービスの適切な運営と充実						
事業概要	介護保険制度に基づき、被保険者が介護保険サービスを利用できるよう管理運営を行う事業									
事務事業を構成する細事業	①	一般管理事業			⑤	介護保険事業計画策定事業			⑨	
	②	賦課徴収事業			⑥				⑩	
	③	介護認定審査会運営事業			⑦				⑪	
	④	認定調査事業			⑧				⑫	
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析	
	成果指標	介護保険料収納率	目標	96.8	96.8	96.8	96.8	96.8	保険料収納率は計画値に比べて大幅に増加した。口座振替の推奨や、適正な督促状・催告書の発送、また、滞納処分強化等により収納率が増加したと考えられる。	
			実績	98.4	98.9	99.1				
	<指標の計算方法>		特別徴収・普通徴収・滞納繰越分の合計収納率							
	活動指標	要介護認定者数	目標	5,157	5,135	4,660	4,703	4,690	要介護認定者数については、目標値と比べて96.3%とほぼ目標値どおりであった。被保険者数はほぼ横ばいで推移しているが、認定者数はここ数年減少傾向にある。しかし、要介護度を見ると重度化している傾向にある。	
			実績	4,514	4,507	4,436				
	<指標の計算方法>		各年度末認定者数							
	活動指標	要介護認定審査会	目標	190	190	190	190	190	要介護認定審査会の開催回数は計画値に比べ大幅に減少した。国における「新型コロナウイルス感染症に係る臨時的取扱い」により審査を行わず有効期間延長の適用を申し出した申請者が増加し、審査会の開催回数が減少したことが要因である。	
			実績	141	118	108				
	<指標の計算方法>		認定審査会の開催回数							
		目標								
		実績								
<指標の計算方法>										
コストの実績	R 4年度決算額 (単位：千円)			財源内訳						
	96,129			国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源	96,129
事業の実績	①一般管理事業 被保険者の状況（令和5年3月末現在） 65歳以上75歳未満 9,327人 75歳以上85歳未満 6,982人 85歳以上 3,826人 うち外国人被保険者 32人 うち住所地特例被保険者 116人 合計 20,135人			・要介護（要支援）認定者数 第1号被保険者 第2号被保険者 要支援1 602人 7人 要支援2 725人 9人 要介護1 836人 12人 要介護2 648人 13人 要介護3 616人 15人 要介護4 607人 6人 要介護5 327人 13人 小計 4,361人 75人 合計 4,436人			・策定委員会実施回数 2回 ・策定委員会協議等内容 高齢者実態調査の実施、結果報告 等			
	②賦課徴収事業 ・介護保険料の過誤納による還付金 還付件数 364件 ・介護保険料の過誤納による還付加算金 加算件数 0件			④認定調査事業 認定調査件数 3,290件						
	③介護認定審査会運営事業 ・介護認定審査会の開催 審査回数 108回 審査件数 3,307件			⑤介護保険事業計画等策定事業 第9期介護保険事業計画（令和6～9年度） ・策定委員数 16人						
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない							
		・介護保険法等により市に義務付けられた事業であり、妥当である。								
	有効性	評価結果	改善の余地がない							
・指標の性質上、目標値は介護保険事業計画における計画数値である。 ・介護保険財源の確保、公正な要介護認定を行い、介護保険制度の円滑かつ適正な運営を図ることで、適正な介護サービスを提供する事業である。										
効率性	評価結果	改善の余地がない								
	・業務の一部を委託している。									

事務事業の概要	事務事業名	保険給付費（介護）		担当課	高齢介護課			事業区分	ソフト事業		
	会計	介護保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号	8002	
	予算科目	款	項	目	長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心				
						施策目標	3 福祉				
						基本施策	2 高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進				
取組方針	3 介護保険サービスの適切な運営と充実										
事業概要	介護保険制度に基づき、被保険者が介護保険サービスを利用できるよう管理運営を行う事業										
事務事業を構成する細事業	①	居宅介護（予防）サービス等給付事業			⑤	特定入所者介護（予防）サービス等事業			⑨		
	②	地域密着型介護（予防）サービス給付事業			⑥				⑩		
	③	施設介護サービス給付事業			⑦				⑪		
	④	高額介護（予防）サービス等事業			⑧				⑫		
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	第1号被保険者数	人	目標	19,958	19,992	19,998	20,023	19,942	これまで増加が継続してきたが、今年度は前年度と比較し減少となった。第1号被保険者は2025年度（R7年度）まで増加すると推計しているが、R4年度は若干の社会増が見られたが、自然減が大きく上回り減少となった。	
				実績	20,148	20,242	20,135				
	<指標の計算方法>		65歳以上・住所地特例者含む（目標値は計画数値）								
	活動指標	居宅介護（介護予防）サービス受給者数	人	目標	31,152	31,775	28,260	28,404	28,548	前年度と比較し、大きな変化はなかったが、目標値を達成できなかった。新型コロナウイルス感染症により、介護予防が計画通り進まず、介護度が重度化したことが要因と考えられる。	
				実績	28,053	28,782	28,798				
	<指標の計算方法>		第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）								
	活動指標	施設介護サービス受給者数	件	目標	8,844	9,020	8,268	8,628	8,688	新型コロナウイルス感染症の影響を最も受けにくいサービスであり、前年度と比較し、大きな変化はなかった。	
				実績	7,845	8,133	8,160				
	<指標の計算方法>		第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）								
活動指標	地域密着型介護（介護予防）サービス受給者数	件	目標	5,856	5,973	4,956	4,968	4,827	前年度と比較し、減少した。新型コロナウイルス感染症により、通所介護サービス等の利用控えが要因と考えられる。		
			実績	4,783	4,659	4,536					
<指標の計算方法>		第1号・第2号被保険者合計（目標値は計画数値）									
コストの実績	R 4年度決算額 （単位：千円）			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他	一般財源		
			6,461,532	1,580,457	955,625			1,726,569	2,198,881		
事業の実績	①居宅介護（予防）サービス等給付事業 訪問介護サービスや通所介護サービスなど居宅において利用するサービスへの給付を行う 要支援者 5,001人 要介護者 23,797人 合計 28,798人			③施設介護サービス給付事業 介護保険施設において利用するサービスへの給付を行う 介護老人福祉施設 5,773人 介護老人保健施設 1,873人 介護療養型医療施設 43人 介護医療院 475人			⑤特定入所者介護（予防）サービス等事業 低所得者が施設利用したときに居住費等・食費の利用負担が限度額を超えた分への給付を行う 【食費】 介護老人福祉施設 3,812件 介護老人保健施設 1,002件 介護療養型医療施設 7件 介護医療院 236件 地域密着型介護老人福祉施設 183件 短期入所生活・療養介護 1,173件 【居住費】 介護老人福祉施設 3,849件 介護老人保健施設 1,009件 介護療養型医療施設 0件 介護医療院 239件 地域密着型介護老人福祉施設 183件 短期入所生活・療養介護 1,213件				
	②地域密着型介護（予防）サービス給付事業 地域密着型事業所等を利用するサービスへの給付を行う 要支援者 0人 要介護者 4,536人 合計 4,536人			④高額介護（予防）サービス等事業 利用した介護サービス費用が基準を超えた分について利用者に給付を行う 高額介護（予防）サービス 12,875件 高額医療合算介護（予防）サービス 907件							
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
		・介護保険法第3条の規定により、市が行う事業であり妥当である。 ・介護保険法の規定に基づき、介護給付の対象者及びサービス等は全国で同じである。									
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため、適正に実施している。 ・高齢者人口は増加しているが、介護サービス受給者や介護給付費はほぼ横ばいである。今後も制度の持続性を高める視点からサービス利用の適正化が求められている。 ・介護サービスを利用することで、利用者がより自立性を高めた生活を送ることができる。											
効率性	評価結果	改善の余地がない									
	・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため、適正に実施している。 ・制度の趣旨の普及やケアプラン点検等の介護給付費適正化事業を継続的に実施していく。										

事務事業の概要	事務事業名	地域支援事業費（介護）		担当課	高齢介護課		事業区分	ソフト事業			
	会計	介護保険事業勘定特別会計		新規・継続	継続	事業期間	単年度繰返し		事業番号		
	予算科目	款	4	地域支援事業費	長期総合計画体系	政策目標	1 安全・安心		8004		
						実施目標	3 福祉				
目	基本施策	2 高齢者へのサービス充実と健康づくりの推進									
目	取組方針	3 介護保険サービスの適切な運営と充実									
事業概要	被保険者が、要介護状態等になることを予防し、社会に参加しつつ、地域において自立した日常生活を営むことができるよう支援する事業										
事務事業を構成する細事業	①	介護予防・生活支援サービス事業		⑤	地域リハビリテーション活動支援事業		⑨				
	②	介護予防ケアマネジメント事業		⑥	介護予防把握事業		⑩				
	③	介護予防普及啓発事業		⑦	包括的支援事業		⑪				
	④	地域介護予防活動支援事業		⑧	任意事業		⑫				
指標の実績	指標名		単位	R 2年度	R 3年度	R 4年度	R 5年度	R 6年度	指標の分析		
	活動指標	要介護（要支援）認定率	目標	23	23	23	23	23		要介護（要支援）の認定率は、30年度まではほぼ横ばいであったが、R1年度より減少傾向となっている。介護予防の取組の効果が現れているとの見方もできるが、長期的に経過を見ていく必要がある。	
			実績	22	21.9	21.7					
	<指標の計算方法>		要介護（要支援）認定者÷第1号被保険者数（65歳以上）								
	活動指標	紀の川歩（てくてく）体操活動拠点数	目標	95	105	115	120	120			新型コロナウイルス感染症拡大防止により活動自粛が長期化し、体操活動拠点2カ所が廃止となった。活動再開により体験会等開催し新規立ち上げに繋がりたいと考えている。
			実績	91	93	91					
<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点数									
活動指標	フレイルチェック実施回数	目標	115	125	135	145	145	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら、体操活動拠点やイベント等でフレイルチェック事業を再開し、フレイル予防の周知をしていく。			
		実績	0	0	23						
<指標の計算方法>		紀の川歩（てくてく）体操活動拠点等においてフレイルチェックを実施した回数									
活動指標	認知症サポーター数	目標	3,200	4,700	5,200	5,700	6,200		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を取りながら講座開催を実施し、市民や市内中学校・事業所等の協力によりサポーター数を増やすことができた。		
		実績	4,052	4,669	5,497						
<指標の計算方法>		認知症サポーター養成講座参加者累計人数									
コストの実績	R 4年度決算額（単位：千円）			財源内訳							
				国庫支出金	県支出金	地方債	繰入金	その他		一般財源	
	319,825			122,364	51,029			65,618		80,814	
事業の実績	①介護予防・生活支援サービス事業		・てくてく体操延べ参加人数…2,374人		・専門職（PT等）派遣回数…365回		・フレイルサポーター登録者数…82人		生活支援体制整備事業の実施		
	②介護予防ケアマネジメント事業…2,478件		⑥介護予防把握事業		・基本チェックリスト回答者数…7,249人		・回答率…55.9%		⑧任意事業		
	③介護予防普及啓発事業		・予防教室等開催数…171回		・予防教室等延べ参加人数…2,074人		・通所型予防教室開催数、延べ参加人数…3箇所/年15回開催、140人		紙おむつ購入助成事業の実施		
	④地域介護予防活動支援事業		・介護予防自主活動支援…32箇所/112回/延べ1,080人		・フォローアップ教室開催数、実参加人数…5箇所/年5回開催、122人		⑦包括的支援事業		・交付数（要介護1・2）…265人		
	⑤地域リハビリテーション活動支援事業		・地域包括支援センターの運営		・総合相談支援事業…6,086件		・権利擁護事業…746件		・実施回数…29回/参加人数…17人		
事業の事後評価	妥当性	評価結果	改善の余地がない								
	有効性	評価結果	改善の余地がない								
		・介護保険法等により市に義務付けられた事業であるため適正に実施している。 ・リハビリ専門職と連携し考案した「紀の川歩（てくてく）体操」を、市内各活動拠点で実施し、自主的活動への拠点創設・継続に対する支援により、要介護状態への移行を遅らすことで、自立支援、重度化防止に有効であり、自立状態を継続できる地域資源として周知し活用を促進している。 ・本年度においても、新型コロナウイルス感染症の影響による身体活動等の低下を防ぐため、広報等により自発的なフレイル予防を中心に積極的な情報発信をした。また昨年度に引き続き、民間事業者との連携による生活支援や見守り等、地域に向け多様な取組を行い、有効性を高めた。 ・認知症の人が住み慣れた地域で安心して暮らすために、認知症サポーターをはじめとする重層的支援が有効である。									
効率性	評価結果	改善の余地がない									
・介護保険法等により市に義務付けられている事業であるため適正に実施している。 ・要介護（要支援）認定率の低下と介護保険給付費の抑制を目指し、地域ボランティア（フレイルサポーター等）を育成することで、ボランティアを中心に、市民が自ら主体となり、積極的に介護予防、健康づくり活動を実践しているため効率性は高い。											

財産区特別会計

[歳入・歳出]

(単位：円)

財産区名	担当課	歳入総額	歳出総額	事業等実施内容																		
池田財産区	林務課	5,349,076	2,556,483	<p>◎ 歳入の主なものとは土地賃貸料及び採掘権収入。歳出では財産区台帳整理のための一般会計への繰出金及び地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人 (ほか取締役1人、看守人1人)</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>6回管理会開催 (巡視2回)</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>421件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>867.9</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>神領会館ペランダ防水修繕工事への補助金</td> </tr> <tr> <td>有害鳥獣防除補助金</td> <td>猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人 (ほか取締役1人、看守人1人)	管理会開催数 (その他活動数)	6回管理会開催 (巡視2回)	財産貸付件数	421件	保有面積 (ha)	867.9	地域活動事業補助金	神領会館ペランダ防水修繕工事への補助金	有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金				
事業等	内 容																					
管理会委員数	7人 (ほか取締役1人、看守人1人)																					
管理会開催数 (その他活動数)	6回管理会開催 (巡視2回)																					
財産貸付件数	421件																					
保有面積 (ha)	867.9																					
地域活動事業補助金	神領会館ペランダ防水修繕工事への補助金																					
有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金																					
田中財産区	林務課	3,560,343	2,432,976	<p>◎ 歳入の主なものとは土地賃貸料。歳出では財産区台帳整理のための一般会計への繰出金及び森林保育委託費です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人 (ほか取締役1人、看守人1人)</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>4回管理会開催 (巡視2回)</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>85件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>250.0</td> </tr> <tr> <td>森林保育委託事業</td> <td>伐採・下刈り業務</td> </tr> <tr> <td>支障木伐採委託事業</td> <td>五百谷地内区有林伐採処理業務他1件</td> </tr> <tr> <td>倒木処理委託事業</td> <td>遠方付近倒木処理業務</td> </tr> <tr> <td>有害鳥獣防除補助金</td> <td>猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人 (ほか取締役1人、看守人1人)	管理会開催数 (その他活動数)	4回管理会開催 (巡視2回)	財産貸付件数	85件	保有面積 (ha)	250.0	森林保育委託事業	伐採・下刈り業務	支障木伐採委託事業	五百谷地内区有林伐採処理業務他1件	倒木処理委託事業	遠方付近倒木処理業務	有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金
事業等	内 容																					
管理会委員数	7人 (ほか取締役1人、看守人1人)																					
管理会開催数 (その他活動数)	4回管理会開催 (巡視2回)																					
財産貸付件数	85件																					
保有面積 (ha)	250.0																					
森林保育委託事業	伐採・下刈り業務																					
支障木伐採委託事業	五百谷地内区有林伐採処理業務他1件																					
倒木処理委託事業	遠方付近倒木処理業務																					
有害鳥獣防除補助金	猟友会紀の川市総合分会打田分会への補助金																					
長田竜門財産区	林務課	705,613	705,144	<p>◎ 歳入の主なものとは土地賃貸料。歳出では地域活動事業補助金です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>35件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>114.7</td> </tr> <tr> <td>地域活動事業補助金</td> <td>長田竜門6ヶ字区有山管理事業</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	6人	管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	35件	保有面積 (ha)	114.7	地域活動事業補助金	長田竜門6ヶ字区有山管理事業						
事業等	内 容																					
管理会委員数	6人																					
管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催																					
財産貸付件数	35件																					
保有面積 (ha)	114.7																					
地域活動事業補助金	長田竜門6ヶ字区有山管理事業																					
竜門財産区	林務課	68,859	33,680	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>6件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>192.2</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	6件	保有面積 (ha)	192.2								
事業等	内 容																					
管理会委員数	7人																					
管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催																					
財産貸付件数	6件																					
保有面積 (ha)	192.2																					
南北志野財産区	林務課	293,752	26,818	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>27件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>61.8</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	27件	保有面積 (ha)	61.8								
事業等	内 容																					
管理会委員数	7人																					
管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催																					
財産貸付件数	27件																					
保有面積 (ha)	61.8																					
飯盛財産区	林務課	38,951	14,848	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>6人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>2件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>163.5</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	6人	管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	2件	保有面積 (ha)	163.5								
事業等	内 容																					
管理会委員数	6人																					
管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催																					
財産貸付件数	2件																					
保有面積 (ha)	163.5																					
静川財産区	林務課	339,580	77,284	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>3回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>13件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>45.0</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数 (その他活動数)	3回管理会開催	財産貸付件数	13件	保有面積 (ha)	45.0								
事業等	内 容																					
管理会委員数	7人																					
管理会開催数 (その他活動数)	3回管理会開催																					
財産貸付件数	13件																					
保有面積 (ha)	45.0																					
最上、神田、市場、元財産区	林務課	703,394	448,526	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>188.5</td> </tr> <tr> <td>倒木処理委託事業</td> <td>桃山町神田地内倒木処理業務</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催	保有面積 (ha)	188.5	倒木処理委託事業	桃山町神田地内倒木処理業務								
事業等	内 容																					
管理会委員数	7人																					
管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催																					
保有面積 (ha)	188.5																					
倒木処理委託事業	桃山町神田地内倒木処理業務																					

財産区名	担当課	歳入総額	歳出総額	事業等実施内容												
調月財産区	林務課	260,875	230,026	<p>◎ 主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>38.3</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催	保有面積 (ha)	38.3				
事業等	内 容															
管理会委員数	7人															
管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催															
保有面積 (ha)	38.3															
丸栖財産区	林務課	915,683	446,876	<p>◎ 歳入の主なものは土地賃貸料。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>23.9</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	1件	保有面積 (ha)	23.9		
事業等	内 容															
管理会委員数	7人															
管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催															
財産貸付件数	1件															
保有面積 (ha)	23.9															
平池財産区	林務課	1,328,512	893,316	<p>◎ 歳入の主なものは土地賃貸料。歳出では平池雑草等刈取委託料です。主な事業内容等は次のとおりです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業等</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>管理会委員数</td> <td>7人</td> </tr> <tr> <td>管理会開催数 (その他活動数)</td> <td>2回管理会開催</td> </tr> <tr> <td>財産貸付件数</td> <td>1件</td> </tr> <tr> <td>保有面積 (ha)</td> <td>11.2</td> </tr> <tr> <td>雑草等刈取委託事業</td> <td>平池堤防草刈り</td> </tr> </tbody> </table>	事業等	内 容	管理会委員数	7人	管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催	財産貸付件数	1件	保有面積 (ha)	11.2	雑草等刈取委託事業	平池堤防草刈り
事業等	内 容															
管理会委員数	7人															
管理会開催数 (その他活動数)	2回管理会開催															
財産貸付件数	1件															
保有面積 (ha)	11.2															
雑草等刈取委託事業	平池堤防草刈り															